



Title	第二言語としての日本語の受身文の習得研究 一視点に着目して一
Author(s)	李, 偉
Citation	大阪大学, 2018, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/69643
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

博士論文

題目 第二言語としての日本語
の受身文の習得研究
—視点に着目して—

提出年月 2017年12月

言語文化研究科 日本語日本文化専攻

氏名 李偉

要旨

1. 研究の背景と目的

本研究は、中国語を母語とする中・上級日本語学習者を対象に、視点に着目して、文脈依存性の高い日本語の受身文の習得実態と関わりのある要因を明らかにしようとした実証研究である。

日本語の受身文を既に学んだ中・上級学習者でも日本語の言語内知識不足による文法上の誤りのほか、「田中さんはテストで悪い点数をとった。成績をお母さんに見せた。お母さんは彼を叱った。(→お母さんに叱られた)」のように文法的には正しいものの、自然な日本語の観点から考えると、それは、受身文の使用による視点の統一が理解されていないためであると考えられる。本稿では、それを学習者の理解レベルと産出レベルから探ろうとするものである。

受身文に関しては、様々な角度から研究されてきている。受身文指導法への視点導入の必要性も多くの研究報告で指摘されてはいるものの、中国の大学で日本語を学習している学習者を想定して、具体的に何をどの時点でどのように導入したら良いのか、そのような角度から進めた、視点に着目した日本語の受身文の習得研究は、管見の限り非常に少ないようである。

2. 研究の内容と方法

上述した問題意識を抱き、目的遂行のために、以下の①日本語中国語双方向の対訳データの調査、②質問紙調査（理解レベルを測る文法選択・翻訳テストと産出レベル測定する短文完成テストに分けて）、③インタビュー、④中国で出版されている日本語教科書の調査、という四つの研究方法で三つの課題を検討した。

中日視点の差異、とりわけ受身の出現位置と視点との関係（課題1）に関して、日本語中国語双方向の小説から1411対の対訳データを収集し、受身表現の使用について日中の訳語の比較を行った。両言語で受身形を使うものをタイプ1（日本語○中国語○）とし、日本語では受身を使うが中国語で使わないものをタイプ2（日本語○中国語×）、中国語でのみ受身を使うものをタイプ3（日本語×中国語○）とし、3種類に分けて分析を行った（第4章）。

学習者がどのように理解され、どのように産出されているか（課題2）を解明するために、質問紙による文法テスト（文法選択・翻訳テストと短文完成テストから構成されている）とインタビューの二つの調査を実施し、141人分の質問紙回答データを収集した。質問紙の回答理由と判断基準に関して、調査協力者5名を対象に、インタビューを行った（6章）。

質問紙の回答に見られた中間言語的な表現は、中国での現行の日本語教科書における受身文の導入方法と、どのような関わりがあるか、視点の観点からどのように工夫できるか（課題 3）に関して、最近（2005 年～2015 年）中国で出版された大学生向けの日本語教科書 5 種類計 18 冊を対象にして、受身文の提示方法、提示内容、視点との関わりについて整理し、考察を加えた（第 7 章）。

3. 調査結果と考察

本研究を通して、明らかになったことを上述した課題の順にまとめる。

まず、日本語中国語双方向の小説から収集したデータの分析に基づいて、受身の出現位置と視点との関わりに関して、以下の 2 点が明らかになった。

(1) タイプ 1、タイプ 2、タイプ 3 それぞれのデータ数の整理から、日本語の受身文の使用範囲は中国より広い傾向にある、という先行研究（森田 2002、王 2009 等）での指摘を裏付けていると言えるだろう。中国語の表現の方は動作主あるいは変化の主体を主語の位置に立てて、完全文で単独に事実を記述する傾向がある。日本語の方は文脈の情報に依存して、受身文の使用、とりわけ連用修飾節に出現した受身の使用により、視点が統一される傾向が窺われた。

(2) 日本語中国語双方向の小説の対訳データの調査から、使用率の多い日本語の受身の出現位置は順に、連用修飾節、連体修飾節、複文末、単文末、引用節、疑問節となっていることが分かった。双方向の対訳データには上述した使用傾向が見られた。連用修飾節に出現した受身は今回の調査データの全体の 4 割ぐらゐを占めたが、これは前田（2011）の調査結果とほぼ一致している。受身が従属節と主節の視点を一貫させる役割が連用修飾節の述語になることを示していると考えられる。

そして、質問紙の回答から見られた学習者の中間言語的な表現の出現要因に関しては、以下の 4 点が明らかになった。

(1) 理解レベルでの日本語の受身形の習得が完璧でない場合に、中国人学習者が日本語の受身文を習得していく際に、母語である中国語から影響を受けているというより、日本語の言語内知識が不十分であること、具体的に、文脈依存性の高い日本語受身文を使いこなすために必要な知識とされている視点の捉え方、視点の統一が習得されていないこと根本的な原因の一つであると言えそうである。インタビューの結果を組み合わせ考察した結果、学習者が、理解レベルと産出レベルそれぞれのテストで正しく回答できても、必ずしも視点と受身文使用との関わりを正確に理解できているとは限らないことも明らかになった。院

生レベルになっても視点の統一が習得できていない事例も見受けられた。さらに、受身文の使用による視点の統一と既述した内容の省略と混同している回答も見受けられた。

(2) 文法選択テストの中国語訳の回答から、母語である中国語で日本語の設問文で述べている事例を正確に理解できても、必ずしも文法選択テストで正しく選択できるとは限らないことが示された。中国語は事実志向が強い言語であるとされているが、中国人の日本語学習者にとって、それなりの主語の立て方あるいは視点の捉え方が生じやすいと考えられる。中国語の視点の概念から影響を受けて、中国語の受身表現に関する基礎的な文法知識がないまま母語（中国語）に翻訳しながら、日本語の動詞が受身にできるかどうか、さらに受身文を使用すべきかどうか、ということ判断する傾向が見受けられた。

(3) 連用修飾節に出現した受身の使用による視点の統一、単文末に出現した受身、連体修飾節に出現した受身の使用による視点の捉え方に関しては、文法選択テストで正しく選択できても、必ずしも視点の角度から日本語の受身文を習得できているとはいえないことがインタビュー調査からも明らかになった。日本語は「視点優位」の言語で、客観事実をどう捉えるか、どのような影響が自分にあったかという観点から述べる表現に重点を置いている話者中心の言語であると思われる。それに対し、中国語は事実志向が強い言語とされていて、意味的に客観的な事実・現実の結果を述べることに重点を置いているとされる。学習者は、日本語の受身文を習得する際に、日中両言語の差異に影響を受けている可能性がある。

(4) 短文完成テストの回答から、活用ミス、ヴォイスの選択、文脈情報への配慮の不十分等の中間言語的な回答が見受けられた。活用ミスに関して受身の活用規則と使役受身の活用規則を混同している傾向が認められた。また、場面依存性の高い日本語の受身文を習得する際に、文脈情報を読み取りながら受身使用を判断することが困難ではないかと考えている。日本語では、話者が行為者であるときには能動文、行為の受け手であるときには受身文が使われやすい傾向にある。しかし、中国語ではそのような視点の制約を受けないため、必ずしも話者を主語の位置に立てて事態を述べるとは限らない。その場合、動作主あるいは変化の主体を主語にして把握するほうがより理解しやすいと考えられる。それは、複数の登場人物を立てて事態を述べる傾向があることは上述したことの現れであろう。さらに、それは、視点の統一が習得されにくい根本的な原因の一つかもしれない。

また、質問紙調査で見られた中間言語的な表現は、中国での現行の日本語教科書の受身導入方法と視点とのつながりに関して、以下の4点が明らかになった。

(1) 日本語の受身文の提示に関しては、すべての文型と用法を、初級の後半で一括して体

系的に導入する傾向が強い。

(2) 例文の提示に関して、単文末に出現した受身の例文数が最も多いが、場面や登場人物などの文脈情報の補足説明が少ない。使用された例文の文体も書き言葉の例は圧倒的に多い。会話文を積極的に取り入れる教科書は『新総合日本語基礎日語』にしか見受けられなかった。

(3) 提示内容に関して、受身文の解説の部分で視点が言及されている教科書は、『総合日語』しか見当たらなかった。連用修飾節に出現した受身の例が提示されているにもかかわらず、受身文の使用による視点の統一規則に関する解説は教科書にも記載されていない。ほかの出現位置からみた視点の捉え方と視点の置かれやすさの階層の内容に言及されていない。

(4) 解釈の仕方に関して、能動文との対応性の角度からの解説、誤用分析あるいは中間言語分析の角度からの解説があったが、日中両言語の視点の相違をめぐる説明は見受けられなかった。

4. 日本語教育への提言と今後の課題

上述した調査結果とその考察に基づいて、今後の中国人学習者を対象とする日本語の受身文の指導に関して、次のような提言を行いたい。

従来の一括して導入されてきた日本語の受身文を解体し、理解レベルと産出レベルに分けて、学習段階別に、解釈を行うことを主張したい。具体的に、初級後半では、単文末（文脈なし）、単文末（文脈あり）出現した受身を教え、最初の導入で日本語の話者中心の視点的な特徴を伝える。中級段階では、連用修飾節、連体修飾節、複文末に出現した受身の例文を提示しながら、視点の統一、中日視点の差異（主語の立て方）、視点の置かれやすさの階層等の学習内容を学習者に提供する。引用節、疑問節に関しては、理解レベルでの習得を目指すことにし、使いこなせるようにするのは上級に回すことを提案したい。

視点概念の差異をめぐる日中比較対照、受身の出現位置と視点との関わり、〈被影響〉という受身の意味的な内実、受身文に潜んでいる日本語文法的発想を考慮に入れて、自然な日本語指導の立場から、視点に着目した、中国人日本語学習者向けの、文脈依存性の高い受身文の指導の仕方を工夫する必要があると考えている。

最後に、視点に着目した日本語の受身文に関する指導上の留意点をさらに深く議論するためには、「場所の言語学」理論（岡 2013）を視野に入れた考察、大規模なコーパスによる受身出現位置に関する詳細な検証を行う必要があると考えているが、それに関しては、今後の課題とする。

摘要

1. 研究背景及目的

本论文是以视点问题为切入点的实证研究，尝试明确阐述汉语母语中高级日语学习者在语境依赖性较强的日语被动句的方面的习得现状，并对相关的影响因素进行分析。

汉语母语的中高级日语学习者在初级阶段后期已经学习过日语被动句，但是除了观察到由于日语知识不足出现的语法偏误之外，还注意到存在很多“Tanakasann ha tesuto de warui tennsuu wo totta.seiseki wo okaasann ni miseta.kaasann ha kare wo sikatta.(→okaasann ni sikarareta.)”那样的例文，虽然语法正确，但是表达不地道。我们认为出现这些中间语言的原因是学习者未能掌握通过使用日语被动句能够实现视点统一这一规则。因此，本研究从理解层面和输出层面来研究学习者的习得情况。

诸多文献围绕日语被动句从多个角度进行了研究。不少文献指出了将视点引入日语被动句教学的必要性，但是，具体应当在什么阶段引入视点的什么内容，应该以何种方式讲授视点呢。并没有提及具体的解决方案。根据我们掌握的资料来看，以视点为研究切入点来探讨汉语母语学习者日语被动句的习得的研究数量极少。

2. 研究内容与方法

以上述的研究缘起为契机，为了践行本研究的目的，本篇论文选用汉日日汉双向对译语料的对照比较、语法测试（分为考察理解层面习得情况的语法选择-翻译测试和考察输出层面习得情况的填写短句测试）、访谈法、中国出版的日语教材调查等4种方法对3个课题进行了研究。

本论文（第4章）根据被动出现的情况（出现被动的标记为○，没有出现被动的标记为×）将从汉日日汉双向对译语料中收集的1411对语料，分成第1类（日文○中文○）、第2类（日文○中文×）、第3类（日文○中文×）三大类，梳理了语料中的被动使用现状，并且从视点差异，特别是从日语被动出现的位置与视点的关系（课题1）角度进行了探讨。

本论文（第6章）从理解层面和输出层面调查了汉语母语学习者的日语被动句习得现状（课题2）。具体来说，通过语法选择-翻译测试考察了理解层面的习得情况，通过填写短句测试考察了输出层面的习得情况。通过测试，收集到了来自中国北方的两所重点大学的141名学习者的有效回答，并且在测试结束后与5名学习者进行了访谈。

问卷中观察到的中间语言表达与中国现行的日语教材中的日语被动句导入方式有着怎样的关联，又从视点角度进行了怎样的讲解呢（课题3）。本论文（第7章）调查了2005年至

2015年在中国出版的5类合计18册日语教材,对日语被动句的导入方法和讲解角度、例句选用情况、以及日语被动句与视点相关的讲述情况进行了分析梳理和归纳。

3. 调查结果及分析

下面按照课题的提出顺序,对本论文的调查结果和分析结论进行汇总。

首先,围绕日语被动的出现位置和视点的关系,得出了以下2点结论。

(1)通过对3类汉日日汉双向对译语料的梳理,得出了日语被动句使用范围大于汉语被动句的结论。这一结果同时佐证了森田(2002)、王(2009)等文献的相关论述。另外,汉语表达倾向于使用较为完整的句子对客观事实进行独立的表述,并且倾向于把动作主体或者变化的主体放在主语位置对事件进行把握。日语表达则对语境有着较强的依赖性,有通过使用被动句,特别是出现在状语(“连用修饰”)部分的情况,实现上下文视点的统一的倾向。

(2)通过调查,发现日语“受身”的出现位置在汉日日汉对译语料均存在同样的使用倾向。具体来说,按照使用频率从高到低依次为状语成分(“rennyousyuusyokusetsu”)、定语成分(“renntaisyuusyokusetsu”)、复句句尾(“fukubunmatsu”)、单句句尾(“tannbunmatsu”)、引用成分(“inyousetsu”)、疑问成分(“gimonsetsu”)。这一结果与前田(2011)的调查结论大致吻合。佐证了当日语“受身”出现在状语位置时,有着实现主句从句视点统一的功能这一结论。

其次,通过对语法测试中出现的中间语言表达的出现原因的分析,得出了以下4点结论。

(1)与来自母语(汉语)的干扰相比,日语本身知识的不足更大程度地影响学习者对日语被动句理解层面的习得。我们认为,由于未能掌握日语视点的设定特点和视点的统一规则这些运用日语被动句的这些知识,影响了学习者对语境依赖性较强的日语被动句方面的理解。通过访谈发现学习者即使到了研究生阶段仍然没认识到视点统一与日语被动句的关系的重要性。也就是部分学习者虽然能正确回答问卷,但是未能从视点角度理解为什么要使用日语被动句。还有部分学习者混淆了视点统一与避免赘述的省略。

(2)从语法选择-翻译测试中的汉译部分的回答我们发现,不少学习者虽然能够使用母语(汉语)正确理解日语测试题目描述的事件,却未能做出正确的选择回答。我们认为,这主要是因为学习者在判断主语和确立表述视点时容易受到了汉语事实描述较强的特点的影响。另外,我们还注意到部分学习者存在以下倾向,即在对汉语被动句相关基础知识认识不足的情况下单凭汉语理解(汉译表达)来判断日语动词能否进行相应活用变形,进而判断句子整体是否要用被动态来表述。

(3)学习者虽然能够正确回答语法选择测试部分的问题,但是可能未能从视点角度真正习得

日语被动句。对于出现在状语位置“rennyousyuusyokusetu”时能够实现实现视点的统一，出现在单句句尾“tannbunmatsu”位置和定语“rennyousyuusyokusetu”位置是能够体现视点所在等等。日语是视点优先的以说话人为中心的语言，关注的是如何把握客观事实、自己会受到怎样的影响。汉语是事实描述性强的语言，关注的是如何把握客观事实，如何表述现实的结果。我们认为，学习者在习得日语被动句时受到了上述来自汉日视点差异的影响。

(4) 在填写短句的回答过程中，观察到了活用形变形、语态选择、对语境信息判断不足等中间语言表达。我们认为，这主要是由于学习者在习得语境依赖性较强的日语被动句过程中，在根据语境信息判断语态方面遇到了困难所导致的。在日语中，当说话人是施事方时，一般倾向使用主动句表达，当说人是受事方是一般倾向使用日语被动句。但是，汉语中基本不存在上述的视点规则制约。在汉语中，一般来说把动作主体或者变化主体放在主语位置表述更容易把握事件。并不一定要把说话人放在主语位置。因此，会出现以多个出场人物为主语描述事件的倾向。这一特点大概是学习者在判断是否该使用日语被动句，特别是在把握日语被动句与视点统一关联的时候容易遇到困难的根本原因之一。

再者，在测试中观察到的中间语言表达与中国现行日语教材中日语被动句的导入方式、选用例句以及讲解角度有着怎样的关联呢，有没有从视点角度讲解日语被动句呢。通过对教材的梳理和研究，得出了以下4点结论。

(1) 中国的日语教材倾向于在导入阶段把日语被动句的语言形式以句型的方式系统性地讲授给学习者。

(2) 从“受身”的出现位置来看单句句尾“tannbunmatsu”的例句出现的最多，相应的场景和人物说明等语境信息有待进行补充。选用的例句从语体方面来看书面语的例句占绝大多数。仅在《新综合日本语基础日语》中观察到了会话体的例句。

(3) 从解释方法来看，仅在《综合日语》中观察到了从视点角度对日语被动句的讲解，但是只是从与主动句对应关系角度简单介绍了中日视点的不同。整体上看，即使把出现“受身”在状语位置的例句，也并没有涉及到日语被动句使用与视点统一的关系。再者，出现在其他位置的日语被动句例句讲解也没有提到易于视点设定的层级方面的内容。

(4) 讲解角度方面，从与主动句对应关系方面展开的居多，也有教材从误用分析和中间语言分析角度对日语被动句进行了阐释。但是，没有观察到围绕汉日视点差异的说明。

4. 对今后日语被动句教学的提议和研究展望

基于调查结果和相关分析结论，现对今后面向汉语母学习者的日语被动句教学提出如下建议。

将一直以来系统性导入的日语被动句分开,从理解层面和输出层面考虑,按照学习阶段进行相应讲解。具体来说,建议在初级后期依次讲解不含语境信息的出现在单句句尾“tannbunmatsu”、含有语境信息的出现在单句句尾“tannbunmatsu”的日语被动句,并且在导入时就介绍日语以说话人为中心的视点特征。进入中级阶段后,引入出现在状语“rennyousyuusyokusetsu”、定语“renntasyuusyokusetsu”、复句句尾“hukubunmatsu”的日语被动句,并讲授视点统一、汉日视点差异(主语设定方法)、易于视点设定的层级等内容。学习者在理解层面习得出现在引用成分“yinyousetsu”和疑问成分“gimonsetsu”的日语被动语言形式即可,输出层面的习得可以安排在高级阶段。

总结一下,我们认为,应当将围绕视点差异的汉日比较对照分析、日语被动出现位置与视点的关系、受影响的日语被动句语义上的内涵、以及隐藏在日语被动句的日语语法构成机制引入现行的中国日语被动句教学实践中,以视点为切入点,以习得地道的日语为目标,向汉语母语者教授语境依赖性较强的日语被动句。

我们希望将来能够将场所语言学理论“ba no genngogaku”(oka2013)引入从视点角度对日语被动句教学的难点问题的探讨。并且尝试使用大型语料库对于日语被动的出现位置的特征和使用倾向进行更加详尽的调查和研究。

目次

第1章 はじめに	1
1.1 問題提起	1
1.2 研究背景	5
1.3 本論文の構成	6
第2章 先行研究と本研究の位置づけ	9
2.1 先行研究のまとめ	9
2.1.1 全体的研究動向	9
2.1.1.1 日本語の受身文についての先行研究	9
2.1.1.2 中国語の受身の研究	13
2.1.1.3 中日対照研究	15
2.1.1.4 中国語母語話者による日本語の受身の研究	16
2.1.1.5 受身の習得研究の教授法・教材論への応用	18
2.1.2 先行研究で残された課題及び本研究の位置づけ	19
2.1.2.1 従来の研究で明らかにされていなかった問題点	19
2.1.2.2 従来のデータ収集方法では明らかにならなかった問題点	20
2.1.2.3 新しいツールと方法の導入について	21
2.1.2.4 学習者の話し言葉コーパスに基づく研究	21
2.2 本研究の位置づけ	22
2.3 研究目的と研究方法	23
第3章 本研究で扱う諸概念	25
3.1 受身文の定義	25
3.1.1 日本語の受身文の定義に関して	25
3.1.2 中国語の典型的な受身表現「被」構文の定義について	33
3.2 視点の定義	36
3.3 中日視点の相違をめぐる検討	43
3.4 研究課題	45
第4章 小説の対訳データに基づく中日受身表現の比較対照研究	49
4.1 データについて	50
4.2 研究方法とデータの処理	51
4.3 収集したデータの全体像及び分析結果	52
4.4 中国語原文日本語訳文データから見た受身使用と視点との関わりに関して	55

4.4.1	タイプ1【日本語○ 中国語○】の場合	55
4.4.2	タイプ2【日本語○ 中国語×】の場合	58
4.4.3	タイプ3【日本語× 中国語○】の場合	60
4.5	日本語原文中国語訳文データから見た受身使用と視点との関わりに関して	63
4.5.1	タイプ1【日本語○ 中国語○】の場合	63
4.5.2	タイプ2【日本語○ 中国語×】の場合	65
4.5.3	タイプ3【日本語× 中国語○】の場合	67
4.6	対訳データの受身の使用傾向の整理	68
4.7	受身の出現位置と視点との関わり	69
第5章	日本語の受身文の習得に関する予備調査	71
5.1	調査目的	71
5.2	調査対象に関して	71
5.3	資料収集方法	71
5.4	文法テストの設問に関して	72
5.5	予備調査の文法テストの結果	74
5.5.1	選択テストの調査結果	74
5.5.2	文完成テストの調査結果	77
5.6	予備調査のインタビューの結果	85
5.7	予備調査の結果解説	85
5.8	予備調査の問題点	88
5.9	予備調査の修正点	89
第6章	視点に着目した日本語の受身文の習得に関する本調査	91
6.1	本調査の目的	91
6.2	資料収集の方法	91
6.3	調査対象者の全体像	92
6.4	調査概要及び収集したデータ	94
6.5	採点基準に関して	94
6.6	本調査結果の考察	95
6.6.1	文法選択・翻訳テストの結果の考察	95
6.6.1.1	文法選択・翻訳テストの結果の考察	95
6.6.1.2	文法選択テストの中国語訳の結果の考察	106
6.6.2	短文完成テストの結果の考察	127
6.6.3	インタビューの結果の考察	135
6.7	質問紙全体の回答傾向整理及び本調査の考察結果のまとめ	136

6.7.1 質問紙全体の回答傾向に関して	136
6.7.2 本調査の考察結果のまとめ	137
第7章 中国で出版されている日本語教科書における受身の扱いをめぐる検討	140
7.1 日本語の教科書における受身文の提出順序	141
7.2 日本語の教科書における受身文解釈の仕方	149
7.3 教科書分析結果のまとめ	151
第8章 おわりに	152
8.1 本研究の結論	152
8.1.1 各章の関連付けに関して	152
8.1.2 結論のまとめ	154
8.1.2.1 課題1に関して	154
8.1.2.2 課題2に関して	157
8.1.2.3 課題3に関して	160
8.2 日本語教育への提言	161
8.2.1 日本語の受身文の習得順序	161
8.2.2 視点に着目した日本語の受身文の指導に関する留意点	163
8.3 本研究の限界と今後の課題	164
8.3.1 本研究の限界	164
8.3.2 今後の課題	165
参考文献	166
稿末資料	177
資料1：予備調査に用いた質問紙（選択テスト）	
資料2：予備調査に用いた質問紙（文完成テスト）	
資料3：予備調査に用いた質問紙の期待される回答	
資料4：本調査に用いた質問紙（文法選択・翻訳テスト）	
資料5：本調査に用いた質問紙（短文完成テスト）	
資料6：本調査に用いた質問紙の期待される回答	
資料7：中国語原文日本語訳文方向の対訳データ	
資料8：日本語原文中国語訳文方向の対訳データ	
謝辞	382

第1章 はじめに

1.1 問題提起

国際交流基金の『海外の日本語教育の現状 2015年度日本語教育機関調査より』によると、世界で最も日本語学習者が多い国は中国で、953283人で、全体の26.1%を占めている。国際交流基金のその現状調査によると、7割弱の学習者は高等教育機関で日本語を学習している。しかし、同じ漢字圏であるとはいえ、中国語母語話者が日本語を学ぶ際には、多くの難しい項目が存在する。その中でも、日本語の受身文は中国語を母語とする日本語学習者には難しく、混乱しやすい文法項目の一つであるとされている。

日本語の受身表現を既に学んだ中国人中上級学習者でも、助詞の誤り、能動文と受身文の混用、動詞の活用ミスなどによる文法上の誤りのほか、受身表現を使用すべきところで、使用されていない「脱落」や、使用すべきでないところで使用してしまう「過剰使用」などといった誤りが目立つ。『寺村誤用例集データベース』から二つの例を紹介する。

例1 *もし、この映画はもう一度、放映したら再びもう一回見ようと思っています。

[→もし、この映画がもう一度放映されたら、再び見ようと思っています。]¹

例2 *というのは、私が国にはそのついで、まだ発展されないし、大学でもそんな科目の時間が少なかったんです。

[→というのは、私が国は、まだ発展していないし、大学でもそんな科目の時間が少なかったんです。)

日本語の受身文が中国語を母語とする日本語学習者にとって難しい理由として、動詞の受身形の作り方といった文法的面だけではなく、構文レベルと意味レベルの仕手と受け手を判断した上で、文脈からの情報を読み取る必要があるということが考えられる。このように、日本語の受身文は文法的側面からも、語用論的側面からもかなり複雑な項目なのである。しかし、現在の中国の日本語教育で使用されている教材や導入方法は、文法形式に重点を置いて導入されていることが多く、日常生活と使用場面から離れて、文型を暗記しただけで、実際は正しく理解できていない学習者を生み出している可能性がある。

そこで、本研究では、自然に受身文が使えるようになる教材・導入方法には、「日本語の視点」を取り入れる必要があるという仮説を立ててそれを実証し、教育的示唆を導き出

¹ 直しは筆者による。

したいと考えている。受身文は初級後半で導入されるのが一般的である。よって、本研究は受身文の内容を学習して、中上級レベルになっている学習者を研究対象とする。受身の指導法を研究する方法としてはいろいろあるが、日本語の受身文の習得を促進するためには、中国で日本語教育に携わっていた経験から、視点の角度から中国人日本語学習者の受身文習得研究を進めていきたいと考える。

日本語の受身文は、文脈依存性の高い表現である、と報告した研究がある（寺村 1982、許 2004、李 2015 等）。問題提起の一部として、以下の文脈のある環境での中国人日本語学習者の受身文作例を考えていただきたい。（修正と下線は筆者によるものである。）

例 3 大切な手紙は母さんに読まされた。

（→読まれた。）

例 4 田中さんはテストで悪い点数をとった。成績をお母さんに見せた。お母さんは彼を叱った。

（→お母さんにしかられた。）

例 5 山田さんは犬を連れて散歩していた。犬は彼女の手を噛んだ。それで、山田さんは怒っている。

（→彼女は犬に手を噛まれた。）

例 3 の場合、「読む」という動詞の受身形と使役受身の活用形を混同している可能性がある。例 4 においては、「母さんは彼を叱った」という表現は文法的に間違いとはいえないが、文脈の中で、不自然と見なされる。同じ登場人物「田中さん」が現れていることから、自然な日本語の角度から考えると、受身文の使用による視点の統一が必要であるためである。例 5 の場合、もし続きの文である「彼女は怒っている」がなければ、「犬は彼女の手を噛んだ。」の形で現れると、意味も通じると考えられる。が、山田さんが怒っていることをも考慮に入れて考えれば、受身文の使用が必要であると考えられる。

学習者の用例には、例 3 のような文法的なミスもあれば、例 4 のように、文法的には正しい表現であるが、自然な日本語の角度から、不自然と見なされる中間言語的な表現もある。また、例 5 のような例は、単独で現れると正しいが、その文脈で分析すると、不適切な表現と判定されて妥当ではないと考えられる。

例 4 と例 5 は、一見して、事態把握の仕方に関わる主語の立て方が原因のように見えるが、実は日本語の受身文の使用による視点の統一が習得されていない、という点と密接な関係があると考えている。森田（2002）は「視点」と日本語文法の発想との関係に関して、

「言葉に限定して考えれば、表現者の視点が叙述内容における人物の視点や生起する事柄とどう関係していくか、その対応関係によって、日本語のさまざまな表現が使い分けられているため、日本語の理解には特に表現者の視点の分析が欠かせない重要な問題として浮上してくるのである」(森田 2002 : 1) と指摘している。更に、日本人の受身文使用動機に関して、日本語文法の発想の角度から、以下のように述べている。

表現形式としては、誰を主語として立てるかによって、能動、受動のいわゆるボイス(態)が分かれよう。だが、その誰を主語として取り立てるかが大問題なのである。これは序章でも述べた日本語の発想の原点にかかわる問題と考えてよい。そこでも述べたように、日本人の心理には、世の中(人々・外)に取り巻かれている己(内)があり、それら他人(人々、世の中)に支配されている存在と考える受動的心理が濃厚に働き、それが日本語に受身表現を発達させる原動力となっていると考えられるのである。日本語にしばしば見られる受身の発想その発達が受身形の諺・慣用句等を数多く生み出しているという点も理解できるであろう。

(森田 2002 : 201)

このように、視点の統一、視点の捉え方は、日本語の受身文を使いこなす上での重要な知識と考えられる。視点と関わりのある文型・文法項目として、使役、使役受身、授受表現、人称代名詞、指示詞などほかにもいろいろあるが、本研究は受身文の習得に絞って、研究を展開していく。

また、視点の問題は、他の言語を母語とする日本語学習者の習得に際しても困難な項目かもしれないが、筆者の学習・教育経験と、さらに中国の大学で日本語を学習している学習者に調査に協力してもらったことから、本研究は、中国人日本語学習者の受身文習得をテーマに、研究を進めることとする。

受身文に関しては、いろいろな角度から研究されてきている。視点に関して、多くの先行研究が蓄積されてきているが、教育現場への視点導入の必要性は多くの研究報告で指摘されている。しかし、中国の大学で日本語を学習している学習者を想定して、具体的に何をどういう時点でどのように導入したらいいのか、そういう角度から進めた、視点に着目する文脈依存性の高い受身文の習得研究は、管見の限り、非常に少ないようである。

従来の視点の研究を見ると、日本語文の受動文・能動文に関する視点的差を考察する日本

語学者が多いが、中国の日本語教育現場に応用する観点からの、中日受動表現における視点的考察はまだ見られない。実は学習者は実際の学習において、母語の視点の干渉のために、先入観を形成しやすいのかもしれない。両言語には言語上の相違点が存在するのは確かであるが、学習者が日本語受動表現を学習する当初、それを中国語受動表現と同じように扱ってしまい、後にはその相違を提示されても、なかなか納得できないのは、視点の要素が一つの要因になるのではないかと考えている。

中国語、日本語における受身表現に見られる主語の立て方や受動、能動使用上において後述するように相違が確かにあるため、両言語における視点の差が想定できると思われる。また、日本語学習者が受身表現の使用に際し、視点の置き方がどうなるか、母語の視点の置き方が彼らの学習に影響しているのか、を含めて、本稿では視点の概念を導入し、視点の角度から中日受動表現の差異を改めて考察していくことにする。

以下は、高橋（2016）を援用しながら、中日受身表現に見られる主語の立て方、受動、能動使用上の相違を整理し、考察を加える。高橋（2016）によれば、各言語にはそれぞれ文の体系がある。文体系の基本構造は、「主体+出来事」を言語化した文であると述べている。中日両言語の視点に関して「中国語の主述文は主体に視点があり、主体の意思を出来事の一歩前に分かり易く明確に表す言語なので、主体中心の言語と言える。日本語の能動文は客体に視点があり、主体と客体との関係により、文末表現が異なってくる文末表現の多様な客体中心型の言語と言える。」と指摘している。中日両言語は、主述文（能動文）が基本となり、派生として他の種類の文があり、文の体系が作られる。この文の中に中日両言語の受身表現がある。

次は、日本語での1つの現実を表す文体系（現実世界：意味構造）をめぐる議論である。

高橋（2016）は鈴木（2000）の学説を受け継いでいるが、「日本語では、動詞の能動態を中心として、ヴォイスの体系があり、人間関係に基づき、誰に焦点を当てるかが決まり、そのなかの一つを用いて各種の文を作る。」と述べている。つまり、一つの現実に対して、主体と客体とがどのような関係になっているのかにより、焦点となる主体が決まり、動詞の能動態を中心とするヴォイスの体系から表現が選ばれる。その文体系のことも主体プラス出来事という構成で説明できる。

例6 姉が妹を褒めた。

例6は能動文で、主体は仕手の「姉」である。出来事は「妹を褒めた」である。

例7 妹が姉に褒められた。

例 7 の場合、受身文で表現しているが、主体は受け手の「妹」であり、出来事は「姉に褒められた」となっている。

高橋氏の中日視点の相違に関する考察の結論を基本的に支持するが、説明不明瞭なところもないとはいえない。たとえば、「日本語の能動文は客体に視点があり」という表現に関して、誤解を招く可能性がある。日本語は話者中心の言語とされているが、受け手あるいはその受けの姿勢が、高橋（2016）の客体中心の「客体」に相当する表現と推測できる。森田（1998、2002）の用語で解説すると、日本語の場合、話者（己）に視点を置いて内から、人々・世の中を眺めようとしている姿勢のことではないかと考えている。受けの姿勢という原点から事態を把握し、己にどんな影響を与えるのかを判断の根拠として、それを言語化する、というプロセスになっているのではないかと考えられる。高橋（2016）で指摘している「客体中心」は、森田（2002）の「受動的心理」の角度から考えると、もっと理解しやすくなるかもしれない。そして、「人間関係に基づき」という表現は、意味構造のレベルを超えている話ではないかと考えられる。単文レベルの場合、能動文も受身文も通じて、事態把握の仕方が異なっているだけだといえるかもしれないが、例 4 と例 5 のように、文脈のある環境で、文脈からの情報を読み取りながら、視点の判定を行う必要があるのではないかとと思われる。

1.2 研究背景

庵（2012）は、視点の置き方と視点の統一の観点から視点の概念を受身の説明に導入すべきだと指摘した。視点については、日本語学分野（森 1998；2002、田窪 1997 等）、日英比較分野（久野 1978、水谷 1985、辻 2004；2013 等）の研究が挙げられる。中国語の視点を研究対象の一部とする研究成果はあるが（姚 2012、渡邊 1996；2000）、中国人学習者を対象とした研究はまだ十分とはいえない。視点に着目して、文脈のある環境で「行為者ニ表示」受身文の習得状況を見ていくために、彭（2008）の定義を支持する。彭（2008）は、視点について、次のように述べている。

視点とは、単語・連語・文・テキストそれぞれの言語的単位のレベルにおける言語主体（命名者・話者・語り手を含む）の事象への捉え方である。具体的に言うと、事象をだれが見ているのか、どの部分を見ているのか、どのように見ているのか、とい

う言語主体の心理的操作であり、そして何らかの形で言語化されるものである。

(彭 2008 : 5)

一方、中国の大学における日本語教育現場では、受身は初級後半で導入されることが多く、一般的に使用されている教科書では文型の説明に重点が置かれている。後述するが、筆者が調べた初級・中級レベル教科書 18 冊のうち、視点に関する記述は『総合日語』(第 2 冊 p211) のみで、このことから教育現場で視点に関する十分な説明がなされているとは言い難いことが分かる。

しかし、場面依存度の高い日本語の受身文の特徴を正しく理解するために、学習者の立場に立って、視点の捉え方に関する理論を中国の日本語教育現場に応用しやすいようにする工夫が必要だと考えた。受身は初級後半で導入されるのはふつうである。文型の説明に重点が置かれているため、視点に関する内容は取り上げられても十分な説明がなされているとはいえない。どんなときに誰に対してどのように使ったらいいのか、体系立てて述べられてはいない。初級でひと通り学習し、中・上級になっても習得できない状況が見られるので、解決すべき課題がまだ残っているといえよう。

誰に対して、いつ、どのように使用すればいいのか体系立った説明が教育現場でなされていないことが、中上級レベルになっても習得が進まない原因の一つであると筆者は考える。場面依存度の高い日本語の受身文の特徴への理解を促すためには、学習者の立場に立った視点の捉え方に関する理論を中国の日本語教育現場に応用していく必要があるのではないだろうか。

1.3 本論文の構成

本論文は、本章を含めて 8 章から構成される。

第 1 章「はじめに」では、まず研究背景を紹介する。そして、例文を取り上げながら、本研究の問題提起の内容を述べる。

第 2 章「先行研究及び本研究の位置づけ」では、受身文の習得研究がどこまで進んでいるかを見るために、日本語学、中国語学、中日対照、中国語母語話者の受身習得研究、教授法・教材論という五つの角度から先行研究を概観し、考察を加える。本研究の位置づけを述べて、研究方法もこの部分で述べる。

第3章「本研究で扱う概念」では、本研究のキーワードとなる基本概念について述べる。受身文の習得に関する文献の考察に基づいて、教育現場に応用する立場から日本語の受身文、中国語の受身文、視点の定義を再検討し、受身文の本質把握を試みる。視点の捉え方と視点の統一をキーワードにして、中国語を母語とする日本語学習者の受身文の習得を見ていく。

第4章「小説の対訳データに基づく中日受身表現の比較対照研究」では、中国建国後最大の著作権輸出成功例とされる小説『神なるオオカミ』（中国語原書、日本語訳書）と『ノルウェイの森』（日本語原書、中国語訳書）から受身の対訳データを抽出し、学習者の習得問題（過剰使用、脱落）の解決に向けて、受身形が使われたら「○」、使われなかったら「×」で示し、タイプ1（「日本語○中国語○」）、タイプ2（「日本語○中国語×」）、タイプ3（「日本語×中国語○」）に分けて、中日受身文の使用状況と傾向を考察する。前田（2011）で指摘している出現位置を援用しながら、受身の使用実態を調査した。出現位置の角度から視点と受身使用との関わりを考察しながら、教科書の例文提示方法と質問紙の中国語訳の採点参考の一つとして分析を行う。

第5章「予備調査」では、まず調査の実施期間、調査協力者に関する情報、調査目的、調査実施の手順、データの収集方法を述べる。そして、対象となった学習者のデータを分析し、日本語の受身文を習得する際の誤用・中間言語的表現を整理する。調査結果に基づいて、学習者の誤用の種類を大きく二つのパターンにまとめている。一つ目は、日本語の受身文を使用すべきかどうかの問題である。二つ目は、活用ミスや助詞の混同などのような文法的なミスの問題である。調査協力者の一部を対象にインタビューを行い、誤用の要因を考察する。日本語母語話者からも意見コメントを求めて、調査用紙を修正することとした。

第6章「本調査」では、仮説を整理した上で、本調査の目的を述べる。そして、対訳データで検証した受身の現位置と視点の捉え方の関わりを考慮に入れて、予備調査で使用した質問紙設問を調整して、本調査での実施を報告する。文法選択・翻訳テストで測る理解レベルと短文完成テストで測定する産出レベルに分けて、データを収集する。質問紙調査の後、インタビューを実施して、学習者の判断理由や理解知識を探ることとした。

第7章「教科書の考察」では、最近中国で出版されている大学生向けの日本語教科書を対象に、受身文の提示方法、提示内容、視点との関わりに関して整理し、考察を加える。使用実態に即して、提示されているか、という点を確認する。質問紙の回答とインタビュ

一の内容と結びついて、現行の提示方法の不足を言及し、教育現場へのよりよい提示方法及び教材の補充資料として使えそうな内容を提案する。

第 8 章「考察」では、まず各章の関係を述べる。そして、本調査の結果を踏まえて、中国の日本語教育現場への提言を試みて、本研究の限界と今後の課題にも言及する。

第2章 先行研究と本研究の位置づけ

2.1 先行研究のまとめ

本章は中国語母語話者に焦点をあて、日本語の受身が中国語母語話者から見てどのようなものだと捉えられることが多いか、日本語の受身文の習得に関する文献から見た動向と展望を探っていく。日本語の受身文についての先行研究、中国語の受身研究、中日対照研究、中国語母語話者による日本語の受身の研究、受身の習得研究の教授法・教材論への応用を概観し、考察を加える。日本語の受身表現を既に知っている中国語母語話者学習者にとって、習得しにくい受身文はどのようなもので、受身文の習得の過程にはどのような誤用あるいは中間言語が見られるのか、学習者がどのような場面においてどのような誤りを犯すのか、またどうしてそのような誤りを犯すのか、に焦点を絞って、先行研究を集め、検討を行う。

2.1.1 全体的研究動向

2.1.1.1 日本語の受身文についての先行研究

まず、日本語の受身文についての先行研究を表1にまとめて示す。

表1：日本語の受身文についての先行研究一覧表

番号	年代別	著者	主な研究結果
1	50年代以前	山田(1908)	固有の受身文を貫く共通性として「影響(=被影響)」を帯びるといふ意味的特徴の存在を主張した。
		松下(1930)	日本語固有の受身文と欧文直訳体を通して定着した非固有の受身文との間の相違について整理した。
2	50年代	三上(1953)	動詞の特徴から受身文を分析し、受身文の構成状況によって日本語の動詞を能動詞と所動詞と分類した。「太郎が妻に死なれた」のような文は「迷惑の受身」「被害受身」、あるいは「はた迷惑の受身」と呼んでいる。
3	60年代	橋本(1969)	有情のものこそが日本語受身の特徴であると指摘した。
4	70年代	鈴木(1972)	対応する能動文のどの格が主語になるかによって、「直接対象の受身」、「相手の受身」、「持ち主の受身」、「第三者の受身」という四分法を主張した。
5	80年代	寺村(1982)	受身文の主語が述語動詞によって表される動作(動き)の影響を直接的に受けるか、影響を間接的に受けるかに基づき、日本語受身文を「直接受身」と「間接受身」に二分していると同時に、意味特徴と構文特徴という二つの視点から直接受身と間接受身を述べて

			いる。
6	90年代	工藤（1990）	日本語の受身文を「直接対象受身文」「持ち主受身文」「相手受身文」「関係者受身文」の四種類に分けた。
		奥津（1992）	動作主について論述したが、奥津（1992）はまた動作主が文中に現れていない場合の特徴をまとめた。また、受身文視点固定の原則について論じた。視点固定の原則は一度立てた主語は、必要のない限り、途中で変えない、という原則である（奥津 1983、工藤 1990、高橋 1985、田中 2001 等）
		尾上（1998a・1998b・1999）	状態性を用いず、受身根源説にも、自発根源説にも立たず、受身・可能・自発・尊敬を一つにまとめ、主語を場と考え、それら全てを「出来文」（事態全体の出来事を語る文）としている。
7	2000年以降	堀川・森・栗原・和栗（2003）	事態把握の相違に基づく受身文の二極化という観点により分類を行った。固有・非固有を問わず、自然な形で「に受身文」の共通性をとらえることに新たな可能性を拓いた。
		川村（2003）	「被影響」の有無に注目する意味区分をめぐって、構文的・歴史的諸特徴を整理し、受身文の学説史を論じた。
		メイナー（2004）	受身文という言語表現がディスコースにおいてどのような意味や機能を持つかを考察するために、主に意味的機能の観点から（具体的には場交渉論の視点から）受身表現を（1）結果描写（2）情意表現（3）メタ言語表現の三種に分類した。
		「日本語記述文法研究会編（2009）」	何を主語として表現するかによる直接受身文、間接受身文、持ち主の受身文の三分類を提示した。
		志波（2012）	小説の会話文、小説の地の文、新聞の報道文、評論文という四つのテキストコーパスに基づく受身文の実態を研究した。
		川村（2012）	ラル形述語文を主な研究対象として、現代語をも視野に入れた日本語の受身・受身文に関する体系的、総合的な研究である。
		志波（2015）	4つの異なるテキストジャンルから取り出した受身文を、その主語と行為者の有情・非情の別で大きく4つに分類している。現代日本語の受身文の網羅的な記述を目指し、詳細なサブタイプを立て、それぞれの意味と構造的な特徴を考察し、受身文の新しい記述方法を提示している。

先行研究から明らかにできることは次のとおりである。

山田（1908）は「かの橋は我が友人に作られたり」のようなタイプの受身文は、固有の受身文ではないと指摘している。一方、有情者が主語の位置に立つ受身文の場合、主語者が「影響を被る」ことを表す、という立場を示している（山田1908：373-380）。

松下（1930）は「実質的被動」の下位分類として「利害の被動」と「単純の被動」を立てている。その違いに関して、「主語の有情／非情」「被影響／無影響」「固有／非固有」の

三つの要素に、《行為者》項の表示法を四つ目の要素として加えて、この四つの要素が完全に連動するという観点を持っている。更に、「欧州語などの被動は一般的被動であって、利害の意がないから荷物でも被動の主体になるが、日本語では無生物は特に人格を附与して考へないかぎりには被動の主にしない。其れ故「月が人に見られる」「水が人に飲まれる」などといふと擬人であるから可笑しく感ぜられる場合がある。」と指摘している。50年代以前は、固有の受身文に直訳できない西洋語受身文が非情物主語であることから、「非情物主語の受身文は日本語固有のものではない」という認識が生まれた。三上説では、「まともな受身」と「はた迷惑の受身」とに分けられる(1953)。以降はまた、受身文の分類に関する論述が見られ、「迷惑の受身」と自動詞による受身文が注目された。

70年代になって、受身文分類への関心が高まっていく。直接受身と間接受身の中間的なものをより詳しく分類したのが鈴木(1972)である。80年代から意味特徴、構文特徴、受動化機能に関する論文が増加し、分析も詳細化した。90年代では、動作主、視点、受身とその周辺に関する論文が多く見られた。2000年以降は新しい視点からの分類研究も進み、受身表現認知モデルへの注目とコーパスに基づく受身文の実態研究が行われている。

日本語の受身文については、いくつかの角度から研究がなされてきた。

受身であるかどうかの判断基準として文法的標識「(ら)れる」の有無が一般的な理解だと思われるが、それは動詞の形態論的な側面を重視しすぎている傾向があるとして、村木(1991)では対応する能動文の有無から「注意を受けた」のような表現に「迂言的な受動表現」という名称をつけた。教育現場では、中国人学習者は「注目をあつめる(注目される)」「攻撃にあう(攻撃される)」のようなコロケーションを能動表現として理解する傾向が見られ、誤りを犯しやすい点の一つである。

有情の受身を日本語固有の受身、非情の受身を非固有の受身と認識している研究者として、山田(1908)、松下(1930)、森田(2002)等が挙げられるが、異なる考えを持っている研究者もある。近代以前の日本語に固有の種類を受動文と欧文直訳文体の影響によって持たされた非固有の受動文があるという(金水, 1993)。奥津(1983)、金水(1993)等で述べられたように、古典文献には相当の量の無生物名詞主語の受身文があることは見逃してはいけない。

ニョッテ受動文は欧文直訳体の影響により成立した新しい表現である(金水, 1991)。仁田・益岡(2000)で述べているように、現代語においても、非情物が主語になる場合には動作主を「に」で示す受身文は認められにくく、「によって」を要求する。張(1997)は動

作主マーカーについての論述があり、「に」、「から」、「によって」を「代表的動作主マーカー」と名づけ、それ以外のものに「二次的な動作主マーカー」という名称を与えた。

三上説の流れを受けた寺村説では、構文的な特徴によって「直接受身文」と「間接受身文」の二種類に分けられる（寺村，1982）が、寺村の二分法に異論を唱える研究者も少なくない（表2を参照）。庵（2001）はその中間的な性質を持つもの「受け持ちの受身」の存在を指摘した。同じ二分法であるが、いくつかの角度からの研究が存在している。久野（1983）は利害関係の有無の視点から日本語の受身文を「意味上中立受身」と「被害受身文」とに分けた。益岡（1987）は叙述の種類から「属性叙述受動文」と「事象叙述受動文」に分け、「事象叙述受動文」の下に「降格受動文」と「受影受動文」と更に詳しい分類を行った。

対応する能動文のどの格が主語になるのかという視点からの分類（鈴木，1972）を発展させた形で、工藤（1990）の分類がある。受身文を大きく二つに分類し、行為者明示／非明示と主語の性質を軸にさらに詳しい分類をした。行為の対象が人である場合、ヲ格、二格、カラ格は主語にくることが可能である。それに対し、行為の対象が人ではない場合、基本的にヲ格しか受動文の主語にはなりえない、と述べている。行為の対象と受身文主語との関係に関する研究として、山内（1997）も持ち主の受身について研究を進めている。以上をまとめると、表2のようになる。

表2：日本語の受身文の諸分類の関係

研究者	太郎が夏子に殴られた。	太郎が夏子に足を踏まれた。	太郎がスリに鞆を裂かれた。	太郎が妻に死なれた。	補充
寺村秀夫	直接受身 ²	間接受身			庵功雄の「受け持ちの受身」説と村木新次郎の「迂言的な受動表現」説
工藤真由美	当事者受身			関係者受身/ 不利益受身	
鈴木重幸	直接対象受身	相手の受身	持ち主の受身	第三者の受身	山内博之の「迂言的な受動表現」説
仁田義雄	まともな受身	持ち主の受身	第三者の受身		
山内博之	斜格昇格型受身	属格昇格型受身		新規主格型	
張麟声	直接受身		持ち主の受身	間接受身	
益岡隆志	属性叙述受身			事象叙述受身	

2.1.1.2 中国語の受身の研究

中国語の受動文は標識のあるタイプと標識のないタイプに分けられる。標識（「被（“被 bèi”）」、「叫（“叫 jiào”）」、「讓（“让 ràng”）」、「給（“给 gěi”）」のような）のあるものは

² 本研究は、寺村（1982）の用語に倣って、直接的な受身文を直接受身と、間接的な受身文を間接受身と呼ぶこととした。

「被」構文（被字句 bēizìjù）³、標識のないものは、一般的には意味上の「受動文（被動句 bèidòngjù）」あるいは「受動者主語文（受事主语句 shòushìzhúyǔjù）」と呼ばれる。馬（1898）は受動文の最も基本的な語順について論じた。“……として（“为 wéi”）、……のなかで（“于 yú”）、……される（“见⁴jiàn”）、被る（“被”）など中国語の昔の書き言葉としての介詞⁵の文法特徴にも言及した。また、呂・朱（1952）は受身標識の被る（“被”）を副動詞と名づけ、受身文型（“被动式 bèidòngshì”）を伝統的なもの、完全的なもの、簡化的なものという三種類に分けた。さらに、呂（1965）は「被」構文（“被字句 bēizìjù”）と「把」構文（“把字句 bǎzìjù”）と「能動文」（“主动句” zhūdòngjù）は互いに転換可能かという問題について分析した。中国語被動表現はその働きとして不幸又は不愉快な意を表すのが基本的で、例外の場合は恩恵を受けていることがほとんどである、と王（1985）は指摘した。

橋本（1987）は中国語の被動式の由来と発展を考察し、使用言語の地理分布の角度から受動標識を検討した。「被」構文（“被字句 bēizìjù”）から「叫/让」構文（“叫/让字句 jiào/ràngzìjù”）への受身文型の発展経緯から、一つの言語における構文発展は連続なものでもなくても可能だと指摘した。橋本（1987）の考えでは、中国語と北部のアルタイ語との中世時期の言語接触が、受身文型の使役受身両方使用可能の用法変化を促進した。その考察から、一つの文法カテゴリーは言語接触を通し、類型の枠を超え、別の言語に伝わることも可能だと述べている。また、社会異動、異民族間の接触、地域住民移動など、言語自体以外の、構文の連続でない発展に影響を与える可能の要素を予測した。李（1994）は中国語の「被」構文を A（主語）、B（行為者）、C（述語）の 3 段に分けて、それぞれの特徴を分析した。さらに、中国語の受動文の述語動詞として用いられない動詞を 9 種類に整理している。①判断を表す動詞（“判断动词”）、②有無を表す動詞（“有无动词”）、③助動詞（“助动词”）、④方向を表す動詞（“趋向动词”）、⑤存在・出現・消失の意味を表す動詞の一部（“部分存现动词”）、⑥心理活動の意味を表す動詞の一部（“部分心理活动动词”）、⑦そのほかの自動詞（“其他不及物动词”）⑧動詞でありながら、形容詞または名詞でもある語（“兼类词”）⑨その他（“其他”）である。20 世紀 90 年代の中国語被動句の構造と類別の

³ 括弧のなかは、中国語用語の表現とそのピンインである。以下同様。

⁴ 中国語の文語文（昔の書き言葉）であり、「当時の人々に重んじられた（见重于当时）」のように、動詞の前に用い、受け身を示すのが一般的である。

⁵ 中国語の文法用語である。前置詞の機能に相当する。

代表的な研究とされている。本論文は、李（1994）の中国語の受身にできるかどうかの議論から示唆を受けている。

意味論からの研究も存在し、呂（1990）、杉村（1998）などがあげられる。無標の「受動文（“被动句 bèidòngjù”）」は「受動者主語文（“受事主语句 shòushìzhúyǔjù”）」とも呼ばれるが、張（1991）は、「受動者主語文（“受事主语句 shòushìzhúyǔjù”）」を三種類に分けた。考察の結果として、「受動者主語文（“受事主语句 shòushìzhúyǔjù”）」の主語はほとんど無生物であることがわかっている。陸（2004）も同じ観点を持っている。王（1998）は単音節動詞と双音節動詞の角度から「標識のない受動文（“无标被动句 wúbiāobèidòngjù”）」の語義的特徴を分析した。邢（2004、2006）は通時的な角度から考察し、受益型「承賜型」（いわゆる）の受動文の研究も進めた。劉（2003）は「被」構文（“被字句 bèizìjù”）」は動作の受動者の立場に立って理解する構文であって、「被」という字の前の主語は話題であると主張した。木村（2005）は受身標識としての「给」の使用を検討した。「给」の後ろに来る動作主は「动因」の意を表している。つまり、対象が自らの意志によるものではなく、動作の作用を受けて、ある状態に置かれている誘因となっているということである。[N1 + “叫、让” + N2 + VP]という構文が中国語ヴォイス体系の中で使役態のみならず受動態をも担っている。古川（2006）は、心理学でよく援用される「ルヴィンの壺」の絵で知られるような「図と地の転換」に繋がる認知現象を「凹凸転換」と名付けている。例8のように、使役態におけるN1（「李先生」）はN2（「張君」）に対して行動指令を下す（起点）としての意味役割を果たすものであり、他方、例9のように受動態におけるN1（「李先生」）はN2（「スリ」）の行う行為を被る（終点）としての意味を果たすものである。このように見るとき中国語の“叫、让”構文においてN1の意味役割が「起点」と「終点」の反転関係になることがわかるが、これは正に文法範疇において「凹凸転換」を具現化していることを表すものである、と述べている。古川（2006：72）で挙げられている例で述べると、以下のようなになる。下線と括弧内の内容は筆者による。

例8 李老师叫小张念课文。

李先生は張君にテキストを読ませた。

例9 李老师叫小偷偷了钱包。

李先生はスリにサイフを盗まれた。

例10 李老大叫小偷偷（了）钱包。（どの態なのか不分明）

李の兄貴はスリに財布を盗ませた。（文が未然の事態と読める場合）

李の兄貴はスリに財布を盗まれた。(文が已然の事態と読める場合)

N1 (主語) を「李の兄貴」のように言い換えると、その意味役割が<終点>なのか、<起点>なのか、あるいは例 12 の描く事態がどの態なのか曖昧さを帯びることとなる。このように、凹凸転換には対立と調和が共存し転変する世界観が潜んでいると言えそうだと指摘されている (古川 2006 : 61-74)。

杨 (2010) は被動式発展と子供の受身文習得順序からの示唆に基づいて、被字句の生成について論じた。2009 年から中国のインターネットで「就職された (“被就业”)」 「自殺された」 (“被自杀”) といったような文脈に依存性の高い新しい受身文が現れてきている。就職活動中の大学新卒者が就職決まっていけないのに、自分でも聞いたことのない企業に自分が就職した記録を見たことがあるという。そのような「～にさせられた」の気持ちは「被××」という用語で呼ばれているが、「××」の品詞性をめぐる議論、統語的な機能、語用的な特徴 (知らないままで……される、表現の簡潔性、感情表出等) といったテーマは注目を集めている (王・張 2017)。

2. 1. 1. 3 中日対照研究

姚 (2002) は文学作品における受身文を材料にして、中日両言語の対照研究を進めた。直接受身文の主体が有情者である場合、受動文はほとんど有標である。直接受身文の主体が無情物である場合、受動文の構文は中国語の無標の表現であるとの対応ができる。間接受身、持ち主受身は中国語での表現ではほとんど有標になる、つまり主語が無生物であることがほとんどである、と述べている。杉村 (2003) は中日受身文の比較対照研究を通し、中国語にも日本語にも直接受身と間接受身が区別されることと、それぞれの受身概念の意味的な要因が異なることの二点を指摘した。具体的には、話し手の心で感じとる主観的な感知は日本語の受身文の「语义动因」と言える。それに対し、客観世界の授受関係の重視は中国語の受動文の「语义动因」であると述べている。

李 (2009) は現代語における中日受身表現の比較対照研究を進めたが、構文上の成立条件と語用的な成立条件を検討した。林 (2010) は「被+○○」という新しい構文の理解と翻訳問題をめぐって、中日両言語における動作主主語受動文を研究した。李 (2012) は均衡コーパスを利用し、非構文要素の角度から、中日受身表現の対照研究をした。その考察を通して、中日両言語は主語の立て方が異なっていること、受身の仕手の選択が意味要素と関わっていることと、中日両言語において受身文の述語になれる動詞は他動詞性を持つ

ものがほとんどであること、という 3 点の結論に至っている。楊(1989)は文法的条件と語用的条件の二つの面から中国語受身文（一般受身文と意味受身文）と日本語受身文（直接受身文と間接受身文）を論述し、「中国語の受身文は日本語と比べて、一般に「不如意」(このましくない)の色合いが濃い」と指摘した。中国語では、不如意の場合「被」構文（“被字句”）になりやすい。良い結果の場合「被」構文（“被字句”）にはなりにくい。高橋（2014）は、日本語の受身文に対応する中国語の文の調査を行ったが、中国語では「被」構文、語彙上の受身文、主述文、「把」構文、使役文などに訳されていると述べている。一つの事態が多種の文で表現されることを意味している点から、中日両言語にはそれぞれ独自の文体系があり、文レベルでの対照研究が可能であることを意味している、と指摘した。さらに、高橋（2016）は、中日両言語は、主述文（能動文）が基本となり、派生として他の種類の文があり、文の体系が作られる。この文の中に中日両言語の受身表現がある。「主体+出来事」の基本構成の角度から中日それぞれの文体系を示している。本論文の第 4 章では高橋（2016）の論説を参考に、単文レベルを超えて、文脈のある環境での視点と受身出現位置との関わりをめぐって考察を展開する。

2. 1. 1. 4 中国語母語話者による日本語の受身の研究

次に、使用資料と議論のテーマを考慮に入れて、文レベルと談話レベルという二つの角度で中国語母語話者の受身習得研究を整理する。まず文レベルであるが、中国語と日本語の受身表現は異なるため、中国語母語話者による誤用もある。その根拠として、楊（2013）が挙げられる。楊（2013）は日中両言語の誤用例をいくつか取り上げ、その誤用の原因などについて説明した。語用論的な意味やモダリティ性、更に視点の違いなど多くの点にズレが見られることを明らかにした。日中両言語において、それぞれの表現が異なる機能を有すると同時に、異なる視点や認知の仕方によって事態が言語化されている、と指摘した。望月（2009）は中国語を母語とする上級日本語学習者の作文コーパスから動詞の自他・使役・受身・可能に関わる誤用を拾い上げ、中国語と対照をし、母語干渉による要因を考察した。受身の誤用は受動形式の脱落による誤用が顕著であると指摘した。田中（2010）はなぜ受身の習得研究が少ないのかという点から、日本語の受身の分類の多様性、「受身文」と視点・他のヴォイスとの関わりを述べた。受身文の研究を第一言語習得、対照研究、第二言語習得（幼児）、第二言語習得（成人）の順に概観した。各言語で検証し比較することによって受身文習得の普遍的な側面を明らかにできると主張した。田中（2010）は第二言

語習得に関する先行研究を検討する文献研究である。本論文と田中（2010）とは先行研究を整理する角度が違っている。本論文は2017年12月までの数多くの研究がなされてきた受身について、日本語・中国語・外国語としての日本語の習得など多角的に先行研究を記述し、中国人日本語学習者の受身習得の研究動向を把握することを試み、考察を加える。その上で、受身の中日対照研究、習得研究の成果が今現在どのように教育に生かされているかを記述し、中国人日本語学習者の受身習得についての研究の可能性を述べる。

張（2012）は中国人日本語学習者の受身文の習得順序を考察した。中国にもある直接受身文は一番先に習得されるが、中国にない直接受身文は最後に習得されるということが明らかになった。また、持ち主受身文は間接受身文より先に習得されると報告した。王（2012）は母語転移の角度から中国人学生の受身文習得難易度分析を進めた。黄（2013）は2年間以上日本語を勉強してきた中国人日本語学習者を対象に調査を行ったが、データの分析から視点の統一性より被害の意味のほうが習得しやすく、視点統一性の習得は特に文産出の面ではレベルアップしにくいと指摘した。量的研究の分析結果から、中国人日本語学習者が視点の統一規則が習得されていない問題点を言及することにとどまっているが、どのように視点の統一の内容を受身文の指導に活用すべきか、その具体的な指導案の議論に触れなかった。この点を本論文で深めたいと考えている。

杉村（2014）は動作主の不注意による対象変化を表す場合に焦点をあて、日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について研究を進めた。日本語母語話者、日本人中国語学習者、中国語母語話者の中国語についてそれぞれ自・他・受身の選択テストを行い、母語と中間言語と目標言語の違いを比較した。

劉（2005）は述語動詞の属性と形式という観点から中日受身表現を比較し、日本語の影響による日本人留学生の中国語の受動文（“被动句”）学習の注意点を検討した。中国語の受動文に用いられる述語動詞は単音節動詞の場合、その言葉によるコロケーションで受身の意を表すのが普通である。日本語の助詞の働きは他の成分で果たすことになる。また、中国語の自動詞性動詞（“不及物動詞”）による受身文は数少ない。日本語の自動詞受身文はより広い範囲で適用されている、と指摘されている。王（2006）は中日両言語における受身文の主格を比較対照した上で、「困难等級模式」（筆者訳：難易度レベル別基準）理論を利用し、中国語を母語とする日本語学習者が日本語の受身文を習得する際の「习得日语被动句时的困难等级序列（筆者訳：日本語受身文習得の難易度判定基準）」を提起した。具体的には「0級 主格が直接受影者である受身文>1級 主格が直接受影の持ち主である受

受身文>2級 主格が関係場所である受身文>4級 主格が関係者である受身文、4級 主格が関係の持ち主である受身文、4級 主格が間接関連者である受身文)という習得順序を予測したが、シラバスと教材の編集に使用するためには、教育現場での検証も必要だと述べている。

次に談話レベルでの中国語母語話者の受身研究であるが、渡邊(1995)は談話展開における受身の使用実態を「正用・誤用・非用・その他」に分けて分析を行った。学習者の使用した受身は直接受身のみである。非用の原因には談話展開の仕方(学習者は複数の人物を主語に立て、能動文を使用する)が関係する、という指摘がある。山本(1997)は中国語系日本語学習者の中間言語の分析より母語干渉による異文化間コミュニケーション上の問題を検討した。

2.1.1.5 受身の習得研究の教授法・教材論への応用

習得研究は日本語教育と互いに補い合い発展しつつあるので、習得研究の結果を日本語教育に生かすことが重要である。教師は習得研究の結果を把握することを通して学習活動及び教育活動についての理解を深めることができると考えられる。学習者のある段階における共通の特徴と個人的な特徴を把握することに可能性を与えるだけでなく、シラバスデザイン、教材開発、授業改善の工夫も更に高いレベルで学習者のニーズに合わせることに一歩近づくといえる。その一連の改善を通してよりよい学習環境として学習者へ還元することになる。

次に受身の中日対照研究、習得研究の成果が今現在どのように教育に生かされているかを先行研究に基づいて報告する。葉(2003)は中国の大学で使われている日本語の教材『新編日語』から受身文の説明部分を取り出し、受身文の特徴や使用上の注意点を考察した上で、改善した受身文の分類法を提案した。そして、その各種類を中国語の表現と比較し、中国語を母語とする日本語学習者に受身文を教えるとき、「非情物主語の直接受身文」や「自動詞受身文」や「目的語がつく間接受身文」などは、指導上のポイントとしてあえて取り上げるべきだ、と指摘した。同じ中国の教科書の中の受身に関する研究として、劉・趙(2010)、劉(2013)が挙げられる。中国語を母語とする日本語学習者が受身文を学習し応用するとき、母語の干渉で、翻訳がうまく進まない状況がしばしば見られるという問題を解決するために、劉・趙(2010)は中国で出版された教材の中の受身文に関する記述が不十分で、例文も不自然であるなど、学習者に誤用を引き起こす可能性がある、と指摘した。特に自

動詞によって構成された間接受身文は中国語を母語とする学習者に理解しにくい項目の一つで、受身指導を有効に進めるには、教材以外の国内外の文法書も参考にしながら、対策を考えるべきだと述べている。

庵 (2012) は受身が使われやすい四つの場合を指摘した。具体的には「a 対応する能動文の動作主を不問に付したい場合」、「b 影響の受け手の方が影響の与え手より身近な場合」、「c 従属節の主語を主節の主語と統一したい場合」「d 迷惑な気持ちを表したい場合」と述べている。(庵 2012 : 104)

庵もメイナードも受身文の機能を検討したが、受身文の分類法は違っている。川村 (2012) の用語でいうと、庵は立場 A に近い立場をとっていて、メイナードは立場 B に近い観点を持っていると考えられる。庵 (2012) で指摘した四つの場合のなかには、「c 従属節の主語を主節の主語と統一したい場合」は複文レベルでの検討成果である。「b 影響の受け手の方が影響の与え手より身近な場合」は文脈に依存するところが大きいと考えられる。庵が考えていることとメイナードのいう「結果描写」機能と重なっている部分はある。しかし、メイナードが注目したのはディスコースにおける受身文であるが、庵は文レベルの受身文を検討の重点に置いている。劉 (2013) は『新版中日交流標準日本語』(中国で第二外国語教材としてよく使われる) と『新編日語』(日本語専攻の基礎日本語の教材としてよく使用される) という二冊の代表的な教材における受身文解説を例にして、視点と受身文との関係についての解説がなかったということと、文法・文型を強調しすぎる傾向があり、文脈に基づく練習は不自然であることを指摘した。その対策として、強化練習を通して、意味と語用の角度から受身文についての理解を深めさせること、比較対照法を生かすこと、などが取り上げられている。しかし、どのような強化練習を使用すべきであるか、具体案は述べられていない。程・韦 (2014) は受身文の解説デザインを例にして、語用論から日本語読解教材の編集への示唆を語った。具体的には、文脈説明の部分を増やし、語用論の基礎知識を適当にコラムで紹介する、読解の練習問題の設定は作者の意図を問うような問題となるように工夫することなどの、示唆がなされた。

2. 1. 2 先行研究で残された課題及び本研究の位置づけ

2. 1. 2. 1 従来の研究で明らかにされていなかった問題点

第一に、多くの異なる分類研究がされてきていることから、研究者の受身研究への関心度が見られるが、各研究者が微妙に異なる分類を用い、研究成果の比較が難しくなってい

る(表2を参照)。一方、これは受身文習得の難しさも表していると考えられる。習得研究で学習者に理解しやすい定義と分類を検討する研究が期待されるといえよう。

第二に、中国語受身の先行研究から”被”構文の由来と発展、被動表現の基本的な意味特徴は明らかにできるが、「標識のない受動文(“无标被动句 wúbiāobèidòngjù”)」自体の研究はまだ少ないように見える(7本⁶しか見られない)。

第三に、構文、意味、語用に関する中日両言語における受身の比較対照研究がなされてきた。受身と周辺表現との関係に関する対照も着目されるようになってきたと考えられる。均衡コーパスに基づく非構文要素の対照研究、中日受身表現の理解と翻訳についての検討も挙げられる。教育現場で、多様な背景を持つ学習者がどのように日本語の受身文を用いているかを分析する異文化場面の研究も求められるようである。

第四に、先行研究から中国語母語話者の受身習得順序が提案されている。直接受身文は一番先に習得され、持ち主の受身、間接受身、意味上の受身に関する習得は時間がかかると予測できる。両言語の受身表現は対一の関係ではないので、学習者は文法的特徴を踏まえた上で、受身文についての理解を深める必要があると考えられるが、受身習得の量的研究は見られるが、学習スタイルや認知スタイルを考慮に入れたような学習者の個人差に注目した質的研究が期待される。

第五に、中国国内で使用される教材の多くは文法訳読法で教えることが前提で、場面や機能を文型と組み合わせることが多い。先行研究から基礎日本語の教科書の受身記述が見られるが、会話教材の受身の記述に関する考察はまだ見られない。また、受身の習得研究の教材論への応用研究は一本しか見られず(程・韦 2014)、教授法への応用検討も少ない。今後は理解能力と運用能力を重視した応用研究が期待されるのではないだろうか。

2.1.2.2 従来のデータ収集方法では明らかにならなかった問題点

第二言語習得の研究のためのデータ収集の方法として、参与観察、自由作文・日記、対話法、文章完成法、文法性判断テスト法、内省法等が挙げられる。第一に、経費、時間の制限で、質問紙調査の対象の量は限られるケースが少なくないといえる。第二に、中間言語の習得はいつも変化するものだとされるが、調査対象は定まった対象ではないので、同じ対象に何度も調査・テストを実施することは難しいと考えられる。第三に、調査目的と

⁶具体的に、湯(2016)、趙(2013)、周(2010)、羅(2009)、靳(2009)、王(1998)、王(2012)が挙げられる。

焦点が明確であるほど、調査対象が意識的に自分の行為をコントロールする傾向があるので、データの自然性を検討すべきであるといえよう。第四に、テストを受ける関係で、調査対象の産出データには制限があり、調査対象者の内部にあるルールを反映できない可能性がある。従来のデータ収集方法では分からなかった実態があるかもしれないと考えられる。まとまった量の、学習者によって産出された受身文が必要だといえる。

2.1.2.3 新しいツールと方法の導入について

従来のデータ収集方法では分からなかった受身習得の実態があるかもしれないが、その実態を明らかにするためには、まとまった量の学習者が産出した受身文が必要であり、そのために学習者コーパスは有用だと考えられる。情報機器の普及とともに学習者自然産出データの利用が注目を浴びてきている。于康を代表とする研究チームは作文添削ソフト、タグ付与ソフトの開発に力を入れている。受身文の習得研究もそのタグ付与ソフトを利用することが十分可能であると考えられる。

張麟声を代表とする研究会の研究者は誤用観察と検証調査を統合する対照研究を進めている。井上（2002）では、張（2001）の研究について、「学習者の誤用そのものの記述、分析というより中国人日本語学習者の誤用に関する文法研究の観点からの理論的考察という性格が強い」と述べている。受身の習得研究を進めるとき、「仮説—実験—検証」の方法が利用できると考えられる。

2.1.2.4 学習者の話し言葉コーパスに基づく研究

劉・趙（2010）、劉（2013）、毛（2011）、程・韦（2014）等これまでの先行研究では、どのような場でその受身文が発せられたのか、状況や文脈などがあまり考慮されていなかった。文の意味を理解しようとする際に、その文が発せられた状況や文脈のなかで意味を理解しなければならない。発話の場面依存性について、「日本語では特にその依存の度合いが高い」と寺村（1990）が指摘している。許（2004）はその考えに従って「日本語のさまざまな表現の中に、特に場面依存性が強い表現の一つに受身が挙げられる」と述べている。日常会話の場面における受身文の運用は不可欠といっても過言ではないだろうが、国立国語研究所によってなされた学習者による話し言葉に関する研究論文は管見の限り 3 本しか見られない。

2.2 本研究の位置づけ

受身文に関する研究は、上述のように数多く行われている。日本語の受身文の習得における研究の動向と展望を探るために、2017年12月までに入手できる範囲の中国語関連文献と日本語関連文献を分析したところ、日本語の受身研究、中国語の受身研究、中日対照の研究、中国語母語話者受身習得研究、教授法・教材論研究が主要な研究分野となっている。日本語学関係、中国語受身関係、中日対照関係の分野が多く（86本）、構文、意味、形態に関する研究に偏っている。従来少なかった中国語母語話者の日本語受身文習得（2006年以降の発表しか見られないが、それぞれ2006年1本、2008年2本、2010年2本、2011年2本、2012年7本、2013年3本、2014年5本、2015年4本、2016年2本、2017年1本である。）と教授法・教材論領域への応用研究が徐々に増えており（2010年以降の発表しか見られないが、それぞれ2010年2本、2011年2本、2012年1本、2013年1本、2014年1本、2015年2本、2016年1本、2017年2本である。）、多言語比較対照研究、受身・使役等表現選択の研究が現れてきている。とりわけコーパスと日本語教育の統合を目指す研究が多くなり、さらに、作文添削ソフト、タグ付与ソフトを活用する研究手法を導入したものがある。質問紙調査法とコーパス研究法の統合が期待される。中国人日本語学習者に使いやすい習得研究、日本語教育の現場に直接還元できる中間言語習得研究が本格的に始まったところである。

形態的、統語的、意味的、機能的に難易度の高い受身文の習得研究を進めるには、多分野の先行研究を概観しておく必要がある。そして、日本語の受身文の使用実態を調査する際、大規模コーパスは便利な道具であるとされているが、教育現場に直接応用できるまで選別する必要がある。

さらに問題になるのは、受身文の検索操作は現実的に非常に困難ではないかと考えられることである。「(ら)れる」で検索しても、受身用法ではない用例のデータが多数存在していると考えられる。可能、尊敬、自発用法の例を手作業で選別することが不可欠と言えそうである。また、書き言葉コーパスは、様々なジャンルをカバーしているので、言語事実を反映する面から考えると、使い方によっては、便利な道具として学習者にとって参考になりそうな資料を大量に提供できると考えられる。しかし、中国の大学では、日本語を学習する時間は決まっているので、限られた時間内に、学習者が実際に使用する可能性の低い用例を提示する必要も余裕もないと考えられる。

教科書は、海外で日本語を学習している学習者にとって重要なリソースとされているが、

教科書から受けている影響は極めて大きいはずである。学習者コーパスの活用は、一時的に大量の学習者用例を収集できそうであるが、必ずしも同じ種類の日本語教科書を使用して受身文を学んできたとは限らない。教科書の記述と学習者によって産出された中間言語的表現とがどのようにつながっているのか、関連の分析は困難になる可能性がある。そして、学習者がたとえ正しく回答していても、必ずしも正確に理解できているとはいえない。学習者はどのように理解しているのか、学習ストラテジーと回答理由を考察するためには、学習者に直接インタビューする必要があると考えられる。

タグ付与ソフトという新しいツールに関しては、以下の理由で本研究に使用しないこととする。まず、使用する前に付与されたタグをそのまま使用するか、研究者自身が自らソフトで設定するか、あらかじめ設定する必要がある。詳しい内容は第3章で述べるが、本研究の立場を先にまとめると、今までの受身文の一部しかカバーできない立場のとり方を再考し、川村(2012)で指摘している立場A、と立場Bを統合する可能性を探りたい。タグ付与ソフトの場合、基本的に立場Aの流れの理念を基に発展してきたものであると考えている。今後のソフトの更新で、立場Bの取入れも可能になるかもしれないが、本研究ではこの方法を使用しないこととする。

本論文では「視点」に着目して、中国語を母語とする中上級レベルの日本語学習者を対象に、理解レベルと産出レベルに分けて、単文レベルだけではなく、複文レベルでの習得状況をも視野に入れる。前田(2011)で指摘している受身の出現位置の論説を参考にして、「行為者ニ表示」(川村2012の用語⁷を援用することとする)受身文の習得に関する考察を行う。

2.3 研究目的と研究方法

本研究は第二言語としての日本語の受身文に関するより効果的な指導方法を探るために、中国人母語話者による場面依存性の高い受身を日中視点の相違の角度から考察し、その使用実態と運用能力を明らかにした上で、日本語の受身文の使用と習得に関わる要因を、日本語教育の立場から検討し、明らかにすることを目的とする。

上述した目的遂行のために、以下の①日本語中国語双方向の対訳データの調査、②質問

⁷ 川村(2012)は〈被影響〉の内実規定に関して、「〈被影響〉の内実をめぐる検討は、「固有の受身」を対象に行うことになる。具体的には、有情者主語、《行為者》ニ表示の受身文が中心的な検討対象となる」(川村2012:71)と述べている。その「《行為者》ニ表示」という用語を、本研究で採択することとする。

紙調査③インタビュー、④中国で出版されている日本語教科書の調査、という四つの研究方法で三つの課題を検討した。

日中視点の差異、とりわけ受身の出現位置と視点との関係（課題1）に関して、日本語中国語双方向の小説から対訳データを収集し、タイプ1（日本語○中国語○）、タイプ2（日本語○中国語×）、タイプ3（日本語×中国語○）の3種類に分けて、分析を行う。

学習者がどのように理解され、どのように産出されているか（課題2）を解明するために、理解レベルを測る文法選択・翻訳テストと産出レベルを測定する短文完成テストに分けて、質問紙調査を実施し、データを収集する。質問紙回答の理由と判断基準に関して、インタビューを行う。

質問紙の回答から見られた中間言語的な表現は、中国での現行の日本語教科書における受身文の導入方法と、どのような関わりがあるか、視点の観点からどのように工夫できるか（課題3）に関して、最近（2005年～2015年）中国で出版された大学生向けの日本語教科書を調査対象に受身文の提示方法、提示内容、視点との関わりをめぐって整理し、考察を加える。

第3章では、本研究で扱う基本概念に関して述べる。

第3章 本研究で扱う諸概念

3.1 受身文の定義

3.1.1 日本語の受身文の定義に関して

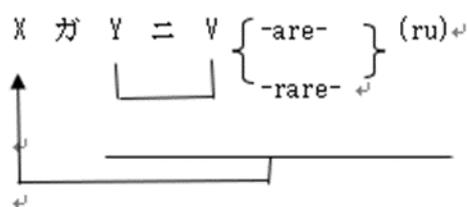
『日本語のシンタクスと意味 I』において、寺村（1982）は受身の定義について、次のように規定している。

受身というのは、要するに、動作・作用の主体が、他の何ものかに働きかける場合に、動作主、つまり動きの発するところを主役とするものでなく、動きを受けるもの、動きの向う先を主役として事態を描く表現であるが、それが文法的に受動態と認定されるためには、（それぞれの言語で）一定の形態的、統語的、意味的特徴を具えていなければならない。

（寺村 1982 : 213）

寺村氏の観点では、受身を認定する基準は三つある。形態的基準、統語的基準、意味的基準である。具体的に、「述語動詞が受身の形態を具えていることに加えて、次のような統語的特徴が具わっており、しかもその統語構造の成分の間に次のような意味的關係が認められるということが必要だということになる。

図1：寺村（1982）の受身認定に関して



Y : V の動作・変化・出来事の主体

X : 「Y が V-スル」 ことによって影響を受ける (affected) 主体

（寺村 1982 : 214）

川村（2012）はラレル形述語文のカテゴリーで受身意味の内実を検討しているが、本研究は、〈被影響〉の意味内実を中国人日本語学習者にわかりやすく提示するための試みの一

つであるが、川村（2012）の認定範囲より広い概念を設定している。それは、受身の出現位置の角度から視点と受身使用との関りを明らかにしようとするためでもある。

日本語の受身文の分類に関して、数多くの先行研究が蓄積されてきている（山田 1908、松下 1930、三上 1953、鈴木 1972、寺村 1982、工藤 1990、金水 1993、張 1997、堀川ほか 2003、張 2006、志波 2012 等）。受身文をめぐるいろいろな角度からの検討は、日本語学の発展に貢献できると思われる。川村（2012）は「受身文」を〔ラレル〕形述語文の一タイプとして捉え、意味的特徴から研究史を整理して、「〈はた迷惑〉の有無」を重視して受身文を二分類する立場（立場 A）と「〈被影響〉の有無」を重視して受身文を二分類する立場（立場 B）、及び互いの関係を論じた。結論として、「立場 A は、そもそも直接受身文（あるいは〈まとも〉な受身文）をこそ受身文と見て、間接受身文（あるいは〈はた迷惑〉の受身文）を受身文規定から除く立場である。……それに対して、立場 B は、「〈被影響〉の意味を表す」という点に受身文の本質を見出すので、間接受身文を問題なく受身文に含めることが可能であると同時に、〈被影響〉の意味を表さないものは受身文から除くことができる」（川村 2012 : 112）

立場 A、立場 B の位置関係について、川村（2012）の整理を次の表にまとめることができる。

表 3：立場 A の下位分類と立場 B の下位分類との位置関係

立場 A	〈まとも〉 ⁸		〈はた迷惑〉
例文	11	12	13
立場 B	〈無影響〉		〈被影響〉

例 11 a 会議が議長によって招集された。

b 新しいビルが〇〇建設によって建てられた。（川村 2012 : 29）

例 12 a 太郎が先生にほめられた。

b 太郎が先生に話しかけられた。（川村 2012 : 29）

例 13 a 次郎が娘に高い服を買われた。

⁸三上（1953）の分類法の用語である。「まともな受身」は、対応する非受身文のヲ格・ニ格目的語が受身文主語に立つものである。意味については「動詞の意味次第で恩恵にも迷惑にもなり、まん中で平気なことも起るが、その迷惑にしてもはた迷惑ではなく、真向からの被害である」（三上 1953 : 104）と述べている。

b 次郎が子供に一晩中騒がれた。(川村 2012 : 29)

川村 (2012) の指摘した立場Bを取って、受身文の定義について、「[ラレル] 形述語を持つ文のうち、(有情の) 主語者が感じる被影響感としての〈被影響〉を表すもの」と述べている。川村 (2012) は、大きな流れとして立場A (〈はた迷惑〉という意味の有無に注目するもの) と立場B (〈被影響〉という意味の有無に注目するもの) がある、と指摘している。さらに、意味的な角度から受身文を規定する際に、そのどちらかの立場に立ちざるを得ないことと、どちらの立場に立つ場合でも、従来「受身文」と呼ばれてきた文の一部が再認定された受身文からは排除されることになると2点を主張した。

表 4 : 立場 A と立場 B との関係に関して

立場 A	直接受身文	間接受身文
	はた迷惑の意味が出る	はた迷惑の意味が出ない
	対応する能動文あり	対応する能動文なし
立場 B	タイプ 1	タイプ 2
	有情物主語	はた迷惑の意味が出ない
	行為者表示 : 二 被影響の意味が認められる	行為者表示 : ニヨッテ 被影響の意味が認められない

川村 (2012) の提示しているこれまでの受身文の分類の仕方に関して、渋谷 (2014) は 2 つの立場の関係をめぐって、次のように論じた。

立場 A (対応する能動文の有無あるいはいわゆる「(はた) 迷惑」の意味が出るか否かによって分ける立場) と立場 B (主語が有情か非情か、あるいは《行為者》項の表示が二かニヨッテか、〈被影響〉の意味が認められるか否かの観点で分ける立場) である。

渋谷 (2014 : 146)

立場 A と立場 B は受身文という研究対象に対する関心が違っているだけで、立場自体は優劣がない。教育現場では、間接受身文は中国人日本語学習者にとって習得困難な点であると報告する研究 (徐 2006、王 2012 等) も挙げられるが、今まで立場 A の角度から能動文と対応しながら受身を解説するという方法が悪いわけではない。別の角度から具体的に立場 B の研究成果を取り入れて、問題解決に向けて考えることも案の一つではないかと考え

た。

受身文の定義について、「[ラレル] 形の形態をそなえている文のうち、主語者が感じる被影響感としての〈被影響〉を表すものである。被影響感の意味は、受身の具体的な出現位置によって、異なっている。文脈依存性の高い受身を単文末、複文末、連体修飾節、連用修飾節、引用節、疑問節の6種類に分ける。

中国の日本語教科書では、直接、間接の二分類法が広く使われてきている。中国での受身文に関する学術研究では、基本的にその立場Aの観点の文献を引用しながら、議論を展開していく。(直接、間接、持ち主の三分類法も取り上げられるが、二分類法の延長とされている。川村(2012)の用語を援用すると、同じ立場Aに立っている観点ではないかと考えられる。)

教育現場では、受身文は形態的・統語的・意味的・機能的に難易度の高い文法項目とされている。中国人日本語学習者を想定すれば、教育現場で応用する際、分類の説明はもちろん不可欠な部分であるが、どの流れの観点を支持しても、日本語の受身文の本質と実態を反映できれば十分かもしれない。重要なのは、受身文を、誰に対して、どのように使えばいいのか、という問題であると考えた。分類を詳細化して、関連の専門用語で説明すれば、学習者の一部は関心を持つ可能性もあるが、大学でゼロ初級から日本語を学ぶ中国人学習者の全体像とニーズを考慮に入れると、どの先行研究成果を、どのように応用をすればいいのか、工夫する必要があると思われる。

本研究は、日本語の受身文の習得に関する2017年12月までで入手可能な先行文献を概観した上で、日本語の受身に関して、川村(2012)で指摘している「被影響」の観点を受ける。〈被影響〉という用語を最初に使ったのは尾上(1999)ではないかと考える。従来の研究史では、「影響」「利害」「受影性」等とも呼ばれてきた。本研究では、尾上(1999)、川村(2012)に倣って、〈被影響〉という用語で分析を展開していく。

尾上(1998、1999、2003)は、[ラレル]形述語文をトータルに捉えようとする一連の議論の中で受身概念を意味に注目して定義している。その意味的特徴を、「他者の行為や変化(典型的には他者の意志と他者の力の発動)の結果、あるものが自らの意志とは関係なく(いやおうなく)ある立場に立つことになるという事態把握のあり方」と規定している。川村(2012)はその学説を受けて、受身の意味を更に詳細化して、「話者の事態把握のあり方」という表現で指摘している。

〈被影響〉、すなわち「主語者の感じる被影響感」とは主語者の内面に関する話者の把握の仕方によって成立する意味であるから、〈被影響〉を表す受身文には、結果として主語者の内面に踏み込み解釈する話者の姿勢が当然読み取れる、ということであろう。

(川村 2012 : 74)

川村 (2012) で述べている「被影響」は「主語者の被影響感」のことを指していて、「話者の事態把握の仕方」の結果から現れる意味に当たる (川村 2012 : 77) 川村 (2012) は古代日本語の受身をも含めるラル形述語文を主な研究対象として研究を展開しているが、〈被影響〉は、主語者がどんな影響を感じているか、その影響によって出された判断の結果として、言語化した表現ではないだろうか。したがって、「被影響」は話者の判断あるいは話者の語感に頼りところが大きいと考えられる。示唆に富んだ指摘であるが、学習者にとってどのように〈被影響〉の内実を把握するか、形態上の支えを提供することは、そのための工夫の一つと言える。

受身の〈被影響〉の意味は、どんな出現位置においても、同じように感じられるわけではない。ここでは、川村 (2012) で提示されている例を援用しながら、説明をする。

例 14 A おじさんが孫に背中を押された。

例 15 B おじいさんが娘に肩をもまれた。

例 16 A おじさんが孫に背中を押されて歩いている。

例 17 B おじいさんが娘に肩をもまれながら眠っている。川村 (2012 : 82-83)

川村 (2012) は「動詞ラレル形が主文末に現れる例では〈被影響〉(文脈によっては悪影響)の意味が感じられる。しかし、動詞ラレル形が従属句述語である例では、〈被影響〉の意味が感じにくくなり、中立的な状況描写表現に近づいている。」(川村 2012 : 82) と述べている。

従属句の動詞ラレル形では「被影響」の意味が感じにくくなるという現象と指摘している。坪井 (2002) は、久野氏の指摘しているなぜ従属句では〈被影響〉の意味が薄れるのか、に関して、以下のように解釈している。従属節は他動性が提言する位置であることから、行為者二表示の受身文の持つ「行為者性」が表面化しないため、許容度が上がる、という趣旨で述べている。

示唆を受けている研究成果であるが、〈被影響〉の意味の把握は、ゼロ初級から日本語を学ぶ学習者にとって、理解しにくいところがあるかもしれない。しかも、日本語学研究の

文の許容度と日常生活の許容度は別の次元の話ではないかと考えられる。受身の「被影響」という意味の内実を理解するために、前田（2011）で指摘している分類法の活用を考えた。

前田（2011）は、受身の認定について、「動詞の語幹に（r）areruを接続させた形態であり、能動形に戻せるものを受動表現と認定した。可能・尊敬・自発（思い出される・思い返される）は除き、また、受身形のみが慣用的に用いられると考えられる「（先が）思いやられる」、名詞化した「憎まれ（役）」「お呼ばれ」「とらわれ（身）」等も排除した。」（前田2011：69）と述べている。

前田（2011）は更に、受身の出現位置により、次の6種類に分類している。下線は筆者によるものである。

①単文末に現れる場合

例 18 私は兄に叱られた。

②複文後行節（＝主節）に現れる場合

例 19 陽子は夜遅く家に帰り、兄に叱られた。

③引用節に現れる場合

例 20 陽子は兄に叱られたと言った。

④疑問節に現れる場合

例 21 陽子が兄に叱られたか、わからない。

⑤連体的複文先行節（＝連体修飾節）に現れる場合

例 22 兄に叱られた陽子は、大声で泣き出した。

⑥連用的複文先行節に現れる場合

例 23 兄に叱られて、陽子は泣き出した。

前田（2011）の分類法では、慣用表現に現れている受身を除いている。しかし、それらの慣用表現から、受身の「被影響」の意味内実と文法的発想を反映できる可能性がある。上述の考慮から、受身形を含める慣用表現を別立てて扱う必要があるかもしれないが、本稿では、認定範囲に入れる立場をとっている。

視点に着目して、中国語を母語とする日本語学習者の文脈依存性の高い受身文習得を進めていくために、前田（2011）の受身分類に従う。文脈のある環境で習得研究を展開していくためである。

森田（2002）は受身文に潜んでいる日本語文法の発想について、次のように述べている。（下線は筆者によるもの）

受身といい、可能といい、はたまた尊敬といい、その基本にある共通認識は[主体対他者]の関係の上に成り立つ問題だということである。本書の序章で述べたことの繰り返しになるが、ここでいう「主体」「他者」とは周囲環境や社会・人々を含めた己を取り巻く世の中（外）を己に対する「他者」として認識し、その他者によって影響を受け、対応を左右される「己」を（内）として考える。……中略……と同時に、外なる存在によって規定されていく現象は、内なる己ないしは第三者による傍観的視点に立てば、まさに「受身」そのものの有様ではないか。日本語の受身表現に主観的な迷惑の受身と客観的な受身とがある事実もこの2種の己の視点からと、傍観的視点からの差異が根底にあるためと考えるよからう。

（森田 2002 : 208-209）

森田（2002）の受身の発想に関する論述は日本語の受身文について理解を深めるいい参考資料になりそうであるが、どういう時点でどのように受身の解説に入れたら、中国の大学でゼロ初級から日本語を学ぶ学習者にとってよりわかりやすい説明になるか、現場に応用するために、それなりの工夫が必要だと思われる。現行の中国で出版されている日本語教科書の受身解説の枠組とデザインを最大限に活用する考え方もある。

更に、森田（2002）の「他者によって影響を受け、対応を左右される「己」を（内）として考える。」という記述のなかの「影響を受け」という表現は一見して、川村（2012）の「被影響」と同じ意味であるかのように理解してしまう可能性があるが、両者の用語の射程範囲は異なっていると考えられる。川村（2012）によれば、〈被影響〉が感じられるのは人のみであるため、〈被影響〉が認められるタイプの受身文の主語が有情者になる。一方、森田（2002）は受身の主体に関して、以下のように述べている。

日本語の受身の発想が、外なる存在によって己が規定されていくことに基づくと考えると、受身の主体はヒトに限られると思われがちである。事実、人間主体の受身形はきわめて多い。また、それが日本語の日本語らしい受身とも言われている。だが、日本語の受身表現は人間を主語に立てるのが本来か、見直してみる必要がある。

（森田 2002 : 210）

川村（2012）はラル形述語文の角度から古代の日本語の言語形式を含めて受身文を把握しているため、対象として扱っている受身文は研究目的の関係で特化されていると考えられる。受身文の意味的な内実を規定している〈被影響〉の適用は有情者主語の場合に絞っていると見えそうである。森田（2002）は、視点の角度から「影響」の意味を捉えていて、日本語の受身表現に主観的な迷惑な受身と客観的な受身とがある事実は、内なる己の視点から把握するのか、第三者による傍観的視点から把握するのかの差異が根本にあると指摘されている（森田 2002:208-209）。よって、森田（2002）で扱っている「影響」は川村（2012）で述べている「影響」より射程が広いと考えられる。

森田（2002）も前田（2011）も、連体修飾節に出現する受身を認める立場である。それに対して、川村（2012）は古代受身を含めるラル形述語文を主な研究対象として進めた総合的な受身研究と考えられるが、連体修飾節に出現した受身を研究対象として扱わない立場である。本研究は受身の出現位置の実態調査に即して、受身の使用実態を反映する角度から、連体修飾節に出現した受身を受身形⁹と認める立場である。

使用実態に即した受身の出現位置の角度からの分類法を日本語の受身文の解説に用いることは視点に着目して中国人日本語学習者の受身習得研究を行うためである。筆者が前田（2011）から一番示唆を受けている点は、その連用修飾節と視点との関わりの論述である。前田（2011）は連用修飾節に出現した受身は、視点統一のためである、と指摘している。詳しい内容は本研究の第4章で展開するが、対訳データの考察結論の一部をここで先に述べると、筆者による日本語中国語双方向の対訳小説データの分析を通して、受身出現位置の使用実態の傾向は、前田（2011）でシナリオを材料にして行った調査の結論とほぼ一致している（連用修飾節に出現した受身は全体の四割ぐらいを占めた）。実際に中国の日本語教育現場に応用するために、コーパスを活用してデータを選別した後、もっと大規模な調査と検証を行う必要があるだろうが、対訳データを活用する試みの一つではないかと考える。視点と受身使用との関係をさらに深く議論するための基本資料として提供することができるのではないだろうか。

⁹ 教育現場に応用する立場から、ここでは受身形という用語で表現することとする。受身表現という言い方には語彙レベル、文レベル、連文レベルなどもカバーできる表現であり、便利な言葉であるが、曖昧なところがないとはいえない。本研究は、連体修飾節に出現した受身を受身形と呼ぶ。受身形の指定範囲が受身文より広いと考えられる。本研究は、視点に着目した受身文の習得研究であることから、連体修飾節に出現したものは実態調査の結果に入れた。それは、連体修飾節に出現した受身形の使用から、誰がどこから何を見ているか、ということ判断できる可能性があるからである。ただし、本論文では、中日連体修飾節の比較分野の問題を触れないこととした。

上述の考えを踏まえて、日本語の受身文の定義に関して、本稿では、森田（2002）の日本語の受身文に潜んでいる日本語文法の発想の論述と、川村（2012）の立場 B の「被影響」の観点を参考にして、基本的に前田（2011）で提示されている受身の分類法を支持することとする。

3.1.2 中国語の典型的な受身表現“被”構文の定義について

大河内（1982）によると、中国語の受動文は「被」構文（“被字句”）と、受身の形式を持たない受身文「標識のない受動文（“自然被动句”）」に分類され、「“被、叫（教）、让、给”」などが動詞の前に主動者（動作を発する方、仕手に相当する）とともにあらわされるという。また、「被、叫（教）、讓、給（“被 bèi、叫（教）jiào、让 ràng、给 gěi”）」などを使った受身文は「被」構文（“被字句”）と総称される。大河内（1982：319）は以下の例文を提示している。（例文番号は論述の便宜上、調整あり。日本語訳は大河内氏によるもの。下線は筆者による。）

例 24 人们批评了他。

→他被人们批评了。（日本語訳：かれは人々に批判された。）

例 25 他弄坏了钢笔。

→钢笔叫他弄坏了。（日本語訳：ペンはかれにこわされた。）

例 26 学生借走了那本书。

→那本书让学生借走了。（日本語訳：あの本は学生に借りられた。）

例 27 风吹开了门。

→门给风吹开了。（日本語訳：ドアが風に吹き上げられた。）

「被」構文（“被字句 beiziju”）は中国語の典型的な受身文だと考えられるが、中国語の「讓」という介詞は使役にも受身にも使うことが可能である。認知解釈の優先順位が異なっている。（古川 2002）。

以下は松岡・費・古川・樋口・白井・代田（2008）の記述に従って、以下は「被」構文の文法上の特徴について説明を行う。

● 被害表現

前置詞“被”はもともと「被る」という動詞であるので、“被”構文による受身文は当事者の意のままにならない気持ちや望んでいない気持ちを表現することが多い。したがって、不満な気持ちを表さない表現には不向きである。

例 28 他被老师批评了。

彼は先生に叱られた。

しかし、最近¹⁰は受動者にとって好ましい場合にもしばしば用いられる。

例 29 她被一个善良的人救活了。

彼女はある情け深い人に命を救われた。

- “被”の後ろに名詞（行為者）を伴わず、直接、述語動詞を取ることができる。

例 30 他被派到外国去了。

彼は外国に派遣された。

- “被”構文の述語動詞

“被”構文の述語動詞は原則として裸のまま単独で使用することはまれで、動詞の前後に何らかの補足成分を伴う必要がある。補足成分は以下の通りである。

①動詞の後ろに付加されるもの

A アスペクト助詞“了、着、过”

例 31 我被他打了。

私は彼に殴られた。

例 32 山顶被白雪覆盖着。

山頂は雪に覆われている。

例 33 他从来没有被人们尊重过。

彼はこれまでこんなにも人に尊重されたことはなかった。

B 結果補語・方向補語・様態補語

例 34 衣服都被雨淋湿了。

服は雨に濡れてしまった。

C 目的語

例 35 我被老师批评了一顿。

私は先生にこっぴどく叱られた。

②動詞の前に付加されるもの

例 36 这个建议已经被大家接受。

この提案はすでに皆から承認された。

¹⁰ この「最近」という言葉は、松岡・費・古川・樋口・白井・代田（2008）の記述で用いられる用語である。出版年である 2008 年の前に現代中国語の言語事実すでに表れている現象ではないかと考えられる。

③ “被” 構文を作れない動詞

存在や状態を表す静的動詞など、例えば「是，有，在，当，象，得，起，接近，离开，产生，依靠」など。

- “被” 構文の打消しなど語順の注意点

否定詞や助動詞は“被”の前に置く

例 37 这一点必将被历史证明。

その点はきっと歴史によって証明されるであろう。

- “被…给…” “被…所…” “被…把…” 形式

①動詞の前に“给”を置いてより口語的な感じを出す。

例 38 我的自行车被小王给骑走了。

私の自転車は王くんに乗って行かれてしまった。

②動詞の前に“所”を置いていくらか書き言葉的な感じを出す。

例 39 被好奇心所驱使

好奇心に駆り立てられる

③ “被” 構文は“把” 構文とともに用いられることがある。

“把”の目的語は主語と同一のものか部分を指す。

- その他

話し言葉では“被”より“叫”“让”が多用される。

上述した内容は、中国語学の角度から中国語を学ぶ日本人学習者向けの辞典に載せられている記述であるため、中国語の受動文の用法と特徴を簡潔に整理している。中国人日本語学習者は基本的な文法知識がないまま、語感に頼って、受身文を使用すべきかどうか、動詞が日本語の受身にできるかどうか、を判断する可能性がある。日本語の受身文の習得を促進させるためには、日本語学習者には母語である中国語の基本文法知識の提示も必要ではないかと考えている。すべての内容を受身導入の時点での解説に用いることができるかどうか、それは各大学の実状を考慮しながら、学習時間を配当する必要があるかもしれない。少なくとも、“被”構文の述語の特徴及び“被”構文を作れない静的動詞に関して、コラムあるいは課外読み物の形で学習者に提示することも関連の知識を了解させる方法の一つかもしれない。

3.2 視点の定義に関して

文学あるいは言語学研究分野での「視点」の内実について、姚（2012）は次のように述べている。「“視点”一般指写作者(说话人)对客观事物和情状的观察角度，或是对客观情状加以描写和叙说的出发点。（筆者訳：視点は、書き手（話し手）が客観事物と状況・様子を観察する角度、あるいは客観状況を描写する、叙述する際の出発点）である。（姚 2012: 13）

辻（2013）は『新編 認知言語学キーワード事典』（研究社）で「視点／観点／パースペクティブ（viewpoint／perspective）」について、次のように述べている。

視点・観点は、厳密な区別なしで用いられる場合もある。そうした場合は、概略、主体である話し手が事態の解釈において選び取った見方の意である。…中略…視点と観点を区別して用いた場合、視点は観点を含む広義の意味で言及されることが多い。視点はほぼ「視点の配置」（viewing arrangement）に等しく、観察者と観察される状況の全体的な関係を言う。

そして、「視点の配列」を「事態と自分の視点との関係を表す表現法のことである。」と定義し、代表的な「視点配列（(optimal) viewing arrangement）」を挙げている。

- ① 主体（事態を見ている人間）が自分を参与者として含めずに事態を描く捉え方を言う。
- ② 事態の外から話し手である自分（we）が参与者となっている。
- ③ 主体の視界（view）が事態の場を形成し、話し手である自分は事態の中で主体でも客体でもない。
- ④ 話し手が事態の中に入り込んで、自分の存在を意識しない描き方である。

『認知言語学キーワード事典』（2004年）では、「視点／観点／パースペクティブ」について、次のように記述されている。

認知言語学では、人間を通して見た外界認知の現れとしての言語を研究対象にしている。この立場から言うと、言語で表されている事態とは、人間から切り離された客観的な存在ではなく、五感を基礎とした身体感覚や種々の経験を基にしたもので、個々の人が数ある見方・切り取り方の一つを主体的に選び取ったものである。認知言語学で解釈

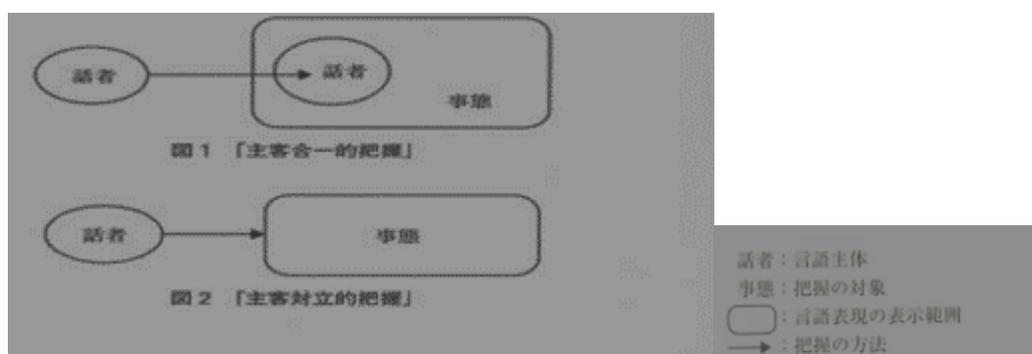
と呼ばれるこの基本的な外界理解には、いくつかの特徴が見いだされる。視点／観点／パースペクティブという三者の用語は、厳密な区別なしで用いられる場合がある。

(辻 2004 : 98)

また、「解釈・捉え方・解釈する」について、次のような記述がある。「解釈とは、発話のプロセスにおいて把握事態を分節し、意味あるものとして構築する創造的な営みを言う。解釈の仕方を特に『捉え方』と呼び、専門用語として用いる。」(2004 : 20)

ここで言う視点や解釈のことを、池上氏一連の研究では事態把握として、多くの研究で言及している。池上(1981)は、話し手の事態把握は大きく2通りあると指摘した。1つは〈個体〉＝〈もの〉中心的事態把握で、もう1つは〈出来事全体〉＝〈こと〉中心的事態把握である。事態把握に基づいて言語を類型化すると、前者を「する言語」、後者を「なる言語」と呼ぶことができる。そして、英語は「する言語」の典型であり、日本語は「なる言語」である(近藤 2012)。池上(2012)では、事態把握の仕方について大きく〈主客合一〉的的事態把握と〈主客対立〉的的事態把握があると述べている。図2は、趙(2016)が池上の論述を図示したものである。

図2：池上(2012)の事態把握の仕方に関して



出典：(趙 2016 : 62-63)

〈主客合一〉的的事態把握型言語では、図1で示しているように、話者が自己投入して事態を把握する。この場合、話者である「私」は言語化されないのが普通である。それに対して、〈主客対立〉的的事態把握型では、話者が言語化とする事態の外に身を置き、客観的に事態を把握する。事態の捉え方は大きく分けて主観的と客観的とに分けることができる。

〈事態把握〉が言語表現に影響を与えることは、近年の研究によって実証されている。その典型的な例として、川端康成の『雪国』の冒頭部分と英訳の違いが挙げられる。

例 40 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車

が止まった。

(『雪国』)

The train came out of the long tunnel into the snow country. The earth lay white under the night sky. The train pulled up at a signal stop.

(『Snow country』)

『雪国』の冒頭部分の英訳では、「外側からの目で何が何をしたのかと、より客観的に事態をとらえて言語化している」が、日本語の原文は「〈主観的事態把握〉による、汽車から見えたままを言語化したものである」(守屋 2009:6)。よって、日本語は主観のほうに属し、英語は客観のほうに属するといえよう。中国語に関してはまだはっきりした位置づけがされていないように見えるが、英語に近いと考えられる。日本語は「視点優位」の言語で(金水 1992)、「話し手中心(私)」の事態把握の傾向を持つ言語と思われる(池上 2009)。トピックに対する視点・立場やそれにともなう情的な差が受身文と能動文の選択と密接な関係があると考えられる。それに対し、下地(1999)によれば、中国語は現実的結果がすべてに優先して重視される「結果性優位」言語であるということである。意味的に言えば、中国語は客観的な事実・現実的結果を述べることに重点を置くのに対して、日本語は客観事実をどうとらえるか、どういう影響が自分にあったかという観点から述べる表現に重点を置いている。こういう意味から、日本語は主観的な言語で、中国語は客観的な言語であるといえよう。

池上(2016)は〈事態把握〉と呼ばれる概念の枠組みの中で、〈視点〉として扱われてきた問題群を位置づけ、〈見る〉という営みの構成・運用に関わる対立要因を次の対立軸で再構築している。

- I i 〈見る主体〉(話者) — 〈見られる客体〉(言語化される〈事態〉)
 - ii 〈視座〉(〈見る主体〉の占める位置) — 〈注視点〉(〈事態〉の見られる部分)
- II i 〈視座固定〉 — 〈視座移動〉
 - ii 〈見られる客体〉についての認識 — 〈見る主体〉についての認識
- III 〈見え〉(〈見る主体〉によって生成される〈事態〉のイメージ) — 実体としての〈事態〉

池上(2016)で指摘されたことであるが、Iは基本的要因、IIはその運用、実践に関わる要因、IIIは運用、実践により生成される要因である。その中の「〈見る主体〉についての認識」について、「環境の知覚についての変化を通して自己の変化を認識するということ」と解釈している。

「する」言語 (do language)、「なる」言語 (become language) は、池上 (1981) によって提唱された認知類型論的言語類型である。「する」言語とは、英語 (例文 41A) のように「動作主を文構造の中心的地位にすえる」傾向の強い言語であり、「なる」言語とは日本語 (例文 41B) のように「生じた事態そのものを中心に置き起因は任意的な要素として扱う」傾向の強い言語である。

例 41 A. We are going to get married in June.

B. 私達、6月に結婚することになりました。(池上 1981 : 198)

池上は前者のような〈個体〉中心的な捉え方を「もの」的捉え方、後者のような〈全体的状況〉中心的な捉え方を「こと」的捉え方とした。例文 (2) は英語の「もの」(個体) 的な捉え方と日本語の「こと」的な捉え方を示している。

例 42 A. You love John, don't you?

B. あなた、太郎のこと好きなのね。(池上 1981 : 257)

「する」言語・「なる」言語と同種の認知類型論的言語類型に J. ハイネズによる「人間焦点」(person-focus)・「状態焦点」(situation-focus) (Hinds 1986; cf. Nisbet 2004) がある。池上は、「する」言語対「なる」言語の類型から示唆される現象として、以下の (I) ~ (II) のような認知類型論的現象を指摘している (辻 2013)。

I 場所の変化が状態の変化を表す動詞に転用される傾向の強い言語 (例: 英語) と、状態の変化を表す動詞が場所の変化に転用される言語 (例: 日本語) という対比。前者は個体中心的な捉え方が場面の状態変化にまで拡張されており、後者は逆に出来事中心的な捉え方が場所変化にまで拡張されている。

II ある意図的な行為がなされる場合、その行為のみならず、意図された結果の達成が含意される傾向 (到達点志向性) が強い言語 (例: 英語) と、行為だけを表して、意図された結果の達成までは含意されない傾向が強い言語 (例: 日本語) という対比 (影山 2002)

その後、「する」言語・「なる」言語という認知類型論的対比は、日英語以外の研究に様々な言語 (例: 中国語、インド諸語) に対して適用されつつある (例: 池上・守屋 2009, 西光 2010)。

(辻 2013 : 196)

日本語の視点の研究では、森田（1998）や金谷（2004）などがある。森田は日本語の発想と英語の発想を比較し、日本語の発想は蛇のように前へ進みながら進行方向を適宜変えていくことが許される恣意性の高い言語であるとしている。これは、日本語の視点が己の視点を通して物事を捉えているからであり、この視点は、固定的ではなく時間や状況によって移動が可能で、蛇が地上を這っているような視点なので、「蛇の視点」と呼んでいる。

一方、英語の視点は、物事を空から眺めるように傍観的に捉えるものであり、鳥が空高くから見下ろしているような「鳥瞰図」のようなもので、「鳥の視点」と述べている。また、金谷も日本語の視点を英語の視点と比較し、英語の視点、日本語の視点をそれぞれ「神の視点」「虫の視点」として各言語の視点について述べている。「神の視点」とは言語化される状況を遠くから見る視点であり、森田の「鳥の視点」と同じものである。また、「虫の視点」は言語化されようとする状況の中に視点がある。森田の「蛇の視点」と同じ視点である。

事態把握の仕方は、言語によってそれぞれ特徴があるかもしれない。言語類型論の内容も絡んでいると考えられる。受身文の習得研究の参考のために、日英比較分野の研究成果をも概観した。今後の関連研究の参考になりそうな指摘は少なくないが、とりわけ「する」型言語、「なる」型言語という池上氏の観点は示唆が多い。受身文の習得と自他動詞の習得とは接点があると思われるが、それを含めるヴォイスの選択に関する総合研究として、杉村泰氏の一連の研究が取り上げられる。その理論上の根拠の一つとして、受身文と自動詞は同じ「なる」型言語表現であることではないかと考える。対訳データの考察の部分で詳しく述べるが、中国語のほうは受身を使っているが、それと対応する日本語の表現として受身が使われないタイプもある。そのタイプの中で、半分以上は自動詞とかかわっていることが明らかになったのである。

中国語を「する」型言語に近い言語、日本語を「なる」言語に近い言語と理解することが、日本語学習者向けの受身文指導法に資するかどうか、管見の限り、関連の実証研究は少ないように見える。近藤（2012）のように「ていく」「てくる」の角度からの考察が見られるが、どこまで「する」型言語に近く、どこまで「なる」言語に近いのか、実証研究のデータでそれを示すことは難しいと考えられる。

久野（1978）は視点という概念で、移動動詞「行く/来る」文、授与動詞「(て)やる/(て)くれる」文、受身文の項目のなかに、視点（主に共感度視点）がどのように関与しているかについて考察を行った。久野氏の観点によると、視点は、ある出来事を描写する場合、

話し手がどこにカメラを置いてその事実をとらえているか、ということである。久野(1978)は「共感度」という概念を用い、それを次のように定義している。

文中の名詞句のX指示対象に対する話し手の自己同一視化を共感(empathy)と呼びその度合い、すなわち共感度をE(x)で表す。共感度は、値0(客観描写)から値1(完全な同一視)までの連続体である。

(久野 1978 : 134)

単一の文は、共感度関係に論理的矛盾を含んでいてはいけな。単一文だけではなく、複文にも適用される、という視点の一貫性について指摘している。久野(1978)は、「発話当事者の視点ハイアラキー」の規則をも論じているが、久野氏によれば、話し手は、自分の目にカメラを置いて文を作り出さなければいけな。

「森さんが私に仕事を頼まれた」のような文は不自然な文となっているが、上記の規則で解釈できると考えられる。「受け身文のカメラ・アングル」は話し手の視点が主語よりE(森さん) > E[私]であることを要求するが、それに対して、「発話当事者の視点ハイアラキー」は視点が話し手寄りE(私) > E(森さん)であることを要求する。したがって、この二つの視点が論理的に矛盾していることから、この文は不自然な文だと判定して妥当と言えらる。

また「表層構造の視点ハイアラキー」という指摘もある。この理論では、話し手は主語寄りの視点をとることが一番容易である。目的語寄りの視点をとることは、主語寄りの視点を取るのより困難である。受け身文の旧主語(対応する能動文の主語)寄りの視点を取るのは、最も困難である。すなわち、不等式で示すと

$E(\text{主語}) > E(\text{目的語}) > E(\text{受け身文の旧主語})$

となっている。

他方、奥津氏一連の研究では、「視点＝主語項」と捉えている。そして、この主語項という意味における視点は、一度立てた主語を、必要のない限り、できるだけ途中で変更しないために受身文が使われる、という視点固定の原則(奥津(1983:78))という理論の発展まで至っている。

本研究は、久野(1978)の視点の理論を基に、日本語表現の自然さの判断根拠として扱うこととする。

本研究における「視点」を定義するために、これまで「視点」がどのような概念で捉えられてきたかを、大きく三つに分けて概観する。言語学の分野で、特に文法を分析するために視点の概念を積極的に導入した研究としては、まず大江（1975）がある。大江（1975）は「行く・来る」や授受動詞、「売る・買う」など対のある動詞について、主観性（特に方向性）に着目して日英語比較を行っている。久野（1978）は文法と密接に関連する視点的談話法則を、日本語を中心に確立しようと試みた。受身文、授受動詞、相互動詞、再帰代名詞、「行く・来る」などを日英語について広く取り上げたが、視点の定義に関して、「視点とは、文の命題で述べられている事象を観察し記述しているカメラ・アングルの位置あるいはその位置にいる人物である」と述べている。久野（1978）は「話し手はどこにカメラをおいて、この出来事を描写しているか」という「カメラ・アングル」という概念を設定して説明している。この「カメラ・アングル」は誰かに近い位置に設定することができ、最大限その人物に近づいた状態を「同化」「自己同一視化」(Identification) と呼び、「共感度 (Empathy)」という用語で分析を行った。この定義に従えば、文中の名詞句の指示対象 X に対し、話し手は「X よりも Y 寄りの視点」という現象は $E(Y) > E(X)$ で表すことになる。このような「E (X) とほかの共感度との対象関係を指定する定式、不定式」が、話し手の X に対する「視点」と呼ばれるのである。

次に、「視点」を見ると見る対象とに分けて考えたものには、佐伯（1978）や宮崎・上野（1985）がある。佐伯は「視点」を「対象」を「対象を見る目の位置」である「視座」と、「視座から眺めたときに注目される対象の側面や属性」である「注視点」に分けて捉えている。茂呂（1985）は、「視点」を四つの要素に細分化した。この四つの要素は「視点人物」（誰がみるのか）「視座」（どこから見ているのか）「注視点」（どこを見ているか）「見え」（見たこと）である。例えば、「みんなキャーキャー言いながら、地下室へ入っていきましました。」という文の場合、＜視点人物＞は「私」、その＜視座＞は「地下室への入り口のある場所」、＜注視点＞は「みんな」であり、その「みんなが地下室へ入っていく」様子を＜見え＞として表現したものと分析している。

本研究では、以上の先行研究を踏まえ、日本語母語話者と学習者の受身表現の使用における主語「視点」の置き方や受動・能動の使用状況を考察するため、「視点」の捉え方を「注視点」という概念から考察する。

久野（1978）は受身文について、「表層構造の視点ハイアラーキー」として、{主語>目的語>受身文の旧主語}の序列を主張している。この理論によると、話し手は主語に視点

を一番置きやすく、次が目的語である。他動詞的な出来事においてはその動作主に視点を置きやすく、そこでこれを主語にたてて能動文となるのが普通なのである。すなわち、能動文で仕手が主語の位置に立つということは、話し手の第一関心が「誰がそれをしたか」に向かうと解釈するのがふつうである。しかし、動作主は常に主語になるわけではない。焦点が「主語」から「目的語」に移ると、文が能動構文から受動構文に変わることになる。

カメラ・アングルは言語によって違う可能性が高い。とくに、日本語においては話し手が対象に関心をもっている例が多い。その時、能動文の被動者のほうに視点を置き、それを主語に格上げし、元能動文の目的語を主語から補語に格差上げたものが受け身文である。その時、カメラ・アングルは新しい主語の指示対象寄りである。しかし、中国語表現で能動文で表現した事象は、日本語においては、「誰がそれをしたか」でなくて、「誰がどうなったか」「誰がどうされたか」に関心を持つ場合が多い。

3.3 中日視点の相違をめぐる検討

中日受動表現の比較研究は近年多く見られる。何午（2000）は大量の例文を分析した上、日本語受身文について①一人称のある受身文は一人称を主体として述べる、その主語がよく省略される②一人称のない受身文は取り立てて説明したい人物をよく主体とする③常識を述べる場合には常に受動表現を用いる④日本語受身文は自然現象・状態・事件をよく説明の主体にする⑤自動詞による受動表現の特徴など、五つの規則をまとめた。

日本語の角度から中国語受身表現を研究した日本語言語学者もいる。

杉村（2003）は、中日の受身表現に関して考察したが、次のような結論に至っている。中日とも受身表現は「直接受身文」と「間接受身文」がある。日本語のほうが「主観的に話し手の感覚を述べる」ことが構文の動機になるため、「間接受動」が「直接受動」より発達しているという。一方、中国語は「動作の移動（施受関係¹¹）」に焦点を置き、「間接受動」より「直接受動」のほうが発達している。徐磊（2006）は、中日対比の角度から学習者の誤用類型を①感情変化類型の誤用②日本語受け身文主語の制限を無視した誤用③日本語受身文動作主の制限を無視した誤用④日本語受身文の動詞の制限を無視した誤用などいくつかまとめた。言語上の相違点と学習上の問題点とは別々の概念である。以上の先行研究で、比較研究は両言語の受動文を細かく分析し、それぞれの構造を理解するのに大いに示唆を

¹¹ 「施受関係」は中国語の表現であるが、日本語に翻訳すると、仕手と受け手との関係に相当する。

与えてくれた。しかし、こうした比較研究の成果は、現在のところ日本語教育に生かされているとは言いがたい。比較研究の成果を日本語教育実践に役立つものにしようとするならば、言語上の相違点が存在する根本的な原因を求めなければならない。それは言語の使用者が持っているそれぞれの事態把握の仕方と深くかかわっていると考えられる。事態把握の問題はいろいろな問題が絡んでいて、複雑な課題とされている。学習者にとって参考になりそうな研究成果を再整理し、それを活用しながら、中国の日本語教育現場に応用していく必要があるだろう。

従来の視点の研究を見ると、日本語文の受動文・能動文に関する視点的差を考察する日本語学者が多いが、中日受動表現における視点的考察はまだ見られない。実は学習者は実際の学習において、母語の視点の干渉のために、先入観を形成している可能性があるかもしれない。両言語は言語上の相違点が存在するのは確かであるが、学習者が日本語受動表現を学習する当初、それを中国語受動表現と同じように扱ってしまい、後にはその相違を提示されても、なかなか納得できないのは、視点の要素が一つの要因になっているのではないだろうか。

中国語、日本語における受身表現に見られる主語の立て方や受動、能動使用上において相違が確かにあるとすれば、両言語における視点の差が想定できる。また、日本語学習者が受身表現の使用に際し、視点の置き方がどうなるか。母語の視点の置き方が彼らの学習に影響しているのか、を含め、本稿では視点の概念を導入し、視点の角度から中日受動表現の差異を改めて考察したいのである。

中日視点を巡る研究成果を整理すると、表 5 になる。

表 5：中日視点についての研究成果のまとめ

中国語	日本語
事実志向	立場志向
結果重視	状態重視
人間焦点	状態焦点
動作主中心	出来事中心
する型言語に近い	なる型言語に近い

例 43 碗打破了。(茶碗が割られた) (大河内 1982 : 323)

日本語のほうは、受身文を使っていて、視点が客体の「茶碗」にある。それに対して、

中国語の場合、「打破了」という注目に値する変化の結果¹²を表現するために、変化の主体を主語として選択する（下地 1999）。視点は変化の主体にある。例 43 では、「被」をつけて中国語として意味が通じると思われるが、「碗被打破了」¹³よりこの方が自然な中国語である（大河内 1982）。このように日本語と中国語では視点が異なる場合がある。日本語では話し手に視点が寄せられる傾向があり、それはつまり話し手が能動文の被動者である場合には、目的語が主語に格上げされて受身文の形をとることが多い。中国語では、高橋（2016）が「中国語の主述文は視点が主体にあり、受身表現は視点が客体にあるので、主体に視点を置き、主体の意思を明確にすることを好む傾向にある中国語では、それと視点の異なる受身表現をあまり多く多用しない傾向にある。」と指摘している。

3.4 本研究の研究課題

日本語の文法について、森田（2002）は、表現者の視点が、叙述内容における人物の視点や生起する事柄とどう関係していくか、その対応関係によって、日本語のさまざまな表現が使い分けられているため、日本語の理解には特に表現者の視点の分析が欠かせない重要な問題であると述べている。日本語の文法の習得には、日本語の視点の理解と習得が不可欠である。

庵（2012）は比較的大規模な自然会話コーパスである『職場のことば・男性編／女性編』（ひつじ書房）と「名大会話コーパス」を材料に調査した結果であるが、「（初級教科書が対象としている）話しことばでは、大部分が直接受身であり、動作主が明示されることも少ない。」と指摘した。王（2006）や黄（2013）等先行研究の結果から見て、直接受身文は一番習得しやすいと思われる。しかし、学習者の産出例を考察すると、直接受身文でもなかなか習得されないところがある。例えば、「*太郎は僕に殴られた。」（庵 2012 : 43）という文は一見して文法的に正しいように見えるが、実は不自然な日本語と見なされる。視点の置き方の規則に合わないからである。受身文と対応している能動文である「僕は太郎を殴った」という文は文法的な表現であるが、「*太郎は僕に殴られた。」まで言ってしまうと、中国語の表現として文法的であると思われるが、日本語としては、視点の規則に違反している。

本稿では、日本語教科書についても問題意識を持っているため、ここで、その問題に触

¹²下地（1999）によれば、その注目に値する結果とは、変化の主体の著しい破損や変形を典型とする。

¹³日本語訳：茶碗は（誰か）に壊された。

れておきたい。

庵 (2012) は「直接受身を正しく使いこなすためには少なくとも次の 2 点を理解する必要がある。a. 視点の置かれやすさの階層、b. テキストにおいて (話者中心に) 視点を統一すること」と指摘した。

庵 (2012) は視点の概念を受身の説明に導入すべきだと指摘したが、『総合日語』(第 2 冊 p. 211) には視点に関する記述と説明が見られる。具体的に次のように視点と受身文の使用を結びつけている。

「(主动句和被动句) 二者表示相同的事实, 但表达的视点 (侧重点) 不同, 因此在表达形式上也有所区别, 具体而言, 视点放在动作主体上时, 就使用主动句; 而视点放在动作客体上时, 则使用被动句。」

(筆者訳: 能動文も受身文も同じ事実を表すが、表現の視点が違う。よって、表現形式も異なるところがある。具体的に言うと視点を動作主体に置くときは能動文を使い、動作客体に置くときは受身文を使う。中国語原文の下線は筆者による。)

説明に使う例文は二つあり、「先生が学生をほめる。」と「学生が先生にほめられる。」である。しかし、学習者向けに説明するためには不十分であると考えられる。それは、刊行されている日本語専攻向けの教科書として中国全国初のように見える。しかし、視点の受身文の使用に関して、言及レベルにとどまっているためである。それは、初級後半の段階の中国人日本語学習者にとってわかりやすい使用になるための工夫かもしれないが、上記の記述だけでは、日本語の受身文の特徴と学習者の立場からは、解決すべき課題がまだ残っているといえよう。

日本語教育の発展とともに、中・上級学習者の数も増えていくが、文法項目の中で受身文は難易度の高いものの一つで、初級でひと通り学習しても、なかなか習得できないことがある。

池上・守屋 (2009) で提示されている教師と学生との会話の例であるが、下線は筆者によるものである。

例 44 教師: 元気がありませんね。どうしましたか。

タン: 満員電車で私の財布がとられました。

教師: そうでしたか…

上述の例から、教師は学生の発話にあまり関心を示していないと考えられる。

文法的な問題もないが、日本語母語話者にはどこか不自然に聞こえる、と池上・守屋 (2009)

が指摘している。日本語母語話者の場合、「私の財布がとられました」ではなく、「財布をとられました」という表現を使うところであろう。この会話の文脈では、日本語母語話者に好まれる「財布をとられた」は、「だれかが私の財布をとった」という過去の事態を、その事態からマイナスの影響を蒙った当事者である話し手が「財布の持ち主」すなわち話し手自身を中心に据えて表現したものである（池上・守屋 2009 : 90）。

池上・守屋（2009）で指摘しているように、「確かに初級のうちは習得した文型が合う状況に応じて発話することから始まり、伝達の成功と引き換えに用法が定着するケースも多いでしょう。しかし、学習者は仮に文型やその意味から出発したとしても、現実世界では自分なりに事態を把握し、意味づけして言語化するわけですから、次第に意味から言語形式に至るルートを辿る必要に迫られます。……中略……適切な日本語の表現に至る場合はよいが、既習の表現を応用して発話しても、誤解を招いたような場合、有名な小説を読んで、文章の形式に沿った意味は分かっても理解できない場合もある。（池上・守屋 2009 : 43）

「日本語話者の認知の営みが文法などの言語形式や日本語話者の語りと理解を決定づけていることが見えてきます。それは学習者の習得を根底から支える情報であり、日本語らしさや日本語の豊かな表現の源へと導くものでもあります」（池上・守屋 2009 : 43）は示唆に富んだ論説だと思われる。

したがって、日本語の文法の習得には、日本語の視点の習得が不可欠である。本論文は視点に着目して、三つの課題を立てることとする。

課題 1 : どのような例文を出したら、視点の角度から中国語人日本語学習者の受身文に関する理解を深め、習得を促進できるのか、という問題の解決に向けて、日本語、中国語双方向の対訳データの考察を通して、受身の出現位置及び視点との関係について明らかにしようと試みる。

課題 2 : 理解レベルと産出レベルに分けて、調査協力者の受身文習得はどういう状況なのか質問紙調査とインタビューの方法で実施して、分析を行う。その分析結果と課題 1 である対訳データの考察結果を結び合わせて、調査から見られた学習者の受身文の習得に関する中間言語的表現の出現要因を分析し、視点の捉え方、視点の統一の角度から受身文の習得を阻害する要素を考察し、改善案の構築方法を探る。

課題 3 : 課題 2 で見られた中間言語的表現は、現行の教科書の受身導入方法とどんなかわりがあるのか、視点の角度からどのような工夫をして、中国人日本語学習者にとって更に参考になりそうな材料を提供するか、に関して検討し、中国の日本語教育現場の受身文

指導法を充実させる可能性を探り、提言を試みる。

本章では、本研究で扱う基本概念を整理した。第 4 章では、対訳データに基づいて、中日受身の使用実態を考察していく。

第4章 小説の対訳データに基づく中日受身表現の比較対照研究

本章では、小説の対訳データに基づく中日受身表現の比較をしていく。まずデータの全体像、選択理由を説明した後、中国語原文・日本語訳文方向のデータ、日本語原文・中国語訳文方向のデータに関して報告する。資料となった対訳小説の表現に関して、本研究は、原本と訳本の書かれたままの表現を適切な表現を出版された原文のままデータとして扱うこととする。同じ文章でも翻訳者によって、異なる表現で表す可能性もあるが、本研究では、翻訳の仕方については議論せず、翻訳者の訳語をデータとして採用する。

全体像の情報を次の表6に整理している。

表6：日本語中国語双方向の小説対訳データの全体像

原文の書名	『ノルウェイの森』	『狼図騰』 ¹⁴
訳文の書名	『挪威的森林』	『神なるオオカミ』
原文の出版年	2004年 講談社	2004年 長江文芸出版社
訳文の出版年	2001年 上海訳文出版社	2007年 講談社
作者の名前及び年齢	村上春樹 1949年生まれ	姜戎 1946年生まれ
翻訳者の名前及び年齢	林少華 1952年生まれ	唐亜明 1953年生まれ 関野喜久子 1953年生まれ
原文の字数	約30万字	約21万字
訳文の字数	約23万字	約37万字
受身データ数	371	909

まず村上春樹著「ノルウェイの森」であるが、1987年に、講談社から書き下ろし作品と

¹⁴ 両言語データ字数の対応性を考えて、『神なるオオカミ』(上)を調査の対象とした。原書も訳書も本文の字数のみカウントした。

して刊行された。2004年に文庫改訂版が出されたが、文庫版にはあとがきが掲載されていない。本稿では、2004年刊行の文庫改訂版を調査対象とした。頼明珠版、葉惠版の中国語訳本も挙げられるが、いずれも繁体字版である。簡体字版としては、林少華訳しか見受けられない。姜戎著『狼図騰』の日本語の訳本は2017年12月現在、2007年に講談社によって刊行された『神なるオオカミ』しか見られない。

対訳データとしての選択理由は以下のとおりである。

- ① 30か国以上の言語に翻訳されている有名な小説である。ほかのジャンルの資料も多いかもしれないが、小説というジャンルの資料を選択した理由は、対訳小説が広く市販されていて、学習者にとっても入手可能な資料ではないかと考えたからである。
- ② 中国においても日本においても受容度が高いと思われる。『神なるオオカミ』は、中国建国後、最大の版權輸出成功例とされている。上海訳文出版社が刊行した「村上春樹全集」の翻訳を担当した林少華（中国海洋大学教授）は、「欧米でも翻訳されているが、中国での人気は世界一だ」と断言する。（読売新聞2004の記事より。出典URL<http://archive.fo/5QTgK>最終アクセス日2017年10月12日）
- ③ 対訳データを日本語教育現場に応用する可能性を考えて選択した。場面依存性の高い日本語の受身文を習得する際に、その存在意義や機能は、単文のレベルを超えた角度から何をどのように説明すればいいか、現場ではどのように応用すればいいか、現実的には問題がある。説明する必要があることは既に広く認識されているが、中・上級レベルの学習者向けにどのように説明できるのか、対訳データの使い方を検討しながら、現場への提言を試みるのが可能だと考えたからである。
- ④ 作者も訳者も同年代の人で、同じ時代の受身表現の特徴を反映できるのではないかと予測した。

4.1 データについて

中国人作家、姜戎（ジャン・ロン）が発表した同名の自伝的小説『狼図騰』は、30カ国語に翻訳された。2007年その日本語訳本の『神なるオオカミ』は日本で講談社によって刊行された。『ノルウェイの森』は村上春樹の代表作の一つとして30カ国語に翻訳された。中国でも100万部以上が出版されている。日本語中国語双方向の対訳小説を分析データとして用いる理由は三つある。一つは訳文と原文との比較対照を行い、日本語の受身文使用と視点との関わりの角度から中国人学習者の習得の困難点を解決することを試みたいから

である。もう一つは、学習者が親しみをもちやすいベストセラーから例文を抽出し、補充材料として受身文の説明に使用する可能性を探りたいからである。三つ目は、中国の日本語教育現場に応用する立場から、前田（2011）の考察結果を、日本語・中国語双方向の対訳データで検証するためでもある。その結果は、よりよい受身文指導法に関する議論を深めるための基礎材料として提供できるのではないかと考えている。

4.2 研究方法とデータの処理

調査データに関しては、ほかの方法もあるが、本稿は文脈のある環境での中日受身文の視点の差を見るための中国語原文日本語訳本方向の資料として『神なるオオカミ』（上）を選択することにした。日本語訳本は上下二冊に分かれている。下冊はエピローグ、知的探索、翻訳後記などがほとんどであり、本文と内容的につながっているが、ジャンルの角度から見て、本文と大きく異なっているため、今回の考察資料に入れなかった。『ノルウェイの森』（文庫版）は上下二冊の本文を調査対象にした。また、受身を抽出する際に、同じ動詞が使われていることもあるが、本稿では語彙的受身表現¹⁵は統計に入れていない。

最後に、日本語中国語双方向の小説から抽出した対訳データを、タイプ1（中日両方受身表現を使用するタイプ「日本語○中国語○」）と、タイプ2（日本語だけ受身表現を使用するタイプ「日本語○中国語×」）と、タイプ3（中国語だけ受身表現を使用するタイプ「日本語×中国語○」）とに分けて、受身文の使用実態と表現上の特徴、とりわけ受身使用と視点との関わりをめぐって分析していく。

分類の理由は以下のとおりである。[1]に分類したのは中日受身の使用範囲と被マークの使用実態を調査するためである。例47のような使用すべきところで使用していない受身の脱落を考察するために[2]を設定した。例48のような使用すべきでないところで使用してしまう受身の「付加」のという問題を解決することに向けて、母語である中国語から受けた影響を見るために[3]を分類した。

受身の認定としては、日本語では動詞の語幹に「(ら)れる」を接続させた形態である。工藤（1990）、尾上（2003）、志波（2009）、川村（2012）等の分類法をいろいろ調べたが、

¹⁵ 「J: 陳陣が草原でオオカミの大きな群れに遭ったのはこれで二度目だ。はじめて遭遇したときの驚きがいまふたたびかれの全身を震わせる。(C: 这是陈阵在草原上第二次遇到大狼群。此刻, 第一次与狼群遭遇的惊悸又颤遍他的全身。)」のように、基本的に文法上の標識がなく、受身形も現れていないまま、動詞本来の意味から受身の意味を読み取るようなデータは語彙的受身表現として扱い、今回のカウントに入れていない。

受身出現位置の観点から文脈のある環境での中日受身文の特徴、とりわけ受身文使用と視点との関わりを把握するためには、基本的に前田（2011）の分類法を支持し、本稿では、可能、尊敬、自発は除くことにする。

中国語のほうは、基本的に大河内（1982）の分類に従う。受身の意味を表す介詞「被」「叫」「让」等のマークを用いた文は「被」で代表させて「被」構文（“被字句 beiziju”）と呼ぶこととする。標識のない受動文（“自然被動文 ziranbeidongju”）もあるが、別立てで扱うこととする。

上述のそれぞれの受身定義に基づいて、対象となった日本語訳と原書に出た受身が 1 回使用されたところは 1 データとして認めることとする。データ整理の便宜上、日本語のほうのデータ番号を奇数に、中国語のほうのデータ番号を偶数にした。即ち、例えば「データ [1]」は日本語の受身形のデータ箇所であり、それに対応する中国語は [2] となる。

4.3 収集したデータの全体像及び分析結果

この節では、対象となった資料の調査結果を報告する。表 7 に示すように、総数は 1411 対である。本節では、2 言語の受身使用傾向を量的に整理して論じる。次節で、受身使用と視点の関わりについて例を示しながら述べていく。今回収集した日本語中国語双方向の対訳データから見ると、データ数の多い順に、タイプ 2、タイプ 1、タイプ 3 となっている。視点の角度から、日本語の受身文の習得困難なところを解決しようとするために、タイプ 1 とタイプ 2 を主な分析対象として扱うこととする。

表 7：今回の調査で収集した日本語中国語双方向対訳データの全体像

タイプの名称	中国語原文 日本語訳文 方向（対）	日本語原文 中国語訳文 方向（対）	計 （対）
タイプ 1（「日本語○中国語○」）	376	181	557
タイプ 2（「日本語○中国語×」）	533	190	733
タイプ 3（「日本語×中国語○」）	116	15	121
計	1025	386	1411

まずは、出現位置の角度から対訳のデータを整理した。中国語原文日本語訳文のほうの使用傾向は以下の表 8 に整理した。出現位置によって、受身の対訳データを 6 種類にまとめて、それぞれの割合と比率を示した。

表 8：出現位置から見た中国語原文日本語訳文の方向の受身使用傾向

番号	出現位置	データ数	比率 (%)
1	単文末	73	8.03
2	複文末	212	23.32
3	連体修飾節	224	24.65
4	連用修飾節	366	40.26
5	引用節	26	2.86
6	疑問節	8	0.88
計		909	100.00

受身の出現を含む文の種類から言えば、単文、複文の出現となる。連体修飾節と連用修飾節については、前田（2011）の観点に従い、連体修飾節には形式名詞を修飾する補足節を含めてカウントした。今回の調査で抽出されたデータは 909 対である。さらに、単文・複文のレベルから以下の表 9 に整理した。

表 9：中国語原文日本語訳文データの単文、複文レベルに分けた出現位置の使用傾向

番号	出現位置	傾向	データ数	比率 (%)
1	単文末	単文	73	8.03
2	複文末	複文	836	91.97
3	連体修飾節			
4	連用修飾節			
5	引用節			
6	疑問節			
計		909	100.00	

中国語原文日本語訳文の場合、受身の出現位置の多い順に、連用修飾節、連体修飾節、複文末、単文末、引用節、疑問節となっている。複文レベルの出現位置はデータ全体の 9 割強を占めた。単文レベルのデータ（単文末に出現した受身）は一割弱を占めた。この調査結果から、多くの先行研究で指摘している日本語の受身文の場目に依存性あるいは文脈依存性を裏付けているのではないかと考えられる。李（2016、2017）の調査では、引用節、疑問節に出現した受身のデータが見受けられなかった。数は少ないが、今回は引用節、疑問節に現れた受身のデータもあった。

次は、日本語原文中国語訳文方向の受身の使用傾向を整理した。出現位置によって、6種類にまとめて、表10で示した。

表10：出現位置から見た日本語原文中国語訳文方向のデータの使用傾向

番号	出現位置	データ数	比率 (%)
1	単文末	44	11.86
2	複文末	67	18.06
3	連体修飾節	99	26.68
4	連用修飾節	135	36.39
5	引用節	24	6.47
6	疑問節	2	0.54
計		371	100

日本語原文中国語訳文のデータの場合、受身の出現位置の多い順に、連用修飾節、連体修飾節、複文末、単文末、引用節、疑問節となっていて、中国語原文日本語訳文の対訳データの使用傾向とほぼ一致している。複文レベルの出現位置はデータ全体の9割近くを占めた。単文レベルのデータ（単文末に出現した受身）は一割強を占めた。引用節、疑問節に出現した受身のデータの割合は、中国語原文日本語訳文のほうよりもやや下回っている。それは小説の内容と関わりがあるかもしれない。

表11：日本語原文中国語訳文の単文、複文レベルに分けた出現位置の使用傾向

番号	出現位置	傾向	データ数	比率
1	単文末	単文	44	11.86%
2	複文末	複文	327	88.14%
3	連体修飾節			
4	連用修飾節			
5	引用節			
6	疑問節			
計			371	100.00%

視点に着目して、中国語を母語とする日本語学習者の受身文の習得研究に参考になりそうな資料を提供するために、受身の使用傾向と視点との関わりを考察していく。中日両言

語の視点の相違を示すために、中国語原文の日本語直訳をも提示する。翻訳者によって、言葉遣いや表現の習慣など異なっている可能性もあるので、中国語母語話者による直訳の案を提供することとする。日本語直訳の部分、下線は筆者によるものである。

4.4 中国語原文日本語訳文データから見た受身使用と視点との関わりに関して

この節では、各タイプにおけるデータの使用傾向を整理して、報告する。受身の出現位置と中国語原文の表現上の特徴に言及しながら、両言語の視点についても議論していく。

4.4.1 タイプ1【日本語○ 中国語○】における使用傾向

中国語原文日本語訳文方向のタイプ1の受身の使用傾向とそれと対応する中国語の原文との関係に関して、以下の表12で示した。

表12：タイプ1【日本語○ 中国語○】における使用傾向

番号	タイプ	データ数	比率 (%)	
1	「被」マーク	264	70.21	
2	「被」の付け加え可能 ¹⁶	18	4.79	
3	「被」以外のマーク	「在……下」	11	2.93
		「為……所」	3	0.80
		「被……所」	4	1.06
		「讓」	39	10.37
4	語彙的表現	25	6.65	
5	その他	12	3.19	
計		376	100.00	

タイプ1（[日本語○ 中国語○]）における受身の使用傾向は以下のように整理する。中国語で受身の使用傾向の多い順に、「被」マーク、「被」以外のマーク、語彙的表現、「被」の付け加え可能な表現、その他となっている。そのうち、「被」マークを用いたデータは全体の7割強を占めた。「被」以外のマークのなか「讓」を用いた受身データは1割強を占めた。「讓」は中国語では使役にも受身にも使用できる介詞とされているが、受身用法の認知優先順位は使役より低い、という指摘があった。調査資料とした小説は、日常生活の場面と会話のやりとりも入っているので、受身マークとしての「讓」は、話し言葉で多用する

¹⁶ 中国語の表現に関する理解であるが、本論文では「被」マークを付け加えて理解することができるデータを、「被」の付け加え可能というカテゴリーを入れている。

傾向にあるのも、そのためかもしれない。また、「為……所」、「被……所」は「被」以外のマークとして挙げられるが、松岡・古川・費ほか（2008）で指摘しているように、書き言葉に使われることの多い表現である。

例 45 【被マーク】

JY¹⁷ガスマも力が尽きてきたらしくオオカミに数歩前に [77] 引きずられている。

CG 他发现嘎斯迈快拽不动恶狼了，她又 [78] 被狼朝前拖了几步。

日本語直訳：彼は、ガスマも力が尽きてきたことに気付いた。彼女はまたオオカミに数歩前に引きずられている。

「被」は中国語受身表現の代表的なマークと思われる。例 45 の場合、原書も日本語訳も受身表現を使っている。複文末に現れている受身である。日本語訳文のほうは一貫性が高く、「ガスマ」の視点に立って述べている。それに対して、中国語の原文のほうは「かれ（“他”）→彼女（“她”）」のように移動している。ここの「彼女」は「ガスマ」のことを指している。中国語原文の視点は比較的移動性が高いと言えそうである。

例 46 【被の付け加え可能】

JY かれらもっているのは二本の馬棒だけである。万一、オオカミの群れに人の気配を [3] 気付かれたら、二人の「天葬」が [5] くりあげられるのはまちがいない。

CG 他们只有两根马棒，万一狼群 [4] 嗅出他们的人气，那他俩可能就要 [6] 提前天葬了。

（日本語直訳：かれらもっているのは二本の馬棒だけである。万一、オオカミの群れが人の気配に気付いてしまったら、二人の「天葬」はこの場で早めに行うに違いない。）

例 46 の中国語原文において、二つの動詞（「嗅出」と「提前」）の前に、仕手（「狼群」）の後ろに被の付け加えは可能だと考えられる。日本語訳文の視点は「かれら」「二人の天葬」に立って述べている。それに対して、中国語の原文のほうは「かれら（他们）→オオカミの群れ（狼群）→かれら（他俩）」のように移動している。

例 47 【「被」以外のマーク】

JY ガスマの後ろにいる二匹の犬は羊の群れに [69] さえぎられ、やきもきするだけで手の出しようがなく、オオカミの氣勢を抑えようとして、吠えたてている。

CG 嘎斯迈身后的两条大狗也 [70] 被羊群所隔，干着急无法下口，只得一个劲狂吼猛叫，压制大狼的气焰。

¹⁷ 例文提示の便宜上、JY（日本語訳文）とCG（中国語原文）で例文をマークした。

(日本語直訳：ガスマの後ろにいる二匹の犬は羊の群れにさえぎられていて。焦っていても対策がなく、オオカミの氣勢を抑えようとして、吠えたてているだけである。)

例 47 のような、被マークの変形である「被……所……」を使う例もある。古代中国語の残留で、被マークの変形あるいは延長と思われる。基本的に書き言葉に現れるとされる。連用修飾節に出現した受身であるが、視点は「二匹の犬」に立っている。受身文の使用によって統一されている。中国語原文も「二匹の犬」に立っていて、この文から見ると、比較的固定のようである。

例 48 【在……下】

JY さらにもう一度力いっぱいぶつけあうと、オオカミの群れは王に [49] 率いられて、全員、向きを変え、耳を後ろに傾け、首を縮めて、黄塵を巻き上げた風のように、一気に山奥へ逃げていった。

CG 他再猛击几下，狼群 [50] 在狼王的率领下，全体大回转，倒背耳朵，缩起脖子像一阵黄风一样，呼地向山里奔逃而去。

(日本語直訳：彼はさらにもう一度力いっぱいぶつけあうと、オオカミの群れは王の引率の下で、全員、向きを変え、耳を後ろに傾け、首を縮めて、黄塵を巻き上げた風のように、一気に山奥へ逃げていった。)

屈 (2008) によれば、「在……下」も中国語受身マークの一つであるが、典型的な受身マークではないとされている。例 48 のように「……の引率の影響下で、」と理解することが可能である。連用修飾節に出現した受身であるが、受身文の使用によって視点が「オオカミの群れ」に統一されている。この文において、中国語原文のほうは、移動的な視点をとっていると考えられる (彼→オオカミの群れ)。

例 49 【語彙的受身】

JY 陳陣は突然、天にそっと頭を [31] なでられて、天へ昇っていくには早すぎる魂に、自信と力を [33] そそぎこまれたのかもしれない。

CG 也可能是陈阵忽然 [32] 领受到了腾格里(天)的精神抚爱，为他过早走失上天的灵魂，[34] 揉进了信心与定力。

(日本語直訳：陳陣は突然、天にそっと頭をなでられているような感じがする。それは、天へ昇っていくには早すぎる魂に、自信と力をそそぎこまれたのかもしれない。)

例 49 の [32] のなかの「领受」は、中国語で受身の意を持っている語彙と思われる。「なでる」の受身形と対応する中国語の表現は「领受到了腾格里(天)的精神抚爱」である。複文

末に出現した受身である。例 49 の場合、中国語原文も日本語訳文も視点の移動（「陳陣→（天）」）が見受けられる。

例 50 【その他】

JY 陳陣は手のひらでぼんと膝をたたくと、「さがしていたオオカミの赤ん坊は、この巣穴のなかだ。あのメスオオカミに [841] だまされたんだ。」といった。

CG 陈阵用巴掌猛一拍自己的膝盖说：我要找的小狼崽就在这个洞里。咱们两个大活人 [842] 让那条母狼给涮了。

（日本語直訳：陳陣は手のひらでぼんと膝をたたいて「さがしていたオオカミの赤ん坊は、この巣穴のなかにいるよ。あのメスオオカミにバカにされたんだ。」といった。）

例 50 の「让……给涮了」は日本語の「だまされた」と対応するが、中国語では、「让……给……」は話し言葉でよく用いられる表現とされている。単文末に出現した受身であるが、「陳陣」という人物の話の一部となっている。「陳陣」という人物の視点は、中日両言語において同じように見受けられる。つまり、「オオカミの赤ん坊→（私たち）」のように移動しているのではないかと考えられる。

4.4.2 タイプ [2] 「日本語○中国語×」の場合

表 13：タイプ 2（「日本語○ 中国語×」）における使用傾向

番号	タイプ	データ数	比率 (%)	
1	客観叙述	374	70.17	
2	解釈	63	11.83	
3	その他	「讓」	11	2.06
		「把……」	36	6.75
		「是……」	3	0.56
		「怕……」	6	1.12
4	対応項目なし	40	7.51	
計		533	100.00	

タイプ 2（「日本語○ 中国語×」）における受身使用傾向を以下のように整理する。使用率の多い順に、客観叙述、解釈、対応項目なし、その他となっている。そのうち、客観叙述は一番多く、全体の 7 割以上を占めた。メイナード（2004）で指摘している文脈のある

環境での受身機能の一つである結果描写機能と関わりがあると考えられる。収集しているタイプ1とタイプ2のデータ数から、日本語の受身は中国語の受身より使用範囲が広い、ということを確認した。また、対応項目なしのデータが7.51を占めた、という調査結果に関して、日本語原文、中国語訳文のデータに同じような傾向が見受けられるかどうか、実証する必要があるのではないかと考えられる。違うジャンルのもを資料にして調査すると、新しい結果が出る可能性もある。

筆者は、先行研究の森田（1998）を活用して受けの姿勢、受身的な日本語の発想を中国人学習者に説明する必要があると考えている。また、中日対照の研究成果を活用する角度からも日本語教育現場に応用しやすい定義を採択する可能性を検討すべきだと思う。

例 51 【客観】

JY 草原にやってきて二年たつが、草原の大きなオオカミとその群れが、陳陣はやはり怖くてたまらない。この人里から遠く離れた山奥で、オオカミの群れを目の前にして、彼の口から [1] 吐き出される 白い息も震えている。

CG 虽然陈阵来到草原已经两年，可他还是惧怕蒙古草原上的巨狼和狼群。在这远离营盘的深山，面对这么大的一群狼，他嘴里 [2] 呼出的 霜气都颤抖起来。

（日本語直訳：陳陣は草原にやってきて二年たつが、彼はやはり草原の大きなオオカミとその群れを怖いと感じている。この人里から遠く離れた山奥で、オオカミの群れを目の前にして、彼の口から吐き出される白い息も震えている。）

例 51 は連体修飾節に出現した客観タイプの受身であるが、中国語において形容詞性質な「……的」に相当する。それは中国語の被害が基本意の受身から離れているので、受身の枠に入れられないと思われる。例 51 の場合、中日両言語は同じように「陳陣／彼」の視点で述べていると考えられる。

例 52 【解釈】

JY 二年前、陳陣が北京からこの国境地域の牧場に [9] 下放された ときは、十一月の下旬だったが、オロン草原はすでに雪で一面真っ白になっていた。

CG 两前陈阵从北京到达这个边境牧场 [10] 插队 的时候，正是十一月下旬，额仑草原早已是一片白雪皑皑。

（日本語直訳：二年前、陳陣が北京からこの国境地域の牧場に下放されたときは、十一月の下旬だった。そのときのオロン草原はすでに雪で一面真っ白になっていた。）

例 52 の「插队」は特定の時期の用語であり、「当時の学生が生産隊に編入される。農村

に住みつく。」という意味である。日本語に直訳すれば「割り込み」という表現と対応してしまう。誤解を招く表現となるので、意識で「下放する」という表現を用いて解釈していると考えられる。連体修飾節に出現した受身であるが、この文において両言語の視点は同じように「陳陣」に立って述べている。

例 53 【その他】

JY 中国の兵書には、十倍以上の兵力をもって包圍殲滅戦をすることと [161] 書かれているが、モンゴルの騎兵はオオカミとっしよで、一をもって十に当たる。

CG 中国兵书上 [162] 讲，有十倍以上的兵力才敢打围呢。蒙古骑兵真跟狼群一样厉害，能以一当百。

(日本語直訳：中国の兵書は次のように述べている。十倍以上の兵力をもって包圍殲滅戦をすることができる。モンゴルの騎兵はオオカミと同じようにすごくて、一をもって十に当たる。)

例 53 は連用修飾節に出現した受身である。森田 (1998) で指摘したことを引用して説明すると、この場合の受身使用は、個人の認識を超えてより客観的に事態を把握する効果があると理解して妥当であろう。例 53 の場合、日本語の訳文は「モンゴルの騎兵」の視点に立って述べているが、それに対しては中国語の原文のほうは 2 つの動作主をそれぞれ主語の位置に立てている。つまり、中国語のほうは動作主を中心に客観的な事実を述べていて、「……讲」という表現において受身の意がないと思われる。それは、中国人日本語学習者が翻訳するとき受身を使用しない傾向を生む原因の一つといえるだろう。

4.4.3 タイプ 3 (「日本語×中国語○」) の場合

表 14：タイプ 3 (【日本語× 中国語○】) における使用傾向

番号		タイプ	データ数	比率 (%)
1	「なる」型表現	自動詞	42	36.21
2		なる	14	12.07
3	能動表現		46	39.65
4	その他	その他	9	7.76
5		「で」	5	4.31
計			116	100.00

タイプ 3 (【日本語× 中国語○】) における使用傾向を以下のように整理する。使用率の

多い順に、なる型表現、能動表現、その他となっている。そのうち、なる型表現が一番多く、半数近くを占めた。なると「ことになる」のような「なる」を含める文型はそもそも自動詞あるいは自動詞の性質を持っているとみなされている。自動詞、自動詞の役割に準ずる表現は、日本語の受身文と同じく「なる」型表現に属すると言えよう。そして、このデータ整理の結果から、日本語がなる型言語に近い言語であるという池上一連の研究（池上 1981、2006、2011、2016）の裏付けになっているのではないかと考えられる。日本語は「なる」型言語に近い言語であるとされているが、新しい要素の加入もあるようである。グローバル化の影響による言語接触などの関係で、「する」型言語の性質も少しずつ増えていく傾向にある、という可能性もないとはいえない。日本語の能動表現で中国語の受身文と対応しているデータは全体の 4 割近く占めた。中国語原文日本語訳文の材料である『神なるオオカミ』は中国の少数民族の一つであるモンゴル族のトーテムの内容が絡んでいるので、その事実とトーテムに関する話の魅力をできるだけ読者に伝えようとする目的で中国語のものの構成を保持しているのかもしれない。

例 54 【なる】

JY 帰る間際になって、老人は牧場革命委員会の委員として、突然、会議に〈3〉18残ることになったが、その資料をすぐに生産大隊に届けるようにと本部から指示された。

CG 回家时，老人作为牧场革委会委员，突然〈4〉被留下开会，可是场部指示那些文件必须立即送往大队，不得延误。

（日本語直訳：帰る間際になって、老人は牧場革命委員会の委員として残された。その資料をすぐに生産大隊に届けるようにと本部からの指示があった。）

例 54 において、中国語のほうは典型的な受身マークである「被」を使っているが、それに対して、日本語のほうは「ことになった」という「なる」的言語表現を使っている。

例 55 【で】

JY だんだん寒くなってきた。道のりの半分ほど行くと、太陽も寒さ〈7〉でがたがた震えて地平線の下に縮こまってしまった。

CG 天越来越冷，大约走了一半路程，太阳〈8〉被冻得瑟瑟颤抖，缩到地平线下面去了。

（日本語訳：だんだん寒くなってきた。道のりの半分ほど行くと、太陽も寒さでがたがたになって、地平線の下に縮こまってしまった。）

¹⁸ タイプ 1、タイプ 2 のデータ番号と区別するために、〈 〉を使用してタイプ 3 のデータ番号を示すこととした。

例 59 の場合、中国語の原書もその日本語訳も擬人法を使っている。「寒さでがたがた震えて」は「縮こまってしまった」という「なる」的言語表現を修飾しているが、それに対して、中国語のほうは基本的に「被+動詞（「冻」）+結果表現」という構成で太陽の様子う受身マークの「被」を使ってを述べていると考えられる。

例 56 【自動詞】

JY これは魂が出ていくときに頭蓋骨に〈9〉ぶつかった音にちがいない。

CG 这一定是他的魂魄〈10〉被击出天灵盖的抨击声。

（日本語直訳：これは魂が出ていくときに頭蓋骨にたたきだされた音にちがいない。）

例 56 の日本語訳のほうは自動詞「ぶつかる」を使っている。連体修飾節に出現したこの「なる」的言語表現は中国語の”被”構文と対応するが、中国語の原書の場合、全体として事実を述べている。

例 57 : 【その他】

JY 草原のモンゴル人は〈29〉たとえ凍り死んだってオオカミの毛皮を使わない。

CG 草原蒙古人〈30〉就是被冻死也不睡狼皮。

（日本語直訳：草原のモンゴル人はたとえ凍死させられても、オオカミの毛皮を使わない。）

例 57 において、日本語の表現（「たとえ……だって……」）も中国語の表現（「就是……也……」）も譲歩の意を表す表現が使われている。日本語のほうは「なる」的言語表現（「凍る」）も含まれていて、中国語のほうは草原のモンゴル人の性格として、「凍死」という影響を受けても生活習慣を変えない、という事実を述べている。

日本語のほうは受身が使われていないが、自動詞をはじめとする「なる的表現」をつかうのがほとんどである。教育現場での検証も必要であるが、中国語を「する型言語」に近い言語と、日本語は「なる型言語」に近い言語と理解することが中国人日本語学習者への受身指導法をもっと深く議論するために取り入れることは有効ではないかと思う。自他動詞と受身の選択問題も絡んでいるが、なる型言語の本質と受身表現との関わりを日本文化の角度から学習者に説明すると良いのではないかと考えている。中国語は動作主、動作結果を重視する傾向があるがそれに対して日本語は話者への影響、状態を重視する傾向があるといえるだろう。

4.5 日本語原文中国語訳本データから見た受身使用と視点との関わりに関して

この節ではまず各タイプの受身使用傾向を報告し、そして受身の使用と視点とのかかわ

りに関して分析していく。

4.5.1 タイプ1【日本語○ 中国語○】における使用傾向

タイプ1における使用傾向を整理すると、表15となる。

表15：タイプ1【日本語○ 中国語○】における使用傾向

番号	タイプ	データ数		比例 (%)
1	「被」マーク	101		53.72
2	「被」の付け加え可能	34		18.08
3	「被」以外のマーク	叫	2	23
		給	10	
		在……下 / 中 / 里	11	
4	語彙的表現	14		7.45
5	その他	9		4.79
計		181		100.00

日本語原文中国語訳文のタイプ1（[日本語○ 中国語○]）における使用傾向に関して、以下のように整理する。使用率の多い順に、「被」マーク、「被」の付け加え可能、「被」以外のマーク、語彙的表現、その他となっている。「被」マークを使っている例が101あり、全体の半数以上を占めた。「被」以外のマークのうち、「讓」「叫」「給」を用いたデータは全体の1割ぐらい占めたが、「在……下 / 中 / 里」（日本語訳：～の影響下で）という非典型的なマークも5%近く見受けられた。

例58【「被」マーク】

JG¹⁹朝方ばらばらと降ったりやんだりしていた雨も昼前には完全にあがり、低くたれこめて

いたうっとうしい雨雲は南からの風に [41] 追い払われるように姿を消していた。鮮かな緑色をした桜の葉が風に揺れ、太陽の光をきらきらと反射させていた。

CY 早上“噼里啪啦”时停时下的雨，上午就已完全止息了。低垂的阴沉沉的乌云，也似乎 [42]

被南来风一扫而光似的无影无踪，鲜绿鲜绿的樱树叶随风摇曳，在阳光下闪闪烁烁。

（日本語直訳：朝方ばらばらと降ったりやんだりしていた雨も昼前には完全にあがり、低くたれこめていたうっとうしい雨雲は南からの風に追い払われるように姿を消していた。

¹⁹ 例文表示の便宜上、JG（日本語原文）とCY（中国語訳文）で例文をマークした。

鮮やかな緑色をした桜の葉が風に揺れ、太陽の光をきらきらと反射させていた。)

「被」は述語「被」マークの後ろに補足成分が来るものが圧倒的が多い。例 58 の場合、「被」の後ろにある「一扫而光」は動作の結果描写ではないかと考えられる。この文も主語は述語動詞「追い払う」の受け手であり、「被」マークの直接後に来るのはその動作の仕手である。連用修飾節に出現した受身であるが、日本語原文も中国語の訳文も視点は「雨→雨雲→葉」のように移動している。

例 59 【「被」を付け加える可能】

JG 家そのものは旧かったが、台所はつい最近 [193] 改築されたらしく、流し台も蛇口も収納棚もぴかぴかに新しかった。

CY 房子本身虽旧，但厨房却像最近 [194] 改装过，烹调台、水龙头、餐具橱全都光闪闪地焕然一新。

(日本語直訳：家そのものは旧かったが、台所はつい最近改築されたらしい。流し台も蛇口も収納棚もぴかぴかに新しかった。)

例 59 の場合、中国語の訳文の「改装」という動詞の前に「被」を付け加えて理解することができる。「被」マークを使っていないが、中国語の意味として受身表現に属するとされる。主語から見て不愉快あるいは被害的な事柄を表すときには、適用できないタイプである。「被」を付け加えることが可能なタイプは全体の 2 割ぐらいを占めた。無視できない存在ではないかと思われる。連用修飾節に出現した受身であるが、日本語原文も中国語訳文も「家→台所→流し台、蛇口、収納棚」のような視点で述べている。

例 60 【その他】

JG 縁石は風雨に [5] さらされて奇妙な白濁色に変色し、ところどころでひび割れて崩れおちている。

CY 石砌的井围，[6] 经过多年风吹雨淋，呈现出难以形容的混浊白色，而且裂缝纵横，一副摇摇欲坠的样子。

(日本語直訳：縁石は長年の風雨を経て、奇妙な白濁色に変色し、ところどころでひび割れて崩れおちている。)

例 60 の場合、日本語は「さらされ」で表現しているが、それと対応する中国語表現は直訳のものではないと思われる。文脈の情報に基づいて「经过多年风吹雨淋」という言葉で意識していると考えられる。小説というジャンルの特徴と訳者の表現習慣も絡んでいるが、受身表現は中国語の慣用的な表現の一部を翻訳するのに用いられる。日本語原文も中国語

訳文も「縁石」の視点で述べている。

4.5.2 タイプ2 (【日本語○ 中国語×】)における使用傾向

以下はタイプ2における使用傾向を報告する。表で示すと、表16である。

表16：タイプ2 (【日本語○ 中国語×】)における使用傾向

番号	タイプ		データ数		比例 (%)
1	客観叙述		136		71.58
2	解釈		24		12.63
3	その他	「使」	2	23	12.11
		「把」	3		
		「讓」	7		
		それ以外の表現	11		
4	対応項目なし	7		3.68	
計			190		100.00%

日本語原文・中国語訳文のタイプ2 [日本語○ 中国語×]における使用傾向は以下のよう整理する。使用率の多い順に、客観叙述、解釈、その他、対応項目なしになっている。そのうち、客観叙述は7割以上を占めた。中国語原文・日本語訳文の傾向とほぼ一致している。対応項目なしの例は中国語原文・日本語訳文方向のデータよりやや低い結果になっているが、双方向のデータのタイプ2の傾向は大体同じである。

例61【客観叙述】

JG 何日かつづいたやわらかな雨に夏のあいだのほこりをすっかり [1] 洗い流された山肌は深く鮮やかな青みをたたえ、十月の風はすすきの穂をあちこちで揺らせ、細長い雲が凍りつくような青い天頂にびたりとはりついていた。

CY 连日温馨的霏霏轻雨, [2] 将夏日的尘埃冲洗无余。片片山坡叠青泻翠, 抽穗的芒草在10月金风的吹拂下蜿蜒起伏, 透迤的薄云仿佛冻僵似的紧贴着湛蓝的天壁。

(日本語直訳：何日かつづいたやわらかな雨は、夏のあいだのほこりをすっかり洗い流した。山肌は深く鮮やかな青みをたたえ、十月の風はすすきの穂をあちこちで揺らせ、細長い雲が凍りつくような青い天頂にびたりとはりついていた。)

例61の場合、日本語のほうは受身形で表現している。それに対応する中国語の表現は主

述文という能動表現である。しかも、日本語では「洗い流された」連体修飾節に出現した受身で、その後ろに来る「山肌」を修飾している。形容詞のような働きをしている。客観叙述は日本語だけ受身を使用しているタイプ 2 全体の 7 割ぐらいを占めたが、圧倒的多数となっている。日本語原文は「山肌→風→雲」のような視点で述べている。それに対して中国語訳文は「雨→山肌→すすきの穂→雲」のような視点をとっている。この文において、日本語原文は視点の一貫性が強く、中国語訳文は視点の移動性が高いようである。

例 62 【解釈】

JG 夕方の国旗降下も儀式としては [21] だいたい同じような様式で²⁰とりおこなわれる。ただし順序は朝とはまったく逆になる。旗はするすると降り、桐の箱の中に収まる。

CY 傍晚降旗，其仪式也 [22] 大同小异，只是顺序与早上相反，旗一溜烟滑下，收进桐木箱中即可。

(日本語直訳：夕方の国旗降下も儀式としては大同小異である。ただし順序は朝とはまったく逆になる。旗はするすると降り、桐の箱の中に収まる。)

例 62 の場合、「だいたい同じような様式でとりおこなわれる」という日本語の表現は、中国語の四字熟語である「大同小异」で翻訳している。「大同小异」を日本語に直訳すると「小さなところは差があるが、大きな方向としては同じだ」という意味である。つまり、日本語の表現を中国語の四字熟語で簡潔に解釈しているということである。

例 63 【その他】

JG 最初はとにかくもう凄いて思うの。たとえばものすごい難曲を楽譜の初見でパーッと弾いちゃう人がいるわけよ。それもけっこううまくね。見てる方は [413] 压倒されちゃうわよね。私なんかとてもかなわないってね。

CY 一开始果真叫人拍案叫绝，例如对十分深奥的乐谱，有人只消扫一眼就能一气流注地弹奏下来，而且相当精彩，使听的人大为倾倒、自愧不如。

(日本語直訳：最初はとにかくもう凄いて思うの。たとえばものすごい難曲を楽譜の初見でパーッと弾いちゃう人がいるわけよ。それもけっこううまくね。見てる方を感服させちゃうわよね。私なんかとてもかなわないってね。)

²⁰ 下線部は、日本語の受身文に出現した動詞とそれと対応する中国語の表現である。例 62 のように、点線を引いた部分は日本語の解釈に使われる関連の表現である。

例 63 の場合、日本語の原文には「圧倒されちゃう」という受身の表現が出現している。日本語原文のほうは単文末に出現した受身を使用しているが、話者あるいは見ているほうの視点で述べている。中国語訳文の視点は移動的のように見受けられる。「使……傾倒」という使役表現で対応している。ここでは「感服させられる」と訳しても意味が通じるとみなされるが、活用規則と使い方が複雑なところもあるので、使役受身を別立てて議論する必要があると考えている。他の表現も存在しているが、【その他】タイプは【日本語○中国語×】タイプ全体の 2 割ぐらいを占めた。中国語表現の多様性をも反映しているが、日本語の受身は中国のより使用範囲が広いことも示しているのではないかと考えられる。

4.5.3 タイプ 2 (【日本語× 中国語○】) における使用傾向

日本語原文中国語訳文のタイプ 2 における使用傾向を表 17 で示した。

表 17 : タイプ 3 (【日本語× 中国語○】) における使用傾向 (日本語原文・中国語訳文方向データ)

番号	タイプ	データ数	比例 (%)
1	自動詞	9	60.00
2	能動表現	4	26.67
3	その他	2	13.33
計		15	100.00

タイプ 3 ([日本語× 中国語×]) における使用傾向に関して、使用率の多い順に自動詞、能動表現、その他となっている。能動表現の割合は、中国語原文・日本語訳文のデータ 3 より少ないように見受けられる

例 64 【自動詞】

JG もちろん直子は知っていたのだ。僕の中で彼女に関する記憶がいつか (1) 薄らいでいくであろうということ。

CY 直子当然知道，知道她在我心中的记忆迟早要 (2) 被冲淡。

(日本語直訳：もちろん直子は知っていたのだ。僕の中で彼女に関する記憶がいつか和らげられていくであろうということ。)

例 64 において、「薄らぐ」という自動詞が用いられている。それと対応する中国語の表現として「被」マークとなっている。自動詞タイプは全体の 6 割を占めたが、受身と同じ「なる」言語表現に属することが関わっていると考えられる。また、中国語には自動詞(“不

及物動詞”)があるが、自動詞と対応しているところが多い。しかし、中国語の受身にできるのは、他動詞(“及物動詞”)である観点が主流であると思われる。

例 65 【能動表現】

JG 土曜日の夜は永沢さんは親戚の家に泊まるという名目で毎週外泊〈21〉許可をとっているのだ。

CY 星期六晚间永泽以去亲戚家为由，每次都〈22〉被允许在外面过夜。

(日本語直訳：土曜日の夜は、永沢さんは親戚の家に泊まるという名目で毎週外泊することを許可されたのだ。)

例 65 の場合、日本語原文では能動表現が用いられるが、中国語訳では「被」マークタイプの受身文が使われている。作者と訳者のそれぞれの事態把握の仕方と関わっているが、「被」マークの使用によって、誤解を招くような表現を避けていると思われる。能動表現タイプは【日本語×中国語○】の 3 割近く占めたが、無視できない存在ではないかと考えられるが、話し手の事態把握の仕方を反映する表現でもあるが、ルールを見つけるには更なる調査と検証は必要だと考えている。

例 66 【その他】

JG でも俺もそうじゃないし、ワタナベもそうじゃない。〈17〉理解してもらわなかったってかまわないと思っているのさ。自分は自分で、他人は他人だって。

CY 但我不那样，渡边也不那样，而觉得不〈18〉被人理解也无关紧要。自己是自己，别人归别人。

(日本語直訳：でも俺もそうじゃないし、ワタナベもそうじゃない。理解されなくてもかまわないと思っているのさ。自分は自分で、他人は他人だって。)

例 66 の場合は、「てもらう」という授受表現文型は中国語の「被」マーク受身文と対応している。同じヴォイスのカテゴリーに属する授受表現と受身文は、視点の概念で大きく統合されていると考えられる。「てもらう」文型以外の表現もあるが、【その他】は【日本語×中国語○】タイプの一割強を占めた。

4.6 対訳データの受身の使用傾向の整理

タイプ 1 【日本語○ 中国語○】の場合

①「被」マークの使用は半数以上を占めた。(中国語原文日本語訳文方向のデータの 7 割以上を占めた。日本語原文中国語原文日本語訳文方向のデータの 5 割以上を占めた。)

の付け加え可能なものもカウントすると、使用率は7割を上回る。

②「被」以外のマークは小説の内容によって使用傾向には差が見受けられるが、中国語原文日本語訳文のデータにおいても、日本語原文中国語訳文のデータにおいても15%くらいを占めた。日本語原文中国語訳文のタイプ1において「讓」構文の割合が大きかったが、中国語原文日本語訳文のタイプ1ではそういう傾向が見受けられなかった。「在……下」という表現は双方向のデータで見られたが、それぞれの3%くらいを占めた。

タイプ2【日本語○ 中国語×】の場合

①双方向の対訳データの考察をとおして、客観叙述タイプ表現の使用傾向としてほぼ一致している結論に至っている。中国語原文日本語訳文のタイプ2においても、日本語原文中国語訳文のタイプ2においてもそれぞれの7割くらいを占めた。

②解釈タイプにおいては、術語、四字熟語などで対応している表現は1割強占めた。中国語原文日本語訳文のタイプ2においても、日本語原文中国語訳文のタイプ2においてもそれぞれの12%くらいを占めた。

③対応項目なしのタイプについて、中国語原書日本語訳書方向のデータでは7.37%出現したが、日本語原書中国語訳書方向のデータでは3.68%しか見られなかった。

タイプ3【日本語× 中国語○】の場合

①自動詞、「なる」を含める表現や文型で対応することは一番多かった。中国語原文日本語訳文のタイプ2において半数近く占めた。日本語原文中国語訳文のタイプ2においてそれぞれの6割くらい占めた。

②能動表現はタイプ3において無視できない存在である。中国語原書日本語訳書方向のデータで3割を占めたが、日本語原書中国語訳書のデータでは、4割に近かった。

③その他に関して、中国語原文日本語訳文のタイプ3においても、日本語原文中国語訳文のタイプ3においても1割強占めた。少数ではあるが、「で」等の助詞の働きと組み合わせで受身の意味を表す用例も出現した。

4.7 受身の出現位置と視点との関わり

本研究は日本語の受身文の習得研究をテーマにしているので、受身の出現位置の議論は日本語中国語双方向のタイプ1とタイプ2のデータを材料に分析する。

以上の分析から、以下の結論に至っている。

- (1) 日本語の受身の使用範囲は、中国語より広い。中国語原文日本語訳文データにおけるタイプ1（「日本語○中国語○」）とタイプ2（「日本語○中国語×」）のデータ数は909対である。日本語原文中国語訳文データにおけるタイプ1（「日本語○中国語○」）とタイプ2（「日本語○中国語×」）のデータ数は371対である。合計1280対となっている。つまり、日本語の受身を使用しているデータは1280個ある。中国語原文日本語訳文データにおけるタイプ1（「日本語○中国語○」）とタイプ3（「日本語×中国語○」）のデータ数は492対である。日本語原文中国語訳文データにおけるタイプ1（「日本語○中国語○」）とタイプ3（「日本語○中国語○」）のデータ数は196対である。合計688対となっている。つまり、中国語の受身を使用しているデータは688個ある。対訳データの分析から、日本語の受身文の使用範囲（1280個）は中国語の受動文の使用範囲より広いという結論に至っている。この分析結果は、森田（1998）、王（2009）等の先行研究を裏付けていると言えそうである。
- (2) 中国語は完全文で単独に事実を述べることが多い傾向にある。それに対して、日本語は文脈の情報に依存して、中国語と比べて比較的短い言葉で表現している。

第 5 章 日本語の受身文の習得に関する予備調査

本調査を実施する前に、本研究で扱う理解レベルの習得状況を測る「選択テスト」と産出レベルの習得状況を測る「文完成テスト」の妥当性を確保するために、二回にわたり予備調査を行った。一回目は 2017 年 3 月 6 日から 3 月 18 日にかけて中国人日本語学習者 4 人、日本語母語話者 1 人を対象に実施した。二回目は 2017 年 4 月 15 日から 4 月 21 日にかけて中国人日本語学習者 2 人、日本語母語話者 5 人を対象に実施した。予備調査の後、フォローアップ・インタビューを実施した。

5.1 調査目的

中国語を母語とする学習者にとって学習が困難だと思われる受身文の習得実態を把握するための本調査の質問紙の質を確保するために、質問紙による文法テスト（理解レベルを測る選択テストと産出レベルを測定する文完成テストから構成されている）とインタビューの二つの調査段階を通して、日本語母語話者と中国人日本語学習者を対象に、予備調査を実施する目的は二つある。一つ目は、日本語母語話者の回答を収集し、よりよい模範解答を作成するためである。二つ目は、文脈のある環境で日本語の受身文の習得研究を進めるために、文脈情報の適切さと設問表現の自然さをチェックし、修正の準備をするためである。

5.2 調査対象に関して

中国人日本語学習者は全員日本語能力試験 N1 合格を取得している。6 人のうち、4 人は、中国の大学で日本語を専攻にしていた。2 人は、日本の大学で日本語を専攻している。日本語母語話者 6 名のうち、1 人は社会人であり、5 名は調査の時点で日本語教育学を専攻にしている大学院生である。

5.3 資料収集方法

資料収集方法は、(1) 質問紙による文法テスト (2) インタビューという二つの段階から成り立っている。それぞれの詳細は以下のとおりである。

直接会って調査協力者に調査用紙を渡し、選択テストと文完成テストを実施した。配布して 1 週間後回収した。テストの全項目について、内容や表現に関して、ヒアリングを行

い、疑問点、修正についての提案や意見を収集した。気づいたこと、疑問に思ったことを紙に書くよう、調査協力者にお願いした。調査協力者の一部を対象にインタビューを行って、選択あるいは記入理由を話してもらって、調査用紙に関する意見も求めた。

調査協力者に、当時の回答理由と判断基準を答えてもらった。

5.4 文法テストの設問に関して

予備調査の調査用紙の設問は、(1) 選択テスト (20 問) と (2) 文完成テスト (15 問) から構成した

前田 (2011) は日本語の受身を出現位置によって 6 種類によって分類しているが、予備調査では、そのうち単文末、複文末、連用修飾節、連体修飾節の 4 種類を設問に入れた。詳しいことは本研究の第 7 章で述べるが、中国で出版されている日本語の教科書において受身導入用例の半数以上は単文レベルのものである。従って、学習者にとって、産出可能性の高い受身の使用位置として単文末が挙げられる。

前田 (2011) では、連用修飾節に出現した受身が従属節と主節の視点を一貫させる働きを持つことを裏付ける数値を指摘している。例として「こんな善意な人々にかこまれて、幸せだな本当にあの娘も」(前田 2011 : 76) が挙げられる。本研究は視点に着目して日本語の受身文の習得実態を明らかにしようとする角度から、連用修飾節に出現した受身を設問の重点の一つとして扱った。

連体修飾節に出現した受身もあるが、その被修飾名詞が実質名詞か形式名詞かによって分類してそれぞれ 2 問設定した。問 3、問 4 において形式名詞を修飾するものである。

設問 3. 彼はそれを聞いて、自分と人事担当者の話が子供_____ことを知った。

①が；聞いた ②に；聞いた ③が；聞かれていた ④に；聞かれていた

設問 3 の場合、被修飾名詞は「こと」という形式名詞であり、設問 4 も形式名詞「こと」を修飾するものである。

設問 4. 予定の十一時より三時間も早く、彼等_____しまったことになる。下瀬は、自分にいい聞かせ、必死な眼でタクシーを探した。

① に；知らせて ②に；知られて ③が；知って ④が；知られて

問 7 と問 9 は実質名詞を修飾するものである。設問全体の数を考慮に入れて、複文末に出現した受身は予備調査で 1 問だけ入れた。

設問 7. 目の前の大きな男は、母親_____小学生のようにしゅんとしている。

- ① が ; 怒った ② が ; 怒らせた ③ に ; 怒った ④ に ; 怒られた

設問 7 の場合、実質名詞の「小学生」を修飾するものであり、設問 9 の場合、「とき」を修飾するものである。

設問 9. 最初に彼_____ときでも、これほど感謝を感じたことはなかった。

- ① が ; 採用した ② を ; 採用した ③ に ; 採用した ④ に ; 採用された

複文末に出現した受身の設問として、設問 5 が挙げられる。

設問 5. 彼はすでに年が 70 余歳であったが、人々_____甚だ_____。

- ① が ; 尊敬した ② に ; 尊敬した ③ に ; 尊敬させ ④ に ; 尊敬されていた

日本語中国語双方向の対訳データの考察結果を参考に、使用率の高い連用修飾節に出現した受身（例えば、「隣の人にタバコを吸われて、困った」）と、中・上級レベルの学習者にとって実際に産出可能性の高い単文末に出現した受身（例えば、「先生に日本語の発音を褒められた。」）に重点をおいて質問紙を設定した。引用節、疑問節に出現した受身は使用率が低いことから、学習者の負担を減らすことを考慮に入れて、予備調査の質問紙では上述した引用節、疑問節に出現した受身を設問から除いた。

選択テストは計 20 問ある。受身の出現位置の角度から整理すると、単文末 9 問（問 1、問 14、問 15、問 16、問 17、問 18、問 19、問 20）、連用修飾節 6 問（問 2、問 8、問 10、問 11、問 12、問 13）、連体修飾節 4 問（問 3、問 4、問 7、問 9）、複文末 1 問（問 5）である。

静態動詞の「いる」も含めて、予備調査で扱う動詞は全部受身にできそうな動詞である。

選択テストで扱う動詞は以下にまとめた。計 20 個ある。

もらう、いる、聞く、知る、尊敬する、思う、怒る、助ける、採用する、運ぶ、揺る、選ぶ、誘う、盗む、壊す、認める、吹く、読む、囲む、開ける

文完成テストで扱う動詞は以下に整理した。計 15 問ある。

呼ぶ、しかる、ほめる、起こす、嘔む、たたく、ひく、着る、食べる、飲む、読む、壊す、とる、汚す

括弧内の動詞を使用して、直感で絵の内容を記述するようにお願いした。登場人物の紹介を含める文脈情報は与えている。事態把握の仕方が絡んでいるかもしれないが、受身文

を引き出すことのできそうな内容を述べておいた。

5.5 予備調査の文法テストの結果

予備調査の文法テストは理解レベルを測る選択テストと産出レベルを測定する文完成テストから構成されている。学習者の回答、日本語母語話者の回答の順に報告する。

5.5.1 選択テストの調査結果

学習者の選択実態は設問別に以下の表 18 に整理した。

表 18：選択テストの調査結果

設問 番号	受身の出 現位置	設問文	学習者の選 択傾向	日本語母語話 者の選択傾向
1	単文末	あの子はアメリカ人の夫婦に養子_____ いった。 ①を；もらって ②に；もらわれて ③を；もらわれて ④に；もらって	①：2人 ②：1人 ②：3人	①：1人 ②：5人
2	連用修飾 節	夫_____一日中家に_____、困った。 ①が；いて ②が；いられて ③に；いれられて ④に；いられて	①：1人 ①：2人 ②：3人	①+③：1人 ①+④：1人 ④：4人
3	連体修飾 節	3. 彼はそれを聞いて、自分と人事担当者の話が子 供_____ことを知った。 ①が；聞いた ②に；聞いた ③が；聞かれていた ④に；聞かれていた	④：6人	④：6人
4	連体修飾 節	予定の十一時より三時間も早く、彼等_____ _____しまったことになる。下瀬は、自分にいい 聞かせ、必死な眼でタクシーを探した。 ②に；知らせて ②に；知られて ③が；知って ④が；知られて	①：5人 ②：1人	②：5人 無答：1人
5	複文末	彼はすでに年が 70 余歳であったが、人々 甚だ_____。	④：6人	④：5人 無答：1人

		① が；尊敬した ②に；尊敬した ③に；尊敬させ ④に；尊敬されていた		
6	単文末	わたしは結婚して3年目だ。しかし、山田さん 独身と_____。 ① が；思わせた ②に；思わせた ③に；思われた ④を；思った	③：6人	③：6人
7	連体修飾 節	目の前の大きな男は、母親_____小学生のよ うにしゅんとしている。 ② が；怒った ②が；怒らせた ③に；怒った ④に；怒られた	②：1人 ④：5人	④：6人
8	連用修飾 節	琥珀さんは秋葉と何やら小さな声で話し合うと、 秋葉に肩をかして立ちあがらせた。そのまま、秋 葉は琥珀さん_____、自分の部屋へと戻っ て行ってしまった。 ① が；助けて ②に；助けられて ③を；助けて ④が；助けられて	②：5人 ③：1人	②：5人 ③：1人
9	連体修飾 節	最初に彼_____ときでも、これほど感謝を 感じたことはなかった。 ① が；採用した ②を；採用した ③に；採用した ④に；採用された	①：3人 ②：1人 ④：2人	④：6人
10	連用修飾 節	夕風が起こった。と、そよ風_____、湖水 のはるか遠くから音楽の響きが伝わってきた。 ① が；運んで ② に；運ばれて ③に；運ばせて ④に；運んで	①：1人 ②：4人 ④：1人	②：5人 ③：1人
11	連用修飾 節	今見回してみても、参加者のほとんどが、合宿に 参加するために、バスの中に揃っているようだっ た。東京から一時間四十分ほどバ ス_____、ようやく目的地に到着した。 ①が；揺られて ②に；揺られて	②：6人	②：6人

		③が；揺れて ④に；揺れて		
12	連用修飾 節	全校生徒が腕を組んで幾重もの輪をつくり、選手たちを取り囲んだ。一年生から立花が一万メートル競走の選手_____、輪の中に入っていた。 ① が；選んで ②に；選ばれて ③が；選ばせて ④に；選ばせて	②：6人	②：5人 無答：1人
13	連用修飾 節	スポーツが好きだった彼は、上村_____すぐボクシング部に入った。 ① が；誘って ②に；誘われて ③に；誘わせて ④を；誘って	②：6人	②：2人 ②+④：3人 ④：1人
14	単文末	大切なお金が泥棒_____。 ① が；盗んだ ②に；盗まれた ③に；盗ませた ④に；盗んでいる	②：6人	②：6人
15	単文末	玄関のドア____次郎_____。 ① が；に；壊された②を；が；壊させた ③が；に；壊させた④を；が；壊された	①：5人 ④：1人	①：4人 ①+②：2人
16	単文末	太郎の出張希望は、人事部長_____。 ① が；認めた ②に；認めさせた ③に；認めた ④に；認められた	④：6人	①：1人 ①+④：1人 ④：4人
17	単文末	木の枝にかかった上着さえ、そのままの位置で激しい風_____。 ① が；吹いていた ②を；吹いていた ③に吹かせていた ④に吹かれていた	②：1人 ③：1人 ④：4人	④：6人
18	単文末	この雑誌は 10 代の若者_____よく_____。 ① が；読む ②が；読まれている ③に；読んでいる ④に；読まれている	①：2人 ④：4人	①+④：1人 ④：5人
19	単文末	花子の家は高層ビル_____。	④：6人	①：1人

		①が；囲んでいる ②に；囲ませている ③が；囲ませている④に；囲まれている		④：5人
20	単文末	障子_____何者か_____。 ① は；が；開けた②を；が；開けさせた ③が；に；開けた④が；に；開けられた	①：1人 ④：5人	①+②+④：1人 ④：5人

5.5.2 文完成テストの調査結果

以下は、設問別に文完成テストの調査結果を報告する。まず学習者の回答傾向を示し、そして、日本語母語話者の回答傾向を整理した。括弧内は回答者のコードである。A、B、C、D、E、F は学習者のコードであり、MT、YZ、YK、T、O、TJ は日本語母語話者のコードである。

絵1		<p>ひろし君です。ここはひろし君の家です。これからみなでご飯を食べます。ひろし君はテレビを見ています。みんな彼を待っています</p> <p>_____。(呼ぶ)</p>
----	--	---

学習者の回答

「ご飯を食べるため、みなさんはひろし君を呼んでいます。」(A) のような能動文で回答している学習者が6人いた。そのうち、「晩ごはんができました。テレビに無中しているひろし君がママに呼ばれても動こうとしないです。」(D) のような文脈情報もまとめて回答にいった学習者が1人いた。

日本語母語話者の回答

「お母さんはひろし君を呼びました。」(YZ) のように、能動表現で回答している日本語母語話者は6人いた。受身文での回答は見受けられなかった。

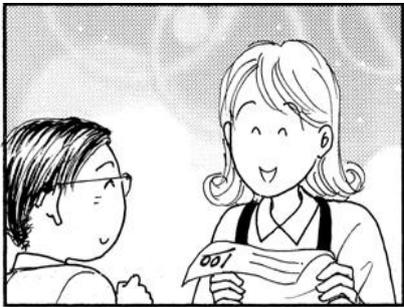
<p>絵 2</p>		<p>ひろし君です。彼は数学のテストで 30 点を取りました。お母さんに成績 を見みせました。 _____。(しかる)</p>
----------------	---	---

学習者の回答

受身文で回答している学習者は 6 人いた。そのうち、「ひろし君はお母さんにほめられた。」(A) のように、「ひろし君」を主語の位置に立てて回答している学習者が 4 人いた。「国語のテスト、ひろし君は 100 点を取りましたので、お母さんにほめられました。」(D) のように、文脈をまとめて回答している学習者が 2 人いた。

日本語母語話者の回答

「ひろしがお母さんにしかられている。」(T) のように、受身文で回答している日本語母語話者は 4 人いた。「お母さんはひろし君をしかったです。」(YK) のように、能動表現で回答している日本語母語話者は 2 人いた。

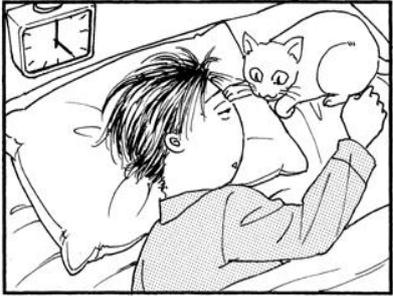
<p>絵 3</p>		<p>ひろし君です。彼は国語のテストで 100 点を取りました。お母さんに成績 を見せました。 _____。(ほめる)</p>
------------	---	---

学習者の回答

「ひろし君はお母さんにほめられた。」(A) のように、受身文で回答している学習者は 6 人いた。「ひろし君はテストに 100 点を取って、お母さんがほめられた。」(B) のように、文脈をまとめて回答している学習者が 2 人いた。

日本語母語話者の回答

「お母さんにひろしくんはほめられている。」(T) のように、受身文で回答している日本語母語話者は 3 人いた。「お母さんはひろし君をほめました。」(YZ) のように、能動表現で回答している日本語母語話者は 3 人いた。

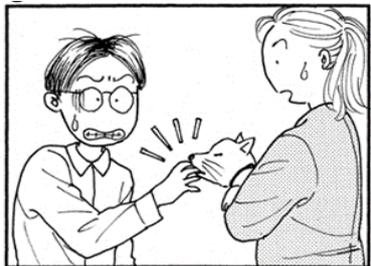
<p>絵 4</p>		<p>日曜日です。ひろし君は寝ています。 猫がひろし君の枕のそばに飛んできました。ひろし君は目を覚めました。</p> <hr/> <p>(起こす)</p>
----------------	---	---

学習者の回答

「ひろし君は猫に起こされた。」(A) のように受身文で回答している学習者は 5 人いた。
「日曜日ひろし君は猫のために起こした。」(B) という能動表現で回答している学習者は 1 人いた。

日本語母語話者の回答

「彼は猫に起こされました。」(TJ) のように、受身文で回答している日本語母語話者は 3 人いた。「ねこがひろしくんをおこしました。」(YZ) のように、能動表現で回答している日本語母語話者は 2 人いた。無答の日本語母語話者は 1 人いた (O)。

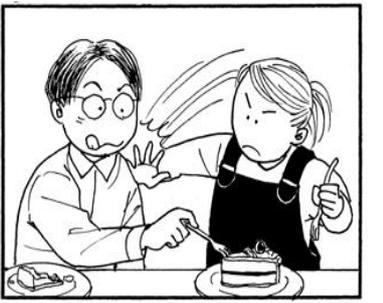
<p>絵 5</p>		<p>ひろし君は隣人のおばさんに会いました。 おばさんは犬を抱っこしていました。</p> <hr/> <p>(噛む)</p>
----------------	---	--

学習者の回答

「ひろし君はいぬに噛まれた。」(A) のように受身文で回答している学習者は 5 人いた。
「ひろし君は隣人のおばさんの犬に噛んでいる」(B) という中間言語的な表現で回答している学習者は 1 人いた。

日本語母語話者の回答

「ひろしは犬にかまれた。」(T) のように、受身文で回答している日本語母語話者は 3 人いた。「犬がひろし君のゆびをとつぜんかみました。」(YK) のように、能動表現で回答している日本語母語話者は 2 人いた。無答の日本語母語話者は 1 人いた (YZ)。

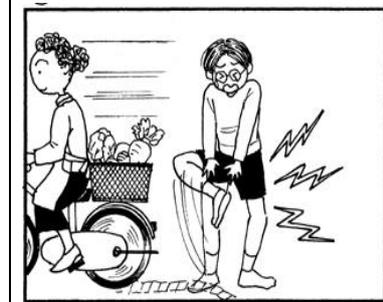
<p>絵 6</p>		<p>ひろし君も妹さんもケーキを食べています。ひろし君は妹さんのケーキも食べようとしています。</p> <hr/> <p>(たたく)</p>
----------------	---	--

学習者の回答

「ひろし君が妹さんにたたかれました。」(C)のように、受身文で回答している学習者は4人いた。「ひろし君は妹さんのケーキをたたきました。」「ひろし君と妹さんはケーキのためにたたいていた。」のように、中間言語的な表現で回答している学習者は2人いた。

日本語母語話者の回答

「妹さんは怒って、ひろし君をたたきました。」(0)のように、能動表現で回答している日本語母語話者は3人いた。「ひろし君は妹にたたかれました。」(MT)のように、受身文で回答している日本語母語話者は3人いた。

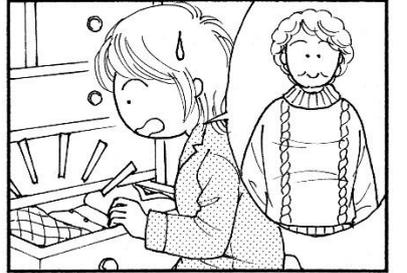
<p>絵 7</p>		<p>ひろし君は歩いています。知らない人が自転車に乗って通りました。</p> <hr/> <p>(ひく)</p>
----------------	---	--

学習者の回答

「ひろし君が自転車にひかれました。」(C)のように受身文で回答している学習者は4人いた。「ひろし君は自転車にひかれた。」(F)のように、中間言語的表現で回答している学習者は2人いた。

日本語母語話者の回答

「ひろし君は知らない人に足をひかれました。」(MT)のように、受身文で回答している日本語母語話者は5人いた。「なんと自転車はひろし君をひいて、走り去って行きました。」(0)という能動表現で回答している日本語母語話者は1人いた。

<p>絵 8</p>		<p>エリさんです。エリさんの部屋です。エリさんのお母さんです。エリさんはセーターを着たいです。でも、セーターがありません。</p> <p>_____。</p> <p>(着る)</p>
----------------	---	--

学習者の回答

「エリさんはお母さんにセーターを着られました。」のような受身文で回答している学習者は4人いた。「エリさんはセーターを着られません。」(F)のような中間言語的な表現で回答している学習者は1人いた。「エリさんはセーターを着たいけど、セーターを探せなかったので、お母さんに聞きたい。」(A)という回答も見受けられた。

日本語母語話者の回答

「エリさんのお母さんが着たにちがいありません。」(YZ)のように、能動表現で回答している日本語母語話者は3人いた。「エリさんのセーターはお母さんに着られているようです。」(TJ)のように、受身文で回答している日本語母語話者は3人いた。

<p>絵 9</p>		<p>エリさんです。エリさんのお父さんです。エリさんはケーキが食べたいです。エリさんのお父さんがケーキを食べています。</p> <p>_____。</p> <p>(食べる)</p>
----------------	---	--

学習者の回答

「エリさんはお父さんにケーキを食べられています。」のように受身文で回答している学習者は4人いた。「エリさんはお父さんにケーキを食べたいと言われた。」(A)「ケーキを食べられたエリさんは驚いていた。」(E)のような回答も見られた。

日本語母語話者の回答

「お父さんにケーキを食べられました。」(MT)のように、受身文で回答している日本語母語話者は5人いた。そのうち、「エリさんは食べたかったケーキをお父さんに食べられてしまいました。」(TJ)という文脈情報を含めている回答も見られた。また、無答の日本語母語話者は1人いた(YZ)。

絵 10		エリさんです。エリさんはかばんを持って、出かけようとしています。 _____。 (噛む)
---------	--	--

学習者の回答

「エリさんが持っているかばんはワンちゃんに噛まれました。」のように、受身文で回答している学習者は4人いた。「ねこはエリさんのかばんを噛んでいる。」(A)のように能動表現で回答している学習者は2人いた。

日本語母語話者の回答

「エリさんはかばんを犬にかまれました。」(MT)のように、受身文で回答している日本語母語話者は4人いた。「すると、犬がエリさんのかばんをかみました。」(YZ)のように、能動表現で回答している日本語母語話者は2人いた。

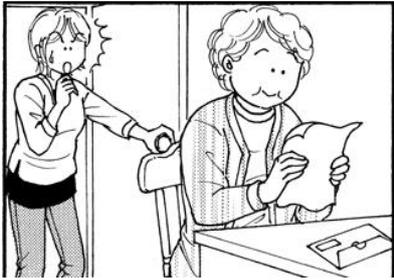
絵 11		エリさんです。エリさんのお父さんです。エリさんはワインを友達に郵送したいです。エリさんのお父さんはワインを飲んでいま _____。 (飲む)
---------	--	--

学習者の回答

「エリさんのワインがお父さんに飲まれました。」(C)のように、受身文で回答している学習者は3人いた。「ワインを飲まれたエリさんはショックだった。」(E)のような回答も見られた。「エリさんはお父さんにワインを飲まられました。」(F)のような中間言語的な表現で回答している学習者は2人いた。

日本語母語話者の回答

「お父さんにワインを飲まれてしまいました。」(MT)のように、受身文で回答している日本語母語話者は5人いた。また、無答の日本語母語話者は1人いた(YZ)。

<p>絵 12</p>		<p>エリさんです。エリさんのお母さんです。机の上 にエリさんへの手紙があります。</p> <hr/> <p>(読む)</p>
-----------------	---	---

学習者の回答

「エリさんへの手紙がお母さんに読まれています。」(C)のように、受身文で回答している学習者は4人いた。「お母さんはエリさんの手紙を読んでいた。」(F)のような能動表現で回答している学習者は2人いた。

日本語母語話者の回答

「お母さんがエリさんの手紙を読んでいます。」(YK)のように、能動表現で回答している日本語母語話者は2人いた。「お母さんに読まれてしまいました。」(T)のように、受身文で回答している日本語母語話者は4人いた。

<p>絵 13</p>		<p>エリさんです。エリさんの犬です。エリさん の携帯電話が使えなくなりました。</p> <hr/> <p>(壊す)</p>
-----------------	---	--

学習者の回答

「エリさんの携帯電話が犬に壊されました。」(D)のように、受身文で回答している学習者は4人いた。「犬のせいで、エリさんの携帯電話が壊した。」(C)のような能動表現で回答している学習者は2人いた。

日本語母語話者の回答

「犬が壊したに違いありません。」(YZ)のように、能動表現で回答している日本語母語話者は3人いた。「携帯が壊されました。」(T)のように、受身文で回答している日本語母語話者は3人いた。

<p>絵 14</p>		<p>エリさんです。エリさんは帽子をかぶっています。動物園です。</p> <hr/> <p>(とる)</p>
-----------------	---	--

学習者の回答

「エリさんがさるに帽子を取られました。」(C)のように、受身文で回答している学習者は6人いた。そのうち、「エリさんの帽子」を主語に立てて回答している学習者は4人いた。

日本語母語話者の回答

「サルが帽子をとろうとしています。」(0)のように、能動表現で回答している日本語母語話者は4人いた。「エリさんは帽子をサルにとられました。」(TJ)のように、受身文で回答している日本語母語話者は2人いた。

<p>絵 15</p>		<p>エリさんです。エリさんは新しいスカートををはいています。彼女は犬をつれて庭を散歩しています。</p> <hr/> <p>(汚す)</p>
-----------------	---	---

学習者の回答

「エリさんの新しいスカートは犬に汚されました。」のように受身文で回答している学習者は4人いた。「エリさんの新しいスカートは犬によこれます。」(A)という中間言語的な表現で回答している学習者は1人いた。無答の学習者(C)は1人いた。

日本語母語話者の回答

「すると、犬がスカートを汚してしまいました。」(0)のように、能動表現で回答している日本語母語話者は1人いた。「エリさんはスカートを犬に汚されてしまいました。」(MT)のように、受身文で回答している日本語母語話者は5人いた。

5.6 予備調査のインタビューの結果

予備調査の質問紙に関して、インタビューを行った。その結果から、以下の3点が分かった。

(1) 対象となった学習者は、教室以外の環境では受身文があまり頻繁に使用されないようである。「受身文をひと通り学習してきたが、日常生活のどんな場面で自然に受身文を使用することができるのかわからない」(学習者B)ことが原因の一つかもしれない。

(2) 中国人日本語学習者は、中国語学の基本的な文法知識がないままあるいは不十分のまま、語感に頼って、受身文を使用すべきかどうかを判断する傾向が見られた。例えば、中国語の受動文(“被动句”)と「被」構文(“被字句”)の概念を混同している学習者が見受けられた。インタビューを行ったところ、「中国語の受動文は「被」マークを使う文だ。」(学習者A)のように、学習者6名のうち3名が、「被」構文(“被字句”)は中国語の受動文(“被动句”)だと思い込んでしまうことが分かった。それは、中国語の受動文の範囲を狭めに把握している現れではないかと考えられる。

(3) 質問紙の設問数を減らす必要があると考えられる。例えば、「同じ動詞二回以上出現した。犬の出番も多すぎる感じを受けた。」(学習者D)のように、調査用紙の設問文デザインに関して、学習者からコメントをもらっている。絵5と絵10とどちらも「噛む」という動詞を与えている。犬が4回現れた(絵13、絵15、絵10、絵5)。文完成テストの狙いは産出レベルの受身文実態を把握することであるので、文脈によって、同じ動詞を与えても受身の出現位置が異なる可能性もあると考えた。

(4) 選択テストと文完成テストの設問文に関して、文脈情報の提示方法を工夫する必要があるという日本語母語話者の指摘があった。つまり、自然な日本語で受身文を引き出せそうな文脈あるいは場面を提示すべきである(例えば、絵12と絵14)。

(5) 選択テストでは、設問15と設問20のような文脈によって複数の回答も可能になりそうな設問文があることと、文完成テストの説明(指示文)が十分とはいえないことに関して日本語母語話者からコメントをもらった。

5.7 予備調査の結果解説

インタビューの結果を考慮に入れながら、学習者の結果と日本語母語話者の結果を組み合わせ考察したところ、選択テストに関して次の3点が分かった。

(1) 学習者の回答と日本語母語話者の回答から、それぞれ文脈情報への関心は異なって

いる。選択テストの設問文への理解が絡んでいるかもしれないが、日本語母語話者は文脈によって正解になりそうな選択肢を選択している。表 18 で示したように、問 2、問 13、問 15、問 16、問 18、問 20 において、複数の選択肢が見受けられた。それに対して、学習者の回答には中間的な回答は見受けられたが、複数の選択肢での回答は見られなかった。日本語母語話者ほどの日本語力を持っていないために、上級レベルの学習者でも、様々な場面あるいは文脈を想定することは難しいと考えられるが、日本語の受身文が文脈依存性が高いことの反映かもしれない。

(2) 助詞に関する理解が絡んでいる可能性もあるが、学習者による問 1、問 2、問 8、問 9、問 10、問 15、問 17、問 18、問 20 の中間言語的な回答から、日中両言語の視点の捉え方の相違が見受けられた。与えられた設問文に関して、日本語母語話者の回答にも多様性が見られた。文脈環境によって、同じ話者でも異なる視点で事態を把握することも可能であるということを示した。受身文を使用できそうな文脈構築の重要性も確認された。「に」の多義性への理解も絡んでいる（問 1、問 2、問 10）。対象となった中国人日本語学習者のデータから、受身文を習得する際に、母語である中国語から影響を受けているというより日本語の言語内知識は不十分ではないかと考えた。

(3) 中間言語的な回答の出現位置の多い順に、単文末に出現した受身（問 1、問 15、問 17、問 18、問 20）、連用修飾節に出現した受身（問 2、問 8、問 10）、連体修飾節（問 4、問 7、問 9）に出現した受身となっている。

設問 1. あの子はアメリカ人の夫婦に養子 _____ いった。

① を ; もらって ② に ; もらわれて ③ を ; もらわれて ④ に ; もらって

問 1 は単文末に出現した受身の設問である。

設問 8. 琥珀さんは秋葉と何やら小さな声で話し合うと、秋葉に肩をかして立ちあがらせた。そのまま、秋葉は琥珀さん _____、自分の部屋へと戻って行ってしまった。

① が ; 助けて ② に ; 助けられて ③ を ; 助けて ④ が ; 助けられて

設問 8 において、連用修飾節に出現した受身が見受けられた。

6 人のうち、5 人が誤答あるいは中間言語的な回答をしている設問は 2 つある（問 1 と問 4）。問 1 に関しては、「もらう」という動詞が受身にできるかどうかの問題と関わっている可能性があるが、行為者を表示する「に」への認識も絡んでいると考えられる。問 4 の設問文では「下瀬は自分に言い聞かせ、必死な目でタクシーを探した」という続きの文を十

分に理解できていない傾向が窺われた。問 9 は 4 人分、問 2、問 10、問 17、問 18 はそれぞれ 2 人分の中間的な回答が見受けられたが、主語の立て方と助詞に関する理解が不十分であることが原因だと考えた。

設問 9. 最初に彼_____ときでも、これほど感謝を感じたことはなかった。

①が；採用した ②を；採用した ③に；採用した ④に；採用された

連体修飾節に出現した受身の例として、設問 9 が挙げられる。問 9 の場合、6 人のうち 3 人が選択肢①を選んでいる。中国語では動作主あるいは変化の主体を主語の位置に立てて事態を述べる傾向がある。対象となった学習者が主語を立てて述べる際に、母語（中国語）から影響を受ける可能性があると考えた。

設問 2. 夫_____一日中家に_____、困った。

② が；いて ②が；いられて ③に；いれられて ④に；いられて

また、設問 2 に関して、6 人のうち 2 人が選択肢②を選んでいる。主語の立て方も絡んでいるかもしれないが、受身の使用が判断できているようであるが、助詞「に」の役割に関する認識が十分とは言えるかもしれない。

学習者の結果と日本語母語話者の結果を組み合わせ考察したところ、文完成テストに関して次の 2 点が分かった。

(1) 文脈情報をまとめて回答している学習者は複数の設問（絵 1、絵 2、絵 3）で見受けられた。括弧内の動詞を使用して自分の直感で絵の内容を記述するように、お願いしたが、その説明に関して、続きの文を書くか、与えられた情報に基づいて、まとめの文を書くか、という二つ理解ができている可能性がないとはいえない。学習者の受身産出例から括弧内の動詞を使わないまま、あるいは使用しているが別の動詞を受身形にして述べている回答も見受けられた（絵 6、絵 8、絵 9）。

(2) 視点の捉え方と事態把握の仕方によって、学習者と日本語母語話者の受身文使用が異なる傾向が見られた。受身文の産出実態を考察するが、日本語母語話者は 3 人（3 人を含めて）以上能動表現で回答している設問は 7 つ見受けられた（絵 1、絵 2、絵 3、絵 6、絵 8、絵 13、絵 14）。人数は少ない（1 人）が、無答の設問もあった（絵 4、絵 5、絵 9、絵 11）。2 人の日本語母語話者は能動表現で回答している設問は 4 つ見受けられた（絵 4、絵 5、絵 10、絵 12）。日本語母語話者の外国語学習経験のことが絡んでいる可能性があるが、日本語

母語話者の事態把握の仕方も反映しているかもしれない。さらに、上述の回答傾向と関わっている要因の一つとして、対象となった日本語母語話者は与えられた文脈情報に基づいて、受身文の使用を判断できない可能性が高いことが挙げられる。文完成テストの結果から中国語を母語とする学習者の受身文使用回数(70回)は日本語母語話者の使用回数(32回)を上回っている傾向があるようであるが、自然な日本語の角度から考えると、日本語の受身文を引き出すためには、文完成テストの設問文、とりわけ文脈情報をさらに工夫する必要があるのではないだろうか。

さらに、絵2の場合、「ひろし君がお母さんにしかられています。」(C)のように、「ひろし君」を主語の位置に立てて絵の内容を記述している学習者は4人いた。誤りとはいえないが、自然な日本語の角度から受身文の使用による視点統一が習得されていないようである。

(3) 文完成テストの学習者の回答から、変化の主体を主語の位置に立てて、絵の内容を記述している傾向が見られた。省略への認識が絡んでいるかもしれないが、6人の調査協力者うちの5人は完全文で回答している。例として、「エリさんのセータはお母さんに着て行かれました。」(学習者D)が挙げられる。さらに、調査協力者Eの回答から、連用修飾節に出現した受身(「猫にかばんを噛まれて、出かけられなかった。」、連体修飾節に出現した受身(「ワインを飲まれたエリさんはショックだった。」)も見受けられたが、E以外の調査協力者によって産出された受身文は、単文末に現れたものであるのがほとんどである。

(4) 上級レベルの日本語学習者の回答からでも、文法的な誤りが見受けられた。「ひろし君は自転車にひかれた。」(A)、「エリさんの郵送したいワインがお父さんに飲まれた」(B)のように、受身の活用に関する中間言語的な回答も見受けられた。

5.8 予備調査の問題点

予備調査の不足しているところを以下の5点にまとめた。

①学習者にとって設問数が比較的多かった。予備調査に用いた質問紙は選択テストと文完成テストから構成されているが、全体計35問である。調査協力者の平均所有時間は50分ぐらいであった。学習者の都合を考慮に入れると、設問の数を調整する必要があると考えられる。

②母語である中国語の理解を確認するために、新しい調査方法を取り入れるべきだと思われる。予備調査に用いた質問紙では理解レベルを測る選択テストと産出レベルを測定する

文完成テスト計 2 種類のデータ方法を使用した。学習者の理解をよりよく確認するために、必要な部分の中国語訳を組み合わせて分析することが必要となっている。

③文脈依存性の高い受身文を引き出すために、自然な日本語で文脈情報を調整する必要があると考えられる。とりわけ、主語の立て方あるいは視点の捉え方とつながっている単文末に出現した受身、主節と従属節の視点を統一する役割を果たしている連用修飾節に出現した受身に特化して、前後に文脈説明文をいれる必要があるかもしれない。

④文完成テストの指示文に関して、続きの文を書かせるのか、まとめの文を書かせるのかという誤解を招くような表現を使用している。指示文への理解によって回答が異なる可能性が高いと言えそうである。

⑤文完成テストの絵に関する文字での説明は初級学習者向けの表現が多く見受けられ、中・上級レベルの学習者にふさわしい表現で修正・加筆する必要があるかもしれない。

5.9 予備調査の修正点

予備調査の不十分なところをめぐって、以下のように修正を行った。

①学習者の負担を減らすことを考慮に入れて、設問の数を調整した。考察したい項目を確保することを前提に、文法選択テストの設問数を 35 問から 12 問に変更した。短文完成テストの設問数を 15 問から 8 問に変更した。質問紙全体（同意書に相当するページとフェイスシートのページの記入時間をも含めていない）の所有時間は 50 分ぐらいから 35 分程度に変更した。

②受身の習得状況を母語の影響、とりわけ視点の概念の角度から誤用の原因を分析するために、文法選択テストの該当部分に下線して、調査協力者に中国語に翻訳するようお願いした。

③川村（2012）の指摘している「話者の事態把握の仕方」の結果としての「主語者の被影響感」を考慮に入れて、日本語の言語内知識とりわけ視点の捉え方と深く関わっている助詞をテストの選択肢に入れておいた。出現位置の角度から、対象となった学習者の受身文習得実態を分析していく。

④予備調査の選択テスト用紙の設問文を大きく修正・加筆した。問 3、問 5、問 6、問 7、問 8、問 13、問 14、問 20 を削除した。問 4、問 9、問 10、問 12 に関して、同じ動詞で新しい文脈を構築した。問 11、問 15、問 16、問 17、問 19 に関して、下線の文の前後に文脈説明を追記した。

⑤文完成テストでは、絵の情報に応じて、受身文を使用できそうな文脈を付与した。接続助詞、接続詞などを活用しながら、関連の説明文を付け加えた。できるだけ自然な日本語で文脈環境の構築を試みた。

第6章 視点に着目した日本語の受身文の習得に関する本調査

この章では、まず、本調査の目的(6.1節)、資料収集の方法(6.2節)、調査対象者の全体像(6.3節)、調査概要及び収集したデータ(6.4節)、採点基準(6.5節)を報告する。そして、理解レベルと産出レベルに分けて、調査協力者の受身文の習得実態を明らかにし、インタビューの結果を組み合わせ、文法選択テスト、文法選択テストの中国語訳、短文完成テストの順に、調査から見られた中間言語的表現の出現要因を考察する。とりわけ視点の捉え方、視点の統一の角度から受身文の習得を阻害する要素を検討する(6.6節)。最後に、本調査の全体的な傾向(6.7節)を整理しながら、考察結果をまとめる(6.8節)。

6.1 調査目的

視点に着目した日本語の受身文に関するより効果的な指導方法を考える上での基礎研究として、中国国内の高等教育機関で日本語を学んでいる中国人学習者が、日本語の受身文の使用、とりわけ受身文の使用と視点との関わりについて、どのように理解しているのかを明らかにすることを目的とする。

6.2 資料収集の方法

予備調査と同様に質問紙による文法テストとインタビューを実施した。次は、資料収集の方法を報告する。

本調査では予備調査と同様に質問紙による文法テストと学習者の内省を調べるインタビューという二つの調査方法を採択した。質問紙による文法テストは文法選択・翻訳テストと短文完成テストから構成されている。それぞれの詳細は以下の通りである。

(1) 文法選択・翻訳テスト

学習者がどのように日本語の受身文を理解しているのか、中国語が如何に中国語を母語とする学習者の受身文に関する理解に影響を及ぼしているのか、ということを探るために、文法選択・翻訳テストを採用した。文法選択の設問は12問あるが、それぞれの設問に翻訳させたい部分に下線を引いた。中国語訳も設けたため、全部で24問ある。

(2) 短文完成テスト

文脈のある環境での学習者の受身文産出実態を把握するために、理解レベルとは別に、短文完成テストを本調査の資料収集方法とした。8問の設問から構成されており、絵の内容

と文字の文脈情報に基づいて、短文を記入するように指示を与えた。

(3) インタビュー

2017年8月25日から2017年10月23日にかけて、5人の調査協力者（D大学からの院生1名、学部生2名、L大学からの学部生2名）を対象に、ネットチャットの方法で、中国語でインタビューを実施した。1人当たりのインタビューの所有時間は約1時間であった。

インタビューの流れは以下の通りである。

- ① まず簡単に自己紹介をして、質問紙回答のご協力に、お礼を言う。
- ② 協力者をリラックスさせて、日常会話の気持ちでインタビューをはじめめる。
- ③ 両方都合のいい時間を約束して、ネットチャットの方式で、中国語でインタビューを実施する。
- ④ 各テストの設問をめぐって、選択理由と選択基準を中国語で記述してもらう。
- ⑤ インタビューへの協力に感謝の意を表す。
- ⑥ 日本語学習に関する資料をスキャンして送信することを謝礼として話しておく。

6.3 調査対象者の全体像

本調査では後述するように、中国の2大学の協力を得て、データを得ることができた。中国の大学生は、大学入学前に、教育機関で日本語を既習している学習者は極少数である。従って、入学時点においてほとんどの学習者は日本語の知識がゼロである。学部2年生の後半あるいは3年生の前半で日本語能力試験のN1とN2を受験する者が集中している。中国の場合、大学を卒業する時点で多くの学習者は日本語能力試験のN2に受かり、N1を目指す程度の知識があると言われている。調査当時、対象者全員は日本語能力試験の資格を持っているとは限らない。

以下はフェイスシートに記載されている学習者の日本語能力試験の取得情報に即して、日本語レベル別に学習者の全体像をまとめた。

表 20：日本語レベル別の学習者全体像

グループ	N1	N2	資格なし	未記入	人数（人）
D院	11	0	0	0	11
D日	6	1	4	1	12
D強化一材日	4	4	6	1	15

D 強化ー計日	15	6	10	3	34
D 強化ーソ日	0	3	31	7	41
L 日	5	12	4	7	28
計	41	26	55	19	141
比率 (%)	29.08	18.44	39.00	13.48	100.00

N1、N2 の資格を持っている調査協力者は 67 であり、全体の 47.52%を占めた。中上級レベルの日本語学習者と考えられる。資格を持っていない調査協力者に関しては、調査実施当時、重点大学の 2 年生後半あるいは 3 年生の後半であったので、中級レベルに達している可能性が高いと考えた。

中国の北部にある重点大学 2 校 (D 大学、L 大学) の大学生、大学院生から調査の協力を得た。所属及び専攻に関して、以下の表 21 にまとめた。

表 21：所属別のデータの全体像

所属情報	専攻	人数	
D 大学日本語専攻 (大学院生)	日本語	11	
D 大学日本語専攻 (学部生)	日本語	12	
D 大学強化コース 1 (学部生)	材料日本語	15	49
	計算機日本語	34	
D 大学強化コース 2 (学部生)	ソフト日本語	41	
L 大学日本語 (学部生)	日本語	28	
計		141	

D 大学では、日本語を学ぶ学習者は日本語専攻のほかに、日本語強化コースもある。日本語強化コースの学生は、大学に入学した際、日本語の知識がほぼゼロであった。教科書に関する詳しい考察は第 7 章に譲るが、日本語強化コースの場合、日本語専攻と同じ教科書を使用して日本語を学習するのが一般的である (ソフト日本語コースを除く)。日本語専攻

並みの日本語レベルを持っている人が多いと言えそうである。

今回の調査協力者の学年に関して、以下の表 22 に示した。

表 22：学年別のデータの全体像

学年	人数 (人)	比率 (%)
大学院 1 年生	11	7.80
4 年生	4	2.84
3 年生	87	61.70
2 年生	38	26.95
学年未記入	1	0.71
計	141	100.00

受身文は、初級後半で導入されるのがふつうであることから、始めから 1 年生は対象とせず、2 年生以上の協力を得た。調査当時 2 年生、3 年生であった学習者は全体の 88.65% を占めた。少数であるが、院生 1 年生と大学 4 年生の学習者からも協力を得た。

6.4 調査概要及び収集したデータ

理解レベル（意味がわかればいいレベル）と産出レベル（実際に使えるようになる必要があるレベル）の日本語の「行為者ニ表示」受身文の習得状況を明らかにするために、2017 年 6 月 7 日から 2017 年 6 月 12 日にかけて、中国の D 大学及び L 大学で日本語を学習している中国人学習者 173 名を対象に、質問紙（文法選択テストは選択式で、翻訳テストと短文完成テストは記述式で実施した）を配布し、本調査²¹を行った。

学習者が参加協力に同意表明した質問紙 153 部をさらに詳しく整理し、文法選択・選択テスト、短文完成テストの回答全部そろっている（各テストで 70%以上無回答の質問紙データを除いている）質問紙のみ分析の対象として扱うこととする。有効回答数は 141 部であった。

6.5 採点基準に関して

文法選択テストおよび翻訳テストを全 24 問作成し、正答を 1 点、誤答あるいは無回答を 0 点とした。前者のテストでは正しいと思う選択肢を選択し、後者のテストでは問題文中の

²¹ 本調査には、D 大学の教員孫成志氏の全面的な協力を得た。

下線部を中国語に翻訳してもらい、下線部の内容を理解できている場合は1点、無回答の場合は0点とした。採点の際、中国語の語順、誤字、言葉遣いの問題は追及しなかった。

短文完成テスト²²は全部で8問である。正答を1点、誤答あるいは無回答を0点とした。自然な日本語の角度から採点するように、日本の大学で日本語教育学を専攻している日本語母語話者（大学院生）に意見を求めた。受身文以外の誤用は、本稿の研究課題ではないので、問わなかった。

6.6 本調査結果の考察

この節では、文法選択テスト、文法選択テストの中国語訳、短文完成テストの順に本調査の結果を考察していく。基本的に設問の順に報告するが、説明の便宜上（例えば文法選択テストの問5と問10はどちらも発生状況描写の受身文であるので、セットで解説を行うこととする。）、設問が前後することがあるかもしれない。

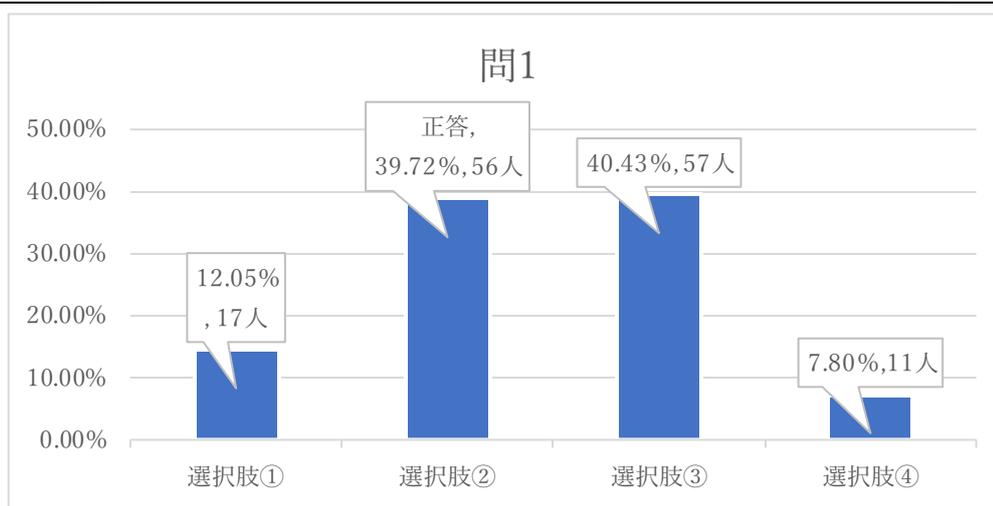
6.6.1 文法選択・翻訳テストの結果の考察

この節では、文法選択テスト、文法選択テストの中国語訳の順に、調査結果を考察する。

6.6.1.1 文法選択テストの結果の考察

() 1. あの子はアメリカ人の夫婦に養子 [] [] いった。
 ①を；もらって ②に；もらわれて ③を；もらわれて ④に；もらって

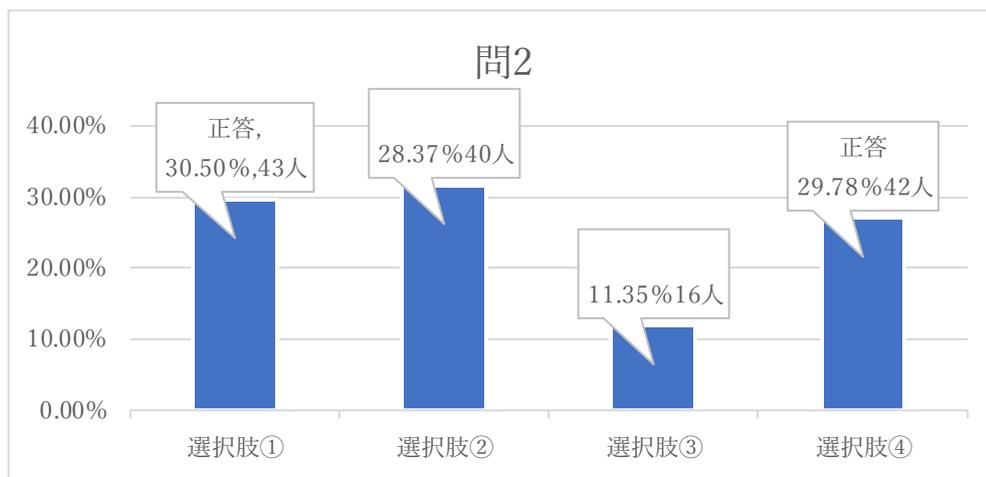
中国語訳： _____



²² 短文完成テストの絵の出典である『絵で導入・絵で練習』の著作権を確認した。「本書及びCD-ROMにおける著作権の扱いについて 著作権者と出版社との契約により、本書およびCD-ROMを所有している方は、営利を目的とする場合を除き、収載されているすべての図案を自由に複写・複製することができます。」と書いてあることから、テストに利用する絵の著作権は問題がないと考えられる。

問1における学習者の回答は選択肢③、①、④であった。問1は、単文末に現れる受身である。行為者は「アメリカ人の夫婦」であり、すでに助詞「に」で表示されている。「養子に」の「に」は「として」に相当する。この設問のデザインの関係で、受身文の習得との繋がりはいささか顕著ではないかもしれないが、ここで問題の一部にした理由は、助詞「に」に関する理解（行為者を表示する「に」が既に現れていることが分かったかどうか）を確認するためである。「養子をもらう（「领养」）」は、中国語で一つのかたまりとして理解されると思われる。寺村（1982）では、「イク」「クル」のような補助動詞をつけると、受身（直接受身文）で使われる例がある、という指摘がある。40.43%の協力者が選択肢③を選んだ。その回答状況から、学習者は受身の使用と理解しているらしく、「もらわれて」を選択していると考えられる。問1では、学習者が行為者を表示する助詞に関する理解ができていのかどうかは判断できない。ほかの回答（選択肢①、④）も見られた。文法選択テストの中国語訳では、「那个孩子是从美国夫妇那抱来的养子。（日本語訳：あの子はアメリカ人の夫婦から抱かれた養子である。²³）」（DN021）が現れたが、それは中国語の主述文で表現している。中国語では、主体に視点を置き、主体の意思を明確にすることを好む傾向にある、という高橋（2016）の研究報告と一致していると考えられる。それは母語から影響を受けて、選択したと推測される。

() 2. 夫 [] 一日中家に []、困った。
 ① が ; いて ② が ; いられて ③ に ; いられて ④ に ; いられて
 中国語訳 : _____



²³ 下線、二重下線、点線でマークした部分は、それぞれ文の主語、述語動詞、対象語である。マークは筆者によるものである。

問3は、複文末に出現した受身である。この設問は文法選択テストで正答率が一番高く、95.74%を占めた。原因の一つとして、中国語の”被”構文と意味的ときれいに対応していることが挙げられる。高橋（2016）で指摘している「主体+出来事」の構成で説明すると、日中両言語はの主体はどちらも「受け手」であり、出来事も同じく「仕手の影響を受ける行為や感情など」である。文法選択内容の中国語訳の回答を整理したところ、「不想被别人知道。（日本語訳：ほかの人に知られたくない。）」、「不想让别人知道（ほかの人に知らせたくない／ほかの人に知られたくない。）」といった回答に集中していて、正答率も一番高かった。

（ ）4. 犬科には、犬のほかに、狼、ヤマイヌなどがある。この中から、犬だけが、家畜として人間〔.....〕〔.....〕。人間が目をつけたのは、犬の特性である「忠実性」である。

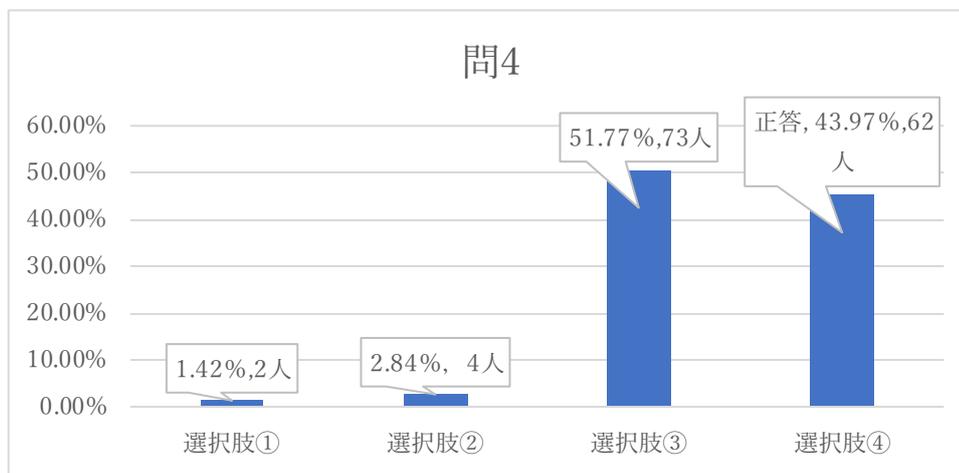
①が；採用するわけだ

②が；採用したわけだ

③に；採用されるわけだ

④に；採用されたわけだ

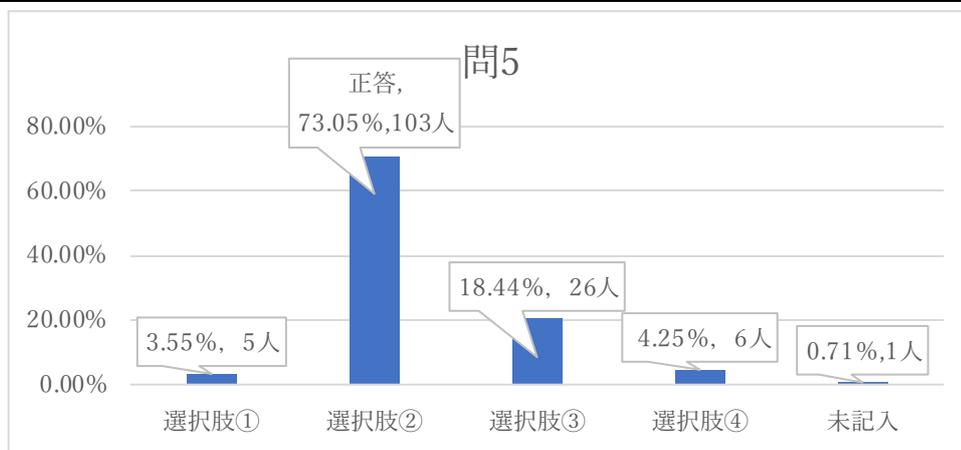
中国語訳： _____



問4の場合、連体修飾節に出現した受身であるが、その被修飾名詞が形式名詞であるため、被修飾名詞が実質名詞の場合と比べて文法機能が異なる（前田 2011）。問4の正答率は、43.97%であった。問3の正答率と比べて、その半分にもなっていなかった。問4において、選択肢③を正しい答えと思った学習者が51.77%いた。つまり、半分以上の協力者は連体修飾節（被修飾名詞は形式名詞）に出現した受身形の使用を理解できていない。ここでは形式名詞である「わけ」を使用しているが、被影響感の意味も読み取ることができると思わ

れる。池上・守屋（2009）は日本語全体の特徴について、「イマ・ココに密着した話し手中心の事態把握の傾向を持つ言語」と述べている。さらに、ある事態を述べる際に、誰の立場に立って、どこから事態の何をみているかという話し手の視点の捉え方は日本語学習者の理解に大きな影響を与えると考えられる。イマ・ココと密着している話者中心の特徴を把握するためには、文脈から必要な情報を読み取る必要があると考えられる。川村（2012）は、「主語者の被影響感」は「話者の事態把握の仕方」の結果現れる意味であると指摘している。事態把握の仕方という点で、池上・守屋（2009）と川村（2012）は共通しているところがあると考えられる。

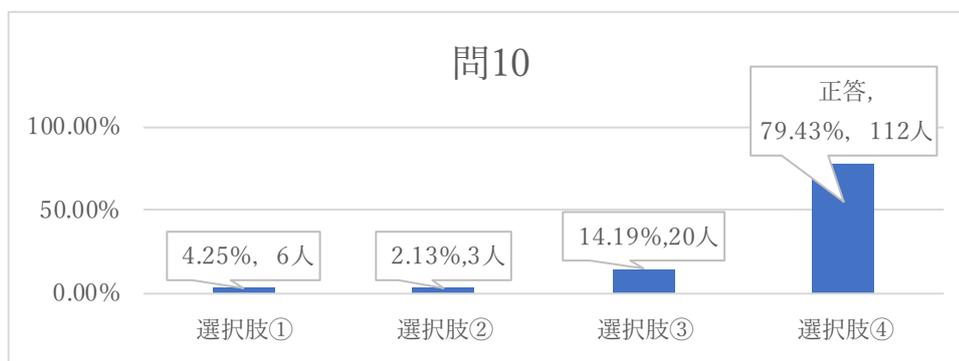
() 5. 枯れ草を丸めその右手を前にのぼした。枯れ草を放すと、風〔.....〕
 〔.....〕、左側三十度ちょっとのあたりに落ちた。風速の算出は、吹き流しや警戒旗などが無くても、新聞紙や乾草などを柔らかく丸めたものが落ちた角度を八で割ることによって秒速メーターが出てくる。
 ①が；運んで ②に；運ばれて ③に；運ばせて ④に；運んで
 中国語訳：_____



問5は連用修飾節に出現した受身である。この設問において、選択肢③を選んだ学習者が26人いた。問5の下線部は中国語に翻訳すると、「讓」構文（“让字句 rangziju”）字句の使用も認められるので、「讓」字句の優先解釈は中国語で使役の意味になることから（古川2006；木村2012）、それは選択肢③を選んだ理由の一つになると推測される。期待される翻訳表現は、屈（2008）で指摘している非典型的な受身マークの「在……下（～の影響下で／～の影響を受けて）」であるが、それを使って翻訳してもらった回答は見られなかった。彭（2008）では、日本語は視点一貫性の高い言語であり、中国語は視点の移動性が高い言

語であるという指摘があるが、その視点一貫性のことは視点の統一の別の言い方ではないかと考えられる。学習者が中国語の視点の捉え方あるいは主語の立て方が影響を受けて、動作主に視点を置いて述べる回答が生成しやすいと考えられる。

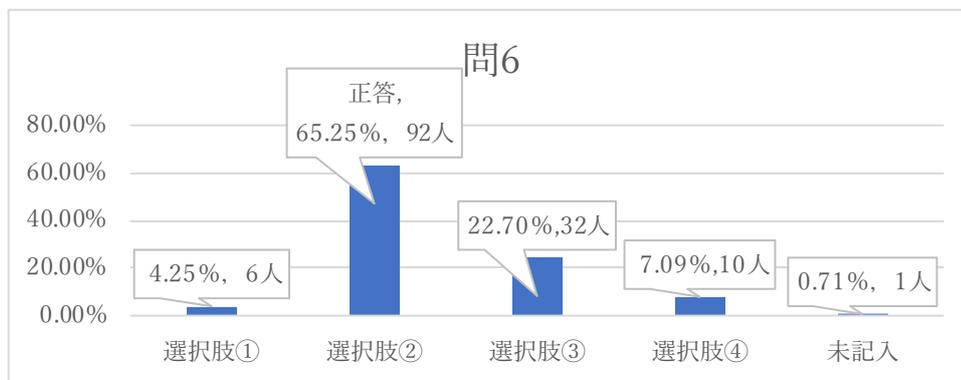
() 10. 桜の木は、涼しい風 [.....] [.....]、朝日にあたりました。
 ①が；吹いて ②を；吹いて ③に；吹かせて ④に；吹かれて
 中国語訳： _____



問 10 は連用修飾節に出現した受身である。正答率は 79.43%であった。使役の意味を表す選択肢③を選んだ学習者は全体の 14.19%を占めた。川村 (2012) の用語で説明すると、問 5 も問 10 も「発生状況描写」受身文である。それは、森田 (2002) で指摘している第三者による傍観的な視点に立って、事態を述べていることと重なっているところが多いと考えられる。さらに、受身文の使用によって、視点の一貫性が高くなっている。つまり、視点が統一されることになる。上述した視点の捉え方に関して、今回の調査に協力してくれた学習者の約 2 割が十分に理解できていない可能性がある。久野 (1978) の共感度の理論で考えると、主語は「桜の木」であり、有情者主語の場合と比べて、受身文になりくいと言えるが、視点の角度から受身文の使用を解説すると (視点は傍観者の立場をとって事態を把握しているが、個人認識を越える比較的客観的な事態把握の仕方の現れではないだろうか)、学習者にとって理解しやすくなるのではないかと考えた。

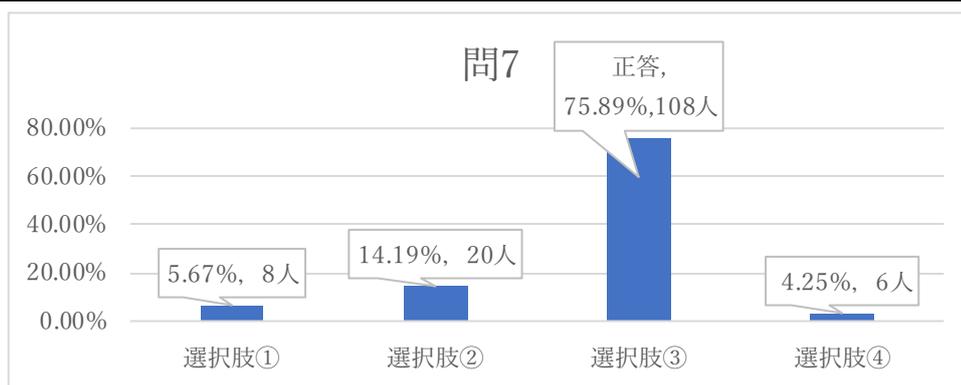
() 6. 参加者のほとんどが、合宿に参加するために、バスの中に揃っているようだった。東京から一時間四十分ほどバス [.....] [.....]、ようやく目的地に到着した。
 ①が；揺られて ②に；揺られて ③が；揺れて ④に；揺れて
 中国語訳： _____

問6は、連用修飾節に出現した受身で、正答率が65.25%であった。選択肢③の誤答率が一番高く、22.70%であった。



中国語は事実志向が強い言語とされているが、学習者は母語である中国語から影響を受けて、変化主体を主語の位置に立てて述べないと落ち着かない傾向があるのではないだろうか。それは、受身文の使用による視点の統一という日本語の受身文を使いこなすための内容を習得できていないとも言えるだろう。

() 7. 特に勝さんの興味を引いたのは、サンフランシスコ市の議会政治であった。議会では市民〔 〕〔 〕議員が壇上に立ち、自分の意見を堂々と演説する。それを聞いた別の議員が挙手をして立ち上がり、まっこうから反対意見を述べる。
 ①に；選んだ ②が；選ばれた ③に；選ばれた ④に；選ばせた
 中国語訳： _____



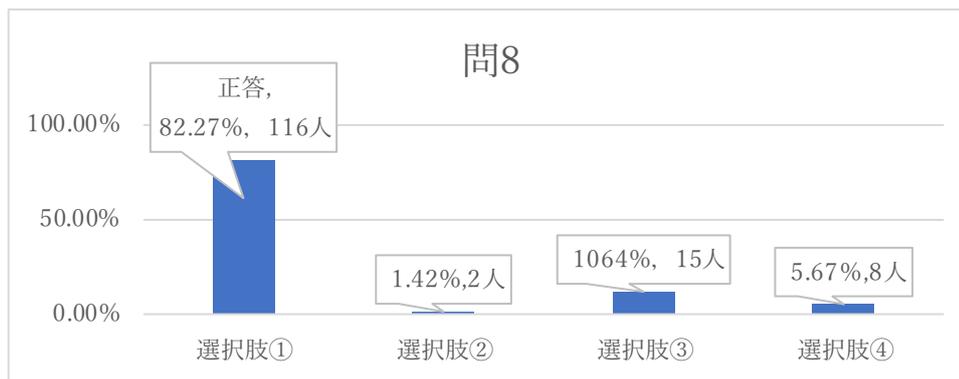
問7は連体修飾節に出現した受身である。正答率75.89%であった。選択肢②の誤答率が14.19%で、正答以外の選択肢のなかで選択率が一番高かった。助詞「に」と助詞「が」を混同している可能性もあるが、原因の一つとして、中国語学習者は複数の登場人物を立てて事態を述べる傾向がある（渡邊 1995）ことが挙げられる。学習者は中国語の視点の捉え方から影響を受けて、動作主あるいは変化主体を主語の位置に立てて述べないと落ち着か

ない傾向があるのではないだろうか。

() 8. 玄関のドア [] 次郎さん []。しかし、彼からは、弁償どころか何のお詫びもなかった。

①は；に；壊された ②を；は；壊させた ③が；に；壊させた ④を；が；壊された

中国語訳： _____

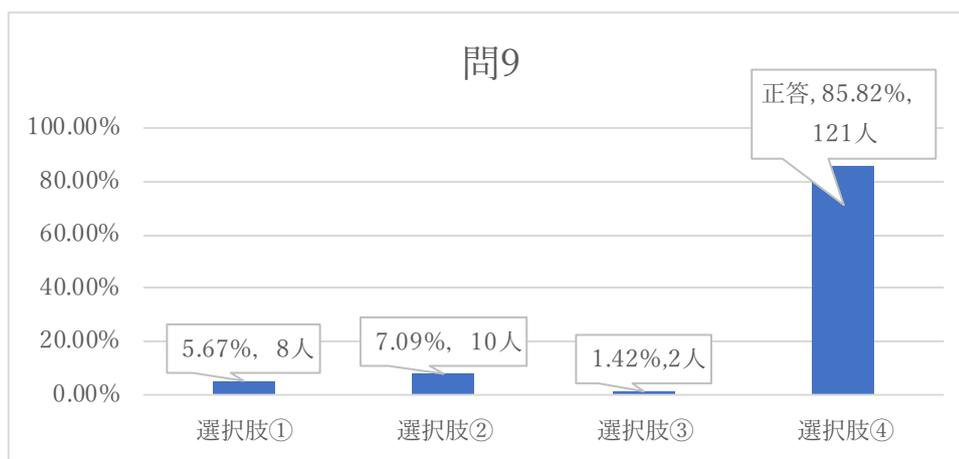


問 8 は単文末に出現した受身である。この設問は、文脈のある環境で単文末に出現した受身で、正答率が 82.27%であった。文脈がなければ、選択肢③（誤答率が一番高かった。全体の 10.64%を占めた。）も認められる。しかし、続きの文から読み取った情報から、受身文を使用すべきかどうかを判断することに欠けているのではないかと考えた。日本語の言語内知識が不十分であることと中国語の基本文法知識の混同は原因かもしれない。まず日本語の言語内知識であるが、助詞「が」と「に」に関する認識が足りないことと、使役文の基本的な意味（ある人命令や指示に従ってほかの人間がある行動をする）を理解できていないことが挙げられる。中国語訳の回答から「讓」マークを使用している学習者が多く見られた。中国語では、「讓」という言葉は”被”構文のマークとしても使役文の代表とされている「讓」構文の「讓」としても使用できると考えられる。この二つの双指向性あるいは視点の捉え方に関する中国語の基本的な文法知識がないままあるいは不十分のまま、中国語の語感に頼って、この設問で受身文を使用すべきかどうかを判断している可能性はないとはいえない。

() 9. 太郎さんの出張希望は、前回は却下されたが、今回は人事部長 [] [] ので、同僚も出張の成果を期待している。

①が；認めた ②に；認めさせた ③に；認めた ④に；認められた

中国語訳： _____

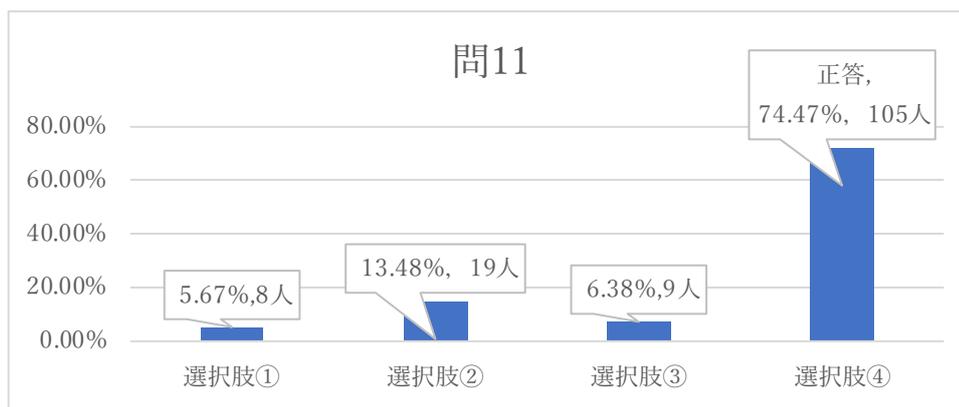


問9は連用修飾節に出現した受身である。この設問の正答率は85.82%であった。潜在受影者タイプの受身文でもある。正答以外に、選択肢②を選んだ学習者が10人であり、全体の7.09%を占めた。問9の場合、太郎さんの出張希望を話題に、話を展開している。日本語ではある行為を表す際に、話者が関与する場合は一般に話者を主語にして文が作られる。具体的に言えば、話者が行為者であるときには能動文、行為の受け手であるときには受身文が使われる(久野1978)。しかし、中国語ではそういう視点の制約を受けないため必ずしも話者を主語の位置に立てて事態を述べるとは限らない。その場合、動作主あるいは変化の主体を主語にして把握するほうがより理解しやすいと考えられる。それは、選択肢①と②の回答が現れることの根本的な原因の一つかもしれない。さらに、中国語の「讓」の双指向性に関する知識も絡んでいると考えられるが、学習者は、文脈説明に基づいて、「讓」の意味解釈を判断することに慣れていない可能性もある。

() 11. この雑誌は10代の若者 [] よく []。

①が；読ませている ②が；読まれている ③に；読んでいる ④に；読まれている

中国語訳： _____

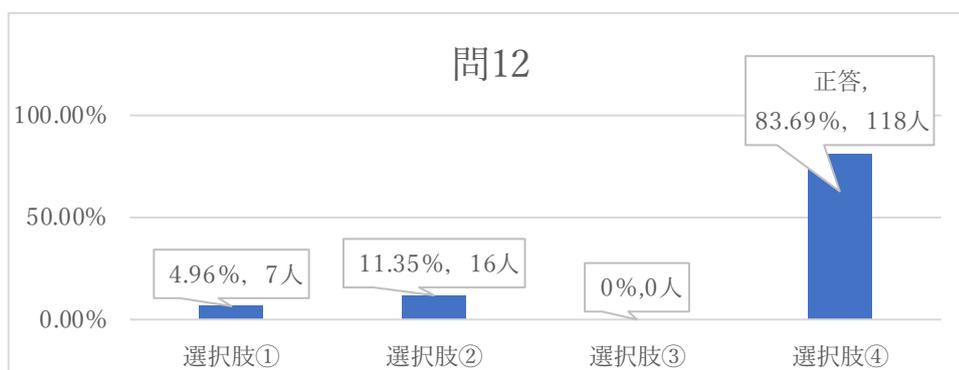


問 11 は、単文末に出現した受身である。属性叙述タイプの受身文にも属する。その正答率は 74.47%であった。正答以外を選んだ学習者は全体の 15.53%を占めた。原因の一つとして助詞「に」、「が」に関する理解が不十分であることが挙げられる。川村（2012）は、益岡（1982）の例文を援用しながら、このタイプの受身文について、「主語者であるモノが有する何らかの属性をのべおおせしているかどうか、〈行為者〉ニ表示が適格になるかどうかの分かれ目になっていると判断できる」と述べている。問 11 は、「この雑誌」の性質を叙述しているので、〈行為者〉ニ表示で成立できると考えられる。「若者」は行為者であり、主語ではない。その点を正確に理解できていないことが、誤用理由になるのではないかと考えられる。

() 12. 花子の家は高層ビル[.....][.....]。そのせいで、日当たりが悪くなった。

①が；囲まれている ②に；囲ませている ③が；囲ませている ④に；囲まれている

中国語訳：_____



問 12 は単文末に出現した受身である。後続の文は文脈情報である。この設問の正答率は 83.69%であった。原因として、日本語の言語内知識が足りないこと（助詞「が」「に」に関する知識と使役の基本的な意味）と後続の文脈説明への配慮が不十分であることが挙げ

られるが、日本語の受身文に関する理解を深める必要もあると考えた。「花子の家」は主語であるので、久野（1978）で指摘している共感度の理論と、庵（2012）で指摘している「視点の置かれやすさの階層」によれば、単独では共感度が低いようであるが、後続の文脈説明である「そのせいで、日当たりが悪くなった。」を考慮に入れて考えると、話者がトピックの「花子の家」に関して立場あるいは関心をしめしていると考えられる。さらに、「花子の家は高層ビルに囲まれている。」という文は、属性叙述受動文でもあり（益岡 1982）、潜在受影者タイプの受身文としても見なすこともできる（川村 2012）。

以下は、文法選択テストの回答傾向をまとめて報告する。文法選択テストは全部で12問あるが、選択肢別にテストの回答傾向を整理すると表23となる。

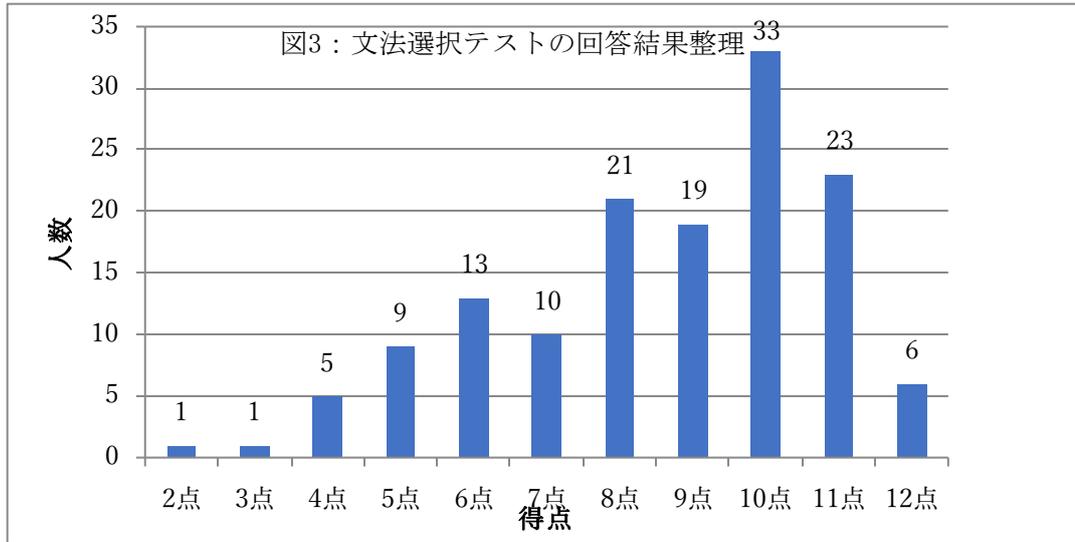
表23：選択肢別に整理している文法選択テストの回答状況

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
①	12.05	30.50	3.55	1.42	3.55	4.25	5.67	82.27	5.67	4.25	5.67	4.96
②	39.72	28.37	95.74	2.84	73.05	65.25	14.19	1.42	7.09	2.13	13.48	11.35
③	40.43	11.35	0.71	51.77	18.44	22.70	75.89	10.64	1.42	14.19	6.38	0.00
④	7.80	29.78	0.00	43.97	4.25	7.09	4.25	5.67	85.82	79.43	74.47	83.69
無回答					0.71	0.71						
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

正答率を計算する際に、問2の場合、正答は二つあるため（模範解答は選択肢④であるが、事態の把握の仕方によって、選択肢①も正答と見なされる）、問2の回答整理を特別扱った。問2の選択肢①の回答から、視点に着目した受身文の習得実態を把握できるため、設問デザインには問題がないとはいえないが、反映している習得実態は視点つながっていると考えられる。

正当率の高い順に、問3、問9、問12、問8、問10、問7、問11、問5、問6、問2、問4問1となっている。そのうち、正答率が100%に近い設問もあれば、正答率が40%未満の設問もある。

得点はすべての習得状況を反映できていないわけではないが、文法選択テストの回答結果を点数で示すと図3である。



文法選択テストの設問 12 問あるが、12 点満点である。得点の最大値は 12 点であり、その最小値は 2 点である。図 3 で示したように、9 点～12 点の得点（141 人のうち 81 人）が最も多く見受けられた。本調査の受身文設問に関して、6 割くらいの調査協力者が理解できているようである。

母語（中国語）での理解も上述の回答傾向と同じであるかどうか、次の 6.6.2 節で考察していく。

6.6.1.2 文法選択テストの中国語訳の考察

次に本節では、設問別に上述したタイプの中国語訳の回答傾向を提示し、考察を加える。

4 つのタイプに関する説明であるが、[] 内の左の○/×は文法選択テストの回答状況を表し、右の○/×は文法選択テストの設問文に下線を引いた部分の中国語訳の回答状況を表す。

次は問 1 である。

() 1. あの子はアメリカ人の夫婦に養子〔.....〕〔.....〕いった。

①を；もらって ②に；もらわれて

③を；もらわれて ④に；もらって

中国語訳：_____

【○ ○】²⁴55 人

²⁴ この意味は、文法選も正解（○）で、その下線部の中国語訳も正解（○）の回答をした

YN012 のように、「那个孩子被美国一对夫妇收为养子。(日本語訳：あの子はアメリカ人の夫婦に養子にもらわれていった。)」のような表現を使用している回答が最も多かった (21 人)。

YN003 のように、「那孩子被美国的夫妇作为养子收养了。(日本語訳：あの子はアメリカ人の夫婦に養子としてもらわれていった。)」といったような表現で回答している学習者が 16 人いた。

KZ004 のように、「那个孩子被美国的夫妇领养了。(日本語訳：あの子はアメリカ人の夫婦に養子扱いにされた。)」といったような表現で回答している学習者が 7 人いた。

DN013 のように、「那个孩子是美国夫妇的养子。(日本語訳：あの子はアメリカ人夫婦の養子である。)」という「是」を用いた表現 (“是 shì”) を使用している回答が見受けられた (5 人)。

その他の表現を使っている学習者が 6 人いたが。そのうち、“被” 構文 (“被字句 beizijù”) で表現している回答は 4 人いた。

【○ ×】1 人

「那个人被送给美国夫妇作为养子。(日本語訳：あの子は養子としてアメリカ人の夫婦に送られた。)」(KS022) という回答が見受けられた。基本的に事態を把握できていて、受身を使用すべきだと判断できているようであるが、行為者を表示する助詞「に」に関して理解が十分とはいえない。さらに、「もらう」という動詞自体の意味を理解できていないと考えられる。

【× ○】75 人

YN011 のように「那个孩子被美国一对夫妇收为养子。(日本語訳：あの子はアメリカ人の夫婦に養子にもらわれていった。)」といったような表現を使用している回答が一番多かった (32 人)。

YN010 のように「那个孩子被一对美国夫妇收养了。(日本語訳：あの子はアメリカ人の夫婦に養子にもらわれていった。)」といったような翻訳文で回答している学習者が 22 人いた。

KN001 のように、「那个人是美国夫妇的养子。(日本語訳：あの子はアメリカ人の夫婦の養子である。)」といったような「是」を用いた表現 (“是 shì”) で回答している学習者が 17 人いた。

学習者が 55 人いたということを表す。

KS001 のように「那个孩子是被美国夫妇收为养子的。(日本語訳：あの子はアメリカ人の夫婦に養子にもらわれたのである。)」といったような回答もあった(4人)。そのうち、“被”構文(“被字句”)表現3人、あるいは“被”構文(“被字句 beizijù”)表現とほかの文型の組み合わせも1人現れた。

【× ×】10人

一番多かったのは、DN011 のように「那个孩子是从美国夫妇那抱来的养子。(日本語訳：あの子はアメリカ人の夫婦から抱かれた養子である)」といったような表現を使用している回答であった(6人)。

その他、KZ006 のように「那时美国夫妇收了那个孩子为养子。(日本語訳：そのとき、アメリカ人の夫婦がその子を養子にもらった。)」といった能動表現の回答(2人)、KS014 のように「那个孩子被美国夫妇请求收为养子。(日本語訳：その子はアメリカ人の夫婦に、養子になるように頼まれた)」といった「被字句」表現を使用している回答(2人)もあった。

文の構成は若干異なっているが、“被”構文(“被字句”)で日本語の受身文を翻訳する傾向が見られた。【○ ○】タイプ計55人のうち48人、【× ○】タイプ計75人のうち56人は、「被」マークを使用して翻訳している。[○ ○]タイプ計55人のうち5人、【× ○】タイプ計75人のうち17人は「是」を用いた表現(“是 shì”)を使用して翻訳している。それは、“被”構文と比べて、より客観的な角度から同じ事態を述べていると思われる。【× ×】タイプに関して、「に」と「から」の用法を混同している傾向が見られた。次は問2である。

() 2. 夫[]一日中家に[]、困った。

①が；いて ②が；いられて ③に；いれられて ④に；いられて

中国語訳：_____

【○ ○】66人

DN009 のように、「丈夫整天在家很困扰。(日本語訳：夫が毎日家において、困った。)」のような表現で回答している学習者が30人いた。ここでは「困った」(很困扰)の前に、「わたし」をいれて理解することができると考えられる。

YN001 のように、「丈夫整天都呆在家里，烦死了。(日本語訳：夫が一日中家において、いやだ)」のような表現で回答している学習者が29人いた。ここでは「いやだ」(烦死了)の前に、「わたし」をいれて理解することができると考えられる。

KN022 のように、「对老公一整天都呆在家里感到困恼。(日本語訳：夫に一日中家にいられて、困った)」といった回答をしている学習者が7人いた。中国語の文の主語を言語化していないが、「わたし」(我)を文の最初のところに入れて理解することができると思われる。

このタイプにおいて66人のうち59人が二つの主語を立てて中国語の能動文で翻訳していることから、学習者は複数の人物を主語に立てて、能動文で事態を把握する傾向が窺われた。

【○ ×】25人

KN026 のように、「我被丈夫要求整天待天家里，很困扰啊。(日本語訳：私は、夫に一日中家にいることを要求されて、困った。)」”被”構文(“被字句 beizijù”)を用いて回答している学習者が12人いた。その回答から「夫」という名詞を主語にして、日本語の助詞と主語の立て方との関係に関して十分に理解できていないことが分かった。

KZ008 のような「男人在家里呆了一天，困²⁵了。(日本語訳：男の人/旦那は家に一日いて、眠くなった。)」という能動表現を使っている学習者が6人いた。「困る」という言葉の意味が理解できない可能性もあるが、「夫」を仕手の位置に立てて、「困った」を「夫」の行為だと誤解しているのではないだろうか。

KN016 のように、「讓字句」を使っている「丈夫让我一整天呆在家里，真烦²⁶。(日本語訳：私は夫に家にいることをさせた)」のような回答も現れ、3人いた。「讓」構文(“让字句 rangziju”)を使って翻訳している回答もあったが、続きの「困った」は、仕手の影響を受ける感情であることを十分理解できていないことも絡んでいる可能性があるが、仕手である「夫」を主語の位置に立てて述べる内容は、日本語の設問文の意味を誤解していると考えた。

その他、KN006 のように「丈夫一回家就困了。(日本語訳：夫が家に帰ると、眠くなる。)」回答(2人)と無答(2人)もあった。

【× ○】29人

YN002 のように「丈夫一整天都呆在家真头疼。(日本語：夫に一日中家にいられて、困った。)」

²⁵ 中国語では「眠い(“困”)」という言葉があるが、「困る」の漢字と全く同じであるが、意味は異なっている。

²⁶ 日本語の直訳ではないが、この設問の文脈では、「頭が痛い」(“真头疼”)、「どうすればいいかわからない」(“真伤脑筋”)、「うるさくていやだ」(“让人烦”)と理解することができる考えた。

といったような回答をしている学習者が 13 人いた。ここでは「困った」(真头疼)の前に、「わたし」をいれて理解することができると考えられる。

YN003「丈夫整天在家呆着，真伤脑筋。(日本語訳：夫が一日中家にいて、困った。)」といったような回答をしている学習者が 7 人いた。ここでは「困った」(真伤脑筋)の前に、「わたし」をいれて理解することができると考えられる。

KZ005 のように「丈夫一整天都在家，让人烦。(日本語訳：夫が一日中家にいることは困った。)」のような回答も現れた (9 人)。

このタイプにおいて 29 人のうち 20 人が二つの主語を立てて中国語の能動文で翻訳していることから、学習者は複数の人物を主語に立てて能動文で事態を把握するという傾向が窺われた。

【× ×】21 人

KN018 のように「被丈夫要求在家一天，困惑。(日本語訳：一日中家にいることを夫に要求されて、困った。)」といったような被字句表現で回答している学習者が 8 人いた。(そのうち、「夫」を行為者の位置に立てている回答者が 7 人いた。「夫」を行為者の位置に立てていない答えは 1 人いた。) わたしが家にいることをさせられた、と理解してしまい、日本語の設問文の意味を誤解していると考えられる。

KS027 のように「丈夫让我整天待在家，很困扰。(日本語訳：夫は私を毎日家にいることをさせて、困った)」といったような「讓」構文(“让字句”)で表現している回答は 5 人いた。「一日中家にいる」人を「わたし」と思い込んでしまい、日本語の設問文の意味を理解できていないと考えられる。

YN010 のように、「丈夫要求我一天都呆在家里，太烦了。(日本語訳：夫は、わたしが一日中家にいることを要求して、困った。)」といったような能動表現で回答している学習者が 6 人いた。二つの主語を立てて述べているが、主語と出来事の間を誤解していると考えられる。

その他、KZ005 のように「那个人一整天呆在家里，无聊死了。(日本語訳：あの人は一日中家にいて、つまらなかった。)」と言い表現で回答している学習者 1 人と、無答 1 人がいた。

次は問 3 である。

() 3. 自分の思っていることをむやみに他人に知らせるのがいやになった。僕が今どんな思想を抱いているか、あんまり他人 [] []。

①に ; 知りたくないのです

②に ; 知られたくないのです

③が ; 知りたくないのです

④が ; 知られたくないのです

中国語訳 : _____

【○ ○】134人

YN001のように、「不想被别人知道。(日本語訳:ほかの人に知られたくないのである)」といった表現で回答している学習者は46人いた。「被」マークを使用している中国語の受動文(被动句 beidongju)と判定して妥当と考えられる。

YN003のように、「根本不想让别人知道。(日本語訳:ほかの人にまったく知られたくないのである。)」といったような表現で答えている学習者は79人いた。「讓」(“让 rang”)を使用して回答しているが、この設問文の文脈では受身の意味を表している。しかも、大河内(1982)龍(1991)等多くの先行研究で指摘しているように、中国語の受動文の一種と見なされる。

DN011のように、「很不想告诉别人。(日本語訳:ほかの人に教えたくないのである。)」といったような回答をしている学習者が4人いた。中国語では「ほかの人に知られたくない」と理解することもできると考えた。能動文で翻訳しているが、受身文と同じ事態を述べていると考えられる。

その他の表現を使っている学習者が5人いた。そのうち「我现在怎么想的不太想给人知道。(日本語訳:今どのように考えているのか、あまりほかの人に知られたくないのである。)」

(KN004)のような回答をしている学習者が2人、「不想他人知道。(ほかの人に知られたくない。)」(KN007)のような回答2人、「也不愿为外人知道。(ほかの人に知られたくない。)」

(KN017)という回答1人いた。ここの中国語の文では「知る」(知道)の前に「所」を付け加えて理解することができると思った。「…に…される」の意味に相当する。

このタイプの回答は、広く考えると、中国語の受動表現と見なされる。「被」マークを使用している回答(134人のうち46人)、「讓」マークを使用している回答(134人のうち79人)は多く見られた。少数であるが、「給」マークを使用している回答と「…に…される」(为+名詞+(所))を用いた回答もあった。

【○ ×】1人

LN044 のように、「他人也不知道。(日本語訳：ほかの人知らないであろう。)」という表現で回答している学習者が 1 人いた。日本語の設問文を理解できていないと考えられる。

【× ○】5 人

KS010 のように、「不想让别人知道。(日本語訳：ほかの人に知られたくない。)」といったような回答をしている学習者が 4 人いた。

「很讨厌自己的想法被他人知道, 现在我无论有什么想法, 都不希望别人知道。(日本語訳：自分はどんなことを考えているかほかの人に知られるのはいやだ。いま何を考えているのかほかの人に知られたくないのである。)」(KN008) という回答も 1 人いた。

【× ×】1 人

「不要把自己的想法强加到别人身上, 他人不是这么想的。(日本語訳：自分の考えをほかの人に強いることをしないで、ほかの人はそう思っていないから。)」(KS042) という表現で回答している学習者は 1 人いた。

次は問 4 である。

() 4. 犬科には、犬のほかに、狼、ヤマイヌなどがいる。この中から、犬だけが、家畜として人間_[.....]_[.....]。人間が目をつけたのは、犬の特性である「忠実性」である。

①が；採用するわけだ

②が；採用したわけだ

③に；採用されるわけだ

④に；採用されたわけだ

中国語訳：_____

【○ ○】61 人

YN001 のように、「只有狗, 被人类当作家畜而对待。(日本語訳：犬だけが人間に家畜として扱われた／採用された)」といったような回答をしている学習者が 60 人いた。

KN021 のように、「只有狗做为人的家畜。(日本語訳：犬だけが人間の家畜として採用された。)」という回答をしている学習者が 1 人いた。「被」を付け加えることができる。

このタイプにおいて、61 人のうち 60 人が”被”構文(被字句 beiziju) を使用している。

【○ ×】1 人

KS006 のように、「但其中只有狗进入了人类的家庭,(日本語訳：犬だけが人間の家庭に入

った。)」という回答をしている学習者が 1 人いた。日本語の設問文の意味と離れていると考えた。

【× ○】79 人

YN002 のように、「这其中只有狗是被人类做为家畜。(その中では、犬だけが家畜として人間に扱われた／採用された。)」といったような回答をしている学習者が 74 人いた。

DN002 のように、「只有狗作为牲畜为人类所用。(日本語訳：犬だけが家畜として人間に採用された。)」といったような回答をしている学習者が 3 人いた。

「只有狗被人类当作家畜所饲养。(日本語訳：犬だけが人間に家畜として飼われた／採用された。)」(LN001) という表現で回答している学習者は 1 人いた。

「人类只把狗当作家畜来养。(日本語訳：人間は犬だけを家畜として飼っている。)」という表現で回答している学習者が 1 人いた (LN002)

このタイプにおいて、“被” 構文 (被字句 beiziju) の回答 (79 人のうち 74 人) が多く見受けられた。少数であるが、「…に…される」(為+名詞+ (所))、「…に…される」(被+名詞+ (所)) を用いた回答もあった。

【× ×】0 人

この設問では該当するデータが見受けられなかった。

次は問 5 である。

() 5. 枯れ草を丸めその右手を前にのぼした。枯れ草を放すと、風〔.....〕
〔.....〕、左側三十度ちょっとのあたりに落ちた。風速の算出は、吹き流しや警戒旗
などが無くても、新聞紙や乾草などを柔らかく丸めたものが落ちた角度を八で割ること
によって秒速メーターが出てくる。
①が；運んで ②に；運ばれて ③に；運ばせて ④に；運んで
中国語訳：_____

【○ ○】95 人

YN001 のように、「把枯草放开，被风吹着在做偏三十度左右的的地方落下。(日本語訳：枯れ草を放すと、風に吹かれて／運ばれて左側三十度のあたりに落ちた。)」といったような表現で回答している学習者が 81 人いた。

YN004 のように、「放手后，枯草随风落在左側 30 度左右的的地方。(日本語訳：手を放すと、

枯れ草が風とともに左側三十度ちょっとのあたりに落ちた。）」といったような能動表現で回答をしている学習者が6人いた。

KZ005のように、「放开枯草，让风吹走，落在了身边偏左30°的地方。（日本語訳：枯れ草を放すと、風に吹かせて、身の回りの左側30度のあたりに落ちた。）」「讓」構文を使っている回答が3件あった。この設問の文脈では、受身の意味と解釈することができると考えた。

YN012のように、「松开手后，枯草受到风的影响，最后落在了左側三十度左右的位置。（日本語訳：手を放すと、枯れ草は風から影響を受けて、左側三十度あたりに落ちた。）」といったような表現で回答している学習者は2人いた。

その他の表現で回答している学習者が2人いた。例えば、「把枯草放在上面，风一吹，向左側三十度转动再落下。（枯れ草を上置き、風に吹かれて、左側三十度あたりに落ちた。）」（LN044）

このタイプにおいて、“被”構文（“被字句 beizìjù”）を使っている回答が多く見受けられた（95人のうち81人）。少数であるが、能動文表現と「讓」構文を用いた回答もあった。

【○ ×】10人

KZ014のように、無答の学習者が5人いた。

“被”構文（“被字句 beizìjù”）を使っている学習者が1人いた。「枯草被放开后，落在了左側三十度左右的那个位置。（日本語訳：放されると、枯れ草が左側三十度あたりの位置に落ちた。）」

その他の表現で回答している学習者が4人いた。例えば、KN017は「枯草脱手后，恰顺风落于附近八点钟方向。（日本語訳：枯れ草を放した後、風と同じ方向で八時の位置に落ちた。）」という表現で回答している。

このタイプにおいて無答と該当内容の翻訳を省略した回答が多く見受けられた。

【× ○】34人

KZ001のように、「放开枯草，幸被风吹落到左側三十度附近。（日本語訳：枯れ草を放すと、幸いに風に吹かれて／運ばれて左側三十度のあたりに落ちた。）」といったような回答をしている学習者が13人いた。

DN004のように、「放开枯草，风把它吹起在左边三十度左右的地方落下。（日本語訳：枯れ草を放すと、それが風に吹かれて、左側三十度のあたりに落ちた。）」といったような「把

構文で回答している学習者が 10 人いた。

DN001 のように、「放置枯草的时候，让风在左侧三十度方向一吹就吹落了。（日本語訳：枯れ草を放すとき、左側三十度の方向で風に吹かせると落ちた。）」といったような使役表現で回答している学習者が 8 人いた。

その他の表現で回答している学習者が 3 人いた。例えば、「如果放开枯草，风刮起来它就会落到偏左 30° 范围里。（枯れ草を放すと、風に吹かれて、左側三十度のあたりに落ちた。）」

(YN010)

このタイプにおいて、“被” 構文（“被字句 beizìjù”）を使っている回答が一番多く（34 人のうち 13 人）見受けられたが、「把」構文での回答である（34 人のうち 10 人）と「讓」構文を用いた回答（34 人のうち 8 人）も多数あった。

【× ×】9 人

KS042 のように、「将枯草放开，风吹过，向左侧 30° 的地方落下。（日本語訳：枯れ草を放すと、風が吹いて、左側 30 度のところの方向に移動して落ちた。）」といったような能動表現で回答している学習者が 7 いた。無答 2 人いた。

能動文で翻訳しているが、主語は曖昧で、しかも設問の表現で表している出来事と一致していないところがあると考えた。

次は問 6 である。

<p>() 6. 参加者のほとんどが、合宿に参加するために、バスの中に揃っているようだった。東京から一時間四十分ほどバス [] []、ようやく目的地に到着した。</p> <p>①が；揺られて ②に；揺られて ③が；揺れて ④に；揺れて</p> <p>中国語訳：_____</p>

【○ ○】82 人

YN002 のように、「从东京出发大约在车上摇摇晃晃一小时四十分钟，终于抵达目的地。（日本語訳：東京から出発して、車に揺られて一時間四十分後、やっと目的地に着いた。）」といったような表現で回答している学習者が 72 人いた。言語化されていないが、「わたし」(我) という主語を立てて、中国語の能動表現で述べていると考えられる。この設問文において連用修飾節に出現した受身の使用によって日本語の視点の一貫性が高いと考えられる。日本語の視点を反映している翻訳表現と考えた。

KN026 のように、「从东京开始被电车摇晃了 1 小时 40 分钟，终于到达了目的地。（日本語

訳：東京から電車で揺られて、一時間四十分後、やっと目的地に着いた。）」といったような表現で回答している学習者が 8 人いた。中国語の文の主語は言語化されていないが、基本文型として”被”構文(“被字句 beiziju”) で回答していると考えられる。

KS006 のように、「在东京坐了约一小时四十分到达的 bus, 按约定到达了目的地。(日本語訳：東京で一時間四十分後到着のバスに乗って、約束通りに目的地に着いた。）」という表現で回答している学習者が 2 人いた。「揺れる」という動詞は訳していないが、事態把握の面から考えると、意味が通じると考えられる。

【○ ×】4 人

KZ003 のように、「从东京用巴士摇晃了一小时四十分钟后。(日本語訳：東京からバスで一時間四十分くらい揺れた後。）」といったような学習者が 4 人いた。助詞「に」と「で」の混同が見受けられたが、「揺れる」と助詞の関係も正しく理解できていないと考えられる。

【× ○】51 人

YN001 のように、「从东京一直摇晃了 1 个小时四十分钟, 终于到达目的地了。(日本語訳：東京からずっと揺られて、一時間四十分後、やっと目的地に着いた。）」といったような表現で回答している学習者が 48 人いた。

DN013 のように、「从东京出发被大巴摇晃了大概一个小时 40 分钟, 终于到了。(東京からバスに揺られて、約一時間四十分後、やっと着いた。）」といったような表現で回答している学習者が 5 人いた。

このタイプの場合、「わたし」を主語の位置に立てて、理解することができるが、言語化されていないだけである。日本語の設問文の事態を反映している翻訳ではないかと思われる。

【× ×】4 人

KZ007 のように、「从东京开始一小时 40 分左右, 汽车终于摇摇晃晃到了目的地。(日本語訳：東京から出発して一時間四十分後、バスが揺れながらやっと目的地に着いた。）」といったような表現で回答している学習者が 4 人いた。設問文で述べている主語と出来事との関係を理解できていないと考えられる。

次は問 7 である。

() 7. 特に勝さんの興味を引いたのは、サンフランシスコ市の議会政治であった。議会では市民〔.....〕〔.....〕議員が壇上に立ち、自分の意見を堂々と演説する。それを聞いた別の議員が挙手をして立ち上がり、まっこうから反対意見を述べる。

①に；選んだ ②が；選ばれた ③に；選ばれた ④に；選ばせた

中国語訳： _____

【○ ○】103人

YN001のように、「在议会中，被市民选举出的议员会站在舞台上，正大光明地阐述自己的意见。（日本語訳：議会のなかで、市民に選ばれた議員が講壇に立って、正々堂々に自分の意見を述べている。）」といったような表現で回答している学習者が67人いた。ここでの連体修飾節に出現した受身は形容詞の役割と共通していると考えられる。

YN002のように、「议会上由市民们选出来的议员站在台上公然演说自己的意见，（日本語訳：議会では、市民によって選ばれた議員が講壇に立って、自分の意見を演説している。）」といったような表現で回答している学習者が23人いた。「によって」（“由”）を使って回答しているが、中国語の意味の角度から、「被」で置き換えることができると考えられる。中国語の受動表現の豊富さも反映されていると考えられる。

YN011のように、「议会上，市民选举出来的议员们登上讲台，纷纷发表自己的演讲。（議会では、市民に選ばれた議員たちは講壇にのぼって、それぞれ自分の考えを演説する。）」といったような表現で回答している学習者が13人いた。中国語の「市民」の前に、「被」を付け加えて理解することができると考えられる。

このタイプにおいて、“被”構文（“被字句 beiziju”）あるいはそれと関わりのある表現で翻訳する傾向が見られたが、中国語の受動表現は必ずしも“被”構文（“被字句 beiziju”）で表すとは限らないことがここからも言えそうである。

【○ ×】4人

KZ010のように、「被市民选择。（日本語訳：市民に選択され）」といったような表現で回答している学習者が2人いた。質問紙の要求として、下線部の日本語を中国語に訳すようお願いしたが、得られた中国語の訳文には意味不明なところがある。

KS044のように、「市民可以被选为议会的议员，堂堂地表达自己的意见。（日本語訳：市民が議会の議員に選ばれることが可能であるが、堂々と自分の意見を述べるができる。）」という表現で回答している学習者が1人いた。日本語の設問文の意味を誤解していると考え

えられる。

その他、無答の学習者が1人いた。

【× ○】31人

DN001のように、「会议上，被市民票選出来的议员站在讲台上，滔滔不绝地发表自己的意见。（日本語訳：会議では、市民に選ばれた議員は講壇に立って、自分の意見を述べている。）」といったような表現で回答している学習者が15人いた。

YN005のように、「議会上由市民选举的议员站在讲台上光明正大地发表自己的意见。（日本語訳：議会では市民に選ばれた議員が講壇で正々堂々自分の意見を述べている。）」といったような表現で回答している学習者が9人いた。

KZ001のように、「在议会里，市民选举出的议员站在台上发表自己的意见。（日本語訳：議会のなかで、市民に選ばれた議員が講壇に立って、自分の意見を発表している。）」といったような表現で回答している学習者が7人いた。

このタイプにおいて、“被”構文（“被字句 beiziju”）とそれと関わりのある表現での回答は多く見られたが、能動表現での回答も同じ事態を表現できていると考えた。

【× ×】3人

「议会由市民选出的议员组成。（日本語訳：議会は市民に選ばれた議員からなっている。）」（KS007）、「议会是从市民中选的议员，把自己的意见进行演说的人。（議会は市民から選ばれた、自分の意見を演説する人である。）」（KS010）、「议会是市民被选举成立议员在议会上演讲自己的意见。（議会は、市民から選ばれた議員が自分の意見を演説する）」（KS042）という回答もあった。このタイプの回答は、日本語の設問文の意味を誤解していると考えられる。

次は問8である。

() 8. 玄関のドア_[.....]次郎さん_[.....]。しかし、彼からは、弁償どころか何のお詫びもなかった。

①は；に；壊された ②を；は；壊させた ③が；に；壊させた ④を；が；壊された

中国語訳：_____

【○ ○】116人

YN001のように、「玄関的门被次郎弄坏了。（日本語訳：玄関のドアは次郎さんに壊された。）」

といったような回答をしている学習者が 115 人いた。

「玄关的门让次郎弄坏了。(日本語訳：玄関のドアは次郎さんに壊された。)」(LN010) という表現で回答している学習者が 1 人現れた。ここでは「讓」マークを使用しているが、“被”構文(“被字句 beizijü”)に属する表現であると考えられる。

“被”構文(“被字句 beizijü”)での回答が一番多く見られた。少数であるが、「讓」マークの使用もあった。

【○ ×】0 人

問 8 の場合、文法選択の回答は正しいが、翻訳テストの回答は間違っている、というようなケースは見られなかった。

【× ○】25 人

YN010 のように、「走廊之门被次郎弄坏了。(日本語訳：廊下のドアは次郎さんに壊された。)」といったような“被”構文(“被字句 beizijü”)で回答をしている学習者が 23 人いた。

その他、「次郎弄坏了玄关的门。(日本語訳：次郎が玄関のドアを壊した／玄関のドアは次郎さんに壊された。)」(LN007)、「玄关的门是次郎弄坏的。(日本語訳：玄関のドアは次郎さんに壊されたのである。)」(LN009) という回答も現れた。

“被”構文(“被字句 beizijü”)での回答は多く見られた。能動文での回答もあった。

【× ×】0 人

問 8 の場合、文法選択の回答も翻訳テストの回答も間違っているようなケース見られなかった。

次は問 9 である。

<p>() 9. 太郎さんの出張希望は、前回は却下されたが、今回は人事部長 [.....] [.....] ので、同僚も出張の成果を期待している。</p> <p>①が；認めた ②に；認めさせた ③に；認めた ④に；認められた</p> <p>中国語訳： _____</p>

【○ ○】115 人

YN001 のように、「这次被人事部长认同了。(日本語訳：今回は人事部長に認められて、)」

といった表現で回答している学習者が 74 人いた。

YN002 のように、「这次获得人事部部长同意，（日本語訳：今回は人事部長の同意を得て／人事部長に同意されて）」といった表現で回答している学習者が 17 人いた。

YN007 のように、「这次，人事部长同意其出差，（日本語訳：今回は人事部長が彼の出張を認めたので／）」といった表現で回答している学習者が 12 人いた。

LN002 のように、「这次因为人事部长认可了，（日本語訳：今回は人事部長に認められたので、）」といった表現で回答している学習者が 6 人いた。

KZ003 のように、「这次有人事部长的认可，（日本語訳：今回は人事部長の認めがあって／今回は人事部長に認められて）」といった表現で回答している学習者が 4 人いた。

KN024 のように、「因为这次有人事部长的认同，（日本語訳：今回は人事部長の認可があって／今回は人事部長に認められて）」といった表現で回答している学習者が 2 人いた。

このタイプにおいて、“被” 構文（“被字句 beizijù”）での回答（115 人のうち 74 人）が多く見られた。語彙的受身表現での回答もあった（115 人のうち 17 人）。能動文での回答は、設問文と同じ事態を把握していると考えられる。

【○ ×】6 人

KN031 のように、「如今他因为成了人事部长，（日本語訳：今は人事部長になって、）」と回答している学習者が 2 人いた。

KS004 のように、「这次被任命为人事部长，（日本語訳：今度は人事部長に任命されて、）」と回答している学習者が 2 人いた。

LN036 のように、「这回向人事部长确认这件事，（日本語訳：今回は人事部長にそれを確認して）」といったような回答をしている学習者が 2 人いた。

日本語の文脈情報を理解できていない可能性があるが、「認める」という動詞自体の意味を誤解しているようである。

【× ○】9 人

KN004 のように、「这次人事部长认同了。（日本語訳：今回は人事部長が認めてくれた／今回は人事部長に認められた。）」といったような回答をしている学習者が 5 人いた。

KZ004 のように、「这次因为人事部长同意了，（日本語訳：今回は人事部長に同意された／今回は人事部長が同意した）」といったような表現で回答している学習者が 3 人いた。

その他、「因为这次被人事部长所看好的, (日本語訳:今回は人事部長に期待されていて、)」(KN033) という「被字句」を使っている回答も現れたが、1人しかいなかった。

このタイプにおいて、能動表現での回答が多く見られた(9人のうち8人)。

【× ×】11人

KS026のように、「这次让人事部长确认一下, (日本語訳:今回は人事部長にちょっと確認させた)」といったような能動表現の回答が9人いた。

KS041のように、「他这此被任命为人事部长, (日本語訳:人事部長に任命された)」といったような被字句の回答が2人現れた。

日本語の設問文で述べている主語と出来事との関係を理解できていないと考えられる。

次は問10である。

() 10. 桜の木は、涼しい風_[.....]_[.....]、朝日にあたりました。

①が；吹いて ②を；吹いて ③に；吹かせて ④に；吹かれて

中国語訳：_____

【○ ○】101人

YN001のように、「桜树, 被凉爽的风吹拂着。(日本語訳:桜の木は、涼しい風に吹かれて、)」といったような回答をしている学習者が79人いた。

YN003のように、「樱花树沐浴着凉风, 迎来了朝阳。(日本語訳:桜の木は涼しい風に吹かれて/桜の木は、涼しい風を浴びて、朝日を迎えた)」といったような能動表現で回答している学習者が13人いた

YN010のように、「樱花树在风中摇摆沐浴着朝阳。(日本語訳:桜の木は、風に吹かれて、朝日を浴びている。)」といったような回答をしている学習者が8人いた。

「樱花树受凉风吹拂, 让太阳照。(桜の木は、涼しい風に吹かれて、朝日に浴びている)」(KS003)も現れたが、1人しかいなかった。

このタイプにおいて、「被」構文(“被字句 beizijū”)での回答(101のうち79)が多く見られた。(115人のうち17人)。能動文での回答もあったが、2割くらいを占めた。少数であるが、語彙的受身表現「～される」(“受 shou”)も見られた。

【○ ×】13人

KZ015のように、「樱花树迎着凉风, 与朝日互相映衬。(日本語訳:桜の木が涼しい風に向けて、朝日と呼応している)」のような能動表現で回答している学習者が11人いた。

その他、無答（1人）、「桜の木」と一語しか書いていなかった回答（1人）もあった。

設問文で述べている事態と一致しないところがあり、「に」を正確に理解できていないと考えられる。

【× ○】18人

KZ001のように、「桜树被凉风吹动，被朝阳映照。（日本語訳：桜の木は、涼しい風に吹かれて）」といったような回答をしている学習者が12人いた。

KN009のように、「樱花树在凉风中迎着朝阳。（桜の木は、涼しい風に吹かれて／涼しい風のなかに、朝日を迎えている）」といったような回答をしている学習者が4人いた。

KN010のように、「樱花树清凉的风吹着，晒着太阳。（日本語訳：桜の木は、涼しい風に吹かれて、朝日に浴びている。）」といったような回答をしている学習者が2人いた。

このタイプにおいて、“被”構文（“被字句 beizijū”）での回答（18人のうち12人）が多く見られた。「～の影響を受けて」（“在……下”）という非典型的な受身表現も現れた、能動文での回答もあったが、2割くらいを占めた。少数であるが能動表現での回答も見られた。

【× ×】9人

DN013のように、「樱花树下吹着凉爽的风，到了第二天。（桜の木の下で、涼しい風に吹かれて、翌日になった。）」能動表現で回答している学習者が8人いた。

言語化されていないが、中国訳の回答の主語は「わたし」ではないかと思われる。主語と出来事の間を誤解していると考えられる。

1人だけだが、下線部を訳していない回答も現れた。「樱花树从早上初阳就开始接受着凉风的洗礼。（日本語訳：桜の木は朝から涼しい風に洗礼されている）」（DN011）。

次は問11である。

（ ）11. この雑誌は10代の若者〔.....〕よく〔.....〕。

①が；読ませている ②が；読まれている ③に；読んでいる ④に；読まれている

中国語訳：_____

【○ ○】103人

YN006のように、「这本杂志经常被10几岁的年轻人阅读。（日本語訳：この雑誌は、十代

の若者によく読まれている。）」といったような”被”構文(“被字句 beiziju”) で回答している学習者が 52 人いた。

YN001 のように、「这本杂志经常受十几岁的年轻人的青睐。(日本語訳：この雑誌は、十代の若者に人気がある。／この雑誌は 10 代の若者によく読まれている。）」といったような語彙的受身表現で回答をしている学習者が 13 人いた。

KS007 のように、「这本杂志多为 10 岁多的年轻人所读。(日本語訳：この雑誌は、10 代の若者に読まれるのがふつうである。）」といったような「～によって～される」(“为……所……”) という構成で回答している学習者が 15 人いた。ここでは「被……所……」に置き換えることができると思なされるが、中国語の受動表現に属する。

YN003 のように、「90 后的年轻人常常读这个杂志。(この雑誌は、90 後の若者によく読まれている。）」といったような回答をしている学習者が 23 人いた。

このタイプにおいて、中国語の受動表現での回答が一番多く見られ、全体の 8 割くらいを占めた。能動表現での回答もあったが、同じ事態を述べていると考えられる。

【○ ×】2 人

「这本杂志影响了十代青年人。(日本語訳：この雑誌は、十代の青年に影響を与えている)」といったような能動表現 (YN004) で回答している学習者 1 人、「这本杂志是让 10 代的年轻人好好读的。(日本語訳：この雑誌は、十代の若者によく読ませるものである。)」(KS001) という「讓」構文(“让字句 rangziju”) で回答している学習者が 1 人現れた。ここでの「讓」は使役の意味に解釈すべきではないかと考えられる。

このタイプの回答の場合、日本語の設問文の意味を理解できていないと考えた。

【× ○】34 人

YN002 のように、「10 岁~20 岁的年轻人常常读这本杂志。(日本語訳：この雑誌は、10 歳から 20 歳の若者によく読まれている)」といったような回答をしている学習者が 16 人いた。

DN001 のように、「雜誌的读者多是十几岁的小孩。(雑誌の読者は主に 10 代の若者である。／雑誌は、だいたい 10 代の若者に読まれている)」といったような能動表現で回答している学習者が 8 人いた。

YN012 のように、「这本杂志被 10 多岁的人所喜爱阅读。(日本語訳：この雑誌は、10 代の若者に愛読されている。）」といったような回答をしている学習者が 10 人いた。

このタイプにおいて、能動表現での回答が多く見られ、全体の7割以上を占めた。

【× ×】2人

「10岁左右的小孩也能读懂这本杂志。(日本語訳:10代の若者もこの雑誌を読めるだろう。)」という能動表現(LN035)で回答している学習者1人、「这本杂志是让10代的年轻人读的。(この雑誌は、10代の若者に読ませるものである。)」という「讓」構文(“让字句”(LN036)で回答している学習者が1人現れた。

このタイプの場合、日本語の設問文の意味を誤解していると考えられる。

次は問12である。

() 12. 花子の家は高層ビル...[.....][.....]。そのせいで、日当たりが悪くなった。

①が；囲まれている ②に；囲ませている ③が；囲ませている ④に；囲まれている

中国語訳：_____

【○ ○】115人

YN001のように、「花子家被高楼包围着。(日本語訳:花子の家は高層ビルに囲まれている。)」といったような回答をしている学習者が99人いた。

YN004のように、「花子的家被高层楼房所包围。(日本語訳:花子の家は高層ビルに包圍されている/囲まれている。)」といったような表現で回答している学習者が10人いた。

DN003のように、「花子家周围是高楼大厦。(花子の家は高層ビルに囲まれている。)」といったような回答をしている学習者が3人いた。

DN001のように、「花子的家在高层。(日本語訳:花子の家は高層ビルにある。/花子は高層ビルに住んでいる。)」といったような回答をしている学習者が3人いた。

このタイプの場合、“被”構文(“被字句 beizijù”)での回答が一番多く見受けられた。少数であるが能動文での回答もあった。

【○ ×】4人

KN011のように、「花子的家在高楼林立中。(日本語訳:花子の家は高層ビルのなかにある。)」といったような回答をしている学習者が3人いた。

無答の学習者(KZ004)が1人いた。

中国語訳の表現と日本語設問文の意味と一致していないところがあると考えられる。

【× ○】19人

DN011 のように、「花子家被高層建筑包围。(日本語訳：花子の家は高層ビルに囲まれている。)」といった表現で”被”構文(“被字句 beizìjǔ”) で回答している学習者が16人いた。

KN006 のように、「家住大厦高层。(日本語訳：家は高層ビルにある。／高層ビルに住んでいる。)」といったような表現で回答している学習者が2人いた。

「花子家被高層建筑包围。(日本語訳：花子の家は高層ビルに包囲されている。／花子の家は高層ビルに囲まれている。)」(KS042) という表現で回答している学習者が1人いた。このタイプの場合、”被”構文(“被字句 beizìjǔ”) での回答がほとんどである。

【× ×】3人

KS010 のように、「花子的家在高层楼上。(日本語訳：花子の家は高層ビルの上にある。)」といったような表現で回答している学習者が3人いた。

中国語訳の表現と日本語設問文の意味とに一致していないところがあると考えられる。

以下は、文法選択テストの中国語訳の回答傾向を4つのタイプに分けて、まとめて報告する。中国語訳の正誤を判定する際に、対訳データの訳し方を参考に判定を行った。学習者の表現習慣のことを考慮に入れて、許容範囲を広めにして採点を行った。別の判定者であれば、調査結果が違ふ可能性もないとはいえない。母集団は141人であった、誤答している学習者10%に近い回答を四角い枠でマークした。

「文法選択回答○中国語訳回答○」タイプ：

完全に習得できているタイプと考えられる。文法選択もその中国語訳も合っている。

表 24：文法判断テストの中国語訳の回答傾向(「文法選択回答○中国語訳回答○」タイプ)

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
○○	55	26	134	61	95	82	103	116	115	101	103	115

「文法選択回答○中国語訳回答×」タイプ：

たまたま選択が当たっているが、中国語訳の回答が期待される回答から離れていて誤解まで招く程度の表現での回答に×をつけた。

表 25：文法判断テストの中国語訳の回答傾向（「文法選択回答○中国語訳回答×」タイプ）

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
○×	1	25	1	1	10	4	4	0	6	13	2	4

「文法選択回答×中国語訳回答○」タイプ：

中国語訳の回答は合っている、あるいは母語である中国語で文の意味を理解できているが、言語内知識（日本語の文法知識、文脈から情報を読み取る訓練など）が足りていないため、選択の回答が間違っている場合である。

表 26：文法判断テストの中国語訳の回答傾向（「文法選択回答×中国語訳回答○」タイプ）

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
×○	75	69	5	79	34	51	31	25	9	18	34	19

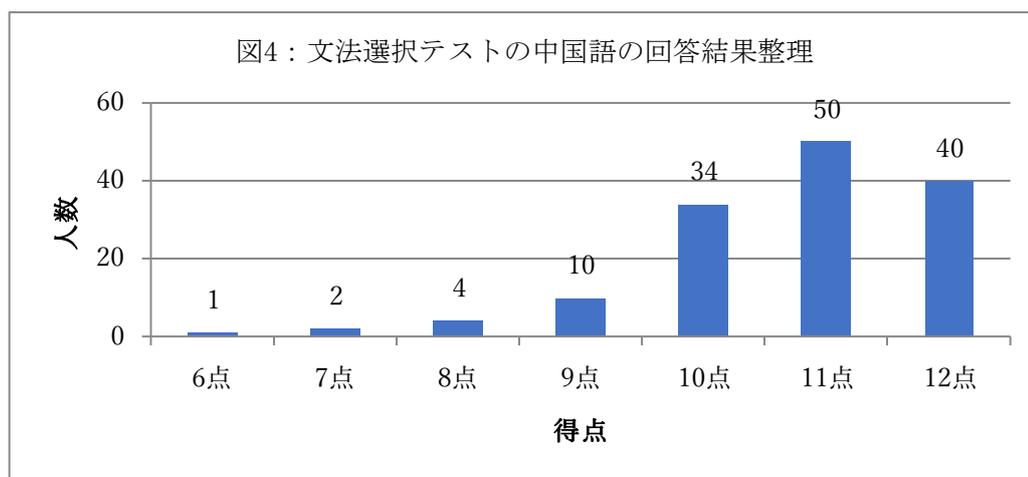
「文法選択回答×中国語訳回答×」タイプ：

中国語訳も選択も誤答であった。全然理解できていない可能性が高い。

表 27：文法判断テストの中国語訳の回答傾向（「文法選択回答×中国語訳回答×」タイプ）

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
××	10	21	1	0	9	4	3	0	11	9	2	3

得点で文法選択テストの中国語訳の回答傾向を整理すると、図 4 となる。



9点～12点の得点（141人のうち134人）が全体の9割以上を占めた。全体的に、中国語では本調査の受身文設問をかなり理解できていると考えられる。母語で理解できている場

合、日本語の受身文に関する理解の助けになる。しかし、中国語でちゃんと理解できても、十分な日本語の言語内知識がないと、理解レベルから受身文の内実を習得できない可能性が高い。理解できていないが、たまたま正しく選択できている学習者のことも考慮に入れると、実際の習得状況結果が変わる可能性もある。

6.6.2 短文完成テストの結果の考察

以下は、設問別に、対象となった中国人日本語学習者の中間言語的な回答の傾向を示し、考察を加える。本調査で見受けられた中間言語的な表現を、①活用ミス、②ヴォイスの選択に関する中間言語的な回答、③文脈情報への配慮が不十分による中間言語的な回答、④その他、⑤無答の5種類に分類した。ヴォイスの選択と文脈情報への配慮とはつながっていると考えられるが、組み合わせて分析していく。

本節では、問題点のみに焦点を当てるため、日本の大学で日本語教育を専攻している大学院生（日本語母語話者）の意見を組み合わせて、正答と判定した回答は、以下の整理に入れていない。ただし、文法的な間違いとはいえないが、自然な日本語の角度から考えると、不自然と見なされる回答は中間言語的な回答の一部として扱うこととした。

絵1



ひろし君です。彼は数学のテストで30点を取りました。
お母さんに成績を見せました。
思った通り、_____。
(しかる)

「お母さんにしられました。」(KZ008)「お母さんにしかれた。」(KN005)、「しかされました。」(KN032)といったような表現で回答している学習者が9人いた。書き間違いの要素もあるかもしれないが、受身の活用と使役受身の活用とを混同していると考えられる。

ヴォイスの選択に関する認識による中間言語的表現で回答している学習者が1人いた。

「ひろし君にしかせます」(KS042)という使役を「しからせます」のつもりで用いた回答である。助詞への理解も絡んでいるが、文脈情報を十分に理解できていないまま、「させる」を中国語の「讓」マークとセットで認識している可能性がある

その他の中間言語表現で回答している学習者が2人いた。(DN010、DN011)

無答の学習者が2人いた (KS041, KS048)。

「お母さんはひろし君をしかったです」(LN012)、「お母さんはとても怒っていたが、ひろし君を叱りました。ひろし君も泣きました」(LN035)のように能動文で回答している学習者は27人いた。単独で使用すると、文法的に正しい表現と思われる。しかし、絵1の文脈では、文法上の間違いとまでは言えないが、自然な日本語の角度から考えると、不自然と見なされるだろう。その回答から、受身文の使用による視点の統一が習得されていない可能性が高い、と言えそうである。

日本語の受身文の不使用の原因の一つとして、中国語学習者は複数の登場人物を立てて事態を述べる傾向がある(渡邊 1995)ことが挙げられる。さらに、高橋(2016)で指摘したように、中国語の主述文は主体に視点があり、主体の意思を出来事の一番前にわかりやすく明確に示す特徴がある。つまり、学習者は中国語の視点の捉え方から影響を受けている可能性が高い。変化主体を主語の位置に立てて述べないと落ち着かない傾向があるのではないだろうか。それは、日本語の受身文を使いこなせるために必要な知識である受身文の使用による視点の統一は、習得難易度が高い根本的原因かもしれない。

絵2



日曜日です。ひろし君は寝ています。猫がひろし君の枕のそばに飛んできました。ひろしくんはもっと寝ていたかったのに、_____。

(起こす)

「起こられた」(YN006)という活用関係の中間言語的な回答をしている学習者が7人いた。

「起こさせられました」(DN008)、「猫に起こさせた」(KN023)といったようなヴォイスの選択関係の中間言語的な回答をしている学習者が34人いた。受身と使役、受身と使役受身との関係に関して、十分に理解できていないと考えられる。『教師と学習者のための日本語文型辞典』の例文と解説を援用して述べると、

使役文の基本的な意味は、ある人の命令や指示に従ってほかの人間がある行動をすることである。例えば「教師が学生に本を読ませた」。使役受身文の例として「きのうは、お母さんに3時間も勉強させられた」(p132)が挙げられるが、それは、「X(お母さん)がY(私)に勉強させた」という使役文をY(私)の視点から言い換えた受身文である。

「なかなか起こさない。」(YN007)、「起こされなかった。」(KZ003)といったような表現

で回答している学習者が 11 人いた。接続助詞「のに」に関する理解も絡んでいるかもしれないが、ここでは、「ひろしくんはもっと寝ていたかったのに」という文脈説明への配慮が十分とはいえない。つまり、文脈情報への配慮が不十分であることが原因と考えられる。

「ひろし君」を主語の位置に立てて事態を把握しているようであるが、主体と出来事との関係を理解できていないと考えられる。

その他の中間的な言語表現で回答している学習者が 5 人いた。

絵3



ひろし君も妹さんもケーキを食べています。
ひろし君は妹さんのケーキも食べようとしています。

_____。
(たたく)

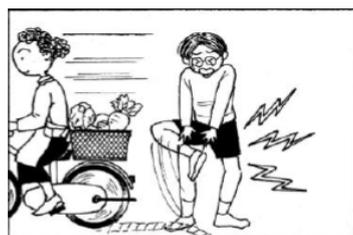
「妹さんにたたいた。」(DN007)、「妹さんはただひどく自分の兄さんをたたきました。」

(KN017) といったようなヴォイスの選択関係の中間的な回答をしている学習者が 10 人いた。助詞「に」への理解と主語の立て方も絡んでいるかもしれないが、学習者が登場人物を主語に立てて、事態を把握している傾向が見られた。

「ひろし君が妹さんにたたかれる。」(KN018)、「ひろし君が妹にたたかされた。」(KN023) といったような活用ミスをしている学習者が 11 人いた。記憶力の要素は関係している可能性もあるが、使役受身の活用と混同している問題は否定できない。

その他、「いただきます。」(DN013)、「妹さんはひろし君にたたかれました。」(LN002) のような中間的回答をしている学習者が 8 人いた。絵の内容と文脈説明を十分に理解できていない可能性がある。DN013 の場合、「いただきます」を「たたく」の活用形だと理解した可能性があるといえるだろう。無答の学習者が 4 人いた (KS007、KS010、KS020、KS040)。

絵4



ひろし君は、先週道を歩いていたら、知らない自転車が来て、_____。

(ひく)

「ひろし君をひいた。」(KN005)、「ひかせました。」(KS003) といったようなヴォイス関係の中間的回答をしている学習者が 11 人いた。高橋 (2016) で指摘している「主体+出来事」という文の基本構成で説明すると、能動文も使役文も主体は仕手であるが、把握している出来事は異なっている。能動文の場合、出来事は仕手の行為や感情などである。それに対して、使役文の場合、出来事は仕手の影響による受け手の行為や感情である。単文レベルではそのまま使えそうであるが、文脈のある環境では、視点への配慮が必要である。

彭 (2008) では、日本語は視点一貫性の高い言語であり、中国語は視点の移動性が高い言語であるという指摘があるが、その視点の一貫性は視点の統一の別の言い方ではないかと考えられる。事態把握の仕方によって、どのヴォイスを選択して述べることも可能であるが、自然な日本語の角度から考えると、「ひろし君」という登場人物は動作の主体でもあり、動作の対象でもある。その場合受身文を使って述べるのが自然である (サウエットアイヤラム 2009)。

「ひきられた。」(KZ006)、「足がひかされてしまいました。」(KN009) といったような活用関係の中間言語的な回答をしている学習者が 23 人いた。書き間違いの要素もあるかもしれないが、受身の活用と使役受身の活用とを混同していると考えられる。

「おい、わたしをひいたよ。」(KN001)、「怪我した。」(LN036) といったようなほかの表現で回答している学習者が 9 人いた。中国語の影響を受けているのではないかと考えられる。KN005 の場合、会話文で回答しているが、文体にふさわしくない表現であると判断した。

絵5



エリさんとお父さんです。エリさんは家に着いたら、ケーキを食べようと思っていました。
でも、_____。
(食べる)

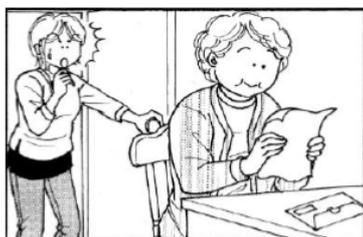
「お父さんにケーキを食べされました。」(KZ015)、「お父さんに食られました。」(LN021) といったような活用ミスの中間言語的な表現で回答している学習者が 6 人いた。書き間違い、書き忘れの可能性もあるかもしれないが、受身と使役受身の活用ルールを混同している可能性がある。

「父もケーキを食べていました。」(YN003)、「お父さんはケーキを食べている。」(KN009) といったような能動表現で回答している学習者が 15 人いた。渡邊 (1995) は受身文非使用

の原因（複数の登場人物を主語に立てて事態を述べている）を指摘したが、それは、話し言葉を考察対象にして得た結論であるが、この設問においても、似たような傾向がある、という結果に至った。

「お父さんのそれを食べていることを見つけました。」(KN017)、「エリさんはお父さんに食べさせませんでした。」(KS040) といったようなほかの中間言語的な表現で回答している学習者が 11 人いた。

絵6



この絵の人はエリさんとお母さんです。
エリさんは、大切な友達との秘密の手紙を机の上に置き忘れていました。_____。
(読む)

「お母さんにこの手紙を読んだ。」(DN007)、「母さんは読みます。」(LN010) といったようなヴォイス関係の中間言語的表現で回答している学習者が 15 人いた。助詞「に」に関する認識と時制のことも絡んでいる可能性があるが、母語（中国語）の語感や中国語の視点の捉え方から影響を受けて、「大切な友達との秘密の手紙」という文脈説明を十分に理解できないまま、能動表現を使用しているのではないかと考えられる。

「手紙がお母さんに読まされました」(KZ001)、「お母に読まられました。」(KS013) といったような活用ミスを犯している回答も見られた (9 人)。書き間違い、規則の暗記の仕方などの要素は否定できないが、使役受身の活用規則と混同している可能性がある。

無答の学習者が 1 人いた (KS036)。

「読んでほはだめ。」(KN001)、「お母さんは手紙を。」(LN012) といったようなほかの表現で回答している学習者が 13 人いた。LN の場合、設問の意味に関して十分に理解できていない可能性がある。

絵7



エリさんは帽子をかぶっています。動物園にいます。
エリさんがオリの近くに居ましたので、_____。
(とる)

「とる。」(KN010)、「帽子はサルにとらせた。」(KS049) といったようなヴォイス関係の中間言語的表現で回答している学習者が8人いた。庵(2012)で指摘している「視点の置かれやすさの階層」受身を使いこなす上での重要な知識がないまま、母語である中国語から影響を受けている可能性が高い。日本語は「視点優位」の言語で(金水1992)、「話し手中心(私)」の事態把握の傾向を持つ言語だと言われている(池上2009)。それに対し、中国語は「結果性優位」言語である(下地1999)ということで、意味的に言えば、中国語は客観的な事実・現実的結果を述べることに重点を置いていると言えそうである。

「帽子をしられました。」²⁷(KZ014)、「帽子が猿をとりされました。」(KN031) という活用関係の中間言語的な表現で回答している学習者が2人いた。

無答の学習者が3人いた。(LN012、KS003、KS038)

「帽子がとれてしまいました。」(YN010)、「あ、オリにとってきました。」(KN001) といったようなほかの表現で回答している学習者が11人いた。

絵8



エリさんです。エリさんは新しいスカートをはいています。
彼女は犬をつれて庭を散歩しています。
_____。
(よごす)

それで、エリさんは怒っています。

「よごさせる」(KN006)、「犬がエリさんのスカートをよごした。」(LN008) といったようなヴォイス関係の中間言語的表現で回答している学習者が11人いた。トピックに対する視

²⁷ 書き方が不明瞭であることから、「し」と判断した。実際に、学習者は「とる」の受身の活用形を習得できている可能性も高い。

点・立場やそれにともなう情的な差が受身文と能動文の選択と密接な関係があると考えられる。この設問の場合、「それで、エリさんは怒っている」という文脈説明への配慮は十分とはいえないようである。中国語では、客観的・中立的に事実を述べるような例が多数存在しているため、「事実志向」が強いと研究報告で指摘されている（渡邊 1996）。それに対して、日本語は客観事実をどうとらえるか、どういう影響が自分にあったかという観点から述べる表現に重点を置いている話者中心の言語であるとされている。

「スカートは犬によごられます。」(KS004)、「スカートは犬によごれます。」(KS032) という活用ミスをしている学習者が 2 人いた。

「スカートが犬によこされました。」(KZ008)、「犬によされた。」(KN022) といったようなほかの中間的な表現で回答している学習者が 8 人いた。

無答の学習者が 6 人いた。

以下は、設問別に短文完成テストの調査結果をまとめて、表 28 で報告する。

表 28：設問別の短文完成テストの回答結果整理

設問番号	絵 1	絵 2	絵 3	絵 4	絵 5	絵 6	絵 7	絵 8
正答数 (人)	122	84	108	98	109	103	118	114
及び比率 (%)	86.52	59.57	76.59	69.50	77.30	73.05	83.69	80.85
中間的言語的な回答数 (人) 及び比率 (%)	19	57	33	43	32	38	23	27
計	141	141	141	141	141	141	141	141
	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

正答率の高い順に、絵 1、絵 7、絵 8、絵 5、絵 3、絵 6、絵 4、絵 2 となっている。しかし、絵 1 の回答の一部のように、文法的に正しい表現であるが、自然な日本語から考えると、不自然と見なされる表現もある。さらに、正しく回答しただけで、必ずしも日本語の受身文と視点の関わりを理解できているとは限らない。それは、書き疲れ、受験ストラテジーなどが絡んでいる可能性もないとはいえないからである。

中間言語的な回答をさらに詳細に整理して、以下の表 29 で示した。

表 29：短文完成テストの回答結果整理

設問番号		絵 1	絵 2	絵 3	絵 4	絵 5	絵 6	絵 7	絵 8
中間言 語的な 回答数	活用ミス	9	7	11	23	6	9	2	2
	ヴォイス選択	1	34	10	11	15	15	8	11
	文脈配慮不十分	—	11	—	—	—	—	—	—
	その他	2	5	8	9	11	13	11	8
	無答	2	—	4	—	—	1	2	6
計		14	57	33	43	32	38	23	27

本調査で見受けられた中間言語的な表現を、①活用ミス、②ヴォイスの選択に関する中間言語的な回答、③文脈情報への配慮が不十分による中間言語的な回答、④その他、⑤無答の 5 種類に分類した。とりわけ、活用ミスとヴォイスの選択に関する中間言語的な回答は問題になっていると考えられる。

文脈情報への配慮が不十分であることが原因となっている中間言語的な回答は絵 2 にしか見受けられなかった。それは正答率が一番低い設問でもある。

絵2

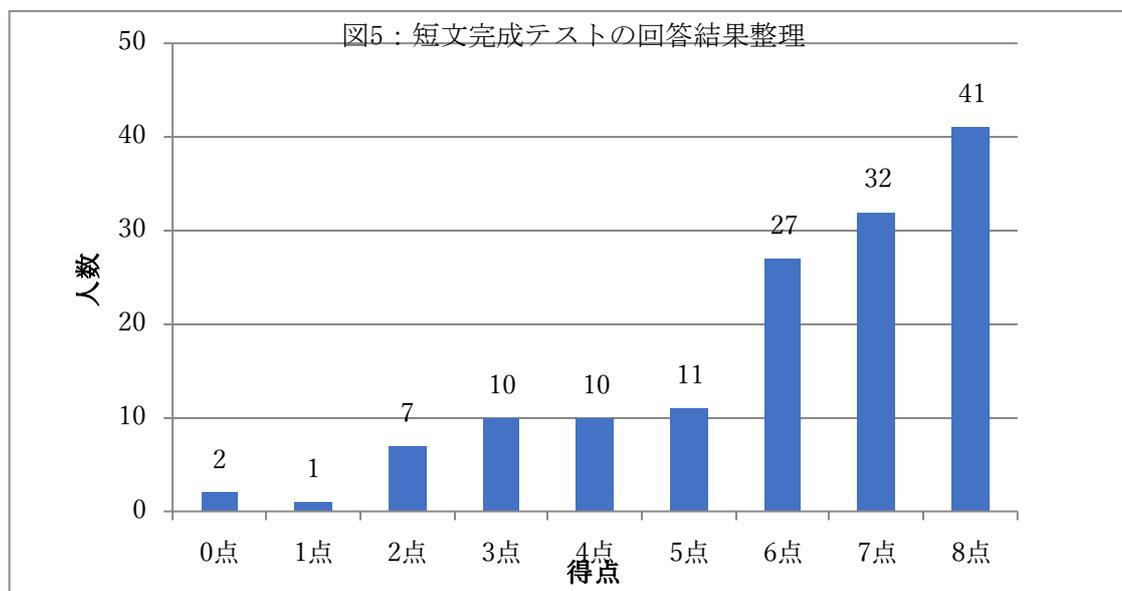


日曜日です。ひろし君は寝ています。猫がひろし君の枕のそばに飛んできました。ひろしくんはもっと寝ていたかったのに、_____。

(起こす)

また、無答のデータに関して、学習者が書き忘れの可能性もあるが、どのように記入したらいいか迷っていた可能性もあると考えたので、中間言語的な表現の整理にも入れることとした。

短文完成テストの得点傾向をまとめると、図 5 となる。



短文完成テストでは、8問の設問を設けた。採点する際に、受身以外の誤りを問わなかったことと関係があるかもしれないが、6点～8点の間の得点は、全体の7割くらいを占めた。さらに、8点満点を得た調査協力者が41人現れた。天井効果の可能性が高いと考えられる。

6.6.3 インタビューの結果の考察

本調査のインタビューの結果からの考察を以下のように整理する。

(1) 理解レベルを測る文法選択・翻訳テストと産出レベルを測定する短文完成テストを回答する際に、対象となった中国人日本語学習者は、「問8は倒置文だと考えていた。中国語の表現習慣では次郎は主語で、助詞として「が」あるいは「は」を使用すべきだと思っている。当時4を選択したけど。主語を判断していたとき、助詞の使用状況から選択肢3を排除した。」(KS042)のように、訳読法で母語である中国語に翻訳しながら、主語の位置に立つ名詞を判断する、というストラテジーが見られた。

(2) 中国語の受動文（“被动句 beidongju”）に関する基本文法知識（3.1.2節）がないまま、中国語の語感に頼って、「あの子は別の人の養子になった。最初は、受身であるかわからない、と思った。その後、受身ではないと判断した。主語はあの子であり、アメリカ人ではないから」(LN029)のように、受身文を使用すべきかどうか、日本語の動詞は受身にできるかどうか、を判断する傾向が窺われた。

(3) インタビューの対象者は、「問1の主語は「あの子」。この文は受身を使うべきだと思っている。養子は目的あるいは結果であることから、「に」を選択した。「養子を」だと、養

子は何かにやられたような語感になる。そしてヴォイスは受身と判定したから、選択肢の一部を排除した。」(KZ001)のように文法選択・翻訳テストを回答する際に、主語とヴォイスを判定した後、日本語の文法知識を利用して、選択肢の一部を排除する傾向がある。

(4)「ひろし君は母にしかったです」(LN046)のように、正しく回答したとはいえ、必ずしも正確に理解できているとは限らない。正しく選択あるいは記入できているだけでは、視点の角度から日本語の受身文使用規則を習得できていると判断できない可能性がある。

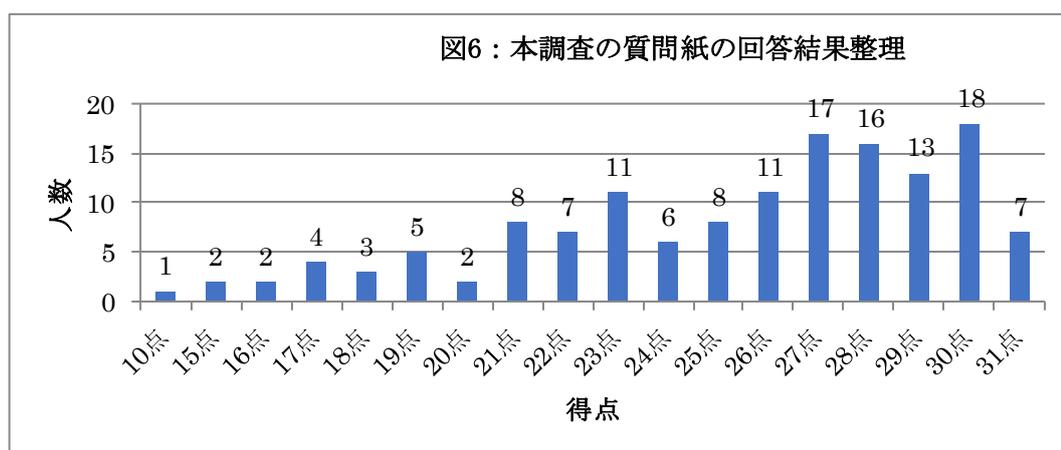
(5) 受身文の使用による視点の統一が習得できていない可能性が高い。そう判断したのは院生レベルになっても、受身文使用と視点の統一の規則を意識していない学習者も見受けられた。そう判断したのは、YN005が「省略のことを考えて、『しかったです。』と回答した。視点のことを考えていなかった。前に主語が現れたから、回答していたときそれを省略した。」と述べているからである。視点の統一と既述した内容の省略と混同している問題があることが分かった。

6.7 質問紙全体の回答傾向整理及び本調査の考察結果のまとめ

この節では、まず質問紙全体の回答傾向に関して述べる。そして本調査の考察結果をまとめて報告する。

6.7.1 質問紙全体の回答傾向に関して

理解レベルを測る文法選択・翻訳テストと産出レベルを測定する短文完成テストの結果をそれぞれの得点をカウントして、図に示すと、図6である。



文法選択テストで正しく選択できるだけでは、受身を正確に理解できているとは判断できない。文法選択テストの結果を点数で表しているが、習得できているとはみなし難い。調査協力者が視点の角度から日本語の受身文を習得できているかどうかに関しては、イン

タビューの結果と合わせて次の6.7.2節で整理する。

本章では、インタビューの結果を組み合わせて、理解レベルを測る文法選択・翻訳テストと産出レベルを測定する短文完成テストの回答を分析してきたが、その結果考察を以下にまとめる。

まずは、文法選択テストの回答から明らかになったことである。連用修飾節に出現した受身の使用による視点の統一、単文末に出現した受身、連体修飾節に出現した受身の使用による視点の捉え方に関して、文法選択テストで正しく選択できても、必ずしも視点の角度から日本語の受身文を習得できているとはいえないことが分かった。中国人学習者が日本語の受身文を習得していく際に、母語である中国語から影響を受けているというより、日本語の言語内知識が不十分であること、具体的に言えば文脈依存性の高い日本語受身文を使いこなせるために必要な知識とされている視点の捉え方、視点の統一が習得されていないことは根本的な原因の一つではないかということを主張したい。

文法選択テストの中国語訳の回答から、母語である中国語で日本語の設問文で述べている事態を正確に理解できても、必ずしも文法選択テストで正しく選択できるとは限らない。

【文法選択○ 中国語訳×】タイプと【文法選択× 中国語訳×】タイプの回答を調べた結果、日本語の設問文で述べている事態を十分に理解できていない傾向が見られた。主体と出来事との関係の捉え方に関して、理解を深める必要があると考えられる。【文法選択○ 中国語訳○】タイプの回答の場合、“被”構文（“被字句 beiziju”）で翻訳している傾向が窺われた。しかも、「被」マークの使用は圧倒的に多く見られた。「讓」マークの使用も見受けられたが、「讓」構文（“让字句 rangziju”）の使役の意味と混同している回答もあった。

【文法選択× 中国語訳○】タイプの回答では、中国語の能動文の使用率が「被」構文（“被字句 beiziju”）の使用率を上回っている傾向が見受けられた。中国語は事実志向が強い言語であるとされているが、中国人日本語学習者にとって、それなりの主語の立て方あるいは視点の捉え方が生じやすいと考えられる。

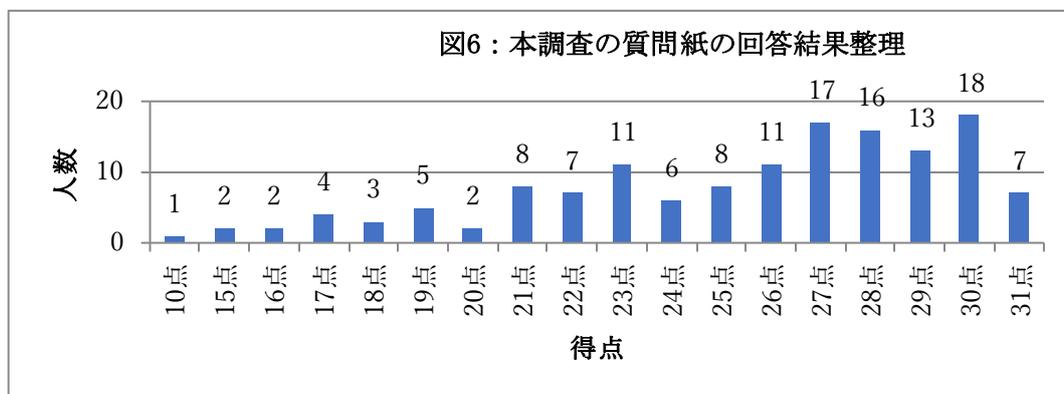
次は、短文完成テストの回答から考察した結果であるが、活用ミス、ヴォイスの選択、文脈情報への配慮の順に報告する。活用ミスに関して、書き間違い、規則の覚え間違いも絡んでいるかもしれないが、学習者は受身の活用規則と使役受身の活用規則を混同している傾向が見られた。そのような活用ミスはヴォイスの選択の判断にもつながっていると考えられる。

日本語は先述したように、「視点優位」の言語で、客観事実をどうとらえるか、どういう影響が自分にあったかという観点から述べる表現に重点を置いている話者中心の言語であると思われる。それに対して、中国語は事実志向が強い言語とされていて、意味的に客観的な事実・現実的結果を述べることに重点を置いているとされる。学習者の中間言語からは、日本語の受身文を習得する際に、日中両言語の差異を十分理解せず母語（中国語）の語感に頼って、受身文を使用すべきかどうかを判断する傾向が窺われた。

さらに、受身文の使用による視点の統一と、省略とを混同している回答も見受けられた。インタビューの結果をも組み合わせると、学習者が質問紙で正しく回答していても、必ずしも視点と受身文使用との関わりを正確に理解できているとはいえない。院生レベルの学習者であっても視点の統一が習得できていないこともわかった。

日本語ではある行為を表す際に、話者が関与する場合は一般に話者を主語にして文が作られる。具体的に言えば、話者が行為者であるときには能動文、行為の受け手であるときには受身文が使われる。しかし、中国語ではそういう視点の制約を受けないため必ずしも話者を主語の位置に立てて事態を述べるとは限らない。その場合、動作主あるいは変化の主体を主語にして把握するほうがより理解しやすいと考えられる。それは、複数の登場人物を立てて事態を述べる傾向があることに現れていると言えるのではないだろうか。さらに、これが視点の統一が習得されにくい根本的な原因の一つかもしれない。

場面依存性の高い日本語の受身文を習得する際に、文脈情報を読み取りながら受身使用を判断することは容易ではないと考えている。とりわけ、中国語の視点の概念と主語の立て方から影響を受けて、中国語の受身表現に関する基礎的な文法知識がないまま、母語に訳しながら、日本語の動詞が受身にできるかどうか、さらに受身文を使用すべきかどうか、ということ判断している認知ストラテジーが窺われた。



中国の重点大学からの調査協力者を対象に、本調査を実施した。もちろん、すべての習

得実態を反映できているわけではないが、全体の得点から見て、高い点数を得た学習者も少なくない。ここで、図6を再掲して質問紙全体の得点分布を示した。

日本語の受身文を文法項目として、初級段階から学習してきている学習者は、日本語の学習が進むにつれて、日本語の視点の置かれやすさの階層、視点の統一の規則など視点に関する知識を身につけ、さらに自然な日本語を習得することが可能である。

第7章 中国で出版されている日本語教科書における受身の扱いをめぐる検討

教科書は、海外で日本語を学んでいる学習者にとって重要なリソースである。学習者にとって大きな影響を与えるインプットとして、教科書は無視することができない。

第4章では、中国人学習者による日本語の受身文の使用と習得に関わる要因を日中対照研究の角度から考察してきたが、本章では、中国で出版されている日本語教科書における受身文の提出順序や解釈の仕方、例文の提示状況などの実態を明らかにするために、下記の初級・中級教科書を対象として、教科書の分析を行う。なお、本研究は中国の大学で日本語を学習している学習者を考察の対象とするために、ここでは中国国内で使用されている教科書のみを分析の対象とした。

表30：調査対象となった教科書一覧²⁸

	編集者	教科書の名称	出版年	出版社	教科書の数量
1	彭広陸・守屋三千代ほか	『総合日語』 (改訂版)	2009年～ 2011年	北京大学出版社	第1冊～第4冊 全4冊
2	周平・陳小芬ほか	『新編日語』 (改訂版)	2009年～ 2011年	上海外語教育出版社	第1冊～第4冊 全4冊
3	李筱平ほか	『新総合日本語基礎日語』(第2版)	2012年	大連理工大学出版社	第1冊～第4冊 全4冊
4	光村図書出版株式会社・ 人民教育出版社	『新中日交流標準日本語』	2005年～ 2006年	人民教育出版社	(上)、(下) 全2冊
5	譚晶華ほか	『日語総合教程』	2014年～ 2015年	上海外語教育出版社	第1冊～第4冊 全4冊
計	5種類 18冊				

これらの教科書を調査対象として選択した理由は、①最近中国で出版されている、②大学ゼロ初級の学習者向けの、③一般的に使われる教科書と、質問紙調査の協力者使用教科書のバランスがとれている、④改訂版あるいはそれに相当する国家企画教材、重点大学教

²⁸ 『新編日語(改訂版第2版)』は上海外語教育出版社によって刊行された。中国で市販している、最新の、大学での日本語学習者向けの教科書とされているが、大連理工大学出版社によって『新総合日本語基礎日語(第3版)』が刊行されている。上に述べたこの2種類計8冊の教科書に関しては、学習者がそれを使用し始めたばかりの段階であるため、習得状況と教科書とのかかわりの角度から考えて、今回の教科書調査対象として扱わなかった。

育改革成果を市販教材として受け入れられている、⑤入手可能な大学の教科書であることの5点である。

現在、中国の高等教育機関で使用されている初級・中級段階向けの日本語教科書はほかにもあるが、今回の分析対象となる5種類（計18冊）は発行部数が最も多く、使用範囲が比較的広いものである。

なお、3『新総合日本語基礎日語』（第2版）、4『新中日交流標準日本語』、5『日語総合教程』の3種類は本研究の調査協力者が大学1-2年生の初級・中級段階で使用している日本語教科書でもある。

7.1 日本語の教科書における受身文の提出順序

この節では、まず今回の分析対象である中国国内で広く使用されている教科書において、日本語の受身文はどのように提示されているかを報告する。日本語の受身文の提示順序に関して、以下の表にまとめた。

表30から分かるように、5種類の日本語の教科書のうち、視点の角度から受身文を解説する内容は『総合日語』にしか見受けられなかった。具体的には「(主动句和被动句) 二者表示相同的事实, 但表达的视点(侧重点) 不同, 因此在表达形式上也有所区别, 具体而言, 视点放在动作主体上时, 就使用主动句; 而视点放在动作客体上时, 则使用被动句。」(筆者訳: 能動文も受身文も同じ事実を表すが、表現の視点が違う。よって、表現形式も異なるところがある。具体的に言うと視点を動作主体に置くときは能動文を使い、動作客体に置くときは受身文を使う。中国語原文の下線は筆者による。) という記述で解説しているが、能動文との対応関係の角度から「先生が学生をほめる。」と「学生が先生にほめられる。」という2つの例を説明に用いた。それは、刊行されている日本語専攻向けの教科書として中国全国初のように見える。しかし、視点の受身文の使用に関して、言及レベルにとどまっている。視点の内容を、文脈も考慮して、どういう時点で何をどのように学習者に提示したらよいのか、検討すべき課題であると考えた。

また、5種類の日本語の教科書は、どちらも基本的に寺村(1982)、鈴木(1972)で指摘されている受身文の分類法の流れで、日本語の受身文を体系的に導入しているといえる。

5種類の日本語教科書における受身文の提出順序の在り方と視点に関する記述の有無を整理すると、表31となる。

表31：5種類の日本語の教科書における受身文の提出順序

教科書の名称	日本語の受身文	導入の課	視点に関する記述
『総合日語』 (改訂版)	(1) 直接受身文の文型1つ (2) 持ち主の受身文文型1つ (3) 間接受身文文型1つ (4) 第四種直接受身文文型1つ	第2冊 第24課	あり
『新編日語』 (改訂版)	(1) 主語が人である直接受身文 (2) 主語がものあるいはことである直接受身文 (3) 間接受身文 ①自動詞による間接受身文 ②目的語がつく間接受身文	第2冊 第9課	なし
『新総合日本語基礎日語』 (第2版)	(1) 直接受身文文型 (2) 持ち主の受身文文型 (3) 間接受身文文型 (4) 無生物主語受身文文型	第2冊 第30課	なし
『新中日交流標準日本語』	(1) 名は名(に)動(ら)れます (2) 名は名に名を動(ら)れます (3) 名は名に動(ら)れます (4) 名が／は動(ら)れます (5) 名は名によって動(ら)れます	初級下冊 第41課	なし
『日語総合教程』	(1) Aが(は)Bを+他動詞 →BはAに+他動詞の受身態 (2) Aが(B)のものを+他動詞 →BはAにものを+他動詞の受身態 (3) Aが(は)Bに+動詞→BがAに+動詞の受身態 (4) Aが(は)Bを+他動詞→Bが+他動詞の受身態 (5) Aが+自動詞→人がAに+自動詞の受身態	第2冊 第8課	なし

具体的に言えば、間接受身文に関してより詳細な分類も見受けられるが、大きく直接受身文と間接受身文の二分法で受身文の文型を整理して、すべての文型を初級の後半あた

りで（第2冊で導入するのがほとんどである）1回の授業で導入する傾向が窺われた。

川村（2012）の指摘している立場Aと立場Bの流れで述べると、立場Aが主流のようである。第3章（p. 39）で述べたとおり、立場Aというのは、対応する能動文の有無あるいはいわゆる「(はた) 迷惑」の意味が出るかどうかによって分ける立場である。今回の分析対象である中国国内でよく使用されている教科書は立場Aに立って、受身文を導入し、解説を加えていると考えられる。渋谷（2014）で指摘したように、立場Aは対応する能動文の有無あるいはいわゆる「(はた) 迷惑」の意味が出るかどうかによって分ける立場である。中国の高等教育機関では、大学生はゼロ初級から日本語を学習し始めるのがほとんどである。大学に入学するまでに、英語の学習経験が6年以上ある学習者が圧倒的に多いとされている。能動文との対応性の角度から英語の受身文を効率的に解説できると思われる。能動文との対応性の角度から日本語の受身文を解説することは、英語学習歴の長い中国人学習者にとって、ある程度は理解しやすい説明方法ではないか、という学習者への配慮の結果の現れかもしれない。詳しい内容は後述するが、受身文の例文提示の状況に関して、能動文を先に提示し、日本語の受身文との対応性の角度から解説を加えるという解釈の仕方が多く見受けられた。その提示方法は、立場Aの反映ではないかと考えられる。

さらに、日本語の受身文が体系的に導入される理由を考えると、学習の便宜上、学習者に日本語の受身文のすべての文型を比較させ、わかりやすく習得させようとする狙いがあると思われる。この提出順序に関しては、すべての受身文の文型を一つのかたまりとして扱うことが妥当かどうか検討すべき課題であるとされる。現実には学習時間の制限も無視することができないといえる。庵（2012）で指摘されているように、「日本語学習とは別に存在する自らの目標達成のために日本語を学習しているのであって、そのためにはできるだけ、短期間により効率的に日本語の知識を身につけられるようにシラバスを設計すべきである。そういう点で、文法に関わる教材は理解レベル／産出レベルといった観点から見直す必要がある」（庵2012：42）

ここで日本語の教科書における受身文に関する新しい導入の仕方を視野に入れると、庵（2012）の受身文提出順序の提案が挙げられる。基本的に立場Aの分類法の枠で指摘しているが、間接受身文は、初級、中級の段階では導入せず、上級に回すほうがよい。初級では受身形の作り方、能動文から直接受身文を作る方法を学習させる。中級では中間的な受身直接受身の視点制約、テキストにおける視点統一のための直接受身の使用を学習内容として扱う（庵2012：48）という。これは、示唆に富んだ提案であるが、庵（2012）では、日

本語学習者全体を想定しており、中国人日本語学習者を特定した提出順序を議論するわけではない。庵（2012）は、日本語の受身文と視点を結びついて提案しているが、日中両言語の視点の差異まで考慮に入れていない。視点に着目して、中国人学習者のための受身文の導入方法を、さらに深く議論する必要があると考えられる。

次に、日本語の教科書における日本語の受身文の説明に使用されている例文の提示状況を、本研究の調査協力者が使用している『新総合日本語（基礎日本語）』（第2版）、『新中日交流標準日本語』、『日語総合教程』の例文分布を受身の出現位置の角度から整理して報告する。

表32：『新総合日本語基礎日語』（第2版）における日本語の受身文の分布状況

日本語の受身文に関する文型	第2冊（例）	第3冊（例）	第4冊（例）	計（例）
(1) 直接受身文の文型 ～は～に～（ら）れる	5	0	0	5
(2) 持ち主の受身文の文型 ～は～に～を～（ら）れる	6	0	0	6
(3) 間接受身文の文型 ～は～に～（ら）れる	5	0	0	5
(4) 無生物主語受身文の文型 ～が／は（～に）～（ら）れる	5	0	0	5
その他の受身形を含める文型	[3] ²⁹	[4]	[4]	11
計（例）	24	4	4	32

表32に示すように、日本語の受身文は初級後半あたりで正式に導入されている（初出の課は導入の課ではない。初出の課は第2冊第26課であり、導入の課は第2冊第30課である）それ以降3冊にわたり受身形を含める文型の形で分布し、散発的に提出されている。一つの課で集中して学習されるより、繰り返し学習されることによって、効果的に習得を進めることを狙ったデザインであるといえるだろう。この種類の教科書では、能動文との対応性の角度から出した能動文の用例は見受けられなかった。

²⁹ [] は順に日本語の受身形を含める文型「～と言われている」、「～とされている」、「～ように思われる」の説明に使用される例文数である。

以下は、受身の出現位置の角度から『新総合日本語基礎日語』（第2版）における日本語の受身文例文提示の傾向を表に整理した。

表33：『新総合日本語基礎日語』（第2版）における日本語の受身文例の提示傾向

出現位置	単文末	複文末	連体修飾節	連用修飾節	引用節	疑問節	計
第2冊	13	3	3	5	0	0	24
第3冊	3	1	0	1	0	0	5 ³⁰
第4冊	1	2	0	1	0	0	4
出現回数	17	6	3	7	0	0	33
(比率)	(51.52)	(18.18)	(9.09)	(21.21)	(0.00)	(0.00)	(100.00)

受身文の説明に使用されている例文は、受身の出現位置の多い順に、単文末、連用修飾節、複文末、連体修飾節、連体修飾節となっている。そのうち、単文末に出現した受身は例文全体の半数以上を占めた。『新総合日本語基礎日語』の場合、引用節に出現した受身と疑問節に出現した受身の例は見受けられなかった。単文末の割合が多いことは、広く使用されている参考書『教師と学習者のための日本語文型辞典』における受身例文の提示傾向と同様である。しかも、それは、前田（2011）が日本語のシナリオを材料にして行った受身の出現位置調査結果とほぼ一致している。

しかも、文型解説に使用されている例文のなか、会話文の例が設けられている。

- 姉は、夜遅く帰って、父に叱られました。
- 李さんは木村さんにパーティーに招待されたそうです。
- 私は知らない人に道を聞かれました。
- 先生に頼まれたことだから、やらなければなりません。
- A: どうしたんですか。嬉しそうですね。

B: スピーチが上手にできて、日本語の先生に褒められたんです。

（『新総合日本語基礎日語（第2版）』第2冊第30課 p. 197）

³⁰ 「当時歌舞伎は風俗を乱すものとされ、禁止されていた。」において、受身が二回使用されている。ここでは、「され」を連用修飾節に出現した受身と、「禁止され」を複文末に出現した受身とカウントして整理している。

日本語の受身文は文脈と場面に依存するところが大きい表現であるとされているが、上述のような会話例は、導入の課で出現したすべての受身文の文型解釈に用いられている。こういう例文の文体の違いへの配慮は、『新総合日本語基礎日語（第2版）』にしか見受けられなかった。

- タベは友達に來られて、宿題ができませんでした。
昨晚朋友來了，沒能完成作業。
- 會議の時、隣の人にタバコを吸われました。
开会的時候，旁邊的人吸煙。（使我很不舒服）
- A：顔色が悪いですね。どうしたんですか。
B：雨に降られて、風邪を引いてしまったんです。
臉色不好啊，怎么了？
被雨淋而感冒了。

（『新総合日本語基礎日語（第2版）』第2冊第30課 p.197）

すべての例文に中国語訳がついていることは、学習者の母語（中国語）での理解を促進する狙いがあると考えられる。日本語の受身文は必ずしも中国語の”被”構文に翻訳されるとは限らない、ということを学習者に示しそうとする工夫の一つかもしれない。

しかし、中国語訳の表現の視点は、日本語の受身文の視点と異なっている場合もある。中国語の表現が日本語に翻訳されると、学習者は、能動文で表現する可能性がある。初級段階では、ほかの学習内容もあるので、教科書編集の都合と学習時間への配慮の関係で、解説の一部を省いている可能性もあるが、自然な日本語を習得させるために、中級段階では、視点の角度から補充説明を加えると良いのではないだろうか。

同じ D 大学（日本語強化コースの一部のクラスの使用教材）であるが、次は『新中日交流標準日本語』における受身文の提示状況を整理する。

具体的には、表 33 で示した通りである。

表 34：『新中日交流標準日本語』における日本語の受身文の提示に関して

日本語の受身文に関する文型	下冊	比較説明に使用される他の例	出現位置
(1) 名は(名に)動(ら)れます	5	1 (「てもらう」の例)	5 (単文末)
(2) 名は名に名を動(ら)れます	4	0	4 (単文末)
(3) 名は名に動(ら)れます	4	1 (能動文の例)	4 (単文末)
(4) 名が／は動(ら)れます	3	0	3 (単文末)
(5) 名は名によって動(ら)れます	3 ³¹	0	3 (単文末)

『新中日交流標準日本語』の場合、受身文のすべての用法を1回の授業で体系的に導入する点で、ほかの教科書と同様であるが、受身文の導入課で提示されている例文は単文末に出現したものに集中していることが分かった。

部長は李さんをほめました。

(部长表扬小李了。)

李さんは部長にほめられました。

(小李受到了部长的表扬。)

森さんは小野さんに食事に誘われました。

(森先生被小野女士邀请去吃饭了。)

李さんは部長にほめられませんでした。

(小李没有被部长表扬。)

表示受益時通常使用“～てもらいます”的形式。

日本語訳³²：受益の意味を表すとき、「～てもらいます」を使用するのがふつうである。

- 李さんは友達に助けられました。(客観叙述，不表示受益)

日本語訳：客観叙述を表す。受益の意味ではない。

(小李得到了朋友的帮助。)

- 李さんは友達に助けられました。(表示受益)

日本語訳：受益の意味を表す。

³¹ [] は順に日本語の受身形を含める文型「～と言われている」、「～とされている」、「～ように思われる」の説明に使用される例文数である。

³² 日本語訳は筆者による。

(小李得到了朋友的帮助。)

(『新中日交流標準日本語』下冊第 41 課 p. 189)

上述のように、すべての例文に中国語訳がついている。どの例文の主語も言語化されている。また、受身文との対応性の角度から、能動文の例を1例、受身文の意味特徴との比較の角度から「もらう」用例1例を出している。中国語の訳文から考えると、「李さんは友達に助けられました。」と「李さんは友達に助けてもらいました。」は同じようであるが、そこから中国語表現の豊富さと曖昧さが見受けられる。しかし、日本語の受身文は場面依存性が高い表現であるので、意味特徴の解説より文脈情報を与えながら提示するほうが、学習者にとって理解しやすくなるかもしれない。

次は、L大学の使用教材である『日語総合教程』における受身文の提示状況を表35で示した。

表35：『日語総合教程』における日本語の受身文の分布状況

日本語の受身文に関する文型、表現	第2冊 (例)	比較説明に使用される他の例	出現位置
(1) A が (は) B を+他動詞→ B は A に+他動詞の受身態	2	2 (能動文)	2 (単文末)
(2) A が (B) のものを+他動詞→ B は A にものを+他動詞の受身態	2	4 ((受身誤用例 2 例、能動文 2 例)	2 (単文末) :
(3) A が (は) B に+動詞→ B が A に+動詞の受身態	2	2 (能動文)	2 (単文末)
(4) A が (は) B を+他動詞→ B が+他動詞の受身態	2	2 (能動文)	2 (単文末)
(5) A が+自動詞→ 人が A に+自動詞の受身態	2	4 (「てもらう」用例 2 例、受身誤用例 2 例)	2 (単文末 1 例、連用修飾節 1 例)
計	10	14	10

『日語総合教程』における受身文の提示実態を整理したところ、能動文との対応性、誤用例分析という二つの角度から受身文を解説していることが分かった。単文末に出現した

受身は、解説に使用されている受身文の例文の全体の9割を占めた。以下は具体的に提示された例文である。

- 両親は子供を愛しています。
→子供は両親に愛されています。
- 冬が来て、雪が山を覆いました。
→冬が来て、山は雪に覆われました。

(『日語総合教程』第2冊第8課 p. 107)

誤用分析の角度から提示されている例文もある。解説の日本語訳は筆者によるものである。

要注意，被动态有时会伴有蒙受损害的语感，因此，在带有强烈的受益色彩时不能用被动态，而要用「～てもらう」

日本語訳：注意点であるが、受身態の使用によって、被害を被るという語感を伴うこともある。よって、明確な受益の意味を表すときは、「てもらう」を使うべきである。

×友だちに記念写真を撮られて、うれしかったです。

○友だちに記念写真を撮ってもらって、うれしかったです。

×あなたは、お友だちに助けられて、ほんとうによかったですね。

○あなたは、お友だちに助けてもらって、ほんとうによかったですね。

(『日語総合教程』第2冊第8課 p. 108)

上述のように、誤用分析あるいは中間言語分析の角度から受身文を解説することは日本語教育の新しい試みではないかと考えている。しかし、日本語らしい日本語を習得させるために、例文の後ろに中国語訳がついていない設定になっているのかもしれない。

7.2 日本語の教科書における受身文解釈の仕方

中国国内で刊行されている教科書は、日本語の受身文を体系的に導入する傾向が強いが、具体的にどんな例文や場面が用いられ、どんな解釈の仕方や中国語訳がされているのか、この節で、今回の分析対象である5種類の日本語の教科書から、日本語の受身文に関する

文法説明の課を取り出し、その解釈の仕方及び中国語訳について行った分析結果をまとめておく。その結果から以下の5つの特徴が見受けられた。

(1) 日本語の受身文は、文脈依存性の高い表現であるとされるが、どの教科書においても文脈情報が不十分のまま、単文末に出現した受身が例文として提示される傾向がある。さらに、提示例文の割合に関して、単文末に出した受身文は出した受身文の例文全体の9割を占めた教科書（『日語総合教程』）もあるが、ほかの出現位置にも配慮してバランスよく設けられている教科書もある（『新総合日本語基礎日語』第2版）。

(2) 今回の分析対象である教科書は、能動文との対応性の角度から受身文の解説を行う傾向が見受けられた。どの教科書も立場Aの流れで、採択された受身文の分類方法は基本的に直接受身文と間接受身文の二分類法であると考えられる。さらに、すべての文型と用法を、初級後半あたりで1回の授業で体系的に導入する傾向が強い。

(3) 提示例文中国語訳のついているパターンと中国語訳のついていないパターンが見られる。中国語訳のついているパターンは主流のようである。とりわけ中国語の”被”構文で日本語の受身文を翻訳しているほか、能動文での表現も見られた。翻訳者によって、中国語訳が変わる可能性もあるが、日本語の受身文と対応する中国語訳文の多様性から、ある意味で日本語の受身文が広い範囲で使用できることと、中国語の受動文は”被”構文という典型的な構文以外にほかの表現方法もあることを表しているということが言えそうである。

(4) 受身文の使用と視点とのかかわりに関しては、『総合日本語』にしか見受けられなかった。しかし、調査協力者が使用している3種類の教科書では見受けられなかった。連用修飾節に出現した受身文が例文として提示されているが、どうして受身文を使用すべきか、視点の統一の角度からの説明は教科書に記載されていない。

(5) 解釈方法に関して、能動文との対応性の角度からの比較、誤用分析あるいは中間言語分析関係のコラムが見受けられた。具体的に、「てもらう」と受身文の使い分けに関する内容であるが、「てもらう」という授受表現は、視点という接点で日本語の受身文とつながっていると考えられる。意味特徴の角度からの解説は見られたが、視点の角度からの説明は見受けられた。さらに、中国語訳のついている教科書もあるが、その中国語訳の表現を契機に、日中視点の差異をめぐる内容は教科書に見られなかった。

(6) 例文の選び方に関して、書き言葉の例が圧倒的多数であるといえる。会話文の例を受

身文の解釈に用いた教科書は1種類だけだった（『新総合日本語基礎日語』第2版）。

7.3 教科書分析結果のまとめ

以上、中国国内で広く使用されている初級・中級日本語の教科書における受身文の提出順序と解釈の仕方などに関して分析を行った。その結果を以下のようにまとめておく。

(1) 日本語の受身文の提出順序に関して、①日本語の受身文の文型を1回の授業で導入する場合と、少し距離を置いて導入する前に、一つの受身形を含める文型を提示し、導入の課で1回の授業でまとめて提示するという場合がある。どちらも日本語の受身文を初級の後半あたりで1つのかたまりとして体系的に導入している。

(2) 提示内容に関して、受身文の解説で視点に言及している教科書は、『総合日語』にしは見受けられなかった。連用修飾節に出現した受身の例が提示されているにもかかわらず、受身文の使用による視点の統一規則に関する解説は教科書に記載されていない。ほかの出現位置からみた視点のとらえ方と視点の置かれやすさの階層の内容も言及されていない。

(3) 解釈の仕方に関して、能動文との対応性の角度からの解説、誤用分析あるいは中間言語分析の角度からの解説が見受けられたが、日中両言語の視点の相違をめぐる説明は見受けられなかった。

(4) 例文の提示に関して、単文末に出現した受身の例文数が最も多いが、場面や登場人物などの文脈情報の補足説明が少ない。使用された例文の文体も書き言葉の例が圧倒的に多い。日本語の受身文をもちいた会話文の取り入れは足りないと思われる。

第8章 おわりに

本研究では、中国国内の高等教育機関で日本語を学習している中国人中級・上級学習者を対象に、中国語母語話者による受身文の使用実態と運用能力を調査した上で、その使用と習得にかかわる要因を、日本語教育の立場から検討した。本章では、まず、各章の関連付けを提示しながら、それぞれの結論をまとめて報告する。次に、本研究の調査結果を踏まえて、日本語の受身文の指導法に関する提言を行う。そして、最後に本研究の限界と今後の課題を述べる。

8.1 本研究の結論

本節では、各章の関連付けに関して述べ、中国人学習者による日本語の受身文の使用実態と、その使用と習得にかかわる要因に分けて、課題別に本研究の結論を整理して報告する。

8.1.1 各章の関連付けに関して

本研究の研究背景、問題意識、全体構成を第1章で紹介した。中国人日本語学習者を想定し、形態的、統語的、意味的、機能的に難易度の高い受身文の習得研究を進めるには、日本語の受身研究、中国語の受身研究、日中対照の研究、中国語母語話者の日本語の受身習得研究、受身の習得研究の教授法・教材論への応用研究の角度から、日本語の受身文に関する日本語・外国語の文献を概観し、考察を加えた（第2章）。

受身文の研究成果は数多く蓄積されてきているが、研究者の焦点やアプローチなどによって使用されている用語も異なっている場合も見受けられたので、議論を展開していく前に、日本語の受身文、中国語の受動文、視点、日中視点の比較等、本研究で扱う諸概念の内実に関して整理して示した（第3章）。

本論文は、視点に着目して、三つの課題を立てたが、ここで確認するために、再掲する。

課題1：どのような例文を出したら、視点の角度から中国語人日本語学習者の受身文に関する理解を深め、習得を促進できるのか、という問題の解決に向けて、日本語、中国語双方向の対訳データの考察を通して、受身の出現位置及び視点との関係について明らかにしようと試みる。

課題2：理解レベルと産出レベルに分けて、調査協力者の受身文習得はどのような状況なのか質問紙調査とインタビューの方法で実施して、分析を行う。その分析結果と課題1であ

る対訳データの考察結果と結び合わせて、調査から見られた学習者の受身文の習得に関する中間言語的表現の出現要因を分析し、視点の捉え方、視点の統一の角度から受身文の習得を阻害する要素を考察し、改善案の構築方法を探る。

課題3：課題2で見られた中間言語的表現は、現行の教科書の受身導入方法とどんなかわりがあるかどうか、視点の角度からどのような工夫をして、中国人日本語学習者にとって更に参考になりそうな材料を提供するか、に関して、検討し、中国の日本語教育現場の受身文指導法を充実させる可能性を探り、提言を試みる。

中国人学習者による日本語の受身文の使用と習得に関わる要因を日中対照研究の角度から、考察してきた。日中視点の差異、とりわけ受身の出現位置と視点との関係（課題1）に関して、日本語中国語双方向の小説から対訳データ1411対を収集し、受身表現の使用について、日中の訳語の比較を行った。両言語で受身形を使うものをタイプ1（日本語○中国語○）とし、日本語では受身を使うが、中国語で使わないものをタイプ2（日本語○中国語×）、中国語でのみ受身を使うものをタイプ3（日本語×中国語○）とし、の3種類に分けて、分析を行った（第4章）。

学習者がどのように理解され、どのように産出されているか（課題2）を解明するためには、質問紙による文法テストとインタビューの二つの調査を実施した。本調査の質問紙の質を確保するために、質問紙による文法テスト（選択テストと文完成テストから構成されている）とインタビューの予備調査を行った（第5章）。予備調査の結果を参考に、文脈情報の適切さと設問表現の自然さ等を修正した後、理解レベル（意味が分かるかどうか）を測る文法選択・翻訳テストと産出レベル（実際に使えるかどうか）を測定する短文完成テストに分けて、本調査を実施し、141人分の質問紙回答データを収集した。質問紙の回答理由と判断基準に関して、調査協力者5名を対象に、インタビューを行った（第6章）。本調査の調査協力者はD大学とL大学という中国の2つの大学であり、173人の協力を得ることができた。

質問紙の回答から見受けられた中間言語的な表現は、中国国内の高等教育機関での現行の日本語の教科書における受身文の提出順序、例文の提示、解釈の仕方と、どのような関わりがあるか、視点の観点からどのように工夫できるのか（課題3）に関して、最近（2005年～2015年）中国で出版された大学生向けの日本語教科書5種類計18冊（そのうち、本調査の調査協力者が使用している教科書は3種類計10冊ある）を調査対象にして、受身文の導入方法、例文の出し方、解釈の仕方をめぐって整理し、考察を加えた（第7章）。

各章の関係を言及しながら、考察してきた結論を整理して報告する。調査の結果を踏まえて、日本語の受身文の指導に関して、中国の日本語教育現場への提言を試みる。そして、本研究の限界と今後の課題に言及する（第8章）。

8.1.2 結論のまとめ

8.1.2.1 課題1に関して

課題1とは、日本語、中国語双方向の対訳データの考察を通して、受身の出現位置の使用実態を把握し、受身文の使用と視点との関係について明らかにしようと試みることである。

課題1の解決に向けて、中国語原文日本語訳文方向、日本語原文中国語訳文方向の小説の対訳データを1411対収集し、日本語の受身の出現位置の使用実態を考察した。さらに、受身の出現位置及び視点との関係に関して、分析を行った。

各タイプの使用傾向の調査結果を以下のように整理した。

【日本語○ 中国語○】タイプの場合

(1) J 朝方ばらばらと降ったりやんだりしていた雨も昼前には完全にあがり、低くたれこめていたうっとうしい雨雲は南からの風に [41] 追い払われる ように姿を消していた。

鮮やかな緑色をした桜の葉が風に揺れ、太陽の光をきらきらと反射させていた。

C 早上“噼里啪啦”时停时下的雨，上午就已完全止息了。低垂的阴沉沉的乌云，也似乎 [42] 被南来风一扫而光似的无影无踪，鲜绿鲜绿的樱树叶随风摇曳，在阳光下闪闪烁烁。

(日本語直訳：朝方ばらばらと降ったりやんだりしていた雨も昼前には完全にあがり、低くたれこめていたうっとうしい雨雲は南からの風に追い払われるように姿を消していた。鮮やかな緑色をした桜の葉が風に揺れ、太陽の光をきらきらと反射させていた。)

(=第4章例62再掲)

①「被」マークの使用は半数以上を占めた。(中国語原文日本語訳文方向のデータの7割以上を占めた。日本語原文中国語原文日本語訳文方向のデータの5割以上を占めた。)
「被」の付け加え可能なものもカウントすると、使用率は7割を上回る。

②「被」以外のマークは小説の内容によって使用傾向には差が見受けられるが、中国語原

文日本語訳文のデータにおいても、日本語原文中国語訳文のデータにおいても 15%くらいを占めた。日本語原文中国語訳文のタイプ 1 において「譲」構文の割合が大きかったが、中国語原文日本語訳文のタイプ 1 ではそういう傾向が見受けられなかった。「在……下」という表現は双方向のデータで見られたが、それぞれの 3%に過ぎない。

タイプ 2【日本語○ 中国語×】の場合

(2) J 何日かつづいたやわらかな雨に夏のあいだのほこりをすっかり [1] 洗い流された山肌は深く鮮やかな青みをたたえ、十月の風はすすきの穂をあちこちで揺らせ、細長い雲が凍りつくような青い天頂にびたりとはりついていた。

C 连日温馨的霏霏轻雨, [2] 将夏日的尘埃冲洗无余。片片山坡叠青泻翠, 抽穗的芒草在 10 月金风的吹拂下蜿蜒起伏, 透迤的薄云仿佛冻僵似的紧贴着湛蓝的天壁。

(日本語直訳: 何日かつづいたやわらかな雨は、夏のあいだのほこりをすっかり洗い流した。山肌は深く鮮やかな青みをたたえ、十月の風はすすきの穂をあちこちで揺らせ、細長い雲が凍りつくような青い天頂にびたりとはりついていた。)

(=第 4 章例 65 再掲)

①双方向の対訳データの考察をとおして、客観叙述タイプ表現の使用傾向としてほぼ一致した結論に至っている。中国語原文日本語訳文のタイプ 2 においても、日本語原文中国語訳文のタイプ 2 においてもそれぞれの 7 割ぐらい占めた。

②解釈タイプにおいては、術語、四字熟語などで対応している表現は 1 割強占めた。中国語原文日本語訳文のタイプ 2 においても、日本語原文中国語訳文のタイプ 2 においてもそれぞれの 12%ぐらいを占めた。

③対応項目なしのタイプについて、中国語原書日本語訳書方向のデータでは 7.37%出現したが、日本語原書中国語訳書方向のデータでは 3.68%しか見られなかった。

タイプ 3【日本語× 中国語○】の場合

(3) J 帰る間際になって、老人は牧場革命委員会の委員として、突然、会議に [199] 残ることになったが、その資料をすぐに生産大隊に届けるようにと本部から指示された。

C 回家时, 老人作为牧场革委会委员, 突然 [200] 被留下开会, 可是场部指示那些文件

必須立即送往大隊，不得延誤。

(日本語直訳：帰る間際になって、老人は牧場革命委員会の委員として残された。その資料をすぐに生産大隊に届けるようにと本部からの指示があった。)

(=第4章例58再掲)

- ① 自動詞、「なる」を含める表現や文型で対応することが一番多かった。中国語原文日本語訳文のタイプ2において半数近く占めた。日本語原文中国語訳文のタイプ2においてそれぞれの6割ぐらいを占めた。
- ② 能動表現はタイプ3において無視できない存在である。中国語原書日本語訳書方向のデータで3割を占めたが、日本語原書中国語訳書のデータでは、4割に近かった。
- ③ その他に関して、中国語原文日本語訳文のタイプ3においても、日本語原文中国語訳文のタイプ3においても1割強占めた。数少ないけれど、「で」等の助詞の働きと組み合わせで受身の意味を表す用例も出現した。

次は、使用傾向の調査結果から導き出された結論に関して報告する。

場面依存性の高い日本語の受身文を習得する際に、その存在意義や機能は、単文のレベルを超えた角度から何をどのように説明すればいいか、現場ではどのように応用すればいいのか、現実的には問題がある。説明する必要があることは既に広く認識されているが、中・上級レベルの学習者向けにどのように説明できるのか、対訳データの使い方を検討しながら、現場への提言を試みるのが可能だと考えるので、中国においても日本においても受容度が高いと思われる日本語中国語双方向の日本語中国語双方向の小説から三つのタイプのデータを収集した。本研究は日本語の受身文の習得研究をテーマにしているので、受身の出現位置の議論は、主に日本語中国語双方向のタイプ1(「日本語○中国語○」)とタイプ2(「日本語「日本語○中国語×」)のデータを材料にして分析を行った。対訳データの分析から以下の結論に至っている。

(1) タイプ1(「日本語○中国語○」)、タイプ2(日本語○中国語×)、タイプ3(日本語×中国語○)それぞれのデータ数の整理と分析から、日本語の受身文の使用範囲(1280個)は中国語の受動文の使用範囲より広いという結論に至っている。この分析結果は、森田(1998)、王(2009)等の先行研究を裏付けていると言えるだろう。その結果は、中国語の受動文(“被动句 beidongju”)は必ずしも「被」(“被 bei”)「讓」(“让 rang”)などのマークを用いた”被”構文(“被字句”)で日本語の受身文と対応するとは限らない、という中国

語の言語事実を反映しているといえそうである。一方、中国語の受動文の表現の豊富さと多様性も表しているのではないかと考えた。中国語の能動文で日本語の受身文と対応する可能性も否定できない。

(2) 中国語の表現のほうは完全文で単独に事実を述べることが多い傾向にある。動作主あるいは変化の主体を主語の位置に立てて事柄を記述する傾向がある。こういう主語の立て方あるいは視点の立て方とは、渡邊（1995）が話し言葉を材料にして分析した受身文の非使用の原因の一つである複数の登場人物を立てて事態を把握する傾向とつながっているのではないかと考えられる。さらに、それは、水谷（1985）で指摘している「事実志向型」言語の文づくりの現れであるかもしれない。日本語のほうは文脈の情報に依存して、受身文の使用、とりわけ連用修飾節に出現した受身の使用により、視点が統一される傾向が見られた。視点の統一は、視点の一貫性にもつながっていると言える。同じ登場人物をめぐる話の場合、日本語のほうは比較的短い言葉で表現する傾向が見受けられた。その整理と考察の結果から日本語は視点一貫性が強い言語であり、中国語は視点移動性が強い言語である、という彭（2008）の指摘を裏付けている結果ではないかと考えた。

(3) 日本語の受身の出現位置に関して、使用率の多い順に、連用修飾節>連体修飾節>複文末>単文末>引用節>疑問節となっている。日本語原文中国語訳文方向の対訳データからも中国語原文日本語訳文方向の対訳データからも上述した使用傾向が窺われた。連用修飾節に出現した受身は今回の調査データの全体の 4 割ぐらい占め、前田（2011）での日本語の小説のシナリオを材料に行った調査結果とほぼ一致している。受身が従属節と主節の視点を一貫させる役割が連用修飾節の述語になることであることを示していると考えられる。

8.1.2.2 課題 2 に関して

課題 2 とは、理解レベルと産出レベルに分けて、調査協力者の受身文習得はどのような実態なのか質問紙調査とインタビューを通して調査し、その分析結果と課題 1 である対訳データの考察結果と結び合わせて、調査から見られた学習者の受身文の習得に関する中間言語的表現の出現要因を分析することである。

課題 2 の解決に向けて、文法テスト（理解レベルを測る文法選択・翻訳テストと産出レベルを測定する短文完成テストから構成されている）とインタビューを通して、調査協力者の受身文習得実態を調査した。本調査の回答から考察した結果と課題 1 である対訳データの考察結果と組み合わせて、学習者の回答から見受けられた中間言語的な表現の出現要

因を検討した。とりわけ、視点の捉え方、視点の統一の角度から受身文の習得を阻害する要素を考察し、改善案の構築方法を研究した。

インタビューの結果を組み合わせて、理解レベルを測る文法選択・翻訳テストと産出レベルを測定する短文完成テストの回答から考察した結果を以下にまとめた。

(1) 中国人学習者が日本語の受身文を習得していく際に、母語である中国語から影響を受けているというより、日本語の言語内知識が不十分であること、具体的に言えば文脈依存性の高い日本語受身文を使いこなせるために必要な知識とされている視点の捉え方、視点の統一が習得されていないことは根本的な原因の一つであると言えそうである。

理解レベルでの日本語の受身形の習得が完璧でない場合に、母語である中国語から影響を受けている可能性もあるが、それより日本語の言語内知識が関係している傾向が窺われた。とりわけ連用修飾節に出現位置した受身と視点とのかかわりについて十分に理解できていない可能性が高いと考えた。連用修飾節に出現した受身の使用による視点の統一、単文末に出現した受身、連体修飾節に出現した受身の使用による視点の捉え方に関して、文法選択テストで正しく選択できても、必ずしも視点の角度から日本語の受身文を習得できているとはいえないことがインタビュー調査からも明らかになった。

日本語は「視点優位」の言語で、客観事実をどうとらえるか、どういう影響が自分にあったかという観点から述べる表現に重点を置いている話者中心の言語であると思われる。それに対して、中国語は事実志向が強い言語とされていて、意味的に客観的な事実・現実的結果を述べることに重点を置いているとされる。学習者は、日本語の受身文を習得する際に、日中両言語の差異から影響を受けている母語（中国語）の語感に頼って、受身文を使用すべきかどうかを判断する傾向が窺われた。

(2) 文脈情報を読み取りながら受身使用を判断することは習得困難な点ではないかと考えている。とりわけ、中国語の視点の概念から影響を受けて、中国語の受身表現に関する基礎的な文法知識がないまま母語に訳しながら、日本語の動詞が受身にできるかどうか、さらに受身文を使用すべきかどうか、ということ判断する傾向がある。そして、文法選択テストの中国語訳の回答から、母語である中国語で日本語の設問文で述べている事態を正確に理解できても、必ずしも文法選択テストで正しく選択できるとは限らないことが示された。【文法選択○ 中国語訳×】タイプと【文法選択× 中国語訳×】タイプの回答に関して、日本語の設問文で述べている事態を十分に理解できていない学習者が多く見られた。主体と出来事との関係に関して理解を深める必要があると考えられる。【文法選択○

中国語訳○】タイプの回答の場合、”被”構文(“被字句 beiziju”)で翻訳している傾向が窺われた。しかも、「被」マークの使用は圧倒的に多く見られた。「讓」マークの使用も見受けられたが、「讓」構文(“让字句 rangziju”)の使役の意味と混同している回答もあった。

【文法選択× 中国語訳○】タイプの回答では、中国語の能動文の使用率が”被”構文(“被字句 beiziju”)の使用率を上回っている傾向が見受けられた。中国語は事実志向が強い言語であるとされているが、中国人日本語学習者にとって、それなりの主語の立て方あるいは視点の捉え方が生じやすいと考えられる。

(3) 短文完成テストの回答から考察した結果であるが、活用ミス、ヴォイスの選択、文脈情報への配慮の順に報告する。活用ミスに関して、書き間違い、規則の覚え間違いも絡んでいるかもしれないが、学習者は受身の活用規則と使役受身の活用規則を混同している傾向が見られた。そのような活用ミスにはヴォイスの判断にもつながっていると考えられる。場面依存性の高い日本語の受身文を習得する際に、文脈情報を読み取りながら受身使用を判断することが困難ではないかと考えている。とりわけ、中国語の視点の概念と主語の立て方から影響を受けて、中国語の受身表現に関する基礎的な文法知識がないまま母語に訳しながら、日本語の動詞が受身にできるかどうか、さらに受身文を使用すべきかどうか、ということ使用を判断している様子が窺われた。

(4) インタビューの結果をも組み合わせて考察すると、学習者が、理解レベルと産出レベルそれぞれのテストでたまたま正しく回答できても、必ずしも視点と受身文使用との関わりを正確に理解できているとはいえない。調査協力者 5 名を対象にインタビューを実施したが、視点の統一を意識している学習者は 1 人もいなかった。院生レベルになっても視点の統一が習得できていないことも見受けられた。さらに、受身文の使用による視点の統一と既述した内容の省略とを混同している回答も見受けられた。

日本語ではある行為を表す際に、話者が関与する場合は一般に話者を主語にして文が作られる。具体的に言えば、話者が行為者であるときには能動文、行為の受け手であるときには受身文が使われる。しかし、中国語ではそういう視点の制約を受けないため必ずしも話者を主語の位置に立てて事態を述べるとは限らない。その場合、動作主あるいは変化の主体を主語にして把握するほうがより理解しやすいと考えられる。それは、複数の登場人物を立てて事態を述べる傾向があることは上述したことの現れではないだろうか。さらに、視点の統一が習得されにくい根本的な原因の一つかもしれない。

(5) 中国の重点大学からの調査協力者を対象に、本調査を実施した。すべての習得実態

を反映していないが、その得点から見て、高い点数を得た学習者も少なくない。日本語の受身文を文法項目として受身文を初級段階から学習してきている学習者は、日本語の学習が進むにつれて、日本語の視点の置かれやすさの階層、視点の統一の規則など視点に関する知識を身につけ、より自然な日本語を習得することが可能である。

8.1.2.3 課題3に関して

課題3とは、課題2で見られた中間言語的表現は、中国国内の現行の日本語教科書における受身の導入方法と、どんなかわりがあるのか、視点の角度からどのような工夫をできるのか、に関して、調査協力者が使用している教科書を含めて、調査を行い、その調査結果に基づいて、中国の日本語教育現場の受身文の指導法を充実させる可能性を探ることである。

課題3の解決に向けて、中国国内で広く使用されている初級・中級日本語の教科書（5種類計18冊）における受身文の提出順序、例文の提示方法、解釈の仕方などに関して検討し、中国の日本語教育現場の受身文指導法を充実させる可能性を探った。結論として、下記の3点が挙げられる。

(1) 日本語の受身文の提出順序に関して、①日本語の受身文の文型を1回の授業で導入する場合と、②少し課の距離を置いて、受身を正式に導入する前に、一つの受身形を含める文型を出しておき、導入の課で1回の授業でまとめて提示するという二つのパターンが挙げられる。どちらも日本語の受身文のすべての文型と用法を、初級の後半あたりで1つのかたまりとして体系的に導入している傾向にある。

(2) 提示内容に関して、受身文の解説の部分で視点と言及されている教科書は、『総合日語』（第2冊 p211）にしか見受けられなかった。連用修飾節に出現した受身の例が提示されているにもかかわらず、受身文の使用による視点の統一規則に関する解説は教科書に記載されていない。ほかの出現位置からみた視点のとらえ方と視点の置かれやすさの階層の内容に言及されていない。

(3) 解釈の仕方に関して、能動文との対応性の角度からの解説、誤用分析あるいは中間言語分析の角度からの解説が見受けられたが、日中両言語の視点の相違をめぐる説明は見受けられなかった。さらに、誤用分析あるいは中間言語的な表現のコラムで扱われている「てもらう」という授受表現は、受身文と同じように、典型的な視点表現の一つであるので、視点の角度から解説すると、学習者にとってもっとわかりやすくなる可能性がある。しか

し、今回の分析対象である日本語の教科書から、意味特徴の角度の分析が受け見られたが、視点の角度からの解釈は見られなかった。

(4) 一括した文型積み上げ式の提出順序から、文型シラバスあるいは構造シラバスの影響が潜んでいることは言えそうである。文脈情報が不十分のままに習った構文を代入練習、穴埋め練習に使うために作られた例が提示される可能性がある。そのような教科書は、おそらく正確な日本語を習得することが教育目標とされていると思われる。学習者が初級後半でひと通り学習しても、実際に使えるようになるような場面が少ないことも関係するかもしれないが、どんなときに、誰に対して、どのようにしたらいいか、自信を持っていないゆえに、回避戦略で対応する可能性があるのではないだろうか。

(5) 例文の提示に関して、単文末に出現した受身の例文数が最も多いが、場面や登場人物などの文脈情報の補足説明が少ない。使用された例文の文体も書き言葉の例は圧倒的に多い。日本語の受身文をもちいた会話文の取り入れも足りないと思われる。自然な日本語を習得していく角度から考えると、習得を促進できそうなインプットの方法から現場はまだ距離があるかもしれない。

8.2 日本語教育への提言

日本語の受身文は、主語の立て方、視点の捉え方の差異、文脈情報の読み取りなどの要素が絡み合い、中国人学習者にとって、日本語の受身文は習得難易度の高い文法項目の一つである。この節では、本研究の考察結果に基づいて、これからの中国人学習者を対象とする日本語の受身文の指導に関して、以下のような提言を試みたい。

8.2.1 日本語の受身文の習得順序

従来の教科書では、初級後半あたりで導入の課で日本語の受身文の言語形式を一括して提示する傾向が窺われたが、それは、学習者にすべての受身文の言語形式あるいは文型を比較させ、より効率的に、わかりやすく習得させようという狙いと関連していると思われる。日本語の受身文が体系的に導入されてきていることは、ある意味で述べると、日本語学分野の研究成果を積極的に教育現場に応用する試みの現れかもしれない。すべての文型を一括して学習者に提示することは、すべての文型及び用法を同等に扱っているということとつながっていると考えられる。

本研究では、中国人学習者の習得状況を考慮した結果、従来の一括して導入されてきた

日本語の受身文を解体し、一番習得されやすい文脈情報なしの環境での単文末に出現した受身を先に教え、導入の課で日本語は話者中心言語であるという特徴を視点の角度から学習者に伝える。同じ初級段階で、日常会話の例を取り入れながら、文脈のある環境で単文末に出現した受身用例を解説する。文脈からどのように情報を読み取って、受身文を使用すべきかどうか、ということ判断する解説を視点の捉え方の角度から説明する。中級段階で、使用実態に即して、単文末、複文末に出現した受身の例を使用して、視点の置かれやすさと主語の立て方に関して、文脈のある環境で練習させる。その後、連用修飾節に出現した受身の用例を用いながら、受身文の使用による視点の統一の規則を提示することを提案したい。単文末（文脈なし）、単文末（文脈あり）、連用修飾節に出現した受身は産出レベルの習得を目標に進める。連体修飾節に出現した受身は、少し距離を置いて視点の捉え方、視点の統一、を教えた後、中級段階で導入するが、理解レベルで把握することをデザインする。使用頻度の低い引用節、疑問節に出現した受身文の産出は上級に回すが、中級段階では理解レベルでの習得を目安とする。

上述した内容を表に示すと、以下の通りとなる。

表 36：日本語の受身文の提出順序提案

学習段階	視点の角度から考慮すべき解釈内容	受身の出現位置	期待される習得レベル
初級後半	話者中心（主語を言語化するかどうか言語化）	単文末（文脈なし） 単文末（文脈あり）	理解+産出 理解
中級	連用修飾節視点の統一 中日視点の差異（主語の立て方） 視点の置かれやすさの階層	単文末（文脈あり） 連用修飾節 複文末 連体修飾節 引用節 疑問節	産出 理解+産出 理解+産出 理解 理解 理解
上級	視点のとらえ方 理解+産出	連体修飾節 引用節 疑問節	産出 産出 産出

8.2.2 視点に着目した日本語の受身文の指導に関する留意点

日本語の受身文の学習は、初級後半から始められるが、それまでに相当の既習文型を暗記してあると予測できる。基本知識の積み重ねが重視される初級段階では、単文末に出現した受身からの導入は学習レベルにふさわしい提示方法かもしれない。日本語の受身文は文脈依存性の高い表現とされるが、既習文型、既習文法知識を活用して、文脈説明に用いることで、文脈のある環境での受身文の習得を促進できる可能性があるだけでなく、既習内容の振り返りと繰り返し練習にもなると考えた。ただし、自然な日本語での文脈の構築は日本語母語話者の協力が必要ではないかと考えられる。そのことに関して、中国人日本語教師と日本人教師との共同作業が期待されるといえる。

視点の捉え方と視点の統一は、受身文を使いこなすようになるための重要な知識である。学習者が主体的に使えるように受身文を指導することの必要性を強調したい。正式に教えることは中級段階に譲ってもいいかもしれないが、視点の角度からの日本語の受身文に関する解釈は導入の課で扱うべきではないかと考えられる。それは、初級・中級段階の例文の多くは「私」あるいは主語を明示する傾向があるからである。学習者の理解を促進する狙いがあるかもしれないが、説明の便宜上、文法的に作られた例文を使用している可能性もあるので、次の学習段階で誤解を生まないように、最初に学ぶとき、視点の内容を意識させる必要があると考えた。本調査では、中間言語的表現から見た受身文運用上の問題は、日中言語話者の視点に対する概念の相違の現れであり、視点による落ち着き方の相違及び受身の使用範囲の相違に起因するものであると考えている。

中級段階では、視点概念の差異をめぐる日中比較対照、受身の出現位置と視点との関わり、〈被影響〉という受身の意味的な内実、受身文に潜んでいる日本語文法的発想を考慮に入れて、自然な日本語指導の立場から、視点に着目した、中国人日本語学習者向けの、文脈依存性の高い受身文の指導の仕方を工夫する必要があると考える。具体的には、文体を考慮に入れた、日本語の受身文の使用実態に即した学習段階にふさわしい例文を学習者に提示することで、自然な日本語の習得を促進できそうなインプットの材料を提供することが重要であると考えた。

さらに、上級段階では、日中視点に関する傾向的な違いを学習者に理解してもらう必要があると考えた、慎重に対訳データを活用し、事態把握の仕方を相対的に捉えようとする比較対照的な視座を持たせるべきではないかと考えられる。

日本語中国語双方向の対訳データには多様な表現が見られたが、それは既習の文法項目

との組み合わせがほとんどである。適切な既習項目と組み合わせて、場面と文脈情報を取り入れることで、視点の角度から日本語の受身文の使用に関する理解を深めさせ、より自然な文を産出できるようになることが十分可能だと思われる。

8.3 本研究の限界と今後の課題

本研究では、理解レベルと産出レベルに分けて、視点に着目して、今回の分析対象である中国国内で学習している中国人中・上級学習者による日本語の受身文の使用実態と運用能力を、とりわけ単文レベルを超える文脈環境での習得実態を、質問紙調査とインタビューという二つの調査段階を通して明らかにしてきた。そして、日本語中国語双方向の小説から抽出した対訳データの分析に基づいて、日本語の受身の出現位置の角度からの日中対訳の使用実態の傾向や、調査協力者が使用している日本語の教科書を含める中国の高等教育機関で広く使用されている教科書に関する検討を通して、対訳データを日本語の受身文の指導に活用していく可能性、学習者が現行の教科書に記載されている日本語の受身文の提出順序、例文提示、解釈の仕方からの影響を議論し、日本語の受身文の習得と運用に関わる要因を探ってきた。分析結果に基づいて、中・上級の中国人日本語学習者向けの、視点に着目した日本語の受身文の提出順序の具体案を提案した。さらに、視点概念の差異をめぐる日中比較対照、受身の出現位置と視点との関わり、〈被影響〉という受身の意味的な内実、受身文に潜んでいる日本語文法的発想を考慮に入れて、自然な日本語指導の立場から、受身文を指導する際の留意点に関して、理解レベルの習得と産出レベルの習得を分けて、学習段階別に提言を行った。

8.3.1 本研究の限界

以下に、本研究の限界と今後の課題に関して、報告する。

まず、日本語の受身文の使用実態に関する調査では、四肢択一の文法選択テストで、各選択肢に中間言語表現として予測される助詞、同じヴォイスのカテゴリーの項目を入れておいたが、各問の回答は受身を含めている。学習者の負担を減らすことを考慮した上で、より多く学習者の使用実態を把握することを考えて、可能な範囲でできるだけ受身に関する習得データを得ることを狙っての設問設定であったが、学習者のテストストラテジーによって、問題がわからなくても、一応受身の選択肢を先に考えて答えた可能性は否定できない。

また、作問にも問題があったことを認めておきたい。問1で下線した部分は行為者表示

する「に」ではない。「に」の多義性への認識が絡んでいる可能性が、他の設問と比べて、問うところが変わってしまうと考えられる。質問紙を実施した後、気付いた点であるが、問 2 は、正答が二つある。どちらも視点の捉え方の角度から、議論を展開しているが、採点の際、期待される答え以外の正答を選択している学習者に相当の点数をつけた。

理解レベルと産出レベルに分けて、文法選択・翻訳テスト 12 問、短文完成テスト 8 問の調査を実施したが、調査協力者が「書き疲れ」になった可能性もある。また、調査協力者の一部は、当時大学 2 年生であったので、質問紙の紙幅などの関係で、学習者が記入したい内容を全部書くことができなかつた可能性もあるため、質問紙に記載されているものと、実際の発話と書いた文とは異なる可能性もないとはいえない。従って、本研究で得たデータとその結果に関しては、自ずと限界があるかもしれない。

次に、5 種類計 18 冊の日本語の教科書を分析対象にして、教科書の記述を根拠に考察を加えたが、日本語教師へのインタビューの内容も入れて、教授法と教科書の使い方に関して、さらに綿密に分析できると考えられる。とりわけ、日本語の受身文の習得は、教材を使用している日本語教師の理解と実際に採択されている教授法などの要素も関わっているため、さらなる研究の余地が残されているといえよう。

8.3.2 今後の課題

最後に、今後、コミュニケーションと異文化理解の能力育成を重視する方向で、日本語の受身文に関する指導法の留意点をさらに展開していくためには、本研究を土台にして、大規模コーパスを活用することで研究の深まりが得られると考えている。自然な日本語を習得するという学習目標を考慮に入れると、より多くの言語事実を反映できそうな日本語のコーパスを活用していく必要があると考えられる。とりわけ、日本語の受身の出現位置の使用実態の調査は、話し言葉コーパス、書き言葉コーパスを活用することで、より詳細な傾向を把握できる可能性が高い。さらに、単文レベルの超える自然な日本語の受身文データの収集と分析をするには、日本語の大規模コーパスの応用は無視することができない方法であると考えている。

今回収集したデータから、受身と使役受身、受身と使役を混同している回答が見受けられたが、場所の言語学（岡 2013）と認知言語学との統合を日本語教育現場に応用する角度から、視点と受身文との関わりをもっとわかりやすく解釈することができるかもしれない。実際の教育場面での指導効果を検討するとともに、今後の課題にしたい。

参考文献

【日本語の文献】

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄（2001）『新しい日本学入門：ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク
- 庵功雄（2012）「文法シラバス改訂のための一試案—ボイスの場合—」『日本語／日本語教育研究』3号日本語／日本語教育研究会 pp. 39-55
- 庵功雄（2009）「推量の「でしょう」に関する一考察—日本語教育文法の視点から—」『日本語教育』142号 pp. 58-68
- 池上嘉彦（1981）『「する」と「なる」の言語学：言語と文化のタイポロジーへの試論』大修館書店
- 池上嘉彦・守屋三千代（2009）『自然な日本語を教えるために—認知言語学をふまえて』ひつじ書房
- 池上嘉彦（2011）「日本語話者における〈好まれる言い回し〉としての「主観的把握」」『人工知能学会誌』26巻4号, pp. 317-322. 人工知能学会
- 池上嘉彦（2016）「〈視点〉から〈事態把握〉へ：〈自己ゼロ化〉の言語学と詩学」『外国語学研究』17号, pp. 1-11 大東文化大学大学院外国語学研究科
- 市川保子（2010）『日本語誤用辞典—外国語学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント—』スリーエーネットワーク
- 王辰寧（2017）「中国語を母語とする日本語学習者の受身文の誤用分析：作文コーパスをデータとして」『熊本大学社会文化研究』15号 pp. 105-121
- 大江三郎（1975）『日英語の比較研究—主観性をめぐって—』南雲堂
- 大河内康憲（1983）「日・中語の被動表現」『日本語学』明治書院 vol.2 4月号 pp. 31-38
- 大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
- 岡智之（2005）「場所的存在論による格助詞ニの統一的説明」『日本認知言語学会論文集』5, pp. 12-22, 日本認知言語学会
- 岡智之（2012）「ニ格の起点用法について——指向性からの説明——」『東京学芸大学紀要』63(2), pp. 321-331

- 岡智之 (2013) 『場所の言語学』 ひつじ書房
- 奥津敬一郎 (1983) 「何故受身か?—〈視点〉からのケース・スタディ」『国語学』 132 号 pp. 65-80
- 奥津敬一郎 (1987) 「使役と受身の表現」『国文法講座』 第 6 卷明治書院 pp. 232-251
- 奥津敬一郎 (1992) 「日本語の受身文と視点」『日本語学』 明治書院 vol. 11 8 月号 pp. 4-11
- 尾上圭介 (1999) 「文法を考える 7 出来文 (3)」『日本語学』 18 卷 1 号 pp. 86-93
- 尾上圭介 (2003) 「ラレル文の多義性と主語」『言語』 vol. 32 4 月号 pp. 34-41
- 川村大 (2003) 「受身文の学説史から——「被影響」の有無をめぐる議論について」『月刊言語』 4 月号大修館 pp. 42-49
- 川村大 (2012) 『ラル形述語文の研究』 くろしお出版
- 菊池康人 (2007) 『受身は「難しくて役に立たない」か—現場から考える初級文法教育、こうしたら』—』『AJALT』 30 号 pp. 18-22
- 魏志珍 (2010) 「台湾人日本語学習者の事態描写における視点の表し方—日本語の熟達度との関連性」『日本語教育』 144 号, pp. 133-144. 日本語教育学会
- 木村英樹 (1981) 「「被動」と結果」『日本語と中国語の対照研究』 5 号日本語と中国語の対照研究会 pp. 4-21
- 木村英樹 (1992) 「BEI 受身文の意味と構造」『中国語』 6 月号内山書店 pp. 10-15
- 木村英樹 (2003) 「中国語のヴォイス」『言語』 第 32 卷 4 号大修館書店 pp. 64-69
- 金水敏 (1991) 「受動文の歴史についての一考察」『国語学』 164 号 pp. 1-14
- 金水敏 (1992) 「場面と視点—受身文を中心に」『日本語学』 第 11 卷第 8 号 pp. 12-19
- 金水敏 (1993) 「受動文の固有非固有性について」『近代語研究 第九集』 武蔵野書院 pp. 475-508
- 工藤真由美 (1990) 「現代日本語の受動文」『ことばの科学』 vol. 4 むぎ書房 pp. 47-102
- 久野暉 (1978) 『談話の文法』 大修館書店
- 久野暉 (1983) 「中立受身文と被害受身文」『新日本文法研究』 大修館
- 小柳かおる (2004) 『日本語教師のための新しい言語習得概論』 スリーエーネットワーク
- 近藤安月子・姫野伴子 (2012) 『日本語文法の論 43: 「日本語らしさ」のナゾが氷解する』 研究社
- サウエットアイヤラム・テーウィット (2008) 「タイ語を母語とする学習者の受身の習得」『言葉と文化』 9 号 pp. 187-204

- サウエットアイヤラム・テーウィット (2009) 「受身文の談話機能の習得—タイ人日本語学習者を対象に—」『第二言語としての日本語の習得研究』12号, pp. 107-126
- 阪田雪子・新屋映子・守屋三千代 (2003) 『日本語運用文法: 文法は表現する』平人社
- 迫田久美子・西村浩子 (1991) 「コミュニケーションを重視した受け身文の指導法の研究—教科書分析及び目標言語調査に基づいて—」『日本語教育』73号, pp. 73-90
- 迫田久美子 (2001) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社
- 澤田治美 (1992) 『視点と主観性—日英語助動詞の分析—』ひつじ書房
- 渋谷勝己 (2014) 「書評論文 川村大著『ラル形述語文の研究』」『日本語文法』14 (1) pp. 142-150 くろしお出版日本語文法学会
- 志波彩子 (2012) 「コーパスに基づく日本語受動文の実態」東京外国語大学総合国際学研究院
- 志波彩子 (2015) 『現代日本語の受身構文タイプとテキストジャンル』和泉書院
- 菅井三実 (2001) 「現代日本語の受動文「ニ格」に関する補考」『兵庫教育大学研究紀要』21, pp. 13-23, 兵庫教育大学
- 菅井三実 (2007) 「格助詞「に」の統一的分析に向けた認知言語学的アプローチ」『世界の日本語教育』17, pp. 113-135, 国際交流基金
- 杉村博文 (1992) 「遭遇と達成—中国語被動文の感情的色彩」大河内康憲編集『日本語と中国語の対照研究論文集 (下)』くろしお出版
- 杉村泰 (2014) 「日本語を母語とする中国語学習者における中国語の自動詞表現・他動詞表現・受身表現の選択について—動作主の不注意による対象の変化を表す場合—」『ことばの科学』28号 pp. 145-156
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 砂川有里子・駒田聡・下田美津子・鈴木睦・筒井佐代・蓮沼昭子・ベケシュアンドレイ・森本順子 (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 高橋弥守彦 (2014) 「日中言語対照研究論集日本語受身文の中国語訳について」『日中言語対照研究論集』日中言語対照研究会 16号 白帝社
- 高橋弥守彦 (2016) 「中日両言語の視点について」『外国語学研究』大東文化大学 17号 pp. 35-44
- 田窪行則 (1997) 『視点と言語行動』くろしお出版
- 竹内理・水本篤 (2014) 『外国語教育研究ハンドブック—研究手法のより良い理解のために』

松柏社

- 武田素子(2014)「潜在的受影者」説の精密化『日本語文法』14 卷1 号 pp.105-113
- 田中真理(2010)「第2言語としての日本語の受身文の習得研究—今後の研究の可能性—」
『第二言語としての日本語の習得研究』13 号 pp.114-146
- 張麟声(1997)「受動文の分類について」『現代日本語研究』第4号 pp.1-14
- 張麟声(2001)『日本語教育のための誤用分析-中国語話者の母語干渉20例-』スリーエー
ネットワーク
- 陳冬姝(2016)「受身文からみる日本語と中国語の談話構成の特徴：中日・日中対訳デー
タに基づいて」『日本語・日本文化研究』26 号, pp.127-138 大阪大学言語文化研究科日
本語・日本文化専攻
- 辻幸夫(2004)『認知言語学キーワード事典』研究社
- 辻幸夫(2013)『新編認知言語学キーワード事典』研究社
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版
- 内藤真理子・小森万里(2016)「アカデミック・ライティングにおける重複がもたらす冗長
性を回避するための方策:卓立性・結束性・論理性・一貫性の観点からの分析」『日本
語教育』164号 pp.1-16
- 仁田義雄(1997)『日本語文法研究序説—日本語の記述文法を目指して』くろしお出版
- 仁田義雄、益岡隆志等(2001)『日本語の文法I 文の骨格』岩波書店
- 日本語記述文法研究会(編)(2009)『現代日本語文法②』くろしお出版
- 日本語教育学会(2005)『日本語教育事典』大修館書店
- 日本語文法学会(2014)『日本語文法事典』大修館書店
- 野田尚史(1991)『はじめての人の日本語文法』くろしお出版
- 野田尚史(1991)「日本語の受動化と使役化の対称性」『文芸言語研究言語篇』19号筑波大
学文藝・言語学系 pp.31-51
- 梅佳・松村瑞子(2016)「日本語受身文と中国語訳文の対応性に関する一考察:「主語省略」
の直接受身文を中心に」『言語文化論究』36号 pp.27-41 九州大学大学院言語文化研究
院
- 橋本進吉(1969)「受身可能の助動詞」『助詞・助動詞の研究』岩波書店
- 古川裕(2006)「中国語構文の認知的特徴」『EXORIENTE』pp.59-95
- 古川裕(2007)「中国語らしさの認知言語学的分析」『日中対照言語学研究論文集』pp.225-259

- 彭広陸 (2008) 「類型論からみた日本語と中国語——視点固定型の言語と視点移動型の言語」
『中日理論言語学研究会第 12 回研究会』口頭発表於同志社大学大阪サテライト 1 月 13
日
- 堀川智也 (1988) 「格助詞「ニ」の意味についての一試論」『東京大学言語学論集'88』
pp. 321-333, 東京大学文学部言語学研究室
- 堀川智也・森篤嗣・栗原由加・和栗夏海 (2003) 「事態把握の相違に基づく日本語受身文の
分類」『日本語・日本文化研究』13 号 pp. 29-38
- 許明子 (2004) 『日本語と韓国語の受身文の対照研究』ひつじ書房
- 前田直子 (2011) 「受動表現の指導と「拡大文型」の試み」『日本語／日本語教育研究』2 号
pp. 67-84
- 真嶋潤子・濱田朱美 (1999) 「日本語初級教科書の分析試案—「ちょっと」の意味・用法か
ら—」『日本語・日本文化研究』9 号 pp. 27-44
- 真嶋潤子 (2005) 「学習者の個人差と第二言語習得——「学習スタイル」を中心に——」『第
二言語としての日本語の習得研究』第 8 号 第二言語習得研究会 pp. 115-134
- 真嶋潤子 (2015) 「学習者の個人差」『日本語学 入門：第二言語習得研究』臨時増刊号 明
治書院 pp. 124-136
- 益岡隆志 (1982) 「日本語受動文の意味分析」『言語研究』第 82 号 pp. 48-64
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法——日本語文法序説』くろしお出版.
- 益岡隆志 (1991) 「受動表現と主観性」仁田義雄 (編) 『日本語のヴォイスと他動性』くろし
お出版 pp. 105-121
- 松本秀輔 (2001) 「受動文における動作主表示のニ格—働きかけの主を表すということ—」
『同志社大学留学生別科紀要』創刊号, pp. 93-104
- 水谷信子 (1985) 『日英比較話しことばの文法』くろしお出版
- 宮崎清孝・上野直樹 (1985) 『認知科学選書 1 視点』東京大学出版社
- 村木新次郎 (1983) 「迂言的うけみ表現」国立国語研究所報告 74 『研究報告集』4 巻 pp. 1
-40
- 村木新次郎 (1989) 「ヴォイス」『講座日本語と日本語教育』明治書院
- 村木新次郎 (1991) 「ヴォイスのカテゴリーと文構造のレベル」仁田義雄編 『日本語のヴォ
イスと他動性』くろしお出版
- 望月圭子 (2009) 「中国語を母語とする上級日本語学習者によるヴォイスの誤用分析——中

- 国語との対照から」『東京外国語大学論集』78号 pp. 85-106
- 森篤嗣・庵功雄（2011）『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房
- 森田良行（1995）『日本語の視点—ことばを創る日本人の発想—』創拓社
- 森田良行（1998）『日本人の発想、日本語の表現—「私」の立場がことばを決める—』中央公論社
- 森田良行（2002）『日本語文法の発想』ひつじ書房
- 森山新（2005）「格助詞ニの意味構造についての認知言語学的考察」『日本認知言語学会論文集』5, pp. 1-12, 日本認知言語学会
- 森山新（2006）「視点についての認知言語学的視察」『認知言語学的観点を生かした日本語教授法・教材開発研究 1年次報告書』pp. 28-32
- ライトバウン・スパダ（2014）『言語はどのように学ばれるか—外国語学習・教育に活かす第二言語習得論』岩波書店 [Lightbown & Spada. 2013. "How Languages are Learned", Oxford University Press]
- 李偉（2009）「現代語における中日受身表現の比較について」山東師範大学大学院日本語言語文学専攻修士論文
- 李偉（2015）「日本語の受身文の習得に関する文献から見た研究動向」『日本語・日本文化研究』25号 pp. 90-101
- 李偉（2016）「「神なるオオカミ」から見た日本語の受身文機能に関する一考察」第15回チュラーロンコーン大学・大阪大学大学院生学術交流会 口頭発表（2016年8月29日 於：チュラーロンコーン大学、タイ）
- 李偉（2016）「中国人日本語学習者への受身文の指導に関する一考察—中日翻訳の困難点に着目して—」『2016年バリ日本語教育国際大会予稿集』日本語教育学会
- 李偉（2016）「中国人日本語学習者への受身文指導に関する一考察—中日翻訳の困難点に着目して—」BALI-ICJLE 2016 日本語教育国際研究大会院生シンポジウム（2016年9月9日 於：バリヌサドゥアコンベンションセンター、インドネシア）
- 李偉（2017）「日本語の受身文の「結果描写」機能に関する一考察—原書と訳本の比較を通して—」『日本研究論集』14号チュラーロンコーン大学・大阪大学 pp. 101-119
- 李偉（2017）「中国の日本語教科書における受身文の提示状況に関する一考察」『日本語教育学会 2016年度第9回研究集会関西地区（大阪）予稿集』pp. 25-28
- 李偉（2017）「中国の日本語教科書における受身文の提示状況に関する一考察」日本語教育

- 学会 2016 年度 第 9 回研究集会 関西地区 (大阪) 口頭発表 (2017 年 3 月 11 日 於 :
大阪 YMCA 国際専門学校)
- 李湘琴 (2013) 「日本語と中国語の受身文の対照研究— 網羅的な記述を目指して—」『言語文化学研究』大阪府立大学 pp. 87-105
- 劉月華・潘文娛・故韡著 (1991) 相原茂監訳. 『現代中国語文法総覧 (下)』くろしお出版
- 山内博之 (1997) 『日本語の受身文における「持ち主の受身」の位置づけについて』『日本語教育』92 号 日本語教育学会 pp. 119-130
- 山下好孝 (1997) 「「受け身」教授法の問題点」『北海道大学留学生センター紀要』1 号 pp. 1-17 北海道大学
- 山田孝雄 (1908) 『日本文法論』寶文館
- 山梨正明 (1995) 『認知文法論』ひつじ書房.
- 楊凱榮 (2013) 「誤用例にみる日中表現の違い : 日中対照研究の現場から」『日本語学』vol. 32-13 号 明治書院 pp. 54-64
- 葉菁 (2003) 「日中受動文の対照研究 : 『新編日語』における文法説明への提案」『早稲田大学日本語教育研究』pp. 261-274
- 姚麗萍 (2002) 「中国語と日本語の受身文の構文と意味についての比較」『中日対訳語料庫の研制と応用研究論文集』外語教学与研究出版社
- 渡邊亜子 (1995) 「中国語母語話者の日本語受身文の使用実態とその背景—母語との対照からの仮説設定—」『言語文化と日本語教育』9 号 pp. 216-227

【英語の文献】

- Chamberlain, Basil Hall (1988) *A Handbook of Colloquial Japanese*. Tokyo: Hakubunsha
- Corder, S. P. (1967) The significance of learner 's errors. *International Review of Applied Linguistics*, 5, 161-170
- Corder, S. P. (1971) Idiosyncratic dialects and error analysis. *International Review of Applied Linguistics*, 9, 147-159
- De Beaugrand, R. & W. U. Dressler (1981) *Introduction to Text Linguistic*. Longman
- Ellis, R. (1984) *Classroom second language development*. Oxford. UK: Pergamon
- Hoshi, Hiroto (1991) *The Generalized Projection Principle and Its Implications for*

- Passive Constructions. *Journal of Japanese Linguistics*, vol. 13
- Krashen. S. (1982) *Principles and practice in second language acquisition*. New York: McGraw-Hill
- Kuno, Susumu (1973) *The Structure of Japanese Language*. Cambridge: MIT Press
- Langacker, Ronald W. (1991) *Foundations of Cognitive Grammar vol. 2: Descriptive Application*. Stanford University Press
- Shibatani, Masayoshi (1990) *The Language of Japan*. Cambridge University Press
- Short, M (1999) *Understanding texts: Point of view*. In G. Brown et al (ed.). *Language and Understanding*. Shanghai Foreign Language Education Press
- Teramura, Hideo (1967) *Passivization in Japanese*. 『大阪外国語大学学報』 17

【中国語の文献】

- 程慧慧、韦小燕 (2014) 「语用学理论对日语阅读教材编写的启示-以被动句讲解设计为例」
『吉林省教育学院学报』 第 11 期 pp. 148-149
- 黄燕凌 (2013) 「关于中国人日语学习者被动句习得的定量研究」大連外国語大学修士論文
- 李珊 (1994) 『现代汉语被字句研究』 北京大学出版社
- 李金蓮 (2012) 『日汉被动句对比研究』 山东大学出版社
- 李伟 (2008) 「浅析日语被动句中的动作施事表示词」『山东外语教学』 增刊第 6 期 pp. 18-20
- 李伟 (2012) 「日语专业跨文化交际能力培养方式研究」『時代文学』 7 月号山東省作家協会出版 pp. 191-192
- 李伟 (2014) 「翻译目的论视域下的旅游资料翻译策略研究」『語文学刊』 内モンゴル師範大学第 3 号 pp25-26、p33
- 李伟 (2017) 「基于小说原文与日文译本对照分析的日语被动句功能探究」第七回東アジア中国語教育大学院生研究フォーラム 口頭発表 2017 年 5 月 14 日於 桜美林大学、東京
- 刘姝 (2005) 「汉日被动句谓语动词比较-日本学生汉语“被”字句偏误兼析」『云南师范大学学报(对外汉语教学与研究版)』 第 5 期 pp. 60-63
- 刘卫红·赵平 (2010) 「日语教材中被动句问题的探究」『南通职业大学学报』 第 3 期 pp. 55-58
- 刘晓霞 (2013) 「基础日语教材被动句考察」『长冶学院学报』 第 6 期 pp. 72-74
- 刘月華·潘文娛·故韡 (1983) 『实用现代汉语语法』 外语教学与研究出版社
- 吕文华 (1987) 「被字句和无标志被动句的变换关系」『句型和动词』 语文出版社

- 陆检明 (2004) 「有关被动句的几个问题」『汉语学报』第 2 期 pp. 11-17
- 罗青 (2009) 「《孟子》中无标记被动句研究」『安徽文学』第 10 期 p334
- 毛文伟 (2011) 「二语习得量化研究中两种数据采集方法的对比研究」『日语学习与研究』第 1 期 pp. 12-18
- 木村英树 (2005) 「北京话给字句扩展为被动句的语义动因」『汉语学报』第 2 期 pp. 14-21
- 靳玮珊 (2009) 「无标记被动句的认知分析」『中国校外教育』(增刊) 第 2 期 p57
- 桥本万太郎 (1987) 「汉语被动式的历史·区域发展」『中国语文』第 1 期 pp. 36-49
- 杉村博文 (2003) 「从日语的角度看汉语被动句的特点」『语言文字应用』第 2 期 pp. 64-75
- 汤敬安 (2016) 「汉语无标记被动句与有标记被动句的认知辨析」『云梦学刊』第 6 期
- 王灿龙 (1985) 「无标记被动句和动词的类」『汉语学习』第 5 期 pp. 15-19
- 王慧娟 (2012) 「河南项城方言无标记被动句研究」『现代语文(语言研究版)』第 10 期
- 王黎今 (2006) 「被动表述主位角色的汉日对比」『日语学习与研究』第 4 期 pp. 51-56
- 王力 (1985) 『王力文集』山东教育出版社
- 邢福义 (2006) 「汉语被动表述问题研究新拓展」华中师范大学出版社
- 徐磊 (2006) 「日语被动句学习难点解析」『日语学习与研究』第 3 期 pp. 84-87
- 周晓辉 (2010) 「被字句与无标记被动句的话题功能」『河北科技师范学院学报(社会科学版)』第 4 期 pp. 110-113
- 张永旺 (2006) 『日语被动句』旅游教育出版社
- 张志公 (1991) 『张志公文集』广东教育出版社
- 赵焕改 (2013) 「汉语无标记被动句相关研究综述」『现代语文(语言研究版)』第 3 期 pp. 21-23

対訳小説

村上春樹 (2004) 『ノルウェイの森』(上) 講談社文庫講談社

村上春樹 (2004) 『ノルウェイの森』(下) 講談社文庫講談社

林少華 (2001) 『挪威的森林』 上海訳文出版社

姜戎 (2004) 『狼図騰』(上) 中国長江文芸出版社

唐亜明・関野喜久子 (2007) 『神なるオオカミ』 講談社

調査対象の日本語教科書

李奇楠・押尾和美 [編] (2009) 『総合日語 (改訂版)』(第一冊) 彭広陸・守屋三千代 [総編] 北京大学出版社

冷麗敏・丸山千歌 [編] (2010) 『総合日語 (改訂版)』(第二冊) 彭広陸・守屋三千代 [総編] 北京大学出版社

王軼群・今井寿枝 [編] (2010) 『総合日語 (改訂版)』(第三冊) 彭広陸・守屋三千代 [総編] 北京大学出版社

何琳・守屋三千代 [編] (2011) 『総合日語 (改訂版)』(第四冊) 彭広陸・守屋三千代 [総編] 北京大学出版社

周平・陈小芬 (2009) 『新編日語 (改訂版)』(第一冊) 上海外語教育出版社

周平 (2010) 『新編日語 (改訂版)』(第二冊) 上海外語教育出版社

周平・陈小芬 (2011) 『新編日語 (改訂版)』(第三冊) 上海外語教育出版社

周平・陈小芬 (2011) 『新編日語 (改訂版)』(第四冊) 上海外語教育出版社

由志慎・黄文瀾・赵立红 [編] (2012) 『新総合日本語基礎日語 (第2版)』(第一冊) 李筱平 [総編] 大連理工大学出版社

由志慎・吴世兰 [編] (2012) 『新総合日本語基礎日語 (第2版)』(第二冊) 李筱平 [総編] 大連理工大学出版社

孙莲花・李捷・吴世兰 [編] (2012) 『新総合日本語基礎日語 (第2版)』(第三冊) 李筱平 [総編] 大連理工大学出版社

孙莲花・孔月・赵立红・李捷 [編] (2012) 『新総合日本語基礎日語 (第2版)』(第三冊) 李筱平 [総編] 大連理工大学出版社

- 陈小芬 (2014) 『日語綜合教程』 (第一冊) 譚晶華 [總編] 上海外語教育出版社
- 许慈惠·高洁·林彬 (2014) 『日語綜合教程』 (第二冊) 譚晶華 [總編] 上海外語教育出版社
- 周星·徐志强·赵鸿 (2015) 『日語綜合教程』 (第三冊) 譚晶華 [總編] 上海外語教育出版社
- 吴大纲·任川海·赵鸿·关薇·蒋步青 (2015) 『日語綜合教程』 (第四冊) 譚晶華 [總編] 上海外語教育出版社
- 光村図書出版株式会社·人民教育出版社 [編集] (2005) 『新編中日交流標準日本語 (初級)』 (上) 人民教育出版社
- 光村図書出版株式会社, ·人民教育出版社 [編集] (2005) 『新編中日交流標準日本語 (初級)』 (下) 人民教育出版社

稿末資料

資料 1：予備調査に用いた質問紙（選択テスト）

選択テスト

次の問い（問 1～問 20）において、自然な日本語の角度から最も適当と思うものを次の①～④のうちから一つ選びなさい。

1. あの子はアメリカ人の夫婦に養子_____いった。

① を；もらって ②に；もらわれて ③を；もらわれて ④に；もらって

2. 夫_____一日中家に_____、困った。

① が；いて ②が；いられて ③に；いれられて ④に；いられて

3. 彼はそれを聞いて、自分と人事担当者の話が子供_____ことを知った。

①が；聞いた ②に；聞いた ③が；聞かれていた ④に；聞かれていた

4. 予定の十一時より三時間も早く、彼等_____しまったことになる。下瀬は、自分にいい聞かせ、必死な眼でタクシーを探した。

① に；知らせて ②に；知られて ③が；知って ④が；知られて

5. 彼はすでに年が 70 余歳であったが、人々_____甚だ_____。

① が；尊敬した ②に；尊敬した ③に；尊敬させ ④に；尊敬されていた

6. わたしは結婚して 3 年目だ。しかし、山田さん_____独身と_____。

① が；思わせた ②に；思わせた ③に；思われた ④を；思った

7. 目の前の大きな男は、母親_____小学生のようにしゅんとしている。

① が；怒った ②が；怒らせた ③に；怒った ④に；怒られた

8. 琥珀さんは秋葉と何やら小さな声で話し合うと、秋葉に肩をかして立ちあがらせた。そのまま、秋葉は琥珀さん_____、自分の部屋へと戻って行ってしまった。

- ①が；助けて ②に；助けられて ③を；助けて ④が；助けられて

9. 最初に彼_____ときでも、これほど感謝を感じたことはなかった。

- ①が；採用した ②を；採用した ③に；採用した ④に；採用された

10. 夕風が起こった。と、そよ風_____、湖水のはるか遠くから音楽の響きが伝わってきた。

- ①が；運んで ②に；運ばれて ③に；運ばせて ④に；運んで

11. 今見回してみても、参加者のほとんどが、合宿に参加するために、バスの中に揃っているようだった。東京から一時間四十分ほどバス_____、ようやく目的地に到着した。

- ①が；揺られて ②に；揺られて ③が；揺れて ④に；揺れて

12. 全校生徒が腕を組んで幾重もの輪をつくり、選手たちを取り囲んだ。一年生から立花が一万メートル競走の選手_____、輪の中に入っていた。

- ①が；選んで ②に；選ばれて ③が；選ばせて ④に；選ばせて

13. スポーツが好きだった彼は、上村_____すぐボクシング部に入った。

- ①が；誘って ②に；誘われて ③に；誘わせて ④を；誘って

14. 大切なお金が泥棒_____。

- ①が；盗んだ ②に；盗まれた ③に；盗ませた ④に；盗んでいる

15. 玄関のドア_____次郎_____。

- ①が；に；壊された ②を；が；壊させた ③が；に；壊させた ④を；が；壊された

16. 太郎の出張希望は、人事部長_____。

② が ; 認めた ②に ; 認めさせた ③に ; 認めた ④に ; 認められた

17. 木の枝にかかった上着さえ、そのままの位置で激しい風_____。

①が ; 吹いていた ②を ; 吹いていた ③に吹かせていた ④に吹かれていた

18. この雑誌は 10 代の若者_____よく_____。

①が ; 読む ②が ; 読まれている ③に ; 読んでいる ④に ; 読まれている

19. 花子の家は高層ビル_____。

①が ; 囲んでいる ②に ; 囲ませている ③が ; 囲ませている ④に ; 囲まれている

20. 障子_____何者か_____。

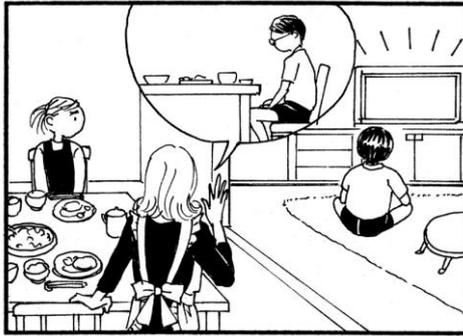
①は ; が ; 開けた ②を ; が ; 開けさせた ③が ; に ; 開けた ④が ; に ; 開けられた

資料 2 : 予備調査に用いた質問紙 (文完成テスト)

文完成テスト

次の絵 (絵 1~絵 15) を見てください。括弧内の動詞を使って、自分の直感で絵の内容を記述してください。

絵 1



ひろし君です。ここはひろし君の家です。これからみなでご飯を食べます。ひろし君はテレビを見ています。みんな彼を待っています。

_____。(呼ぶ)

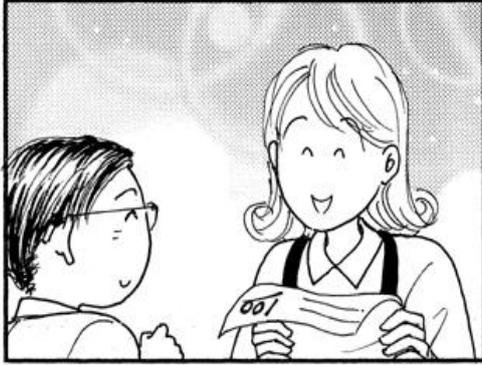
絵 2



ひろし君です。彼は数学のテストで 30 点を取りました。お母さんに成績を見せました。

。(しかる)

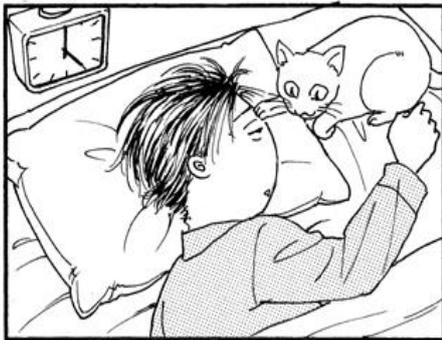
絵 3



ひろし君です。彼は国語のテストで 100 点を取りました。お母さんに成績を見せました。

。(ほめる)

絵 4



日曜日です。ひろし君は寝ています。猫がひろし君の枕のそばに飛んできました。ひろし君は目を覚めました。

。(起こす)

絵 5



ひろし君は隣人のおばさんに会いました。おばさんは犬を抱っこしていました。

。(囃む)

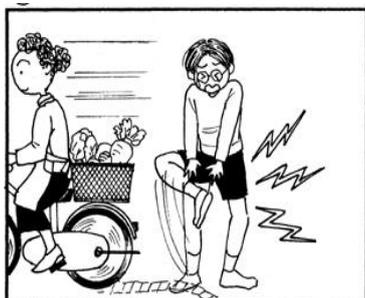
絵 6



ひろし君も妹さんもケーキを食べています。ひろし君は妹さんのケーキも食べようとしています。

。(たたく)

絵 7



ひろし君は歩いています。知らない人が自転車に乗って通りました。

。(ひく)

絵 8



エリさんです。エリさんの部屋です。エリさんのお母さんです。エリさんはセーターを着たいです。でも、セーターがありません。

_____。(着る)

絵 9



エリさんです。エリさんのお父さんです。エリさんはケーキが食べたいです。エリさんのお父さんがケーキを食べています。

_____。(食べる)

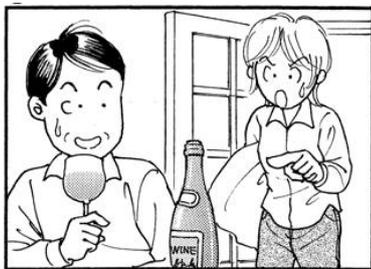
絵 10



エリさんです。エリさんはかばんを持って、出かけようとしています。

_____。(噛む)

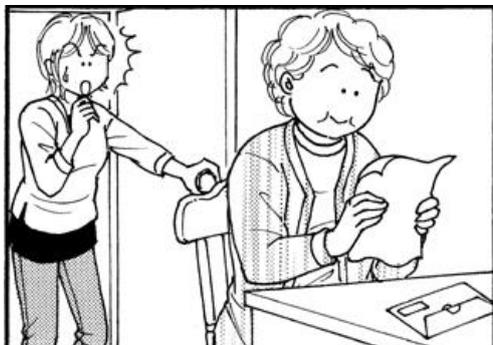
絵 11



エリさんです。エリさんのお父さんです。エリさんはワインを友達に郵送したいです。エリさんのお父さんはワインを飲んでいます。

。(飲む)

絵 12



エリさんです。エリさんのお母さんです。机の上にエリさんへの手紙があります。

。(読む)

絵 13



エリさんです。エリさんの犬です。エリさんの携帯電話が使えなくなりました。

。(壊す)

絵 14



エリさんです。エリさんは帽子をかぶっています。動物園です。

。(とる)

絵 15



エリさんです。エリさんは新しいスカートをはいています。彼女は犬をつれて庭を散歩しています。

_____。(汚す)

資料 3 : 予備調査に用いた質問紙の期待される回答

予備調査に用いた質問紙の参考解答

選択テスト

問 1 : ②

問 2 : ④

問 3 : ④

問 4 : ②

問 5 : ④

問 6 : ③

問 7 : ④

問 8 : ②

問 9 : ④

問 10 : ②

問 11 : ②

問 12 : ②

問 13 : ②

問 14 : ②

問 15 : ①

問 16 : ④

問 17 : ④

問 18 : ④

問 19 : ④

問 20 : ④

文完成テスト

絵 1 : お母さんはひろし君を呼びました。

絵 2 : ひろしがお母さんにしかられている。

絵 3 : ひろし君はお母さんにほめられました。

絵 4 : 彼は猫に起こされました。

絵 5 : 彼はおばさんの犬に噛まれてしまいました。

絵 6 : ひろし君は妹にたたかれました。

絵 7 : ひろし君は知らない人に足をひかれました。

絵 8 : エリさんのセーターはお母さんに着られているようです。

絵 9 : お父さんにケーキを食べられました。

絵 10 : エリさんはかばんを愛犬にかまれました。

絵 11 : お父さんにワインを飲まれてしまいました。

絵 12 : 手紙はお母さんに読まれています。

絵 13 : 恐らくエリさんの携帯は犬に壊されてしまいました。

絵 14 : エリさんは帽子をサルにとられました。

絵 15 : エリさんはスカートを犬に汚されてしまいました。

資料 4：本調査に用いた質問紙（文法選択・翻訳テスト）

調査協力者のみなさんへ

この度は、本調査にご協力いただき誠にありがとうございます。この調査は、中国語を母語とする日本語学習者の文法項目の使用実態と習得状況を明らかにするために行うものです。個人情報を守るため、調査結果は、本研究以外の目的に用いることはありません。また、個人の名前が分かるような形で発表することはありません。全員が参加していただくと助かりますが、強制ではありません。参加したくなかったら、途中でやめても構いません。調査の結果は、学校の先生を通じて、調査協力者のみなさんに報告する予定です。ご理解とご協力に、大変感謝しております。本当なら、直接会いに行き、お願いすべきですが、今回は間接的に依頼することにしました。ご協力よろしくお願ひいたします。質問紙調査は選択テスト 12 問と文完成テスト 8 問からなっています。人に相談しないで、参考書、辞書なども利用しないで自分で考えて、ご回答ください。この質問紙調査は、大学での成績と関係がありません。個人情報に関するフェイスシートに答える前に、参加することに同意するか、同意しないか、ご記入をお願いいたします。

大阪大学言語文化研究科博士後期課程 李偉

Liwei0818rii@gmail.com

真诚感谢您能够参与本次问卷调查。本次调查的目的是梳理清晰汉语为母语的日语学习者的语法项目使用现状和习得情况。为了保护个人信息安全，这一研究目的之外的研究不会使用本次调查结果。另外，也不会以知晓受试个人姓名的形式发表成果。希望各位能积极参加，但是问卷调查不是强制性的。如果不愿意参加，可以中途放弃，没有关系。调查结果会通过大学教员报告给诸位。非常感谢大家的理解和支持。本来应当面对面进行说明，但是这次问卷调查采取了间接的方式拜托诸位。万望各位能够积极参加，鼎力支持。问卷由 12 道选择题和 8 道填句题组成。答题过程中，请不要与他人商量，也不要翻看参考书、词典等资料，独立思考后进行回答。本次问卷与大学的成绩没有关系。在进入回答环节之前，请选择是否同意参加本次问卷调查。

私は、質問紙調査の事項について説明を受けました。研究の目的、方法等について理解し、研究に参加します。

我已经阅读了以上关于本次问卷调查的说明，理解了本次调查的目的和方式，参加本次调查问卷。

1. 参加することに同意する

2. 参加することに同意しない

日付：

①が；採用するわけだ

②が；採用したわけだ

③に；採用されるわけだ

④に；採用されたわけだ

中国語訳： _____

() 5. 枯れ草を丸めその右手を前にのぼした。枯れ草を放すと、風[] []、左側三十度ちょっとのあたりに落ちた。風速の算出は、吹き流しや警戒旗などが無くても、新聞紙や乾草などを柔らかく丸めたものが落ちた角度を八で割ることによって秒速メーターが出てくる。

①が；運んで

②に；運ばれて

③に；運ばせて

④に；運んで

中国語訳： _____

() 6. 参加者のほとんどが、合宿に参加するために、バスの中に揃っているようだった。東京から一時間四十分ほどバス [] []、ようやく目的地に到着した。

①が；揺られて

②に；揺られて

③が；揺れて

④に；揺れて

中国語訳： _____

() 7. 特に勝さんの興味を引いたのは、サンフランシスコ市の議会政治であった。議会では市民 [] [] 議員が壇上に立ち、自分の意見を堂々と演説する。それを聞いた別の議員が挙手をして立ち上がり、まっこうから反対意見を述べる。

①に；選んだ

②が；選ばれた

③に；選ばれた

④に；選ばせた

中国語訳： _____

() 8. 玄関のドア [] 次郎さん []。しかし、彼からは、弁償どころか何のお詫びもなかった。

①は；に；壊された

②を；は；壊させた

③が；に；壊させた

④を；が；壊された

中国語訳： _____

() 9. 太郎さんの出張希望は、前回は却下されたが、今回は人事部長 [] [] ので、同僚も出張の成果を期待している。

①が；認めた

②に；認めさせた

③に；認めた

④に；認められた

中国語訳： _____

() 10. 桜の木は、涼しい風 [.....] [.....]、朝日にあたりました。

①が；吹いて ②を；吹いて ③に；吹かせて ④に；吹かれて

中国語訳： _____

() 11. この雑誌は10代の若者 [.....] よく [.....]。

①が；読ませている ②が；読まれている ③に；読んでいる ④に；読まれている

中国語訳： _____

() 12. 花子の家は高層ビル [.....] [.....]。そのせいで、日当たりが悪くなった。

①が；囲まれている ②に；囲ませている ③が；囲ませている ④に；囲まれている

中国語訳： _____

資料5：本調査に用いた質問紙（短文完成テスト）

短文完成テスト

次の絵（絵1～絵8）を見てください。括弧内の動詞を使って、自分の直感で絵の内容を記述してください。

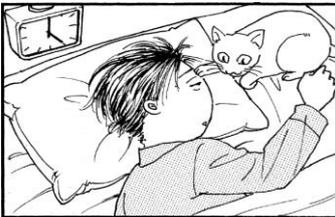
请看以下的图画（图1至图8）。请使用括号内的动词，凭直觉记述图画的内容。

絵1



ひろし君です。彼は数学のテストで30点を取りました。
お母さんに成績を見せました。
思った通り、_____。
(しかる)

絵2



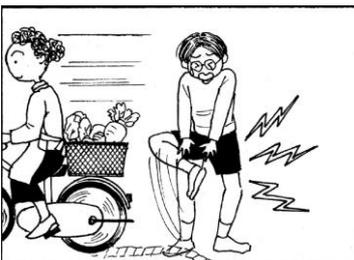
日曜日です。ひろし君は寝ています。猫がひろし君の枕のそばに飛んできました。ひろしくんはもっと寝ていたかったのに、_____。
(起こす)

絵3



ひろし君も妹さんもケーキを食べています。
ひろし君は妹さんのケーキも食べようとしています。
_____。
(たたく)

絵4



ひろし君は、先週道を歩いていたら、知らない自転車が来て、_____。
(ひく)

絵5



エリさんとお父さんです。エリさんは家に着いたら、ケーキを食べようと思っていました。

でも、_____。
(食べる)

絵6



この絵の人はエリさんとお母さんです。
エリさんは、大切な友達との秘密の手紙を机の上に置き忘れていました。_____。

(読む)

絵7



エリさんは帽子をかぶっています。動物園にいます。
エリさんがオリの近くに居ましたので、_____。
(とる)

絵8



エリさんです。エリさんは新しいスカートをはいています。
彼女は犬をつれて庭を散歩しています。

_____。
(よごす)

それで、エリさんは怒っています

ご協力、どうもありがとうございました。
フェイスシートは次のページにあります。

フェイスシート

個人情報を保護するため、調査結果は、本研究以外の目的に用いることはありません。また、個人の名前が分かるような形で発表することはありません。

为了保护个人信息安全，研究目的之外的情况不会使用本次调查结果。另外，也不会以知晓受试个人姓名的形式发表成果。

1、所属と名前をご記入ください。请填写您的所属大学及姓名。

大 学 _____

専 攻 _____

名 前 _____

2、学年をご回答ください。请填写您的年级。 _____

(1) 2年生 (2) 3年生 (3) 4年生 (4) そのほか _____

3、年齢をご記入ください (2017年5月現在)。请填写您的年齢 (截止至2017年5月)。

満 _____ 歳

4、性別をご回答ください。请回答您的性別。 _____ (1) 男 (2) 女

5、今まで日本語をどれぐらい勉強しましたか。您学习日语有多长时间了? _____年 _____月

6、日本語に関する資格を持っていますか。どの級 (レベル) を、いつとったか、何点だったかをご回答ください。

您持有日语水平相关的资格证书吗? 同时请回答是几级水平、考取时间以及具体得分。

7、今まで日本に行ったことがありますか。「ある」と答えた人のみ、8、9番の問いにもご回答ください。您去过日本吗? 如果回答“去过”，请一并回答第8、9的问题。 _____

(1) ある (2) ない

8、滞在期間をご記入ください。请填写您在日本停留的时间。 _____

9、滞在目的は何でしたか。请回答您当时的停留目的。 _____

(1) 観光 (2) 仕事 (3) 勉強 _____

(勉強の場合、具体的にどこで何を学んだのか、関連情報もご記入ください。)

10、調査協力者の一部を対象に、インタビューを行いたいと計画しています。ご協力いただける方は、メールアドレスのご記入をお願いいたします。

研究人员计划采访回答问卷的一部分同学。如果您同意参加，请填写一下邮件地址。

資料 6 : 本調査に用いた質問紙の期待される回答

本調査に用いた質問紙の参考回答

文法選択・翻訳テスト

1、②

中国語訳：那孩子被美国人夫妇领养了。

2、④

中国語訳：丈夫一整天都在家，很烦。

3、②

中国語訳：不太想让别人知道。

4、④

中国語訳：只有狗被人们选择做为家畜。

5、②

中国語訳：枯草一放开，就会随风飘至左侧 30 度附近的地方。

6、②

中国語訳：从东京开始足足被晃了 1 小时 40 分钟，终于抵达了目的地。

7、③

中国語訳：在会议上，被市民选上的议员站在台上，光明正大地摆出自己的观点。

8、①

中国語訳：玄关的大门被次郎弄坏了，可是，不用说赔偿了，他就连道歉的话都没有说一句。

9、④

中国語訳：(太郎) 这次得到了人事部部长的认可，同事们也都期待他出差取得成果。

10、④

中国語訳：凉风清清吹动着樱花树，树上洒着阳光。

11、④

中国語訳：十几岁的年轻人常常阅读这本杂志。

12、④

中国語訳：花子的家被高楼环绕，因此采光不好

短文完成テストの参考回答例

絵 1 :

お母さんにしかられました。

絵 2 :

猫に起こされました。

猫は彼を起こしました。

絵 3 :

妹さんにたたかれました。

絵 4 :

ひかれました。

絵 5 :

お父さんに食べられました。

絵 6 :

お母さんに読まれてしまいました。

絵 7 :

帽子をサルにとられました。

サルは彼女の帽子をとりました。

絵 8 :

犬に新しいスカートをよごされました。

資料 7 : 中国語原文日本語訳文方向の対訳データ

日本語訳文	中国語原文
<p>草原にやってきて二年たつが、草原の大きなオオカミとその群れが、陳陣はやはり怖くてたまらない。この人里から遠く離れた山奥で、オオカミの群れを目の前にして、彼の口から [1] <u>吐き出される</u> 白い息も震えている。</p>	<p>虽然陈阵来到草原已经两年,可他还是惧怕蒙古草原上的巨狼和狼群。在这远离营盘的深山,面对这么大的一群狼,他嘴里 [2] <u>呼出的</u> 霜气都颤抖起来。</p>
<p>かれらもっているのは二本の馬棒だけである。万一、オオカミの群れに人の気配を [3] <u>気付かれたら</u>、二人の「天葬」が [5] <u>くりあげられる</u> のはまちがない。</p>	<p>他们只有两根马棒,万一狼群 [4] <u>嗅出</u> 他们的人气,那他俩可能就要 [6] <u>提前</u> 天葬了。</p>
<p>オオカミの群れの包囲網がだんだん [7] <u>狭められ</u>、その一端は二人が隠れている雪のくぼみに近づいてきた。陳陣は少しも体を動かすことができず、自分が氷の彫刻に凍りついてしまったような気がした。</p>	<p>狼群包围线的一端已越来越 [8] <u>靠近</u> 俩人的雪窝,陈阵一动也不敢动,他感到自己几乎冻成了一具冰雕……</p>
<p>二年前、陳陣が北京からこの国境地域の牧場に [9] <u>下放された</u> ときは、十一月の下旬だったが、オロン草原はすでに雪で一面真っ白になっていた。</p>	<p>二年前陈阵从北京到达这个边境牧场 [10] <u>插队</u> 的时候,正是十一月下旬,额仑草原早已是一片白雪皑皑。</p>
<p>知識青年と [11] <u>呼ばれた</u> 学生たちに、パオはまだ支給されていなかった。陳陣はビリグじいさんの家に住むことになり、羊飼いの仕事を [13] <u>割り当てられた</u>。</p>	<p>[12] <u>対応なし</u> 知青的蒙古包还未发下来,陈阵被安排住在毕利格老人家里, [14] <u>分配</u> 当了羊倌。</p>

<p>帰る間際になって、老人は牧場革命委員会の委員として、突然、会議に残ることになったが、その資料をすぐに生産大隊に届けるようにと本部から [15] <u>指示</u>された。</p>	<p>临回家时，老人作为牧场革委会委员，突然被留下开会，可是场部 [16] <u>指示</u>那些文件必须立即送往大队，不得延误。</p>
<p>陳陣が黒い馬にとびのったとたん、股ぐらに上等なモンゴル馬の力強さが伝わってきて、とびだしたい衝動に [17] <u>から</u>れた。</p>	<p>陈阵一骑上大青马，他的胯下立即感到了上等蒙古马的强劲马力，就 [18] <u>有</u>了快马急行的冲动。</p>
<p>ふいに、陳陣はわけのわからない緊張感に [19] <u>おそ</u>われ、体が震えてきた。</p>	<p>陈阵忽然一阵颤栗，[20] <u>心</u>里有些莫名的紧张。</p>
<p>四十メートルも離れていない<u>雪</u>に [21] <u>覆</u>われた斜面に、夕焼けの光に [23] <u>照</u>らされて、毛を金色に輝かせ、殺気立ったモンゴルオオカミの大群れが現れたのだ。</p>	<p>距他不到 40 米的 [22] <u>雪</u>坡上，[24] <u>在</u>晚霞的天光下，竟然出现了一大群金毛灿灿、杀气腾腾的蒙古狼。</p>
<p>突然、雪の上にしゃがんでいた十数匹のオオカミがすつくと一斉に立ち上がった。まるで [25] <u>鞆</u>から<u>抜</u>かれた軍刀のごとく、[27] <u>つ</u>がえられた矢のごとく、長いしっぽをぴんと立てて、見晴らしのきく有利な地勢を占めて、いまもとびかかろうとしている。</p>	<p>此时，十几条蹲坐在雪地上的大狼呼地一下全部站立起来，长尾统统平翘，像一把把即将 [26] <u>出</u>鞆的军刀，一副 [28] <u>弓</u>在弦上、居高临下、准备扑杀的架势。</p>
<p>群れのなかに、大きなオオカミたちに [29] <u>取</u>り<u>囲</u>まれている白いオオカミ王がいた。その首、前胸と腹部の毛は青白く、プラチナのようにまぶしく輝いて、トラのような凶暴で傲慢な威光を放っている。</p>	<p>狼群中一头 [30] <u>被</u>大狼们簇拥着的白狼王，它的脖子、前胸和腹部大片的灰白毛，发出白金般的光亮，耀眼夺目，射散出一股凶傲的虎狼之威。</p>

<p>陳陣は突然、天にそつと頭を [31] <u>なでられて</u>、天へ昇っていくには早すぎる魂に、自信と力を [33] <u>そそぎこまれた</u>のかもしれない。</p>	<p>也可能是陈阵忽然 [32] <u>领受</u>到了腾格里(天)的精神抚爱,为他过早走失上天的灵魂, [34] <u>揉</u>进了信心与定力。</p>
<p>オオカミの王が首を伸ばして、かれの後ろの山坂」を見渡そうとしているのを察した。オオカミたちはとがった長い耳をレーダーのようにして、王が眺めている方向に向けて、[35] <u>命令が下される</u>のを、じっと待っている。</p>	<p>他感到狼王正在伸长脖子向他身后的山坡望,群狼都把尖碗形的长耳,像雷达一样朝着狼王张望的方向。所有的杀手都在静候狼王 [36] <u>下令</u>。</p>
<p>陳陣は、体にもどって [37] <u>温められ</u>たばかりの魂が、また出ていってしまいそうな気がした。</p>	<p>陈阵觉得刚刚 [38] <u>在体内</u>焐热的灵魂又要出窍了。</p>
<p>黒い馬は最後に命がけで逃げ出すために、軽くしゃがんで力を蓄えはじめた。しかし、重荷を背負っているから、駆け出したとたんに [39] <u>やられる</u>だろう。</p>	<p>大青马开始轻轻后蹲聚力,准备最后的拼死一搏。可是,负重的马一启动就得 [40] <u>吃亏</u>。</p>
<p>陳陣は [41] <u>窮地にたた</u>されて、急に、草原の遊牧民のように心のなかで天におがんだ。</p>	<p>陈阵忽然像草原牧民那样 [42] <u>在危急关头</u>心中呼唤起腾格里</p>
<p>乗馬をおぼえたてのころ、「馬に乗りはじめたばかりのときは、大きなあぶみでなければ安定しない。万が一、馬に [43] <u>おとされ</u>たら、[45] <u>引きず</u>られて、馬に [47] <u>蹴</u>られて怪我するか死ぬかだ」と老人は話していた。</p>	<p>但老人当初对他说,初学骑马,马镫不大就踩不稳。万一 [44] <u>被马</u>尥下来,也容易 [46] <u>拖</u>镫, [48] <u>被马</u>踢伤踢死。</p>

<p>さらにもう一度力いっぱいぶつけあうと、オオカミの群れは王に [49] <u>率い</u><u>られて</u>、全員、向きを変え、耳を後ろに傾け、首を縮めて、黄塵を巻き上げた風のように、一気に山奥へ逃げていった。</p>	<p>他再猛击几下，狼群 [50] <u>在狼王的率领下</u>，全体大回转，倒背耳朵，缩起脖子像一阵黄风一样，呼地向山里奔逃而去。</p>
<p>オオカミたちは疑心暗鬼を生じ、狩人の包围陣におびえて、迅速に撤退した。しかし、オオカミの群れの撤退は、乱れることなく整然と [51] <u>おこなわれ</u>た。逃走する群れでさえ、草原オオカミの伝統的な軍団の編制と隊形を保っている。勇猛なものは突撃隊となり、王は前方に並び、体格の大きいものが後ろで援護している。鳥や獣のような乱れた散り方ではなかった。陣は<u>あ</u><u>っけに</u> [53] <u>とられて</u>みっていた。</p>	<p>狼群被它们所怀疑的蒙古猎人的猎圈阵吓得快速撤离。但狼群撤得 [52] <u>对应なし</u>井然有序，急奔中的狼群仍然保持着草原狼军团的古老建制和队形，猛狼冲锋，狼王靠前，巨狼断后，完全没有鸟兽散的混乱。陈阵 [54] <u>看呆了</u>。</p>
<p>しかも、モンゴル草原のオオカミに、 [55] <u>物の怪にとりつかれた</u>ような恐怖と畏敬の念をいだき、夢中になっていった。</p>	<p>并且，他从此对蒙古草原狼有一种 [56] <u>着了魔的</u>恐惧、敬畏和痴迷。</p>
<p>陣はうすうす気づいていた。自分は草原民族の心の領域にとびこんでしまったのかもしれないことを。それは、たまたま、ぶつかって扉に隙間ができただけだったが、かれの視線はそのなかに [57] <u>注がれ</u>、釘付けになっていた。</p>	<p>陈阵隐隐感到，自己可能已经闯入草原民族的精神领域。虽然他偶然才撞开了一点门缝，但是，他的目光和兴趣已经 [58] <u>投了</u>进去。</p>

<p>遠出をして数十キロから百キロ以上歩いて、三匹から五匹くらいみかければ多いほうである。けれど、そのわりには、オオカミやオオカミの群れに [59] <u>噛まれて</u> 死んだ羊や牛や馬をしよっちゅう目にした。</p>	<p>但他经常见到 [60] <u>被狼或狼群咬死的</u> 羊牛马，少则一两只，两三头，三四匹，多则尸横遍野。</p>
<p>また、遊牧民のパオを訪れて回ると、パオの外に、[61] <u>剥がされた</u> オオカミの皮が長い竿のさきにしばりつけてあり、旗のようにひるがえっていることもあった。</p>	<p>串门时，也能见到牧民猎人打死狼后 [62] <u>剥下的</u> 狼皮筒子，高高地悬挂在长杆顶上，像狼旗一样飘扬。</p>
<p>懐中電灯の明かりで [63] <u>照らし出さ</u> れたのは、雪が舞うなかで、オオカミの大きなしっぽを引っぱっているガスマの姿だった。</p>	<p>[64] <u>透过</u> 雪花乱飞的手电光亮，他竟然看到嘎斯迈正拽着一条大狼的长尾巴。</p>
<p>まるまると肥えた羊たちは肝をつぶして、風に [65] <u>さらされる</u> のもオオカミに [67] <u>食われる</u> のも怖がっている。</p>	<p>可是吓破胆的傻羊肥羊们既 [66] <u>怕狼</u> 又 [68] <u>怕风</u>，拼命往挡风墙后面的密集羊群那里前扑后拥，把羊身体间的落雪挤成了臊气烘烘的蒸气，也把狼的前身挤得动弹不得。</p>
<p>ガスマの後ろにいる二匹の犬は羊の群れに [69] <u>さえぎられ</u>、やきもきするだけで手の出しようがなく、オオカミの氣勢を抑えようとして、吠えたてている。</p>	<p>嘎斯迈身后的两条大狗也 [70] <u>被羊群所隔</u>，干着急无法下口，只得一个劲 1 狂吼猛叫，压制大狼的气焰。</p>
<p>ガスマは陳陣が本当に助けにこようとしていると思い、大きな声で叫んだ。「来ないで、来ないで！オオカミに [71] <u>噛まれる</u> よ。早く羊をつれてい</p>	<p>嘎斯迈却以为陈阵真想来帮她，急得大叫：别来！别来！狼 [72] <u>咬人</u>。快赶开羊！狗来！</p>

<p>って！犬をつれてきて！」</p>	
<p>オオカミは前へ突き進めないともみると急に後ろへ下がり、体を後ろにねじって、ガスマに噛みついた。びりびりっと、毛皮の服のすそがオオカミの牙で [73] <u>引き裂かれた</u>。</p>	<p>狼看看前冲无望，突然向后猛退，调转半个身子，扑咬嘎斯迈。刺啦一声，半截皮袍下摆 [74] <u>被狼牙撕下</u>。</p>
<p>陳陣は慌てふためいて、懐中電灯を高くもちあげて、ガスマとオオカミに向けた。彼女が暗いなかで [75] <u>噛まれて</u> しまうのを心配したからだ。</p>	<p>陈阵急慌了眼，他一面高举手电筒对准嘎斯迈和狼，生怕她看不清狼，[76] <u>被狼咬到</u>。</p>
<p>ガスマも力が尽きてきたらしくオオカミに数歩前に [77] <u>引きずられている</u>。</p>	<p>他发现嘎斯迈快拽不动恶狼了，她又 [78] <u>被狼朝前拖了几步</u>。</p>
<p>羊の群れの西側から真ん中にかけては、この母子二人によって粘り強く [79] <u>守られている</u>。</p>	<p>羊群中西部的防线 [80] 全靠母子二人顽强<u>坚守</u>，不让这条大狼从羊圈挡风毡墙的西边，冲赶出部分羊群。</p>
<p>ガスマは笑いながら首をふった。「そんなことないわよ。あんたが助けに来てくれば、羊が [81] <u>食べられる</u> ところだったわ。」</p>	<p>嘎斯迈笑着摇头说：不是不是，你要是不来帮我，狼就 [82] <u>把羊吃到嘴啦</u>。</p>
<p>ビリグじいさんが懐中電灯で羊の群れを照らしてみると、三、四頭の羊の肥えたしっぽが、オオカミに根こそぎ [83] <u>噛み切られている</u>。[85] <u>食いちぎられた痕は血だらけになって、滴り</u></p>	<p>毕利格老人用手电照了照羊群，共有三四只羊的大肥尾已 [84] <u>被狼齐根咬断</u> 吃掉，[86] <u>血肉模糊</u>，冰血条条。</p>

<p>落ちた血が凍っている。</p>	
<p>ガスマは微笑んで答えた。「そりゃ、怖いわよ。でも、オオカミに羊を [87] <u>追い出</u>されたら、労働点数がへっちゃうから。そっちのほうが怖かったわ。それに、生産グループの長だから、<u>羊を</u> [89] <u>やられたら</u>、恥ずかしいじゃない」</p>	<p>她笑笑说：怕，怕。我怕狼 [88] <u>把羊</u> <u>赶跑</u>，工分就没有啦。我是生产小组的组长，[90] <u>丢了羊</u>，那多丢人啊。</p>
<p>バレーは飢えていても、主人に [91] <u>ほめられる</u>ことがなによりうれしいようだ。</p>	<p>陈阵发现寒风中饥饿的巴勒更看重女主人 [92] <u>情感犒赏</u>。</p>
<p>良質な草がびっしりと生えていて、強風で倒れたり、大雪にすっぽり [95] <u>覆われて</u>しまうことがない。</p>	<p>草高株密质优，狂风吹不倒，大雪 [96] 盖不住。</p>
<p>わしが八歳のときだった。オロン草原は何百年に一度という大雪に [97] <u>みまわ</u>れてな。パオが雪に埋まってしまうほど、厚く積もった。</p>	<p>我八岁那年，额仑草原 [98] <u>碰着</u>一次几百年不遇的大白灾，平地的雪厚得能盖没蒙古包。</p>
<p>幸いにも人や家畜のほとんどは、何人かの長老に [99] <u>率</u>いられて、早めに移動をはじめた。雪が膝まで積もっているところは、数千頭の馬を集めて、雪を踏ませて道をつくらせた。そうや</p>	<p>幸亏大部分的人畜，[100] <u>在</u>几位老人的<u>带领</u>下，抢先一步，在雪下到快没膝深的时候，集中所有马群，用几千匹马冲雪踏道，再用几十群牛趟雪踩实，开出一条羊群和牛车可以挪动的雪路雪</p>

<p>って、三日三晩歩いて、やっとこの牧草地帯にたどり着いたんだ。</p>	<p>槽，走了三天三夜，才把人畜搬到这片草场。</p>
<p>草の下のほうはまだ枯れないうちに雪に埋もれて、雪の穴蔵に [101] <u>貯えられた</u> 緑色の冷蔵野菜のようになり、草の茎と雪の隙間から、浅い緑草の香りを発している。</p>	<p>草の下半截还没有变黄就被雪盖住，雪下的草就像冰窖里 [102] <u>储存的</u> 绿冻菜，从每根空心草管和雪缝里往外散发着淡淡的绿草芳香。</p>
<p>北の隣国の大雪と飢餓に [103] <u>追い詰められて</u> 越境した黄羊の群れは、ここに来ると、冬にオアシスを見つけたように、緑の草の香りに [105] <u>迷わされ</u>、もうほかの場所にいこうとしない。</p>	<p>[104] <u>被</u> 北方邻国大雪和饥饿 <u>压迫</u> 而越境的黄羊群，一到这儿就像遇到了冬季里的绿洲，[106] <u>被</u> 绿草香气 <u>所迷倒</u>，再也不肯转场。</p>
<p>黄羊が草原でいちばんの悪だ。……生産隊の人間が苦勞して家畜たちに我慢させてきた牧草を、何日もしないうちに、やつらに半分も [107] <u>食われて</u> しまったわ。</p>	<p>老人轻声说：黄羊可是草原的大害……你瞅瞅它们吃下了多少好草。一队人畜辛辛苦苦省下来的这片好草场，这才几天，就快 [108] <u>让</u> 它们 <u>祸害</u> 一小半了。</p>
<p>買い付けセンターの人がいうには、軍用機パイロットの服は黄羊の皮で [109] <u>つくられている</u> が、中国のパイロットは着ることができない。</p>	<p>据收购站的人说，飞行员的飞行服就是 [110] <u>用黄羊皮做的</u>。中国的飞行员还穿不上呢。</p>
<p>毎年、内モンゴル草原で [111] <u>生産された</u> 黄羊の皮は全部、輸出に [113] <u>まわされ</u>、ソ連や東欧の鋼材、自動車、武器と取り換える。</p>	<p>每年内蒙草原 [112] <u>出产的</u> 黄羊皮全部 [114] <u>出口</u>，到苏联、东欧换钢材、汽车和军火；黄羊的里脊肉又是做肉罐头的上等原料，也统统出口。</p>

<p>残った骨と肉は中国人用で、内モンゴル各地の食肉売り場で、貴重な食材として [115] <u>売られ</u>、配給切符と証明書がなければ購入できない。</p>	<p>最后剩下的肉和骨头才留给国人享用，是内蒙古各旗县肉食柜台上 [116] <u>对应なし</u>的稀货，凭票证供应。</p>
<p>一本一本の肉の繊維は、オオカミとの長い間の競走で [117] <u>鍛えられ</u>、そのおいしさはノロの肉にもおとらない。</p>	<p>善跑的黄羊，身上没有一点废肉，每一根肉丝纤维都是 [118] 与狼长期竞技而<u>历练</u>出来的精华，肉味鲜得不亚于孢子肉。</p>
<p>今回の絶好のチャンスを目の前に、もう遊牧民の仲間入りができたと思いかけていた北京の知識青年たちは、自分たちはまだまだだと [119] <u>思い知らされた</u>のである。</p>	<p>所以，当这次大猎汛来临，差点认为自己已成为新牧民的北京知青们，才 [120] <u>发现</u>他们根本靠不上边。</p>
<p>パオの中にぐるりとモンゴルとチベットの宗教画の壁かけがかけてあって、床に白い鹿の模様の絨毯が [121] <u>敷か</u>れている。</p>	<p>内墙一周挂着蒙藏宗教图案的壁毯，地上 [122] <u>铺着</u>白鹿图案的地毯。</p>
<p>ちゃぶ台の上の、木の茶托にのった銀の茶碗も、食器棚の銅のボウルもアルミのツボもびかびかに [123] <u>磨か</u>れている。</p>	<p>矮方桌上的木托银碗和碗架上的铜盆铝壶，都 [124] <u>擦得</u>锃亮。</p>
<p>陳陣が住んでいたビリグじいさんのパオは草原部落の族長のテントのようなところで、陳陣は [125] <u>可愛が</u>られ、よく面倒を見てもらってきた。</p>	<p>毕利格老人的蒙古包，就像一个草原部落大酋长的营帐，[126] 让他<u>得到更多</u>的<u>爱护</u>和关怀，使陈阵倍感亲切和安全。</p>
<p>いまは単眼鏡に [127] <u>分解</u>されているが、もとはソ連製の高性能軍用双眼鏡で、ビリグじいさんが二十年前に、オロン草原のソ連軍と日本軍の戦場だっ</p>	<p>这副 [128] <u>被拆成</u>两个单筒的望远镜，是苏式高倍军事望远镜，这是毕利格在二十多年前从额仑草原苏日旧战场上捡来的。</p>

<p>たところから拾ってきたものである。</p>	
<p>ソ連軍や日本軍の軍用品のなかで、遊牧民に最も [129] <u>珍重された</u>のは双眼鏡である。</p>	<p>所有的苏日军用品中，惟有望远镜最 [130] <u>为牧民们所珍爱</u>。</p>
<p>陳陣は単眼鏡を使って、狩り場を搜索している。この狩人の目を持つようになってから、かれの心の奥に眠っていた狩りの本性が [131] <u>呼び覚まされた</u>ようだ。</p>	<p>陈阵用望远镜搜索着猎场，有了这个猎人的眼睛，他心底潜在的猎性终于 [132] <u>被唤醒</u>。</p>
<p>大きな馬でもぼんやりしたら、子オオカミに [133] <u>噛み殺される</u>ことだってある。</p>	<p>大马犯迷糊，小狼也能 [134] <u>把它咬死</u>。</p>
<p>オロンの狩人たちは、朝早く出かけてオオカミに [135] <u>つかまえられた</u>黄羊をよく奪ってくるが、腹のなかは小便でいっぱいだ。</p>	<p>额仑的猎人常常起大早去抢 [136] <u>让狼抓着的</u>黄羊，剖开羊肚子，里面尽是尿。</p>
<p>陳陣は小さい声で笑った。「ああ神様、ぼくは殺すと [137] <u>いわれて</u>も、オオカミみたいに悪知恵が働かないよ。……」</p>	<p>陈阵小声笑道：老天，打死我 [138] <u>对应なし</u>也想不到狼有这样的损招。</p>

<p>一部のオオカミはすでに峠の後ろに回ったのだろう。総攻撃がはじまり、黄羊がオオカミに [139] <u>追われて</u> 峠を越すと、峠の後ろにいるオオカミたちは「逸をもって労を待つ」で、正面から黄羊を襲い、ほかの三面のオオカミたちとともに黄羊の群れを包囲殲滅するだろうと、陳陣は推測した。</p>	<p>陈阵猜测可能有一部分狼已经绕到山梁后面，一旦总攻开始，黄羊 [140] <u>被狼群赶过</u> 山梁，山后的狼群就该以逸待劳迎头捕杀黄羊，并与其它三面的狼群共同围歼黄羊群。</p>
<p>明の大將、丘福は十万人の大軍を率いてモンゴル草原に攻め込んで、外モンゴルのケルレン川まで攻めたが、孤軍で深く入って [141] <u>わなにはめられ</u>、戦死した。軍の士気が乱れて、残った漢民族の兵士はモンゴルの騎兵に [143] <u>一網打尽に</u> されてしまった。</p>	<p>还有明朝大将丘福率十万大军攻入蒙古草原，一直攻到外蒙古的克鲁伦河，但丘福孤军深入 [142] <u>中计</u> 战死，军心一散乱，剩下的汉兵就 [144] <u>被蒙古骑兵一網打尽</u>……</p>
<p>西の端にいる二匹のオオカミは、首と胸が白いオオカミ王に [145] <u>率いられ</u>、稲光のように黄羊の群れに近い小山に向かった。ここは明らかに三面包囲網の最後の割れ目だ。</p>	<p>最西边的两条大狼 [146] <u>在一条白脖白胸狼王的率领下</u>，闪电般地冲向靠近黄羊群的一个突出山包，显然这是三面包围线的最后一个缺口。</p>
<p>黄羊がオオカミの群れをみたとき、自分をはじめオオカミの群れをみたときよりも、激しい恐怖に [147] <u>襲われ</u> たことだろうと、陳陣は思った。</p>	<p>陈阵心想，此时黄羊见到狼群，一定比他第一次见到狼群的 [148] <u>対応なし</u> 恐惧程度更剧更甚。</p>
<p>この数時間は、何年も、孫子やクラウゼヴィッツを読むよりも勉強になり、自分が魂まで [149] <u>震撼させられた</u> 気がした。</p>	<p>陈阵觉得这几个小时的实战军事观摩，远比读几年孙子和克劳赛维茨更长见识，更 [150] <u>震撼</u> 自己的性格和灵魂。</p>

<p>視覚も嗅覚も極めて敏感な黄羊たちは、このニワトリを絞め殺してサルを脅かすような手に、[151] <u>脅かされて</u>、峠に向かって逃げまどっている。</p>	<p>视觉嗅觉极其灵敏的黄羊群，[152] <u>被</u> 这杀鸡训猴式的手段吓得拼命往山梁上跑。</p>
<p>陳陣は黄羊の角の鋭さをよく知っている。草原では、黄羊の角は遊牧民が皮を縫うときに、穴をあける錐として [153] <u>使われている</u>。厚くて丈夫な牛革でも突き刺すので、オオカミの皮くらはいは問題にならない。</p>	<p>陈阵深知黄羊角的厉害，在草原，黄羊角是牧民 [154] <u>対応なし</u> 做皮活，扎皮眼的锥子，连厚韧的牛皮都能扎透，扎破狼皮就更不在话下。</p>
<p>老人は立ち上がって腰をのばすと、雪のくぼみのそばにある高い草むらの後ろにあぐらをかいた。フェルトの靴のなかから、吸い口が<u>緑色の玉</u>で [155] <u>つくられたキセル</u>を取り出した。東北産の刻みタバコを雁首にに入れて、火をつけると、<u>袁世凱の顔</u>が [157] <u>刻まれた銀貨</u>をフタにして、燃えてふくらんだ刻みタバコをおさえて、深く吸いこんだ。</p>	<p>老人站起身来，抻了抻腰，在雪窝边上一大丛高草后面盘腿而坐。从蒙古毡靴里抽出一杆 [156] <u>绿玉嘴子的烟袋锅</u>，装了一锅子关东旱烟，点着，又 [158] 用<u>袁大头银元</u>做的“锅盖”，压了压烧涨的烟末，深深地吸了一口。</p>
<p>陳陣はうれしくなり、すぐにも馬車に黄羊をいっぱい載せて帰りたいかった。「草原に来て二年のあいだ、オオカミには [159] <u>苦労させられてきたけど</u>、オオカミの甘い汁を吸えるなんて、思ってもみなかった」</p>	<p>陈阵乐得恨不得马上就拉一车黄羊回家。他说：来草原两年了，[160] <u>吃尽</u>了狼的苦头，没想到还能占狼这么大的便宜。</p>
<p>中国の兵書には、十倍以上の兵力をもって包圍殲滅戦をすることと [161] <u>晝</u>かれているが、モンゴルの騎兵はオオ</p>	<p>中国兵书上 [162] <u>进</u>，有十倍以上的兵力才敢打围呢。蒙古骑兵真跟狼群一样厉害，能以一当百。</p>

<p>カミといっしょで、一をもって十に当たる。</p>	
<p>老人はキセルの雁首をたたいて笑った。「おまえもあの大战のことを知っているのか。だが、おまえは知らんと思うが、その大雪は三日三晩も降ったけど、じつは、あれは天が降らせてくれたのだ。トルイ軍にいたシャーマンが天にお願いしたのだ。モンゴル人の間ではそう [163] <u>いわれている</u>。」</p>	<p>老人磕了磕烟袋锅，笑道：你也知道这场大仗？可是你准保不知道，那场大雪下了三天三夜，是打哪儿来的？是腾格里给的。那是拖雷军队里的萨满法师，向腾格里求来的。蒙古人的故事里就是这么 [164] <u>说的</u>。</p>
<p>陳陣は、急にオオカミの額をたたきたい衝動に [165] <u>かられた</u>。</p>	<p>但是，此刻陈阵心中却突然 [166] <u>涌起想拍拍狼脑袋的冲动</u>。</p>
<p>グァンプの出身階級は牧場主なので、その当時は放牧することが [169] <u>許されず</u>、[171] <u>監視</u>されていた。</p>	<p>官布的成分是牧主，是当时的 [172] <u>被管制分子</u>，已 [170] <u>被剥夺放牧权</u>，但四个知青一有机会就让他代放牲畜，嘎斯迈会把相应的工分给他。</p>
<p>陳陣は手綱をしめながらいった。「げんに、ぼくはオオカミに [173] <u>圧倒</u>されている。まだ草原に来て二年しかたっていないのに。」</p>	<p>陈阵勒了勒马说：比如我，现在就已经 [174] <u>被草原狼折服</u>，这才来草原两年多一点儿时间。</p>
<p>これまで漢民族の海に浸ってたから、気がつかなかったけど、草原に来ると、ぼくたち農耕民族の弱点を [175] <u>知らされる</u>。</p>	<p>过去淹在汉人的汪洋大海还没什么感觉，可是一到草原上，咱们农耕民族身上的劣根性全 [176] <u>被比较</u>出来了。</p>
<p>いまでも、漢民族は西洋ではモンゴル人種と [177] <u>いわれている</u>し、漢民族もそれをうけいれた。</p>	<p>直到现在，中国汉族仍 [178] <u>被西方称为蒙古人种</u>，汉人自己也接受了这个名称。</p>

<p>「なるほど、オオカミに夢中になるのもわかるよ。ぼくもきみから [179] <u>感</u><u>染</u><u>さ</u><u>れ</u><u>た</u><u>み</u><u>た</u><u>い</u><u>だ</u>。歴史の本を読んで、西の戎、東の夷、北の狄、南の蛮というふうを考えがいつてしまう。オオカミと取っ組合をやりたいな」と楊克がいだした。</p>	<p>杨克说：我也 [180] <u>受</u><u>你</u><u>传</u><u>染</u><u>了</u>，害得我一看史书就往西戎、东夷、北狄、南蛮方向看。我也越来越想跟狼交交手，过过招了。</p>
<p>「きみもモンゴル人になりかけてる。オオカミの血を輸出するんだな。混血は優秀だよ」と陳陣がいうと、「きみに [181] <u>い</u><u>わ</u><u>れ</u><u>て</u><u>草</u><u>原</u><u>に</u><u>来</u><u>た</u><u>こ</u><u>と</u><u>を</u><u>感</u><u>謝</u><u>し</u><u>て</u><u>い</u><u>る</u><u>よ</u>。おぼえてるかい？きみがぼくになんていったか。忘れた？ほら、草原には果てしない広い原始と自由があるっていったら？」</p>	<p>杨克说：我真得谢谢你 [182] <u>把</u><u>我</u><u>鼓</u><u>动</u><u>到</u><u>草</u><u>原</u><u>上</u><u>来</u>。你知道吗，当时你的哪句话点中了我的命门穴位？忘啦？就是这句话，你说——草原上有最辽阔的原始和自由。</p>
<p>馬の列、牛車の列、酒を飲みながら歌う人々。フェルトのカバーがついた平たい酒壺が隊列の前から後ろへ、女の手から男の口へと [183] <u>渡</u><u>さ</u><u>れ</u><u>て</u><u>い</u><u>る</u>。</p>	<p>马队车队一路酒一路歌，一只带毡套的扁酒壶，从队前传到队尾，又从女人手 [184] <u>传</u><u>到</u><u>男</u><u>人</u><u>口</u>。</p>
<p>「おれたちの馬の牧草地は外モンゴルに近いし、オオカミもすごく多いから、獲らないと、国境線の向こうからもっとやってくるよ。子馬まで [185] <u>や</u><u>ら</u><u>れ</u><u>ち</u><u>や</u><u>う</u>」と、バトは弁解した。</p>	<p>巴图分辩道：我们马群摊到的草场地界靠外蒙最近，狼也最多，不打狼了，界桩那边的狼群来得还要多，当年的马驹子就 [186] <u>剩</u><u>不</u><u>下</u><u>多</u><u>少</u><u>了</u>。</p>
<p>くぼみの真ん中は平らで、<u>雪</u><u>に</u> [187] <u>覆</u><u>わ</u><u>れ</u><u>た</u>高原の湖のようだ。</p>	<p>雪窝中间是比较平展的一片，像一个 [188] <u>冰</u><u>封</u><u>雪</u><u>盖</u>的高山大湖。</p>

<p>十数歩いくと、雪の上に箸の先ほどの小さな穴がびっしりとあって、その穴から枯れた草の茎や葉先が出ている。穴は草の葉先が風に [189] <u>揺られて</u>開いたものである。</p>	<p>又走了十几步，雪面上全是密密麻麻筷子头大小的小孔，每个小孔都伸出一支干黄坚韧的草茎草尖，这些小孔都是风吹草尖在雪面上 [190] <u>摇磨</u>出来的。</p>
<p>陳陣は足元の、ぐしゃぐしゃになった雪の上に、[191] <u>食い残された</u>黄羊の死体が転がっていた。黄羊の胃袋からとび出た草は小山のように固く凍っている。</p>	<p>陈阵的脚旁是一只 [192] <u>被吃过的</u>黄羊，歪斜在乱雪里，还有一堆冻硬的黄羊胃包里的草食。</p>
<p>三、四十頭ほどの黄羊が、このあたりでオオカミの群れに [193] <u>取り囲まれ</u>て [195] <u>食べられて</u>しまった。</p>	<p>大约有三四十只大黄羊在这一带 [194] <u>被狼群抓住</u> [196] <u>吃掉</u>，而狼群也在这里止步。</p>
<p>その黄羊たちの周りは雪のくぼみだらけで、くぼみの中にはほかの黄羊が [197] <u>葬られている</u>。</p>	<p>羊的四周就是雪坑，是其它黄羊的 [198] <u>葬身之处</u>。</p>
<p>冬のオロン草原の山肌の表面に固まった雪は、草原の吹雪とひざしによって [199] <u>つくられた</u>傑作である。</p>	<p>额仑草原冬季山地里的雪壳，是草原白毛风和阳光 [200] <u>对应なし</u>的杰作。</p>
<p>目の前の場面は肝がつぶれるほど恐ろしいものだ。オオカミの爪がとどくところに埋まっていた黄羊は、すべて雪のなかから [201] <u>掘り出</u>されている。</p>	<p>眼前近处的场景更让人心惊胆寒：所有能被狼够得着的黄羊，都已被狼群从雪坑里 [202] <u>刨出来</u>，拽出来。</p>
<p>雪の道が [203] <u>なら</u>されて、牛車の列が峠を下りた。</p>	<p>雪道 [204] <u>被铲</u>了出来，车队下了山梁。</p>
<p>ビリグじいさんは長いカバノキの竿を担いでいるが、竿のさきに曲がった鉄のカギが [205] <u>縛り付</u>けられている。</p>	<p>毕利格则扛着长长的桦木杆，杆子的顶端 [206] <u>绑着</u>铁条弯成的铁钩。</p>
<p>二枚のフェルトの順序を替えながら前</p>	<p>两块大毡轮流倒换，两人就像驾驶着两</p>

<p>進する。まるでフェルトで[207]つくられた筏を操舵しているようで、遠くにいる黄羊をめざして滑っていく。</p>	<p>叶毡子[208]做成的冰雪方舟，朝远处的一只活黄羊滑去。</p>
<p>さらに、オオカミの群れや狩人や騎兵によって雪のつぼみに[209]追い込まれた獲物と戦利品を、どんなに多く引き上げたことか。</p>	<p>又不知靠这神舟从雪湖中打捞出多少[210]被狼群、猎人和骑兵圈进大雪窝里的猎物和战利品。</p>
<p>雪の湖に、八つの筏、十六の空飛ぶ絨毯が進みだし、[211]追いつ追われつ、雪を巻き上げ、氷の結晶をとびちらした。</p>	<p>雪湖中，八条飞舟，十六方飞毯，齐头并进，[212]你追我赶，冲起大片雪尘，扇起大片冰花。</p>
<p>この黄羊が人に[213]助けられたことがあるかどうかはわからないが、お腹のなかの赤ちゃんのために最後の一縷の望みをつかもうとしてか、なんいつきにフェルトにとび移り、ドスンと膝を折って坐りこむと、震えだした。凍えて、疲れ果てて、肝っ玉を[215]つぶされている。</p>	<p>不知这头母羊是否曾经[214]受过人的救助，还是为了腹中的孩子争取最后一线生机，它竟然一步跳上了大毡，扑通跪倒在毡上，全身乱颤，几乎已经累瘫了冻僵了[216]吓傻了。</p>
<p>ところが、草はな、大きな命だといったって、短い命でかわいそうなものだよ。そう深くないところに根っこをはって、地面の上をほんのちょっとはってるだけだ。[217]踏みつけられ、[219]食われて、[221]ぬかれて、[223]太事にされない。</p>	<p>可草呢？草虽是大命，可草的命最薄最苦。根这么浅，土这么薄。长在地上，跑，跑不了半尺；挪，挪不了三寸；谁都可以[218]踩它、[220]吃它、[222]啃它、[224]糟践它。</p>
<p>黄色い災害が来れば、人間が黄羊に[225]食われるのと同じだ。</p>	<p>黄灾一来，黄羊就跟[226]吃人一个样</p>
<p>陳陣の心が急にゆさぶり[227]動かさ</p>	<p>陈阵心头猛然[228]震撼不已，老人说</p>

<p>れた。老人が話した一字一句が太鼓の百子のようにトントントンかれの胸にひびいて、心に迫ってきた。</p>	<p>の每一个字都像战鼓的鼓点，敲得他的心通通通地连续颤疼。</p>
<p>これらの草原のロジックは、肉食民族と草食民族が数千年にわたって、[229] <u>食うか食われるか</u>の戦いをしてきた根本的な原因を明らかにした。</p>	<p>这些古老的草原逻辑，一下子就抓住了食肉民族与食草民族、几千年来杀得[230] <u>你死我活</u>的根本。</p>
<p>これまでずっと後れた野蛮人の行為だと思ってきたが、老人のいうように、大きな命と小さな命という見方で判断すれば、「野蛮」という行為だけでは決めつけられない気がした。この「野蛮」には、人類の生存を守る深い文明が[231] <u>含まれている</u>ように思えた。</p>	<p>陈阵过去一直认为这是落后倒退的野蛮人行为，经老人这一点拨，用大命与小命的关系尺度，来重新衡量和判断，他感到还真不能只用“野蛮”来给这种行为定性，因为这种“野蛮”中，却[232] <u>包含着保护人类生存基础的深刻文明</u>。</p>
<p>雪の「湖」は凍りつくような寒気に[233] <u>おおわれ</u>、雪の表面もますます硬くなってきた。</p>	<p>雪湖上的寒气[234] <u>越来越重</u>，雪面也越来越硬。</p>
<p>人々が[235] <u>おのおのわりあてられた</u>場所へ走っていくと、雪の「湖」は明るくて熱気あふれる狩り場となった。</p>	<p>雪湖上的人们飞向了[236] <u>各自的</u>地盘，猎场上又出现了热气腾腾的欢乐场面。</p>
<p>そんなものを買い付けセンターにもっていっても、半分の金にもならないぞ。腹の皮をみて、二ランクも下の値段に[237] <u>値切られる</u>さ。肉の金は一銭ももらえない。</p>	<p>这种羊拉到收购站，卖不了一半的价钱，人家一看羊的肚皮就得[238] <u>压你两级的价</u>，只给你皮钱，肉钱就一分也没有了。</p>
<p>二人は黄羊を引っぱりながら下にたたきつけている。払い落とされた雪が、凍った黄羊の体の下の隙間を埋めなが</p>	<p>两人一边拔一边又往下顿，好让继续下漏的雪砂把冻羊身下的空隙填满，再[240] <u>把羊一点一点地垫上来</u>。</p>

ら、黄羊は少しずつ上へ[239]引っぱり 上げられていった。	
一頭、一頭と黄羊が[241]引き上げられ るが、どれも毛皮には傷がなく、大き くて肥えている。	一只又一只皮毛完好、膘肥肉足的大黄 羊[242]被打捞上来。
草原で略奪の名人であるオオカミで も、人間に[243]略奪されることある のかと思うと、陳陣はおかしくてたま らない。	草原上打劫能手的狼，竟然也有[244] 被人打劫的时候。陈阵忍不住想乐。
岸につくと、老人は楊克とバヤルに [245]支えられながら、筏から降りた。	毡舟靠岸，杨克和巴雅尔[246]扶老人 下地。
牛車にはすでに何頭も[247]積まれて いる。「あれ、どうしたの？」と陳陣は 聞いた。	陈阵发现，两家的牛车上已经[248]装 上了几只大羊了，忙问怎么回事。
犬たちはオオカミたちの「残飯」を腹 いっぱい食べたので、そばで皮を[249] 剥がされ、[251]腹を切り裂かれて、湯 気を上げている二頭の黄羊にはまった く無関心である。	大狗们早已吃撑了狼的剩食，此刻对这 两只[250]剥了皮，[252]净了膛，冒着 热气的黄羊肉无动于衷。
正午に近くなった。家々のフェルトの 筏は、もう二、三回黄羊をおろしてい る。どの家の牛車にも、六、七頭の大 きな黄羊が[253]積まれている。	时近正午，各家的毡舟都已回岸卸了两 三次猎物了，各家的牛车上都已[254] 装上了六七只大黄羊。
それを聞くと、楊克はいきり立って、 ランムザーブにかかっていったが、続 けざまに三回もランムザーブに[255] 投げ倒された。	杨克铆足了劲，上去就摔，却又[256] 被兰木扎布连摔三个跟头。
楊克は服についた雪を払い落として話 した。「待ってろよ。来年になったら、	杨克掸了掸身上的雪说：你等着瞧！明 年我要买一头大[258]犏牛，一个人吃。

<p>[257] 去勢された大きな牛を買ってきて、一人で食ってやる。きっとおまえよりは頭一つ分くらい高くなる。そのときは、そっちこそ羊だ」</p>	<p>我还要长个儿，比你高一头，到时候你就是“羊的一个样啦”。</p>
<p>草原のモンゴル人は酒がめっぽう強い。モンゴル七、八個の大きな酒壺は何回か[259]回されると、もう空っぽになっていた。</p>	<p>草原蒙古人の酒量大过食量，七八个大酒壺[260]转几圈以后便空空如也。</p>
<p>だいぶ前だが、おれが一言、冗談をいっただけで、ある記者に[261]飲まされて酔っちまった。</p>	<p>从前我就说错一句话，就被一个蒙汉通的记者[262]灌醉过，这会儿也得让你尝尝苦头了。</p>
<p>皇太子は草原の生活が好きあまり、皇帝になりたくないといいだした。 [263] オオカミの頭の絵が刺繍された突厥の軍旗をかかげて、突厥の騎兵とともに草原で狩りをし、突厥人のような暮らしをしたがった。</p>	<p>他喜欢草原生活喜欢得连皇帝都不当了，他就想打着[264]突厥的狼头军旗，带着突厥骑兵到草原上去打猎，去过突厥人的草原生活。</p>
<p>漢人には草原での開墾も耕作も[265]許されなかった。</p>	<p>还不[266]让汉人到草原开荒种地。</p>
<p>むかし、モンゴル人はにっちもさっちもいかない状態に[267]追い込まれると、オオカミの餌を食べて生きてきた。チンギスカンの先祖の一人が深山に[269]追い込まれたが、何もなくて、もう少しで飢え死にしそうになった。</p>	<p>从前，蒙古人[268]被逼到绝路，总是靠吃狼食活下来的。成吉思汗的一个祖爷爷[270]被逼到深山里，啥啥没有，像野人一样，差一点饿死。</p>
<p>しかたなく、こっそりとオオカミの後について、オオカミが獣を獲るのを、[271]気づかれないように待ち、オオカミが腹いっぱいになっていってしまう</p>	<p>他没法子，只好偷偷跟着狼，狼一抓到猎物，他就[272]悄悄等着，等狼吃饱了走了，他就捡狼吃剩下的食吃。</p>

と、かれは残ったものを拾って食べた。	
二頭の黄羊がきれいに[273]平らげられ、焚き火も徐々に消えていった。けれど、ビリグじいさんは、残り火の灰にしっかり雪をかけさせた。	两只黄羊[274]被吃得干干净净，篝火渐渐熄灭，但毕利格老人仍是叫人铲雪把灰堆仔细地压严了。
雲がだんだん厚くなり、風に[275]吹き上げられた粉雪が、薄手のスカーフのように山の上にただよっている。	云层越积越厚，山头上已[276]被风吹起了一片雪砂，像纱巾一样地飘起。
雪の湖の人影はとうとう巨大な山の影に[277]のみこまれた。どの家の牛車も超荷重状態だ。	雪湖上的人影终于[278]被巨大的山影所吞没，各家的牛车都已超载。
老人はいった。「そんなに黄羊をとったかな。大半はオオカミに残しただろう。もしわしの欲が深ければ、雪のくぼみに竿を立てたよ。雪嵐でくぼみが埋まっても、竿が[279]吹き飛ばされることはないから、残っている黄羊をまた掘り出せるさ。」	老人说：咱们这才挖了多少羊啊，多一半都给狼留下了。要是我的贪心大，我会在雪坑都插上木杆，白毛风能刮平雪坑，可[280]刮不走杆子，我照样可以把剩下的黄羊都起出来。
「中国と世界への影響はもっと大きいというべきだ」と陳陣は話した。チンギスカンとかれが率いるモンゴル騎兵が現れてから、中国の金朝と南宋以降の歴史は全部[281]書き換えられた。しかも、中央アジア、ペルシア、ロシア、インドなどの国々の歴史もすべて[283]書き換えられたんだ。	陈阵说：应该说，对中国对世界的影响更大。自从出了成吉思汗和他率领的蒙古骑兵，中国从金、南宋以后的历史全部[282]改写。中亚、波斯、俄罗斯、印度等国家的历史也全部[284]改写。
大砲がまた東洋にもどってきて、中国の門が[285]吹き飛ばされ、最後にはモンゴル騎兵も[287]吹き飛ばされてし	再后来火炮又轮回到东方，[286]轰开了中国的大门，最后[288]轰垮了蒙古骑兵，世界天翻地覆……

まった。	
歴史におけるオオカミの役割が、あっさり、人間が書いた歴史のなかから[289]消されたのだ。	可是，狼在历史上所起的作用，在人写的历史中[290]被一笔勾销了。
知識青年たちは草原にやってきてすぐに、遊牧民から[291]聞かされていた。	知青刚到草原就[292]听牧民说，草原上的狼是腾格里从天上派下来的，所以狼会飞。
「わしのどら息子が天の機嫌を損ねたんだ。いまだに人に後ろ指を[293]さされてるよ。」と老人は話した。	老人说，不知道我的哪个二流子儿子得罪了腾格里，害得我一家到这会儿还[294]遭人骂。
死んだ羊の首には、どれも四つの穴が[295]あけられ、囲いの外まで血が流れ出ていた。	每只死羊脖子上都[296]有四个血窟窿，血都流到圈外了。
その後、文化大革命で失脚したハラバラ所長が、旗の幹部審査班から[297]釈放され、もとの職務に復帰した。	后来，哈拉巴拉所长被“解放”了，[298]从旗里的干部审查班放了回来，官复原职。
わたしは牧場の幹部たちを集めて、現場を封鎖するように頼んだ。けれども、現場はとっくに[299]荒らされていた。	我把全场的干部组织起来，让他们保护现场。可是现场已经[300]被破坏。
囲いの外は羊の群れと人に[301]踏みつけられていたので、しかたなく、拡大鏡を使って囲いの壁から少しずつ手がかりをさがした。	石圈外面地上的线索全[302]让羊群和人踩没了。我只好拿着放大镜一寸一寸地在墙上找线索。
陳陣は <u>あつ</u> けに[303]とられた。「オロンのオオカミは頭がよすぎる。」	陈阵[304]愣了半天说：额仑的狼真聪明绝顶。
そのときのようなすを想像してごらん。これは、人間がオオカミにバカに[305]されたってことじゃないか。	你再想想当时的阵势，狼真是[306]把人给耍了。
牛車の轆には長い木の棒が[307]つけ	再在牛车车轆头上[308]横绑上一根长

られる。	木。
死者の魂が天のところへ昇れるかどうかは、生前の善悪によると[309] <u>されて</u> いる。	至于死者的灵魂能不能升上腾格里,就要[310] <u>看</u> 死者生前的善恶了。
陳陣は恐ろしい気がすればするほど、好奇心に[311] <u>かられた</u> 。	陈阵越发[312] <u>感到</u> 恐惧和好奇。
大雪に[313] <u>覆われて</u> いて、天葬の場面はみられなかった。	但由于[314] <u>大雪覆盖</u> ,他没有看到自己想看的场面。
寒い冬が終わろうとしていたころ、かれはついに雪の上に天葬場へ向かう馬の足跡と牛車のわだちをみつけた。馬に乗り、わだちをたどっていくと、病死した老人が[315] <u>落とされた</u> ばかりのようだった。	直到寒冬即将过去,有一次他终于发现了雪地上通往天葬场的马蹄印和车辙印,顺车辙走去,他见到一位病死的老人,好像才刚刚[316] <u>落</u> 在此地。
周りの馬の足跡、わだち、人の足跡なども新しい。老人にかかっている雪の粉もまだ風に[317] <u>吹き飛ばされて</u> いない。	周围的马蹄印,车辙和人的脚印还很新鲜,连雪沫都还没有[318] <u>被风吹尽</u> 。
老人は赤子のようなおっとりした顔つきで雪の上に仰向けになっている。全身は雪の粉でうっすらと[319] <u>覆われ</u> 、顔はまるで薄いガーゼがかけられているかのようで、のびやかで敬虔な表情であった。	老人如赤子般安详,仰卧在雪地上,全身[320] <u>覆盖着</u> 一层薄薄的雪沫,脸上像罩着一层白纱,面容显得舒展和虔诚。
そこを歩いて測ってみると、死者の最後の道のりはおよそ四、五十メートル続いていた。この距離には、草原に生きた人間の波乱万丈の一生が[321] <u>凝縮</u> されているようだ。	陈阵用自己的步幅大致量了量死者的最后一段,大约有40—50米,它[322] <u>浓缩</u> 了草原人动荡、坎坷的人生旅程。

<p>赤ちゃんオオカミの毛皮はめずらしく、やわらかくてきれいなので、女性の高級毛皮コートに[323]使われる。</p>	<p>轻柔漂亮, 高贵稀罕的狼崽皮, 是[324]做女式小皮袄的上等原料。</p>
<p>西のだいたい色の夕日はまだ完全に[325]さえぎられていない。北風は降りつつ雪を巻きこみながら、たちまち、広いオロン草原を一掃した。</p>	<p>西边橙黄的落日还未[326]被遮没, 裹携着密密雪片的北风, 顷刻就扫荡了广袤的额仑草原。</p>
<p>横殴りの雪は斜陽に[327]照らされて、まるで億万匹の飢えたイナゴのように、黄色い羽を広げ、遅れをとるまいと争いながら肥沃で豊かな牧場へ飛び込んできた。</p>	<p>横飞的雪片, [328]在斜射的阳光照耀下, 犹如亿万饥蝗, 扇着黄翅, 争先恐后地向肥美富庶的牧场扑来。</p>
<p>モンゴルでは昔から、「オオカミは風とともに走り回る」と[329]いわれている。</p>	<p>蒙[330]谚: 狼随风窜。</p>
<p>ここ数十年来、国境の内外でゲリラ戦を繰り広げているオロン草原のオオカミの群れが、このめったにやっこない春の寒波とともに、[331]境界に立てられた標木を越え、防火道を飛び越し、国境警備のパトロールの道路を突破して、勢いよくオロン草原にもどってきた。</p>	<p>几十年来一直在国境内外运动游击的额仑草原狼群, 随着这场机会难得的倒春寒流, 越过[332]界桩, 跃过防火道, 冲过边防巡逻公路, 杀回额仑边境草原。</p>
<p>この年、国境内のオオカミが雪の下に貯えた肉は[333]盗まれてしまったが、国境外の飢饉はもっと厳しい。</p>	<p>这年境内狼群的雪下冬储肉食[334]被盜, 境外春荒加剧。</p>
<p>[335]風のあたる場所に張られたパオは[337]吹き倒され、大きな碗のような形になって、何回かぐるぐる回転する</p>	<p>[336]风口处的蒙古包, [338]被刮翻成一个碗, 转了几圈便散了架。</p>

と、バラバラになって飛んで行った。	
粉雪はまるで機械から[339]噴射された砂礫のように、びゅうびゅうとものすごい速さで飛び交い、それが無数の飛行機雲をつくって、空いっぱいに白髪が舞い上がっているようだ。	雪粒像砂枪[340]打出的砂粒，嗖嗖地高速飞行，拉出亿万根白色飞痕，仿佛漫天白毛飞舞。
老人の話では、おおむかし、あるモンゴル人のシャーマンが、雪嵐は白髪の妖怪が髪の毛をふり乱して暴れているのだぞといったことから、「白毛風」と[341]呼ばれるようになったという。	老人说，蒙古古代有一个萨满法师曾说，白毛风，白毛风，那是披头散发的白毛妖怪在发疯。白毛风有此言而[342]得大名。
徹夜でオオカミの巣を掘ろうとしていた人々は、遠い山に[343]閉じ込められ、動きがとれなくなっている。	准备夜战继续开挖狼洞的人们，[344]被困远山，进退两难。
この年の春に、[345]掘り出されたオオカミの赤ん坊は特別に多く、十数個の巣から百匹あまり捕まえていた。	今年春天[346]被掏出狼崽格外多，不下十几窝，一百多只。
風の音がすると、[347]牧草地に張られた放牧用の簡易パオから、バドが腰を曲げてすばやく飛び出した。	风声一起，巴图立即弓身冲出[348]马倌远牧的简易小毡包。
もう何日も続けて夜番をしてきたけれど、なかなか眠れなくて、一日中、目を開けている。馬の群れのなかで育ったバトは、雪嵐やオオカミに数えきれないほどひどい目に[349]遭わされている。	这个白天本来轮到他休班，巴图已经连续值了几个夜班，人困马乏，但他还是睡不着，一整天没合眼。在马群中长大的巴图，不知[350]吃过多少次白毛风和狼群的大亏了。
ベテランの馬飼いはだれも血で[351]書かれた草原の箴言をおぼえている。「モンゴル草原では、平安の後に平安	大马倌们都记得住血[352]写的草原箴言：在蒙古草原，平安后面没平安，危险后面有危险。

<p>がなく、危険の後に危険がある」</p>	
<p>明りのなかには[353]びっしり降りつづける雪が映し出されている。しばらくすると、明かりのなかに雪で全身が真っ白になった人と馬が現れ、バトにもぼんやりした明かりをあてている。</p>	<p>光柱里[354]全是茂密横飞的白毛，不一会，一个雪人雪马出现在光柱里，也向巴图照射过来一个惨白模糊的光柱。</p>
<p>オロン草原の遊牧民なら、だれでも最後は天葬に[355]されてオオカミの腹に入る。死ぬ前には自分も望み、死後はその死体がオオカミによってきれいに[357]処理され、魂が天に帰ることを家族も親族も友人も望んでいる。</p>	<p>虽然，额仑草原每一个牧民最终都将[356]天葬于狼腹，临死前自己盼望，死后家人亲朋也盼望尸身[358]被狼群处理干净，魂归腾格里。</p>
<p>しかし、それにもかかわらず、健康であらうとなかろうと生きている人間はみなオオカミを恐れていて、自分の寿命が尽きる前に、オオカミに[359]噛まれて死にたいなんて思っていない。</p>	<p>但是，每个还健康半健康活着的人却都怕狼群，都不肯在自己寿期未尽之时就[360]让狼咬死吃掉。</p>
<p>おそらく雪嵐で凍傷を負って、肝がつぶされた馬に[361]つれていかれたのだらうと思った。</p>	<p>巴图和沙茨楞迟迟不见另外两个马倌，估计他们可能被白毛风冻伤，[362]被吓破了胆的坐骑带走。</p>
<p>馬の群れがバトの懐中電灯の明かりに[363]照らされながら狂奔している。</p>	<p>马群还[364]在巴图打出的光柱里狂奔。</p>
<p>七、八十頭の軍馬の予備軍は、牧場の[365]十数の馬の群れからえられ、十数人の馬飼いが心血を注いで育てた結晶でもある。この馬たちは血統が高貴な純血種のもので、歴史的にもモンゴルの軍馬の中でもっとも名の[367]知られているウジュムチン馬で、突厥馬</p>	<p>七八十匹准军马，那可是全场[366]十几个马群和几十个马倌的心肝肉尖——它们血统高贵，马种纯正，是历史上蒙古战马中[368]闻名于世的乌珠穆沁马，[370]史称突厥马。</p>

とも[369]呼ばれていた。	
ふだんは、こういう馬はみんなベテランの馬飼いか牧場本部の幹部たちが乗ることになっているが、今回は戦争の準備のために民兵の騎兵師団に[371]回される。牧場本部としては不満であってもなにもいえない。	平时这些马大多是那些大马倌和场部头头们的坐骑。这次为了战备，[372]调拨给民兵骑兵师，牧场有苦难言。
もしこの馬の群れが、オオカミに[373]食われたり、湖に溺死するようなことになったら、あの馬飼いたちはオオカミのようにバトを引き裂くにちがいない。	这群马一旦[374]喂了狼，或是淤死在水泡子里，那些马倌还不像狼一样，非得把他撕了不可。
軍馬の群れは、背が高く胸が広く、みな[375]去勢されている。ふつうの群れのように妊娠している牝馬や子馬、年をとった馬	军马群，一色儿高头宽胸的[376]阉马，没有普通马群那些怀驹母马、生个子马、小马老马的拖累，马群的奔速极快，照这种速度用不了半个钟头，整个马群全得冲进烂泥塘里。
巢が[377]掘られて子どもを失ったメスのオオカミたちは、オオカミ王よりも殺気だっているようで、バトは火がついたように心がはやった。	巴图急得火烧火燎，他觉着那些[378]被掏空狼窝、失去狼崽的母狼们比狼王更疯狂。
かれはすでにオオカミたちに[379]取り囲まれていて、乗っている馬がいつ噛みちぎられるかわからず、[381]馬の前足をとられて、深い恨みを抱いて興奮しているオオカミの群れに突っ込んでしまうかもしれなかった。	他顾不上自己已[380]被狼群包围，顾不上狼随时可能撕咬他的坐骑，顾不上可能[382]马失前蹄摔到这些饥狼仇狼疯狼群中去。
馬の群れは懐中電灯の明かりに[383]誘われるように走っている。ぴったり	马群[384]在电筒光的引领下，在两个始终不离马群的马倌的[386]抽打吼叫

<p>とついてくる馬飼いに[385]たたかれ怒鳴られているうちに、徐々に意識がはっきりしてきて、分別もついてきたようだ。</p>	<p>下，渐渐恢复了神志，也好像有了主心骨。</p>
<p>突然リーダーがいなくて命令を発すると、馬たちは肩と肩をならべ、腹と腹をくっつけ、オオカミによって[387]乱された体形を迅速に隙間なく整えた</p>	<p>头马突然发出一声口令长嘶，原来已[388]被狼群冲乱的队形便突然向头马快速集中，肩并肩，肚靠肚，挤得密不透风。</p>
<p>数匹のオオカミは馬の群れに[389]もまれていたうちに、馬の腹の下に入り込んでしまい、柵のような馬の脚に前後左右を[391]囲まれ、逃げたくても出られない。</p>	<p>几条[390]被裹夹到马群中马肚下的狼，被栅栏一样的马腿前后左右密密[392]圈住，跳不出，逃不掉。</p>
<p>蹄の集団に踏まれて脚を引きずっているもの、[393]踏みつけられて背骨が折れたもの、[395]蹴とばされて、頭が切れたもの、怪我したオオカミたちのすさまじく泣き叫ぶ声は雪嵐より恐ろしい。</p>	<p>有的狼[394]被密集的马蹄踩瘸了腿、踩断了脊梁、[396]踢破了脑袋，发出凄厉的鬼哭狼嚎，比白毛风还要人。</p>
<p>バトはちょっとほっとした。少なくとも二、三匹のオオカミが馬の蹄に[397]やられて死んだか、怪我をしているようだ。風がやんで晴れたら、オオカミの皮を剥がしに来よう。</p>	<p>巴图稍稍松了一口气，他估计起码得有两三条狼[398]被马蹄踢死踢伤，他能记得这块地界，等风过天晴他就能回来剥狼皮了。</p>
<p>バトが馬の群れをみると、[399]噛まれて傷を負っている馬が少なくない。</p>	<p>巴图看了看马群，已有不少马[400]被咬伤。</p>
<p>しかし、この馬の群れには致命的な弱点がある。すべて[401]去勢されていて、獯猛で、積極的にオオカミを攻撃</p>	<p>可是，这群马却有一个致命的弱点，一色儿都是[402]驢马，而缺少凶猛好斗，能主动攻击大狼的儿马子（雄种马）。</p>

<p>する種牡がいけないことである。</p>	
<p>オオカミに出会うと、馬の群れはただちに種牡に[403]リードされて円陣を組み、牝馬と子馬がなかに、大きな馬が外側に、そしてすべての種牡が輪のいちばん外側で、真正面からオオカミと肉薄した戦いをくりひろげる。種牡たちは長いたてがみをふりまわし、鼻から荒い息を吹き出しながら、後ろ足で立って大声でいななくと、オオカミの頭上めがけて小山のように襲いかかり、いっきに上半身を下ろして、大きな前足でオオカミの頭と体をたたき割るのである。</p>	<p>一遇到狼，马群立即[404]在儿马子的指挥下围成圈，母马小马在内，大马在外，所有儿马子则在圈外与狼正面搏斗，它们披散长鬃，喷鼻嘶吼，用两个后蹄站起来，像座小山一样悬在狼的头顶，然后前半身猛地向下，用两只巨大的前蹄刨砸狼头狼身。</p>
<p>しかし、目の前の雪嵐のなかを走っている急場しのぎのリーダーも、群れのすべての馬も、みな[405]去勢されていて、力強くてたくましいが、オスをなくしてしまって、攻撃的ではない。</p>	<p>可是眼前白毛风里的这匹临时头马，和马群里所有的马却都是[406]阉马，虽然体壮有力，但雄性已失，攻击性不强。</p>
<p>こんな事故が起こるはずはないのに、[407]なんとという隙に乗じてやられてしまったことか。バトはオオカミ王の眼力に感心せずにいられない。おそらくとっくに種牡のいない群れだと気づいたのであろう。</p>	<p>这几乎不可能出岔子的事情，竟然还是[408]让狼钻了空子，巴图不得不佩服狼王的眼光，它大概早就发现了这是一群没有儿马子的马群。</p>
<p>どの馬も不安そうな目を見開いて、うつむいたまま猛烈に走り、口で大きく息をしている。そのうち、いななきも聞こえなくなって、馬の群れは死とか</p>	<p>每匹马都瞪着凄惶的大眼睛，低头猛跑，大口喘气，一声马嘶也听不见了，马群中[410]笼罩着跟死亡赛跑一样的紧张和恐怖。</p>

<p>けっこしているような緊張と恐怖に [409]包まれた。</p>	
<p>オオカミは追い風に乗って、走るのが遅くなった馬を追って行けば、体を斜めにして、飛びかかるようなことしなくても、馬の横からまっすぐに飛び上がれば、強い風に[411]吹かれて、うまい具合に馬の背中や体や首に乗っかることができる。</p>	<p>狼群顺风追慢马，用不着侧身斜扑，只要狼在马侧面直身一跃，狂风就正好 [412]将狼刮到马背、马身或马颈上。</p>
<p>馬がいったん転がって横になれば、どっと集まってくるオオカミたちに [413]食いちぎられるからだ。</p>	<p>它一旦滚躺下来，一群狼就会一拥而上 [414]把它撕碎。</p>
<p>馬の群れから甲高いいななきがあがってきた。馬は一頭、また一頭と体の横からあばらや胸を[415]噛まれて、血が噴き出し、皮や肉が飛び散っている。</p>	<p>马群发出凄厉的长嘶，一匹又一匹的马 [416]被咬破侧肋侧胸，鲜血喷溅，皮肉横飞。</p>
<p>残酷な草原では、万年来の残酷が[417]くりかえされ、オオカミたちはモンゴル草原の薄い草の上で、無数の生霊を丸呑みにし、無残の血の跡を代々刻んでいる。</p>	<p>残酷的草原，[418]重复着万年的残酷。狼群在薄薄的蒙古高原草皮上，残酷吞噬着无数鲜活的生灵，烙刻下了一代又一代残酷的血印。</p>
<p>青白くぼんやりした懐中電灯の明かりの下で、二人の馬飼いはほとんど毎年のように[419]おこなわれる草原の虐殺をふたたび目撃することになった。</p>	<p>在惨白模糊的电筒光柱下，两个马倌又一次目击了几乎年年[420]都有的草原屠杀。</p>
<p>まもなく兵役に服そうとしていたこの馬の群れは、オロン草原の誇りと名誉を代表した名馬であり、[421]くりかえされた草原の虐殺のなかでオオカミの</p>	<p>但这一次令人更加不能接受，因为这是一群马上就要参军入伍，代表额仑草原骄傲和荣誉的名马，是从[422]二次二次草原屠杀中狼口脱险的运气好马，也</p>

<p>口から逃れた好運の馬であり、馬飼いたちが長年、命がけで育ててきた、目に入れてもいたくない子どもである。</p>	<p>是马倌这么多年拼死拼活，提心提命养大的心肝宝贝。</p>
<p>それなのに、こうして目の前で[423]殺されて、[425]乱暴にされているのを見ているだけでどうすることもできないなんて。バトとラスランは泣くに泣けなかった。</p>	<p>就这样眼睁睁地看着狼群连[424]杀带[426]糟蹋，巴图和沙茨楞连哭都哭不出来，他俩全身憋满的都是愤怒和紧张，但他们必须忍住、压住、镇住，竭力保住剩下的马群。</p>
<p>オロン草原をよく知り、用心深いオオカミ王が率いるこの群れは、長年の経験からふつうではない気がして、バトは心配でたまらない。オスオオカミは食糧の肉を[427]盗まれて怒り狂っているし、子どもを失ったメスオオカミは命知らずになっている。しかし、オオカミ王は冷静だ。</p>	<p>巴图越来越揪心，以他多年的经验，他感到这群狼绝不是一般的狼群，它们是由一条老谋深算、特别熟悉额仑草场的狼王率领的狼群，那些怀恨肉食[428]被盗的公狼疯了，丧子的母狼们更是疯得不要命了，可是，狼王却没有疯。</p>
<p>しかし、オオカミは牙をもたなければ、草原での生殺与奪の権を根本から[429]剥奪されることになる。殺すことと食うことを天命とするオオカミにとって、牙がなければ、命がないのも同然だ。</p>	<p>但如果狼没了狼牙，就从根本上[430]剥夺了它主宰草原的生杀大权，更遑论狼以杀为天，还是狼以食为天了。</p>

<p>その後、[431]残された唯一の道は死であり、ゆっくり痩せ細って死んでいくのである。凍死、餓死、憤慨死、心労死。</p>	<p>它以后只[432]剩下一条路——死亡，慢慢瘦死、冻死、饿死、气死、窝囊死。</p>
<p>馬の群れが一頭、また一頭と [433] 殺されて血なまぐさい風が吹くなかで、バトはこのような手酷いやり方でオオカミを殺してしまいたかった。オオカミにも草原の人間の凶悪さと残念さを味わわせてやる。</p>	<p>巴图在马群一匹又一匹 [434] 被撕裂的腥风中，恨不得就用这种剧毒的方式把狼杀掉一半，也让狼尝尝草原人的凶狠残忍。</p>
<p>この毒のある技は馬にとっても危険で命取りになる。オオカミを蹴り落とせなければ、オオカミの重さで落伍し、最後にオオカミの群れに [435] 囲まれて [437] 殺される。もし馬がオオカミを蹴られたにしても、オオカミの牙にかかる力を増すことになって、いっきに腹が [439] 引き裂かれて死んでしまう可能性がある。</p>	<p>这一毒招对马来说，更加凶险要命，它如果踢不掉狼，就会因负重而掉队，最后 [436] [438] 被群狼围杀；它如果踢中了狼身，却又给狼牙狼身加大了撕拽的力量，有可能被猛地 [440] 撕开肚皮，置自己于死地。</p>
<p>[441] 殺される馬の群れと自殺行為をおこなうオオカミの群れは、ともに痛ましい絶望のなかでぶるぶる震えている。</p>	<p>[442] 被杀的马群和自杀的狼群，都在凄惨绝望中颤抖。</p>
<p>下半身を [443] 蹴られてぐちゃぐちゃになり、馬から落ちてくるオオカミの大半はメスオオカミである。</p>	<p>[444] 被踢烂下身，踢下马的狼，大多是母狼。</p>
<p>一匹のオスオオカミが腹を馬の蹄で [445] 蹴られ裂けてしまって、雪の上で縮こまって恐ろしい形相で鳴いてい</p>	<p>一条 [446] 被马蹄踢破腹部，踢下了马的饿疯了公狼，龇牙咧嘴地蜷缩在雪地上嗥叫，可它还是拼命地用两条前</p>

<p>る。ところが、それでも二本の前足で一生懸命にもがきながら、倒れている馬に向かっている。まだ生きている馬を引き裂き、にくをのみこむのだ。絶対に最後までチャンスを放棄しない。</p>	<p>腿挣扎着，爬向倒地未死的马，撕咬生吞那匹囫圇个的大马，绝不放弃最后一次机会。</p>
<p>生きた馬の肉がオオカミに [447] <u>のみこまれ</u>、その肉が雪の上にも落ちている。腹の制限がなくなってしまったオオカミは、きっと世界で最も貪欲で、食欲旺盛で、一度でもっとも多くの馬肉をのみこんだオオカミにちがいない。</p>	<p>鲜活的马肉 [448] <u>被狼大口咽下</u>，直接吞到雪地上，没有肚皮容量限制的狼，一定是世界上最贪心、胃口最大的狼，也一定是一次吞下最多马肉的狼。</p>
<p>オオカミに横から腹を [449] <u>引き裂かれた</u>のは、でっぴりした太鼓腹の馬ばかりで、胃袋には草原の春の最初の青草と去年の秋の草がいっぱい詰まっていた。草は水分をたっぷり含んでいて重い。</p>	<p>而那些 [450] <u>被狼从肚侧大剖腹</u>的马，本来就是大腹便便的饱马，胃包里装满了草原春天的第一茬青草和上年的秋草，饱胀而饱含水份，下坠分量很重。</p>
<p>草を詰めこみすぎて腹の皮も薄くなっていたので、いったん、オオカミの牙で [451] <u>裂かれる</u>ると、大きな胃袋とやわらかく肥えた腸がいきなり雪の上に滑り落ちてくる。</p>	<p>被撑薄的马肚皮一旦 [452] <u>被狼牙豁开</u>，巨大的胃包和肥柔的马肠就呼噜一下滑坠到雪地上。</p>
<p>馬はオオカミに [453] <u>殺された</u>とはいえ、自殺ともいえるような死に様だ。</p>	<p>马虽然是 [454] <u>被狼他杀的</u>，但马也是半自杀的。</p>
<p>草原は殺戮の現場と化し、馬たちは自分の蹄に胸や腹を空っぽに [455] <u>ほじくり出され</u>、雪の上で痙攣しながらころげまわっている。熱い血、熱い空気</p>	<p>草原已成大屠场，一匹匹 [456] <u>被马蹄掏空胸腹</u>的大马，在雪地上痉挛翻滚，原本满腔热血热气的胸膛，刹那间，被灌满一腔冰雪。</p>

<p>がいっぱい満ちていた胸のなかは、あつという間に氷と雪でいっぱいになってしまった。</p>	
<p>しかし、馬の群れはオオカミに [457] <u>追い散らされ</u>、[459] <u>追い風に押され</u>て山が崩れたように必死に逃げている。肝をつぶした馬たちは南に湖があることさえ忘れたようで、最後の力を振りしぼり南へ向かった。</p>	<p>但马群已 [458] <u>被狼群冲散</u>，兵败如山倒，所有的马都 [460] <u>顺风狂逃</u>，吓破了胆的马已经忘记了南边还有泡子，都以冲刺的速度冲向大泡子。</p>
<p>人間に [461] <u>去勢され</u>、オスを [463] <u>えぐられた馬</u>たちが、たとえ生命の終点に来ていても、懸命に最後の反抗をし、集団自殺をもってオオカミたちの復讐と自殺的な進攻に反撃している。</p>	<p>这群 [462] <u>被人去了势</u>、[464] <u>剝去</u>了雄性的马群，即使已到生命的尽头，仍在拼死作出最后的反抗，以集体自杀来反击狼群复仇的自杀进攻。</p>
<p>ところが、一步、一步動くたびに馬の体と泥の隙間に雪と寒風が吹きこみ、馬が動くたびに泥沼は [465] <u>かきまぜられて</u>、さらにねばりが強くなっていった。</p>	<p>马群拼命地往泥塘深处爬、刨、拱。每挪一步，马身与泥浆缝隙里就 [466] <u>被灌进</u>更多的雪沙和寒风，整个马群将泥塘搅拌得更加寒冷和黏稠。</p>
<p>馬の群れは刑場の死刑囚のごとく、冷たくてねばねばする泥と、徐々に凍っていく泥沼とに、がんじがらめに [467] <u>縛り上げ</u>られている。</p>	<p>此刻，整个马群就像刑场屠场上的死囚，已<u>被</u>寒冷胶稠和渐渐冰封的泥塘五花大绑，[468] <u>捆得</u>结结实实。</p>
<p>死にたくても死ねない馬たちが望みが絶えて悲しくいななくと、[469] <u>氷と雪におおわれた泥沼</u>に白い息がのぼり、汗が凍って馬の毛に白い霜をさらにかぶせた。</p>	<p>欲死不得的马群哀伤绝望地嘶叫，[470] <u>冰雪泥塘</u>上腾起一片白茫茫的哈气，在结满条条汗冰的马毛上又罩上了一层白霜。</p>
<p>バトは力をいれて、黒馬の手綱をぎゅ</p>	<p>巴图用力地勒着马小心地跑到泡子边，</p>

<p>っと締めながら、注意深く湖のそばにやってきました。黒馬は泥水の氷をみると、たちまち [471] <u>恐怖に</u>かられ、鼻孔から息を吐き、頭をたれてしまった。緊張した目で [473] <u>氷と雪におおわれた泥沼</u>をみつめ、一步も前へ進もうとしない。</p>	<p>大黑马一踏到泥冰，立刻 [472] 惊恐得喷着鼻孔，低下了头，紧张地望着 [474] <u>冰雪泥塘</u>，不敢再往前迈一步。</p>
<p>バトは、馬を降りて馬の群れのそばへいき銃で馬たちを守りたかったが、もし馬から降りて、馬を離れることになれば、オオカミの群れに [475] <u>囲まれ</u>たときに、上から馬棒をふりまわしたり、黒馬の蹄鉄で蹴ったりすることができなくなる。オオカミもかれを恐れることなく、人も馬もオオカミに [477] <u>引き裂かれる</u>だろう。</p>	<p>巴图很想下马，他想爬到马群旁边用枪来守护马群，但是，他如果下了马，人马分离，[476] <u>陷到</u>狼群里，就会失掉了居高临下挥舞马棒和大黑马铁蹄的优势，狼群也就不怕他了，人马都会 [478] <u>被狼群撕碎</u>。</p>
<p>白くて長い髪をした大勢の人食い野蛮人が、輪のなかのかがり火と [479] <u>縛られた</u>野獣と人間を囲んで、大喜びして歌ったり踊ったり、食っては飲んで、宴を楽しんでいるようだ。</p>	<p>就像一大群长毛白发的野蛮土著食人番，围着圈中的篝火和 [480] <u>捆绑的</u>活兽活人，狂歌狂舞、开胃开怀、欢心欢宴。</p>
<p>嗅覚が異常に鋭い黒馬は粉雪に [481] <u>吹かれて</u>おびえあがっている。とぎれとぎれにがくがく震えながら、頭を垂れて悲しそうに泣いている。</p>	<p>嗅觉异常灵敏的大黑马 [482] <u>被雪砂</u>卷得浑身战栗，断断续续，哆哆嗦嗦地低头哀嘶。</p>
<p>早春の暖かい空気が雪原の表面からゆったりと煙のように昇って霧となり、 [483] <u>風に吹かれて</u>ゆらゆらと揺れている。</p>	<p>早春温暖的地气悠悠浮出雪原表面，凝成烟云般的雾气，[484] <u>随风</u>轻轻飘动。</p>

<p>バトの顔一面に薬が [485] <u>塗</u>られているが、悲惨な凍傷の傷は隠せない。</p>	<p>巴图脸上 [486] <u>涂</u>满了油膏，仍然遮不住被冻得惨不忍睹的脸面。</p>
<p>バトは、雪嵐が一晩中吹き荒れた次の日の昼、湖の南側にある朽ちかけた囲いの裏で、ラースランに [487] <u>み</u>つけられた。</p>	<p>巴图是在白毛风刮了一夜半天以后，<u>被</u>沙茨楞在大泡子南边一个破圈后面 [488] <u>找</u>到的。</p>
<p>二人の馬飼いは全身が凍傷にかかっているのにもかかわらず、[489] <u>監禁</u>され、審査を受けている。</p>	<p>另外两个马倌，虽然浑身都被冻伤，但仍 [490] <u>被</u>隔离审查了。</p>
<p>「ぼくたちの生産隊の人は、ほとんどがバトはよくやったと思っています。今回は風も雪もひどく、そのうえ [491] <u>オオカミにや</u>られて、だれが代わってもだめでしたよ。バトを処分すべきではありません。でも、天災を利用して反解放軍、反革命の [493] <u>破壊活動</u>が行われた可能性があるから、四人の馬飼いの出身を調べる必要があると主張した人もいました。」</p>	<p>咱们队的知青大多数认为巴图是好样的，这次风灾雪灾加 [492] <u>狼灾</u>太厉害，换了谁也顶不住，不能处分巴图。可也有人说，这可能是有人利用自然灾害 [494] <u>搞</u>破坏，反军反革命，一定得先查查四个马倌的出身。</p>
<p>しかし、あたりには一滴の血もなく、[495] <u>暗い夜に覆い隠された血</u>なまぐささは、さらに三十センチあまりの雪に [497] <u>覆</u>われている。少なくとも、馬の頭ぐらいは湖面に出ているもおかしくないが、それもない。</p>	<p>然而一滴血也看不见，一尺多厚的白雪已 [496] <u>将黑夜所遮盖的血腥</u>重又 [498] <u>覆</u>盖了。至少应该有突出于湖面的马头吧，但是也没有。</p>
<p>湖面には起伏しながら延々と続く雪の吹き溜まりしかなく、吹き溜まりと吹き溜まりの間の雪が厚くて、その後ろ側は雪が風に [499] <u>削</u>り取られて坂の</p>	<p>湖面上只有一片连绵起伏的雪堆，雪堆之间的雪特别厚，雪堆后面又拖着 [500] <u>被</u>风雪刮出的一条条雪坡，把本来应该非常突出醒目的马尸雪堆抹</p>

<p>ようになり、本来、目立つはずの馬の死体にたまった雪の吹き溜まりは平たくなっている。</p>	<p>平了。</p>
<p>ラスランがひざで馬を急がせて近づいてきた。そして、不服をとなえた。「あの牧草地で放牧するように、牧場本部から [501] <u>いわれた</u>んです。牧場のなかではあそこの秋草がいちばん多く残っていて、春草も早く生えるとも [503] <u>いわれました</u>。」</p>	<p>沙茨楞磕了磕马肚，靠上去不服气地说：是场部 [502] <u>让我们把马群放到</u>那块草场的，还 [504] <u>说全场就数那</u>儿的秋草剩得多，春草也长得早。</p>
<p>「いちばん奥の馬たちが、オオカミに [505] <u>噛まれて</u>死んだのかどうかをみれば、このオオカミの群れのすごさがわかる。」</p>	<p>老人说：只要看紧里面的几匹马是不是 [506] <u>让狼咬死的</u>，就知道这群狼有多厉害了。</p>
<p>もしあの馬たちがオオカミに [507] <u>噛まれて</u>死んだのなら、このオオカミたちがいかにすさまじかったかということだ。</p>	<p>要是那几匹马也 [508] <u>让狼咬死</u>，你说那狼有多厉害。</p>
<p>銃声は雪嵐に [509] <u>消されて</u>しまった。</p>	<p>白毛风 [510] <u>把枪声全刮碎了</u>。</p>
<p>大きな白馬の首が半分 [511] <u>噛み切ら</u>れていて、しかも一周半ほど [513] <u>ねじられ</u>、曲がったまま背中に傾いている。</p>	<p>大白马的脖子 [512] <u>被咬断</u>一半，并 [514] <u>被拧</u>了一圈半，歪倒在马背上。</p>
<p>馬の目が飛び出して、透明の黒い卵のように凍っている。そのときの、恐怖におののいて絶望した表情がすべてその目に [515] <u>凝縮</u>されていて、このうえなく恐ろしい。</p>	<p>马眼突兀，已冻成透明的黑冰蛋，大白马当时的绝望恐惧的表情 [516] <u>被全部冻凝</u>在里面，异常恐怖。</p>
<p>この馬は [517] <u>噛まれた</u>というより、</p>	<p>陈阵觉得，马身不像是 [518] <u>被咬过</u>，</p>

<p>まるで腹のなかで爆弾が爆発したんじゃないかと陳陣は思った。</p>	<p>倒像是被炸弹从马肚里面炸开过一样，</p>
<p>氷のうえには、[519] <u>もぎとられた足</u>や折れた骨、皮の端くれや毛が散らばっている。</p>	<p>冰面上一片 [520] <u>残肢断骨</u>，碎皮乱毛，</p>
<p>「湖の真ん中に入った馬でさえ、ここまで [521] <u>かみちぎられている</u>のだから、ほかの馬はもう見る必要がない。五体満足な死体は一つもないんじゃないか。」</p>	<p>「连最头里的这匹马都 [522] <u>咬成</u>这碎样，别的马我也不用看了，准保一个全尸也剩不下。」</p>
<p>中国では、トラ、ヒョウ、ヤマイヌ、オオカミが猛獣と [523] <u>されている</u>が、トラとヒョウは希少動物で、群れをつくらないし、事故の事例も少ない。</p>	<p>在中国，人们 [524] <u>常说的</u>猛兽就是虎豹豺狼，但是虎豹是稀有动物，不成群，事例少。</p>
<p>人々は惨状を目のあたりにして、みんなあつげに [525] <u>とられて</u>放心状態である。</p>	<p>所有的人都 [526] <u>被眼前的惨景</u>惊呆了。</p>
<p>自分たちのうちのだれかが雪嵐のなかでこのオオカミの群れに遭遇したら、どんな結果になるのか、[527] <u>ばらばらにされた</u>軍馬と同じではないかと、知識青年たちはまっさきに考えた。</p>	<p>我们中间的任何一人，假如在白毛风中碰上这群狼那会是什么结局？难道就像这群 [528] <u>被狼分尸的</u>军马一样？</p>
<p>一つの穴に何十人の命が [529] <u>埋められた</u>んだよ。</p>	<p>一个大坑就 [530] <u>対応なし</u>几十条命，</p>
<p>ウリジーは話した。「この大事故をすべてオオカミのせいにはいけない。オオカミは最後の餌を [531] <u>奪われ</u>、子オオカミを [533] <u>殺されて</u>、人間に報復しないわけがないだろう。」</p>	<p>这次大事故也不能全怪狼，人把狼的救命粮 [532] <u>抢走了</u>，又 [534] <u>掏了</u>那么多的狼崽，狼能不报复吗？</p>

<p>オオカミも命が惜しいから、窮地に [535] <u>追い込まれ</u>なければ、危険を冒してまで人間とは戦わないだろう。</p>	<p>狼惜命，不 [536] <u>逼急</u>了它们不会冒险跟人斗的，</p>
<p>百害あっても、無数の畑と命が [537] <u>のみこまれて</u>も、中華民族は黄河が母なる河であることを否定しない。</p>	<p>中华民族并没有因为黄河百害、[538] <u>吞没</u>了无数农田和千万生命，而否认黄河是中华民族的母亲河。</p>
<p>「百害」と「母親」は共存しているようだ。肝心なことは、百害をもつ母親がこの民族を養育しているかどうか、この民族の生存と発展を支えているかどうかということであろう。こうみると、草原民族のオオカミ・トーテムもまた中華民族の母なる河のように [539] <u>尊重される</u>べきである。</p>	<p>看来“百害”和“母亲”可以并存，关键在于“百害的母亲”是否养育了这个民族，并支撑了这个民族的生存和发展。草原民族的狼图腾，也应该像中华民族的母亲河那样 [540] <u>得到尊重</u>。</p>
<p>オロン草原のオオカミがこれほど凶暴残酷で、たくさんの馬がこれほど [541] <u>噛みちぎられる</u>と思ってもみなかっただろう。</p>	<p>他根本没有料到额仑草原的狼会这么厉害凶残，也不会想到这么大的一群马会 [542] <u>被狼啃咬成碎片</u>，</p>
<p>しばらくすると、人々はオオカミの群れに [543] <u>踏み固められた</u>雪の道を見つけた。泥水が凍った上に、指四本ほどの厚さにしっかりと [545] <u>踏みしめられて</u>いて相当に硬い。</p>	<p>过了一会儿，人们找到了一条 [544] <u>被狼群踩实的</u>雪道，足有四指厚，相当硬，死死地 [546] <u>冻趴</u>在泥冰上，</p>
<p>「春の飢饉を切り抜けるオオカミの餌ぜんぶ奪いやがって、オオカミたちも窮地に [547] <u>追い込まれた</u>んだよ。」</p>	<p>场部那帮盲流真不是东西，把狼打下的春天度荒的活命粮全抢走了，狼群 [548] <u>逼得急了</u>。</p>
<p>「本部はまともな仕事をしないといけないな。オオカミ狩りをやるべきだ。いまやらないと、今度は人が [549] <u>食</u></p>	<p>场部也该干点正事，组织几次打狼运动，再不打，狼要 [550] <u>吃</u>人了。</p>

われるぞ。」	
「無責任なことを言うな。[551] <u>批判</u> されたいのか。」	别乱说，你想 [552] <u>挨批斗</u> 啊。
人々の前で馬の死体がまた [553] <u>発見</u> された。	在人们面前又 [554] <u>发现</u> 了马尸。
二頭の馬の姿が徐々に現れてきた。どの馬の腸、胃、心臓、肺、肝臓、腎臓も、自分の後ろ足に [555] <u>踏みつぶ</u> されてぺちゃんこになり、ちぎれていて、だらだらと数十メートルも [557] <u>引きず</u> られている。	两匹马渐渐露了出来，每匹马的肠子、胃包、心肺肝肾，都 [556] <u>被</u> 自己的后蹄 <u>踩断</u> 、 <u>踩扁</u> 、 <u>踩碎</u> ， <u>沥沥拉拉</u> [558] <u>拖</u> 了几十米。
オオカミに腹を [559] <u>切り裂</u> かれて死んだこの二頭の馬は、湖のなかで死んだ馬たちより惨めで恐ろしい思いをしていただろう。	然而，陈阵一边挖，一边却感到这些 [560] <u>被狼剖腹残杀</u> 的马，比泡子里的马死得还要惨，还要吓人，死马的眼里所冻凝的痛苦和恐惧也比泡子里的马更加触目。
一人の人間、一つの民族が死んでも屈服せず敵と共倒れになってもかまわないという精神をもたなければ、他人に [561] <u>統治</u> され、 <u>奴隷</u> のように [563] <u>酷使</u> されるしかないでしょう。	一个人一个民族要是没有宁死不屈，敢与敌人同归于尽的精神，只能 [562] <u>被人家统治</u> 和 [564] <u>奴役</u> 。
バトは鉄の箍をはめた馬棒を取り出して包順貴にみせた。「この馬棒でオオカミの四本の牙をたたき折って、もう一匹の鼻をたたきつぶしてやりました。そうしなきゃ、こっちがオオカミに [565] <u>食いちぎ</u> られてしまいましたよ。」	巴图拿起那根铁箍马棒，伸出来给包顺贵看：我用这根马棒打断一条狼的四根牙，打豁了一条狼的鼻子。要不我也得 [566] <u>让狼撕碎</u> 了。
包順貴はウリジーに話した。「草原で牧	包顺贵对乌力吉说：看来在草原上搞牧

<p>畜業をやるには、オオカミも兵法もよく研究しないと、いっぱい [567] <u>食</u>わされてしまう。」</p>	<p>业，还真得好好研究狼，研究兵法，要不真得 [568] <u>吃</u>大亏。</p>
<p>もしかしたら、かれらはオオカミの知恵と馬のスピードによって、オオカミの素質と性格によって、およびオオカミ・トーテムによってえられた栄養と、[569] <u>呼</u>び起された勇猛果敢、な民族精神で成し遂げたのではないだろうか。</p>	<p>难道他们靠的是狼的智慧和马的速度？狼的素质和性格？以及[570] <u>由</u>狼图腾所滋养和激发出来的强悍民族精神？</p>
<p>ところが、狩りでは、人間が主動的な立場に立ち、ほとんどの動物は [571] <u>捕</u>獲されて [573] <u>殺</u>される立場にある。野ウサギやタルバガンや黄羊を狩るのも完全に弱いものいじめで、食うか食われるかの対抗はまったくなく、狩りは狩りで戦争ではない。</p>	<p>而打猎，人完全处于主动，绝大部分动物都处于 [572] <u>被</u>猎 [574] <u>杀</u>的地位。打野兔、旱獭、黄羊，也是打猎，但这完全是以强凌弱，绝无你死我活的对抗，仅仅是打猎而不是战争。</p>
<p>今までの教科書には、遊牧民族の卓越した軍事的才能は狩りからえたものと [575] <u>書</u>かれているが、陳陣は心のなかでこの説を否定した。</p>	<p>以前的教科书 [576] <u>認</u>为，游牧民族卓越的军事技能来源于打猎——陈阵已在心里否定了这种说法。</p>
<p>そのうえ、モンゴル人は長い間、残酷な部族紛争、民族戦争と侵略戦争をくりかえし、それによって戦争に関する才能が絶えず [577] <u>強</u>化され向上していった。</p>	<p>再加上游牧民族长期残酷的部落战争、民族战争和侵略战争，使他们的战争才华不断 [578] <u>得</u>到强化和提高。</p>
<p>周、春秋、戦国、秦、漢、唐、宋の歴史からみれば、中国は人口や国力では絶対的に優勢を占めていた農業文明の大国であったのに、いつもモンゴル草</p>	<p>从周、春秋战国、秦汉唐宋的历史来看，那些在人口和国力上占绝对优势的农业文明大国，却经常 [580] <u>被</u>蒙古高原的游牧小民族 <u>打</u>得山河破碎，丧权辱</p>

原の小さな遊牧民族の攻撃によって山河は荒廃し、主権を失い、国を[579]辱められてきた。	国。
中国の最後の封建王朝である清朝も遊牧民族によって[581]つくられたのである。	中国的最后一个封建王朝清朝也[582]是游牧民族建立的。
草原では、オオカミに[583]噛み殺されたすべての羊の首の両側に、それぞれ二つの穴が[585]開けられ、計四つの穴がある。	这种血洞太熟悉了，草原上，所有[584]被狼咬死的羊脖子两侧都[586]有两个血洞，一共四个，
ビリグーじいさんはいった。「このオオカミは馬に[587]蹴られて重傷になって、馬の肉を腹いっぱい食べた別のオオカミに[589]噛み殺されたのだろう。」	老人说：马没把这条狼踢死，只是[588]踢成了重伤，这条狼是[590]让吃饱马肉的另一条狼咬死的。
このオオカミは馬に[591]蹴られて腹が裂けて、すぐには死ななかったが、そう長くは生きられなかったのだろう。	这条狼[592]让马踢破肚子，死，一下子死不了，活又活不成，
オオカミは死んでも[593]辱められたくない硬骨漢だ。ボスは自分の兄弟や子どもが[595]侮辱されるのを目にしたくないのだろう。	狼是宁死也不愿[594]受辱的硬汉，头狼也不愿看自己的儿女[596]受辱。
重要な点は、ボスがきっぱりと重傷兵を殺すことなんだ。そうすれば、群れの負担が[597]減らされるし、機敏さ、速度と力が[599]保たれる。	很重要的一条就是头狼会干脆地杀掉重伤兵，可是这样一来也就[598]减轻了狼群的负担，[600]保证了整个队伍的精干快速有力。
「牝牛が牝の子牛を生むのは、三年間で五頭ぐらいと[601]言われるが、メス	[602]対応なし母牛下母牛，三年见五头。母狼下母狼，三年该是多少呢？我

オオカミがメスの子を産むのは、三年間で何匹になるかな。最低でも一小隊分、二十一匹ぐらいか。」	看，至少一个排。
陳陣は矛先がビリグじいさんに[603]向けられているのを見て、急いでさげぎった。「ちょっといいすぎだぞ。」	陈阵一看他要把矛头[604]指向毕利格老人，就急忙打断他说：你这话太过头了吧。
第一次世界大戦、第二次世界大戦、数百万人、数千万人が[605]殺されたよ。	一战二战一[606]杀就是几百万，几千万。
陳陣はバト、ラースランについて、かれらの大事な宝物、馬捕り竿をさがしにいくことにした。馬に[607]蹴られたり[609]踏まれたり死傷したオオカミもさがしたい。	陈阵跟着巴图、沙茨楞去寻找他们的宝贝套马杆，也再想想找找[608]被马踢死[610]踩伤的狼。
モンゴル草原では、初冬に大規模なオオカミ狩りが[611]行われる。	在蒙古草原，大规模的围猎捕狼都选在冬初[612]対応なし
かつて、初冬のオオカミ狩りは、草原の族長、単于、可汗、大汗が部族の軍事訓練と実践演習を実施するために、伝統的に[613]おこなわれてきた。	初冬围猎打狼，也曾是草原上的酋长、单于、可汗、大汗对部族[614]进行军训和实战演习的古老传统。
オオカミの足が長い、降ったばかりの雪はべたっとして、足にくっついて速く走れない。馬の脚はもっと長いけれど、雪に[615]あまり影響されない。	狼腿虽长，但初踏新雪湿雪，拖泥带水跑不快，马腿更长就可[616]大赚便宜。
この数年間、オオカミたちはますます賢くなり、[617]年に一度捕まえられることがすっかりわかってきた。雪が積もりはじめ、牧草地が黄色から白色になると、さっさと国境を越えるか、深い山に入って黄羊や野ウサギを狩る	这些年狼更精了，[618]一年一打，倒把狼打明白了。狼一见新雪站稳，草场由黄变白，就一溜烟地跑过边境，要不就钻进深山打黄羊野兔，或缩在[620]大雪封山的野地里忍饥挨饿，靠啃嚼动物的枯骨和[622]晒干风干的腐皮臭

<p>か、あるいは [619] <u>大雪で山道が閉ざされた野原</u>で牙を食いしばって飢えを忍び、動物の白骨や、[621] <u>日と風にさらされた腐った毛皮</u>をかじるか、である。</p>	<p>毛度日。</p>
<p>これからは、われわれもオオカミのように、従来のやり方を変えて、[623] <u>決められたとおりでなく、なるべく不規則にやろう</u>。不意を突いて、急に狩りをはじめ、やめたとみせて、またはじめる。</p>	<p>以后咱得像狼一样，尽量减少[624] <u>常规打法</u>，要胡打乱打、出其不意，停停打打、打打停停，</p>
<p>狩りをはじめる前に、野原に [625] <u>設けられたオオカミバサミ</u>をはずさない と、犬が足を [627] <u>はさまれて</u>しまう。 だから、今回は狩りの前にオオカミバサミをつければ、いくら賢いボスオオカミでも [629] <u>だまされる</u>だろう。もし数匹のオオカミが [631] <u>はさまれて</u>しまえば、オオカミの群れはどうすればよいかわからなくなる。</p>	<p>从前，场部组织打狼，要带一大帮狗，就先得把 [626] <u>対応なし野地里的狼</u> 夹子起了，要不 [628] <u>夹断狗腿</u>谁都心疼。这回进攻前下夹子，再精的头狼也得 [630] <u>犯迷糊</u>。要是能 [632] <u>夹住几条狼</u>，狼群就得发晕，远远看着马肉，吃又不敢吃，走又舍不得走。</p>
<p>パオの屋根から出ているブリキの煙突が、肺病を患った病人のように苦しそうな呼吸をして、咳払いもしている。羊や牛の糞、草や毛が散らばっている地面に煙が [633] <u>吐かれて</u>いる。</p>	<p>蒙古包顶的铁皮烟囱像一个患肺气肿的病人，困难地喘气，还不时卜卜地咳几声，[634] <u>把烟吐到遍地</u>羊粪牛粪，残草碎毛的营盘雪地上。</p>
<p>まぬけな犬はキツネの大きなしっぽで [635] <u>はたかれて</u>脚を折ったり、やたらにキツネに噛みつき皮を穴だらけして、狩人にしよっちゅう [637] <u>叱られ</u></p>	<p>而那些赖狗，不是 [636] <u>被狐狸用大尾巴遛断了腿</u>，就是把狐狸皮咬开了花，常常把猎手气得 [638] <u>将狗臭揍一顿</u>。黄黄和伊勒见狼也不怵，能仗着</p>

<p>叩か<u>れている</u>。黄黄とイレーはオオカミも恐れず、機敏に動いてオオカミにからみつき、自分が [639] <u>噛まれない</u> ように注意しながら、噛んだりとびはねたりして、駆けつけてくる狩人とほかの犬たちのために時間を稼ぎ、戦機を逃さないようにする。</p>	<p>灵活机敏的身手跟狼东咬西跳，死缠活缠，还能不 [640] <u>让狼咬着自己</u>，为后面跟上来来的猎手和恶狗，套狼抓狼赢得时间创造战机。</p>
<p>春節（旧正月）が過ぎてから、イレーは六匹の子犬を産んだ。主子犬たちはビリグ、ランムザーブとほかの知識青年に一匹ずつ<u>つれて</u> [641] <u>いかれて</u>、三匹残った。</p>	<p>春节过后伊勒下了一窝小崽，共六只。其它三只 [642] <u>被</u>毕利格、兰木扎布和别的知青分别<u>抱走了</u>。现在只剩三只，</p>
<p>細やかな性格の楊克の、イレーと子犬たちのかわいがり方は度を越して、ほとんど毎日、イレーのために、肉のスープのなかに粟や細かく刻んだ肉をいれたおかゆを鍋いっぱいにつくっていた。そのため、食糧センターから知識青年のパオに [643] <u>配給された</u> 粟の大半を使ってしなう。</p>	<p>生性细致的杨克，宠爱伊勒和狗崽非常过分，几乎每天要用肉汤、碎肉和小米给伊勒煮一大锅稠粥，[644] <u>把粮站给</u> 知青包的小米定量用掉大半。</p>
<p>馬飼いたちはこの犬を知っていた。こいつは悪党で、羊を噛む癖があるから、飼い主に家から [645] <u>殴り出されて</u>、二年近くも野原をさまよっているという。</p>	<p>几个马倌都认得它，说这是条恶狗，有咬羊的恶习，[646] <u>被它的主人打出家门</u>，流浪草原快两年了，</p>
<p>その後、何度かこの黒犬をひきとってくれる人がいたが、またもや羊を噛んだりして、そのたびに [647] <u>殴られて</u> [649] <u>追い出されて</u> しまった。</p>	<p>后来它自个儿找了几户人家，也都因为它咬羊又 [648] <u>被打</u> [650] <u>出家门</u> 几次。</p>

<p>遊牧民たちはこの犬を追い出すように陳陣にすすめたが、かわいそうに思ったし、逆に [651] <u>好奇心を刺激される</u>のである。</p>	<p>牧民都劝陈阵把它打跑,但陈阵却觉得它很可怜,也 [652] <u>对它十分好奇</u>。</p>
<p>冬が過ぎたが、陳陣と楊克の羊はオオカミに [653] <u>獲られて</u> [655] <u>嚙まれる</u>ことが少なかった。</p>	<p>一冬天过去,陈阵杨克的羊群很少 [654] <u>被狼掏</u>、[656] <u>被狼咬</u>。</p>
<p>草原では犬の主な仕事は夜番、家の番、そして狩りである。昼間、犬は羊の放牧についていかない。しかも、春になって子羊のいる群れは石の囲いのなかにいるので、犬と羊は [657] <u>離されて</u>いる。</p>	<p>在草原上,狗的任务主要是下夜、看家和打猎。白天,狗不跟羊群放牧,况且春季带羔羊群有石圈,也 [658] <u>隔离</u>了狗与羊,</p>
<p>犬戎族のトーテムは犬であった。しかし、陳陣は合点のいかないところがあった。勇猛果敢な草原の民族がなぜ人類に [659] <u>ならされた動物</u>である犬を崇拜したのか。</p>	<p>犬戎族的图腾就是狗。陈阵常常疑惑:强悍的草原民族怎能崇拜人类的 [660] <u>驯化动物的狗</u>呢?</p>
<p>「二郎神」は人にかまってもらっても、ほかの犬たちから [661] <u>同情される</u>ことも必要としないようだ。何をほしがっているのかもわからないし、犬の仕事をし、食べ物をえて、[663] <u>人に</u> <u>かわいがられて</u>、なんの心配もなく過ごすという黄黄とイレ一のような生活に、どうしたらもどしてやれるのかと陳陣はいつも考えている。</p>	<p>它好像不需要人的爱抚,不需要狗的 [662] <u>同情</u>,陈阵不知道它想要什么,不知道怎样才能让它回到狗的正常生活中,像黄黄伊勒一样,有活干,有饭吃, [664] <u>有人疼</u>,自食其力,无忧无虑。</p>
<p>草原のオオカミはみな馬捕り竿に [665] <u>捕られて</u>窒息死した同類の惨め</p>	<p>草原狼都见过 [666] <u>被套马杆套住勒</u>死的狼的惨状。可能在狼的眼里,套马</p>

<p>な姿をみているだろう。オオカミの目には、馬捕り竿は長いへびか龍の神様のように恐ろしく映っているのかもしれない。</p>	<p>杆就像一条长长的蛇龙神那样可畏。</p>
<p>草原で昼間、一人で馬に乗って人気がない荒野や山奥を長時間歩くとき、手に馬捕り竿をもっていけば、老若男女を問わず、天のお守りをもっていると同様に、オオカミの目の前でも [667] <u>邪魔されることなく通れる</u>。</p>	<p>草原的白天，若在无人的旷野或深山长途走单骑，只要手握套马杆，不管男女老少，就如手持腾格里的神符一样，可以在狼的天下 [668] <u>通行无阻</u>。</p>
<p>そこで、馬に [669] <u>引っ張られ</u>、馬捕り竿は手から落ちて、馬に<u>もって</u>[671] <u>いかれる</u>。こうして何日間もかけてつくった馬捕り竿は馬に [673] <u>踏まれて</u>ばらばらに折れてしまう。</p>	<p>于是他常常 [670] <u>被马拽脱了手</u>，马 [672] <u>拖着杆子跑了</u>，不一会儿，费了几天的工夫做成的套马杆，就 [674] <u>被马一踩三截</u>。</p>
<p>馬捕り竿の使い方を練習するため、かれはいつも羊の群れのなかで羊を捕まえていたが、[675] <u>追いかけられた</u>羊たちはオオカミに遭ったように驚き、あるときはメスが流産しそうになって、ビリグじいさんに厳しく [677] <u>叱られた</u>。</p>	<p>为了练套技，他经常在羊群里练习套羊，追得羊群像遇到狼，[676] <u>追得母羊几乎流产</u>，[678] <u>让毕利格老人一通好训</u>以后才算罢休。</p>
<p>それ以来、かれは羊を捕らなくなった。その後、老人に [679] <u>言われた</u>とおりに、牛車の後ろの轆にかける練習しているうちに、馬捕り竿の使い方がずいぶん上達した。最近、陳陣ら三人の馬を取り替えることもできるようになって、かれらの難題が [681] <u>解決された</u>。</p>	<p>后来老人 [680] <u>让他先从套牛车后轆头开始练</u>，他的套技才大有长进，近来他已经可以替陈阵他们三个人换马了，这可 [682] <u>解决了一个大难题</u>。</p>

<p>かれらは馬の力を少しも惜しまず、どこにもすごい勢いで走っていく。どのパオにいても用を [683] <u>頼まれる</u>。馬を替えてほしいとか、手紙や荷物を届けてほしいとか、医者を呼んでほしいとか、うわさ話をききたいとか。また、馬飼いは娘たちの笑顔もいちばん多く目にするから、四、五頭の馬しかもっていないくて、情報にうとい羊飼いや牛飼いに死ぬほど [685] <u>うらやましが</u>られている。</p>	<p>马倌骑马几乎一天一换，甚至一天两换，从不吝惜马力，到任何地方都是一路狂奔，牛气烘烘。马倌到哪个蒙古包都有人 [684] <u>求</u>，求换马，求捎信，求带东西，求请医生，求讲小道消息。马倌也是收到姑娘们笑容最多的人，让那些只有四五匹专用马，消息闭塞的羊倌牛倌 [686] <u>羡慕得</u>要死。</p>
<p>とはいえ、馬の放牧は草原でもっとも困難で危険な仕事であるから、体が丈夫で、大胆で、機敏で、聡明で、警戒心が強く、飢えや渇き、寒さや暑さに耐えられえるようなオオカミか軍人の素質がなければ、生産隊から馬飼いとして [687] <u>選ばれない</u>。</p>	<p>但放马又是草原上最艰苦最凶险的工作，没有身强、胆大、机敏、聪明、警觉、耐饥渴、耐寒暑的狼或军人的素质，生产队里是不会 [688] <u>选</u>你当马倌的。</p>
<p>草原では、牛の放牧はいちばん楽な仕事と [689] <u>され</u>、草原の人々がいうには「県知事のポストをくれても牛飼いの仕事を変えない」。</p>	<p>放牛 [690] <u>是</u>草原上最舒服的活计，草原上的人说，牛倌牛倌，给个县官也不换。</p>
<p>パオの前で、馬のたてがみでつくった紐で一列につながれている子牛たちに、牝牛が時間通りにもどってきて乳を飲ませる。ただ、[691] <u>去勢</u>された牝牛が面倒で、草の肥えたところへいけば家にもどろうとしない。牛飼いの仕事で骨が折れるのは、牛をさがし、</p>	<p>小牛犊一个挨一个拴在家门前地上的马鬃绳旁，母牛会准时回来喂奶。只是 [692] <u>犍牛</u>讨厌，哪儿草好往哪儿跑，懒得回家，牛倌最辛苦的活也就是找牛赶牛。但牛犊起来，[694] <u>无论</u>怎么打，它都梗着牛脖子，哆嗦着眼皮，赖在地上就是不走，让人气得想咬牛。</p>

<p>牛を駆ることである。牛はいこじになると、[693] <u>どんなにたたかれても</u>、首をまっすぐにして、まぶたをぶるぶる震わせ、てこでも動かない。</p>	
<p>陳陣と楊克は同じ羊の群れを管理している。千七百頭あまりで、そのほとんどは全国に名の[695] <u>知られている</u>「オロン大尾羊」である。</p>	<p>陈阵和杨克合管一群羊，1700 多只。绝大部分是 [696] <u>闻名全国的额仑大尾羊</u>，</p>
<p>フビライが北京に入ってから皇族の食用羊としたそう。いまでも、中国の国家指導者が人民大会堂でアラビアやイスラムの国々の国家元首を招待するとき、「オロン大尾羊」が [697] <u>使われている</u>。</p>	<p>在古代，是皇家贡品羊，是忽必烈进北京以后亲点的皇族肉食羊。就是现在，国家领导人在人民大会堂，招待阿拉伯伊斯兰国家元首 [698] <u>所用的羊肉</u>，也是额仑大尾羊，</p>
<p>綿羊と比べて、ヤギにはもう一つの優れたところがある。それはオオカミの攻撃をうけると、メエメエと鳴き出して危険を知らせることだ。臆病で愚かな綿羊のように、腹に [699] <u>噛みつかれて</u>、あまりの驚きに声も出せずに [701] <u>オオカミに思いのままに食べられて</u>しまうなんてことはない。</p>	<p>山羊比绵羊还有个优点，就是它一受到狼攻击就会咩咩乱叫，起到报警的作用。不像绵羊，胆小又愚蠢，[700] <u>被狼咬开了肚子也吓得一声不吭</u>，[702] <u>任狼宰割</u>。</p>
<p>草原の人間はオオカミに [703] <u>昼と夜をあべこべに</u>され、寝てもさめても心が休まらず、長い間に、どこの家の女性も健康を害してしまう。</p>	<p>草原狼<u>搅得</u>草原人 [704] <u>晨昏颠倒</u>，寝食不安，拖垮了一家又一家，一代又一代的女人。</p>
<p>けれど、なかには、かえって [705] <u>鍛えられて</u>、強くて勇敢で丈夫な体の女性もいる。</p>	<p>因而，蒙古包的主妇，大多多病短寿，但也 [706] <u>炼出了一些强悍拖不垮的</u>、具有一副好身骨女人。</p>

<p>草原の人口は、草原のオオカミによって、ほどよく [707] <u>コントロール</u>されているようである。</p>	<p>是草原狼 [708] <u>控制</u>了草原人口舒舒服服地发展。</p>
<p>そのうえ、二重の労働点数がついて、原始的な遊牧の暮らしが [709] <u>保障</u>される。しかし、羊飼いの仕事は味気なく単調で、長い時間 [711] <u>しぼりつけられ</u>、[713] <u>心も体もぐったりとさせられる</u>。</p>	<p>羊群是草原牧业的基础，养着羊群有羊肉吃，有羊皮穿，有羊粪烧，有两份工分收入，草原原始游牧的基本生活就 [710] <u>有了保障</u>。然而羊信的工作极为枯燥单调，[712] <u>磨人</u> [714] <u>耗人</u> 挫人，</p>
<p>オオカミの進攻によって毎年、牧場に計算できる損失だけでなく、計算できない損失も [715] <u>もたら</u>されている。</p>	<p>至少狼群的进攻，[716] <u>给</u>牧场每年造成可计算的再加上不可估算的损失，</p>
<p>だが、オオカミは子羊の後ろから首筋にかぶりついたので、子羊はのどを締めつけられて、声を出すことさえできなかった。そして、そのメスオオカミはひっそりと音もたてずに走りさり、羊の群れはなんの変わりもなかったかのように静かだった。まだ、ほとんどの羊は何が起こったのか、わからないでいただろう。子羊を [717] <u>つれ</u>さられた母親羊でさえ。</p>	<p>可狼嘴叼紧了羊羔后脖颈，就勒得羊羔的喉咙发不出一点声音。母狼悄无声息地溜走了，羊群平静如初。绝大部分羊还不知发生了什么事，可能连羊羔妈妈都不知自己 [718] <u>丢</u>了孩子。</p>
<p>陳陣は、まるでずばぬけた技をもったスリにサイフを奪って [719] <u>いかれる</u>のを、ただ目をみひらいてみていた気がした。</p>	<p>陈阵惊得像遇到了一个身怀绝技的飞贼，眼睁睁地看着贼在他眼皮底下 [720] <u>抢</u>走了钱包。</p>
<p>というのも、このところ、かれと楊克は、数日おきに子羊を [721] <u>盗</u>まれていた。二人はトビカワシのしわざだ</p>	<p>这些天他和杨克经常隔三差五地 [722] <u>丢</u>羊羔，两人一直怀疑是老鷹或草原雕偷的。</p>

ろうと疑っていた。	
だが、さっき、陳陣はメスオオカミが子羊をさらっていく技を目撃した。そして、この草むらのへこみをみて、やっとその謎がとけた。そうでなければ、あのメスオオカミにこれからも子羊を [723] <u>盗まれる</u> ところだった。	直到陈阵亲眼看到母狼抓羊羔的技巧和这个草坑，他才算破了这个案。否则，那条母狼还会继续 [724] <u>让他们丢羊羔</u> 。
ランムザーブはもうちょっとでうでを [725] <u>噛み落とされる</u> ところだったっていうじゃないか。	前几天兰木扎布他们掏狼洞熏出一条母狼，母狼跟人玩了命，差点没 [726] <u>把他的胳膊咬断</u> 。
オオカミの巣穴は、なかが深くて、かれらは二組に [727] <u>分かれて</u> 、二日間掘ってやっとオオカミの赤ん坊をみつけた。	狼洞太深，他们 [728] <u>换了两拨人</u> ，挖了两天才把狼崽掏了出来。
このまえ、サンジェに [729] <u>頼まれて</u> 二日も掘ったけど、奥までいけなかった。	上次我 [730] <u>帮桑杰挖狼洞</u> ，挖了两天，也没挖到头，
「なにいつてるんだよ。オオカミに [731] <u>引っかけられて</u> 片目になったり、 [733] <u>噛まれて</u> 狂犬病にでもなったり、ちがうか、狂犬病にでもならないように気を付けることだな。」	梁建中挖苦道：臭美吧。留神狼 [732] <u>把你抓成个独眼龙</u> ， [734] <u>咬成狂犬病</u> ，不对，是狂犬病，那你的小命可就玩儿完了。
楊克は茶碗をテーブルの上に置くと、大声でいった。「ところで、いつにする。早いほうがいいよ。ぼくたちも牧場のオオカミ狩りの参加を [735] <u>求められる</u> そうさ。ぼくもそれにでたいんだ。」	杨克把茶碗往桌上一扣，大声说：嗨，你说什么时候去？要快！晚了场部就该 [736] <u>让咱们去圈狼</u> 了。我也特想参加围狼大会战。
「またかよ。グァンプさんに羊の放牧を頼んだら、うちのパオはまた一日分	「得，又得让官布替你们俩放羊，咱包又要 [738] <u>少一天的工分</u> 了。」

<p>の労働点数を [737] <u>減らされるぞ。</u></p>	
<p>「父さんに [739] <u>呼ばれると</u>、いつも大事なことがある」と陳陣がいうと、楊克はいった。「オオカミ狩りのことかもしれない。早くいけよ。ちょうどおやじさんにオオカミの赤ん坊を獲る技とコツをおしえてもらえるじゃないか」</p>	<p>陈阵说：阿爸 [740] <u>让我去</u>，准保有要紧事。杨克说：没准和围狼有关系，你赶紧去吧，也正好可以跟阿爸讨教讨教掏狼崽的技术和窍门。</p>
<p>陳陣は慌てて立ち止まると、東側、北側、西側の絨毯が [741] <u>巻き上げられ</u>、広いフェルトの上に生の馬の皮が [743] <u>敷かれているのが目に入った。</u></p>	<p>陈阵慌忙站定，发现东、北、西三面的地毯都已 [742] <u>卷起</u>，宽大的地毯上 [744] <u>铺着生马皮</u>，</p>
<p>老人は陳陣をみつめながら、いった。「いいかい、おまえはオオカミに [745] <u>とりつかれている</u>。わしはもう年だから、技をおまえに教えるよ。</p>	<p>老人看着陈阵说：孩子啊，我看你是 [746] <u>被狼缠住了</u>，我老了，这点本事传给你。</p>
<p>「もし、草原の牛や羊が化け物にぜんぶ [747] <u>殺されたら</u>、人間は生きていけなくなって草原も守れない。」</p>	<p>要是草原牛羊 [748] <u>被妖魔杀光了</u>，人也活不成，那草原也保不住。</p>
<p>老人の話には玄妙な道理が [749] <u>隠されているらしい</u>。陳陣はすごく理解できなかったが、聞きたいことをのみこんだ。</p>	<p>老人的话中似乎 [750] <u>藏有玄机</u>，一时不易搞懂，陈阵有些疑惑地把问话咽下。</p>
<p>馬車のなかには馬の腸からとった油をつけてフェルトが [751] <u>敷かれている</u>。</p>	<p>车上 [752] <u>垫着浸过马肠油的破毡子</u>。</p>
<p>「わしが死んだら、きっと骨のカスマで残らず [753] <u>かじられるだろう</u>。</p>	<p>我要是死了，狼一准 [754] <u>把我啃得连骨头渣子都剩不下</u>。</p>
<p>このままだと、あと何年かしたら、ぼ</p>	<p>再这么下去，过几年我们这些知青得有</p>

<p>くらの半分がオオカミに内地に [755] <u>追い払われて</u>しまいます</p>	<p>一半 [756] <u>让狼打回</u>关内。</p>
<p>「もしぼくがオオカミに北京へ [757] <u>追い払われ</u>なかったら、自分もオオカミに食べさせちゃおうかな。」</p>	<p>要是我以后不 [758] <u>被狼打回</u>北京，我没准也把自己喂狼算了。</p>
<p>「もしかして、大きな戦争が起きて、原子爆弾が [759] <u>落とされ</u>たら、人間もオオカミもいっしょに死んじゃうから、だれがだれの餌になるということはないよ。」</p>	<p>没准往后打大仗，[760] <u>扔</u>原子弹，人和狼一块儿死，谁也甭喂谁了。</p>
<p>あきらかに死んだ馬は [761] <u>動かされ</u>ている。</p>	<p>几匹死马显然已 [762] <u>被动</u>过，</p>
<p>オオカミがぶら下がっている布の下敷きを踏んでしまうと、下敷きがなにかに落ちこんで、短い鉄製の棒が布の下敷きの結び目から滑り落ちると同時に、数百キログラムの力をもってプリングがいきなり「とら口」をはさみ、オオカミの足の骨が裂け、アキレス腱が [763] <u>噛まれて</u>動けなくなる。</p>	<p>只要狼爪一踩到悬空的布绷垫上，布垫下陷，小铁棍从布垫的活扣中滑脱，那时钢簧就会以几百斤的力量，猛地合拢钢夹虎口，把踩进夹子的狼爪，打裂骨头 [764] <u>咬住</u>筋。</p>
<p>「どうしてオオカミが [765] <u>はさまれる</u>のに、キツネはだいじょうぶなんですか」と陳陣が聞くと、老人は答えた。「鉄の棒を深めにさしこんであるから、キツネは軽すぎて、ハサミが動かない。けれど、大きなオオカミが踏めば、<u>かならず</u> [767] <u>はさまれる</u>。」</p>	<p>陈阵问：这个夹子为什么只能 [766] <u>夹狼不夹狐狸</u>？老人说：我把铁棍别子插得深了一点，狐狸轻，踩不动。狼个头大，<u>一踩准</u> [768] <u>炸</u>。</p>
<p>「おまえは知らんだろうが、オオカミには自分にも残忍なやつがいて、足を</p>	<p>老人说：你不知道，有的狼对自个儿也特别狠，它要是 [770] <u>被夹住</u>了腿，</p>

<p>[769] <u>はさまれて</u>しまったら、骨もアキレス腱も噛み切って、三本の足で逃げらんだよ。こうやって、二つのハサミをつけておけば、一本の足が [771] <u>はさまれて</u>、痛くてチェーンを懸命に引っ張り回しているうちに、後ろ足はもう一つのハサミを踏んでしまうだろう。ここはちょうどチェーンが届くところだ。前後の足を [773] <u>はさまれたら</u>、たとえ二本とも噛み切ったとしても、それで走れるものか」と老人はいった。</p>	<p>会把腿连骨带筋全咬断，瘸着三条腿逃掉。我给它下两个，只要 [772] <u>夹住</u> 一条腿，它就会疼得没命地拽链子，没命转圈，转着转着后腿就踩着第二个夹子了，这地方链子刚好够得着。要是狼的前后两条腿都 [774] <u>给夹住了</u>，它就算能把两条断腿都咬掉，剩下两条腿它咋跑？</p>
<p>たくましく肥えた馬の死体の前というあまりに魅惑的な場所に [775] <u>つけられ</u>、ここには馬肉、馬油、と馬糞のにおいだけで、人間と鉄のさびたにおいはいっさいしない。いくらずるかしこいオオカミでも [777] <u>だまされる</u>だろう。ハサミに [779] <u>はさまれ</u>足が折れ、骨が砕けた後で、人間によって皮を [781] <u>剥がれ</u>、[783] <u>死体は荒野に棄</u>てられる。</p>	<p>它 [776] <u>放在</u>具有极强诱惑性的肥壮死马前，只有马肉、马油和马粪味，没有任何人味和锈味。陈阵相信再狡猾的狼也要 [778] <u>上当</u>，[780] <u>被钢夹打</u>得腿断骨裂，然后 [782] <u>被人剥皮</u>，[784] <u>弃尸荒野</u>。</p>
<p>陳陣は、周、秦、漢、唐、宋、明の時代に無数の漢民族の軍隊が草原に深く [785] <u>誘い入れられ</u>、念入りにしかけた隙のない落とし穴に陥って全軍が破滅した先例を思い出した。</p>	<p>他想起周秦汉唐宋明无数支汉军 [786] <u>被诱进</u>草原深处，落入被精心设计、没有破绽的陷阱而全军覆没的战例。</p>
<p>オオカミに [787] <u>謀られて</u>馬の群れが [789] <u>殺された</u>。かわいそうに思わないか。</p>	<p>狼 [788] <u>用诡计</u> [790] <u>杀</u>了一大群马，你不心疼？</p>

<p>老人は教えながら、太い馬棒を「とら口」にいった。たとえ [791] <u>はさまれ</u>ても陳陣の手でなく、馬棒が [793] <u>はさまれる</u>ようにした。</p>	<p>老人一边教，一边把粗粗的马棒伸进钢夹的虎口里，即使钢夹 [792] <u>打翻</u>，也先 [794] <u>夹着</u>马棒而夹不到陈阵的手。</p>
<p>老人は陳陣がつけたハサミを細かく調べた。「ほうとうにわからないようになって。わしがオオカミでも [795] <u>はさまれる</u>だろう。」</p>	<p>毕利格老人仔细地检查了陈阵下的夹子，笑道：真看不出来了，我要是条老狼，也得 [796] <u>让你夹住</u>。</p>
<p>草原では、オオカミの赤ん坊を獲るのは、危険で難しく、高度な技術が [797] <u>される</u>狩りの一つで、草原民族がオオカミの極端な増加を抑制する主要な方法である。</p>	<p>掏狼崽可 [798] <u>是</u>草原上一件凶险、艰难、技术性极强的狩猎项目，也是草原民族抑制草原狼群恶性发展的最主要的方法。</p>
<p>「それりゃ、よかった。オオカミに [799] <u>だまされる</u>ところだった。人間に [801] <u>追いかけられたら</u>、まっすぐに、自分の巣穴に向かうわけではない。」</p>	<p>老人说：那还好。要不那条母狼准会 [800] <u>骗你</u>。有人 [802] <u>追</u>，它是不会直奔狼窝的。</p>
<p>そうだ。バトに聞いてみよう。かれは牧場でオオカミを狩る名手だ。数日前、オオカミの群れにたいへんな目に [803] <u>遭わされて</u>、腹をたてているところだ。オオカミの赤ん坊の捕まえかたを、かれに教えてもらおう。</p>	<p>陈阵打算再好好问问巴图，他是全场出名的打狼能手，前几天 [804] <u>吃了</u>狼群这么大的<u>亏</u>，正在气头上，找他请教掏狼崽的事准能成。</p>
<p>ちゃぶ台の上の二つの大きなボウルには、鍋からとりだしたばかりの羊の腸や胃袋や骨付きの肉が [805] <u>盛られ</u>、湯気をたてて、うまそうなおいをただよわせている。</p>	<p>矮方桌上 [806] 【対応なし】两大盆刚出锅的血肠血包，羊肚肥肠和手把肉冒着腾腾的热气和香气，</p>
<p>「草原が災害に [807] <u>みまわれたら</u>、</p>	<p>草原 [808] <u>闹起</u>大灾来，人和狼找食</p>

<p>人もオオカミも食いものをさがすのはたいへんなことじゃ。」</p>	<p>都不容易。</p>
<p>そのとき、おれはすぐに外にいる人間が危ない、父さんがオオカミに [809] <u>やられる</u>と思ったんだ。どこからそんな勇気が出たのか自分でもわからないけど、オオカミをいかせてなるもんかと、とっさに体を起こした。運よく、おれの頭はオオカミの咽喉をおさえたんだ。おれが力をかけると、オオカミの頭は巢穴の天井に [811] <u>おしつけられた</u>。</p>	<p>这时候我怕洞外面的人没防备，怕狼 [810] <u>咬了阿爸</u>，我也不知道哪来的胆子，猛地撑起身子，想挡住狼，没想到我的头顶住了狼的喉咙，我又一使劲，就 [812] <u>把狼头顶在洞顶上了</u>。</p>
<p>これで、オオカミに [813] <u>噛まれる</u>ことも [815] <u>ひっかかれる</u>こともなくなった。</p>	<p>这下狼 [814] <u>咬不着我也</u> [816] <u>抓不着我了</u>，</p>
<p>「この春、うちのグループではオオカミの巢をまだ一つしかみつけないから、あと三つさがさないと、また、包順貴さんに [817] <u>怒鳴られるわ</u>」と、ガスマはいった。</p>	<p>嘎斯迈说：今年春天咱们组才掏了一窝狼崽，还差三窝呢。再不掏一窝，包顺贵又该 [818] <u>对我吼了</u>。</p>
<p>二郎と黄黄は狩りにすぐれていて、朝早く [819] <u>起こされれば</u>、かならず獲物をしとめようと、周りを警戒しながら、音も出さずに雪の上に伏せている。</p>	<p>二郎和黄黄的猎性都很强，如此早 [820] <u>起</u>，必有猎情，两条狗匍匐在雪地上，一声不响，警惕地四处张望。</p>
<p>陳陣は単眼鏡をもって、周囲をみまわした。あたり一面は<u>もやに</u> [821] <u>覆われて</u>、レンズのなかはぼんやりとしていた。</p>	<p>陈阵拿着单筒望远镜四处张望， [822] <u>地气很重</u>，镜头里一片茫茫。</p>
<p>ところが、この手を使えないうちに、</p>	<p>但是，还未等他下好套，二郎又 [824]</p>

<p>二郎がまた、オオカミに [823] <u>噛みつかれ</u>、外に出たとたん、後ろ足を紐に引っかけ、わっかの形をくずしてしまった。</p>	<p>被狼顶咬了出来，它的两条后腿一下子把套绳全弄乱。</p>
<p>楊克は巢穴に向かって怒鳴ったが、その声も、深くて暗い穴のなかに [825] のみこまれてしまった。</p>	<p>杨克气得对洞大吼了三声，深深的黑洞立即 [826] <u>把他的声音一口吞没</u>。</p>
<p>陳陣はきゅうに冷静になってきた。「もし北のほうにいるオオカミを脅かして逃してしまったら、オオカミ狩りの計画が台無しになってしまう。そんなことをしたら牧場中の人間から [827] <u>たたかれるぞ</u>。」</p>	<p>陈阵忽然冷静下来说：要是咱们把北边的狼吓跑了，打围的计划就完了，全场的人还不 [828] <u>把咱俩骂死</u>。</p>
<p>二郎をみると、頭をたれて必死に傷口をなめている。オオカミに [829] <u>噛まれた胸の傷</u>は二本の指をあわせたほどの幅で、傷口の毛がびくびくと動き、そうとう痛そうだ。</p>	<p>陈阵看见二郎在费劲地低头舔自己的伤口，它的前胸又 [830] <u>被狼咬掉</u>一块二指宽的皮肉，伤口处的皮毛在抽动，看来二郎疼得够呛，但它仍然一声不吭。</p>
<p>二郎の体の傷はほとんどがオオカミに [831] <u>やられたもの</u>だろう。だから、オオカミをみると、異常に興奮して、目を血ばしらせる。</p>	<p>看来它身上的伤大多是狼 [832] <u>给的</u>，所以它一见狼就分外眼红。</p>
<p>地下の秘密基地から [833] <u>発射された</u> ミサイルのごとく、びゅーんととび出てくると、西のほうの山のふもとにあるあし原に必死で駆けていく。</p>	<p>这时，只见从冒烟的地下，忽地蹿出一条大狼，就像隐蔽的地下发射场 [834] <u>发出</u>的一枚地对地导弹，嗖地射出，以拼命的跳跃速度朝西边山下苇地奔去，</p>
<p>その穴までやってくると、二人はまた驚いた。雪の下にある穴は新しいもので、小石も土も [835] <u>掘り起こされた</u></p>	<p>到了那个洞口，两人又吃一惊：雪下的这个洞是个新洞，碎石碎土都是 [836] <u>新鲜的</u>。</p>

ばかりだった。	
陳陣はふきだした。「犬は人に [837] 飼いならされて、オオカミの本能を失ってるよ。」	陈阵忍不住笑起来：狗早就 [838] 通了人性，背叛了狼性。
「もし犬がもぐりこんで、オオカミの赤ん坊をくわえてこられるのなら、とっくのむかしに、人と犬に [839] 絶滅させられてるさ」	狗要是能钻进狼洞叼狼崽，那就趁母狼不在洞的时候敞开叼好了，那草原上的狼，早就 [840] 让人和狗消灭光了。
陳陣は手のひらでぼんと膝をたたくと、「さがしていたオオカミの赤ん坊は、この巣穴のなかだ。あのメスオオカミに [841] だまされたんだ。」といった。	陈阵用巴掌猛一拍自己的膝盖说：我要找的小狼崽就在这个洞里。咱们两个大活人 [842] 让那条母狼给涮了。
「まちがいない。もともと、この巣穴のほうへ走っていたんだ。だけど、丘の上に人影がみえたから、急に方向を変えて、ぼくたちをさっきの空の巣穴まで、連れていったのさ。すっかり [843] だまされた。」	没错，那条母狼本身就是往这个洞的方向跑的，它在山包上看见了人影，突然临时改变路线，[844] 把咱俩骗到那个空洞去了。
「もし、きみが三回爆竹を打たなかったら、きっと日が暮れるまで相手を [845] させられていただろう。そうだったら、終わってたよ。」	要不是你炸了它三炮，它绝对可以 [846] 跟咱俩周旋到天黑，那就把咱们坑惨了。
楊克は首をつづけざまに横にふった。「死にたいのかよ。万が一、なかに親オオカミがいたらどうするんだ。さっきだって [847] だまされたんじゃないか。」	杨克听了连连摇头说：你不要命啦，万一里面还有大狼呢。我已经 [848] 让狼给涮怕了，
陳陣は這っていくうちに、だんだん怖	陈阵爬着爬着，越来越感到恐惧。他鼻

<p>くなってきた。鼻の下には、赤ん坊に [849] <u>踏みつけられた</u>親オオカミの足跡がいくつかある。もし、なかにオオカミがいたら、この鉄棒だけで、やっつけられるだろう。このなかはかなり狭いから、オオカミの牙が人にとどかないかもしれない。</p> <p>だが、狭くても、長い前足と爪は自由自在に動かせるから、オオカミに<u>八つ裂き</u>に [851] <u>されかねない</u>。</p>	<p>子下面就有几个 [850] <u>被狼崽爪印踩过</u>的大狼爪印，万一这洞里有大狼，靠这根铁钎能打得过吗？</p> <p>洞窄，狼牙可能不容易够得着人，但是狼的两条长长的前腿和前爪，却可以在这个窄洞里游刃有余，那他还不 [852] <u>被狼撕烂</u>？</p>
<p>しかし、目と鼻のさきにオオカミの赤ん坊がいるかもしれないと思うと、このままもどるのはあまりにも惜しい。かれは無意識のうちに歯をかみしめて、帯を動かさなかった。そして、思いきって、さらに奥へ這って行った。かれの体は、狭い巢穴にすぼとつ [853] <u>つみこまれている</u>ようだ。</p>	<p>但他想到可能近在咫尺的八九只、十几只小狼崽，实在舍不得退出去，便下意识地咬紧了牙，没动腰带，硬着头皮继续往里蹭挪。洞壁已几乎 [854] <u>把他的身体包裹</u>起来，</p>
<p>ここは、防御用の「関所」で、陳陣の行く手が [855] <u>はばまれて</u>しまった。</p>	<p>这个卡口实际上是一个防御工事，陈阵确实是 [856] <u>被防住</u>了，</p>
<p>老人の話から、オオカミの赤ん坊を獲るために、爆竹を使ったりすることがどんな結末を招くかを、[857] <u>思い知らされた</u>。</p>	<p>老人的话也 [858] <u>使他感到炸狼窝掏狼崽的严重后果</u>。</p>
<p>草原では、銃弾は厳しく [859] <u>制限されている</u>のに、爆竹はまだ規制がない。</p>	<p>草原上枪弹 [860] <u>受到严格控制</u>，但对爆竹还未设防。</p>
<p>もし、爆竹が大量に草原に入りこみ、そのうえ、火薬が [861] <u>増量され</u>、さらにトウガラシの粉や催涙薬が [863]</p>	<p>如果爆竹大量流入草原，再 [862] <u>加大药量</u>，[864] <u>加上辣椒面</u>，催泪粉，[866] <u>用于掏狼杀狼</u>，那么称霸草原</p>

<p>いれられ、オオカミ狩りに [865] <u>使われる</u>ようになったら、数万年も草原の覇をとなえてきたオオカミは、もう悪運から逃れられなくなるだろう。そうなれば、草原のオオカミはほんとうに絶滅するかもしれない。</p>	<p>几万年的狼就难逃厄运了，草原狼从此以后真有可能被斩尽杀绝。</p>
<p>もし民族のトーテムを [867] <u>破壊</u>されたら、その民族の精神も [869] <u>扼殺</u>されるかもしれない。</p>	<p>一个民族的图腾 [868] <u>被毁灭</u>，这个民族的精神可能也就 [870] <u>被扼杀</u>。</p>
<p>約束はたいへんな重みがある。だから、草原では、<u>約束事</u>が [871] <u>重視</u>され、酒のうえでの約束でも、モンゴル人は大事な犬や馬や馬捕り竿などを失い、ときには恋人をなくすことさえある。</p>	<p>保证这个词的分量极重，草原部落内部从来都 [872] <u>相信保证</u>。蒙古人有时在醉酒中许下某个诺言，因而丢掉了好狗好马好刀好杆，甚至丢掉了自己的情人。</p>
<p>「ウサギが草原に逃げこむと、オオカミがいなくて、ウサギはどんどん増えていきました。草原のいたるところに穴が [873] <u>掘</u>られ、<u>でこぼこ</u>に [875] <u>されて</u>しまっ、牧草も大半が [877] <u>食べ</u>られてしまいました。」</p>	<p>一些兔子逃到草原，因为没有草原狼，兔子越生越多，[874] <u>把草原挖得坑坑洼洼</u>到处都是洞，还 [876] <u>把牧草吃掉</u>一大半。</p>
<p>老人の顔から笑みが消えた。「あの巣穴は、おまえらに爆竹を [879] <u>投げ</u>こまれたら。それに、[881] <u>もぐりこ</u>まれたら、なかは人間のにおいがするし、入り口も [883] <u>ふさ</u>がれたじゃないか。」</p>	<p>老人收了笑容说：那个狼洞 [880] <u>让你们炸</u>了，这个狼洞又 [882] <u>让你们钻</u>过，洞里有了人味，洞口还 [884] <u>让你们给堵</u>了。</p>
<p>「父さん、あした、つれていってくれないませんか。楊克は、オオカミに [885] <u>だま</u>されたからもういやだといってま</p>	<p>陈阵说：阿爸，要不明天还是您老带我们去吧，杨克说他已经 [886] <u>让狼给骗</u>怕了。</p>

す。」	
しかし、ビリグじいさんら年寄りの遊牧民はかれらとほとんどつき合わない。知識青年たちもモンゴル人同士のもめごとには [887] <u>巻きこまれたくない</u> と思っている。	但毕利格等老牧民几乎不与他们来往，知青也不想 [888] <u>介入</u> 他们之间的矛盾。
「オオカミの巢にもぐったって？これからきをつけろよ。メスオオカミににおいを [889] <u>おぼえられたら</u> 、どこへいってもついてくるぞ。」	你小子敢钻进狼洞去掏狼？你往后可得留神了，母狼 [890] <u>闻出了</u> 你的味，你走到哪儿，母狼就会跟到哪儿。
「それなら、百二、三十匹のオオカミを殺したことになりますね。オオカミに [891] <u>報復された</u> ことはないですか」	那你打死的狼快有一百二三十条了，狼没有 [892] <u>报复</u> 过你？
「この風習は、死んだらオオカミの餌になることです。チベットでも、ワシの餌になります。あんなにオオカミを殺したら、ここの人たちに [893] <u>恨まれない</u> ですか。」	人死了喂狼，是这儿的民俗，在西藏，人死了还喂鹰呢。要是你把这儿的狼打光了，这儿的人不 [894] <u>恨</u> 你吗？
陳陣は蒙古服を着て、二郎をみに急いでパオを出た。二郎は羊の囲いの入り口で皮を [895] <u>剥がされた</u> 子羊を食べている。	陈阵穿好皮袍，急忙出门去看二郎，它正在圈门外吃一只已 [896] <u>被剥了</u> 羔皮的死羊羔。
入り口の平台にオオカミの新しい足跡がある。が、入り口を塞いでいる土と石は [897] <u>動かされて</u> いないので、メスオオカミはシャベルをみて逃げたようだ。	洞口平台上有几个大狼的新鲜爪印，但是洞口封土和封石一点也没有 [898] <u>动</u> ，看来母狼到洞口看到了铁锹就吓跑了。
坂を越えると、下の平地で二匹の犬が猛烈に吠えているのが目に入った。二	一过坡顶，四人就看到两条狗在坡下的平地上狂叫，二郎一边叫一边刨土，黄

<p>郎は吠えながら土を掘り、黄黄も尻を上げて掘るのを手伝っている。[899]掘り起こされた土が四方にとびはねている。</p>	<p>黄也撅着屁股帮二郎刨土，刨得[900]碎土四溅。</p>
<p>この土の山も二匹の犬にめちゃめちゃに[901]踏みつけられている。</p>	<p>两条狗已经将这堆土[902]踩得稀烂。</p>
<p>あの神出鬼没で、詭計に精通し、草原を牛耳るモンゴルオオカミがなんと、北京の学生たちに巣を[903]根こそぎもっていかれてしまうのだ。この結末は、学生たちを有頂天にさせた。</p>	<p>那些神出鬼没、精通兵法诡道、称霸草原的蒙古狼，竟然[904]让这些北京学生<u>端了窝</u>，这一结局让他们欣喜若狂。</p>
<p>しかし、どの目もあいている。眼球は薄い灰色の膜に[905]おおわれ、青っぽくて水分をいっぱいためているようだ。瞳孔に黒い色が出ている。</p>	<p>但每只狼崽都睁着眼睛，眼珠上还有[906]蒙着一层薄薄的灰膜，蓝汪汪的，充满水分，瞳孔处已见黑色。</p>
<p>陳陣がかばんをあけると、三人の知識青年は、北京の郊外で鳥の卵をとってきた子どものように興奮し、あらそってオオカミの赤ん坊の耳をもちあげている。一匹また一匹、またたく間に、ズックのかばんに[907]いれられた。</p>	<p>陈阵打开书包，三个知青立刻兴奋得像是三个顽童，到京城郊外掏了一窝鸟蛋，几个人你一只我一只，抢着拎小狼崽的耳朵，一眨眼的工夫就[908]把洞里的小狼崽全部<u>拎到帆布包里</u>。</p>
<p>けれど、陳陣はメスオオカミに[909]盗まれた子羊のことを思い出して、バランスがややとれたような気がした。羊飼いとして、[911]殺された子羊のために、やっと仇を討つことができたのだから。</p>	<p>但陈阵想到了[910]被母狼<u>叼走</u>的羊羔，心里稍稍感到一点平衡，他这个羊倌总算替[912]被杀的羊羔报了仇。</p>
<p>そのころは、雪が融けて、羊の出産の時期になる。モンゴル人は一年のうち</p>	<p>春天接羔是蒙古人一年最忙最累最打紧的时候，一群羊分成两群，全部劳力</p>

<p>でいちばん忙しくて、いちばん疲れるが、大事な時期だ。ひと群れの羊をふた群れにわけたりして、すべての労働力が羊のために[913]使われる。</p>	<p>都[914]上了羊群。</p>
<p>楊克のあくびがとまらない。陳陣も急に眠気に[915]襲われ、パオにもどって早く寝たかった。</p>	<p>杨克连连打哈欠。陈阵也突然[916]感到困得不行，也想回包倒头就睡。</p>
<p>「おれたちは畑仕事をするようになってから、きみたち漢人と同じように、[917]土に埋められれば極楽往生できると信じてるんだ」と、ドールキは言った。</p>	<p>我们东北蒙族学会种地以后，就跟你们汉人一样了，也相信[918]入土为安。</p>
<p>オロン草原のオオカミの一族が、あの聡明で手ごわい母親オオカミに[919]率いられ、真夜中に借りをとりにやってきて、かれの魂をかじってのみこむだろう。</p>	<p>整个额仑草原的狼家族，会[920]在那条聪慧顽强的母狼带领下，在草原深夜的黑暗里来向他追魂索债，并不断来咬噬他的灵魂。</p>
<p>オオカミの赤ん坊を飼いたいとはじめて思ったときからこのことが遊牧民や生産隊の幹部、知識青年のほとんど全員に[921]反対されるだろうと予想していた。</p>	<p>在他一开始产生养狼崽的念头时，就预知这个举动将会[922]遭到几乎所有牧民、干部和知青的反对。</p>
<p>文化大革命の初期に、北京動物園の飼育係が乳の足りないトラの子をメス犬と同じ檻にいれて乳をあたえさせただけで、重大な政治問題に[923]された。「反動的な階級調和論を宣伝している」と[925]批判され、飼育係は隔離審査を受けることになった。</p>	<p>文革初期在北京动物园里，管理员仅仅只是将一只缺奶的小老虎，和一条把它喂大的母狗养在一个笼子里，就[924]成了重大政治问题，[926]说这是宣扬反动的阶级调和论，管理员被审查批斗。</p>

<p>草原では、オオカミは遊牧民の仇敵だけでなく、遊牧民ことに年寄りたちが心のなかで畏敬している神霊であり、トーテムであり、魂が昇天するためのキャリアーである。神霊とかトーテムはひれ伏して崇めるものであって、ペットや下僕のような[927]飼われるものではない。</p>	<p>在草原，狼既是牧民的仇敌，又是牧民尤其是老人心目中敬畏的神灵和图腾，是他们灵魂升天的载体。神灵或图腾只能顶礼膜拜，哪能像家狗家奴似的[928]被人豢养呢？</p>
<p>「生産隊の幹部に[929]反対されるかな」と陳陣がいうと、ドールキが答えた。「オオカミを狩るために、生産隊の財産を守るために飼うんだ。オオカミを飼うのには反対するやつは、シェパードが赤ん坊を産んでももらいに来んな。」</p>	<p>陈阵说：我[930]怕队里不让养。道尔基说：养狼是为了打狼，保护集体财产，谁要是反对咱们养狼，往后下了狼狗崽子，就甭想跟咱们要了。</p>
<p>陳陣が敬服している七つの小さな尊い生命だが、そのうちの五匹はまもなく[931]処刑されようとしている。陳陣はいっぺんに気が重くなった。</p>	<p>这可是陈阵所尊重敬佩的七条高贵的小生命啊，但其中的五条即将[932]被处死。</p>
<p>「それはだめだ。おれが飼ってる牛だぞ。牛乳は人間が飲むものだ。オオカミは牛を食うから、牛乳をオオカミにやるなんて、そんなこと考えられるか。おれは生産隊に[933]首にされるよ」と高建中は開き直った。</p>	<p>梁建中沉下脸说：那可不行！那是我养的牛，奶是给人喝的，狼吃牛，你用牛奶喂狼，天下哪有这等道理？以后大队该[934]不让我放牛了。</p>
<p>空に[935]投げ出されたのは魂だが、地面に落ちたのは抜け殻である。</p>	<p>[936]抛上天的是它们的灵魂，落下地的是它们的躯壳。</p>
<p>陳陣と楊克は、この古くから[937]行われている儀式をなんどもみたことがあ</p>	<p>陈阵和杨克多次见过[938]【対応なし】这种古老的仪式，过去也一直听说，草</p>

<p>った。また、草原の遊牧民がこうやってオオカミの赤ん坊を処分するというのも聞いていた。しかし、自分たちが獲ってきた赤ん坊たちがこうして[939]処分されるとは。陳陣と楊克の顔色は、パオのそばに積もっている汚れた雪のような薄い灰色にくすんでいた。</p>	<p>原牧民也是用这种仪式来处理狼崽，但是，他俩还是第一次亲眼看见牧民用此方式来[940]处理自己掏来的狼崽。陈阵和杨克脸色灰白，像蒙古包旁的脏雪一样。</p>
<p>空に[941]放り出された赤ん坊は、こんなに早く天に会いにいきたくなかったようだ。ずっと死んだふりをして、少しも動かなかったこのメスの赤ん坊は、空に[943]放り出された瞬間、本能的に自分がどこへいこうとしているのかわかったらしい。</p>	<p>[942]被抛上天的小狼崽，似乎不愿意这么早就去见腾格里。一直装死求生、一动不动的母狼崽刚刚[944]被抛上了天，就本能地知道自己要到哪里去了，</p>
<p>赤ん坊はかわいそうに、眼球が開くのを空中でくりあげてしまったが、青くて明るい天をみてはいない。青空は黒雲と、目から流れ出た血に[945]さえぎられたであろう。</p>	<p>可怜的小狼崽竟然在空中提前睁开了眼，但是它仍然未能见到蓝色明亮的腾格里，蓝天[946]被乌云所挡，被小狼眼中的血水所遮。</p>
<p>小さな瓜のように、ぐしゃっと地面に[947]たたき落されると、やわらかい体はもがく間もなく動かなくなった。口や鼻や目から、乳の色を帯びたようなピンク色の薄い血が流れ出た。陳陣は、心臓がのど元から胸腔に[949]振り落とされたように、痛みの感覚さえうしななな気がした。三匹の犬が赤ん坊の前に飛んでいったが、ドールキは大声</p>	<p>狼崽像一只乳瓜一样，噗地一声[948]摔砸在地上，稚嫩的身体来不及挣扎一下就不动了。口中鼻中眼中流出稀稀的粉红色的血，像是还带着奶色。陈阵的心像是从嗓子眼又[950]摔回到胸腔，疼得似乎没有任何知觉。三条狗几步冲到狼崽跟前，道尔基大吼一声，又跨了几大步挡住了狗，他生怕狼崽珍贵的皮[952]被狗咬破。</p>

<p>で叱りつけて、大股で犬たちをさえぎった。貴重な赤ん坊オオカミの皮が[951]咬まれて破れるのを恐れたからだ。</p>	
<p>ドールキはかばんからもう一匹をとりだしたが、この赤ん坊は姉妹の血のにおいを嗅ぎつけたのだろうか、ドールキに[953]にぎられた瞬間に死んだふりをやめ、懸命にもがきはじめた。</p>	<p>道尔基又从书包里掏出一只狼崽，这条狼崽好像已经嗅到了它姐妹的乳血气味，刚一[954]被道尔基握到手里就不再装死，而是拼命挣扎，</p>
<p>その声がまだ終わらないうちに、赤ん坊が空に[955]投げ出された。</p>	<p>话音刚落，狼崽[956]被抛上了天。</p>
<p>草原民族の剽悍さと勇猛さは厳しい環境のなかで長い歳月を経て[957]鍛えられてきたものである。</p>	<p>草原民族的的强悍勇猛就是在这样严酷的环境中，年复一年地[958]练出来的。</p>
<p>ほどなく、五匹の皮が[959]剥がされた。ドールキはパオの丸い屋根の上のばしながら広げた。</p>	<p>不一会儿，五张狼崽皮都[960]剥了出来，他把皮子摊在蒙古包的圆坡顶上，撑平绷直。</p>
<p>「犬はオオカミの赤ん坊の肉を食べないから早く埋めるんだ。深く埋めないで、母親オオカミに[961]嗅ぎつけられたら、ここの羊も牛もひどい目にあうぞ。」</p>	<p>狗从不吃狼崽肉，这会儿得快把死狼崽埋了，还得埋深一点。要不[962]让母狼闻见了，那你们的羊群牛群就该遭殃了。</p>
<p>オオカミの赤ん坊は土に触れると、たちまち元気に動きはじめた。あっちを嗅いだり、こっちをみたりして、穴のなかを何回かまわると元の家に戻ったように、しだいに落ち着いてきた。羊の皮が[963]敷かれた隅っこに身を縮こめて腹ばいになったが、まだまわり</p>	<p>小狼崽一接触到泥土立即就活泛起来。它东闻闻，西看看，在洞里转了几圈，好像又回到了自己原来的家。它渐渐安静下来，在[964]垫着羊皮的角落缩起身趴下，但还在东闻西望，像是在寻找它的兄弟姐妹。</p>

<p>を嗅いだりみたりしている。兄弟姉妹をさがしているのだろうか。</p>	
<p>「だけど、ここは空高く皇帝は遠し、と[965]いわれるほどへんぴなところだから、オオカミを飼ってることなんてわからないさ。それより、いちばん心配なのは、父さんがなんていうか……」と、陳陣はいった。</p>	<p>陈阵说：[966]【対応なし】这几天高皇帝远，谁知道咱们养狼。我最怕的是毕利格阿爸不让我养狼……</p>
<p>赤ん坊は寒くて怖くて、腹はすいていて、がたがた震え、[967]掘り出されたばかりのときよりしょげている。陳陣は急いで懐にに入れて暖めてやった。</p>	<p>此刻它又冷又怕又饿，全身瑟瑟发抖，比它刚[968]被挖出狼洞时候萎靡了许多。陈阵急忙把小狼崽揣进怀里，让它先暖和暖和。</p>
<p>もしイレーの子どもたちが死んだり、人に[969]つれていかれたりしたら、このオオカミを息子として認めるかもしれないが、三匹も自分の子がいるのだ。オオカミの子をうけいれたがらないのは明らかである。</p>	<p>假若伊勒的狗崽全部死掉或[970]被人抱走，它也许会很快认下这个狼子，但是它现在已有自己的三个孩子，所以它显然不愿意接收狼子。</p>
<p>まもなく、三匹のおとなしい子犬は、両側に[971]追いやられてしまった。</p>	<p>三只温顺的胖狗崽，不一会儿全[972]被狼崽轰赶到两边去了。</p>
<p>「この百年あまり、中国の家畜性が西洋の獣性に[973]いじめられてきたのは当然だろう。数千年来、巨大な中華民族がいつも草原の小さな遊牧民族に[975]やられてはるかしめをうけてきたのも、不思議ではない。」</p>	<p>一百多年来，中国家畜性当然要[974]受西方兽性的欺负了。几千年来庞大的华夏民族总[976]被草原游牧小民族打得丢人现眼也就不足为怪了。</p>
<p>「農耕民族は家畜性が強すぎて、運命もこの意気地のない民族性によって[977]左右されている。」</p>	<p>农耕民族家畜性过多，这种窝囊性格，[978]决定了农耕民族的命运。</p>

<p>「ほかの三つの古代文明はとっくに滅びたのに、中華文明滅ばなかった。それは黄河と長江の流域に大きな農業地帯ができて、世界で最も多い人口を養ったから、他の文明に[979]かじられたり、また他の文明に[981]のみこまれて、[983]消化されてしまうことがなかった。」</p>	<p>那三个古文明早就灭亡了，华夏文明之所以没有灭亡，不光是因为它拥有世界上最大的农业两河流域——黄河和长江，养育出了世界上最庞大的人口，使得其他的文明不太好[980]啃动[982]【対応なし】和[984]消化掉。</p>
<p>犬小屋のなかの騒ぎや、[985]いじめられた子犬たちが不満でうんうんうなっている声が、イレーの疑いと警戒心を強めたようだ。</p>	<p>狗窝里的骚动，小狗崽[986]被狼崽欺负所发出的委屈哼哼声，使伊勒更加怀疑和警惕起来，</p>
<p>イレーは、何度か立ち上がって授乳を拒もうとしたが、陳陣に[987]おさえられた。</p>	<p>伊勒几次想站起来拒绝喂奶，都[988]被陈阵按住。</p>
<p>草原では、人間が犬の生殺与奪の権利をもち、暴力と食べ物の誘惑で、野良犬を飼い犬にしてきたのである。大胆にも主人に反抗しようとする犬は、家から追い出され、草原で餓死するか凍死するかオオカミに[989]食われるか、それとも人間によって[991]殺されるかだ。</p>	<p>在草原上，人完全掌握着狗的生杀大权，人是靠强大的专制暴力和食物的诱惑将野狗驯成家畜的。任何胆敢反抗主人的狗，不是被赶出家门，赶到草原上饿死冻死或[990]被狼吃掉，就是[992]被人直接杀死。</p>
<p>陳陣はイレーのことを思うと、悲しくなった。人間の社会だって同じことで、長い間、権力に[993]抑えつけられていたら、人間のなかにある獣性が[995]失われていき、家畜性を強くもった従順な民になる。</p>	<p>陈阵替伊勒们感到深深地难过。与此同理，在人类社会，如果[994]专制镇压的力量太强大，时间又太久，人群也会渐渐[996]丧失人性中的兽性，而逐渐变为家畜性十足的顺民。</p>

<p>外から強大な敵が侵略してくると、こういう民族は反抗の能力を喪失してしまっているだろうから、頭をさげて異民族のいいなりになって帰順するか、徹底的に[997]壊滅され後世に[999]発掘されるような廢墟になるかである。</p>	<p>可是一旦遭受外部强大力量的入侵,这个民族就丧失了反抗能力。或者俯首称臣变成异族的顺民, 或者[998]被彻底毁灭, 变成后人考古[1000]发掘的废墟。</p>
<p>もう、数匹の子犬が人に[1001]もらわれていったので、乳は充分にあまっている。</p>	<p>在别人[1002]抱走了几条狗崽后,它的奶水更是绰绰有余。</p>
<p>だが、この犬小屋に来たら、腕をふるう機会に[1003]めぐまれた。</p>	<p>这回它来到狗窝,可算[1004]有了用武之地,</p>
<p>高建中は茶碗を置いて苦い顔でいった。「ちっこいオオカミが来たばかりなのに、すぐに大きなオオカミも来る。まったく、オオカミに[1005]ふりまわされてしにそうだぜ。」</p>	<p>梁建中放下饭碗,苦着脸说:刚来了只小狼,大狼也来了,咱们快[1006]让狼拖垮拖死了。</p>
<p>二郎が首輪をつけていれば、暗闇に進しても、長い紐は陳陣の手に[1007]にぎられたままだ。</p>	<p>二郎只戴着皮项圈冲进黑暗,而长绳还[1008]捏在陈阵手里。</p>
<p>集団で狩りをするとき、この方法を使えば、狩人は獵犬のコントロールすることができる。また、狩りの全体の配置を乱すような犬のかってな行動も避けることができるそのうえ、何人もの人が同時に犬を放せるし、犬の足が長い紐に[1009]とられて、スピードに影響することもない。</p>	<p>此种集体打围时的牵狗方法,既可以使猎狗完全受猎手的控制,以避免狗们擅自行动,打乱围猎的整体部署;又可以多人同时放狗,还避免长绳[1010]缠绊狗腿,影响速度。</p>
<p>あいかわらず厚い雲が草原を低くおおって、空は隠れ、星も月もみえない。</p>	<p>厚厚的云层仍低低地压着草原,将天空遮得没有一丝星光和月光。[1012]四周</p>

<p>周囲はどんよりと暗闇に[1011] <u>つつま</u> <u>れ</u>、馬の蹄の下の残雪でさえ黒い。</p>	<p>是沉沉的黑暗，连马蹄下的残雪也是黑色的。</p>
<p>陳陣も馬蹄袖で口を隠し、声をおさえて聞いた。「いまの話はオオカミに聞こえなかったかな」「いま、ちょうど坂をのぼってるから、山に[1013] <u>さえぎら</u> <u>れる</u>。それに、向かい風だろ。小さな声なら、だいじょうぶだ。」「父さん、耳だけにたよって、[1015] <u>決められた</u> <u>場所</u>にみんなをつれていけるんですか。」</p>	<p>陈阵也用马蹄袖挡住嘴小声问：您这会儿说话不怕狼听见？老人压低声音说：这会儿咱在爬坡，[1014] <u>有山挡着</u>，又是顶风，说轻一点就不碍事。陈阵问：阿爸，您凭耳朵真能领大伙赶到[1016] <u>指定地点</u>？</p>
<p>「むかし、有名なボスオオカミがいたんだ。家畜がめちゃめちゃに[1017] <u>荒</u> <u>らされて</u>ね、王様の宝の馬も[1019] <u>噛</u> <u>み殺された</u>よ。</p>	<p>从前有一条出了名的头狼，[1018] <u>把畜</u> <u>群祸害</u>得好惨呐，[1020] <u>把王爷的宝</u> <u>马都咬死</u>了。</p>
<p>しかし、実際は、この隊列は臨時に[1021] <u>召集された</u>もので、老人、女性、子どももいるのだ。もし、これが草原の若い兵士と強い軍馬で[1023] <u>組まれ</u> <u>た騎兵隊</u>なら、いったいどうなるのだろうか。</p>	<p>而实际上，这支队伍只是临时[1022] <u>召集</u>、包括老弱妇幼在内的杂牌军而已。如果是草原青壮武士和强壮战马[1024] <u>组成的草原正规</u> <u>骑兵</u>呢？</p>
<p>[1025] <u>指定された場所</u>に近づくにつれ、隊列ははりつめた雰囲気^に[1027] <u>つつま</u> <u>れた</u>。</p>	<p>离[1026] <u>指定地点</u>越近，队伍中的紧张气氛[1028] <u>【対応なし】</u>就越浓。</p>
<p>この前、軍馬がオオカミに[1029] <u>全滅</u> <u>させられた</u>ことはきわめて大きな問題になっている。もし今回のオオカミ狩りが上級機関の満足できるものでなけ</p>	<p>由于上次军马群[1030] <u>被狼群全歼</u>的影响极坏，如果此次围狼战不能使上级满意，牧场的领导班子有可能[1032] <u>被全部撤换</u>。</p>

<p>れば、牧場の指揮部が[1031]総入れ替えさせられる可能性がある。</p>	
<p>ビリグじいさんがもっている大きな懐中電灯が強烈な白熱を発すると、それに応えるかのように、遠方の東と西のほうから明かりが[1033]照らされたのだ。</p>	<p>突然, 陈阵的眼睛[1034]被猛地刺了一下, 毕利格老人手中的大手电发出白炽强光, 接着从东西两边极远的地方也回应了几下光亮。</p>
<p>生産隊の人の、男も、女も、毎晩、オオカミを嚇かすために[1035]鍛えられた声が、いっきに音の波となってどよめき、沸き返って、北西の方向へ押し寄せていった。</p>	<p>全队的的女人男人拿出下夜喊夜、吓狼轰狼的功夫, [1036]【対応なし】一时间声浪翻滚, 声涛汹涌, 向西北压去。</p>
<p>雪に[1037]おおわれていてさえ真っ暗な地面に、たちまち無数の白くて冷たい光が反射した。</p>	<p>原先漆黑一片的[1038]雪地, 顿时反射出无数道白晃晃的冷光,</p>
<p>陳陣、楊克、ほかの知識青年たちは、この草原の奇観に[1039]刺激されて、叫んだり、躍り上がったりして、喜んでいる。人々の士気が大いに[1041]奮われ、雄叫びが天に届くようだ。</p>	<p>陈阵杨克和其他知青[1040]被这草原奇景刺激得大呼小叫, 手舞足蹈。人们[1042]士气大振, 吼声震天。</p>
<p>半月形の包囲網が着々と整然と[1043]形成されている。人の叫び声、馬のいななき、犬の吠える声がますます激しくなった。地面にも空にも、懐中電灯から[1045]照らし出された、たくさんの扇子の形が交差している。</p>	<p>半月形的猎圈紧张有序稳步[1044]推进, 人喊马嘶狗叫的声浪一浪高过一浪, 手电在雪地和空中[1046]交叉射出一个又一个扇面。</p>
<p>二郎は首に[1047]つけられた長い紐を咬んで、それをふりすてて突撃しようとしている。</p>	<p>二郎已经开始咬[1048]【対応なし】脖子上的长绳, 它拼命挣绳, 急于冲锋。</p>

<p>馬飼いたちが山の後ろで待ち伏せしている。オオカミの群れが獵場に[1049] <u>追いこまれたら</u>、後ろにいる人、馬や犬が入り口を封鎖し、包圍殲滅がはじまるのだろう。しかし、どれぐらいのオオカミが[1051] <u>包圍</u>されているのか、見当もつかない。大きい群れなら、[1053] <u>追いつめられる</u>と必死に抵抗するだろう。</p>	<p>马倌们就埋伏在山后，只要狼群[1050] <u>被赶进</u>围场，后面的人马狗封住进口，围歼战就将打响。但陈阵仍然不知道到底[1052] <u>围进去</u>多少狼，如果狼群太大，[1054] <u>困兽犹斗</u>，每个人都可能与恶狼近战。</p>
<p>懐中電灯の威力がなくなると、オオカミの首を絞める馬捕り竿の紐がちょうど使えるようになって、はっきりみえるようになった。オオカミの群れはすでに[1055] <u>封じこま</u>れていて、半月形の包圍網の両端は盆地の両端につながっている。</p>	<p>当手电光的威力刚刚丧失，猎队套马杆的绞索正好清晰地竖起来。狼群实际上已经[1056] <u>陷于</u>合围之中，半月形猎圈的两端已经和半盆地的两头相连。</p>
<p>中国内陸の大地が田畑に[1055] <u>開拓</u>されていなかった遙かむかしの時代に、草原の狩人たちはすでに兵法がわかっていたのだろう。遊牧民族は、戦いに卓越した草原のオオカミに[1057] <u>訓練</u>されて、出藍の誉れというべきだ。</p>	<p>可能在中原大地还没有[1056] <u>被开辟</u>成农田的远古时期，草原上的老猎手就早已熟谙兵法了。卓越善战的草原狼群[1058] <u>所培训</u>出来的草原民族，也早就青出于蓝。</p>
<p>すると、「チュッ！チュッ！チュッ！」と、長い包圍網から号令がいっせいに[1059] <u>かけられ</u>、人々はほとんど同時に犬の革紐の一方を放した。</p>	<p>圍陣中突然[1060] <u>响起</u>一片啾！啾！啾！啾！的口令声。所有牵狗的人几乎同时松开一股皮绳。</p>
<p>狂奔する馬の蹄が雪の塊や泥を掘り出して、馬上からは「ホ！ホ！ホ！ホ！」と、恐ろしい叫び声が[1061] <u>発せられ</u></p>	<p>雪地上急奔的马蹄刨起雪块泥土，剽悍的蒙古骑手武士，[1062] <u>喊着</u>可怕短促的、曾让全世界闻声丧胆的“啻！啻！</p>

<p>ている。かつて、世界中の人々はこの声を聞いただけでも驚愕したものだった。</p>	<p>嗚！嗚！”的杀声，伴随着战鼓般急促的马蹄声，朝狼群猛冲。</p>
<p>オオカミたちは、この強大な攻勢にたちまち[1063]圧倒された。</p>	<p>狼群立即[1064]被这强大的攻势震住了。</p>
<p>半月形の包囲網がとうとうまっすぐになり、峠は[1065]封鎖された。二つの群れは、ブリグじいさんが苦心して設けた絶好の狩猟場に[1067]追いこまれた。</p>	<p>半月形的猎圈终于拉成了直线，严密地[1066]封住了山口，两群狼[1068]被赶进毕利格老人匠心设置的优良围场。</p>
<p>ウリジーがほっとしたようすであった。「[1069]追いこまれたオオカミは、四、五十匹はいるだろうな。」</p>	<p>乌力吉也总算松了口气说：[1070]圈进来的狼足有四五十条，</p>
<p>「今回は、馬の群れを[1071]全滅させられて、ブリグさんは本気になったのだ。」</p>	<p>这回狼群[1072]毁了马群，老毕真的发火了。</p>
<p>かれらは全員が [1073] 選ばれたオオカミ狩りの名人である。</p>	<p>这批马倌和猎手是全牧场 [1074] 精选出来的猎狼高手，</p>
<p>馬の群れを [1075] 殺された腹いっぱい怒りを、この日に晴らすつもりでいる。</p>	<p>他们为了那群 [1076] 死马憋了一肚子的气，准备在这一天痛快发泄。</p>
<p>かれらの馬たちは犬の吠える声を聞いて、臨戦の緊張を感じているのか、頭を低くして手綱をふり落とそうとしたり、蹄で雪を掘ったりしている。馬たちの胸と脚の筋肉は隆々として、後ろ足はまるでネズミ取りのバネのように、極限まで [1077] おさえられている。</p>	<p>骑手们的坐骑早已听到围场中的狗叫声，都已感到临战的紧张气氛。它们低头挣缰，抬蹄刨雪，马胸马腿都绷起条条筋肉，每匹马的后腿都像 [1078] 被压到极限的捕兽夹弹簧，</p>

<p>狩人たちがつれてきた獵犬たちも、自分の家で飼っている犬のなかから、とくにけんかに強いるものを選んできている。よく [1079] <u>訓練</u>されていて、<u>獰猛</u>だが機敏に動く。</p>	<p>猎手们牵的大狗，也都是从各家狗群里挑选出来的最善搏杀的猎狗，凶猛机警，[1080] <u>训练有素</u>。</p>
<p>獵犬たちは [1081] <u>発射</u>された魚雷のごとく、オオカミに向かっていった。</p>	<p>狗群像一枚枚魚雷朝狼群 [1082] <u>发射</u>出去。</p>
<p>雪に [1083] <u>おおわれた坂</u>の上で、激しい戦いが [1085] <u>繰り広げられた</u>。</p>	<p>[1084] <u>雪坡上</u> [1086] 【対応なし】 一片混战恶战</p>
<p>ところが、オオカミ王は群れについて坂を下りようとはせず、四、五匹の用心棒に [1087] <u>取り囲まれながら</u>、迷わず西に横切って、包囲網から抜け出ようとしている。</p>	<p>但那条狼王并没有随狼群冲下山，却毫不迟疑地向西横插过去。四五条保驾的大狼巨狼，前后 [1088] <u>簇拥着</u>它一同突围。</p>
<p>オオカミの足の裏は厚くて大きいので、滑りやすい小石の上でも速く走れるし、小石に [1089] <u>足を取られて滑り落ちたりしない</u>。</p>	<p>但狼能用它们厚韧的大脚掌踩在滑动的石片上快速奔跃，而它们的身体却 [1090] <u>不随石片下滑</u>，石坡顿时响起一阵令人胆寒的哗哗声。</p>
<p>大きな犬がオオカミに [1091] <u>噛まれて</u>地面に倒れ、瀕死の状態であがいている。もう一匹は片耳を [1093] <u>噛みとられて</u>、頭が血だらけだ。</p>	<p>他发现一条大狗已 [1092] <u>被狼咬倒</u>在地正在垂死挣扎，另一条狗 [1094] <u>被撕掉</u>一只耳朵，满头是血，</p>
<p>盆地の真ん中では、人、馬、犬、オオカミが入り乱れて戦っている。地面に倒れてもがいた数匹のオオカミと犬の息が絶えた。致命傷の傷口からは熱気が立ち上がり、血がたれている。四十匹あまりのオオカミは、百六十匹あまりの犬に [1095] <u>取り囲まれている</u></p>	<p>盆地中央，人、马、狗、狼已搅作一团，几条倒地的狗和狼已停止挣扎，致命的伤口处还蒸腾着热气和血气。四十多条狼被一百六七十条狗团团 [1096] <u>围住</u>，</p>

<p>何匹ものオオカミや犬はずたずたに傷ついて、肩や胸の皮が [1097] <u>剥ぎ取られて</u>、血だらけになっている。</p>	<p>多条大狼和大狗 [1098] <u>被撕开了</u> 肩皮和胸皮，血肉模糊，血涌如注。</p>
<p>犬たちの後ろは、数十人の剽悍な馬捕り竿の使い手で [1099] <u>固められ</u>、長い竿でなかにいるオオカミをなぐっている。</p>	<p>狗群的外层 [1100] 【対応なし】 是几十个剽悍的杆子手，都在用长长的杆子，抽打最里面的狼。</p>
<p>万が一、人間の陣形が乱れたら、オオカミたちは四方へ突っ走るだろう。そうなれば、犬と人間で囲んだ二重の包囲網を [1101] <u>やぶられる</u> 恐れがある。</p>	<p>万一冲乱了阵，群狼四下发力，狗和人的两层猎圈就可能 [1102] <u>被冲散</u>，</p>
<p>知識青年と女性、子どもたちは包囲網の南の外側に [1103] <u>割りふり</u> されている。陳陣と楊克は、ビリグじいさんに西南のほうの山の中腹へ [1105] <u>いか</u> された。</p>	<p>知青和女人孩子 [1104] <u>被安排</u> 在南线外圈。陈阵和杨克 [1106] <u>被毕利格派</u> 到西南边的半山腰，</p>
<p>オオカミたちは次々と馬捕り竿に引っかかり、凶暴な犬たちに [1107] <u>噛み倒</u> されている。</p>	<p>大狼终于还是被杆子手一条一条地从狼阵里拖了出来，也 [1108] <u>被恶狗</u> 一条一条地咬倒。</p>
<p>陳陣は単眼鏡で戦局を詳細に観察している。オオカミの群れは<u>死地</u>に [1109] <u>置</u> かれているが、理性を失っていないようだ。</p>	<p>陈阵用望远镜细细地观察战局，他发现群狼虽 [1110] <u>陷于死地</u>，但仍然没有失去理智，</p>
<p>二郎のほうが速かったので、さきにオオカミに衝突した。オオカミは三、四メートルほども [1111] <u>飛ば</u> されたが、すぐに立ち上がった。</p>	<p>二郎速度快，先撞上了狼，大狼 [1112] <u>被撞出</u> 三四米远，但没有撞倒，旋即站住。</p>
<p>しかし、野性的な二郎は胸や腹を [1113] <u>裂</u> かれても、オオカミの息が</p>	<p>可是二郎野性蛮劲更狠，就是 [1114] <u>被抓开胸膛</u> <u>抓破</u> 肚子也不撒口，直到头</p>

<p>絶えるまでは口を放そうとしない意気込みだ。</p>	<p>狼完全断气。</p>
<p>オオカミたちは驚いて後ろずさりし、近づこうとしない。バレーは自分の倒した獲物が、二郎にさっと横から [1115] <u>奪われた</u>ことに怒っているが、しかたなくそれを腹におさめた。</p>	<p>巴勒见自己撞翻的猎物，[1116] <u>被二郎</u>而如此干脆利索地<u>抢得先手</u>，极为恼火，但又不好发作，</p>
<p>内側には、自分はオオカミのように勇猛だといつも自慢していたランムザーブがいる。一匹のオオカミが数匹の犬に [1117] <u>囲まれている</u>のをみて、馬を走らせて近づいた。身をかがめて前へ乗り出すと、地面に沿って馬捕り竿をオオカミに近づけた。</p>	<p>在内线，一向自比为狼的兰木扎布，见几条狗 [1118] <u>扭住</u>了一条大狼，便冲过去一个俯身前探，飞出去一个贴地套圈，</p>
<p>オオカミは重たい麻袋のように地面に [1119] <u>引きずられて</u>、身を起こすことができない。必死に爪を立てて、地面をほじっても、<u>雪で</u> [1121] <u>覆われた凍土</u>に二筋の溝ができただけである。</p>	<p>大狼 [1120] <u>被拖倒在地</u>，像一条沉重的死麻袋，无法起身，大狼急得用爪子死死抠地，[1122] <u>雪面冻地犁出</u>两道沟。</p>
<p>遠く離れていないところで、バレーが馬捕り竿で [1123] <u>とらえられた</u>オオカミに噛みついている。</p>	<p>不远处另一条战线上，巴勒也在咬杀 [1124] <u>被套</u>的大狼，</p>
<p>一人の若者が「おーおー」と叫び、身を乗り出して、馬捕り竿でオオカミをひっぱたいている。オオカミは口から白い泡を出しているが、全力で逃げている。その若者が後ろに [1125] <u>引き離されると</u>、別の馬がやってきて追い</p>	<p>一个骑着快马的小马倌噢噢大叫，探身挥杆狠抽大狼，把狼打得跑得口吐白沫。当狼跑出全速，[1126] <u>把他甩开距离</u>以后，又会有一匹快马接力猛追猛打，</p>

<p>続ける。</p>	
<p>しかし、スピードが出たところで、また横から馬が走ってくる。オオカミは頭を [1127] <u>とられ</u>、横へ [1129] <u>引っぱられた</u>あと、斜めに五、六回も [1131] <u>転がされた</u>。オオカミが転がるたびに、狩人たちが歓声をあげる。この一年、オオカミに [1135] <u>やられて</u>きたうっぷんを晴らしている。</p>	<p>但是只要狼一跑出了速度，就会又从侧旁奔来一匹马，再 [1128] <u>给狼一个套头</u> [1130] <u>横拽侧摔</u>，大狼又 [1134] <u>被摔出五六个滚</u>。狼每摔一次，众猎手就会齐声欢呼，一吐一年来 [1136] <u>受狼欺负的胸中恶气</u>。</p>
<p>二匹のオオカミは馬捕り竿にかかっては [1137] <u>転がされ</u>、くらくらしてどうしてよいかわからなくなっている。一匹は、三回も四回 [1139] <u>もふり回されて</u>、はしれなくなってしまった。</p>	<p>两条狼 [1138] <u>被猎手们套摔得晕头转向</u>，再也不知道往哪里逃了。有一条狼连 [1140] <u>摔了三四次以后已经跑不起来了</u>。</p>
<p>今回の狩りでは、足が速く、戦いにたけて、運もよかった六、七匹のオオカミだけが、猛スピードで包囲網を突破したり、体を低くして隙間から出たり、馬捕り竿を折ったりして逃げていった。それ以外、[1141] <u>包囲された</u>オオカミたちはぜんぶ戦死したのである。</p>	<p>此次打围，除了六七条速度、战技和运气好的大狼，用高速反冲、贴身钻空或别断套马杆的方法杀出重围以外，其他所有 [1142] <u>被围的狼全部战死</u>。</p>
<p>ガスマも、自分の家のバレーが噛み殺した二匹のオオカミと、サンジェの家の犬に [1143] <u>噛み殺された</u>オオカミを、引っぱってきてもらった。サンジェとグァンプが皮剥ぎの手伝いに来てくれている。</p>	<p>嘎斯迈也已经招呼人，把她家巴勒咬死的两条大狼，以及桑杰家的狗 [1144] <u>咬死的狼</u>，统统拖了过来，桑杰和官布主动上前帮她剥皮筒子。</p>
<p>老人は皮をみると、「まあ、なんとか、きれいにできたじゃないか。脂身がつ</p>	<p>老人看了看说：剥得还算干净，不带狼油。你们俩回到家，用干草把皮筒子塞</p>

<p>いてないからな。家にもって帰ったら、まず乾いた草を皮の筒につめて、長い竿のさきにかけるんだ。これからは、おまえたちもオロン草原の狩人だとみんなに [1145] <u>認められるぞ。</u></p>	<p>満，再挂在长杆的顶上，往后，额仑草原上的人，就会 [1146] <u>认你们俩是猎手啦。</u></p>
<p>戦利品は、草原の伝統的な決まりによって、きちんと [1147] <u>分けられた。</u>遊牧民は記憶力がよく、オオカミがどの犬に [1149] <u>噛まれて死んだのか、</u>だれが獲らえたのか、ほとんどまちがいなくおぼえている。</p>	<p>战利品完全按草原上的传统规矩 [1148] <u>分配</u>，没有任何矛盾。牧民的职业记性极好，哪条狼是哪条狗 [1150] <u>咬死的、哪个猎手套住的，不会出差错。</u></p>
<p>草原では、狩りの成果は [1151] <u>みんなに分けられるのだ。</u></p>	<p>在草原上，围猎战果 [1152] <u>人人有份。</u></p>
<p>「生まれた子犬もみんな天に [1153] <u>放り投げられるにちがいない。</u></p>	<p>生下的小狗崽都得 [1154] <u>被扔上腾格里去了。</u></p>
<p>ガスマはバレーに [1155] <u>助けられた</u>話をよくする。</p>	<p>嘎斯迈总是念念不忘巴勒的 [1156] <u>救命之恩。</u></p>
<p>牧場の家畜が大半、焼死するか、怪我してしまうだろう。そうでなくても、草が燃えれば冬を過ごせなくなってしまふ。彼女はまちがいなく<u>寒刑判決を受け、牢屋に</u> [1157] <u>いれられる。</u></p>	<p>今年全场的大半牲畜不被烧伤烧死，也过不了没有草的冬季了，她肯定得<u>被判刑</u> [1158] <u>坐牢。</u></p>
<p>「オロン草原では、どのパオにも命を助ける犬がいるし、どのパオにも犬に [1159] <u>助けられた男と女がいるわ。</u></p>	<p>在额仑草原，家家都有救命狗；包包都有 [1160] <u>被狗救过命的男人和女人。</u></p>
<p>草原では、犬を殺したり、犬の肉を食べたり、犬の皮を剥いで敷き布団にするような行為は、恩知らずで許せない罪だと [1161] <u>みなされている。</u></p>	<p>所以，在草原，杀狗、吃狗肉、剥狗皮和睡狗皮褥子的行为， [1162] <u>被草原人视为忘恩负义，不可饶恕的罪孽。</u></p>

<p>最近は、遊牧民の犬がときどき、内地から来た人間に[1163]盗まれて[1165]食べられたり、犬の皮が東北地方や内地 [1167] へ密輸されている。</p>	<p>眼下，牧民的狗也经常 [1164] 被内地来的盲流偷走 [1166] 吃掉，狗皮则 [1168] 被偷运到东北和关内。</p>
<p>いまは、政治のスローガンにも [1169] 使われて、</p>	<p>到现在又 [1170] 成了政治口号，</p>
<p>それに従わなければ、野蛮人と [1171] され、[1173] 殺されることだってあったのです。</p>	<p>谁要是不照着做，谁 [1172] 就是野蛮人，最严重的还要 [1174] 被杀头。</p>
<p>礼儀を重んずる漢民族にとっては、これほど失礼なことはなく、メンツが [1175] つぶされたとひどく怒りますよ。</p>	<p>让讲究礼仪的汉人觉得很失礼、[1176] 很丢面子、很生气</p>
<p>ガスマはため息をついて、腹立ちまぎれにいった。「犬は漢人のところにいったら、ひどい目にあうね。いいところは役立ててもらえず、悪いところばかり [1177] みられて、[1179] けなされる。わたしが犬なら、ぜったい漢人のところへいかないよ。オオカミに [1181] 噛み殺されても草原に残る」</p>	<p>嘎斯迈叹了一口气，忿忿不平地说：狗到了你们汉人住的地方真是倒霉透了，狗的好处全使不出来，狗的毛病全 [1178] 让你们汉人抓住了 [1180]【対応無し】。我要是狗就不跑到汉人地方去，我宁可 [1182] 让狼咬死，也要留在草原。</p>
<p>今後、また羊を噛み殺しても、死罪は免除しよう。だが、[1183] 殺された羊の皮は上納しなければならない。</p>	<p>往后它再咬死羊可免死罪。不过， [1184]【対応無し】羊皮得交公，羊肉你们得掏钱。</p>
<p>狩猟場はいたるところ、真っ赤な血の跡と皮を [1185] 剥がされたオオカミの白っぽい死体がちらばっている。</p>	<p>猎场到处都是鲜红的血迹和 [1186]【対応無し】白生生的狼的裸尸，</p>
<p>包順貴は地面にあぐらをかいてウリジーに話した。「いま、国境の情勢が緊迫</p>	<p>包顺贵盘腿坐在地上对乌力吉说：现在边防这么吃紧，上面一直 [1188] 催我</p>

<p>している。上からはずっと民兵の軍事訓練をしっかりとやれと、[1187] <u>せきたて</u>られている、思ってもみなかった。今回のオオカミ狩りが、偶然に血をみる実践になるとはな。」</p>	<p>抓紧时间组织民兵军事训练。没想到这次打围，歪打正着，倒来了个刺刀见红的大实战。</p>
<p>王軍立は軽蔑のまなざしで陳陣をみている。「むかし、遊牧民族が頻繁に中国を侵入してきて、二回も中国を統治した。でも、どうだろう。結局、中国の進んだ文化に [1189] <u>征服</u>されたじゃないか。」</p>	<p>王军立不屑地说：游牧民族虽然经常入主中原，还两次统治全中国，但是最后还不是 [1190] <u>被中华先进文化所征服</u>了吗？</p>
<p>「世界史をみれば、多くの古代文明の大国は、強大な軍事力をもった新しい民族に [1191] <u>滅ぼ</u>されてしまった。文字も言語も種族も徹底的に [1193] <u>消</u>されてしまった。」</p>	<p>世界历史上许多文明古国大国，不是 [1192] <u>被武功强大的落后民族彻底消</u>灭了吗？连文字语言种族都 [1194] <u>灭</u>亡消失了。</p>
<p>「もしモンゴル民族が漢民族の農耕文化をうけいれ、モンゴル草原を大規模な田畑に開墾していたら、中国の文明はとっくに黄砂に [1195] <u>のみこ</u>まれていただろう。」</p>	<p>要是蒙古民族接受了汉族农耕文化，把蒙古大草原开垦成大农田，那中原的华夏文明可能早就 [1196] <u>被黄沙吞</u>没了。</p>
<p>二郎は自分の獲物が大勢の人に [1197] <u>触</u>られているのを見て、不機嫌になり、ゆっくりとかれらに近づいていった。</p>	<p>二郎看到那么多人来 [1198] <u>摸</u>它的猎物，很不舒服，它慢慢走近他们。</p>
<p>楊克は声を低くしていった。「おい、凶暴な犬でさえこんなに [1199] <u>嫌</u>われるのに、もし……もしあのオオカミの赤ん坊が大きくなったら、ぼくらのパオにはだれもこなくなるぜ。」</p>	<p>杨克压低了声音说：养了条恶狗就 [1200] <u>把人吓成这样</u>，要是……要是小狼崽长大了，谁还敢到咱们包来？</p>

<p>二郎は、牧場の幹部と遊牧民たちに [1201] <u>認められた</u>うえ、とうとう、 第二生産隊のほかの犬たちにも [1203] <u>うけいれられた</u>のである。</p>	<p>二郎在 [1202] <u>得到</u>牧场领导和牧民的 <u>首肯</u>之后，又终于被二队的大狗们 [1204] <u>接纳</u>了。</p>
<p>老人は慌てて手をふった。「とんでもないことだ。そこまで [1205] <u>いわれた</u>ら、天が怒る。あの方たちはみなモンゴルの聖人だ。戦争をすれば、七、八カ国も、数十城も、数十万の軍隊も攻め落とした。あの方がいなければ、モンゴルの大草原はとっくに [1207] <u>開墾</u>されてしまったただろう。」</p>	<p>老人慌忙摆手说：可不能这么比，这么 [1206] <u>比我</u>，要惹腾格里生气的。那几位都是蒙古的圣人，一打起来，就能打下七八个国家几十个城几十万军队，没有他们，蒙古大草原早就 [128] <u>让</u>别人<u>开了</u>荒了，</p>
<p>ビリグじいさんはいった。「……むかし、草原で火を放った人間は、家族全員がカンに [1209] <u>殺</u>された。」</p>	<p>毕利格老人说：……从前谁要烧了草原，蒙古大汗就会 [1210] <u>杀</u>了他全家。</p>
<p>張継原はいった。「ぼくら三人の馬飼いは、みんなオオカミ狩りに来て、馬の群れを二十四時間も山にほったらかししている。このままじゃ、オオカミに [1211] <u>迂回</u>され背後を [1213] <u>と</u>られちゃう。」</p>	<p>张继原说：我们三个马倌都出来打狼，马群扔在山上一天一夜了，再不回去狼群就要 [1212] 【対応なし】 [1214] <u>抄</u>我们的<u>后路</u>了，</p>
<p>ランムザーブがオオカミのような目を見開いて、吠えだした。「[1215] <u>隔離</u>された<u>ってかまわない</u>。なにを [1217] <u>いわ</u>れても、行くもんか。馬の群れにもどらないと。」</p>	<p>兰木扎布瞪圆狼眼，喊声如嗥： [1216] <u>你爱办不办</u>！ [1218] 【対応無し】 我就是不去！我得赶回马群去了！</p>
<p>ここは長年の間、野火に [1219] <u>焼</u>かれたことがないようだ。</p>	<p>这是片多年未 [1220] <u>被野火烧过</u>的大苇地，</p>
<p>東南の方向から黒い煙があがり、一瞬</p>	<p>东南方向已冒起滚滚黑烟，刹那间，东</p>

<p>のうちに、東、西、北の数十ヵ所で同時に火が [1221] <u>つけられた</u>。</p>	<p>西北几十个火点同时 [1222] <u>烧起</u>。</p>
<p>油を含んだ乾燥したアシがびっしり生えている。アシ原は炎に触れて、大風に [1223] <u>吹かれる</u>と、石油タンクが爆発したように燃え上がった。</p>	<p>密密匝匝的油皮枯苇，[1224] <u>一遇到</u>明火大风，顿时像油库爆炸一样燃烧起来，</p>
<p>数百ヘクタールのアシ原はあっという間に火の海と化し、火の海の上空には黒く焼け焦げた葉や茎が熱気に [1225] <u>舞い上げられている</u>。それは、まるで空を覆った黒いコウモリの群れが、東南の方向へ急いで飛んでいくようだ。</p>	<p>几千亩苇地立即变成了火海，火海上空飞舞着[1226]<u>被热风卷起的</u>黑叶黑管，像遮天蔽日的黑蝙蝠群向东南方向急飞。</p>
<p>陳陣と楊克は慌てて老人を抱え煙から脱け出して<u>雪に</u> [1227] <u>覆われた坂</u>にのぼった。老人の顔は黒く [1229] <u>いぶされ</u>、目から黒い涙が流れ出ている。</p>	<p>陈阵和杨克慌忙架扶起老人冲出浓烟，跑到 [1228] <u>雪坡</u>上。老人 [1230]【対応無し】满脸黑尘，满眼黑泪。</p>
<p>大風が火の波に勢いをつけ、アシの根までも [1231] <u>吹き返されて</u> [1233] <u>焼かれた</u>。厚い灰燼が空に吹き飛び、残雪に [1235] <u>覆われた</u>東南方向の牧草地に [1237] <u>敷かれている</u>。</p>	<p>大风猛推火浪，[1232] <u>把陈苇旧根吹开烧尽</u>，再 [1234] <u>将厚厚的</u>灰烬刮向天空，[1238] <u>撒向</u>东南方向残雪[1326] <u>覆盖的</u>草场。</p>
<p>火は午後いっぱい燃えつづけ、火と風が通ったところはアシが一本も残っていない。やっと、火が消えたところには、数百ヘクタールの金色のアシは一面の焦土と化したばかりでなく、雪に [1239] <u>覆われた</u>数千ヘクタールの土地も火事場の風に [1241] <u>吹かれて</u>黒</p>	<p>大火烧了大半个下午，风火过处寸苇不留。火星终于熄灭，几千亩金苇变成了一片焦土，又繁生出下风处的万亩 [1240]【対応無し】黒 [1242]【対応無し】雪地。</p>

くなっている。	
煙は強風にきれいに [1243] <u>吹き消され</u> 、火事場はだんだん冷えてきた。	大风 [1244] <u>刮净残烟</u> ，火场渐渐变冷。
「そりゃ、[1245] <u>焼かれたら縮む</u> だろう。小さくなったんだよ。」と包順貴がいうと、「そうだ、子オオカミかもしれない。」と王軍立はうなずいた。	包顺贵说：狼一 [1246] <u>烧身子准抽抽</u> ，自然就小了。王军立点头说：没准是一条小狼呢。
厚いアシの山で [1247] <u>焼かれたら</u> しく、真っ黒くなっている。	显然，这具尸体是在厚厚的陈苇堆上 [1248] <u>被架起来烧的</u> ，烧得透焦。
バトはまわりの人々に何度も [1249] <u>聞か</u> れていらだった。「毛主席に誓います。天に誓います。おれとブーハはこの目でみたんだ。あんたたちもオオカミの群れの新しい足跡をみたじゃないか。」	巴图 [1250] <u>被周围的人问急了</u> ，就连声说：向毛主席保证，向腾格里发誓。我和布赫都亲眼看见的，你们不是也看见狼群的新爪印了吗。
モンゴル大草原では、牡の種牛がもっとも自由で、人々からも [1251] <u>尊ば</u> れている。	牛是蒙古大草原上，最自由最快乐最 [1252] <u>受人们尊敬的公牛</u> ，
大きくなった種牛は、交配する夏になると、各家の牛の群れで思う存分に遊ぶ。それ以外の時間は、牛の群れを離れて、野牛のように草原で悠々自適にぶらぶらしている。人間の世話を [1253] <u>されたり</u> 、餌をもらう必要がない。	牛长大以后，除了在夏天的交配季节，它们跑到各家牛群里尽情交欢外，其余的时间就离开牛群，自由自在地像野牛一样在草原上到处闲逛，无须 [1254] <u>人看管和喂饮</u> 。
交配の季節が終わると、種牛の妻や妾、子どもたちの世話は、草原の人間に [1255] <u>ゆだねられる</u> 。	在交配季节之后，它们的妻妾儿女都 [1256] <u>交给了草原人来照料</u> 。
種牛は、草原の遊牧民に神のように	牛一直 [1258] <u>被草原牧民奉为神物</u> ，

<p>[1257] <u>あがめられて</u>きた。種牛が元気であれば、牛と羊は繁殖することが</p> <p>[1259] <u>予知され</u>、種牛がやせたり病気になるれば、大きな災難がふりかかることを意味する。</p>	<p>牛健壮就 [1260] <u>预示</u>牛羊兴旺，牛病瘦就意味灾祸临头。</p>
<p>びっしりと生えていた毛が燃えて黒く縮れ、指の太さほどの厚い皮には亀裂が生じて、その裂け目からクリーム色の脂が現れている。[1261] <u>見開かれて</u>いる牛の目は二個の黒い電球のようで、舌は十五センチほど垂れ下がっている。</p>	<p>厚密的牛毛已烧成一大片黑色焦泡，近一指厚的牛皮被烧得龟裂，裂缝里露出白黄色的牛油，牛眼 [1262] <u>瞪</u>得像两盏黑灯泡，牛舌吐出半尺长，口鼻里的黑水还在流淌。</p>
<p>ガスマがいった。「罪なことよ。生産隊のいちばんりっぱな種牛だった。わたしたちのグループの半分の牛は、この二頭の血を引いている。草原が火で焼けるもんですか。草原は遅かれ早かれ、あんたに<u>だめに</u> [1263] <u>されて</u>しまうわ！」</p>	<p>嘎斯迈说：作孽啊，这可是咱们队最好的两头牛，我们组有一半的牛都是这两头牛的儿孙啊。草原能用火烧的吗！草原早晚得 [1264] <u>毁在你的手里</u>！</p>
<p>ビリグじいさんがいった。「この二頭の牛は漢人が草原紅牛といってるが、モンゴル牛になかでもっとも優秀な品種だ。この二頭と交配して生まれた牝牛は乳がよく出るし、[1265] <u>去勢された</u>子牛は肉が多くて質もよい。」</p>	<p>毕利格老人说：这两头牛是蒙古牛的最好品种——草原红牛。这两头牛配出来的母牛出奶最多，配出来的 [1266] <u>犏牛</u>出肉最多，肉质也最好。</p>
<p>ラスランがいった。「ちょうどアシ原には風がなくて、種牛はなかで寝ていたのだろう。そこに火を [1267] <u>つけられて</u>、種牛は足が遅いから、火から</p>	<p>沙茨楞说：苇地里没风，牛在苇地里躺得好好的，非得去 [1268] <u>烧</u>一把火。牛跑得慢，哪能跑过火呢。</p>

逃れられなかったのさ。」	
焦げた牛皮が裂けている。大きな体はひび割れて、 <u>神様</u> についての本に <u>[1269]</u> 書かれた鬼の符号や呪文のような模様になっている。	焦黒的牛皮还在开裂,庞大的牛身上炸出恐怖的[1270]天书鬼符咒语般的裂纹。
ウリジーはいった。「今回の狩りには抜けた穴があった。はじめた前、人と犬がうるさすぎた。きっと、火を[1271]つけられる前に、白い王が群れをつれて逃げたにちがいない。」	乌力吉说:这次打围只有一个漏洞,就是打围前人和狗的动静太大了,老白狼准是在[1272]点火以前就带着狼群溜走了。
年寄りのグァンプが、筒状になったオオカミの皮のなかに枯れ草を入れる方法を楊克と張繼原に教えている。二枚の皮が牛車の上に[1273]広げられている。	陈阵见杨克尚未出发,官布正在教杨克和张继原塞狼皮筒子,两个皮筒已经[1274]摊在空牛车上。
二枚の皮に枯れ草がいっぱい[1275]つめられると、グァンプはオオカミの鼻孔にそっと穴をあけて、細い革の紐を通した。	两个狼皮筒子[1276]塞满草以后,官布又将狼鼻孔轻轻扎通,穿上细皮绳。
カバノキの竿に縛りつけた二枚の皮は、風に高く[1277]吹きあげられて、信号旗のようにはためいた。	两个狼皮筒悬挂在桦木杆上,[1278]被高高地送到空中,像两筒迎风招展的信号旗。
陳陣、楊克、張繼原は、竿のさきで高くはためいているオオカミの皮に[1279]魅せられて、立ったまま動けなくなった。	陈阵、杨克和张继原都[1280]被杆顶上高高的大狼旗吸引得站定了脚跟。
二枚の皮は、旗のように右に左にひらひら揺れている。ときどき強い春風に[1281]あおられて横になる。	两筒狼旗一左一右在风中猎猎飘动,[1282]被浩荡的春风刮得横在天空。

<p>世界の歴史をみると、突厥騎兵は獐猛でかしく、西突厥は唐の大軍によって中国から [1283] <u>追い出されて</u>から、すぐにあらたな勢力範囲を獲得し、徐々に力をたくわえていった。</p>	<p>世界历史上，突厥騎兵又凶猛又智慧，西突厥 [1284] <u>被唐朝大军打出</u>中国以后，就很快打出一块新地盘，并慢慢站稳脚跟，</p>
<p>進んだ文明っていうのは、敵に [1285] <u>追いこまれて</u>こそ発展するものだ。西洋の“森林オオカミ”が東洋の“草原オオカミ”に内海から [1287] <u>追い出されて</u>、深い大洋に [1289] <u>追いこまれると</u>、もっと強くて勇敢な“海洋オオカミ”になった。</p>	<p>所有先进文明都是 [1286] <u>被逼</u>出来的，西方森林狼 [1288] <u>被东方草原狼逼出</u>了内海， [1290] <u>逼下深海，逼进了</u>大洋，变成了更加强悍的海狼。</p>
<p>オオカミの群れの遠吠えのようにも、文化大革命前の北京西什庫教会で [1291] <u>奏でられて</u>いた悲しげなオルガンの響きのようにも聞こえて、もの寂しく泣きたくなるほどだった。二枚の大きな皮は風に [1293] <u>吹き上げられ</u>空中で横になっている。</p>	<p>强劲的草原春风吹得陈阵两耳呜呜地生音生乐，像是远方狼群的哭嚎，也像文革前北京西什库教堂里 [1292] 【対応無し】 哀哀的管风琴琴声，吹得他满心凄凉哀伤。两条大狼皮筒 [1294] <u>被风吹得横在</u>天空，</p>
<p>オオカミの皮に [1295] <u>つめられた</u>のは枯れ草ではなく、感情ほとばしる生命力と明るい戦闘力だと、陳陣は思った。</p>	<p>陈阵一点也觉不出狼身子里 [1296] <u>充满</u>干草，反而觉得那里面充满了激情的生命和欢乐的战斗力。</p>
<p>陳陣は、足を止めて仰ぎのぞむこと自体、一種の儀式だと気がついた。いつのまにか、トーテムのもとに身 [1297] <u>が置かれ</u>、敬慕する場所に [1299] <u>立た</u>されている。</p>	<p>陈阵发现自己驻足仰望本身就是一种仪式，他在不知不觉之中，已 [1298] <u>将自己置于</u>图腾之下、 [1300] <u>站在</u>景仰的位置上了。</p>
<p>「本物の草原はすごく厳しく、草原の</p>	<p>真正的草原实在太严酷了，草原精神其</p>

<p>精神はじつにオオカミのみに [1301] <u>集中されてるんだ。</u></p>	<p>实都 [1302] <u>集中在狼身上。</u></p>
<p>壁の土が柔らかくなって、赤ん坊はまたマツケムシのごとく転がり、穴の底に [1303] <u>たたきつけられる。</u></p>	<p>壁土松了，狼崽像个松毛球似的跌 [1304] <u>滚到洞底，</u></p>
<p>「オオカミの穴に入らずんばオオカミの赤ん坊を得ず。オオカミの赤ん坊を得られれば、[1305] <u>噛まれたって怖くない。</u>」</p>	<p>焉得狼子。得了狼子，就更不能怕狼 [1306] <u>咬了。</u></p>
<p>「逆に、東洋に攻めてきた西洋人も游牧民族の子孫だった。古代ローマの城をつくったのは、メスオオカミに [1307] <u>育てられた兄弟で、ローマの徽章にいまもメスオオカミと人間の子どもが [1309] <u>刻まれている。</u>」</u></p>	<p>而攻打到东方来的西方人，也是游牧民族的后代。古罗马城的建城者就是两个狼孩兄弟，是 [1308] <u>被母狼养大的。</u>母狼和狼孩至今还 [1310] <u>镌刻在罗马城徽上呢。</u></p>
<p>「手本の力は限りがない」と [1311] <u>いわれるが、トーテムの精神的な力は、手本をはるかに超え、神となっている。</u></p>	<p>[1312] <u>都说榜样的力量是无穷的，而图腾的精神力量远高于榜样，它处在神的位置上。</u></p>
<p>しかし、白雲が飛んでいってしまうと、また初夏の強い日ざしにでも [1313] <u>さらされているように、たちまち、顔や手から汗が出る。綿入れの服にさえ太陽のにおいがしてくる。銅製のボタンをはずして風を入れようとすると、また白雲の大きな影にすっぽり [1315] <u>覆われ、どによりした寒い春にもどってしまう。</u></u></p>	<p>但白云掠过之后，强烈的阳光又 [1314] <u>把他置于如同初夏的太阳曝晒之下，脸和手顿时就被晒出了汗，连棉袍的布面都晒出了阳光的气味。当他刚想解开铜扣透透气的时候，又会 [1316] <u>被一大片白云投下的阴影完全罩住，使他又回到阴冷的春天。</u></u></p>
<p>雪が融ける前に早く出た草の芽は、雪に [1317] <u>覆われて黄色くなっている</u></p>	<p>雪前早发的春芽已 [1318] <u>被雪捂黄，</u>只在草芽尖上还带点绿色。</p>

<p>が、芽のさきだけは少し緑色を帯びている。</p>	
<p>大小まちまちなたくさんの臨時の池に、千も万もの雲が [1319] <u>映され</u>、オロン草原が舞い上がっているように見える。</p>	<p>千百个大小不一的临时池塘，[1320] <u>映着</u>千万朵飘飞的白云，整个额仑草原仿佛都在飞舞。</p>
<p>逆光のもとでは、白鳥の白い羽にもみえ、夕焼けが出ると、燃え出す炎のようにきらきら光る。背の低い草のなかでとりわけ目立ち、秋に草原いっぱいに咲き乱れる野花よりも目を [1321] <u>奪われる</u>。冬になると「圏草」の枯れた長い葉と穂は風に [1323] <u>吹き飛ば</u>されていくが、強靱な茎はしっかりとその場に生えている。</p>	<p>到秋季，圏草也会抽出芦花似的蓬松草穗，逆光下像一片片白天鹅的绒羽，晚霞中又像一朵朵燃烧发光的火苗，在矮草坡上尤显得鹤立鸡群，比秋天铺天盖地的野花还要 [1322] <u>夺人眼目</u>。一到冬季，圏草长长的枯叶和草穗 [1324] <u>被风卷走</u>，但它韧性极强的茎秆却坚守原地，</p>
<p>草原の遊牧民たちが家で使っている掃除や炊事用のホウキは、みんな「圏草」で [1325] <u>つくられた</u>ので、使いやすく持ちがよい。</p>	<p>草原上家家牧民用的扫帚炊帚，就是用圏草 [1326] <u>扎出来的</u>，齐整而耐用。</p>
<p>いま、人間もオオカミも上手に隠れている。オオカミには人間がみえないし、人間もオオカミにねらいをつけられないし、撃てない。しかし、さきにオオカミが人間に [1327] <u>発見</u>された。</p>	<p>此时人和狼都隐蔽得很内行，狼看不见人，人也瞄不准打不着狼，但狼已先 [1328] <u>被人发现</u>。</p>
<p>バトは躊躇しているが、張継原も心配しはじめた。自分たちが「圏草」の後ろに隠れたとき、向かい側の「圏草」にもっと早くから潜伏していたオオカミに [1329] <u>みられて</u>いなかったか。</p>	<p>巴图还在犹豫，张继原也开始担心，在他俩刚刚潜伏到这两丛圏草后面的时候，会不会也 [1330] <u>被对面更早潜伏在圏草里的狼发现</u>呢？</p>

<p>しかし、オオカミの頭や胸や腹などの急所は、「<u>圈草</u>」にすっかり [1331] <u>隠</u>されている。いまのおオオカミは、巨大な鳥かごに [1333] <u>閉じ込められた</u>おとなしい犬と同じだ。</p>	<p>但是狼头狼胸狼腹这些要害部位，全 [1332] <u>被圈草所半遮半掩</u>，狼此时像 [1334] <u>被关在巨大鸟笼里的一条听话的狗</u>。</p>
<p>狩人たちの話によると、オロン草原のオオカミは銃をもつ人をみれば、五百メートルや四百メートルなら逃げ出さない。三百メートルになれば逃げ出す。この習性はバトに [1335] <u>撃たれて</u>なったものだという。</p>	<p>据许多猎手说，额仑草原狼，一见背枪的人，500米400米都不跑，一到300米准跑。狼这个习惯就是 [1336] <u>让巴图打出来的</u>。</p>
<p>風が急に弱くなった。「<u>圈草</u>」が立ってオオカミが草の隙間からあらわれたとたんに、右側の「<u>圈草</u>」から突然、細い体をしたオオカミが飛び出てきて、坂の下へ走りだした。そして、二匹のオオカミの前を通ったとき、二匹はへびにでも [1337] <u>咬まれた</u>ようにびゅんと飛び上がって、首を引っこめて頭を低くし、そのオオカミについて北西のほうの坂へ走っていった。</p>	<p>正当风力突减，圈草挺起，狼从草缝中露出来的时候，从目标右侧方的圈草里忽然蹿出一条细细的狼，向坡下冲去，正好从两条大狼前面通过。两条大狼像 [1338] <u>被蛇咬了一样</u>，嗖地跃起，缩脖低头，紧跟那条狼冲下西北山坡。</p>
<p>第三グループの知識青年、鄭林が、急斜面をおりていたときがそうだった。馬をとめられなかったので、馬は前足を踏みはずしてしまった。かれは空に [1339] <u>投げ出され</u>、肩から落ちて、鎖骨を骨折して、最後にドンところんだ馬に [1341] <u>たたきつけられた</u>。鄭林はいまも北京で療養している。</p>	<p>三组知青马倌郑林，就是因为下陡坡没勒住马，马失前蹄，人 [1340] <u>被抛上</u>半空，落下来时肩膀着地，锁骨骨折，还 [1342] <u>让滚马狠狠地砸了一下</u>，此时还在北京疗伤。</p>

<p>そのとき、バトがいきなり、「馬から降りろ」と叫んで、急に頭絡をしめた。馬飼いの専用馬は、高速でも急停止できる。群れのなかで暴れた馬を追いかけるときに [1343] <u>鍛えられた</u>能力で、いまはそれが役立った。二頭の馬は数歩で急停止したが、巨大な慣性に二人は [1345] <u>投げ出され</u>そうになった。</p>	<p>正在此刻，巴图突然大喊下马！然后紧勒马嚼子，凡是杆子马，都有在高速中急停的绝技，这是它们在马群里追狡马 [1344] <u>练出来的</u>本事，在此刻用得恰到好处。两匹马咔咔几步猛然刹住，巨大的惯性几乎 [1346] <u>把两人抛出</u>马背。</p>
<p>とぎれとぎれの血の跡をたどりながらバトと張継原は一時間以上も追った。ある草地にきたとき、二人はあっけに [1347] <u>とられた</u>。</p>	<p>血迹时现时断，两人又追了一个多小时，在一处草滩上，两人都 [1348] <u>愣住了</u></p>
<p>張継原はオオカミの爪に [1349] <u>ひっかかれた</u>ような気がして、みぞおちのあたりが急に痛みだした。</p>	<p>张继原心口一阵紧痛，像 [1350] <u>被狼爪抓了一下</u>似的，</p>
<p>足を一本 [1351] <u>撃たれた</u>オオカミが、これほど長い時間、長い距離を走って、生産隊でいちばん速い馬に乗った人間を後ろに引き離してしまうとは、張継原が思ってもみなかったことだ。</p>	<p>张继原没有想到一条 [1352] <u>被打断腿</u>的狼还能跑这么长的时间和距离，居然把骑着全队最快的马的人甩在后面。</p>
<p>モンゴル大草原の虚弱な外見は、この砂の道によって容易に明らかに [1353] <u>されている</u>。</p>	<p>蒙古大草原的虚弱外表被这条沙路轻易揭开， [1354] <u>露出</u>薄薄草皮下恐怖的真面目。</p>
<p>西風が吹くと、百里の砂の龍が空に舞い上がり、馬の蹄が砂塵を巻き起こし、人も馬もゴビ砂漠に身を [1355] <u>置かれている</u>ように、目があけられず、鼻がむずむずしてくる。</p>	<p>西风一刮，百里沙龙开始爬升腾飞，马蹄踏起沙尘干粉，人和马像是 [1356] <u>被裹在迷眼呛鼻的沙漠戈壁里</u>。</p>
<p>張継原はオオカミの目を直視できない</p>	<p>张继原感到自己不敢与狼的目光对视，</p>

<p>気がした。この大草原に立って、つまり草原の立場に立って、正義のすべてはオオカミに [1357] <u>奪われた</u>ように感じるのだ。</p>	<p>站在这片古老的草原上,也就是站在草原的立场上,正义仿佛已全 [1358] <u>被狼夺去</u>……</p>
<p>足の不自由なオオカミは敵が動かないとみて、ふりむいて片足で土を掘りはじめた。路肩の断面には、三十センチほどの灰色の表土があるが、下は黄砂と小石だけである。とうとう一塊の草が [1359] <u>掘り起こされ</u>、砂の路肩が崩れてしまった。</p>	<p>獾狼久久不见追敌动手,它便扭转身用单爪刨土,路岸的断面,最表层只有不到 30 厘米厚的灰黑表土,表土之下就全是黄沙和沙砾了。狼终于 [1360] <u>刨掉</u>了一坨草皮,一块沙岸垮塌下来,</p>
<p>毎年、定期的に土をすき起こして耕しているが、とっくに砂漠化し、草は一本も生えていない。国境の外から燃えてくる、あるいは国境のなかから燃え広がった小規模の山火事を防ぐために [1361] <u>つくられた</u>ものである。この防火用の耕地だけは、オロン草原の遊牧民に [1363] <u>容認</u>されている。開墾によって草原に [1365] <u>もたれ</u>された唯一のよいものだと、草原の老人たちはいっている。</p>	<p>防火道年年定期翻耕,早已沙化,寸草不生,仅 [1362] <u>用以</u>阻挡境外烧过来、以及境内可能烧过去的小规模的野外火灾。只有这条用于防火的耕地, [1364] <u>为</u>额仑草原牧民<u>所</u>容忍,草原老人们说这是农垦 [1366] <u>给</u>草原的惟一好处。</p>
<p>長い冬の中に凍死した家畜や、オオカミの群れに [1367] <u>噛み殺</u>されて、ばらばらになった家畜の食べ残しが腐敗している。</p>	<p>在漫长冬季冻毙的弱畜, [1368] <u>被</u>狼群<u>咬死</u>肢解吃剩的牲畜都在腐烂,</p>
<p>人間と家畜の排泄物や、人間とオオカミの残酷な戦いで [1369] <u>残</u>された腐った肉、腐った血と [1371] <u>碎</u>かれた</p>	<p>人畜一冬的排泄物、人与狼残酷战争 [1370] <u>留</u>下的腐肉、臭血和 [1372] <u>碎</u>骨,给薄薄的草皮添加了一层宝贵的</p>

<p>骨は、貴重な腐植質、有機質、カルシウム、燐をまばらな草にあたえている。</p>	<p>腐殖质，有机质和钙磷质。</p>
<p>春のオロン草原は水も肥料もふんだんにある。血が草原を肥やして、草はどんだんのびる。暖かい日が二週間以上つづき、腐った古い草が緑色の草に [1373] <u>覆われ</u>、湿原や山坂は緑一色になった。</p>	<p>春天的额仑草场水肥充足，血沃草原，劲草疯长。连续半个多月的暖日，绿草已 [1374] <u>覆盖</u>了陈腐的旧草。草甸草坡全绿了。</p>
<p>子羊が急増し、オロンのポリグ牧場が所有している四季を通して使える牧草地は、もう少しでパンクしそうだ。しかし、牧草地と家畜数のバランスを保つために家畜を多量に売り出したり、あるいは上納すれば、上級機関から [1375] <u>出された</u>家畜の数を達成できない。</p>	<p>羊羔激增，额仑宝力格牧场原有的四季草场眼看就要超载。如果为了维持草场与载畜量的平衡而大批出售或上交牲畜，牧场将完不成上级 [1376] <u>下达</u>的数量死任务。</p>
<p>ウリジーの話によると、むかしからの山には人煙がなかった。その牧草地は肥えているし、小川も湖もある。草の高さは一メートルあまりもある。長い間に、古くなった草が腐り、三十センチほども積もっている。水も多いので、蚊が驚くほど多い。夏と秋になると、牛も [1377] <u>食われる</u>ほど、蚊が山のなかを飛びまわっている。</p>	<p>据乌力吉说，那片荒山自古以来还未有过人烟，那里的草地肥厚，有小河有大水泡子，山草疯长一米多高，年年积下的陈草一尺多厚。水多草厚，那里的蚊子也就多得吓人，一到夏秋，蚊子多得能 [1378] <u>吃牛</u>。</p>
<p>長い間、かれはこの荒れ山を気にかけてきた。秋の野火がああ腐った草をすっかり燃やしてくれれば、ずっと願っていた。そうしたら、次の年の春に、</p>	<p>许多年来他一直惦念着那片荒山，盼望来一场秋季野火，彻底烧掉那里的腐草，然后在来年春天，再驱赶一个大队的牲畜进场，用千千万万的马蹄牛蹄羊</p>

<p>生産大隊の家畜をあつ山に追いやつて、無数の馬蹄、牛蹄、羊蹄で柔らかい土を固めさせ、新しい草を食べさせて、草が長くなるのを抑える。そうすれば、地面が [1379] <u>固められ</u>、土が肥えて、草が低くなり、蚊も少なくなるはずだ。</p>	<p>蹄踩实松土,吃掉新草,控制草的长势。那样的话,地 [1380] <u>实了</u>,土肥了,草矮了,蚊子也就少了。</p>
<p>「内地から肉をください、肉をくださいとうるさいが、草原から草をもらうことだぞ。このままでいったら、草原の命まで [1381] <u>奪われかねない</u>。」</p>	<p>内地一个劲地来要肉,实际上就是跟草原要草啊,再要下去,就 [1382] <u>要了草原的命了</u>。</p>
<p>「草原の草は密集して生えていないから、心配事が多すぎる。[1383] <u>踏まれる</u>のも、[1385] <u>かじられる</u>のも、日照りも、ヤギも、馬の群れも、イナゴも、野ネズミも、野ウサギも、タルバガンも、黄羊も、農民も、開墾も、人が多いことも、人間の食欲も、牧草地が足りなくなることも、どれも怖い。」</p>	<p>草原太薄太虚,怕的东西太多:[1384] <u>怕踩</u>、[1386] <u>怕啃</u>、怕旱、怕山羊、怕马群、怕蝗虫、怕老鼠、怕野兔、怕獭子、怕黄羊、怕农民、怕开垦、怕人多、怕人太贪心、怕草场超载,</p>
<p>ビリグじいさんがうなずいた。「草原は大きな命だけど、薄命さ。人のまぶたより薄いんだ。表面の草が [1387] <u>剝がされたら</u>、草原はだめになってしまう。」</p>	<p>毕利格点头说:草原是大命,可它的命比人的眼皮子还薄,草皮 [1388] <u>一破</u>,草原就瞎了,</p>
<p>「話によると、外国では、政府が厳しい法律で草原を管理し、牧草地の違いによって放牧する家畜の種類を決めて、一ヘクタールの牧草地に何頭の家畜をいれるかも、しっかりと決めてい</p>	<p>听说,国外的政府,管理草原都有严格的法律,什么样的草场只能放什么样的牲畜,连一公顷草场放多少头牲畜都定得死死的,谁敢超载就 [1390] <u>狠罚</u> <u>狠判</u>。</p>

<p>るそうだ。家畜の数が多すぎると厳罰に [1389] されるっていう。」</p>	
<p>タルバガンは森の熊のように、脂肪を貯えて冬眠する動物である。その肉は草原のほかの動物の肉と異なっている。豚肉のような白い脂身の層があって、赤身の部分との色の対比が鮮やかである。草原の美味として [1391] 知られ、臭みがなく、牛肉や羊肉より食べやすい。</p>	<p>旱獭是像森林熊一样靠脂肪越冬的冬眠动物, 獭肉与草原上所有动物的肉都不同, 它有一层像猪肉一样的肥膘白肉, 与瘦肉红白分明, [1392]【対応無し】是草原上著名的美味, 鲜肥无膻味, 比牛羊肉更好吃。</p>
<p>陳陣は目の前のタルバガンの陣構えに [1393] 驚かされた。十数個の連なった丘の上と坂の斜面には、少なくとも六、七十匹ほどのタルバガンが立っている。大きいのも、小さいのも、遠くからは [1395] 伐採された林の切り株のようにみえる。</p>	<p>陈阵还是 [1394] 被眼前旱獭的阵势吓了一跳: 十几个连环山包的坡顶和坡面上站着至少六七十只大小旱獭, 远看像一片 [1396] 采伐过的树林的一段一段树桩。</p>
<p>ちょうど鉱山に入り口の前 [1397] に積まれた砕けた鉱物のように、広い面積の草地を覆っている。</p>	<p>平台三面是沙石坡, 如同矿山坑口前 [1398] 倒卸的碎石, 压盖了大片草坡。</p>
<p>「タルバガンは草原の害獣で、山坂のいたるところに巣穴をつくる。この山をみってみる。こんなにめちやくちやくに [1399] されて。タルバガンは毎年、一度に六、七匹も子どもを産む。小さな巣穴が狭くなると大きいものを掘る。たくさんの砂や小石が [1401] 掘り起こされて、どれほど多くの牧草地がだめに [1403] されてるかわからな</p>	<p>旱獭是草原的一个大害, 山坡上到处都有它的洞, 你看看这一大片山 [1400] 让旱獭挖成啥样了。旱獭能生, 一年一窝, 一窝六七只, 洞小了就住不下, 可是洞大了要 [1402] 挖出多少沙石, [1404] 毁坏多少草场?</p>

い。」	
「あの太った体は何十アールの草と草の種で [1405] <u>つくられた</u> かわかりやしない。」	那 一身肥膘得用几亩地的草和草籽才能 [1406] <u>养出来</u> 。
「遊牧民と家畜はオオカミよりなにより蚊を恐れている。毎年、牛、羊、馬の脂身の三割、四割が蚊に [1407] <u>食われている</u> 。」	牧民和牲畜怕蚊子比怕狼还要厉害。一年下来，蚊子能 [1408] <u>吃掉</u> 牛羊马三四成的膘。
「むかしから草原では、“タルバガンが巢穴から出てくると、オオカミの群れが山にのぼる”と [1409] <u>いわれている</u> 。タルバガンが出ると、家畜はしばらくほっとできるからな。」	草原 [1410] <u>老话说</u> ，“獭子出洞，狼群上山”，旱獭一出来，牲畜就能消停一段日子。
陳陣はこの二年間というもの蚊にさんざん [1411] <u>悩まされて</u> きたが、蚊と聞いただけで、全身の毛が立ち、かゆくてかゆくて、ひっかきすぎて痛くなったような気さえしてくる。	陈阵 [1412] <u>被蚊群叮咬过</u> 两个夏季，一听到蚊群就全身发毛发痒发疼，就有皮开肉绽的感觉，
ウリジーは答えた。「草原は複雑だ。すべてが一つ一つ輪になって、つながっている。オオカミは大きな輪で、草原のどの輪ともつながっている。この大きな輪が [1413] <u>壊されたら</u> 、草原の牧畜業はやっていけない。」	乌力吉说：草原太复杂，事事一环套一环，狼是个大环，跟草原上哪个环都套着，[1414] <u>弄坏了</u> 这个大环，草原牧业就维持不下去。
ウリジーと陳陣も馬を降りて、老人の手にある黄羊の糞をみた。春の黄羊の糞は湿っていて、粒状になっていない。びっくりした二人が数歩いくと、目の前に広がっている若草は鎌で [1415]	乌力吉和陈阵也下了马，看了看老人手中的黄羊粪，春天的黄羊粪很湿，不分颗粒，挤成一段。两人都吃了一惊，又走了几步，眼前一大片嫩草像是 [1416] <u>被镰刀割过</u> 一样，[1418] 【対応無し】

<p>刈られたように [1417] <u>食べられ</u>、あちこちの高さが違っている。</p>	<p>东一块，西一片，高矮不齐。</p>
<p>陳陣が心配そうに話した。「子羊はまだ小さいから。こんなに遠くまでこられないですよ。長く歩けるようになるまで、少なくとも一ヵ月かかります。そのときは、この草地はとっくに黄羊に [1419] <u>食いつぶされ</u>ちゃってますよ。」</p>	<p>陈阵担心地说：可这会儿羊羔还小，还走不了这么远的道。要是等到羔子能上路迁场，起码还得一个月，到那时候，这片草场早就 [1420] <u>让黄羊啃光</u>了。</p>
<p>「オオカミにとって黄羊を捕まえるには、一年のうちで最高の時期だ。何日もかからないで、黄羊の群れはきっと [1421] <u>追っ払われる</u>」と、老人は言った。</p>	<p>正是一年中狼抓黄羊的最好时候，用不了几天，狼群准 [1422] <u>把黄羊群全赶跑</u>。</p>
<p>坂の草地は天に [1423] <u>切り整えられ</u>た草の絨毯のようだ。</p>	<p>草坡像是 [1424] <u>被腾格里修剪过</u>的草毯，</p>
<p>単眼鏡のレンズに、まぶしいほど白い十数羽の白鳥が広い水面にあらわれた。こんもり茂ったアシに [1425] <u>囲まれた湖</u>のなかを優雅に滑っていき、天国のような静けさと安らぎに満ちている。</p>	<p>望远镜镜头里，宽阔的湖面出现了十几只白得耀眼的天鹅，在茂密绿苇 [1426] <u>环绕的湖中幽幽滑行</u>，享受着世外天国的宁静和安乐。</p>
<p>近くの草地には、腹を [1427] <u>あけられた</u>十数頭の黄羊が横たわっている。……陳陣は岸边に生えている高い草のあたりを注意深くさがしていると、心臓が猛烈にどきどきしだした。</p>	<p>在这个河弯的草地上躺着十几只大黄羊，肚膛已 [1428] <u>被豁开</u>……陈阵仔细往河边的高草搜索，心里突然一阵狂跳</p>
<p>ウリジーとピリグじいさんは盆地の隅々をさがしている。レンズを東南方</p>	<p>乌力吉和毕利格还在搜索盆地的各个角落，把镜头对准了东南方的山坡，那</p>

<p>向の丘に向けると、そこの黄羊の群れはとっくに [1429] <u>追い散ら</u>されている。</p>	<p>里的黄羊群早已 [1430] <u>被冲散</u>,</p>
<p>黄羊はまたたく間に山を越えていった。[1431] <u>残されたのは泥沼にはまったもの</u>や、子どもをなめているメスであった。</p>	<p>黄羊一眨眼的工夫也都快速翻过山, [1432] <u>剩下几只陷在泥里的羊和舔羔的母羊</u>。</p>
<p>三人は小川が湾曲してできた草地に近づいた。幅が五、六メートルのところから歩いて入った。ここは六百平方メートルほどの広さで、<u>三方が水に</u> [1433] <u>囲ま</u>れている。</p>	<p>三人走近一个河套, 从一个只有五六米的开口处走进去, 河套只有一亩大, [1434] <u>三面环水</u>,</p>
<p>「朝、ここへ水を飲みに来て、オオカミに [1435] <u>襲</u>われたのだ」と、ビリグじいさんはいった。</p>	<p>毕利格老人说: 早上黄羊来这儿喝水, [1436] <u>让狼群打了围</u>。</p>
<p>陳陣は、オオカミが獵をするやり方を何度もみてきたが、<u>三面が水に</u> [1437] <u>囲</u>まれた湾曲した地形を利用するのをはじめてみた。</p>	<p>陈阵对狼群打围的战术已领教多次, 但看到狼群利用 [1438] <u>三面环水的河套</u>来打围还是第一次。</p>
<p>「オオカミが天に [1439] <u>か</u>わいがら<u>れ</u>てると、わしはいったけど、まちがいないだろう。」</p>	<p>我说狼是腾格里的 [1440] <u>宝贝疙瘩</u>, 没错吧?</p>
<p>陳陣は止めようとしたが、老人が「こいつは野生が強すぎる。野生のものをころさせておけば、家の羊を [1441] <u>食</u>われなくてすむから」といって、やめさせなかった。</p>	<p>老人未让陈阵阻拦, 他说: 这条狗野性大, 让它杀杀野物, 就不 [1442] <u>咬</u>自家的羊了。</p>
<p>白鳥の湖の岸は野火で [1443] <u>焼</u>かれ</p>	<p>离湖太近, 湖边还残留不少未 [1444]</p>

<p>たアシと、人間の身長ほどの新しいアシが壁のように水面をさえぎっている。陳陣は肉を食べ酒を飲みながら、こんな近くにいても、白鳥と白鳥の湖を楽しむことができない。</p>	<p>被野火烧掉的旧苇和一人多高的新苇，像一层苇墙遮住了水面，使陈阵无法一边吃肉喝酒，一边近近地欣赏天鹅和天鹅湖。</p>
<p>湾曲部に散らばっている黄羊の血だらけの死体を眺めて、この草地に足を踏み入れたとき、感じたあの静かでロマンチックな雰囲気は、いま、手についた血なまぐささで [1445] <u>覆われて</u>しまった。</p>	<p>陈阵望着河湾里成片的黄羊血尸，心里忽然空落落地伤感起来，刚踏上这片草地时感受到的那种幽静、浪漫的气息，此时已 [1446] <u>被满手的血腥气掩盖</u>了。</p>
<p>むかし、草原にもトラがいたけど、オオカミの群れに [1447] <u>追い出されて</u>しまったという話を聞いたことがある。</p>	<p>听老一辈的人说，原来草原上也有老虎，后来全 [1448] <u>让狼群赶跑</u>了。</p>
<p>兄弟部落や黄金家族の味方同士が殺し合い、それぞれの部落は散った矢のようになって、人に一本ずつ [1449] <u>折られて</u>しまった。</p>	<p>兄弟部落黄金家族互相残杀。各个部落像零散的箭一样， [1450] <u>让人家一支一支地折断</u>了。</p>
<p>オロン草原のボリグ牧場で起きた軍馬の事故について、上級機関で処分が [1451] <u>決定され</u>、牧場に [1453] <u>通達</u>された。牧場の生産責任者であるウリジー牧場長に [1455] <u>下された</u>行政処分は、「重大な過失」による免職であった。「老、中、青の三結合」の指揮部から [1457] <u>降ろされ</u>、生産現場で肉体労働に従事することになった。</p>	<p>上级机关对额仑宝力格牧场军马群事故的处理 [1452] <u>决定</u>已 [1454] <u>下</u>达到牧场。负责全场生产的乌力吉记行政大过一次，并 [1456] <u>撤消</u>牧场三结合领导班子成员职务， [1458] <u>下</u>放到基层劳动锻炼。</p>
<p>それから、バト、ラースランらも「重</p>	<p>巴图、沙茨楞等四位马倌各 [1460] <u>记</u></p>

<p>大な過失」を犯したとして、それぞれ処分が [1459] <u>下された</u>。バトは民兵中隊長の職を [1461] <u>解かれる</u>。同時にもう一枚の辞令が [1463] <u>通達された</u>。解放軍で退役の手続きを終えたばかりの包順貴が、牧場指揮部の最高責任者、「革命委員会」の主任に [1465] <u>任命され</u>、牧場の文化大革命運動と生産活動を取り締まることになった。</p>	<p>太过一次，[1462] <u>撤消</u>巴图的民兵连长一职。另一份任命也 [1464] <u>下达到</u>场，已办完转业手续的包顺贵，[1466] <u>被任命为</u>牧场领导班子第一把手，负责全场革命与生产的全面工作。</p>
<p>引っ越さなければ、パオもまわりの一キロ周辺には砂の溝がいっぱいできて、そのうえ、そこが羊の群れに毎日 [1467] <u>踏まれたら</u>、二ヵ月もかからないうちに、當地の一キロ周囲には草が一本も生えなくなる。遊牧、遊牧っていうけど、つまりは牧草地にひと休みさせるためだ。牧草地にとって怖いのは [1469] <u>踏みつけられること</u>と、家畜の数がオーバーすることだ。むやみに [1471] <u>かじられたり</u> [1473] <u>踏まれたら</u>、牧草地はパンクするに決まっている。」</p>	<p>要是不经常搬家，蒙古包旁边一两里地就全是密密麻麻的沙道沙沟了。再加上羊群天天 [1468] <u>踩</u>，用不了两个月，营盘周围方圆一两里地就寸草不长了。游牧游牧，就是为了能让草场老能喘口气。草场最怕 [1470] <u>踩</u>，最怕超载，超载就是狠 [1472] <u>啃狠</u> [1474] <u>踩</u>。</p>
<p>「草の勢いがよければ、高く伸びるので、ふつうの大雪なら牧草地が雪で [1475] <u>覆われて</u>しまうことはない。牧草地がよければ、水や土の流失はないし、泉や小川は乾かない。旱魃に [1477] <u>見舞われて</u>も、人間も家畜も飲む水がある。」</p>	<p>草势旺草就高，一般大雪 [1476] <u>盖不住</u>草；草场好，水土不流失，泉眼小河不干，就是 [1478] <u>遇上</u>大旱，人畜都有水喝。</p>

<p>「毎月、各生産隊、各生産隊グループの牧草地を視察し、草地が [1479] <u>かじられすぎ</u>ているところは、労働点数を減らす。牧草地がよく [1481] <u>守られている</u>グループには大きな賞をあたえて奨励する。」</p>	<p>我还要每个月检查各队各组的草场，哪个组的草场 [1480] <u>啃过头</u>了，我就扣他们的工分。哪个组的草场 [1482] <u>保护得好</u>，我就要给他们发重奖，给他们评先进。</p>
<p>「小さな巢から大きな巢になる間に、毎年、何頭分の羊の食料が [1483] <u>食べられて</u>ることか。」</p>	<p>你算算一窝黄鼠加上小窝变大窝，一年要 [1484] <u>吃掉</u>多少只羊的饲草？</p>
<p>「ざっと計算しても、毎年、これらの野生動物に [1485] <u>食べられる</u>草は、全牧場の十万頭の家畜が食べられる量の数倍にもなる。」</p>	<p>我大概算了算，这些野物一年 [1486] <u>吃的草</u>，要比全场十万牲畜吃的草还要多几倍。</p>
<p>「その役人さんは草原の野ネズミがおいしいかと聞いてきた。おいしいと答えると、今日の昼はほかのものはいらないから、ネズミをごちそうしてこないかと [1487] <u>いわれた</u>。」</p>	<p>他问我草原上的大鼠好不好吃，我说很好吃，他一听就 [1488] <u>说</u>今天中午不吃别的，你们就拿鼠肉招待我吧。</p>
<p>「草原ネズミの駆除にもなって、収入も増え、広東にも高級な食肉が [1489] <u>供給</u>されて、……」</p>	<p>既可以帮助草原灭鼠，又增加一笔大收入，还可以 [1490] <u>给</u>广东增加高级肉食……</p>
<p>「草原の犬は牛肉と羊肉が食えるから、野ネズミを食わない。でも、オオカミは犬ほど食料が [1491] <u>保障</u>されていない。」</p>	<p>草原上的狗有牛羊肉吃，它们从来不吃老鼠。可是狼在吃食上就不像狗那么 [1492] <u>有保障</u>了，</p>
<p>「オオカミの群れがいなければ、草原の人間と家畜は大きな災害に [1493] <u>見舞</u>われたときに、たいへん面倒なことになる。」</p>	<p>没有狼群，草原上的人和牲畜要是 [1494] <u>碰上</u>大灾就麻烦了。</p>

草原に伝染病が発生すれば、人間と家畜の半分は命が [1495] <u>失われる</u> 。	草原上出了大瘟疫，半个旗的人畜都 [1496] <u>保不住命</u> 。
「農作物には糞がいちばんだ。牛と羊の糞がなくなると、穀物の生産量が [1497] <u>高められない</u> でしょう」と、包順貴はいった。	庄稼一支花，全靠粪当家。没有了牛羊粪，粮食产量 [1498] 【対応なし】从哪来？
「もう一度、馬の群れがオオカミに [1499] <u>やられたら</u> 、おれも同じ結末になる。」	要是再 [1500] <u>让狼干掉</u> 一群马，我也跟你一样下场。
「草原に農業人口が大量に入るの [1501] <u>許される</u> べきではない。倍の代価を払うことになる。」	草原就不能 [1502] <u>让农区的人</u> 大量进入，这会付出加倍惨重的代价。
何年間かカルシウムの錠剤を母親に [1503] <u>飲まされた</u> ことがあったので、多少その分野の知識をもっている。	他小时候曾 [1504] <u>被妈妈喂过</u> 几年的钙片，略有这方面的知识，
いままで、犬たちと遊びたいときだけやっていたが、小狼が来てから、つねに犬たちをかわいがっていないと、主人の愛情が小狼に移ったと犬に思われたら、ねたみで小狼を [1505] <u>噛み殺</u> されかねない。	以前陈阵只在自己特别想亲热狗的时候才去和狗们亲热。可小狼来了以后，就必须时时对狗们表示加倍的喜爱，否则，狗们一旦发现主人的爱已经转移到小狼身上，狗们的嫉妒心很可能把小狼 [1506] <u>咬死</u> 。
空気がだんだん暖かくなり、冬を越すための食肉はとっくに解凍していた。細長く切って外に出し、風に [1507] <u>吹かれて</u> 干し肉になっている。	天气越来越暖和，过冬的肉食早在化冻以后割成肉条， [1508] <u>被风吹成</u> 肉干了。
老人はまたこうも話した。「草原のオオカミはみな飢えたオオカミの子孫だ。もともといた衣食が満ち足りたオオカミたちは、その後、飢饉のためによそ	老人说，草原狼都是饿狼的后代，原先那些丰衣足食的狼，后来都 [1510] <u>让</u> 逃荒来的饥狼打败了。

<p>から逃れてきたオオカミたちに [1509] <u>負かされた。</u>」</p>	
<p>残酷な生存競争のなかでは、たとえ優良品種であっても、食べ物を奪うことをせず、恐ろしい飢餓意識を一本一本の骨に、一筋一筋の肉に刻んでいないと、オオカミの世界では背の低い「武太郎」でしかなく、最後には情け容赦なく [1511] <u>淘汰される</u>のである。</p>	<p>在残酷的生存竞争中，即使是良种，但若争抢不到食物，不把恐怖的饥饿意识，体现在每一根骨头每一根肉丝上，它只能成为狼世界中矮小的武太郎，最后 [1512] <u>被无情淘汰</u>。</p>
<p>小狼はありがたいと思っていないし、人間に [1513] <u>飼われている</u>意識ももっていない。</p>	<p>小狼根本不领情，小狼的意识里绝没有 [1514] <u>被人豢养</u>的感觉，</p>
<p>小狼はただ一時的に [1515] <u>監禁</u>されているだけで、[1517] <u>飼われている</u>のではない。死をもってでも食べ物を奪うような小狼の性格は、独立、奔放、剛腹不遜の精神に [1519] <u>支えら</u>れているようだ。</p>	<p>小狼只是 [1516] <u>被暂时囚禁</u>了，而不是 [1518] <u>被豢养</u>。小狼在以死拼食的性格中，似乎有一种更为特立独行、桀骜不驯的精神在 [1520] <u>支撑</u>着它。</p>
<p>陳陣は慌ててボウルを床に置いて、二歩離れたところにしゃがんで、ボウルが [1521] <u>ひっくり返</u>されないように、手をのばしてストーブ用のスコップでボウルを押さえている。</p>	<p>陈阵急忙把食盆放在地上，蹲在两步远的地方，伸长手用炉铲压住铝盆边，以防小狼 [1522] <u>踩翻</u>食盆。</p>
<p>しかし、この小狼は毎日、充分すぎるほどの食事を [1523] <u>与えら</u>れているのにあいかわらず飢えているようなすさまじさで食べる。</p>	<p>可是这条小饱狼在吃食天天顿顿都充足 [1524] <u>保障</u>的时候，仍然像饿狼一样凶猛，</p>
<p>この習性を徐々に変えようとして、陳陣はコウリヤンの穂で [1525] <u>つく</u>ら</p>	<p>陈阵为了慢慢改变小狼的这一习性，曾试着将一把汉式高粱穗 [1526] <u>【対応</u></p>

<p>れた漢民族用のほうきをのぼして、そっと小狼の毛をなでようとした。</p>	<p>なし】扫帚伸过去，想轻轻抚摸它的毛。</p>
<p>このまるまる太った赤ちゃんはオオカミの群れに [1527] 囲まれていても平和で、この子のために肉をくわえてくるオオカミさえいる。</p>	<p>一群大小野狼 [1528] 围在这团小肥肉旁边相安无事，甚至还会叼肉来给他吃。</p>
<p>狼性のやさしく善良な一面を、身をもって感じ、手で触っている。陳陣は、オオカミに [1529] 育てられた世のなかのすべての子どもたち、たとえば匈奴、高車、突厥、そして古代ローマ、インドおよびソ連の子どもたちに代わって、人類の敬意を表したいという心の奥底から衝動に [1531] さらされた。</p>	<p>他心里 [1532] 涌出冲动，希望能替天下所有的 [1530] 【対応なし】狼孩，无论是古匈奴、高车、突厥，还是古罗马、印度和苏联的狼孩们，回报人类对它们的敬意。</p>
<p>陳陣はうつむいて鼻を小狼の湿った鼻にくっつけると、なんと、小狼が子犬のようにあごをなめてくれた。はじめて小狼に [1533] 信用され、小狼との感情がさらに近くなったことに、陳陣は感激した。</p>	<p>他低下头用自己的鼻子碰了碰小狼的湿鼻头，小狼竟像小狗一样地舔了一下他的下巴，这使他兴奋而激动。这是小狼第一次 [1534] 对他表示信任，他和小狼的感情又进了一步。</p>
<p>赤ん坊を [1535] とられたメスオオカミが報復に来ないかと、陳陣はいつも心配でたまらない。しかし、このことも科学と文明が進んでいく過程での冷酷でいかんともしがたいことなのだろうか。この冷酷さと新しい野蛮さが天に [1537] 理解されるように願っているが、陳陣の本意は、オオカミを飼うことによって、草原民族のオオカミ・</p>	<p>他时时都在担心那条 [1536] 被抄了窝的母狼来报复。这也许是科学和文明进程中的冷酷与无奈？但愿这种冷酷和新野蛮能 [1538] 为腾格里所理解——他的本意是想由此进入草原民族的狼图腾精神领域呵。</p>

<p>トーテムの精神的な領域に入ってみる ことである。</p>	
<p>陳陣の生活は急に、オオカミに [1539] <u>育てられた</u>子どもの奇異な話よりも奇 異になってきた。</p>	<p>他的生活忽然变得比奇特的[1540]【对 応無し】狼孩故事还要奇特。</p>
<p>陳陣は草原オオカミに [1541] <u>とりつ かれて</u>から、体のなかから精気のない 血液がだんだん減っていき、正体のわ からない狼性の血液が流れはじめたよ うな気がしている。</p>	<p>陈阵觉得自从 [1542] <u>对草原狼着了魔</u> 以后，他身上萎靡软弱无聊的血液好像 正在减弱，而血管里开始流动起使他感 到陌生的狼性血液。</p>
<p>レーニン、人間とオオカミとの生と 死の戦いを聞きながら静かに永眠し た。もしかしたら、レーニンの魂は異 民族のオオカミ・トーテムによって、 カール・マルクスのところにつれて [1543] <u>いかれた</u>のかもしれない。</p>	<p>列宁是在听着人与狼生死搏斗的故事 中安详长眠的，他的灵魂也可能是 [1544] <u>由异族的狼图腾带到</u>马克思那 里去了。</p>
<p>陳陣の考えはだんだん広がっていく。 生命の真の意味は運動にあるのではな く、戦いにあるのではないか。哺乳類 の生命のはじまりに、億万個の精子が 雌雄を決する精神をもって、一個の卵 子をぐるりと取り囲んで攻める。前の 者が倒れても後の者がつづき、子宮に 精子の死体があふれるほど戦闘を激し く繰り広げる。動くが戦わない、また ぶらぶらして突撃しない精子たちはす べて無情に [1545] <u>淘汰</u>され、尿とと もに体外に [1547] <u>排泄</u>される。</p>	<p>陈阵的思绪渐渐走远。他突然觉得，生 命的真谛不在于运动而在于战斗。哺乳 动物的生命起始，亿万个精子抱着决一 死战的战斗精神，团团围攻一枚卵子， 杀得前赴后继，尸横遍野。那些只运动 不战斗、游而不击的精子全 [1546] <u>被</u> 无情<u>淘汰</u>，随尿液 [1548] <u>排出</u>体外。</p>
<p>「いつ、小狼がこの二匹の大きな犬に</p>	<p>他不知道哪天两条大狗真会 [1550] <u>把</u></p>

<p>[1549] <u>殺されるかわからないぞ</u></p>	<p>小狼咬死。</p>
<p>「そのあとで、ドールキも飼っていて、シェパードとかけ合わせるつもりだと聞いた。本気で飼おうなんて。そんなこと、[1551] <u>許されるものか</u>。きょうは、わしの目の前で、そのオオカミの赤ん坊を処分しろ……」</p>	<p>后来听说道尔基也养了一条，还打算配狼狗，真打算要养下去了。这可不行 [1552] <u>成!</u> 今儿你就得当着我的面把这条狼崽给处理掉……</p>
<p>もし古代の草原でこんなことをしたら、罪深い異教徒として<u>五頭の馬に体</u> [1553] <u>を引き裂かれ</u>、<u>死体を犬に</u> [1555] <u>食べさせられるにちがいない</u>。現在でも、国の少数民族の政策に違反し、草原民族の感情を害する行為と [1557] <u>みなされる</u>だろう。</p>	<p>如果这件事发生在古代草原，陈阵非得 [1554] <u>被视作罪恶的异教徒</u>，<u>五马分尸</u> [1556] <u>抛尸喂狗不可</u>。就是在现代，这也是 [1558] 【対応なし】 违反国家少数民族政策、伤害草原民族感情的行为。</p>
<p>「おまえが、こういうことをしたら、父さんの罪になるんだ。天はもう父さんの魂をいらぬというかもしれんぞ。わしはゴビ砂漠の下にある暗くて息がつまりそうな地獄に [1559] <u>投げこまれる</u>。」</p>	<p>阿爸有罪啊，腾格里兴许就不要你阿爸的灵魂了，[1560] <u>把我打入戈壁下面</u> 又呛又黑的地狱。</p>
<p>「毎日、モンゴルの王様か王子の世話をしているようですよ。牛乳をしぼって、かゆをつくって、肉をゆでで食べさせて。寒くないか、病気にならないか、犬に [1561] <u>噛まれないか</u>、人に [1563] <u>殴られないか</u>、ワシに [1565] <u>獲られないか</u>、メスオオカミに<u>くわえて</u> [1567] <u>いかれないか</u>と心配で、夜もゆっくり眠れません。」</p>	<p>我天天像伺候蒙古王爷少爷一样地伺候小狼，挤奶喂奶，熬粥喂粥，煮肉喂肉。怕它冷，怕它病，怕它 [1562] <u>被狗咬</u>，怕它 [1564] <u>被人打</u>，怕老鹰 [1566] <u>把它抓走</u>，怕母狼 [1568] <u>把它叼走</u>，连睡觉都睡不安稳。</p>

<p>「漢民族がどんなにオオカミを憎んでいるか、父さんは知らないけれども、すごく悪いやつや、毒のある人間はオオカミと [1569] <u>呼ばれ</u>、オオカミの心と犬の肺をもっていると [1571] <u>いわれます</u>。女性をいじめる人は大色狼、食欲な人はオオカミの悪辣なたくらみ、米帝国主義は野心的なオオカミだと [1573] <u>呼ばれています</u>。」</p>	<p>您不知道，我们汉族人是多么恨狼， [1570] <u>把最恶最毒的人叫作狼</u>，说他们是狼心狗肺，把欺负女人的人 [1572] <u>叫做大色狼</u>，说最贪心的人是狼子野心， [1574] <u>把美帝国主义叫做野心狼</u>，</p>
<p>「ぼくは焦っています。この美しい草原が [1575] <u>破壊される</u>のをみてもらえません。」</p>	<p>我现在真是很着急，我不能眼看着这么美的草原 [1576] <u>被毁掉</u>……</p>
<p>「ウ牧場長は首に [1577] <u>された</u>ばかりで、四人の馬飼も処分をうけた。ウさんがオオカミをかばって、オオカミ狩りに熱心でないと、上の人間はいってる。父さんは年おいたオオカミだとか、生産大隊のボスオオカミだとか、第二生産隊はオオカミの巣だと [1579] <u>いわれてる</u>。まさにこんなときに、この生産隊の知識青年がオオカミの赤ん坊を飼ってたら、ほかの三つの生産隊の学生たちはどうして飼わないのかということになるぞ。おまえは、つまり第二生産隊の悪者から影響をうけたことになる。おまえ、<u>人に弱みを</u> [1581] <u>にぎられる</u>んだよ。」</p>	<p>老乌场长刚 [1578] <u>被罢了官</u>，四个马倌记了大过，这是为的啥？就是上面说老乌尽护着狼了，从来不好好组织打狼，还 [1580] <u>说你阿爸是条老狼</u>，大队的头狼，咱们二队是狼窝。这倒好，在这个节骨眼上，咱队的知青还真的养了一条小狼。别的三个大队的学生咋就不养？这不是明摆着说你是受二队坏人的影响吗？你这不是 [1582] <u>往人家手里送把柄</u>吗？</p>
<p>「オオカミがおまえの羊に目をつけたら、隙をみて大半を殺してしまうぞ。」</p>	<p>要是狼群盯上了你的羊群，逮个空子毁掉你大半羊群，你养狼招狼，毁了集体</p>

<p>そうになったら、オオカミを飼って、牧場に損失をあたえたとして牢屋に [1583] いれられても文句をいえない。」</p>	<p>的财产，你没理啊，那你非得 [1584] 坐牢不可……</p>
<p>少数民族地域でオオカミを飼うこと自体が、民族政策に違反することになる。しかも羊の群れのそばで飼うとなると、わざとオオカミをさそい、故意に生産活動を破壊することに [1585] <u>されかねない</u>。さらに「資本主義の道を歩む権力者」の父親の問題といっしょくたに [1587] <u>されれば</u>、「階級闘争」の大問題として [1589] <u>批判される</u>にちがいない。そればかりでなく、多くの人を巻き添えにすることもありうる。</p>	<p>在少数民族地区养狼，本身就违反民族政策，而在羊群旁边养狼，这不是 [1586] 【対応なし】有意招狼，故意破坏生产吗？如果再 [1588] <u>联系</u>到他的“走资派”父亲的问题，那绝对可以 [1590] <u>上纲上线</u>，而且还要牵连到许多人。</p>
<p>老人は立ち上がった。そして、ふりむいてあの大きな石をみると、「オオカミが大きくなったら、羊もおまえもほかの人間も [1591] <u>噛まれ</u>ちまうぞ。牙には毒もあって、一口でも [1593] <u>噛みつか</u>れたら死ぬこともあるんだ。」</p>	<p>老人站起身，回头看了看那块大石头说：你养狼，就不怕狼长大了 [1592] <u>咬</u>羊？<u>咬</u>你，再<u>咬</u>别人？狼牙有毒， [1594] <u>咬</u>上一口，没准人就沒命了。</p>
<p>老人は牛車を修理しているとき、ひと言も話さなかった。陳陣はまだ小狼を処刑する覚悟ができていないが、苦しい立場に [1595] <u>お</u>かれたビリグじいさんとウリジーさんに、これ以上、迷惑をかけたくないと思った。</p>	<p>老人修车时候一句话也不说。陈阵还没有做好处死小狼的心理准备，但是他不能再给 [1596] <u>处境困难</u>的老阿爸和乌力吉添乱了……</p>
<p>オオカミはじつはうまれもって人間を</p>	<p>狼其实是天性怕人的动物，只有 [1598]</p>

<p>怖がる動物で、[1597] <u>追いつめられ</u>ないかぎり、めったに人間に傷をつけない。</p>	<p><u>逼急了</u>才会伤人。</p>
<p>「オオカミに夢中になって、人に会うたびにオオカミの話をせがむと前から耳にしてたけど、飼うとまでは思わなかった。オオカミに [1599] <u>とりつか</u>れたんじゃないのか。」</p>	<p>早就听说你迷上了狼，碰到谁都要让人讲狼故事，真没想到你还养上了狼，你是不是 [1600] <u>走火入魔</u>了？</p>
<p>草の香りが鼻につくエメラルド・グリーン色のこの牧草地に、狩人たちは<u>あ</u>っけに [1601] <u>とられて</u>ぽかんとしている。</p>	<p>每个猎手似乎都对初夏打狼提不起精神，可都对这片盛着满满一汪草香的碧绿草场 [1602] <u>惊呆了</u>眼。</p>
<p>山を下りていくと、生い茂った草地から、そよ風にのってすがすがしい香りが [1603] <u>運ば</u>れてくる。</p>	<p>一路下山，青绿葱葱，草香 [1604]【対応なし】扑鼻，</p>
<p>「こんどまた引っ越すでしょう。その時だれかに [1605] <u>盗</u>まれないかな」と楊克がいうと、包順貴はちょっと考えて、「おれには考えがある。心配しなくていい」といった。</p>	<p>杨克说：要是以后咱们搬家走了怎么办？我真怕人 [1606] <u>偷</u>挖。</p>
<p>黄羊の肉と骨はきれいに [1607] <u>食</u>べつくされ、頭の骨まで平らげて、角や蹄や破れた皮しか残っていない。</p>	<p>黄羊的尸骨几乎 [1608] <u>吃</u>尽，只剩下羊角、蹄壳和碎皮，连羊头骨都没剩下。</p>
<p>「オオカミのよさもわかったでしょう」と、バトは包順貴に話した。「オオカミの群れが来なければ、こんな新しい牧草地はとっくに黄羊に [1609] <u>か</u>じられ、小便を [1611] <u>か</u>けられてる。」</p>	<p>巴图对包顺贵说：你看见狼群的好处了吧，要是没有狼群，这么好的一片新草场早就 [1610] <u>让</u>黄羊<u>啃</u>光 [1612] <u>尿</u>遍了。</p>
<p>包順貴は<u>自</u>分の<u>厚</u>意を無に [1613] <u>さ</u></p>	<p>包顺贵没想到碰到这么一个 [1614] <u>丕</u></p>

<p>れるとは思ってもみなかった。興奮して熱くなっていた頭に冷水を [1615] <u>かけられて</u>、たちまち牛のような丸い目をして楊克を叱りつけた。「なにが白鳥の湖だ。おまえの頭はブルジョア階級思想でいっぱいだ。たかが高卒のくせに。おれの学歴はおまえより低くないぞ。」</p>	<p>领情的人，满脑子的兴奋，[1616] <u>被</u>泼了一盆冷水。他顿时瞪起牛眼训道：什么天鹅湖不天鹅湖的，你满脑子资产阶级思想，不就是个高中生吗，我的学历不比你低。</p>
<p>包順貴はびっくりしてドスンと鞍に [1617] <u>たたきつけられた</u>。黄色の馬は驚いて前に突進し、包順貴は鞍から [1619] <u>振り落とされ</u>そうになった。</p>	<p>惊得包顺贵一屁股[1618] <u>砸在</u>马鞍上，黄骠马一惊，向前一冲，差点 [1620] <u>把包顺贵甩下</u>马鞍。</p>
<p>二人はまだバトがいるところに着かないうちにイノシシに [1621] <u>掘りかえ</u>された草が目に入った。小川のほとり、丘の下、谷にかけての数ヘクタールの肥沃な黒い土地は、[1623] <u>放たれ</u>た野牛があちこちむやみに鋤をひいて土を掘り起こしたようなありさまだ。長さがまちまちの溝や、畑を耕すように [1625] <u>掘りかえ</u>されたところがある。根が太く葉が大きい草は、根だけ [1627] <u>食べられ</u>、枯れた葉と茎が倒れて、土に埋もれている。一面のすぐれた牧草地は、豚に [1629] <u>ほじくられて</u>ジャガイモ畑のようだ。</p>	<p>还没有跑到巴图那儿，两人就看到 [1622] <u>被野猪群拱开</u>的草地。小河边、山坡下、山沟里大约几十亩的肥沃黑土地，像是 [1624] <u>被失控的野牛拉着犁乱</u> [1626] <u>垦过</u>一样。东一块西一块，长一条短一条，有的拱成了沟，有的犁成了田。长着肥草根的阔叶大草，根已 [1628] <u>被吃掉</u>，干蔫的草叶草棵东倒西歪，有的已被埋进土里，大片优质草场像是变成了 [1630] <u>被家猪偷拱过</u>的土豆地。</p>
<p>二頭の首には、犬に [1631] <u>噛まれて</u>血が出た穴がある。</p>	<p>两头野猪脖颈上都有狗 [1632] <u>咬的</u>血洞。</p>

<p>「谷間までいくと、でこぼこの草地があつて、オオカミに [1633] <u>食べ残された</u>三、四頭のイノシシの骨がありました。」</p>	<p>一直追到那条山沟,我们就看见一大片坑坑洼洼的赖地,后来又看见了三四只 [1634] 让狼<u>吃剩</u>下的死猪骨头。</p>
<p>「めちやくちやに [1635] <u>噛まれた</u>二頭を犬の餌にして、残った二頭をここまで引っぱってきたんですよ。」</p>	<p>我把两条 [1636] <u>咬烂</u>的猪喂狗了,剩下两只全拖到这儿来了。</p>
<p>「オロンにオオカミが多くなければ、ここの牧草地はとっくにイノシシに [1637] <u>やられて</u>ましたよ」と、バトはいった。</p>	<p>要不是额仑的狼多, 这片草场早就 [1638] <u>被野猪</u>毁了。</p>
<p>营地では、柴の山が [1639] <u>積み</u>まれ、牛車が到着すると、みんなでいちばん大きいイノシシの腹をあけて皮を剥ぎ、肉を切った。</p>	<p>营地的柴堆已经 [1640] <u>准备好</u>, 车一到, 大伙儿先挑了一只最大的野猪开膛剥皮卸肉,</p>
<p>楊克は包順貴のまねをし、網状の脂で赤身を巻いて焼いた。[1641] <u>焼かれた</u>肉は脂が光ってジュージュウと音がして、豚肉より香ばしい。</p>	<p>杨克学着包顺贵, 用网油裹着瘦肉烤, 那肉 [1642] <u>烤得</u>油汪汪的滋滋响, 远比你家猪烤肉更香。</p>
<p>まるで楊克の目の前に、白鳥の死が [1643] <u>演じら</u>れているようである。</p>	<p>杨克的眼前仿佛正在 [1644] <u>上演</u>冷艳凄美的天鹅之死,</p>
<p>二匹のオオカミは大きさが違う。大きいほうは左前足がまっすぐ伸ばせない。かつて獵犬にアキレス腱を [1645] <u>噛み切</u>られたらしい。</p>	<p>两条老狼一大一小, 大的那条左前腿不能伸直, 好像是在以往的战斗中 [1646] <u>被猎狗</u>咬伤了脚筋。</p>
<p>転げ落ちてくる石ころがオオカミの体をたたきつける。もうもうたる砂塵にオオカミは [1647] <u>のみこ</u>まれて、埋まってしまった。</p>	<p>碎石带起无数小石大石, 纷纷砸到老狼身上, 一时卷起滚滚沙灰, [1648] <u>将</u>老狼完全吞没、掩埋了。</p>

<p>ラスランとサンジェは、まず岩に [1649] <u>はさま</u>れている犬のところへいき、犬の足を一人で二本ずつつかんで、引っぱりだした。</p>	<p>沙茨楞和桑杰先走向 [1650] <u>被</u>石头卡住的狗，两人各抓住狗的两条腿，把狗从石头里抬拔出来。</p>
<p>楊克は石ころの山の前でぼんやりしている。巨大な岩の崩壊で魂が [1651] <u>ふ</u>るい動かされ、全身の血気が沸き立っているようだ。</p>	<p>杨克愣在石堆前，他的灵魂像是 [1652] <u>被</u>巨石塌方猛地震<u>砸</u>了一下，全身的血气都冲发出来。</p>
<p>楊克は心のなかで感嘆していた。死も巨大な戦闘力になる。従容として死に臨むモンゴル武士がどれほどオオカミ・トーテムによって [1653] <u>育</u>てられてきたのだろうか。</p>	<p>杨克心中感叹道：死亡也是巨大的战斗力，狼图腾 [1654] <u>培</u>育了多少慷慨赴死的蒙古武士啊。</p>
<p>古代の漢民族はモンゴ人より百倍も多かったが、宮廷でも民間でも流行っていたほんとうの信仰は、「命あつての物種」だった。これは今日まで中華民族に [1655] <u>引</u>き継がれてきた実用的な生きるための経験と哲学である。</p>	<p>古代汉人虽然几乎比蒙古人多百倍，但宫廷和民间骨子里真正流行的信仰却是好死不如赖活着，这是华夏农耕民族得以 [1656] <u>延</u>续至今的一种极为实用的活命经验和哲学。</p>
<p>この精神によって多くの裏切り者や傀儡軍が生まれ、それが遊牧民族に [1667] <u>卑</u>められ、[1669] <u>恐</u>れられたのである。</p>	<p>而这种精神又滋生出多少汉奸伪军，让游牧民族 [1668] <u>鄙</u>视和 [1670] <u>畏</u>惧。</p>
<p>中唐、晩唐に、中原の大地にいたオオカミの群れが、漢民族によって一匹も残らず [1671] <u>殺</u>されてしまったからだろうか。</p>	<p>难道是因为中唐晩唐时，中原大地的狼群 [1672] <u>被</u>汉人<u>斩</u>尽杀绝了么？</p>
<p>楊克がまだ包順貴に近づかないうちに、バーン、バーン、バーンと、銃声</p>	<p>还未等杨克追上包顺贵，枪声已响，啪啪一连三枪，一只巨大的白鸟落到杨</p>

<p>が三回ひびき、一羽の大きな白鳥が楊克の馬の前に落ちてきた。馬が驚いて避けようとし、楊克は湿った湖畔の草地に [1673] <u>放り投げだされた</u>。</p>	<p>克的马前。马被惊得猛地一闪, [1674] <u>把杨克甩到湿漉漉的湖边草地上</u>。</p>
<p>首を [1675] <u>切られたガチョウ</u>と同じで、懸命に水かきをかいたり羽をばたばたさせたり、羽で地面を支えて立ち上がろうとしている。</p>	<p>而像一只 [1676] <u>被割断脖子</u>的普通家鹅一样, 拼命蹬腿, 拼命扑扇翅膀, 拼命想用翅膀撑地站起来,</p>
<p>白鳥の脇腹に [1677] <u>あけられた銃弾</u>の穴から、血が噴き出てくる。</p>	<p>血从天鹅雪白侧胸的 [1678] 【対応なし】 枪洞里喷涌出来,</p>
<p>まるで背骨を [1679] <u>抜き出された</u>白蛇のように、ぐんにやりと楊克の肘にかかっている。</p>	<p>像 [1680] <u>被抽了脊骨</u>的白蛇一样, 软沓沓地挂在杨克的肘弯里,</p>
<p>楊克の目に涙があふれた—この気高い純白の、万里を自由に飛翔する生命、この無限の美しい幻想を人類にあたえてくれる白鳥は、人間の手でニワトリのように [1681] <u>殺されてしまった</u>。</p>	<p>他的眼里一下子溢满了泪水——这高贵洁白、翱翔万里的生命, 给人类带来无穷美丽幻想的大天鹅, 竟然 [1682] <u>被人像杀草鸡一样地杀死了</u>。</p>
<p>とぎれとぎれに、涙にむせぶような声だ。その氷のような冷たい遠吠えに、楊克は心臓が [1683] <u>突き抜かれる</u>ようだった。</p>	<p>杨克隐隐听到东边远山里传来凄凉苍老, 哽咽得断断续续的狼嗥。杨克的心 [1684] <u>被凄寒冰冷的狼嗥穿透</u></p>
<p>第二生産隊の三十個あまりのパオは、盆地の西北の麓につながる緩やかな坂に [1685] <u>設置された</u>。</p>	<p>二大队三十多个蒙古包, [1686] <u>扎在盆地西北接近山脚的缓坡上</u>。</p>
<p>「唐時代の皇太子でさえ、草原の突厥人になりたかったくらいだから、このぼくは、いうまでもないだろう。草原では犬が [1687] <u>愛され、犬が必要と</u></p>	<p>连大唐太子都想当个突厥草原人, 更何况我了。草原是个 [1688] <u>爱狗和</u> [1690] <u>需要狗的地方</u>,</p>

<p>[1689] <u>されている。</u>」</p>	
<p>「ぼくたち数百万人の知識青年は、都会からいっきに [1691] <u>追い出された</u> だろ。」</p>	<p>咱们几百万知青不是一下子就 [1692] <u>被扫地出城</u>了吗？</p>
<p>引っ越し先までの道中、小狼は牛糞をいれた箱に [1693] <u>閉じこめられ</u>、二日一晩、なにもみられなかった。</p>	<p>在搬家的路上，小狼 [1694] <u>被关在</u>牛糞箱里两天一夜，什么也没看到。</p>
<p>牛をつなげるほど丈夫だ。また、小狼が走り回るとき、クサリが杭に絡んでだんだん短くなり、最後に首を [1695] <u>絞められる</u>ということがないようにできている。</p>	<p>这套囚具结实得足以拴一头牛，它的结构又可以避免小狼跑圈时，将铁链缠住木桩，越勒越短，最后 [1696] <u>勒死</u>自己。</p>
<p>クサリは [1697] <u>咬まれて</u>、ベトベトとしていた。</p>	<p>半段铁链一直 [1698] <u>被咬得湿漉漉的</u>。</p>
<p>小狼にとって、いちばん楽しいときは、たまに子犬が近づいてきて遊びの相手をしてくれるときだ。しかし、そのたびに、子犬を噛んで泣かせたり、痛めつけたりして、[1699] <u>逃げられて</u>しまう。</p>	<p>小狼最快乐的时刻，就是偶有一条小狗走进狼圈陪它玩，但它每次又忍不住将小狗咬疼咬哭咬跑，最后重又 [1700] <u>落得个孤家寡人</u>。</p>
<p>小狼の一日でもっとも重要なことは、パオ入り口のそばに [1701] <u>置かれた</u> 餌用のボウルをみつめることだ。ボウルに餌がいっぱい [1703] <u>もらって</u>、ふたたび自分の前に [1705] <u>運ばれて</u> くるのを待ちわびている。</p>	<p>小狼一天中最重要的一项内容，就是眼巴巴地盯着 [1702] 【対応なし】 蒙古包门旁属于自己的食盆，苦苦等待食盆 [1704] <u>加满</u>再 [1706] <u>端到</u>它的面前。</p>
<p>小狼は、目の前にやってきた大きな種牛を怖がって、慌てて草むらに体を縮めた。種牛が牝牛の下半身に乱暴にの</p>	<p>小狼对近在眼前的一头大牛很害怕，赶紧把身子缩在草丛中。当牛狂暴地骑上一头母牛后胯的时候，小狼吓得向后猛</p>

<p>ったとき、驚いた小狼はいきなり後ろへ跳ねて、クサリにひっかかって転んでしまい、首を [1707] <u>締めつけられ</u>、白目をむいて舌を出した。</p>	<p>地一蹶，一下子被铁链拽翻了一个大跟头，[1708] <u>勒得</u>它吐舌头，翻白眼。</p>
<p>草地は [1709] <u>踏まれる</u>のがいちばん弱い。小狼が走ったところの草はしおれている。</p>	<p>草地最怕 [1710] <u>踩</u>，狼圈新跑道上的青草，全被小狼踩得萎顿打蔫。</p>
<p>突然、東のでせわしい馬蹄の音がして、張継原が馬に乗って走ってきた。額に [1711] <u>まかれた</u>白い包帯が人目を引く。</p>	<p>突然，东面响起一阵急促的马蹄声，张继原骑马奔来，额头上 [1712] <u>扎着</u>醒目的白绷带。</p>
<p>早春の馬はやせているが、明け三歳の子馬はなんとか一人の人間を乗せられる。この時期を過ぎて、明け四歳になると、鞍を [1713] <u>つけられず</u>、くつわも [1715] <u>はめられず</u>、ならすことができなくなる。</p>	<p>早春马最瘦，而新三岁的小马又刚能驮动一个人，如果错过这个时段，当小马长到新四岁的时候，就 [1714] <u>备不上</u>鞍子，[1716] <u>戴不上</u>嚼子，根本驯不出来了。</p>
<p>馬に名前がついたら、一生その名前で [1717] <u>呼ばれる</u>。</p>	<p>马名一旦定下，将 [1718] <u>伴随</u>马的一生。</p>
<p>「草原の人間が馬をもたねば、脚を二本 [1719] <u>切られた</u>オオカミと同じだ」と、ブリグじいさんがいていたことがある。</p>	<p>毕利格老人说，草原人没有马，就像狼 [1720] <u>被夹断</u>两条腿。</p>
<p>草原の人間は他人に [1721] <u>ならされ</u>た馬に乗るのを恥じる。</p>	<p>草原人以骑别人 [1722] <u>驯出</u>的马为耻。</p>
<p>優秀な羊飼いと牛飼いは、一色の駿馬に乗るので、若い馬飼いに [1723] <u>う</u>らやましがられる。</p>	<p>优秀的羊倌牛倌，骑着一色儿的好马，[1724] <u>让</u>年轻的小马倌看了都眼红。</p>
<p>群れに残った野性をもっとも強い明け</p>	<p>马群中剩下的野性最强的新三岁马，大</p>

<p>三歳の馬は、ほとんどが馬飼いに [1725] <u>調教される</u>。</p>	<p>多 [1726] <u>由马信自己驯</u>。</p>
<p>しかし、特別に強い野性をもつ馬をな らすときは、馬飼いは [1727] <u>ふり落 とされて鼻があざだらけとなり、顔が 腫れあがって、体に傷ができ、骨を折 るといったようなことがしょっちゅう 起きる。</u></p>	<p>但是遇到野性奇强的生马,马信[1728] <u>被摔得鼻青脸肿,肉伤骨折的事也时有 发生。</u></p>
<p>元時代にはモンゴルの平凡で無能な皇 太子は、いつも強くて勇敢な皇族の兄 弟や、勇将、勇敢な大臣に取って[1729] <u>代わられた。</u></p>	<p>蒙元时平庸无能的太子,经常 [1730] <u>被强悍的皇兄皇弟、勇将悍臣取而代 之。</u></p>
<p>陳陣と楊克はため息をついた。「命がい らないのか。こんな激しい馬を手なず けようなんて」と、楊克がいうと、張 継原は額をさわった。「けさ、[1731] <u>放り投げられて、頭を [1733] <u>けられ てしまった。</u></u></p>	<p>陈阵和杨克都长舒了一口气。杨克说： 你小子真够玩命的，这么野的马你也敢 压？张继原摸了摸额头说：早上我 [1732] <u>让它炮了下来，脑袋上还 [1734] <u>让它炮了一蹄子，</u></u></p>
<p>人に [1735] <u>追い払われないので、馬 たちは足をとめて黙々と草を食べだし た。</u></p>	<p>由于没有人 [1736] <u>轰赶</u>，马群都停下 来，低头吃草。</p>
<p>陳陣と楊克は、すぐに背が高く体が大き く、勇壮で猛々しい牡馬たちに目を [1737] <u>奪われた。</u></p>	<p>陈阵和杨克立即 [1738] <u>被高大雄壮剽 悍的儿马子夺去了视线。</u></p>
<p>家族から [1739] <u>追い出され、帰るべ き群れのない牝の子馬たちは、ただち に血縁関係のない牡馬の奪い合いの対 象となる。</u></p>	<p>马群中那些 [1740] <u>被赶出族们，无家 可归的小母马们，立即成为没有血缘关 系的其它儿马子的争夺对象。</u></p>
<p>「[1741] <u>去勢された馬だからさ。苦勞</u></p>	<p>就是那些 [1742] <u>阉马</u>，任劳任怨任人</p>

<p>をいわず、だれが乗ってもよい。」</p>	<p>骑，</p>
<p>「だけど、どうして去勢された馬はオオカミをみると逃げるのか。それは、勇敢な雄性和勇氣が [1743] <u>取り除かれてしまった</u>からだ。」</p>	<p>可是为什么大部分阉马见狼就逃呢？原因就是强悍的雄性和勇气 [1744] <u>被阉割</u>掉了。</p>
<p>「けれど、労働は万能で無害のものというわけではない。労働には、奴隷労働も奴隷のような酷使も専制下の労働も強制的な肉体労働も、牛馬のような重労働もある。こういう労働が栄光で神聖なのか。 [1745] <u>賛美されるべきもの</u>か。」</p>	<p>但是劳动不是万能的和无害的，劳动之中还有奴隶劳动，奴役性劳动，专政下的劳动，劳改式的劳动，做牛做马的劳动。这种劳动光荣神圣吗？可以 [1746] <u>赞美</u>吗？</p>
<p>陳陣は考えながらいった。「労働には、むだな労働も破壊的な労働も破滅的な労働もある。二千年あまり前、阿房宮をつくるため、四川の森が [1747] <u>切り尽くされた</u>。」</p>	<p>陈阵思索着说：劳动之中还有无效劳动，破坏性劳动和毁灭性劳动。两千多年以前，修建阿房宫的劳动，就 [1748] <u>把整个四川的森林砍光</u>了，</p>
<p>「しかも、世界のもっとも大事なものは、労働で [1749] <u>つくられた</u>のではない。」</p>	<p>而且，世界上最重要的一些东西，都不是劳动可以 [1750] <u>创造</u>出来的。</p>
<p>バヤルは食べれば食べるほど食欲が [1751] <u>刺激された</u>ようだ。</p>	<p>巴雅尔越吃越 [1752] <u>来劲</u>，</p>
<p>「それは、いいや。小川のそばに小さな丘があって、砂の巣がけっこうある。馬の群れに [1753] <u>踏まれる</u>ことはない」と、喜んだ高建中は卵焼きをつくりながら、陳陣に卵をもっとわらせた。</p>	<p>高建中高兴地说：太好了，小河边是有一个土包，还真有不少沙洞呢，马群肯定 [1754] <u>踩不着</u>。他一边摊着蛋，一边让陈阵再敲出一些蛋来。</p>
<p>鍋から油煙があがると、ジャーッとポウルのなかのときほぐした卵が、また</p>	<p>油锅里油烟一冒，一大盆打好的蛋汁，又刺啦啦地 [1756] <u>下了锅</u>。</p>

鍋に [1755] <u>流しい</u> れられた。	
「どの馬飼いも、おとなしい馬を一、二頭ぐらいもってるさ。呼んだり、馬捕り竿で尻をたたけば、止まってくれるから、追う必要がないし、馬捕り竿で捕る必要もない。そういう馬がいないと、万一、暴れた馬に [1757] <u>振り落と</u> されて、一人で乗る馬もいなければ、馬の群れが散ったら、おしまいだ。」	张继原说：马信都有一两匹老实马，你喊它一声或者用套马杆敲敲它的屁股，它就停，不用追，也不用套。马信要是没这种马，万一一个人在马群里[1758] <u>被烈马摔</u> 下来，没马骑了，马群又跑了，那就惨啦。
バトの手の震えがまたおさまらないうちに、馬の群れから恐怖の鳴き声があがり、かれの馬も足を [1759] <u>と</u> られたようだ。	未等巴图控住自己的手，马群发出一片惊恐的嘶鸣，自己的马也像 [1760] <u>绊</u> 住了腿。
バトは涙が乾いた目をこすって、懐中電灯の明かりを前方へ向けると、数匹の大きなオオカミがかたまってゆっくりと走ってきて、かれの馬の行き手をさえぎろうとしているのがみえた。オオカミは蹄に [1761] <u>踏</u> まれるのもいとわず、バトの馬のスピードを落とそうとしている。	巴图揉了揉发涩的泪眼，把电筒光柱对准前方，光影里，几头大狼挤在一起慢跑，堵在他的马前，狼不惜忍受马蹄的 [1762] <u>踩踏</u> ，也要挡住巴图的马速。
数匹のオオカミが代わる代わるレースランの馬を追いかけては噛みつき、馬の体にはオオカミの爪跡が重なり、レースランの蒙古服の下の部分もオオカミに [1763] <u>引</u> き裂かれた。	几头大狼轮番追咬撕抓沙茨楞的马，马身抓痕累累，沙茨楞的皮袍下襟也 [1764] <u>被狼撕咬</u> 掉。
バトの大きな黒馬はプープーと鼻孔から息を吹き出しながら、ぐっとにらみつけて、勇敢に踏みつけたり蹴ったり、	巴图的大黑马噗噗地喷着鼻孔，瞪大眼睛，勇猛地蹬、踢、尥、咬，不顾 [1766] <u>咬伤</u> [1768] <u>抓伤</u> 拼死反抗。

<p>跳ねたり噛んだりして、オオカミに [1765] <u>噛まれて</u>も [1767] <u>引っかか</u> <u>れて</u>も必死に抵抗している。</p>	
<p>大きなオオカミはいきなり雪の上に倒 れこんで、口に充満した血を吸いこみ ながら、頭を上げて悲惨な声で泣き出 した。オオカミには [1769] <u>殺される</u> よりも苦しいのだ。</p>	<p>大狼一头栽倒雪地上，不停吮着满嘴的 血，抬头冲天没命地哭嚎，凄厉惨绝， 比 [1770] <u>要了它的命还痛苦</u>。</p>
<p>さらに、オオカミの群れや狩人や騎兵 によって雪のつぼみに [1771] <u>追いこ</u> <u>まれた獲物と戦利品を</u>、どんなに多く 引き上げたことか。</p>	<p>又不知靠这神舟从雪湖中打捞出多少 被狼群、猎人和骑兵 [1772] <u>圈进大雪</u> 窝里的猎物和战利品。</p>
<p>バトがふりむくと、後ろでラースラン の馬もオオカミに [1773] <u>さえぎられ</u> ている。かれは驚いた馬を懸命にコン トロールしようとしていた。焦ったオ オカミたちは人間が乗っている馬を攻 撃しはじめたのである。</p>	<p>巴图回身一看，沙茨楞也 [1774] <u>被狼</u> <u>堵在后面</u>，他在拼命地控制受惊的马， 狼已经急得开始攻击人的坐骑。</p>
<p>牙を剥きだして飛びかかってきた一匹 のオオカミが猛烈な勢いで [1775] <u>ふ</u> <u>りおろされた馬棒に当たり</u>、四本の牙 が根こそぎ折れた。</p>	<p>一头向上猛蹿，张牙舞爪的大狼， [1776] <u>被向下猛击的马棒迎头齐根打</u> <u>断四根狼牙</u>。</p>
<p>メスオオカミたちは命がけで復讐し、 少しも死を恐れず、肝胆相照らす。腹 や胸や肝胆や乳腺が馬の蹄に [1777] <u>引き裂かれて</u>、馬と共倒れになっても かまわない覚悟だ。</p>	<p>母狼们真是豁出命了，个个复仇心切、 视死如归，肝胆相照、血乳交融。它们 冒着 [1778] <u>被马蹄豁开肚皮、胸腑、</u> 肝胆和乳腺的危险，宁肯与马群同归与 尽。</p>
<p>もともと顔には目の大きさくらいの、 丸っこい黄色の眉が二つあったが、そ</p>	<p>它脸上原来有两个像狗眼大小的圆形 黄色眉毛，可是一个眉毛像是 [1780]</p>

<p>のなかの一つがオオカミに [1779] <u>噛みとられて</u>、いまは一つしか残っていない。それで、顔に目が三つあるようにみえる。</p>	<p>被狼抓咬掉了，现在只剩下一个，跟两只眼睛一配，像脸上长了三只眼。</p>
<p>「だけど、父さんの話をおぼえておいておくれ。オオカミは天に [1781] <u>遣わされて</u>草原を守ってるんだ。オオカミがいなければ、草原もなくなる。オオカミがいなければモンゴル人の魂も天に昇れない。」</p>	<p>可你要记住你阿爸的话，狼是腾格里 [1782] <u>派下来</u>保护草原的，狼没了，草原也保不住。</p>
<p>わしらモンゴル人も草原を守るために、天に [1783] <u>遣わされて</u>きたのだ。</p>	<p>我们蒙古人也是腾格里 [1784] <u>派下来</u>保护草原的。</p>
<p>バトはちょっとほっとした。少なくとも二、三匹のオオカミが馬の蹄に [1785] <u>やられて</u>死んだが、けがをしてるようだ。</p>	<p>巴图稍稍松了一口气，他估计起码得有两三条狼被马蹄踢死踢伤，他能记得这块地界，等风过天晴他就能回来剥狼皮了。</p>
<p>オオカミの群れは風に [1787] <u>吹かれた</u>電線から出たような、ウーウー、ウーウーという震えた声を出している。その鳴き声は命知らずの恐怖と敵意に満ちている。</p>	<p>狼群发出怪风 [1788] <u>刮</u>电线一样的呜呜呜呜震颤嗥叫，充满了亡命的恐惧和冲动。</p>
<p>「ある日、なぜ馬を湖の北側に放牧したんだ。馬飼いをこんなに長くやっていながら、風が吹ければ、馬が湖に [1789] <u>追いやられる</u>ぐらいのことは知らなかったのか。きみの最大の責任はそのことにあるんだ。」</p>	<p>那天你为什么把马群放在泡子的北边，你放了这么多年的马，难道还不知道一刮风会 [1790] <u>把</u>马群刮到泡子里去吗？你最大的责任就在这儿！</p>
<p>「あのとき、きみの馬がオオカミに [1791] <u>噛みつかれて</u>、怖くなかった</p>	<p>包顺贵点点头。他第一次平和地问巴图：当时，你就不怕狼 [1792] <u>把</u>你的</p>

<p>のかい？」</p>	<p>马也豁了？</p>
<p>そこで、牧場の会議では次のような決定が [1793] <u>下された</u>。「今回、馬の群れがオオカミに [1795] <u>殺された</u>大事故の失態を挽回するために、また、オロン草原のオオカミの害を撲滅させよという上級機関の指示を実行するためにも、牧場全員を動員して、大規模なオオカミ狩りをくりひろげる」</p>	<p>场部会议 [1794] <u>対応なし</u>決定，为了消除这次狼 [1796] <u>杀</u>马群大事故的恶劣影响，为了执行上级关于消灭额仑草原狼害的指示精神，全场动员，展开大规模灭狼运动。</p>
<p>五百頭あまりの馬の群れには、十数世帯の家族がいて、それぞれの牡馬に [1797] <u>統率</u>されている。最大の家族は七、八十頭いるが、最小の家族は十頭にもならない。家族は牡馬の妻と妾、息子と娘で [1799] <u>構成</u>される。古くから、モンゴルの馬は交配繁殖の面では、一部の人間よりも文明的である。残酷な草原では、オオカミに包囲され攻撃されても生存できるように、馬の群れは近親相姦を容赦なくとりのぞくことによって、種の質と戦闘力を高めるのである。</p>	<p>五百多匹马的大马群中，有十几个马家族，每个儿马子 [1798] <u>统率</u>一个家族。最大的家族有七八十匹马，最小的家族只有不到十匹马。家族成员 [1800] <u>由</u>儿马子的妻妾、儿女<u>构成</u>。在古老的蒙古马群中，马群在交配繁殖方面，进化得比某些人还要文明。为了在残酷的草原上，在狼群包围攻击下能够继续生存，马群必须无情地铲除近亲交配，以提高自己种群的质量和战斗力。</p>
<p>[1801] <u>けられた</u>牝の子馬はよろめき、いまにも倒れそうになるが、家族の群れの外へ逃げるしかない。</p>	<p>小母马 [1802] <u>被踢</u>得东倒西歪，只好逃到家族群之外，</p>
<p>母親が娘を守ろうとすると、たちまち夫に [1803] <u>殴られ</u>、[1805] <u>けられる</u>。</p>	<p>而小母马的妈妈们的刚想护卫自己的女儿，立即会遭到丈夫的 [1804] <u>拳打</u> [1806] <u>脚踢</u>。</p>
<p>家族から [1807] <u>追い出され</u>、帰るべ</p>	<p>马群中那些 [1808] <u>被赶出</u>族们，无家</p>

<p>き群れのない牝の子馬たちは、ただちに血縁関係のない牡馬の奪い合いの対象となる。</p>	<p>可归的小母马们，立即成为没有血缘关系的其它儿马子的争夺对象。</p>
<p>モンゴルの馬の群れは野生馬の群れと大差がない。[1809] <u>去勢</u>された馬がいるだけで、ほかはほとんど違わない。</p>	<p>蒙古马群真跟野马群差不多，马群中除了多一些 [1810] <u>阉</u>马，其它几乎没太大区别。</p>
<p>張継原は得意げに話を続けた。「長い間考えたのだが、おれの推測では、草原の原始人はまずオオカミに [1811] <u>噛</u>まれて怪我した野性の子馬を捕まえて、傷を治して大きく育てた。けど、大きくなっても乗れないだろう。子馬になんとか乗ったとしても、大きな牡馬になると乗れる人がいない。それから、方法を考えて、オオカミに [1813] <u>噛</u>まれて怪我した野生の子馬を捕まえてきて、また試した。何世代もたって、折よく、辜丸をオオカミに [1815] <u>噛</u>まれたが、幸いにも死ななかつた明け二歳の子馬を捕まえた。そして大きくなって、ならずと乗れるようになった。……それで [1817] <u>啓発</u>されたんじゃないかと思う。」</p>	<p>张继原便有些得意地说下去：我琢磨了好长时间，我猜测，可能是原始草原人先想法子抓着 [1812] <u>被狼咬伤</u>的小野马驹，养好伤，再慢慢把它养大。可是养大以后也不可能骑啊，就算在小马的时候还勉强能骑，可小马一长成儿马子谁还敢骑啊。然后再想办法抓一匹 [1814] <u>让狼咬伤</u>的小野马驹，再试。不知道要经过多少代，没准原始人碰巧抓住了一匹 [1816] <u>被狼咬掉辜丸</u>，侥幸活下来的新二岁小马，后来长大了就能驯骑了……这才 [1818] 受到启发。</p>

資料 8：日本語原文中国語訳文方向の対訳データ

日本語	中国語
<p>何日かつづいたやわらかな雨に夏のあいだのほこりをすっかり [1] <u>洗い流された</u>山肌は深く鮮かな青みをたたえ、十月の風はすすきの穂をあちこちで揺らせ、細長い雲が凍りつくような青い天頂にびたりとはりついていた。</p>	<p>连日温馨的霏霏轻雨，[2] <u>将</u>夏日的尘埃冲洗无余。片片山坡叠青泻翠，抽穗的芒草在 10 月金风的吹拂下蜿蜒起伏，透迤的薄云仿佛冻僵似的紧贴着湛蓝的天壁。</p>
<p>まるで夕暮の影のようにそれはどんどん長くなる。そしておそらくやがては夕闇の中に [3] <u>吸いこまれて</u>しまうことになるのだろう。</p>	<p>它延长的那样迅速，竟同夕阳下的阴影一般，并将很快 [4] <u>消融</u>在冥冥夜色之中。</p>
<p>縁石は風雨に [5] <u>さらされて</u>奇妙な白濁色に変色し、ところどころでひび割れて崩れおちている。</p>	<p>石砌的井围，<u>经过</u> [6] <u>多年</u>风吹雨淋，呈现出难以形容的混浊白色，而且裂缝纵横，一副摇摇欲坠的样子。</p>
<p>一度力を抜いたらもうもとはには戻れないのよ。私はバラバラになって——どこかに [7] <u>吹きとばされて</u>しまうのよ。</p>	<p>一旦放松，就无可挽回了。我就会分崩离析—— [8] <u>被</u>一片片吹散到什么地方去。</p>
<p>直子は笑って首を振った。「ふたつでいいのよ。ふたつで十分。ひとつはね、あなたがこうして会いに来てくれたことに対して私はすごく感謝してるんだということをわかってはしいの。とても嬉しいし、とても—— [9] <u>救われる</u>のよ。もしたとえそう見えなかったとしても、そうなのよ」</p>	<p>直子笑着摇摇头：“两件就可以，两件就足够了。第一件，希望你能明白：对你这样来看我，我非常感激，非常高兴，真是—— [10] <u>雪里送炭</u>，可能表面上看不出。”</p>
<p>その寮は都内の見晴しの良い高台にあった。敷地は広く、まわりを高いコンクリートの塀に [11] <u>囲まれて</u>いた。</p>	<p>寄宿院建在东京都内风景不错的高地上，占地很大，[12] <u>四周围有</u>高高的混凝土墙。</p>

<p>門をくぐると正面には巨大なけやきの木がそびえ立っている。樹齡は少くとも百五十年ということだった。根もとに立って上を見あげると空はその緑の葉にすっぽりと [13] <u>覆い隠されて</u>しまう。</p>	<p>进得大门，迎面矗立一棵巨大的桦树。树齡听说至少有 150 年。站在树下抬头仰望，只见天空 [14] <u>被绿叶遮掩得密密实实</u>。</p>
<p>この寮の唯一の問題点はその根本的なうさん臭さにあった。寮はあるきわめて右翼的な人物を中心とする正体不明の財団法人によって [15] <u>運営されて</u>おり、その運営方針は——もちろん僕の見ればということだが——かなり奇妙に歪んだものだった。</p>	<p>寄宿院唯一的问题，在于它根本上的莫名其妙。它是 [16] <u>由以某一个极右人物为中心的一家性质不明的财团法人所经营的</u>。其经营方针——当然是以我的眼光看——是相当奇特的。</p>
<p>どうしてそんなうさん臭いところに二年もいたのだと [17] <u>訊かれても</u>答えようがない。</p>	<p>如果 [18] <u>有人问起</u>何以在如此莫名其妙的地方竟然待了两年之久，我也无法回答。</p>
<p>箱の中にはきちんと [19] <u>折り畳まれ</u>た国旗が入っている。</p>	<p>箱里整齐地 [20] <u>叠放着</u>国旗。</p>
<p>夕方の国旗降下も儀式としては<u>だいたい同じような様式で</u> [21] <u>とりおこな</u><u>われる</u>。ただし順序は朝とはまったく逆になる。旗はするすると降り、桐の箱の中に収まる。</p>	<p>傍晚降旗，其仪式也 [22] <u>大同小异</u>，只是顺序与早上相反，旗一溜烟滑下，收进桐木箱中即可。</p>
<p>どうして夜のあいだ<u>国旗が</u> [23] <u>降ろ</u><u>されて</u>しまうのか、僕にはその理由がわからなかった。</p>	<p>何以晚间非 [24] <u>降旗不可</u>，其缘由我无从得知。</p>
<p>二人部屋は六畳間をもう少し細長くしたくらいの広さで、つきあたりの壁にアルミ枠の窓がついていて、窓の前に</p>	<p>两人一个的房间，有六张垫席大小，略显狭长，尽头墙上开有铝合金框窗口。窗前，背对背放着用来学习的两套桌椅，门内左</p>

<p>背中あわせに勉強できるように机と椅子が [25] <u>セット</u>されている。</p>	<p>側 [26] <u>放</u>一架双层铁床。</p>
<p>でもそれに比べると僕の部屋は死体安置所のように消潔だった。床にはちりひとつなく、窓ガラスにはくもりひとつなく、布団は週に一度 [27] <u>干</u>され、鉛筆はきちんと鉛筆立てに収まり、カーテンさえ月に一回は [29] <u>洗濯</u>された。偶の同居人が病的なまでに清潔好きだったからだ。</p>	<p>不过相比之下，我的房间却干净的如同太平间，地板上纤尘不然，窗玻璃光可鉴人，卧具每周 [28] <u>晾晒</u>一次，铅笔在笔筒内各得其所，就连窗帘每月都少不得 [30] <u>洗涤</u>一回，这都因为我的同室者近乎病态地爱洁成癖。</p>
<p>僕の部屋にはピンナップさえ [31] <u>貼</u>られてはいなかった。そのかわり阿姆斯特ダムの運河の写真が貼ってあった。</p>	<p>我的房间连美人画都没 [32] <u>贴</u>，而代之以阿姆斯特丹运河的摄影。</p>
<p>「なんでも良かったんだよ、僕の場合は」と僕は説明した。「民族学だって東洋史だってなんだったよ良かったんだ。ただたまたま演劇だったんだ、気が向いたのが。それだけ」しかしその説明はもちろん<u>彼を</u>...[33] <u>納得</u>させられなかった。</p>	<p>“学什么都无所谓，对我来说。”我解释道，“民族学也罢，东洋史也罢，什么都行。连看中这戏剧，也纯属偶然，如此而已。”这番解释，自然还是没能 [34] <u>使他理解</u>。</p>
<p>彼が関心を抱くのは海岸線の変化とか新しい鉄道トンネルの完成とか、そういった種類の出来事に [35] <u>限</u>られていた。</p>	<p>他所留心的 [36] <u>仅限于</u>海岸线的变化和新铁路隧道的竣工之类。</p>
<p>三日間、僕は我慢した。共同生活においてははある程度の我慢は必要だと [37] <u>いい</u>かされていたからだ。しかし四日めの朝、僕はもうこれ以上は我慢で</p>	<p>头三天，我都忍了。[38] <u>听人说</u>集体生活是需要某种程度的忍耐的。但到第四天早上，我认识到可不能再忍下去了。</p>

<p>きないという結論に達した。</p>	
<p>「悪いけどさ、ラジオ体操は屋上かなんかでやってくれないかな」と僕はきっぱりと言った。</p> <p>「<u>それ</u> [39] <u>やられると目が覚めちゃうんだ</u>」</p> <p>「でももう六時半だよ」と彼は信じられないという顔をして言った。</p>	<p>“对不起，广播体操在楼顶什么地方做好么？”</p> <p>我开门见山，“[40] <u>你那么一做我就不用睡了。</u>”</p> <p>“可都6点半了呀！”他一副难以置信的样子。</p>
<p>朝方ばらばらと降ったりやんだりしていた雨も昼前には完全にあがり、低くたれこめていたうっとうしい雨雲は南からの風に [41] <u>追い払われる</u> ように姿を消していた。</p>	<p>早上“噼里啪啦”时停时下的雨，上午就已完全止息了。低垂的阴沉沉的乌云，也似乎 [42] <u>被南来风一扫而光</u> 似的无影无踪，鲜绿鲜绿的樱树叶随风摇曳，在阳光下闪闪烁烁。</p>
<p>彼女は淡いグレーのトレーナーシャツの袖を肘の上までたくしあげていた。よく [43] <u>洗いこまれたもの</u>らしく、ずいぶん感じよく色が褪せていた。</p>	<p>她把浅灰色的运动衫的袖口挽到臂肘上。看上去 [44] <u>洗过好多遍了</u>，颜色褪得恰到好处。</p>
<p>「うまくしゃべることができないの」と直子は言った。「このところずっとそういうのがつづいてるのよ。何か言おうとしても、いつも見当ちがいな言葉しか浮かんでこないの。見当ちがいだったり、あるいは全く逆だったりね。それでそれを訂正しようとする、もっと余計に混乱して見当ちがいになっちゃうし、そうすると最初に自分が何を言おうとしていたのかがわからなくなっちゃうの。まるで自分の体がふたつに [45] <u>分かれて</u>いてね、追いか</p>	<p>“表达不好。”直子说，“这些日子总是这样。一想表达什么，想出的只是对不上号的字眼。有时对不上号，还有时完全相反。可要改嘴的时候，头脑又混乱得找不出词来，甚至自己最初想说什么也都糊涂了。好像身体 [46] <u>被分成两个</u>，相互做追逐游戏似的。”</p>

<p>っこをしてるみたいなそんな感じなの。」</p>	
<p>はじめて直子に会ったのは高校二年生の春だった。彼女もやはり二年生で、ミッション系の品の良い女子校に通っていた。あまり熱心に勉強をすると「品がない」とうしろ指を [47] さされるくらい品の良い学校だった。</p>	<p>第一次同直子见面，是高中二年级的春天。她也是二年级，就读于教会背景的正统女校。正统倒是正统，但如果对学习太热心了，便会 [48] 被人指脊梁骨说成“不本分”。</p>
<p>キズキにはたしかに冷笑的な傾向があって他人からは傲慢だと [49] 思われることも多かったが、本質的には親切で公平な男だった。</p>	<p>本月有一种喜欢冷笑的倾向，往往 [50] 被人视为傲慢，但本质上却是热情公道的人。</p>
<p>彼の父親は歯科医で、腕の良さと料金の高さで [51] 知られていた。</p>	<p>他父亲是牙科医生，以技术高明和收费昂贵 [52] 知名。</p>
<p>遺書もなければ思いあたる動機もなかった。彼に最後に会って話をしたという理由で僕は警察に [53] 呼ばれて [55] 事情聴取された。そんなそぶりはまったくありませんでした、いつもとまったく同じでした、と僕は取調べの警官に言った。</p>	<p>既无遗书，也没有推想得出的动机。警察以我是同他最后见面说话的人为由， [54] 把我叫去 [56] 了解了情况。我对负责询问的警察说：根本没有那种前兆，与平时完全一样。</p>
<p>新聞に小さく記事が載って、それで事件は終わった。赤い N360 は [57] 処分された。教室の彼の机の上にはしばらくのあいだ白い花が [59] 飾られていた。</p>	<p>报纸发了一小条报道，时间就算了结了。那台 N360 车 [58] 被处理掉。教室里他用过的课桌上，一段时间里 [60] 放了束白花。</p>
<p>そのときまで僕は死というものを完全に生から分離した独立的な存在として捉えていた。つまり<死はいつか確実に我々をその手に捉える。しかし逆に</p>	<p>在此以前，我是将死作为完全游离于生之外的独立存在来把握的。就是说：“死迟早会将我们俘获在手。但反言之，在死俘获我们之前，我们并未 [62] 被死俘获。”</p>

<p>言えは死が我々を捉えるその日まで、我々は死に [61] <u>捉えられる</u> ことはないのだと。それは僕には至極まともな論理的な考え方であるように思えた。</p>	<p>在我看来，这种想法是天经地义、无懈可击的。</p>
<p>しかしキズキの死んだ夜を境にして、僕にはもうそんな風に単純に死を（そして生を）捉えることはできなくなってしまった。死は生の対極存在なんかではない。死は僕という存在の中に本来的に既に [63] <u>含まれている</u> のだし、その事実は何れだけ努力しても忘れ去ることのできるものではないのだ。</p>	<p>然而，以木月死去那个晚间为界，我再也无法如此单纯地把握死（或生）了。死不是生的对立面。死本来就已经 [64] <u>包含</u> 在“我”这一存在之中。我们无论怎样力图忘掉它都归于徒劳这点便是实证。</p>
<p>彼女はとても質素に簡潔に暮しており、友だちも殆んどいないようだった。そういう生活ぶりは高校時代の彼女からは想像できないことだった。僕が知っていたかつての彼女はいつも華やかな服を着て、沢山の友だちに [65] <u>囲</u> まれていた。</p>	<p>她生活得极为简朴，似乎也没有什么朋友。就高中时代的她来说，这种生活情景是不可想象的。我所知的她总是身穿艳丽的衣服，[66] <u>前呼后拥地</u> 一大帮朋友。</p>
<p>秋がやってきて寮の中庭がけやきの葉で [67] <u>覆い尽された</u>。セーターを着ると新しい季節の匂いがした。</p>	<p>秋日降临，寄宿院的中庭 [68] <u>铺满了</u> 榉树落叶。穿上毛衣，顿时感到新季节的气息。</p>
<p>直子は僕に一度だけ好きな女の子はいないのかと訊ねた。僕は別れた女の子の話をした。良い子だったし、彼女と寝るのは好きだったし、今でもときどきなつかしく思うけれど、どうしてか</p>	<p>直子问我有没有一度喜欢过的女孩儿。我把分手的那个女孩儿的事告诉她。我说，那女孩人不错，又喜欢同她睡觉，现在也不时有些怀念，但不知何故，就是不曾 [70] <u>为之倾心</u>。</p>

<p>心が [69] <u>動かされる</u>ということがなかったのだと僕は言った。</p>	
<p>たぶん僕の心には固い殻のようなものがある、そこをつき抜けて中に入ってくるものはとても [71] <u>限られている</u>んだと思う、と僕は言った。だからうまく人を愛することができないんじゃないかな、と。</p>	<p>或许我的心包有一层硬壳，能破壳而入的东西 [72] <u>是极其有限的</u>。所以我才不能对人一往情深。</p>
<p>そして『グレート?ギャツビー』はその後ずっと僕にとっては最高の小説でありつづけた。僕は気が向くと書棚から『グレート?ギャツビー』をとりだし、出鱈目にページを開き、その部分をひとしきり読むことを習慣にしていたが、ただの一度も [73] <u>失望させられる</u>ことはなかった。一ページとしてつまらないページはなかった。</p>	<p>而且《了不起的盖茨比》对我始终是绝好的作品。兴之所至，我便习惯性地从书架中抽出《了不起的盖茨比》，信手翻开一页，读上一段，一次都没 [74] <u>让我失望</u>过，没有一页使人兴味索然。</p>
<p>なんて素晴らしいんだろうと僕は思った。そして人々にその素晴らしさを伝えたいと思った。しかし僕のまわりには『グレート?ギャツビー』を読んだことのある人間なんていなかったし、読んでもいいと思いきやそんな人間すらいなかった。一九六八年にスコット?フィッツジェラルドを読むというのは反動とまではいかなくとも、決して [75] <u>推奨される</u>行為ではなかった。</p>	<p>何等妙不可言的杰作！我真想把其中的妙处告诉别人。但环视四周，竟无一个人读过《了不起的盖茨比》，甚至连想读的人都没有！在1968年，阅读菲茨杰拉德的作品，虽然算不得反动之举，也终非 [76] <u>值得提倡</u>的行为。</p>
<p>もっとも彼が隠れた古典小説の読書家であることは寮内ではまったく [77]</p>	<p>不过，他这位秘而不宣的古典小说嗜好者，在宿舍院内的确未 [78] <u>被任何人知</u></p>

<p>知られていなかったし、もし [79] <u>知られた</u>としても殆んど注目を引くことはなかっただろう。</p>	<p>晓，即使 [80] <u>被人知晓</u>，怕也不致引人注目。</p>
<p>彼はなんといってもまず第一に頭の良さで [81] <u>知られていた</u>。何の苦もなく東大に入り、文句のない成績をとり、公務員試験を受けて外務省に入り、外交官になろうとしていた。</p>	<p>因为，他首先以头脑聪明 [82] <u>知名</u>。不费吹灰之力地考进东大，学习成绩无可挑剔，眼下正准备进外务省，当外交家。</p>
<p>小づかいもたっぷり持っていたし、おまけに風采も良かった。だから誰もが彼に一目置いたし、寮長でさえ永沢さんに対してだけは強いことは言えなかった。彼が誰かに何かを要求すると、[83] <u>言われた人間</u>は文句ひとつ言わずにそのとおりにした。そうしないわけにはいかなかったのだ。</p>	<p>零用钱绰绰有余，人又长得仪表堂堂。因此谁都将他高看一眼，就连宿舍院管理主任在他面前也不敢粗声大气。假如他有求于人，[84] <u>那人</u>便不折不扣地有出必应。不能不应。</p>
<p>だから僕のようなこれといって特徴もない男が永沢さんの個人的な友人に [85] <u>選ばれた</u>ことに対してみんなはひどく驚いたし、そのせいで僕はよく知りもしない人間から<u>ちよつとした敬意を</u> [87] <u>払われ</u>までした。</p>	<p>所以当永泽 [86] <u>把我</u>这个平庸无奇的人<u>选为</u>他的私人朋友后，大家都大为惊异，甚至素不相识的人都对我 [88] <u>流露出</u>一丝敬意。</p>
<p>べつに何かたいしたことを話すわけでもないのだが、彼が話していると女の子たちはみんな大抵ぼおっと感心して、その話に [89] <u>ひきずりこまれ</u>、ついついお酒を飲みすぎて酔払って、それで彼と寝てしまうことになるのだ。</p>	<p>其实他也没说什么绘声绘色的话，但他一开口，女孩大多都 [90] <u>听得入神</u>，一副痴迷的样子，不知不觉之间便喝得昏头昏脑，结果和他睡到了一起。</p>

<p>僕が永沢さんに [91] <u>せかされて</u>何かをしゃべると女の子たちは彼に対するのと同じように僕の話にたいしてひどく感心したり笑ったりしてくれるのである。</p>	<p>每当我 [92] <u>在永泽促使下</u>讲点什么的时候，女孩们便像对永泽那样对我的话或频频点头或笑意盈盈。</p>
<p>こんなのに比べれば、キズキの座談の才なんて子供だましのようなものだった。まるでスケールがちがうのだ。それでも永沢さんのそんな能力に [93] <u>まきこまれながらも</u>、僕はキズキのことをとても優しく思った。</p>	<p>与他相比，木月的座谈之才，简直成了哄小孩的玩艺儿，根本不足以相提并论。尽管如此，尽管我 [94] <u>对永泽的才能</u> <u>五体投地</u>，我还是由衷地怀念木月，愈发感到木月待人是何等以诚相见。</p>
<p>二月の終り頃に僕はつまらないことで喧嘩をして寮の同じ階に住む上級生を殴った。相手はコンクリートの壁に頭をぶっつけた。幸いたいた怪我はなかったし、永沢さんがうまく事を収めてくれたのだが、僕は寮長室に [95] <u>呼ばれて</u>注意を受けたし、それ以来寮の住み心地もなんとなく悪くなった。</p>	<p>近 2 月末，因鸡毛蒜皮的小事和同住一个楼层的高年级生吵了一架，打了他一顿，把他的头往水泥墙上撞。幸亏没受大伤，永泽又妥善处理了事态，我才只是 [96] <u>被管理主任叫去</u>训了几句。</p>
<p>「二十歳になるなんてなんだか馬鹿みたいだわ」と直子が言った。「私、二十歳になる準備なんて全然できてないのよ。変な気分。なんだかうしろから無理に [97] <u>押し出され</u>ちゃったみたいね」「僕の方はまだ七ヵ月あるからゆっくり準備するよ」と僕は言って笑った。</p>	<p>“我也 20 岁了，有点像开玩笑似的。”直子说，“我，一点儿也没做 20 岁的准备，挺纳闷儿的，就像谁从背后 [98] <u>硬推</u>给我的一样。”“我还有七个月，可以慢慢准备好的。”我笑了笑。</p>
<p>直子はその日珍しくよくしゃべった。子供の頃のことや、学校のことや、家庭のことを彼女は話した。どれも長い</p>	<p>直子这天出奇地健谈。小时候的事，学校的事，家里的事。而且都讲得很长，详细得像一幅工笔画。我真佩服她有这么出色</p>

<p>話で、まるで細密画みたいに克明だった。たいした記憶力だなと僕はそんな話を聞きながら感心していた。しかしそのうちに僕は彼女のしゃべり方に [99] <u>含まれている</u>何かだんだん気になりだした。何かがおかしいのだ。何かが不自然で歪んでいるのだ。</p>	<p>的记忆力。但听着听着，我开始察觉她说话的方式 [100] <u>含有</u>某种东西。有什么不正常，有什么在发生着不自然的变形！</p>
<p>ひとつひとつの話はまともでちゃんと筋もおっているのだが、そのつながり方がどうも奇妙なのだ。A の話がいっつのまにかそれに [101] <u>含まれる</u> B の話になり、やがて B に [103] <u>含まれる</u> C の話になり、それがどこまでもどこまでもつづいた。終りというものがなかった。</p>	<p>尽管就每一句话来说都无懈可击，但连接方式却异乎寻常。A 话不知不觉地变成其中 [102] <u>包含的</u> B 话，不一会又变成 B 中 [104] <u>包含的</u> C 话，绵绵不断，无止无休。</p>
<p>しかし直子の話は長くはつづかなかつた。ふと気がついたとき、直子の話は既に終わっていた。言葉のきれはしが、 [105] <u>もぎとられた</u>ような格好で空中に浮かんでいた。正確に言えば彼女の話は終わったわけではなかった。どこかでふっと消えてしまったのだ。</p>	<p>然而直子说的话没再持续很久。蓦地觉察到时，话已戛然而止。中断的话茬儿，像 [106] <u>被拧掉的</u>什么物件似的浮在空中。准确说来，她的话并非结束，而是突然消失到什么地方了。</p>
<p>彼女はなんとか話しつづけようとしたが、そこにはもう何もなかった。何か [107] <u>扱われて</u>しまったのだ。あるいはそれを扱ったのは僕かもしれなかった。僕が言ったことがやっと彼女の耳に届き、時間をかけて [109] <u>理解</u>され、そのせいで彼女をしゃべらせつづ</p>	<p>本来她还想努力接说下去，但话已经无影无踪了。是 [108] <u>被破坏</u>掉了，说不定破坏者就是我。我刚才的话终于传进她的耳朵，好半天才 [110] <u>被她理解</u>，从而 [112] <u>破坏掉了</u>促使她继续说话的类似动力的东西。</p>

<p>けていたエネルギーのようなものが [111] <u>狙われて</u>しまったのかもしれない。</p>	
<p>直子は唇をかすかに開いたまま、僕の目をぼんやりと見ていた。彼女は作動している途中で電源を [113] <u>抜かれて</u>しまった機械みたいに見えた。彼女の目はまるで不透明な薄膜を [115] <u>かぶせ</u>られているようにかすんでいた。</p>	<p>直子微微张开嘴唇，茫然若失地看着我的眼睛，仿佛一架 [114] <u>被突然拔掉</u>电源的机器。双眼雾蒙蒙的，宛如 [116] <u>蒙上</u>了一层不透明的薄膜。</p>
<p>一週聞たっても電話はかかってこなかった。直子のアパートは電話の取りつきをしてくれなかったのので、僕は日曜日の朝に国分寺まで出かけてみた。彼女はいなかったし、ドアについていた名札は [117] <u>とり外</u>されていた。窓はぴたりと雨戸が [119] <u>閉ざ</u>されていた。</p>	<p>过了一个星期，电话也没有打来。直子住的公寓里又不给传呼电话，因此星期天一早我便来到国分寺。她不在，门上的姓名卡片已 [118] <u>被撤掉</u>。木板套窗 [120] <u>关得严严实实</u>。</p>
<p>僕は寮に戻って役女の神戸の住所にあてて長文の手紙を書いた。直子がどこに越したにせよ、その手紙は直子あてに [121] <u>転送</u>されるはずだった。</p>	<p>我返回宿舍，给她神戸家里写了封长信。无论直子搬去何处，那封信总会 [122] <u>转递</u>她手上。</p>
<p>体の中の何かが欠落して、そのあとを埋めるものもないまま、それは純粹な空洞として [123] <u>放置</u>されていた。体は不自然に軽く、音はうつろに響いた。</p>	<p>我心里失落了什么，而又没有东西填补，只剩下一个純粹的空洞 [124] <u>被弃置不理</u>。身体轻得异乎寻常，语音虚无缥缈。</p>
<p>大学が [125] <u>封鎖</u>されて講義はなくなったので、僕は運送屋のアルバイトを始めた。</p>	<p>大学 [126] <u>被迫关门</u>后没有课上了，我开始去运输社打零工。</p>
<p>今の私に必要なのは外界と [127] <u>遮断</u>されたどこか静かなところで神経をや</p>	<p>对现在的我来说，需要的是在某个 [128] <u>与世隔绝</u>的静寂地方休养神经。</p>

<p>すめる乙となのです。</p>	
<p>僕は何百回もこの手紙を読みかえした。そして読みかえすたびにたまらなく哀しい気持になった。それはちょうど直子にじっと目を [129] <u>のぞきこま</u>れているときに感じるのと同じ種類の哀しみだった。僕はそんなやるせない気持をどこに持っていくことも、どこにしまいこむこともできなかった。</p>	<p>这封信我读了几百遍。每次读都觉得不胜悲哀。那正是同 [130] <u>被直子盯视</u>眼睛时所感到的同一性质的悲哀。这种莫可名状的心绪，我既不能将其排遣于外，又不能将其深藏于内。</p>
<p>電話のかかってくるあてはなかったが、他にやることもなかった。僕はいつも TV の野球中継をつけて、それを見ているふりをしていた。そして僕はいつも TV の野球中継をつけて、それを見ているふりをしていた。そして僕と TV のあいだに横たわる茫漠とした空間をふたつに区切り、その [131] <u>区切られ</u>た空間をまたふたつに区切った。そして何度も何度もそれをつづけ、最後には手のひらにのるくらいの小さな空間を作りあげた。</p>	<p>不可能有电话来，也没有要做的事，我常常打开电视的棒球转播节目，似看非看地看。我把横亘在我与电视之间空漠的空间切为两半，又进而把 [132] <u>被自己切</u>开的空间一分为二。如此反复无穷，直至最后切成巴掌大小。</p>
<p>日が暮れると寮はしんとして、まるで廃墟みたいなかんじになった。国旗がポールから [133] <u>降ろされ</u>、食堂の窓に電気が灯った。</p>	<p>日落天黑，宿舍院里十分寂静，竟同废墟一般，国旗从旗杆 [134] <u>降下</u>，食堂窗口亮起灯光。</p>
<p>僕は瓶のふたを開けて螢をとりだし、三センチばかりつきだした給水塔の縁の上に置いた。螢は自分の [135] <u>置かれ</u>た状況がうまくつかめないようだった。</p>	<p>我打开瓶盖，拈出萤火虫，放在大约向外侧探出 3 厘米的给水塔边缘上。萤火虫仿佛还没认清自己的 [136] <u>处境</u>，一摇一晃地绕着螺栓转了一周，停在疤痕一样凸</p>

<p>た。螢はボルトのまわりをよろめきながら一周したり、かさぶたのようにめくれあがったペンキに足をかけたりしていた。</p>	<p>起的漆皮上。</p>
<p>螢が飛びたつたのはずっとあとのことだった。螢は何かを思いついたようにふと羽を拡げ、その次の瞬間には手すりを越えて淡い闇の中に浮かんでいた。それはまるで [137] <u>失われた時間</u> をとり戻そうとするかのように、給水塔のわきで素速く弧を描いた。</p>	<p>过了很长很长时间，萤火虫才起身飞去。它顿有所悟似的，蓦地张开双翅，旋即穿过栏杆，淡淡的萤光在黑暗中滑行开来。它绕着水塔飞快地曳着光环，似乎要挽回 [138] <u>失去的时光</u>。</p>
<p>夏休みのあいだに大学が機動隊の出動を要請し、機動隊はバリケードを叩きつぶし、中に籠っていた学生を全員逮捕した。その当時はどこの大学でも同じようなことをやっていたし、とくに珍しい出来事ではなかった。大学は解体なんてしなかった。大学には大量の資本が [139] <u>投下</u>されているし、そんなものが学生が暴れたくらいで「はい、そうですか」とおとなしく [141] <u>解体される</u>わけがないのだ。</p>	<p>暑假期间，校方请求机动队出动。机动队捣毁壁垒，逮捕了里边所有的学生。当时，这种事在哪一所大学都概莫能外，并非什么独家奇闻。大学根本没有肢解。[140] <u>投入</u>大量资本的大学不可能因为学生闹事就 [142] <u>毁于一旦</u>。</p>
<p>彼らは大学という機構のイニシアチブがどうなるかなんてまったくどうでもいいことだった。だからストが [143] <u>叩きつぶされた</u>ところで、とくに何の感慨も持たなかった。</p>	<p>况且把校园用壁垒封锁起来的一伙人也并非真心想要解散大学，他们只是想改变大学机构的主导权。对我来说，主导权改变与否完全无关痛痒，因此，学潮 [144] <u>被镇压</u>以后也毫无感慨。</p>
<p>僕は九月になって大学が殆んど廢墟と化していることを期待して行って見た</p>	<p>我本来盼望校园 9 月份一举报废才好，不料到校一看，居然完好无缺。图书馆的书</p>

<p>のだが、大学はまったくの無傷だった。図書館の本も [145] <u>掠奪される</u>ことなく、教授室も [147] <u>破壊しつくされる</u>ことなく、学生課の建物も焼け落ちてはいなかった。あいつら一体何してたんだと僕は愕然として思った。</p>	<p>没 [146] <u>被掠夺</u>，教授室未遭破坏，学生会的办公楼未 [148] <u>被烧毁</u>。我不禁为之愕然：那帮家伙到底干什么来着！</p>
<p>ストが [149] <u>解除され</u>機動隊の占領下で講義が [151] <u>再開される</u>と、一番最初に出席してきたのはストを指導した立場にある連中だった。彼らは何事もなかったように教室に出てきてノートを取り、名前を [153] <u>呼ばれる</u>と返事をした。</p>	<p>罢课 [150] <u>被制止</u>后，在机动队的占领下开始 [152] 复课。结果首先出席的竟是曾经雄居罢课领导高位的几张嘴脸。他们若无其事地走进教室，做笔记，[154] <u>叫到名字</u>时也当即应声。</p>
<p>僕はしばらくのあいだ講義には出ても出席をとるときには返事をしないことにした。そんなことをしたって何の意味のないことはよくわかってはいたけれど、そうでもしないことには気分が悪くて仕方がなかったのだ。しかしそのおかげでクラスの中で僕の立場はもっと孤立したものになった。名前を [155] <u>呼ばれて</u>も僕が黙っていると、教室の中に居心地の悪い空気が流れた。</p>	<p>相当一段时间里，我决定即使去上课，点名时也不回答。我也知道，这样做并无任何意义可言，但如果不这样做，心情就糟糕得不可收拾。然而这样一来，我在班里便愈发孤立了。当 [156] <u>叫名</u>我也不应时，教室里便出现了尴尬的气氛。</p>
<p>彼の机やラジオの上にはうっすらとほこりがつもっていた。棚の上にはプラスチックのコップと歯ブラシ、お茶の缶、殺虫スプレー、そんなものがきちんと [157] <u>整頓</u>されて並んでいた。</p>	<p>他的书桌和收音机上已薄薄地积了一层灰尘，搁物架上整齐地 [158] <u>摆放</u>着塑料杯和牙膏，以及茶筒、杀虫剂等等。</p>
<p>しかし彼は戻ってこなかった。ある日</p>	<p>但他没有回来。一天我从学校回来时，他</p>

<p>僕が学校から戻ってみると、彼の荷物が全部なくなっていた。部屋のドアの名札も [159] <u>外されて</u>、僕のものだけになっていた。僕は寮長室に行って彼が一体どうなったのか訊いてみた。</p>	<p>の行李不翼而飞。房门上的姓名卡片也 [160] <u>被揭去</u>，只剩下我自己的。我去管理主任室，打听他到底怎么回事。</p>
<p>「どうしてそんな濃いサングラスかけてるの？」と僕は訊いてみた。「急に毛が短くなるとものすごく無防備な気がするのよ。まるで裸で人ごみの中に [161] <u>放り出され</u>ちゃったみたいだね、全然落ち着かないの。だからサングラスかけるわけ」</p>	<p>“为什么戴颜色这么深的太阳镜呢？”我问。“头发一下变短，觉得什么保护层都没有了似的。就像赤身裸体地 [162] <u>被扔到</u>人堆里，心里慌得不行，所以才戴这太阳镜。”</p>
<p>『とくに好きなわけじゃない。なんだっていいんだよ』と彼女はまたくりかえした。「私、あなたのしゃべり方すごく好きよ。きれいに壁土を塗ってるみたいで。これまでにそう [163] <u>いわれた</u>ことある、他の人から？」ない、と僕は答えた。</p>	<p>“也不是特别喜欢，什么都无所谓。”她再次鹦鹉学舌，“我嘛，打心眼里喜欢你这说话的方式。就像漂亮地涂了一层墙粉——可 [164] <u>听人这么说过</u>，从其他人口里？”</p>
<p>「私ね、ミドリっていう名前なの。それなのに全然緑色が似合わないの。変でしょう。そんなのひどいと思わない？まるで [165] <u>のろわれた</u>人生じゃない、これじゃ。ねえ、私の姉さん桃子っていうのよ。おかしくない？」</p>	<p>“我呀，名叫绿子。却跟绿色格格不入，好笑不？你不觉得这样太可悲了？简直是 [166] <u>可诅咒</u>的人生！对了，我姐姐叫桃子。岂不滑稽？”</p>
<p>彼女のテーブルに料理が [167] <u>運ばれ</u>、マドラス？チェックの上着を着た男が「おーい、ミドリ、飯だぞお」と呼んだ。彼女はそちらに向かってくわかった</p>	<p>那边餐桌上已 [168] <u>有饭菜端来</u>，一个穿双色方格衬衫的小伙子叫道：“喂——绿子，吃饭啦！”她朝那边扬一下手，意思是说“知道了”。</p>

<p>>というよに手をあげた。</p>	
<p>「ねえ、ワタナベ君、あなた講義のノートをとってる？演劇史Ⅱの？」</p> <p>「とってるよ」と僕は言った。</p> <p>「悪いけど貸してもらえないかしら？私二回休んじゃってるのよ。あのクラスに私、知っている人しないし」</p> <p>「もちろん、いいよ」僕は鞆からノートを出して何か余計なものが [169] <u>書か</u>れていないことを確かめてから緑に渡した。</p>	<p>“嗯，渡边君，你做笔记了么？戏剧史 II 的？”“做了。”我说。</p> <p>“对不起，可以借我一看？我两次没去。那班上我又没有认识的人。”</p> <p>“当然可以。”我从包里掏出笔记本，确认上边没有乱 [170] <u>写</u>之后，递给绿子。</p>
<p>向こうの方から「おーい、ミドリ、早く来ないと冷めちゃうぞ」という声が聞こえた。</p> <p>「ねえ、昔からそういうしゃべり方してたの？」と緑はその声を無視して言った。</p> <p>「そうだと思うよ。あまり意識したことがないけど」と僕は答えた。しゃべり方が変わっているなんて [171] <u>言</u>われたのは本当にそれが初めてだったのだ。</p>	<p>那边又传来招呼声：“喂——绿子，再不吃可凉透啦！”</p> <p>“我说，你以前就是这么说话的？”绿子充耳不闻地说。</p> <p>“我想是这样的，可并不是什么有意的。”我回答。说话方式 [172] <u>被人说</u>是与众不同，这还真是第一遭。</p>
<p>「よして下さいよ」と僕は言った。「好き嫌いもありません。だってそうでしょう、僕は東大に入れるわけでもないし、好きなときに好きな女と寝られるわけでもないし、弁が立つわけでもない。他人から<u>二目</u> [173] <u>お</u>かれているわけでもなきや、恋人がいるでもない。</p>	<p>“算了吧，”我说，“谈不上喜欢不喜欢。事情不明摆着：我一不能进东大，二不能在中意的时候和中意的女人睡觉。再说嘴巴又不能说会道，既不能 [174] <u>被人高看</u>一眼，又没有恋人。就算从二流私立大学的文学院毕业出来，前景也未必乐观。我又能说什么呢。”</p>

<p>二流の私立大学を出たって将来の展望があるわけでもない。僕に何が言えるんですか？」</p>	
<p>「ねえ、私たち反革命なのかしら？」と教室を出てから緑が僕に言った。「革命が成就したら、私たち電柱に並んで [175] <u>吊るされる</u>のかしら？」</p> <p>「[177] <u>吊るされる</u>前にできたら昼飯を食べておきたいな」と僕は言った。</p>	<p>“噢，我们怕是反革命吧？”走出教室后绿子对我说，“一旦革命成功，我们难保不会 [176] <u>被吊到</u>电线杆上去，嗯？”</p> <p>“ [178] <u>吊</u>之前可得好好吃一顿午饭，可能的话。”我说。</p>
<p>なるほど、という風に彼女は二、三度肯き、まだブレスレットをいじった。</p> <p>「そうね、そういうの思いつかなかったわ。あなたの電話番号もそうすれば調べられたのにね。でも、その病院のことだけど、また今度話すわね。今あまり話したくないの。ごめんなさい」</p> <p>「かまわないよ。なんだか余計なこと聞いちゃったみたいだ」</p> <p>「ううん、そんなことないのよ。私が今すこし疲れてるだけ。雨に [179] <u>打たれた</u>猿のように疲れているの」</p>	<p>她点了两下头，仿佛是说“原来如此”。接着又开始摆弄手镯。“是啊，我却没能想到，本来你的电话也可以那样查到的。至于医院的事，下次再说吧。现在不大想说，别见怪。”</p> <p>“没什么。我倒像是问得太多了。”</p> <p>“不不，你这说哪去了。只是现在我有点累，就像 [180] <u>淋过</u>一场大雨的猴子似的。”</p>
<p>「うん、私も教室の窓からあの煙を見るたびにそう思ったわよ。凄いなあつて。うちの学校は中学?高校あわせると千人近く女の子がいるでしょう。まあまだ始まってない子もいるから九百人として、そのうちの五分之一が生理中として、だいたい百八十人よね。で、一日に百八十人ぶんの生理ナプキンが</p>	<p>“嗯。当时我每次从教室看那烟，也都那么想来着：啊，真不得了！我们学校，初中高中合起来差不多有一千女孩子吧！有的还没开始，就算九百人。假定其中五分之一来月经，大致就是一百八十人，就是说，每天要往垃圾筒里 [182] <u>扔</u>一百八十人用的卫生巾，是吧？”</p>

<p>汚物入れに[181]捨てられるわけよね」</p>	
<p>「本当は私あの学校に行きたくなかったの」と緑は言って小さく首を振った。</p> <p>「私はごく普通の公立の学校に入りたかったの。ごく普通の人が行くごく普通の学校に。そして楽しくのんびりと青春を過ごしたかったの。でも親の見栄えであそこに [183] <u>入れられ</u>ちゃったのよ。ほら小学校の時成績が良いとそういうことあるでしょう？先生がこの子の成績ならあそこ入れますよ、ってね。で、[185] <u>入れられ</u>ちゃったわけ。六年通ったけどどうしても好きになれなかったわ。一日も早くここを出て行きたい、一日も早くここを出て行きたいって、そればかり考えて学校に通ってたの。ねえ、私って無遅刻？無欠席で表彰まで [187] <u>された</u>のよ。そんなに学校が嫌いだったのに。どうしてだかわかる？」</p>	<p>“我打心眼里不乐意去那所学校。”绿子说着，轻轻摇了摇头，“我本想进普通公立学校来着。普普通通老百姓就该去普普通的学校嘛，而且我想快快乐乐自由自在的度过自己的青春。可父母出于虚荣心，偏偏 [184] <u>把我塞</u>去那里。你知道，小学如果成绩好，常遇到这种事：老师说了一通凭这孩子的成绩进那里没问题之类的话，结果就 [186] <u>被硬塞</u>进去。。我念了六年，却怎么都上不来好感。心里盼望的光是快些毕业快些毕业。对了，别看我这样，还因为不迟到不旷课 [188] <u>受表扬</u>了呢！其实我却是那么讨厌学校。这里面的原因你能知道？”</p>
<p>「だってあの学校に恩なんか [189] <u>着せられ</u>ちゃたまらないもの。そんなの冗談じゃないわよ」</p>	<p>“我就是横竖都不愿 [190] <u>领</u>那所高中的情分！这还真不是开玩笑。”</p>
<p>「あの学校ね」と緑が小指で目のわきを掻きながら行った。「エリートの子の集まる学校なのよ。育ちも良きや成績も良いつて女の子が千人近く [191] <u>あつめ</u>られてるの。ま、金持ちの娘ばかりね。……</p>	<p>“那所学校么，”绿子一边用小手指揉眼角一边说，“里面全都是所谓才女，家教好学习好——这样的女孩儿 [192] <u>搜罗</u>了差不多一千个。哦，清一色是有钱人家的小姐，否则也吃不消。</p>

<p>「何か寄附があるたびに親にぶつぶつ文句を [193] <u>言われて</u>、クラスの友だちとどこかに遊びにいっても食事どきになると高い店に入ってお金が足りなくなるじゃないかってびくびくしてね。そんな人生って暗いわよ。あなたのお家はお金持ちなの？」</p>	<p>“每逢要捐什么款的时候，都要 [194] <u>绘父亲罗嗦</u>个没完没了；和同学外出游玩，一到吃饭时间就心惊胆战，生怕走进价格贵的饭店弄得掏不出钱。这样的人生简直漆黑一团。你家有钱？”</p>
<p>「美人の女の子が『私今日はひどい顔してるから外に出たくないなあ』っていうのと同じね。ブスの子はそんなこと言ってごらんさいよ、[195] <u>笑われる</u>だけよ。そういうのが私にとっての世界だったのよ。去年までの六年間」</p>	<p>长得漂亮的女孩儿可以说‘我今天脸难看得很，不想外出’，可要是换个丑八怪女孩同样说一句试试，不 [196] <u>被人笑掉大牙</u>才怪哩！二者同一道理。这就是我所处的世界，6年时间，直到去年。”</p>
<p>大塚駅の近くで僕は都電を降り、あまり見映えのしない大通りを彼女が地図に描いてくれたとおりに歩いた。道筋に並んでいる商店はどれもこれもあまり繁盛しているように見えなかった。どの店も建物は旧く、中は暗そうだった。看板の字が消えかけているものもあった。建物の旧さやスタイルからみて、このあたりが戦争で爆撃を受けなかったらしいことがわかった。だからこうした家並みとそのままだに [197] <u>残されている</u>のだ。もちろん [199] <u>建てなおされた</u>ものもあったし、どの家も [201] <u>増築</u>されたり部分的に [203] <u>補修</u>されたりはしていたが、そういうのはまったくの古い家より余計汚なら</p>	<p>临近大冢站时，我在大冢站下了电车，按地图中所示，沿一条不甚起眼的大街一路走去。两侧排列的商店，哪一家都不像是红红火火的兴旺景象。全部是旧建筑，里边黑洞洞的。有的连招牌上的字都消失殆尽。从建筑物的古旧程度和样式来看，不难判断这一带未曾在战争中遭受空袭，所以这些民房才 [198] <u>得以原样保留</u>下来。当然也有的 [200] <u>重建</u>过，也有的或 [202] <u>增建</u>或部分 [204] <u>修修补补</u>，但这些房子大多反而倒显得比旧貌依然的房子还要脏乱。</p>

<p>しく見えることの方が多かった。</p>	
<p>「ねえ、こっち」とどこかで緑の聲がした。階段を上ったところの右手に食堂のような部屋があり、その奥に台所があった。家そのものは旧かったが、台所はつい最近 [205] <u>改築</u>されたらしく、流し台も蛇口も収納棚もぴかぴかに新しかった。そしてそこで緑が食事の支度をしていた。鍋で何かを煮るぐつぐつという音がして、魚を焼く匂いがした。</p>	<p>“喂，这边！”绿子的声音不知从哪里响起。楼梯口右侧有个餐厅样的房间，再往里是厨房。房子本身虽旧，但厨房却像最近 [206] <u>改装</u>过，烹调台、水龙头、餐具橱全都光闪闪地焕然一新。绿子就在那里准备饭菜。锅里煮着什么，“咕嘟咕嘟”直响。还洋溢着烤鱼的香味。</p>
<p>緑は細いブルージーンズの上にネイビ?ブルーのTシャツを着ていた。Tシャツの背中にはアップル?レコードのりんごのマークが大きく [207] <u>印刷</u>されていた。</p>	<p>她下着紧身蓝色牛仔裤，上穿蓝色海军衫。海军衫的背部还 [208] <u>印着</u>一个大大的苹果商标。</p>
<p>うしろから見ると彼女の腰はびっくりするくらいほっそりとしていた。まるで腰をがっしりと固めるための成長の一過程が何かの事情で [209] <u>とばされ</u>てしまったじゃないかと思えるくらいの華奢な腰だった。</p>	<p>从后面看，她的腰格外的苗条、格外的窈窕，简直像在使腰肢壮实起来的发育过程中，不知什么原因 [2010] <u>跳过</u>了一个阶段：就是这样美不胜收的腰。</p>
<p>「そりゃ大変だったわよ」と緑はため息をつきながら言った。「なにしろ料理なんてものにまるで理解も関心もない一家でしょう。きちんとした包丁とか鍋とか買いたいって言ってもお金なんて出してくれないのよ。今ので十分だっていうの。冗談じゃないわよ。あん</p>	<p>“吃了好多辛苦哩！”绿子叹息着说，“我们这家人，对烹调之类是既不知又不想知，所以不管你怎么苦苦央求，他们硬是不肯掏钱替你买些像样的菜刀啦锅啦。说什么现有的足已够用。开哪家的玩笑！那薄薄一片的小破刀，哪里能切得好鱼！可你这么一说你猜怎么着，马上又 [212]</p>

<p>なぺらぺらの包丁で魚なんておろせるもんですか。でもそう言うとな、魚なんておろさなくていいって [211] <u>言われる</u>の。だから仕方ないわよ。……</p>	<p>说什么鱼那玩艺儿不切也无所谓。简直不可救药。</p>
<p>緑はテーブルの上に置いた両手をぴたりと合わせてしばらく考えていた。「どうしてもよ。ワタナベ君は煙草吸わないの？」</p> <p>「六月にやめたんだ」</p> <p>「どうしてやめたの？」</p> <p>「面倒臭かったからだよ。夜中に煙草が切れるときの辛さとか、そういうのがさ。だからやめたんだ。何かにそんな風に [213] <u>縛られる</u>のってす好きじゃないんだよ」</p>	<p>緑子把搁在桌面的两只手“啪”地一合，沉吟片刻，说：“也不怎么。你不吸烟？”</p> <p>“6月份戒了。”</p> <p>“干嘛要戒？”</p> <p>“太麻烦了。譬如说半夜断烟时那个难受滋味吧，等等。所以戒了。我不情愿 [214] <u>被某种东西束缚住</u>。”</p>
<p>「まあそうかもしれないな」と僕は言った。「たぶんそのせいで人にあまり [215] <u>好かれない</u>だろうね。昔からそうだな」</p> <p>「それはね、あなたが人に [217] <u>好かれ</u>なくたってかまわないと思っているように見えるからよ。だからある種の人には頭にくるんじゃないかしら」と彼女頬杖をつきながらもそもそした声で言った。「でも私あなたと話してるの好きよ。しゃべり方だってすごく変ってるし。『何かにそんな風に [219] <u>縛られる</u>のって好きじゃないんだよ』」</p>	<p>“也许。”我说，“说不定因为这一点我才不怎么 [216] <u>讨人喜爱</u>，以前就这样。”</p> <p>“那是由于：在别人眼里，你是个不 [218] <u>被人喜爱</u>也觉得无所谓的角色。或许有些人对你这点感到棘手也未可知。”她手捧两腮，自言自语似的小声说，“不过我喜欢同你说话，你说话方式真是别具一格：’我不情愿 [220] <u>被某种东西束缚住</u>。’”</p>
<p>「でも人と人が愛しあうって素敵なこ</p>	<p>“不过，你不觉得人与人相爱是件好事？”</p>

<p>とだと思わない？娘に向かってお前ら がかわりに死にゃ良かっただなんて言 えるくらい奥さんを愛せるなんて？」 「まあそう [221] <u>言われてみればそう かもしれない</u>」</p>	<p>爱夫人爱得甚至当女儿面说什么不如叫 你们替死是件好事？” ” [222] <u>或许</u>。”</p>
<p>「あまり [223] <u>愛されなかった</u>と思う の？」 彼女は首を曲げて僕の顔を見た。そし てこくと背いた。『十分じゃない』 と『全然足りない』の中間くらいね。 いつも飢えてたの、私。一度でいいか ら愛情をたっぷりと受けてみたかった の。もういい、おなかいっぱい、ごち そうさまっていうくらい。一度でいい のよ、たった一度で。でもあの人たち はただの一度も私にそういうの与えて くれなかったわ。甘えると [225] <u>つき とばされて</u>、金がかかるって文句ばかり 言われて、ずうっとそうだったの よ。」</p>	<p>“你觉得，没怎么 [224] <u>被爱过</u>？” 她歪起脖子看我的脸，随即深深点了下 头。“介于‘不充分’和‘完全不够’之间吧。 我总是感到饥渴，真想拼着劲儿地得到一 次爱，哪怕仅仅一次也好——直到让我说可 以了，肚子饱饱的了，多谢您的款待。一 次就行，只消一次。然而他们竟一次都没 满足过我。刚一 [226] <u>撒娇</u>，就给抡到 一边去，动不动就说我花钱手脚大，从来 都这样。”</p>
<p>「そうじゃなくてあなたがどう反応す るかを見てみたかったのよ」と緑は言 った。「でも死ぬこと自体はちっとも怖 くないわよ。それは本当。こんなの煙 に [227] <u>まかれて</u>気を失ってそのまま 死んじゃうだけだもの、あつという間 よ。」</p>	<p>“其实也不是，而是想看看你有什么反应。 ”绿子说，“但死本身却丝毫也不可怕，确 确实实。不过 [228] <u>被裹</u>在烟里呛昏， 直接昏死罢了。”</p>
<p>我々の口づけはそういうタイプの口づ けだった。しかしもちろんあらゆる口</p>	<p>于是我们接了吻，就是这种类型的吻。当 然，正像所有接吻那样，我们的接吻也不</p>

<p>づけがそうであるように、ある種の危険がまったく [229] <u>含まれていない</u>と言うわけではなかった。</p>	<p>是说不 [230] <u>包含某种危险</u>。</p>
<p>「一日中家の中にいて電話を待ってなきゃいけないなんて本当に嫌よね。一人きりでいるとね、身体が少しずつ腐っていくような気がするのよ。だんだん腐って溶けて最後には緑色のとろとした液体だけになってね、地底に [231] <u>吸い込まれていく</u>の。そしてあとには服だけが残るの。そんな気がするわね、一日じっと待っていると」</p>	<p>“整整一大天都憋在家里等电话，真是烦透了。孤零零一个人，觉得身体就像一点腐烂似的。渐渐腐烂、融化，最后变成一汪黏糊糊的绿色液体，再 [232] <u>被吸进地底</u>下去，剩下来的只是衣服—就是这种感觉，在干等一天的时间里。”</p>
<p>僕にとってキズキという男の存在はいったいなんだっただろうと考えてみた。でもその答えを見つけることはできなかった。僕にわかるのはキズキの死によって僕のアドレセンスとでも呼ぶべき機能の一部が完全に永遠に [233] <u>損なわれてしまった</u>らしいということだけだった。僕はそれははっきりと感じ理解することができた。しかしそれが何を意味し、どのような結果をもたらすことになるのかということは全く理解の外にあった。</p>	<p>对于我，木月其人的存在到底意味着什么呢？但百思不得其解。我所明白的只是：由于木月的死，我的不妨称之为青春期的部分机能便永远彻底地 [234] <u>丧失了</u>。对此我可以清楚地感到和理解。至于它意味着什么，将招致何种结果，我却如坠五里云雾。</p>
<p>申しわけないが一緒につきあってくれないかと彼女は言った。女の子二人でそんなことできないから、と。僕はこの当時の新宿の町でいろいろと奇妙な体験をしたけれど、朝の五時二十分に</p>	<p>“实在冒昧得很，您能不能陪一下？”她说，“两个女孩不好那样做。”尽管当时我在新宿街头经历了五花八门的奇妙事情，但一大早 5 点 2 0 分 [236] <u>被素不相识的女孩拉去</u>喝酒，倒是有生第一遭。</p>

<p>知らない女の子に酒を飲もうと [235] <u>誘われたのはこれがはじめてだった。</u></p>	
<p>「手紙をありがとう」と直子は書いていた。手紙は直子の実家から「ここ」にすぐ [237] <u>転送されてきた。</u>手紙をもらったことは迷惑なんかではないし、正直言ってとても嬉しかった。実は自分の方からあなたにそろそろ手紙を書かなくてはと思っていたところなのだ、とその手紙にはあった。</p>	<p>“谢谢你的来信。”直子写道。信是从直子父母家直接 [238] <u>转到“这里”来的。</u>直子继续写道：“你的来信根本不是什么打扰。老实说，我感到非常高兴。其实自己也正想给你去信。”</p>
<p>だからこと私はあなたに [239] <u>憎まれ</u>たくないのです。あなたに [241] <u>憎まれたり</u>すると私は本当にバラバラになってしまいます。</p>	<p>也正因如此，我才不愿 [240] <u>被你怨恨。</u>如若 [242] <u>被你怨恨</u>，我势必真正归于土崩瓦解。</p>
<p>こういう物の見方ってあるいは分析的にすぎるのかもしれないね。そう思いませんか？この治療は決して分析的にすぎるという物ではありません。でも私のような立場に [243] <u>置かれて</u>何ヶ月も治療を受けていると、いやでも多かれ少なかれ分析的になってしまうものなのです。</p>	<p>“这种对事物的看法，也许有太多的分析意味，你不这样认为？当然我不是说这里的治疗是分析式的，但处于我的 [244] <u>境遇</u>，接受几个月治疗之后，喜欢也罢讨厌也罢，难免多多少少受到分析的熏染——</p>
<p>きれいな空気、<u>外界から [245] 遮断された</u>静かな世界、規則正しい生活、毎日の運動、そういうものがやはり私には必要だったようでしょう。</p>	<p>新鲜的空气、[246] <u>同外面隔绝的</u>寂静世界、秩序井然的生活、每天的运动，这些对我似乎还是很有必要的。</p>
<p>そういう人たちと話していると、私は自分がいろんなことについていかに無知であったかということを [247] <u>思い</u></p>	<p>和他们交谈起来，我 [248] <u>得以知道</u>自己在许多方面竟是那样无知，而意识到这点又是那</p>

<p>知らされますし、そんな風を感じるのはなかなか気持ちの良いものです。</p>	<p>样令人惬意。”</p>
<p>私はテニスとバスケット?ボールをやっています。バスケット?ボールのチームは患者（というのは嫌な言葉ですが仕方ありませんね）とスタッフが入りまじって [249] <u>構成</u>されています。</p>	<p>“我在打网球和篮球。篮球队是 [250] <u>由患者</u>（我并不愿这样称呼，但没有办法）和工作人员混合<u>组成</u>的。”</p>
<p>ある日私の担当医にそのことを言うと、君の感じていることはある意味で正しいのだと [251] <u>言</u>われました。</p>	<p>一天，我把这话讲给主治医生，他 [252] <u>说</u>在某种意义上我的说法是正确的。</p>
<p>ここにいる限り私たちは他人を苦しめなくてすむし、他人から [253] <u>苦しめ</u>られなくてすみます。</p>	<p>我们在此静静地生活，避免相互 [254] <u>伤害</u>。”</p>
<p>担当医は私がそろそろ外部の人と接触を持ち始める時期だと言います。『外部の人』というのはつまり正常な世界の正常な人ということですが、それ [255] <u>い</u>われても、私にはあなたの顔しか思い浮かばないのです。</p>	<p>主治医生说现阶段已经可以慢慢同外界人开始接触。 [256] <u>所谓</u> ‘外界人’，是指正常世界中的正常人。然而我脑海中浮现出来的惟有你而已。</p>
<p>谷川に沿ってその杉林の中をずいぶん長い時間進み、世界中が永遠に杉林で [257] <u>埋め</u>尽くされてしまったんじゃないかという気分になり始めたあたりでやっと林が終わり、我々はまわりを山に [259] <u>囲</u>まれた盆地のようなところに出た。</p>	<p>车沿着溪流在杉树林中行驶了很久很久，正当我恍惚觉得整个世界都 [258] <u>将</u>永远<u>埋葬</u>在杉树林的时候，树林终于消失，我们来到 [260] <u>四面环山</u>的盆地样的地方。</p>
<p>雑木林の中の道にはくっきりと車のタイヤのあとがついていた。まわりの林の中で時折ばたばたという鳥の羽ばた</p>	<p>杂木林中的路面历历印着车轮碾过的痕迹。四下林中不时传来小鸟“扑棱扑棱”展翅的声响。那声响听起来格外清晰，仿</p>

<p>きのような音が聞こえた。部分的に [261] <u>拡大された</u>ように妙に鮮明な音 だった。</p>	<p>佛 [262] <u>被部分放大了</u>似的</p>
<p>[263] <u>言われた</u>とおりにロータリーの 左から二本目の道を進んでいくと、つ きあたりにはいかにも一昔前の別荘と わかる趣きのある古い建物があつた。 庭には形の良い石やら、灯籠なんかが [265] <u>配され</u>、植木はよく [267] <u>手</u> <u>入れ</u>されていた。この場所はもともと 誰かの別荘地であるらしかった。そこ を右に折れて林を抜ける目の前に鉄筋 の三階建ての建物が見えた。三階建て とは言っても地面から [269] <u>掘りおこ</u> <u>された</u>ようにくぼんでいるところに建 っているので、とくに威圧的な感じは 受けない。</p>	<p>我 [264] <u>按他说的</u>，拐进转盘式交叉路 口的左数第二条路，尽头处果然有一座俨 然往昔老式别墅的格调优雅的古式建筑。 院子 [266] <u>点缀</u>着形状别致的石块和石 雕灯笼等物，草木也都 [268] <u>修剪</u>得整 整齐齐。看来这地方以前可能是某人的别 墅园地。由此右拐穿过树林，眼前出现一 座三层高的钢筋混凝土楼房。虽说是三 层，但由于建在仿佛地面 [270] <u>被掘开</u> 的凹陷处，并没特别给人以威严之感。</p>
<p>玄関は二階にあつた。階段を何段か上 り大きなガラス戸を開けて中に入ると、 受付に赤いワンピースを着た若い 女性が座っていた。僕は自分の名前を 告げ、石田先生に会うように [271] <u>言</u> <u>われた</u>のだと言つた。</p>	<p>大厅在二楼。我上了几级楼梯，打开一扇 大大的玻璃门闪身进去，见服务台里坐着 一个穿连衣裙的年轻女郎。我告以自己的 姓名，说门卫 [272] <u>叫</u>我见石田老师。</p>
<p>観葉植物の鉢がいくつかあり、壁には 趣味の良い抽象画がかかり、床はぴか ぴかに [273] <u>磨きあげ</u>られていた。</p>	<p>有几盆赏叶植物，墙上挂着情趣健康的抽 象画，地板 [274] <u>擦得</u>油光发亮。</p>
<p>とても不思議な感じのする女性だつ た。顔にはずいぶんたくさんしわがあ つて、それがまず目につくのだけれど、</p>	<p>真是个不可思议的女性。她脸上有很多皱 纹，这是最引人注目的。然而却没有因此 而显得苍老，反倒有一种超越年龄的青春</p>

<p>しかしそのせいで老けて見えるというわけではなく、かえって逆に年齢を超越した若々しさのようなものがしわによって [275] <u>強調</u>されていた。</p>	<p>气息通过皱纹 [276] <u>被强调</u>出来。</p>
<p>年齢は三十代後半で、感じの良いというだけではなく、何かしら心 [277] <u>魅かれる</u>ところのある女性だった。僕は一目で彼女に好感を持った。</p>	<p>她年纪在 3 5 岁往上，不仅给人的印象良好，还似乎有一种摄人心魄的魅力她年纪在 3 5 岁往上，不仅给人的印象良好，还似乎有一种 [278] <u>摄人心魄</u>的魅力。我一眼就对她产生了好感。</p>
<p>髪はひどく雑然と [279] <u>カット</u>されて、ところどころで立ち上がって飛び出し、前髪も不揃いに額に落ちかかっていたが、その髪型は彼女にとってもよく似合っていた。</p>	<p>她头发 [280] <u>剪得</u>相当草率，长短不一，到处都有几根头发卓尔不群地横冲直闯。前面的头发也参差不齐地搭在额头，但这发型对她却是恰到好处。</p>
<p>「じゃあいらっしゃいよ。食堂で一緒にごはん食べながら話しましょう。食事の時間は終わっちゃったけど、今行けばまだ何か食べられると思うわ」 彼女は僕の先に立ってすたすた廊下を歩き、階段を下りて一階にある食堂まで行った。食堂は二百人ぶんくらいの席があったが今 [281] <u>使</u>われているのは半分だけで、あとの半分はついたてで [283] <u>仕切</u>られていた。</p>	<p>“那跟我来。在食堂里边吃边说好了。开饭时间倒是过去了，不过现在就去或许还有吃的。”她领头，大步流星地穿过走廊，走下楼梯，来到一楼食堂。食堂座位足可容纳二百多人，但现在 [282] <u>使用</u>的只有一半，剩下的半边 [284] <u>被屏风</u>隔开。</p>
<p>「あなたは直子の担当のお医者さんですか？」と僕は彼女に訊いてみた。 「私は医者？」と彼女はびっくりしたように顔をぎゅっとしかめて言った。 「なんで私が医者なのよ？」</p>	<p>“你是直子的主治医生么？”我试着问她。 “我是医生？”她显得很惊愕，猛地收紧眉头说，“我怎么会是医生呢？” “可是人家 [286] <u>告诉</u>我找石田老师呀！”</p>

<p>「だって石田先生に会って [285] 言われてきたから」</p>	
<p>「馬鹿高くはあいけど、安くはないわね。だってすごい設備でしょう？場所も広いし、患者の数は少なくスタッフは多いし、私の場合はもうずっと長くいるし、半分スタッフみたいなものだから入院費は実質的には [287] <u>免除</u>されてるから、まあそれはいいんだけど。ねえ、コーヒー飲まない？」</p>	<p>“倒不是高得离谱，可也不便宜。瞧，多气派的设施啊，地方大，患者少，职员多。就我来说，长久以来就待在这里，加之差不多顶半个工作人员用，住院费才实质上等于 [288] <u>免除</u>，倒还算是不错。喂，不喝咖啡？”我说想喝。</p>
<p>たとえば私はあるお医者にピアノを教えるし、一人の患者は看護婦にフランス語を教えるし、まあそういうことよね。私たちのような病気にかかっている人には<u>専門的な才能に</u> [289] <u>恵まれた</u>人がけっこう多いのよ。だからここでは私たちはみんな平等なの。私はあなたを助けるし、あなたも私を助けるの」</p>	<p>例如我就教一个医生弹钢琴，有个患者教护士学法语，就是这样。得我们这种病的人，有不少人 [290] <u>学有专长</u>。所以在这里我们都一律平等，不论患者还是工作人员，你也在内。你在这几的时间里就是我们当中的一员，我帮助你，你也帮助我。”</p>
<p>レイコさんはまたスプーンでコーヒーをかきまわし、ひとくち飲んだ。「それからこれは規則で決ってることだから最初に言っておいた方が良くと思うんだけど、あなたと直子が二人っきりになることは [291] <u>禁じられている</u>の。</p>	<p>玲子又拿小勺搅拌咖啡，啜了一口，“此外，这里有条规定，我想还是一开始就挑明为好，就是 [292] <u>禁止</u>你同直子两人单独在一起。</p>
<p>「私と直子の部屋よ、もちろん」とレイコさんは言った。「部屋も [293] <u>分</u>かかれているし、ソファ？ベッドがひとつあるからちゃんと寝られるわよ、心</p>	<p>“我和直子的房间呀，这还用说。”玲子说，“房间是 [294] <u>分开</u>的。而且有个沙发床，保管你睡得香甜，放心就是。”</p>

<p>配しなくても」</p>	
<p>「町に出ることはできないんですか？」と僕は質問した。</p> <p>「それは駄目よ。もちろんたとえば歯医者に行かなきゃならないとか、そういう特殊なことがあればそれは別だけれど、原則的にはそれは [295] <u>許可</u>されていないの。</p>	<p>“不能进城吗？”我问。</p> <p>“那是不行的。当然特殊情况除外，例如去看牙医等等，但原则上是不 [296] <u>允许</u>的。</p>
<p>斜面には奇妙な雰囲気のある木造の二階建て住宅が不規則に並んでいた。どこかどう奇妙なのかと [297] <u>言われて</u>もうまく説明できないのだが、最初にまず感じるのはこれらの建物はどことなく奇妙だということだった。</p>	<p>穿过树林，走上一面徐缓的斜坡。斜坡上不规则地排列着带有奇妙气氛的两层木房。[298] <u>若问</u>奇妙在哪里，自是解释不好，总之第一个感觉就是这些建筑总有些奇妙。</p>
<p>建物はどれもまったく同じかたちをしていて、同じ色に [299] <u>塗られて</u>いた。かたちはほぼ立方体に近く、左右が対称で入口が広く、窓がたくさんついていた。その建物のあいだをまるで自動車教習所のコースみたいにくねくねと曲った道が通っていた。どの建物の前にも草花が [301] <u>植えられ</u>、よく [303] <u>手入れ</u>されていた。人影はなく、どの窓もカーテンが引かれていた。</p>	<p>每一座建筑物都呈同样的外形，都 [300] <u>涂</u>同样的颜色。造型大致接近正方体，左右对称，门口很宽，窗口有好多个。建筑物相互之间的道路弯弯曲曲，活像汽车培训学校教练路线。所有建筑物的前面都 [302] <u>种植</u>花草，[304] <u>修剪</u>得井然有序。寥无人影，窗口都挡着窗帘。</p>
<p>「ここはC地区と [305] <u>呼ばれて</u>いるところで、ここには女の人たちが住んでいるの。つまり私たちよね。こういう建物が十棟あって、一棟が四つに [307] <u>区切</u>られて、一区切りに二人住</p>	<p>“这里 [306] <u>称为</u> C区，住的全是女性，也就是我们。这样的建筑物有十栋，每栋 [308] <u>分</u>四个单元，每单元住两个人。所以全部可住八十人。现在倒是只住有三十二人。”</p>

<p>むようになってるの。だから全部で八十人は住めるわけよね。今のところ三十二人しか住んでないけど」</p>	
<p>秋の風が耳もとで鋭くうなり、キズキのジャンパーを両手でしっかりと掴んだまま空を見上げると、まるで自分の体が宇宙に [309] <u>吹き飛ばされ</u> そうな気がしたものだ。</p>	<p>秋风在耳边呼啸而过，我双手死死搂住木月的夹克，抬头望天，恍惚觉得自己整个身体都要 [310] <u>被卷上</u> 天空似的。</p>
<p>その窓の内側には切り紙細工がいくつか糸で吊るしてあった。鳥や雲や牛や猫のシルエットが細かく丁寧に [311] <u>切れ抜かれ</u>、[313] <u>くみあわ</u> されていた。</p>	<p>那个窗口的里面用细绳吊挂着几个剪纸艺术品。有鸟、云、牛、猫的剪影，[312] <u>剪得</u> 相当精巧，[314] <u>组合</u> 在一起。</p>
<p>誰もが同じような音量で静かに話をしていた。彼らはいくつかのグループに [315] <u>わかれて</u> 食事をしていて。ひとつのグループは三人から多くて五人だった。</p>	<p>每一个人都用大体相同的音量悄然而谈。他们 [316] <u>分成</u> 几个小组吃饭，每组三到五个人。</p>
<p>僕はそんなざわめきにそれまでけっこううんざり [317] <u>させられて</u> きたものだが、それでもこの奇妙な静けさの中で魚を食べていると、どうも気持ちが落ちつかなかった。その食堂の雰囲気は特殊な機械工具の見本市会場に似ていた。[319] <u>限定された</u> 分野に強い興味を持った人々が [321] <u>限定された</u> 場所に集って、互い同士でしかわからない情報を交換しているのだ。</p>	<p>这以前我<u>被</u>那嘈杂声着实 [318] <u>折磨得</u> 忍无可忍，可是一旦在这奇妙的静寂中吃起鱼来，心里却又总像是缺少踏实感。这食堂的气氛，类似特殊机械工具的展览会场：对某一 [320] <u>特定</u> 领域怀有强烈兴趣的人集中在 [322] <u>特定</u> 的场所，交换<u>惟</u> 独同行间才懂得的信息。</p>
<p>たった半年前のことなのに、それはも</p>	<p>事情不过发生在半年前，我却觉得似乎过</p>

<p>うずいぶん昔の出来事であるように思えた。たぶんそのことについて何度も何度も考えたせいだろう。あまりに何度も考えたせいで、時間の感覚が[323] <u>引き伸ばされて狂ってしまったのだ</u>。</p>	<p>去了很久很久。或许因为我对此不知反复考虑了多少次的缘故。由于考虑的次数太多了，对时间的感觉便 [324] <u>被拉长</u>，而变得异乎寻常。</p>
<p>レイコさんがその火で煙草に火をつけた。あたりはあいかわらずひっそりとしていて、そんな中で三人でロウソクを囲んでいると、まるで我々三人だけが世界のはしっこに [325] <u>とり残された</u>みたいに見えた。</p>	<p>玲子对烛火点燃支烟。四周依旧一片寂然，在这寂然中我们三人围蜡烛一坐，恍若世界的角落里 [326] <u>只剩下了我们</u>三个人。</p>
<p>「リクエスト?タイム」とレイコさんは片目を細めて僕に言った。「直子が来たら私は来る日も来る日もビートルスのものばかり [327] <u>弾かされてる</u>のよ。まるで哀れた音楽奴隷のように」</p>	<p>“现在是听众点播节目时间。”玲子眯缝起一只眼睛对我说，“直子来到后，我就日复一日地没完没了地 [328] <u>弹甲壳虫</u>，活活成了可怜的音乐奴隶。”</p>
<p>あの人をここに連れてきてみなよ、二日に出ていっちゃうね。これも知ってる、あれももう知ってる、うんもう全部わかったってさ。そういう人なんだよ。そういう人は世間では [329] <u>尊敬される</u>のさ」</p>	<p>把他领来这里试试，保准两天就出去。说什么这个也懂，那个也晓得，没一个不明白的。他就是这样的人，而这样的人才会社会上 [330] <u>受到尊敬</u>。</p>
<p>僕は彼女を愛することがどうしてもできなかったのだといった。それから永沢さんに [331] <u>誘われて</u>知らない女の子たちと次々寝ることになった事情も話した。</p>	<p>我说对那个女孩无论如何也爱不起来。接着又讲了 [332] <u>被永泽拉去</u>左一个右一个同女孩乱来的缘由。</p>
<p>「私、あの二十歳の誕生日の夕方、あ</p>	<p>“我 20 岁生日那天晚上，一见到你就湿</p>

<p>あなたに会った最初からずっと濡れてたの。そしてずっとあなたに [333] <u>抱か</u>れたいと思ってたの。[335] <u>抱かれて</u>、裸に [337] <u>されて</u>、体を [339] <u>触ら</u>れて、入れてほしいと持ってたの。」</p>	<p>来着，一直想 [334] <u>让你抱</u>来着，想 [336] <u>让你抱</u>，[338] <u>给你脱光</u>，[340] <u>被你抚</u>摸，让你进去。</p>
<p>僕は奇妙な非現実的な月の光に [341] <u>照ら</u>された道を辿って雑木林の中に入り、あてもなく歩を運んだ。そんな月の光の下ではいろんな物音が不思議な響き方をした。</p>	<p>我踏着梦幻般奇异的月光 [342] <u>下</u>的小路，进入杂木林，信步走来走去。月光之下，各种声音发出不可思议的回响。</p>
<p>僕とレイコさんは街燈に [343] <u>照ら</u>された道をゆっくりと歩いて、テニス？コートとバスケットボール？コートのあるところまで来て、そのベンチに腰を下ろした。</p>	<p>我和玲子沿着街灯 [344] <u>下</u>的路面缓缓移动脚步，走到网球场和篮球场那里时，在长凳上坐下。</p>
<p>だからさっきレイコさんが言ったように、僕と直子はお互いを救いあわなくちゃいけないし、そうするしかお互いが [345] <u>救われる</u>道はないと思います」</p>	<p>所以，正像你刚才说的那样，我同直子必须互相拯救，除此之外别无 [346] <u>共渡</u>难关的途径。”</p>
<p>「でもね、この先女の人にあなたのしわが魅力的だなんて言っちゃ駄目よ。私はそう [347] <u>言われる</u>と嬉しいけどね」 「気をつけます」と僕は言った。</p>	<p>“不过，往后你可不要对女人夸她的皱纹有魅力。虽然我给 [348] <u>你这么一说</u>倒是高兴的...” “一定注意。”我说。</p>
<p>「私若いころね、プロのピアニストになるつもりだったのよ。才能だってまらずまらずあったし、まわりもそれを認めてくれたしね。けっこう [349] <u>ちやほ</u>やされて育ったのよ。</p>	<p>我年轻时，打算成为一名职业钢琴家来着。才能也还过得去，周围人也都那样认为，[350] <u>听的夸奖话</u>可多得很哩</p>

<p>コンクール前のストレスでそうになったじゃないかっていうことくらいしかね。だからとにかく当分ピアノを離れて暮らしなさいって[351]言われたの」</p>	<p>然而在那里也还是查不出确切起因，只说大概是音乐会前的疲劳造成的，[352] <u>建议</u>我无论如何要离开钢琴一段时间。”</p>
<p>人生ってなんて素晴らしいんだろうって思ったわ。まるで荒れた冷たい海から [353] <u>引き上げられて</u>毛布にくるまれて温かいベッドに横たえられているようなそんな気分ね。</p>	<p>我是那么高兴，心想人生是多么美好！那感觉，就像 [354] <u>被人</u>从狂暴而冰冷的海水中<u>打捞出来</u>、用毛巾被裹着放到温暖的床上一样。</p>
<p>つまりあまりにも相手が若くて美しいんで、それに [355] <u>圧倒</u>されちゃって、自分のはるかに劣った不細工な人間みたいに思えてきて、そして彼女に対して否定的な思いがふと浮んだとしても、そういうのってきっとねじくれた汚い考えじゃないかっていう気がしちゃうわけ」彼女は何度か首を振った。</p>	<p>就是说，对方太年少、太妩媚了，以致 [356] <u>被其气势压倒</u>，大为自惭形秽，因而即使一晃闪过否定的念头，也会转而怀疑那定然出自一种不可告人的阴暗心理。” 她摇了几下头：</p>
<p>「もし私があの子くらいで綺麗で頭良かったら。私ならもっとまともな人間になるわね。あれくらい頭がよくて美しいのに、それ以上の何が欲しいっていうのよ？あれほどみんなに<u>太事に</u> [357] <u>さ</u>れているっていうのに、どうして自分より劣った弱いものをいじめたり踏みつけたりしなくちゃいけないのよ？だってそんなことしなくちゃいけない理由なんて何もないでしょう？」</p>	<p>“假如我像那孩子那样聪明漂亮的话，我会成为一个更地道的更有作为的人。既然那般聪明漂亮，还别有何求呢？既然<u>受到</u>大家如此的 [358] <u>宠爱</u>，还何苦要欺侮、蹂躏不如自己的弱者呢？不是根本就不存在非做此手脚不可的客观原因吗！”</p>
<p>「何かひどいことを [359] <u>さ</u>れたんで</p>	<p>“她做什么 [360] <u>让你难堪</u>的事了？”</p>

すか？」	
私、その子のつくり話半年間山ほど [361] <u>聞かされて</u> 、一度も疑わなかったのよ。何から何まで作り話だっていうのに、馬鹿みたいだわ、まったく」	那孩子扯的谎话，半年时间我 [362] <u>听</u> 得真可谓数不胜数。但一次也没有怀疑过，尽管从根到梢全是谎话。傻瓜呀，纯粹是傻瓜！”
専門的な学校に入ってやっているわけでもないし、レッスンだって通ったり通わなかったりしでずいぶん我流でやってきたわけだから。きちっと [363] <u>訓練</u> された音じゃないのよ。	毕竟没有进过专门学校，从师练习也是三天打鱼两天晒网，是她自己的手法，一听就知没 [364] <u>经过专业训练</u> 。
どういうタイプの演奏をすれば私を [365] <u>ひきつけられるか</u> ということもね。全部きちんと [367] <u>計算</u> されていたのよ。そしてその聴かせるところだけをとにかく一所懸命何度も何度も練習したんでしょね。目に浮ぶわよ。	包括怎样的演奏风格才能 [366] <u>打动</u> 我，也都 [368] <u>经过精心算计</u> 。并且将值得一听的那部分不知拼命练习过多少次，这完全想象得出来。”
でもそれでもね、そういうのがわかってしまった今でもね、やはりそれは素敵な演奏だったと思うし、今もう一回あれを [369] <u>聴かされた</u> としても、私やっぱりどきっとすると思うわね。彼女のずるさと嘘と欠点を全部さっぴいてもよ。ねえ、世の中にはそういうことってあるのよ」	“可话又说回来，纵使在一切都真相大白的现在，我也还是认为那演奏相当不错。现在再 [370] <u>让我听</u> 上一遍，我一定仍那样想——除去她的狡黠、扯谎等缺点。知道吗，世上偏偏就有这样的事。”
「忘れやしませんよ」と僕は笑って言った。「ただ話しに [371] <u>引きこまれて</u> たんです」	“哪里会忘，”我笑道，“只是 [372] <u>给你的话吸引</u> 住了。”
僕らは往きに来たのと同じ雑木林の中の道を抜け、部屋に戻った。ロウソク	我们穿过来时那条杂木林小道，回到房间。蜡烛 [374] <u>熄</u> 了，客厅的电灯也没

<p>が [373] <u>消され</u>、居間の電灯も消えていた。</p>	<p>开。</p>
<p>「でもね、問題はそういうことがいつまでもつづくわけではないってことだったのよ。そういう小さな輪みたいなものが永遠に [375] <u>維持される</u>わけではないのよ。</p>	<p>“可问题是这种状态不可能无止境地持续下去，那小圈子般的東西不可能 [376] <u>維持到永远</u>。</p>
<p>そしていつもこう言うのよ。直子、それは僕と君が三つのときからずっと一緒にいて僕のことを知りすぎているせいだ。だから何が欠点で何が長所かみわけがつかなくていろんなものをごたませしてるんだってね。彼はいつもそう言ったわ。でもどう [377] <u>言われて</u>も私、彼のことが好きだったし、彼以外の人になんて殆んど興味すら持てなかったのよ」</p>	<p>直子，那是因为你我从3岁就形影不离，你对我知道得太多了，以致什么是缺点什么是优点都分辨不清，很多东西都一锅粥搅在一起了。’他时常这么说。但 [378] <u>不管他怎么说</u>，我还是喜欢他，对除他以外的人几乎连兴致都提不起来。”</p>
<p>部屋の中はあいかわらず月の光に白く [379] <u>照らされていた</u>。直子とレイコさんが眠っている寝室はひっそりとして、物音らしきものは殆んど何も聞こえなかった。</p>	<p>月光依然银灿灿地 [380] <u>泻满</u>房间。直子和玲子睡的卧室里悄无声息，四下几乎不闻任何声籁，只是偶尔传来床的轻微吱呀声。</p>
<p>そのせいで彼女のきれいな額がくっきりと月光に [381] <u>照らされていた</u>。妙だなと僕は思った。彼女は寝る前には髪留めを外していたのだ。</p>	<p>因此，那娇好的前额 [382] <u>被月光照得</u>历历在目。我心中生疑：睡前她是取下发卡的呀。</p>
<p>直子は同じ姿勢のままびくりとも動かなかった、彼女はまるで月光に [383] <u>引き寄せられる</u>夜の小动物のように見</p>	<p>她保持同一姿势，凝然不动，看上去活像 [384] <u>被月光吸附住的</u>夜间小动物。因月光角度的关系，她嘴唇的阴影 [386]</p>

<p>えた。月光の角度のせいで、彼女の唇の影が [385] <u>誇張</u>されていた。そのいかにも傷つきやすそうな影は、彼女の心臓の鼓動かあるいは心の動きにあわせて、びくびくと細かく揺れていた。</p>	<p><u>被夸大</u>了。</p>
<p>やわらかな月の光に [387] <u>照ら</u>された直子の体はまだ生まれ落ちて間のない新しいの肉体のようにつややかで痛々しかった。</p>	<p>[388] <u>沐浴</u>着柔和月光的直子身体，宛如刚刚降生不久的崭新肉体，柔光熠熠，令人不胜怜爱。</p>
<p>直子の肉体はあまりにも美しく [389] <u>完成</u>されていたので、僕は性的な興奮すら感じなかった。</p>	<p>由于直子的肉体 [390] <u>完成</u>得过于完美无缺了，我甚至感觉不到一丝兴奋。</p>
<p>花壇にはコスモスの花が咲き、植込みは念入りに [391] <u>刈り揃</u>えられていた。</p>	<p>花坛里开着大波斯菊，观赏树 [392] <u>被</u>精心<u>修剪</u>得整整齐齐。</p>
<p>「このヒト、一度猫に<u>ひどい</u>目に [393] <u>あ</u>わされたもんだから、猫が怖くって怖くってしょうがないのよ」とレイコさんは笑って言った。</p>	<p>“这小家伙，有一次 [394] <u>给</u>猫吓个半死，那以后就怕猫怕得什么似的。”玲子笑道。</p>
<p>ドイツ語の不規則動詞とこの台所のテーブルはおおよそ考えられる限りの遠い距離によって [395] <u>隔</u>てられているような気がしたからだ。</p>	<p>这时我不由产生不可思议的感觉：德语不规则动词同这餐桌之间，似乎 [396] <u>相</u>隔着所能想象得到的最遥远的距离。</p>
<p>門衛小屋には今度はちゃんと門番がいて、食堂から [397] <u>運</u>ばれてきたらしい昼食を机の前で美味しそうに食べていた。</p>	<p>这回门卫倒正好在门卫室内，在桌前津津有味地吃着想必 [398] <u>从</u>食堂<u>端</u>来的午饭。</p>
<p>我々は死に絶えて無言の家々に [399] <u>は</u>さまれた道を抜けた。</p>	<p>我们 [400] <u>从</u>这早已断绝烟火的无声无息的房子<u>中</u>间的道路穿过。</p>
<p>集落を抜けてしばらく先に進むと垣根</p>	<p>穿过村庄，前行不一会，便是一片草地。</p>

<p>にまわりを [401] <u>囲まれた</u>放牧場のよう なものがあり、遠くの方に馬が何頭 か草を食べているのが見えた。</p>	<p>像是一座 [402] <u>四周有围栏的</u>广阔牧场， 远处可以望见几匹马在吃草。</p>
<p>我々はしばらく無言で歩いた。道は牧 場の柵を離れ、小さな湖のようにまわ りを林に [403] <u>囲まれた</u>丸いかたちの 草原に出た。</p>	<p>我们默默走了一会。道路离开围栏，通到 一片形状如同小湖一般圆圆的、[404] <u>四 面围有</u>树林的草地。</p>
<p>「まるでキズキ君が暗いところから手 をのばして私を求めているような気がす るの。おいナオコ、俺たち離れられな いんだぞって。そう [405] <u>言われると</u> 私、本当にどうしようもなくなっちゃ うの」</p>	<p>“觉得就像木月从黑暗处招手叫我过去 似的。他嘴里说：喂，直子，咱俩可是分 不开的哟！[406] <u>给他那么一说</u>，我真不 知怎么才好了。”</p>
<p>お姉さんは何をやらせても一番になっ てしまうタイプだったのだ、と直子は 言った。勉強もいちばんならスポーツ もいちばん、人望もあって指導力もあ って、親切で性格もさっぱりしている から男の子にも人気があって、先生に も [407] <u>かわいがられて</u>、表彰状が百 枚もあってという女の子だった。どの 公立校にも一人くらいこういう女の子 がいる。でも自分のお姉さんだから言 うわけじゃないんだけど、そういう ことで [409] <u>スポイル</u>されて、つんつ んしたり鼻にかけたりするような人では なかったし、派手に人目をつくの を好む人でもなかった、ただ何をやら せても自然に一番になってしまうだけだ</p>	<p>“姐姐属于无论让干什么就拿第一那种 类型。学习第一，体育第一，又有威望又 有领导才能。性格热情开朗，在男孩子中 间也很有人缘，也很 [408] <u>受老师喜爱</u>， 得的奖状足有一百张。哪所公立学校都有 一两个这样的女孩儿。不过，倒不是因是 自家姐姐才这样说，我姐姐可不是 [410] <u>别人一宠就自以为好了不起</u>或对人摆出一 副不冷不热面孔的人，她不喜欢哗众取 宠，只不过是无论干什么都自然而然干得 最好罢了。</p>

<p>ったのだ、と。</p>	
<p>どう転んだってあの人には勝てないと思うわよ。それにまあ顔だけとれば私の方が少しかれいだったから、親の方も私は可愛く育てようと思ったみたいね。ベルベットのワンピースとかフリルのついたブラウスとかエナメルの靴とか、ピアノやバレエのレッスンとかね。だからあんな学校に小学校から</p> <p>[411] <u>いれられちゃった</u>のよ。</p>	<p>要是光论长相，倒是我稍漂亮一点，父母也像是打算让我在他们的疼爱下长大，因此从一上小学就 [412] <u>把我送入</u>那样的学校：天鹅绒连衣裙、镶花边的短罩衫、漆皮鞋，还学钢琴和芭蕾舞。</p>
<p>僕らは大豆のハンバーグ?ステーキというのを食べながら、ビスマルクやナポレオンの脳の容量についての話を</p> <p>[413] <u>聞か</u>されていた。</p>	<p>我们一边吃着掺有大豆的汉堡牛肉饼，一边 [414] <u>无可奈何地</u>听他大讲俾斯麦和拿破仑等人的脑容量。</p>
<p>それから直子の入ってくる前に木下さんっていう経理の女の子がいて、この人はノイローゼで自殺未遂したし、徳島っていう看護人は去年アルコール中毒がひどくなって [415] <u>やめ</u>させられたし」</p>	<p>还有，直子进来前有个叫木下的做财务的女孩，发神经自杀未遂；一个叫德岛的护理员，去年酒精中毒，闹得天翻地覆，</p> <p>[416] <u>被解雇</u>打发走了。”</p>
<p>空にはたしかに雲が多くなり、月もその背後に [417] <u>隠</u>されてしまっていた。</p>	<p>不过天空里云层确实多起来，月亮也 [418] <u>被掩</u>到后面去了。</p>
<p>倉庫の中にはクロス?カントリー用のスキー板とストックと靴がきちんと</p> <p>[419] <u>揃</u>えられて並び、床には雪かきの道具や除雪用の薬品などが [421] <u>積</u>み上げられていた。</p>	<p>仓库里靠墙整齐 [420] <u>排列</u>着越野用的滑雪板、雪杖和靴子，地面 [422] <u>堆</u>着扫雪工具和除雪用药等物。</p>
<p>レイコさんは薬品の袋の上に腰をおろし、僕にも隣りに座れと言った。僕は</p>	<p>玲子弓身坐在药品袋上，叫我坐在旁边，我便也 [424] <u>垂</u>垂落座。</p>

<p>[423] 言われたとおりにした。</p>	
<p>だから私もその子にああしろこうしろって押しつけなかったわ。[425] <u>押しつけられる</u>のは嫌な子なんだなって最初会ったときに思ったから。</p>	<p>所以，对那孩子，我没有罗罗嗦嗦地指手画脚。而她又讨厌别人 [426] <u>这样做</u>，这点刚见面我就看出来来了。</p>
<p>世の中にはそういう人っているのよ。素晴らしい才能に[427] <u>恵まれながら</u>、それを体系化するための努力ができませんで、才能を細かくまきちらして終わってしまう人たちがね。</p>	<p>世上是有这种人的：尽管 [428] <u>有卓越的天赋才华</u>，却承受不住使之系统化的训练，而终归将才华支离破碎地挥霍掉。</p>
<p>最初はとにかくもう凄いて思うの。たとえばものすごい難曲を楽譜の初見でパーッと弾いちゃう人がいるわけよ。それもけっこううまくね。見てる方は [429] <u>圧倒されちゃう</u>わよね。私なんかとてもかなわないってね。でもそれだけなのよ。彼らはそこから先には行けないわけ。何故行けないか？行く努力をしないからよ。努力する訓練を [431] <u>叩きこまれて</u>いないからよ。[433] <u>スポイル</u>されているのね。</p>	<p>一开始果真叫人拍案叫绝，例如对十分深奥的乐谱，有人只消扫一眼就能一气流注地弹奏下来，而且相当精彩，[430] <u>使听的人大为倾倒</u>、自愧不如。但他们仅此而已，而不会再往前迈步。为什么呢？因为不付出努力，不 [432] <u>肯下功夫刻苦训练</u>，[434] <u>在宠爱中忘乎所以</u>。</p>
<p>そして [435] <u>叩かれる</u>ということを知らないまま、人間形成に必要なある要素をおっことしてってしまうの。</p>	<p>就这样，他们不懂得 [436] <u>下苦功夫</u>，忽略了对人格形成必不可少的这一主要因素。</p>
<p>小さい頃から [437] <u>賞められ馴れて</u>るから、いくら [439] <u>賞められた</u>ってまたかと思うだけなのよ。</p>	<p>因从小就 [438] <u>听惯夸奖话</u>了，再多 [440] <u>夸她</u>也不以为然。</p>
<p>でもだいたいはその子がしゃべってたの。これがまた話が上手くてね、つい</p>	<p>她那嘴巴也实在灵巧，听着听着就 [442] <u>入迷</u>了。</p>

<p>つい [441] <u>引き込まれ</u>ちゃうのよ。</p>	
<p>先生のこともっとよく知りたいのよ、とその子は言ったわ。私のこと知って仕方がないわよ、つまらない人生だもの、普通の夫がいて、子供がいて、家事に [443] <u>追われて</u>、と私は言ったの。でも私、先生のこと好きだからって言って、彼女私の顔をじっと見るのよ、すぎるように。そういう風に [445] <u>見られる</u>とね、私もドキッとしちゃうわよ。</p>	<p>她说还想多知道些，我说知道又有什么用呢、无非在虚度人生，有个普普通通的丈夫，有个孩子，[444] <u>整天操持</u>家务，‘但我就是喜欢老师您’，她说，还定定地看着我的脸，一副小鸟依人的样子。[446] <u>给她那么一看</u>，我心里真有些发怵，倒不是觉得不舒服。</p>
<p>父親は他に女がいてろくに家に戻ってこないし、母親はそのことで半狂乱になって彼女にあたるし、毎日のように [447] <u>打たれる</u>んだって彼女は言ったの。</p>	<p>说父亲外面有女人，动不动就夜不归宿，母亲气得要死要活，就拿她出气，她几乎天天 [448] <u>挨打</u>。</p>
<p>私のこと見捨てないで。先生に [449] <u>見捨てられたら</u>、私行き場がないんだもの』って言うのよ。</p>	<p>别 [450] <u>嫌弃</u>我，要是您都嫌弃，我就没地方可去了。’”</p>
<p>ひと [451] <u>撫でされる</u>ごとに体のたがが少しずつ外れていくのがわかるのよ。それくらいすごい。気がついたら彼女私のブラウス脱がせて、私のブラ取って、私のおっぱいを撫でてるのよ。それで私やっとわかったのよ、この子筋金入りのレズビアンなんだって。私前にも一度 [453] <u>やられた</u>ことあるの、高校のとき、上級の女の子に。それで私、駄目、よしなさいって言っ</p>	<p>毎 [452] <u>被她抚摸</u>一下，身体就像肢解一点。等我明白过来时，她已脱掉我的衬衫，摘下我的胸罩，摸我的乳房。这时我才清醒过来，知道这孩子是个地地道道的女同性恋者。以前我也曾 [454] <u>经历过</u>一次，高中时跟一个高年级女生。我对那女孩子说不行，快住手。”</p>

たの。	
カーテンを閉めた寝室で十三歳の女の子に裸同然に [455] <u>されて</u> ——その頃はもうなんだかわからないうちに一枚一枚服を [457] <u>脱が</u> されてたの—— [459] <u>愛撫</u> されて悶えてるんなんで今思うと信じられないわよ。	结果在拉合窗帘的卧室里 [456] <u>被</u> 这十三岁女孩 <u>脱得</u> 光光得——衣服不知什么时候 [458] <u>给她</u> 一件件 <u>脱掉</u> 了—— [460] <u>由她</u> <u>爱抚</u> 。
男の人のごつごつした指で [461] <u>やられるの</u> と全然違うのよ。凄いわよ、本当。まるで羽毛で [463] <u>くすぐられて</u> るみたいで。	那感觉, [462] <u>和</u> 男人粗糙的手指完全不同。不得了, 真的, 就像 [464] <u>被</u> 羽毛 <u>撩拨</u> 似的。
そして子供のことを考えたの。子供にこんなところ [465] <u>見られたら</u> どうしようってね。	二来我还考虑到孩子, 这种场面 [466] <u>被</u> 孩子 <u>撞见</u> 可怎么办?
私たちそのとき二人ともまるっきりの裸でね、ベッドの上に身を起こしてお互いじっと見つめあったわけ。その子は十三で、私は三十一で……でもその子の体を見てると、私なんだか [467] <u>圧倒</u> されちゃったわね。	当时我们两人都一丝不挂, 坐在床上面面相觑。她 13, 我 31……但我一看那女孩的身体, 真有些 [468] <u>自惭形秽</u> , 如今仍然历历在目。
でも子供が帰ってくるからとにかくお風呂に入ろうと思って入ったの。そしてあの子に [469] <u>撫で</u> られたり [471] <u>舐め</u> られたりした体をとにかくきれいに洗っちゃおうって思ったの。でもね、どれだけ石鹸でゴシゴシ洗っても、そういうぬめりのようなものは落ちないのよ。	但想到小孩就要回来, 不管怎样得先洗个澡, 把 [470] <u>【対応なし】</u> [472] <u>【対応なし】</u> 身体洗得一千二净, 可问题是, 无论我怎么打香皂强劲搓洗, 那痕迹硬是赖在身上掉不了。
『 <u>どんなの</u> って [473] <u>言</u> われても、す	“ [474] <u>怎</u> 么样的? 实实在在不好开

<p>ごく言いにくいのよ』</p>	<p>口。’”</p>
<p>『でもね、その女の子の親はそう信じこんでいて、近所の人みんなにそのこと言いふらしてるのよ。娘があなたに [475] <u>いたずら</u>されたっていうんで、あなたのこと調べてみたら精神病の病歴があることがわかったってね』</p>	<p>问题是，那女孩儿的父母确信不疑，对邻近的人统统张扬一遍。说什么由于女儿 [476] <u>被你动过手脚</u>，就调查了你，结果知道你有过精神病史。’”</p>
<p>私だって信じたと思うもの、もしそういう立場に [477] <u>置かれたら</u>。</p>	<p>连我都会信的，假如 [478] <u>处在那种立场</u>。</p>
<p>何日がずいぶん迷ったあとで思いきって夫に話してみたんだけど、彼は信じてくれたわよ、もちろん。私、あの日に起ったことを全部彼に話したの。レズビアンのようなことを [479] <u>しかけられたんだ</u>、それで打ったんだって。</p>	<p>“几天来我思前想后，最后还是心一横，告诉了丈夫。他相信了，当然。我把那天发生的事一五一十跟他说了一遍，说那女孩儿 [480] <u>动手动脚地</u>要搞什么同性恋那样的鬼名堂，所以才打了她。</p>
<p>『冗談じゃない。俺がそこの家に言って直談判してきてやる』って彼はすごく怒って言ったわ。『だって君は僕と結婚して子供までいるんだぜ。なんでレズビアンなんて』 [481] <u>言われなき</u>やならないんだよ。そんなふざけた話あるものか』って。</p>	<p>他大为恼火，‘岂有此理！你和我结婚，小孩都有了，居然还 [482] <u>被人胡说</u>什么搞同性恋，哪有这样的混账玩笑！’”</p>
<p>だから一ヶ月だけ待ってくれ。そうすれば何もかもうまくいくからってね。そう [483] <u>言われると</u>私、それ以上何も言えなかったわ。</p>	<p>所以等我一个月，那样一切都会好起来。’ [484] <u>被他如此一劝</u>，我不好再说什么了，越说就会越感到孤独。””</p>
<p>彼は私を癒そうと精いっぱい努力したし、私もなおろうと努力したわよ。彼のためにも子供のためにもね。そして</p>	<p>为了治愈我的病，他尽了最大努力，为了他和孩子，我也主动地配合，而且我也觉得 [486] <u>好利索</u>了。</p>

<p>私ももう [485] <u>癒</u>されたんだと思っ たのね。</p>	
<p>空はさっきよりもっと暗く雲に [487] 覆われ、月もすっかり見えなくなっ てしまっていた。</p>	<p>天空比刚才阴沉了, [488] <u>布满</u>乌云, 月 亮早已无影无踪。</p>
<p>「あれ冷凍しちゃいたいわね」と直子 が憂鬱そうに言った。「毎朝あれ [489] <u>聞かされる</u>と本当に頭がおかしくなっ ちゃいそうだわ」</p>	<p>“真恨不得这家伙一下子冻死。”直子闷 闷不乐地说, “每天一大清早就 [490] <u>听</u> 它说这个, 脑袋真快要神经了。”</p>
<p>地面は黒々として、松の枝は鮮やかな 緑色で、黄色の雨合羽に身を包んだ 人々は雨の朝にだけ地表をさまようこ とを [491] <u>許</u>された特殊な魂のように 見えた。彼らは農具や籠や何かの袋を 持って、音もなくそつと地表を移動し ていた。</p>	<p>地面乌黑乌黑, 松枝翠绿翠绿, 而身裹黄 色雨衣的行人看上去仿佛唯一 [492] <u>被</u> <u>允许</u>在落雨的早晨在地表面游动的特殊 魂灵。</p>
<p>川沿いの道にはまだところどころに霧 のきれはしが残り、それは風に [493] <u>吹</u>かれて山の斜面を彷徨していた。</p>	<p>沿河边伸展的山路还断断续续剩有一些 雾气, [494] <u>被</u>风<u>一吹</u>, 在山坡前彷徨不 定。</p>
<p>僕は草原の匂いをかぎ、夜の雨音を聴 いた。あの月の光の下で見た裸の直子 のことを思い、そのやわらかく美しい 肉体が黄色い雨合羽に [495] <u>包</u>まれて 鳥小屋の掃除をしたり野菜の世話をし たりしている光景を思い浮かべた。</p>	<p>我呼吸着草地的清香, 谛听暗夜的雨声, 回味月光下目睹的直子裸体, 想象那黄色 雨衣 [496] <u>围裹</u>的丰腴匀称的胴体清扫 鸟舍、侍弄蔬菜的情景。</p>
<p>直子は今頃どうしているだろう、と僕 は思った。もちろん眠っているだろう。 あの小さな不思議な世界の闇に [497] <u>包</u>まれてぐっすり眠っているだろう。</p>	<p>直子现在做什么呢? 当然是在睡觉吧? 是 [498] <u>在</u>那不可思议的狭小天地的暗 影中<u>安然</u>入睡吧? 但愿她别再陷入痛苦 的梦境。</p>

<p>彼女が辛い夢を見ることないように僕は祈った。</p>	
<p>「でもあなたはそういうことしないと 思うな。なんとなくわかるのよ、そう いうのが。押しついたり [499] <u>押しつ けられたり</u>することに関しては私ちょ っとした権威だから。あなたはそうい うタイプではないし、だから私あなた と一緒にいると落ちつけるのよ。ねえ 知ってる？世の中にはいろんなもの押し つけたり [501] <u>押しつけられたり</u>す るのが好きな人ってけっこう沢山いる のよ。そして [503] <u>押しつけた、押し つけられた</u>ってわいわい騒いでるの。 そういうのが好きなのよ。でも私はそ んなの好きじゃないわ。やらなきゃ仕 方ないからやってるのよ」 「どんなものを押しついたり [505] <u>押 しつけられたり</u>しているの君は？」</p>	<p>“但我觉得你不会那样，这我看得出来。 在强加于人和 [500] <u>被人强加</u>这点上， 我还算是个小小的权威。你不属于那种类 型，所以同你在一起才心里安然。噫，你 知道么，世上喜欢强加于人或 [502] <u>被 人强加</u>的人还有相当一大批哩！他们为此 争吵不休、[504] <u>相互扯皮</u>，并且乐此不 疲。可我就是不喜欢，除非非那样不可。” “你强加给人什么或 [506] <u>别人强加给 你什么</u>了，</p>
<p>「いいのよ、アルバイトのお金入った し、それに私が誘ったんだもの」と緑 は言った。「もちろんあなたが筋金入り のファシストで女に酒なんか [507] <u>お ごられたくない</u>と思ってるんなら話は べつだけど」</p>	<p>“算啦，你那钱是汗水钱，再说又是我拉 你来的。”绿子说，“当然喽，如果你是铁 杆法西斯，不乐意 [508] <u>被女人请酒</u>， 倒另当别论。”</p>
<p>「あなたと二人で海賊につかまって裸 に [509] <u>されて</u>、体を向いあわせにび ったりとかさねあわせたまま紐で<u>ぐる ぐる巻</u>きに [511] <u>されちゃうの</u>」</p>	<p>“想我俩被海盜抓住，[510] <u>被他们浑身 扒光</u>，[512] <u>五花大绑地脸对脸捆在一起</u>”</p>

<p>「そして一時間後には海には放り込んでやるから、それまでその格好でたっぷり楽しんでなって船倉に置き去りに [513] <u>されるの</u>」</p>	<p>“一小时后把你们扔进大海。扔之前 [514] <u>让你们单独呆在船舱里好好受用</u>， 海盗说。”</p>
<p>「あなた [515] <u>フェラチオされるの</u> 嫌？」</p>	<p>“你讨厌 [516] <u>那个</u>？”</p>
<p>そこに入るとね、まずマルクスを [517] <u>読ませられるの</u>。何ページから何ページまで読んでこいってね。</p>	<p>刚一进去，就 [518] <u>叫读马克思</u>，喝令从第几页读到第几页。</p>
<p>でも世の中を支えてるのは庶民だし、 [519] <u>搾取されてる</u>のは庶民じゃない。</p>	<p>可支撑这世界的不就是小民吗？ [520] <u>被剥削的</u>不也是小民吗？</p>
<p>もし誰かが本当に [521] <u>搾取されて</u>いるのならそれやめさせなくちゃいけないと思うわよ。</p>	<p>要是有谁真的 [522] <u>受剥削</u>，我也不想让他逆来顺受嘛！</p>
<p>「ある日私たち夜中の政治集会に出ることになって、女の子たちはみんな一人二十個ずつの夜食用のおにぎりを作って持ってくることって [523] <u>言われた</u>の。</p>	<p>“一天，要去参加一个夜间政治集会。 [524] <u>叫我们女孩儿每人各做二十个饭团</u>，带去当夜宵。</p>
<p>でもまあいつも波風立てるのもどうかと思うから私何にも言わずにちゃんとおにぎり二十個作っていったわよ。梅干しいれて海苔まいて。そうしたらあとでなんて [525] <u>言われた</u>と思う？小林のおにぎりは中に梅干ししか入ってなかった、おかずもついてなかったって言うのよ。他の女の子のは中に鮭やタラコが入っていたし、玉子焼なんか</p>	<p>不过转念一想，总兴风作浪也不太好，我也一声没吭地乖乖做了二十个，每个都放了酸梅干，用海苔包好。结果你猜怎么着， [526] <u>说什么</u>小林的饭团里只有酸梅干，连菜都没放，而其他女孩儿都放有鲑鱼或咸明太鱼子，还有放煎蛋的。</p>

<p>がついてたりしたんですって。</p>	
<p>「六月にやめたわよ、あんまり頭にきたんで」と緑は言った。「でもこの大学の連中は殆んどインチキよ。みんな自分が何かをわかってないことを人に [527] <u>知られる</u>のが怖くってしょうがなくてビクビクした暮らしてるのよ。</p>	<p>“6月份退出了。头都气炸了。”绿子说，“不过，这所大学的男男女女差不多全都是江湖骗子，都生怕自己不学无术的真面目 [528] <u>被人看穿</u>，惶惶不可终日。</p>
<p>「こういうのが革命なら、私革命なんていないわ。私きつとおにぎりに梅干ししか入れなかったっていう理由で [529] <u>銃殺されちゃうもの。あなただ</u> <u>ってきつと</u> [531] <u>銃殺されちゃうわよ</u>。 仮定法をきちんと理解してるというよ うな理由で」</p>	<p>“假如这也算是革命，我才不希罕什么革命！我肯定因为只往饭团里放酸梅干而 [530] <u>被拉去枪毙</u>。你也定然 [532] <u>同</u> <u>样下场</u>—— 由于能彻底弄懂假定形的缘 故。”</p>
<p>頭には白い包帯が [534] <u>まきつけられ</u>、 青白い腕には注射だか点滴の針だかの あとが点々とついていた。</p>	<p>头上 [535] <u>纏着白绷带</u>，苍白的胳膊上 布满注射或打点滴的点点遗痕。</p>
<p>彼の体には生命力というものが殆んど 見うけられなかった。そこにあるもの はひとつの生命の弱々しい微かな痕跡 だった。それは家具やら建具やらを全 部 [537] <u>運び出されて</u> [539] <u>解体さ</u> <u>れるのを</u>待っているだけの古びた家屋 のようなものだった。</p>	<p>从他身上，几乎看不到生命力的跃动，有 的不过是垂危生命的蛛丝马迹而已，就像 一座破旧的房屋——一座 [538] <u>搬出所</u> 有家具、[540] <u>卸下所有拉门隔扇</u>而只等 拆毁的房</p>
<p>「そこに座っててよ」と緑はベットの 足もとにある丸いビニールの椅子を指 した。僕は [541] <u>言われたとお</u><u>り</u>そこ に腰を下ろした。</p>	<p>“坐呀。”绿子指着床腿旁一把圆塑料椅 说。我便 [542] <u>顺从地</u>弯腰坐下。</p>
<p>僕がテーブルを確保しているあいだ</p>	<p>在我占据餐桌的时间里，绿子用铝盘端</p>

<p>に、緑が二人分の定食をアルミニウムの盆にのせて運んできてくれた。クリームコロッケとポテト、サラダとキャベツのせん切りと煮物とごはん味噌汁という定食が病人用のものと同じ白いプラスチックの食器に [543] <u>盛られ</u>て並んでいた。僕は半分ほど食べてあとを残した。緑はおいしそうに全部食べてしまった。</p>	<p>来两人的套餐。有奶油炸肉饼、土豆色拉、生甘蓝丝、炖菜、米饭和酱汤，[544] <u>装在患者用的那种白塑料碗碟里</u>。我吃一半剩了一半。绿子则吃得很香，一扫而光。</p>
<p>窓辺のテーブルの上には白と黄色の菊の花が花瓶に [545] <u>いけられて</u>いて、今は秋なのだと言っていた。病室には手つかずで [547] <u>残された</u>昼食の煮魚の甘い匂いが漂っていた。</p>	<p>窗边桌面的花瓶里 [546] <u>插着黄白两色菊花</u>，告诉人们已是秋天时节。病房里荡漾着午间原封不动 [548] <u>剩下来的</u>炖鱼的腥味儿。</p>
<p>エウリピデス知ってますか？昔のギリシャ人で、アイスキュロス、ソフォクレスならんでギリシャ悲劇のビッグスリーと [549] <u>言われて</u>います。最後はマケドニアで犬に [551] <u>食われて</u>死んだということになっていますが、これには異説もあります。</p>	<p>欧里庇得斯您知道吗？是古希腊人，和埃斯库罗斯、索福克勒斯并 [550] <u>称希腊三大悲剧作家</u>。据说最后在马其顿 [552] <u>被狗吃了</u>，但也有不同观点。</p>
<p>みんなの正義がとおって、みんなの幸福が [553] <u>達成される</u>ということは原理的にありえないですからね、だからどうしようもないカオスがやってくるわけです。それでどうなると思います？これがまた実に簡単な話で、最後に神様が出てくるんです。そして交通整理するんです。お前あっち行け、お</p>	<p>正义都大行其道、所有人的幸福都 [554] <u>圆满获得</u>，客观上是不可能的，而必然导致混乱状态的出现。后来你猜怎么样，解决起来倒也非常简单：最后神仙粉墨登场，整顿交通秩序，发号施令：你去那边，你来这里，你和他一起，你先在那里老实呆着别动！就像 [556] 【対応なし】 中间调解人一样。</p>

<p>前こっち来い、お前あれと一緒になれ、お前そこでしばらくじっとしてろっていう風に。フィクサーみたいなもんですね。そして全てはびたっと解決します。これはデウスエクスマキナと [555] <u>呼ば</u>れています。</p>	
<p>それはわかっているの、私にも。でもわかっても傷つくわよ、やはり。これだけ一所懸命やっついて、その上なんでこんなこと [557] <u>言われ</u>なきやならないんだってね。情なくなっちゃうの」</p>	<p>这个我也明白的。虽说明白也还是伤感情。人家这么拼死拼活地照料，却还要 [558] <u>听</u>这些话，心里憋屈透了。”</p>
<p>そういう話をポツポツとしてくれるの。福島から上野に戻るあいだ。そして最後にいつもこういうの。どこいったって同じだぞ、ミドリって。そう [559] <u>言われる</u>とね、子供心にそうなのかなあって思ったわよ」</p>	<p>“从福島回上野的时间里，他断断续续地讲的就是这些。而且最后总忘不了补上这么一句：去哪里都一样，绿子。[560] <u>给</u>他那么一说，也就以为可能真是那样，小孩子嘛。”</p>
<p>おそらく死ぬときの彼はもっと小さく縮んでいたのだろうと僕は想像した。そして高熱炉で [561] <u>焼かれ</u>て灰だけになってしまったのだ。</p>	<p>在我的想象里，死时的他可能蜷缩得愈发瘦小，而后 [562] <u>在</u>高温炉里化为灰烬。</p>
<p>彼は病院のベットの上で、[563] <u>切り裂かれ</u>て混濁した頭を抱え、いったいどんな思いで僕を見ていたのだろうか？</p>	<p>在医院的病床上，他在那颗 [564] <u>被切</u>开的混沌脑袋的折磨下，是以怎样的心情看待我的呢？</p>
<p>スペイン人の女性が例文を読みあげた。「こんなひどい雨ははじめてですわ。バルセロナでは橋がいくつも [565] <u>流</u>されました」。</p>	<p>。一位西班牙女子朗读例句：“这么厉害的雨还是头一次，巴塞罗那有好几座桥 [566] <u>被冲跑</u>了。”</p>

<p>「いや最初の一年間は国内研修だね。それから当分は外国に[567]やられる」</p>	<p>“不。开始第一年是国内进修，接下去就要 [568] 被派往国外。”</p>
<p>「あれは努力じゃなくてただの労働だ」と永沢さんは簡単に言った。「俺の言う努力というのはそういうのじゃない。努力というのはもっと主体的に目的的に [569] なされるものことだ」</p>	<p>“那不是努力，只是劳动。”永泽断然说道，“我所说的努力与这截然不同。所谓努力，[570]【対応なし】指的是主动而有目的的活动。”</p>
<p>永沢さんが選んだ店は麻布の裏手にある静かで上品なフランス料理店だった。永沢さんが名前を言うと我々は奥の個室に [571] 通された。</p>	<p>永泽选的饭店位于麻布后面，是一家安静而高雅的法国风味餐馆，永泽道出姓名后，我们 [572] 被领到里面的单间。</p>
<p>「ワタナベには好きな女の子がいるんだよ」と永沢さんが言った。「でもそれについてはこの男は一言もしゃべらないんだ。なにしろ口が固くてね。全ては謎に [573] 包まれているんだ」</p>	<p>“渡边有喜欢的女孩儿。”永泽开口道，“可这小子就是只字不提，嘴巴牢得很。简直是 [574] 个谜。”</p>
<p>そして今夜の彼の意地のわるさは僕に [575] 向けられたものではなく、ハツミさんに [577] 向けられたものだった。それがわかっていたもので、僕としても余計に居心地がわるかった。</p>	<p>况且，今晚他那居心不良并非 [576] 对我，而是 [578] 针对初美的。这点显而易见，作为我就更加居中为难了。</p>
<p>そこでドアが開いて料理が [579] 運ばれてきた。永沢さんの前には鴨のローストが [581] 運ばれ、僕とハツミさんの前には鱸の皿が [583] 置かれた。皿には温野菜が [585] 盛られ、ソースが [587] かけられた。</p>	<p>这时门开了，侍者 [580] 端菜进来。永泽面前 [582] 摆的是烤鸭，我和初美面前各 [584] 放上一盘鲈鱼。盘里还 [586] 盛有加热过的蔬菜，上面 [588] 淋有调味汁。</p>
<p>ただこの男の場合自分でそれがまだきちんと [589] 認識されていないものだ</p>	<p>只是他这小子还没有清楚地 [590] 认识这点，以致感到迷惘和痛苦。”</p>

から、迷ったり傷ついたりするんだ」	
皿が [591] <u>さげられて</u> 、レモンのシャ ーベットとエスプレッソコーヒーが運 んできた。	碟子 [592] <u>撤去</u> 后，端来柠檬汁和蒸馏 咖啡。
僕は彼女たち二人のいるあの小さな部 屋に戻りたいという激しい想いに [593] <u>駆けられた</u> 。	我油然 [594] <u>腾起</u> 一股不可遏止的 <u>冲动</u> ， 恨不能马上返回那小小的房间。
「まさか」と僕は言った。「僕はそれほ ど強い人間じゃありませんよ。誰にも [595] <u>理解されなくていい</u> と思ってい るわけじゃない。理解しあいたいと思 う相手だっています。ただそれ以外の 人々にはある程度 [597] <u>理解されなく</u> ても、まあこれは仕方ないだろうと思 っているだけです。あきらめてるんで す。だから永沢さんの言うように [599] <u>理解されなくたってかまわない</u> と思っ ているわけじゃありません」	“难说。”我答道，“我不是那样的强者， 也并不认为不 [596] <u>被任何人理解</u> 也无 所谓，希望相互理解的对象也是有的。只 不过对除此以外的人，觉得在某种程度上 即使不 [598] <u>被理解</u> 也无可奈何，这是 不可强求的事。因此，我并不是像永泽君 说的那样，以为 [600] <u>人家不理解</u> 也无 关紧要。”
「永沢君、あなたは私にもべつに [601] <u>理解されなくたっていい</u> と思ってる の？」とハツミさんが訊いた。	“永泽，你认为不 [602] <u>被我理解</u> 也可 以的？”初美问。
淡い色あいで [603] <u>塗られた</u> 彼女のか たちの良い唇がまるで一人言を言いか けてやめたみたいに時折ぴくりと動い た。	[604] <u>涂着淡淡颜色</u> 的形状娇美的嘴唇 不时地陡然一动，仿佛独自欲言又止。
そしてそのとき彼女がもたらした心の 震えがいったい何であったかを理解し た。それは [605] <u>充たされる</u> ことのな かった、そしてこれからも永遠に [607]	就在这种气势夺人的暮色当中，我猛然想 起了初美，并且这时才领悟她给我带来的 心灵 [606] <u>震颤</u> 究竟是什么东西--它类 似一种少年时代的憧憬，一种从来不曾实

<p>充たされることのないであろう少年期の憧憬のようなものであったのだ。</p>	<p>現而且永远不可能 [608] 实现的憧憬。</p>
<p>彼女と一緒にいると僕は人生を一段階上に [609] ひっぱりあげられたような気がした。</p>	<p>只消和她在一起，我就恍惚觉得自己的人生 [610] 被拽上了更高级阶梯。</p>
<p>結婚して、好きな人に毎晩 [611] 抱かれて、子供を産めばそれでいいのよ。それだけなの。私が求めているのはそれだけなのよ。」</p>	<p>结了婚，每晚给心上人 [612] 抱在怀里，生儿育女，就足够了，别无他求。我所追求的只是这个。”</p>
<p>「社会に出て世間の荒波に [613] 打たれ、挫折し、大人になり……ということ？」</p>	<p>“你是说，到社会上 [614] 几经风雨，几遭挫折，然后成熟起来？”</p>
<p>あの人は我々の想像を越えて意志の強い人だし、その上毎日毎日それを補強してるんです。そして何かに [615] 打たれればもっと強くなろうとする人なんです。他人にうしろを見せるくらいならナメクジだって食べちゃうような人です。そんな人間にあなたはいったい何を期待するんですか？」</p>	<p>那人的意志比我们想象的还要坚强，而且每天每日都在不断加强，越是 [616] 遭受打击越是自强不息。他甚至宁肯生吞蛄蚰也不在人前认输。对这样的人你还能指望什么呢？”</p>
<p>「私ね、背中がすごく感じるの。指ですうっと [617] 撫でられると」</p>	<p>“我么，背部 [618] 【対応なし】非常敏感”</p>
<p>OLのお姉さんと高校生の妹が何人かの男たちにつかまってどこかに [619] 監禁され、サディスティックにいたぶられる話だった。</p>	<p>讲的是当女职员的姐姐和上高中的妹妹 [620] 被几个男人抓住，监禁在一个地方，百般遭受淫虐。</p>
<p>男たちは妹をレイプするぞと脅してお姉さんに散々ひどいことをさせるのだが、そうこうするうちにお姉さんは完</p>	<p>男的威胁姐姐说要糟蹋妹妹，随即对姐姐大发兽性，如此一来二去，姐姐竟也成了性变态者，而妹妹在 [622] 一一目睹眼</p>

<p>全なマズになり、妹の方はそういうのを目の前で逐一 [621] <u>見せられている</u>うちに頭がおかしくなってしまうという筋だった。</p>	<p>前场面的的时间里，头脑也渐渐不正常起来。</p>
<p>「仕方なしでしょ、私たちだってずっと同じようなことやってるんだもの」そう [623] <u>言われて</u>見ればたしかにそのとおりだった。</p>	<p>“那有什么办法，我们干的也始终是同一码事嘛！” [624] <u>经她这么一说</u>，也的确如此。 我们</p>
<p>そして私、今本当に疲れて参ってて、誰かに可愛いかきれいだとか [625] <u>言われながら</u>眠りたいの。</p>	<p>加上我现在的的确筋疲力尽，实在想 [626] <u>在夸我可爱夸我漂亮的甜言蜜语中</u>睡一觉，别无他求。</p>
<p>「そう [627] <u>言われて</u>も困るんだよ」と僕は言った。</p>	<p>“[628]【対応なし】可我还是不好办。”我说。</p>
<p>「すごく楽しい」と緑はテーブル席でひと息ついて言った。「こんなに踊ったの久しぶりなもの。体を動かすとなんだか精神が [629] <u>解放されるみたい</u>」</p>	<p>“痛快极了！”绿子在桌旁喘口气说，“许久没这么跳了。四肢动起来，觉得精神也 [630] <u>随之解放了</u>。”</p>
<p>「ずいぶん回復が早いね。さっきまで青くなってふらふらしてたのに」と僕はあきれて言った。 「わがままが [631] <u>聞き届けられた</u>からよ」と緑は言った。</p>	<p>“你恢复得可真够快的，刚才还脸色发青，东摇西晃。”我愕然说道。“因为那些无理要求你 [632] <u>都满足</u>我了嘛，”绿子说</p>
<p>シャッターは長いあいだ [633] <u>開けられた</u>ことがなかったらしく、暗い店内には古びた紙の匂いが漂っていた。棚の半分は空っぽで、雑誌は殆んど全部返品用に紐で [635] <u>くくられて</u>いた。最初に見たときより店内はもっとがらんとして寒々しかった。まるで海岸</p>	<p>闸门大概好久都没 [634] <u>打开过</u>，昏暗的店内荡漾着一股旧报纸气味。书架有一半空空如也，杂志几乎全部 [636] <u>打捆</u>，准备退回，整个书店比第一次来时还要空荡凄凉，俨然 [638] <u>被冲上岸边</u>的一只废船。</p>

<p>[637] 打ち捨てられた廃船のように見えた。</p>	
<p>「売ることにしたのよ」と緑はぼつんと言った。「お店売って、私とお姉さんとでそのお金をわけの。そしてこれからは誰に [639] <u>保護される</u>こともなく身ひとつで生きていくの。</p>	<p>“決定卖掉。”绿子不无凄然地说，“卖了，我好和姐姐分钱。以后就独立生活，不 [640] <u>用任何人保护</u>。</p>
<p>「ねえ、私、悪く言ってるんじゃないのよ。私ね、うまく感情を言葉で表わすことができないのよ。だからしょっちょう [641] <u>誤解される</u>の。私が言いたいのは、あなたのことが好きだってこと。これさっき言ったかしら？」</p>	<p>“暖，我说话可能不大中听，我不善于用语言表达感情，时常 [642] <u>被人误解</u>。其实我想说的是：我喜欢你。刚才也说了吧？”</p>
<p>僕の鼻先に緑の頭があって、その短く [643] <u>カットされた髪</u>がときどき僕の鼻をむずむずさせた。</p>	<p>鼻子底下就是绿子的发，那 [644] <u>剪得短</u>的秀发不时弄得我鼻端痒痒的。</p>
<p>「君にそう [645] <u>言われると心</u>が和むね」と僕は笑って言った。</p>	<p>“[646] <u>给你这么一说</u>，我心里也暖融融的。”我笑道。</p>
<p>なんだか不思議なものだなと僕は思った。もしこういう状況に [647] <u>置かれ</u>なかつたら、僕は『車輪の下』なんてまず読みかえさなかつたらう。</p>	<p>我总觉得有些鬼使神差，若非 [648] <u>处在这种情况</u>下，我恐怕一辈子都不至于重读什么《车轮下》。</p>
<p>ベッドのわきには旅行鞆がそのまま [649] <u>置かれ</u>、白いコートが椅子の背にかけてあった。机の上はきちんと [651] <u>整理され</u>、その前の壁にはスヌーピーのカレンダーがかかっていた。</p>	<p>床旁依然 [650] <u>放着旅行包</u>，白外套搭在椅背上。桌面 [652] <u>拾掇得整整齐齐</u>，桌前墙上挂着木偶画月历。我拨开一点窗帘，俯视阒无人息的街道。</p>
<p>近所の人に [653] <u>見られて不審に</u> [655] <u>思われる</u>んじゃないかと心配したが、</p>	<p>我担心 [654] <u>被附近的人发现</u> [656] <u>招致怀疑</u>，好在清早 6 点之前的街上尚无任</p>

<p>朝の六時前にはまだ誰も通りを歩いてはいなかった。</p>	<p>何人通过。</p>
<p>この手紙も力をふりしぼって書いています。返事を書かなくちゃいけないとレイコさんに[657]叱られたからです。でも誤解しないで下さい。私はワタナベ君に対して話したいことや伝えたいことがいっぱいあるのです。ただそれをうまく文章にすることができないのです。</p>	<p>这封信也是我拿出吃奶力气写的，因为玲子 [658] <u>非叫我回信不可</u>。但请你不要误解。其实我有满肚子话要告诉你，只是不能得心应手地写成文字。</p>
<p>僕の二十回目の誕生日の三日あとに直子から僕あての小包みが [659] <u>送られて</u>きた。中には葡萄色の丸首のセーターと手紙が入っていた。</p>	<p>过罢 20 岁生日的第四天，[660] <u>接到</u>直子寄来的邮包。里面是一件圆领紫色毛衣和一封信。</p>
<p>僕は一度そこに [661] <u>呼ばれて</u>昼ごはんを食べさせてもらったが、陽あたりの良い綺麗なアパートで、緑も小林書店にいるときよりはそこでの生活の方がずっと楽しそうだった。</p>	<p>我 [662] <u>被叫去</u>那里吃过一次午饭，见公寓很漂亮，光线又好，绿子也显得比在小林书店时快活开朗得多。</p>
<p>ハツミさんに [663] <u>言われた</u>せいもあるかもしれないけれど、名前も知らないつまらない女の子と寝るよりは直子のことを思い出している方が僕は幸せな気持ちになれた。</p>	<p>或许 [664] <u>被初美开导过</u>的关系，我也觉得与其同素不相识的无聊女孩儿困觉，倒不如想直子更为惬意。</p>
<p>あの奇妙な医者が言うように<u>雪に</u>...[665]<u>包まれた</u>山の風景は素晴らしく美しいものだった。</p>	<p>正如那位奇妙医生说的，[666] <u>银装素裹的</u>山景的确妖娆动人。</p>
<p>雪雲がどんよりと低くたれこめ、<u>雪に</u>...[667]<u>おおわれた</u>大地と空のあいだに</p>	<p>窗外惟见白雪皑皑，阴云沉沉，[668] <u>一身银装</u>的大地同苍穹之间只有些许空隙。</p>

<p>はほんの少しの空間しかあいていなかった。</p>	
<p>「私がそうなのは本当にあの一回きりなのよ。四月のあの二十歳のお誕生日だけ。あのあなたに [669] <u>抱かれ</u>た夜だけ。どうして駄目なのかしら？」</p>	<p>“我出现那种状态，真的只有那一回，只有20岁生日那天，只有你 [670] <u>抱我</u>那个晚上。以后为什么就不行呢？”</p>
<p>寮内ではいくつかトラブルがあった。セクトに入って活動している連中が寮内にヘルメットや鉄パイプを隠していて、そのことで寮長子飼いの体育会系の学生たちとこぜりあいがあり、二人が怪我をして六人が寮を [671] <u>追い出された</u>。その事件はかなりあとまで尾をひいて、毎日のようにどこかで小さな喧嘩があった。寮内にはずっと重苦しい空気が漂っていて、みんながピリピリとしていた。僕もそのとぼっちりで体育会系の連中に [673] <u>殴られそう</u>になったが、永沢さんが間に入ってなんとか話をつけてくれた。</p>	<p>宿舍院内闹了几场纠纷。自成一派的一伙人把安全帽和铁棍藏在宿舍里，结果同管理主任豢养的体育会派系的学生短兵相接，两人受伤，六人 [672] <u>被逐出宿舍</u>。这一事件的余波所及，此后每天总有地方吵吵闹闹，宿舍院内始终笼罩着令人窒息的气氛，每个人的神经都绷得紧紧的。结果城门失火殃及池鱼，我也险些<u>惨遭</u>体育会派系学生的 [674] <u>殴打</u>，幸亏永泽居中调解，才免受皮肉之苦。</p>
<p>引越しの三日後に僕は直子に手紙を書いた。新しい住居の様子を書き、寮のごたごたからぬけだせ、これ以上下らない連中の下らない思惑に [675] <u>まきこまれ</u>ないで済むんだと思うととても嬉しくてホッとする。ここで新しい気分<small>で</small>新しい生活を始めようと思っている。</p>	<p>搬迁后三天，我给直子写信。我写了新居的式样。告诉她自己终于 [676] <u>从乱糟糟的宿舍里挣脱出来</u>，从此再也不必受那些无聊家伙的无聊算盘的干扰。每当想到这点，我就觉得不胜欣喜和坦然，准备在此以新的心情开始新的生活。</p>
<p>窓の外は広い庭になっていて、そこは</p>	<p>窗外是一大片庭园，附近的猫们将其作为</p>

<p>近所の猫たちの集会所として [677] <u>使われています</u>。</p>	<p>集会場所 [678] 【対応なし】。</p>
<p>僕は引越しと、新しい住居の整備と金を稼ぐために労働に [679] <u>追われて</u>緑のことなんて全く思いだもしなかったのだ。</p>	<p>自己为搬家、安顿新居以及干活赚钱 [680] <u>忙得晕头转向</u>，早已把什么绿子抛在脑后。</p>
<p>しかし四月三日までそこに入っていた郵便物といえば [681] <u>転送されて</u>きた高校のクラス会の通知だけだったし、僕はたとえ何があろうとそんなものには出たくなかった。何故ならそれは僕とキズキのいたクラスだったからだ。僕はそれをすぐに屑かごに放り込んだ。</p>	<p>而投入的邮件，直到4月3日，只有一张 [682] <u>转递来的</u>高中同窗会的通知。其他东西还好，推独这东西我不愿接触，因为那是我和本月所在的同窗会。我当即将其扔进废纸篓。</p>
<p>直子と私と医師の三人でいろんな話をしながら、彼女の中の [683] <u>損われた</u>部分を正確に探りあてようとしているわけです。</p>	<p>直子、我，加上医生，三个人一边天南海北地闲聊，一边试图准确地找出她头脑中 [684] <u>出故障的</u>部分。</p>
<p>ここの施設の目的は患者が自己治療できるための有効な環境を作ることであって、医学的治療は正確にはそこには [685] <u>含まれていない</u>のです。</p>	<p>这座设施的目的在于为患者自我医疗创造良好的环境，准确说来，并不 [686] <u>包括医学</u>上的治疗。</p>
<p>レイコさんの手紙を読んで僕が大きなショックを受けた最大の理由は、直子は快方に向いつつあるという僕の楽観的観測が一瞬にして [687] <u>ひっくり返</u>されてしまったことであつた。</p>	<p>我之所以从玲子信中受到沉重打击，根本原因在于我那种以为直子日趋好转的乐观估计一瞬间 [688] <u>归于破灭</u>。</p>
<p>そんな手紙を読みかえしてみると、僕自身が [689] <u>慰められた</u>。そして自分</p>	<p>写罢反复阅读之间，我本身竟也 [690] <u>得到了慰藉</u>，心想自己所生活的世界是何</p>

<p>はなんという素晴らしい世界の中に生きているのだろうと思った。</p>	<p>等美妙绝伦！</p>
<p>「そうじゃないわよ。[691] <u>かまわれ</u>て育ってよかったわねっていうこと」</p>	<p>“不是那个意思。我说的好是指 [692] <u>在大人关怀下</u>长大。”</p>
<p>「ねえ、私は生身の血のかよった女の子なのよ」と緑は僕の首に頬を押し付けて言った。そして私はあなたに[693] <u>抱かれて</u>、あなたのことを好きだっけうちあけているのよ。</p>	<p>“我可是有血有肉的活生生的女孩儿，”绿子把脸颊擦在我脖颈上说，“而且现在就 [694] <u>在你的怀抱里</u>表白说喜欢你。</p>
<p>今日いちにち自分の行為に対して僕はまったく後悔していなかったし、もしもう一回今日をやりなおせるとしても、まったく同じことをするだろうと確信していた。やはり雨の屋上で緑をしっかり抱き、びしょ濡れになり、彼女のベッドの中で指で射精に [695] <u>導かれる</u>ことになるだろう。</p>	<p>倘若能再过一次今天，我深信也必然故伎重演——仍在雨中天台上拥抱绿子，仍被浇成落汤鸡，仍在她床上 [696] <u>被其手指</u>疏导出去。</p>
<p>他の時期ならともかく、今の直子に僕が他の女の子を好きになってしまったなんて言えるわけがなかった。そして僕は直子のこともやはり愛していたのだ。どこかの過程で不思議なかたちに [697] <u>歪められた</u>愛し方であるにはせよ、僕は間違いなく直子を愛していたし、僕の中には直子のためにかなり広い場所が手つかず [699] <u>保存されて</u>いたのだ。</p>	<p>若其他时期倒也罢了，而对眼下的直子，我根本不可能说我已喜欢上了别的少女。更何况我仍在爱着直子。尽管爱的方式在某一过程中 [698] <u>被扭曲</u>得难以思议，但我对直子的爱却是毋庸置疑的，在自己心田中为直子 [700] <u>保留了</u>相当一片未曾染指的园地。</p>
<p>「僕は直子を愛してきたし、今でもやはり同じように愛しています。しかし</p>	<p>我爱过直子，如今仍同样爱她。但我同绿子之间存在的東西帶有某種決定性，在其</p>

<p>僕と緑のあいだに存在するものは何かしら決定的なものなのです。そして僕はその力に抗しがたいものを感じるし、このままどんどん先の方まで[701] <u>押し流されて</u>いってしまいそうな気がするのです。</p>	<p>面前我感到一股难以抗拒的力量，并且恍惚觉得自己势必随波逐流，[702] <u>被迅速冲往</u>遥远的前方。</p>
<p>僕はどうしていいかわからなくてとても混乱しています。決して言いわけをするつもりではありませんが、僕は僕なりに誠実に生きてきたつもりだし、誰に対しても嘘はつきませんでした。誰かに傷つけたりしないようにずっと注意してきました。それなのにどうしてこんな迷宮のようなところに [703] <u>放りこまれて</u>しまったのか、僕にはさっぱりわけがわからないのです。僕はいったいどうすればいいのでしょうか？ 僕にはレイコさんしか相談できる相手がいないのです」</p>	<p>我心乱如麻，不知所措。这绝非自我开脱，我自以为生来至今始终以诚为本，对任何人也未曾文过饰非，时刻小心不误伤任何人。然而到头来自己反 [704] <u>被抛入</u>这迷宫般的境地，我全然不知何以如此。我到底应怎么办呢？这点我只能同您商量，此外别无他人。</p>
<p>そんな風にいるんな物事を深刻にとりすぎるのはいけないことだと私は思います。人を愛するというのは素敵なことだし、その愛情が誠実なものであるなら誰も迷宮に [705] <u>放りこまれたり</u>はしません。自信を持ちなさい。</p>	<p>依我之见，你大可不必把许多事情想得那么严重，爱上一个人是难得的好事，倘若那爱情是真诚的，谁也不至于 [706] <u>被抛入</u>迷宮，要有自信。</p>
<p>私の忠告はとても簡単です。まず第一に緑さんという人にあなたが強く [707] <u>魅かれる</u>のなら、あなたが彼女と恋に落ちるのは当然のことです。</p>	<p>我的建议非常简单。第一，如果你 [708] <u>被叫</u>绿子的那个人<u>所</u>强烈吸引，你同她坠入情网便是理所当然的。</p>

<p>私の個人的感情を言えば、緑さんというのはなかなか素敵な女の子のようですね。あなたが彼女に心を [709] <u>魅かれる</u>というのは手紙を読んでいてもよくわかります。そして直子に同時に心を魅かれるというのもよくわかります。</p>	<p>就我个人感情而言，绿子倒像是个非常可贵的女孩儿。你 [710] <u>为她倾心</u>这点，从信上也看得一清二楚；而你对直子的一片痴情我也了然于心。</p>
<p>それから三日間毎日、映画館をまわって朝から晩まで映画を見た。東京で [711] <u>封切られている</u>映画を全部観てしまったあとで、リュックに荷物をつめ、銀行預金を残らずおろし、新宿駅に行って最初に目についた急行列車に乗った。</p>	<p>此后三天时间里，我挨家进电影院，从早看到晚，大凡东京 [712] <u>上映的</u>影片统统看了一遍。尔后收拾好旅行背囊，提出所有的银行存款，去新宿站乘上第一眼看到的特快列车。</p>
<p>しかしやがて潮は引き、僕は一人で砂浜に [713] <u>残されていた</u>。</p>	<p>但为时不久，潮水退去，[714] <u>剩</u>我一个人在沙滩。</p>
<p>そして突然この男の首を締めてしまいたいような激しい怒りに [715] <u>駆けられた</u>。</p>	<p>我不由陡然一阵 [716] <u>心头火起</u>，恨不得狠狠掐住这家伙的脖子。</p>
<p>僕が直子のためにとって置いたいくつかの部屋の錠戸を [717] <u>下ろされ</u>、家具は白い布に [719] <u>覆われ</u>窓枠にはうっすらとほこりが積っていた。</p>	<p>我为直子准备的房间 [718] <u>下着</u>百叶窗，家具 [720] <u>盖着</u>白布，窗棂薄薄落了一层灰。</p>
<p>「そんなこと言っていると [721] 年寄り扱いされますよ」</p>	<p>“那么说话，要 [722] <u>把你当成</u>老太婆的。”</p>
<p>「どうしていいかわかんないのよ。一人でこんなところに [723] <u>放り出されて</u>」とレイコさんは言った。「でもく気が狂いそう>って素敵な表現だと思わ</p>	<p>不知如何是好，一个人 [724] <u>被抛到</u>这种地方来。”玲子说，“不过，你不觉得‘简直要发疯似的’这个说法很妙？”</p>

ない？」	
<p>「旭川に行くのよ。ねえ旭川よ！」と彼女は言った。「音大のとき仲の良かった友だちが旭川で音楽教室やっててね、手伝わないかって二、三年前から [725] <u>誘われて</u> たんだけど、寒いところ行くの嫌だからって断ってたの。だってそうでしょ、やっと自由の身になって、行く先が旭川じゃちょっと [727] <u>浮かばれない</u> わよ。あそこなんだか作りそこねた落とし穴みたいところじゃない？」</p>	<p>“去旭川，嗯，旭川。”她说，“音大时代的一位好友在旭川办了一间音乐教室，两三年前就 [726] <u>劝</u>我去帮忙，我没答应，说做得去那么冷的地方。可你知道，好歹成了自由之身以后，除了旭川，还 [728] <u>想不出</u>其他落脚处。那地方怕不会像是失手弄出来的大陷阱吧？”</p>
<p>僕がレイコさんに会うのは十ヶ月ぶりだったが、彼女と二人で歩いていると僕の心は不思議にやわらぎ、[729] <u>慰められた</u>。</p>	<p>我同玲子足有十个月未见，但如今和她单独走起来，[730] <u>心头仍不可思议地涌起</u>一股平和、<u>宽慰之感</u>，并觉得以前好像也有过类似的感觉。</p>
<p>僕はあらためてレイコさんの体を見てみた。そう [731] <u>言われてみれば</u> たしかに彼女の背格好は直子と同じくらいだった。</p>	<p>我再次打量玲子的身体。[732] <u>如此说来</u> 其身段个头确实同直子相似。</p>
<p>どんな風に服を [733] <u>脱がされて</u>、どんな風に体を [735] <u>触られて</u>、自分がどんな風に濡れて、どんな風に [737] <u>入れられて</u>、それがどれくらい素敵だったかっていうようなことを実に克明に私にしゃべるわけ。</p>	<p>如何 [734] <u>被你脱去</u>衣服，如何 [736] <u>被你触摸</u>，自己如何湿润，如何 [738] <u>被侵入</u>，如何妙不可言——说得非常具体。</p>
<p>ねえ、レイコさん、それが本当に素晴らしいのよ。頭の中がとろけちゃいそうなくらい。このまま、この人に [739]</p>	<p>“玲子姐，那实在是太妙了，整个脑袋都像要融化似的。真想就这样 [740] <u>在他怀抱里</u> 一生都干那事。真这么想的。”</p>

<p>抱かれたまま、一生これやってたいと思っただけだよ。本当にそう思ったのよ。</p>	
<p>あなたみたいに若くてきれいな女の子は男の人に [741] <u>抱かれて</u> 幸せになんないわよ。</p>	<p>不要紧，一切都会好的，像你这样年轻漂亮的女孩子一定会 [742] <u>在男人怀里</u> 快活活一辈子。</p>
<p>それからレイコさんは<u>ギター一用に</u> [743] <u>編曲された</u>ラヴェルの『死せる女王のためのバヴァーヌ』とドビッシーの『月の光』を丁寧に綺麗に弾いた。</p>	<p>接着，玲子弹了拉威尔的 [744] <u>吉他曲</u> 《为死去的公主而作的孔雀舞》和德彪西的《月光》，弹得流畅而细腻。</p>

日本語原文中国語訳文方向の対訳データ (タイプ3)

日本語原文	中国語訳文
もちろん直子は知っていたのだ。僕の中で彼女に関する記憶がいつか〈1〉 <u>薄らい</u> でいくであろうということ。	直子当然知道，知道她在我心目中的记忆迟早要〈2〉 <u>被冲淡</u> 。
でも、僕の言葉は直子の耳には届かなかったようだった。あるいは、耳に届いても、その意味が〈3〉 <u>理解</u> できないようだった。	但我的话似乎没传进直子的耳朵，或者即使传进其含义也未〈4〉 <u>被理解</u> 。她只是一瞬间闭了闭嘴，旋即又继续说下去。
一人の女の子は僕がホテルのベッドに〈5〉 <u>つれこん</u> で、服を脱がせようとする と 暴れて抵抗した。	一个女孩〈6〉 <u>被我领到</u> 旅馆床上，要给她脱衣服时，她手蹬脚刨，硬是不准。
正直に言って、私は両親にはあまり会いたくありません。あの人たちは私のことで、すごく〈7〉 <u>混乱</u> していて、会って話しても私はなんだか惨めな気分になるばかりだからです。	老实说，我不大想见父母。他们〈8〉 <u>被我搅得心慌意乱</u> ，见面交谈恐怕也只能使我惶惶不安，况且我还有几件事必须向你解释。
一度だけ銃声のようにポンという音が遠くの方で聞こえたが、こちらは何枚かフィルターを〈9〉 <u>とおした</u> みたいに小さくぐもった音だった。	“砰”的一声，远方响起类似枪响的声音，但在这边听来声音又闷又低，像〈10〉 <u>被好几张过滤纸过滤</u> 了一般。
でも、そういうのって本当に辛かったわよ。まるで私の人生そのものがそこでぱたっと〈11〉 <u>終わ</u> っちゃったみたいなんですもの。私の人生のいちばん良い部分が二十年ちょっとで終わっちゃったのよ。	可那多么叫人难受啊！就像我的人生〈12〉 <u>被突然拦腰截断</u> 了一样，我一生中最美好的时光，20年刚过就彻底报销了。
そして、もし〈13〉 <u>ばれ</u> ちゃうようなことあったら、あのきれいな目からぼろぼろ涙をこぼして言い訳するか、謝まるかするのよ。すがりつくような声でね。すると、だ	“而万一〈14〉 <u>被发觉</u> 了，她便从那美丽的眼睛里一滴接一滴地挤出眼泪，或解释或道歉，用那小鸟依人般的声音。这一来，谁都 不好再发火了 。”

れもそれ以上怒れなくなっちゃうの。	
その週の半ばに僕は手のひらをガラスの 先で深く〈15〉 <u>切</u> ってしまった。	这周刚过一半，手心〈16〉 <u>被玻璃片划</u> 了一 道很深的 <u>口子</u> 。其实唱片架上的一块玻璃档 格早已经打裂，而我没注意到。
彼も俺はそうじゃないシワタナベもそう じゃない〈17〉 <u>理解</u> してもらわなくなつた てかまわないと思っているのさ。自分は自 分で他人は他人だって。	但我不那样，渡边也不那样，而觉得不〈18〉 <u>被人理解</u> 也无关紧要。自己是自己，别人归 别人。”
僕の手から皿からテーブルから目につく ものの何から何までが赤く〈19〉 <u>染</u> まっ ていた。……	我的手、碟子、桌子，凡是目力所及的东西， 无不〈20〉 <u>被染</u> 成了红色，……
土曜日の夜は永沢さんは親戚の家に泊る という名目で毎週外泊〈21〉 <u>許可</u> をとっ ているのだ。	星期六晚间永泽以去亲戚家为由，每次都 〈22〉 <u>被允许</u> 在外面过夜。
梅雨どき特有の、風を伴わないまっすぐな 雨で、それは何もかもをまんべんなく〈23〉 <u>濡</u> らしていた。	窗外雨下个不停。这是梅雨时节特有的雨， 没有一丝风，雨帘垂直落下，一切都〈24〉 <u>被淋</u> 得湿漉漉的。其他同学全部离开教室后， 绿子也还是以那副姿势默然不动。
私これまでの人生で十分に〈25〉 <u>傷</u> ついて きたし、これ以上傷つきたくないの。幸せ になりたいのよ。	“还有，你对我怎么样都可以，但千万别做 伤感情的事。在过去的生活里我已经〈26〉 <u>被伤害</u> 得够厉害了，不想再受下去，我要活 得快活些。”
雨は音もなく執拗に降りつづき、それは僕 らの髪の毛の黄色いナイロンのウィンドーブ レーカーをくらい色に〈27〉 <u>染</u> めた。	雨无声无息、执着地下个不停，我们的头发 已被彻底淋透，雨滴如同泪珠一般顺颊而下， 她的牛仔布茄克和我的黄色尼龙风衣全〈28〉 <u>被染</u> 成了深色。

謝辞

本論文を作成するにあたり、多くの方々にご指導とご協力をいただきました。

終始親切にご指導をいただいた主指導教員の真嶋潤子先生に謹んで深謝の意を表したいと存じます。いつも熱心にご指導いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。先生の温かい励ましのおかげで、一步ずつ論文を進めることができたと思っております。また、研究者としてあるべき姿勢のみならず、今後の人生に資する様々なことを教わりました。

また、副指導教員の古川裕先生、堀川智也先生に心より深謝致します。先生方の授業だけでなく、博士論文第一次、第二次中間発表会、最終発表会で、論文の展開から細部にわたりご指導とご教示を賜り、心より感謝の意を表したいと思っております。また、論文審査員の筒井佐代先生、小森万里先生、山川太先生からも多くのご教示、ご助言をいただきますことに深くお礼を申し上げます。

先生方のご指導と時には厳しいご指摘とご教示がなければ、とても今の段階にたどりつくことができませんでした。

在学期間中に、筒井佐代先生、鈴木睦先生、儀利古幹雄先生の授業を聴講する機会をいただいたことにも、深く感謝の意を表します。

本調査の実施にあたっては、大連理工大学の孫成志先生からの全面的なご協力がなければ、本研究はここまで遂行できませんでした。心より感謝の意を表したいと存じます。快く質問紙調査の実施を許可し、協力してくださった大連理工大学の先生方、遼寧師範大学の先生方にも心よりお礼を申し上げます。質問紙に回答してくださった学生の皆様、そしてインタビューに応じてくださった学生の皆様に、感謝の意を表します。

そして、ご親切に博士論文の日本語表現を添削してくださった村上富士夫先生に、心より深謝の意を申し上げます。

また、ゼミでの発表や論文の投稿に当たり、相談に乗ってくださった吉川夏渚子さんと丁寧に論文の日本語表現をチェックしてくださった辻立貴さんにも心から感謝します。そして、ゼミの皆様にもお礼を申し上げます。大阪大学在学期間を通じて、多くの先輩、友人、後輩にも大変お世話になりました。

最後に、研究への理解と励ましを与えてくれた家族に感謝したいと思います。